

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成19年6月

群馬工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	2 3
	基準3 教員及び教育支援者	5 5
	基準4 学生の受入	8 9
	基準5 教育内容及び方法	1 0 9
	基準6 教育の成果	2 7 3
	基準7 学生支援等	3 0 9
	基準8 施設・設備	4 1 1
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	4 3 7
	基準10 財務	4 6 7
	基準11 管理運営	4 7 9

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

群馬工業高等専門学校

(2) 所在地

群馬県前橋市鳥羽町580

(3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，電子メディア工学科，
電子情報工学科，物質工学科，
環境都市工学科

専攻科：生産システム工学専攻，環境工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成19年5月1日現在)

学生数：学 科1,009人，専攻科80人

専任教員数 82人(校長含む。)

2 特徴

・伝統、理念、教育方針など

群馬工業高等専門学校(以下本校という)は、高専制度創設第一期校として昭和37年4月に3学科(機械工学科，電気工学科，土木工学科)で設置され，その後昭和41年度に工業化学科，昭和62年度に電子情報工学科を増設した。以後，時代の要請にこたえるべく，平成4年度に工業化学科を物質工学科(4年次以降コース制)へ，平成9年度に土木工学科を環境都市工学科へと改組し，平成15年度には電気工学科を電子メディア工学科へと名称変更した。また，平成7年度に2年間の専攻科(生産システム工学専攻，環境工学専攻)を設置し，本年度で46年目を迎えた。

本校の教育理念は「科学技術を通し，地球と人の調和をはかり，人類の繁栄に貢献できる人材を育成する」であり，教育方針は，(1)豊かな心と優れた感受性を持ち，責任ある行動と規律正しい生活ができ，(2)一般・専門科目を適切に配分した一貫教育を行い，基礎学力をしっかりと身につけた，(3)理論に裏打ちされた実践教育を行い，豊かな創造力と国際性を身につけた，学生の育成である。

・学科教育(準学士課程)

将来，国際社会で活躍する科学技術者となるためには，理論に裏打ちされた幅広い基礎知識の獲得が大切との認識から，低学年(1・2年次)では混合学級を

導入し，「総合物作り体験」などの共通科目を新設し，広い視野と基礎学力が身に付くようカリキュラムを設計している。

・専攻科教育

本校の教育理念にもとづいて，専攻科では「最も得意とする専門工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎の知識」を融合する事により，専門分野を幅広い視野で捉えることができ，将来，より高度な技術的課題に取り組むことのできる基礎能力を有する技術者を養成することを目指している。そのため学科で修めた基幹科目についてより高度な座学と演習を学ぶことで理論を確実に身に付くよう力を注いでいる。

・本校の特徴と取り組み

専攻科設置を境に進学希望者が増加し，準学士課程の80%以上が大学等に進学している。また，専攻科課程では大学院進学者が18年度は85%であった。平成12年度から準学士課程の折り返し点(3年次の9月)で基礎学力の定着を確認するため，共通試験(数学・理科)を行っており，学生の学力の定点観測を行いその後の学生の指導に役立てている。平成17年度からTOEICの受験を義務付け(3年次秋・4年次末・専攻科1年次秋)，各学生に英語学習の目標を持たせるようにした。平成16年には工学(融合複合・新領域)関連分野でJABEE認定の審査を受審し，プログラム認定された。平成3年度から海外派遣制度を4年次学生を対象に行い，これまで多くの学生が海外の大学や文化にふれる機会を持った。平成17年度に上海工程技術大学と提携したのを機に，より多くの学生が参加できるように研修制度を改正し，平成17年度は43名，18年度は40名の学生が参加した。

平成12年には地域共同技術開発センターが設置され，より産学連携が強化された。平成17年度の共同研究と受託研究の受入額は全国55高専中1位となり，9件の特許権と2件の実用新案権も取得し実施料収入もあがっている。同センターでは，本校と地元企業との連携を行なう「群嶺テクノ懇話会」との共催でほぼ毎月セミナーを開催し，技術者の資質向上や地域の企業・住民との交流を深める活動を行なっている。また，高等教育機関としての地域貢献では，小・中学生のための出前授業や各地域での生涯教育などへ出向き好評を得ている。

II 目的

群馬工業高等専門学校の使命

1 教育理念

科学技術を通し、地球と人の調和をはかり、人類の繁栄に貢献できる人材を育成する。

2 学習・教育目標

(1) 教育理念に基づき、7年一貫教育による教育目標として、下記の目標を定めている。

最も得意とする専門工学の基礎知識と異なる分野の幅広い工学基礎の知識を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者を養成する。

(2) 教育目標を達成するための学習基本目標は、以下のとおりである。

- a 地球規模での人、社会、環境について倫理・教養を身に付ける。
- b 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識を身に付ける。
- c 技術的問題解決のための専門分野の知識を身に付ける。
- d 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身に付ける。
- e コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける。

(3) 学科毎の学習目標（準学士課程）

7年一貫教育における最初の5年間の学科の学習目標については、倫理・教養・語学など人文社会的な教養の涵養はもとより、数学、物理学等の工学系基礎学力の重視及び専門科目を1年次から適切に配分した高専独自の「くさび型教育」により、各学科において以下の通り工学系準学士課程（大学2年次）修了相当の基礎学力を身に付けさせることとしている。

各学科の目標は以下のとおりである。

1) 機械工学科

広範な工学分野にも適応できるよう基礎科目に重点を置いた教育をし、将来、研究・開発・設計・生産技術等の各分野で幅広く活躍できる技術者を育成する。

2) 電子メディア工学科

生命・地球環境の問題を正しく認識し、自然科学の基礎を充分理解した上で、情報通信およびそれを支える電子材料・エネルギーの3分野の基礎について教育し、それらを具体的問題に応用できる技術者を育成する。

3) 電子情報工学科

コンピュータの設計と利用技術、光通信等に必要電子工学さらにネットワークや情報技術に関する基礎について教育し、それらを電子情報工学の問題解決に応用できる技術者を育成する。

4) 物質工学科

物質工学の主要分野である無機化学・有機化学・物理化学・分析化学・材料化学などに関する基礎について教育し、4年次から「材料化学」と「生物工学」のコースに別けそれぞれの基礎知識を学ばせ、

それらを物質工学の問題解決に応用できる技術者を育成する。

5) 環境都市工学科

社会基盤を正確かつ安全に築くために必要な、計画・設計・施工・管理などの基礎について教育し、構造・交通・環境衛生・防災などの分野で幅広く活躍できる技術者を育成する。

(4) 専攻科専攻毎の学習目標（専攻科課程）

専攻科における学習目標については、学科で身に付けた基礎学力を基盤にし、上述（2）の学習基本目標の下で、各専攻において以下の目標を定めている。

各専攻の目標は以下のとおりである。

1) 生産システム工学専攻

機械工学系、電子メディア工学系、電子情報工学系の学科で修得した基礎知識を基盤とし、各学科の専門性を組み合わせて発展させた領域についての基礎的な教育、研究を行い、各種機器の開発、設計、製造およびシステムの開発、運用などに従事できる実践的で創造的な技術者を育成する。

2) 環境工学専攻

物質工学系と環境都市工学系の学科で修得した基礎知識を基盤とし、各学科の専門性を組み合わせて発展させた、環境の保全や改善に力点を置いた基礎的な教育、研究を行い、環境問題の分析と対策、新しい材料や医薬品の創製、資源の有効利用、水質保全などに従事できる実践的で創造的な技術者を育成する。

3 教育活動等の基本的な方針、教育目標等

①学生の教育を中心とした運営

学生の志望と将来を考慮し、科学技術者になるための基礎基本の知識や技術および自ら学ぶ意欲を身に付けさせる教育に重点を置き、教育方針に従い教育内容の充実と水準の向上に努める。そのため、教員の教育力、研究力の向上や、教育課程、教育方法、教育組織等の改善充実、学生への支援および教育環境等の整備を着実に進める。特に学生相談室を中心とした進路相談の充実、また学生の日常での学習のための図書館の学習環境の整備を進める。

②社会との連携・貢献の推進

地域社会に期待される高等教育機関として、本校の持つ知識と技術等をもとに出前授業、公開講座や共同研究、技術相談等を積極的に行い、地域が活力を生み出すような貢献に努める。

③社会への説明責任に関する目標

ウェブサイトなどの充実による可能な範囲での情報公開、シラバス、教員の教育研究成果の開示を通して、社会に対する説明責任能力を高める。

④財務内容の改善に関する目標

国立高等専門学校機構の定めた中期計画による効率化を踏まえ、従来業務に係る経費の削減を行なうとともに、外部資金の積極的な導入を進める。

⑤その他業務運営に関する目標

日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定、本校専攻科修了生の高い大学院進学率等を踏まえ、本校教育の高度化と教員の業績向上により国際的同等性を確保し、専攻科修了生の学位授与を実質的に可能とする。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では、昭和 37 年の開学時に学校の使命を定め、学則に掲げている(資料 1-1-①-1)。平成 12 年には教育理念として次のことを掲げ、めざすべき教育のねらいを示した。

科学技術を通し、地球と人の調和をはかり、人類の繁栄に貢献できる人材を育成する。

平成 16 年度にはそのねらいを実現するため、教育方針及び学習・教育目標を定めた(資料 1-1-①-2)。さらに学校として、課程ごとの養成すべき人材像及び卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力を定めるなど、学習・教育目標の一層の明確化を図っている(資料 1-1-①-3)、(資料 1-1-①-4)。すなわち、準学士課程卒業生は工学系大学 2 年次修了相当の基礎学力等を身に付け、専攻科修了生は、より広くかつ深く学びより高度な理工学の知識等を身に付け、工学系大学卒業相当の学力や資質・能力を身に付けることができるとしている。

資料 1-1-①-1

学則第 1 章第 1 条

第 1 章 目的

(目的)

第 1 条 本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典：学生便覧 P31)

資料 1 - 1 - ① - 2

本校の教育理念

1 教育理念 Educational Principles

科学技術を通し、地球と人の調和をはかり、人類の繁栄に貢献できる人材を育成する。

2 教育方針 Educational Policies

- (1) 豊かな心と優れた感受性を持ち、責任ある行動と規律正しい生活ができる学生を育てる。
- (2) 一般科目と専門科目を適切に配分した5年ないし7年の一貫教育を行い、基礎学力をしっかりと身に付けた学生を育てる。
- (3) 理論に裏打ちされた実践教育を行い、豊かな創造力と国際性を身に付けた学生を育てる。

3 教育プログラム -生産システム環境工学プログラム- Educational Programs

世界に通用する技術者を教育するため、5学科（4・5年）2専攻が一体となり一つの教育プログラムを形成しています。この教育プログラムは「最も得意とする工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎の知識」を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことのできる基礎能力を有する技術者の養成を目指しています。本プログラムは、日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board of Engineering Education: JABEE）によって、平成17年5月に認定されました。

4 学習・教育目標 Learning and Educational Objectives

- A 地球的規模での人、社会、環境について倫理・教養を身に付ける。
- B 技術的課題解決のための幅広い工学基礎の知識を身に付ける。
- C 技術的課題解決のための専門分野の知識を身に付ける。
- D 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身に付ける。
- E コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける。

（出典：学校要覧）

資料 1 - 1 - ① - 3 学習目標

1) 準学士課程の学習基本目標

- A. 地球規模での人，社会，環境について倫理・教養を身に付ける。
 - 1. 人文社会系の科目の学習を通じて，人の歴史，思想，文化について理解する。
 - 2. 工学や技術の潜在的危険性を理解し，技術者の社会的責任を自覚できる。
- B. 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識を身に付ける。
 - 1. 工学の基礎となる自然科学の科目を理解する。
 - 2. 基礎工学科目の学習を通して，工学基礎の基本を身につける。
 - 3. コンピュタリテラシーの基礎を学習し，それを簡単な工学的問題に応用できる。
- C. 技術的問題解決のための専門分野の知識を身に付ける。
各学科における専門科目を学習することにより，技術的課題を理解し対応できる。
- D. 技術的課題を分析し，解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身に付ける。
 - 1. 自然科学，基礎工学，専門分野の知識を用いて，現実の技術的課題を理解し，それを解決するための工夫ができる。
 - 2. 技術的問題解決のために必要な情報を収集し，解析するための基本となる情報処理技術および工学的ツールを活用できる。
 - 3. 実験・実習科目の修得を通じて，自主的，継続的に学習できる能力を身につける。
- E. コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。
 - 1. 自己の考えを論理的，客観的に口頭および文章で表現できる。
 - 2. 異なった歴史や文化を持った人々の考えに共感し，それを理解できる。
 - 3. 英語の基礎的な文章を理解し，また英語で簡単な内容を伝えることができる。

2) 専攻科課程の学習基本目標

- A. 地球規模での人，社会，環境について倫理・教養を身に付ける。
 - 1. 人文社会系の科目の学習を通じて，人の歴史，思想，文化を理解し，ものごとに対する多角的視点を獲得する。
 - 2. 地球と環境に関連した科目の学習を通じ，将来，人と地球の調和をはかる科学技術の発展に貢献できる能力を獲得する。
 - 3. 工学や技術の潜在的危険性を理解し，技術者の社会的責任を自覚するための倫理観が持てる。
- B. 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識を身に付ける。
 - 1. 工学の基礎となる自然科学の科目を確実に理解する。
 - 2. 設計・システム系，情報・理論系，材料・バイオ系，力学系，社会技術系の基礎工学科目の学習を通して，工学基礎の知識を獲得する。
 - 3. コンピュタリテラシーの基礎を学習し，それを技術的問題の解決に応用できる。
- C. 技術的問題解決のための専門分野の知識を身に付ける。
各専攻分野における専門科目を総合的に学習することにより，技術的課題が解決できる。
- D. 技術的課題を分析し，解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身につける。

1. 自然科学，基礎工学，専門分野の知識を総合的に利用し，創造性を発揮して現実の技術的課題の解決に応用できる。
 2. 技術的問題解決のために必要な情報を収集し，解析するための情報処理技術および工学的ツールを活用できる。
 3. 実験・実習科目の修得を通じて，自主的，継続的，そして計画的に学習できる能力を獲得する。
- E. コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。
1. 自己の考えを論理的，客観的に口頭および文章で表現できる。
 2. 異なった歴史や文化を持った人々の考えに共感し，それを理解できる。
 3. 日本語以外の外国語で自己の考えを伝える基礎能力を獲得する。

(出典：本校ウェブサイト「教育理念，学習・教育目標」)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/school/edu.html>

資料 1 - 1 - ① - 4 専門分野の視点に立った学習目標

① 準学士課程（学科毎）

1) 機械工学科

産業技術や機械システムなどの機械工学分野に関する基礎知識を習得する。

2) 電子メディア工学科

電子材料，エネルギー，電子情報通信などの電子メディア工学分野に関する基礎知識を習得する。

3) 電子情報工学科

コンピュータのハードウェア，ソフトウェアなどの電子情報工学分野に関する基礎知識を習得する。

4) 物質工学科

化学的な知識を基にして材料化学，生物工学などの物質工学分野の基礎知識を習得する。

5) 環境都市工学科

計画，設計，施工，管理などの環境都市工学分野に関する基礎知識を習得する。

② 専攻科課程（専攻毎）

1) 生産システム工学専攻

機械工学系，電子メディア工学系，電子情報工学系の各学科で修得した知識を基礎とし，より高度な専門各分野の知識およびそれらを融合した領域について学び，各種の機器，デバイス，システムなどの開発・設計・製造を行うための基礎的能力を身に付ける。

2) 環境工学専攻

物質工学系と環境都市工学系の各学科で修得した知識を基礎とし，より高度な専門各分野の知識および「環境」をキーワードとする，それらの融合領域について学び，自然環境の保全と分析，都市環境のデザイン，新しい材料や医薬品の創製，生物資源の開発などを行うための基礎的能力を身に付ける。

（出典：本校ウェブサイト「教育理念，学習・教育目標」）

<http://www.gunma-ct.ac.jp/school/edu.html>

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学校が社会に対して担う基本的な役割として、高等専門学校の使命を定めている。また、学校としての教育理念や教育目標、課程ごとの養成すべき人材像を定めているほか、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を定め、達成しようとしている基本的な成果等をより明確にしている。

以上のことから、本校は、高等専門学校として目的を明確に定めている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の使命（前述資料1-1-①-1）は、高等専門学校創設の趣旨である「実践的技術者を養成する高等教育機関」としての責務及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。

また、学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的に則ったものであり、同時に独立行政法人国立高等専門学校機構法第3条の「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図る」に則っている。

(分析結果とその根拠理由)

「学則第1章第1条」に記載されている目的及び教育理念は学校教育法第70条の2の規定に定められた高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命、教育理念、教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校要覧、ウェブサイトに掲載しているほか、使命等については学生便覧にも掲載している。目的を周知させるために、全教員及び事務部門各部署にも学生便覧が配布されている。さらに、教育理念のパネルが総務課などに掲示されている。教員採用時の初任者研修では、本校の使命、教育理念、教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力（以下「使命等」）についても重点的に説明し、目的の周知を図っている（1-2-①-1）。また、準学士課程の新入生と専攻科課程の新入生に対してはそれぞれ「学生便覧」と「専攻科のしおり」を用い、新入生オリエンテーションを通じてこれらを認識させるようにしている。

(資料 1-2-①-2)

資料 1-2-①-1

平成 19 年度 新任教員研修会実施要項

1. 目的

新規採用等の教員に対し、群馬工業高等専門学校教員としての使命と心構えを自覚させるとともに、職務遂行上の基礎知識を養成し、意識の高揚と本校教職員としての一体感を培うことを目的とする。

2. 日程及び研修内容

1) 日 時 平成 19 年 5 月 22 日 (火) 13:30～15:20

5 月 25 日 (金) 10:30～11:30

2) 場 所 会議室 B

3) 研修内容

5 月 22 日 (火)

13:30～14:00 (30分) 挨拶・講話 校長

14:00～14:30 (30分) 教務関係について 教務主事

(休憩 10分)

14:40～15:00 (20分) 学生指導関係について 学生主事

15:00～15:20 (20分) 寮務関係について 寮務主事

5 月 25 日 (金)

10:30～10:50 (20分) 専攻科について 専攻科長

10:50～11:10 (20分) 倫理・サービス関係について 総務課長

11:10～11:30 (20分) 財務会計について 総務課長補佐

(財務担当)

(出典：総務課資料)

資料 1-2-①-2

2. ガイダンス (J 科棟大講義室) 10:30～12:00

(1) 教務主事の話 (樋口先生)

(2) 学生主事の話 (飯野先生)

(3) 寮務主事の話 (金子先生)

(4) 学年主任の話 (五十嵐先生)

(5) 学生相談室について (大島先生)

(6) 「総合物作り体験」について (下田先生)

(7) 校歌の練習 (谷中先生)

(8) その他

(出典：1 年生ガイダンス配布資料)

平成 19 年 2 月には、教職員 (非常勤講師を含む)、準学士課程及び専攻科課程の学生に対して、目的の周知状況についてアンケート調査を実施したところ (資料 1-2-①-3)、教職員のはほぼ全員、また、準学士課程の学生の約 6 割及び専攻科課程の学生の約 9 割が「理解している」または「ある程度理解している」と回答していることから、おおむね周知されている。準学士課程の学生に対する周知の割合が少ないが、今後より多くの機会に伝えてゆくようにしたい。

資料 1-2-①-3 教育に関するアンケートの集計

平成19年2月8日(木)

群馬高専の教育に関するアンケートの集計結果表

① 群馬高専の教育目的及び教育目標等について

1) 群馬高専の教育理念と学習・教育目標を理解していますか。

回答対象者	回答者数	1. 理解している	2. ある程度理解している	3. していない	
教員	82人	68人	34人	32人	2人
非常勤講師	29人	23人	4人	19人	0人
事務職員・技術職員	49人	40人	12人	24人	4人
本科学学生	995人	901人	64人	459人	377人
専攻科学生	86人	74人	10人	54人	10人
合計	1,241人	1,106人	124人	588人	393人

2) 群馬高専への入学・編入学希望者への入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を理解していますか。

回答対象者	回答者数	1. 理解している	2. ある程度理解している	3. していない	
本科学学生	995人	901人	75人	362人	460人

3) 群馬高専の専攻科入学希望者への入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を理解していますか。

回答対象者	回答者数	1. 理解している	2. ある程度理解している	3. していない	
専攻科学生	86人	74人	6人	42人	26人

4) 群馬高専の準学士課程・専攻科入学希望者への入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を理解していますか。

回答対象者	回答者数	1. 理解している	2. ある程度理解している	3. していない	
教員	82人	68人	32人	32人	4人
非常勤講師	29人	23人	5人	10人	6人
事務職員・技術職員	49人	40人	11人	16人	12人
合計	160人	131人	48人	58人	22人

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の使命等を掲載した学生便覧等を教職員及び学生に配布することにより、目的の周知を図っているほか、教員に対しては教員会議等において説明することにより周知を図っている。また、目的の周知状況を把握するためのアンケート調査において、教職員（非常勤講師を含む）についてはほぼ全員が本校の使命等を「知っている」と回答しており、準学士課程及び専攻科課程の学生についてもそれぞれ約6割及び約9割がそれぞれの養成すべき人材像等を「知っている」と回答している。

以上のことから、本校では、目的が、学校の構成員におおむね周知されている。

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命等は、ウェブサイトに掲載することによって、社会に公表している。中学生向け及び高校生向け「入学案内」や「学校案内」(資料 1-2-②-1)にも、本校の教育理念に加えて、課程ごとの養成すべき人材像、卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力を記載し、中学生に対しては年 2 回の「体験入学」及び年 1 回のオープンキャンパスにおいて全参加者に配布している。

また、群馬県内及び埼玉県北部の約 400 の中学校を中心に、教員が訪問して「入学案内」等を配布するとともに、学校の目的や他の教育機関との違いについて説明を行なっている。

資料 1-2-②-1 (1/3)

平成 19 年度 入学者募集要項入学案内(抜粋)

入 学 案 内

1 本校の教育理念とその目指す技術者像

本校では、「科学技術を通し、地球と人の調和をはかり、人類の繁栄に貢献できる人材を育成する。」ことを教育理念としています。

この教育理念に基づいて、「最も得意とする工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎の知識」を融合する事により、専門分野を広い視野で捉える事ができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことのできる基礎能力を有する技術者を養成することを目指しています。

2 期待される入学者像

本校では、次のような人の入学を歓迎します。

- (1) 科学技術者になりたいという志を持っている人
- (2) 人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人
- (3) 国際的な場で活躍したいという希望を持っている人
- (4) 工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人
- (5) 数学や理科などの自然科学系科目が得意で興味のある人

3 JABEE技術者教育プログラムについて

本校では、世界に通用する技術者を育成するため、5 学科 2 専攻が一体となった一つの教育プログラム「生産システム環境工学プログラム」を設けています。

このプログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)から、国際基準の技術者教育を行なっていることが平成 17 年 5 月に認定されました。JABEEは、大学工学部や専攻科を持つ工業高等専門学校の教育内容やその水準を審査する機関です。

本校で実施している JABEE 基準のカリキュラムは、3 年生の一部と、4 年生、5 年生、専攻科 1 年生および 2 年生の科目で構成されています。プログラム修了生は、「修習技術者」として認められ、「技術士補」として登録する技術士一次試験免除になります。

※詳細については、群馬高専ホームページ(<http://www.gunma-ct.ac.jp/>)をご参照ください。

(出典：平成 19 年度 入学者募集要項・入学案内)

資料 1-2-②-1 (2/3)

平成 20 年度 専攻科学生募集要項入学案内 (抜粋)

入 学 案 内

1 本校の教育理念と専攻科が目指す技術者像

平成 7 年 4 月、本校に専攻科が設置されました。本専攻科では、「科学技術を通し、地球と人の調和をはかり、人類の繁栄に貢献できる人材を育成する。」という本校教育理念に基づき、「最も得意とする工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎の知識」を融合する事により、専門分野を広い視野で捉える事ができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことのできる基礎能力を有する技術者の養成を目指しています。

2 本専攻科が期待する入学者像

本専攻科では、本校教育理念とその目指す技術者の中で、

- 1) 自分の得意としたい工学分野を認識している人
- 2) より高い可能性に挑戦しようとし幅広い工学基礎に興味のある人
- 3) 地球環境を考慮した人間社会の繁栄に貢献する意欲のある人

等、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を身につけたい人を求めています。

(出典：平成 20 年度 専攻科学生募集要項・入学案内)

資料 1-2-②-1 (3/3)

平成 20 年度 学校案内パンフレット (抜粋)

【学科紹介】

機械工学科 Mechanical Engineering



エンジンや自動車、航空機、ロボットなどを設計・開発するために必要な勉強をするのが、機械工学科です。機械工学科では、力学を中心とする機械工学の基礎学力を重視したカリキュラムを組んでいます。また、メカトロニクス技術、設計技術、工作機械を用いたものづくり教育にも力を入れています。

Message

科学技術を、人に役立つ「モノ」としてカタチにしてみよう!



機械工学科 准教授/重松 洋一

今、「ものづくり」の大切さがテレビやいろいろなところで盛んに言われています。みなさんは技術科の授業などで何かを作っているとき、ウキウキしませんでしたか？ 機械工学科では、そんな、鉄やアルミのように、直接目で見られて、手で触れられる物を高精度に加工したり、うまく動かすためのいろいろな技術や技能を学びます。最近では計算機で機械をうまく動作させることが多いのですが、動かすもの自体はやはり依然として機械です。このことは今後もずっと変わらないはずですよ。



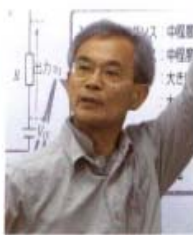
機械工学科 4年/並木 祐哉

皆さんは身の回りには機械がどのような方法でどのような原理で作られているか知っていますか？ 僕はそのような事に興味を抱き、この学校に入りました。この学校で基礎的な内容から専門的な内容まであらゆることを学び、今までの興味を満たすとともに、また新たな興味が出てきています。この学校は決して楽な学校ではないですが、頑張れば頑張った分だけ自分に返ってきます。絶対自分のためになると思います。

Electronic Media Technology 電子メディア工学科



テレビやコンピュータなど、現代生活にあふれる電気・電子機器を設計・開発するために必要な勉強をするのが、電子メディア工学科です。電子メディア工学科では、電気・電子・情報分野はもちろん、これらの技術の基礎になる物理学や数学などの自然科学教育を重視したカリキュラムを組んでいます。



電子メディア工学科 教授/小幡 常啓

地面の中を電波で覗くレーダー、太陽光や風力などで発電されたエネルギーを効率よく送るシステム、レーザーで音を拾うマイクや炎で音を出すスピーカー、原子をコントロールする未来のコンピュータ、ロボット達が協力して動くシステム、超低温での電子の不思議な振舞いを利用した電子デバイス、記憶メディアへの応用が期待される半導体と強磁性体の両性質を備えた薄膜、燃料電池の性能向上などに期待されるプラズマ技術、地震防災や未来通信を目指す重力-電気システム、自然をリアルに生成する3次元CG、新素材の開発につながる物質の基本性質の解明……みなさんもチャレンジしてみませんか。



電子メディア工学科4年/大堀 大介

皆さんが日ごろよく手に取っているその携帯電話。携帯電話の中にはたくさんの技術がつまっています。そう！ それです。そのつまっている技術を小分けにしてみた時に、この科での力が発揮されるのです。液晶画面もそうです。電波もそうです。データを保存するメモリもそうです。私のいる科は、そういう技術の基礎が、そしてそれを応用することが学べる科なのです。今ふと見た自分の携帯電話。今の説明を読んで、いや以前からその仕組みに興味があったのなら、電子メディア工学科に入る理由としては十分だと思います！ 皆さんも、電子メディア工学科に入って、ポクと握手！

Message



キーワードは、3分野。
情報通信
電子材料
エネルギー！



電子情報工学科 Information and Computer Engineering



コンピュータや通信機器の設計、これを用いた情報処理、情報通信などの技術開発に必要な電子工学・情報工学の勉強をするのが、電子情報工学科です。電子情報工学科では、専用のワークステーションにつながれたパソコンを一人一台利用した、高度で専門的なプログラミング教育を行っています。

Message



高度情報化社会に
飛び込み、
自らの手で
切りひらこう！



電子情報工学科 准教授／荒川 達也

20世紀はコンピュータの世紀と言われましたが、21世紀に入ってもその勢いはとどまることを知りません。以前には考えられなかったほど強力な理論や技術が今も次々と開発され、しかも最近ではそれらが手軽に手に入るようになってきています。そして今後必要とされるのは、これらハード・ソフト両面のスーパーパワーを使いこなし、さらに新しい創造へ進んでいける優秀な人材です。電子情報工学の最前線を目指して、あなたも群馬高専で勉強してみませんか？



電子情報工学科4年／中田 有紗

電子情報工学科は主にコンピュータについて学ぶ学科です。コンピュータといっても、中学校で既習のオームの法則をはじめとして、コンピュータ内部の仕組みや半導体など、学ぶことは様々です。「コンピュータって難しそう……」という先入観を持っている人でも、いちから学ぶことができます。整った環境のなかで高い技術を持った先生方から授業を受けられるので、やる気次第でたくさんのお話を吸収できる学校です。少しでも興味があれば是非一度高専に来てみてください☆

Chemistry and Materials Science 物質工学科



身のまわりにあるもののほとんどすべては化学物質でできています。これらの化学物質の性質や利用法に関する勉強をするのが、物質工学科です。物質工学科では、化学を中心としたカリキュラムを組んでいます。4年生以上では、材料化学コースと生物工学コースに分かれ、より専門的な勉強をします。



物質工学科 准教授/友坂 秀之

みなさんの身近にある水は、物質です。水が固まっている状態、つまり氷は冷たく、水がやかんから沸いて出てくる状態、つまり水蒸気は熱い、このことはみなさんが知っている通りです。では、なぜ、水は、冷たい固まりや熱い蒸気になるのでしょうか。物質の性質や物質と物質との反応などを研究する、これが化学です。物質工学科で、化学を中心に、様々な材料/素材や生命(現象)などについて学んでみませんか。



物質工学科4年/木戸 麻美

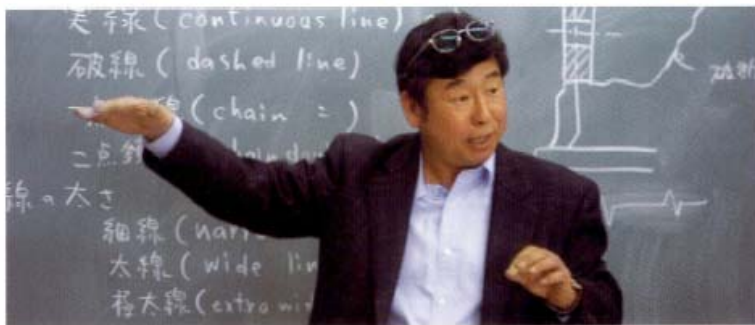
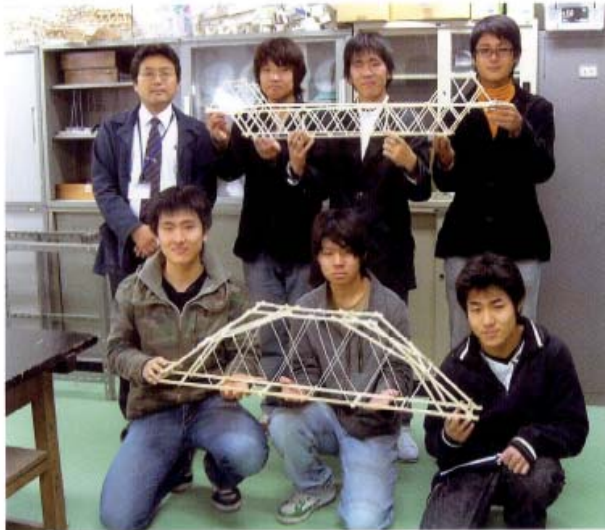
物質工学科の特徴は1年生の時から白衣を着てさまざまな実験をしていることと、4年生から材料化学コースと生物工学コースに分かれて授業や実験を行う制度があることです。みなさんは水の中にどれくらいの種類の物質が溶けているか知っていますか？ 実は想像以上にいろんな種類の金属イオンが含まれているのです。このような事実を、実験を通して学んでいけるのが物質工学科です。私自身これからも実験等を通していろいろな事を学んでいきたいと思っています。

Message

自然と
調和しながら
体験、実感。
物質ができるまで。



環境都市工学科 Civil Engineering



橋や道路、空港、ダムなどの計画・設計・建設・維持管理に必要な勉強をするのが、環境都市工学科です。環境都市工学科では、土木学の基礎である構造力学を中心としたカリキュラムを組む一方、環境・防災に関する分野の技術者に必要な、豊かな人間性と高度な社会性を育む教育を大切に考えています。

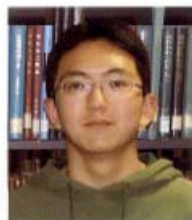
Message

環境問題・都市防災、
未来の快適で
安全な生活のために！



環境都市工学科 准教授／木村 清和

生活に必要な環境ってなんだろう？ 人が生きていく上で必要なのは水と空気の自然環境だね。じゃあ、人が快適な暮らしをする上で必要な環境って何かな？ それと大雨が降ったときや大きな地震が襲ってきたときでも心配なく生活できたらいいと思いませんか？ こんな疑問の答えを見つけれられるのが環境都市工学科です。地球温暖化を防止する方法や洪水の発生する仕組み、大地震での被害を考えたり実験して、環境都市のプロフェッショナルを目指しましょう！！



環境都市工学科4年／島田 大地

「環境都市工学」と聞いて何を思い浮かべますか？ 水、土、橋、建物、ダム、道路など、みなさんが普段関心を払わないものに関する勉強をします。「あつて当たり前」のものについてよく知ると、今まで見ていた普通の景色が全然違った風景になります。高専じゃないと絶対できない経験です。私は専門的な知識や技術を身につけることができ、とても楽しく生活しています。ぜひ設備が充実している群馬高専で「知る」ことの喜びを味わってください！

General Education 一般教科



人文科学

技術者として社会で活躍するためには、専門的な知識だけではなく、成熟した社会人としての視野の広さ、コミュニケーション能力も言めた高度な社会性が必要です。群馬高専では、全学科共通のカリキュラムを組み、豊かな人間性を育む一般教養系の科目の教育を行っています。

自然科学

あらゆる工学の基礎を支えるのが、数学・物理・化学・生物学などの自然科学です。群馬高専では、各学科の特性も考慮したカリキュラムを組み、高等学校から大学2年生までのレベルに相当する自然科学系の科目の講義を行っています。



一般教科(人文科学) 准教授/八鳥 吉明

高専と聞くと理数系科目の学校という印象を受けるかもしれませんが、でも、国語や社会や体育といった一般科目も充実しています。名物教師と呼ばれる先生もいて、それぞれの先生がとても個性的な授業をしています。もちろん英語にも力を入れています。英検やTOEIC試験も行い、学生たちには「英語が使える技術者」を目指してもらっています。



一般教科(自然科学) 准教授/五十嵐 睦夫

高専における一般教科は、いわば普通高校で学ぶ科目に該当します。しかし、その中身は普通高校と全く同じではありません。高校の場合にはどうしても大学受験が強く意識されますが、本校においては学生が将来理工学分野で活躍するために必要な素養をつけてもらえるように極力配慮をしています。教員集団の構成にそれが最も現れています。一般教科担当教員は皆それぞれの専門分野における現役の研究者であり、学生が将来高度な分野で活躍してくれることを願いながら日々の授業をしています。展望のある将来を見据えたい人は是非入学してください。

Message



しっかり基礎を学んで、人の社会や文化についても考えよう!



専攻科 Advanced Engineering Course



学科における5年間の基礎の上に、大学3・4年次の課程に相当する、より高度で専門的な内容を積み上げて勉強するのが、専攻科です。機械・電子メディア・電子情報工学を主に修める生産システム工学専攻と、物質・環境都市工学を主に修める環境工学専攻の2コースがあります。専攻科において所定の単位を修得し、大学評価・学位授与機構が行う試験に合格すると、大学学部卒業者と同様に学士(工学)の学位が取得できます。またこれによって大学院進学資格が得られます。



Message



大学院進学への道を目指して。志は常に高く!



専攻科長(電子メディア工学科 教授) / 青木 利澄

専攻科は高専本科の5年間で学んだことをさらに深く学ぶ、2年間の教育課程です。現代テクノロジーの高度な発展を考えると、高専5年間の工学教育だけでは物足りなさを感じる人も多いと思います。将来、企業や大学・研究機関などでIT、ロボット、新素材、バイオなどの先端的分野で研究や開発をやってみたいと考えている人にとって、今や大学院修士課程(大学卒業後さらに2年間の教育課程)の教育は必須です。そんな高い志をもった人たちが専攻科へ進学してきます。専攻科へ進学する学生のほとんど全員が大学院進学を目指しています。昨年度も、東京大学大学院5名、東京工業大学大学院12名、東北大学大学院2名、名古屋大学大学院2名、筑波大学大学院3名などに合格し、今年の4月から、研究開発型エンジニアとなるための第一歩を踏み出しました。将来、大学院まで進みたいと考えている人は、是非、群馬高専へ入学し、そして専攻科へ来て下さい。日本の科学技術の発展に大いに貢献したいと思う中学生の皆さん、専攻科で一緒にがんばりましょう。



生産システム工学専攻1年 / 藤木 優佑

群馬高専は、まさに「フリーダム」といった感じ。やりたい事をなんでもできる夢のような場所……なんて表現をすると少し大袈裟に聞こえるかもしれませんが、実際、エンジニアを目指す者にとって、これほど恵まれた環境はそうそうないと思います。クオリティの高い授業と充実した実習・実験……卒業研究を終える頃には、あなたも社会に一目おかれる技術者になっていることでしょう。夢や目標がある人は、その実現のために、夢や目標がない人も、ぜひそれを見つけるために、群馬高専に来てください。



環境工学専攻2年 / 齋持 恵里

私は普通高校卒業後、高専の4年生に編入してきました。高専は高校と比べると、実験や実習が何十倍も多いです。実験は実際に自分の目で見て操作するので、楽しみながら学習できます。実験の後は、どうしてそれが起こったのか自分で調べてレポートを書くため、先生に教わるよりも理解が進みます。さらに、専攻科に進学すると2年間特別研究ができます。研究はやりたい事を自分で計画できるので、非常に楽しいです。今は毎日研究するために学校に通っています。

(出典：平成20年度用 学校案内)

(分析結果とその根拠理由)

ウェブサイトに本校の使命等を掲載しているほか、「入学案内」等には、本校の教育理念をはじめ、養成する人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を記載しており、体験入学やオープンキャンパス及び中学校訪問時に積極的に説明している。

以上のことから、本校の目的は、社会に対して広く公表している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

目的が、準学士課程入学希望の中学生と専攻科課程入学希望の高専学生などに公表されている。特に平成11年からは、群馬県内及び埼玉県北部のすべての中学校を訪問し、直接本校教員から中学校の進路指導教員に目的等を直接説明するなど、広く公表されている。

(改善を要する点)

学生が学習するにあたって、各課程の「養成すべき人材像」及び「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」をよく理解しておくことは大変重要であるが、現状では必ずしも十分とは言えないことについては、改善する必要がある。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、創設時に学校の使命を定め、それを時代に対応しつつ現在に至るまで貫いている。また、課程ごとの養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力をより具体的に定めることにより、学生が本校において学習する際の具体的な指針を示している。

本校の使命は、高等専門学校創設の趣旨及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて定められたものであり、課程ごとの養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校教育法上の高等専門学校の目的との関連を明確にして策定されていることから、本校の目的は学校教育法の規定からはずれるものではない。

教職員に対しては、本校の使命、課程ごとの養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力のすべてについて、学生に対しては、課程ごとの養成すべき人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について、それぞれ積極的に周知を図っており、周知状況を調査するアンケート結果からも、学校として、目的が学校の構成員に周知されていることを把握している。

また、本校の目的は、ウェブサイトや刊行物に掲載しているのをはじめ、体験入学やオープンキャンパス及び県内を中心とする中学校への訪問時に「入学案内」、「学校案内」の刊行物等を配布するなど、社会に対して広く公表されている。

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到係る状況）

本校の準学士課程における学科は学則に定められており、機械工学科、電子メディア工学科、電子情報工学科、物質工学科、環境都市工学科の5学科により構成されている。（資料2-1-①-1）

機械工学科は、「エネルギーの有効利用、機械装置の設計、製造方法の研究、材料の開発などを行う、開発、設計、生産技術等の主要な分野で幅広く活躍できる人材を育成すること」をめざし、基礎科目に重点を置いたカリキュラムを構成している。（資料2-1-①-2、資料2-1-①-3）電子メディア工学科は、「生命と地球環境の問題を正しく認識し、自然科学の基礎の上に、通信・情報、電子材料、エネルギーの各分野からいくつかを学び、地球社会の一員としての自覚をもって国際的に活躍できる技術者」をめざし、科学技術の基礎教育を中心としたカリキュラムを構成している。（資料2-1-①-2、資料2-1-①-3）電子情報工学科は、「高度情報化社会をさらに発展させるための研究・開発技術者を育成すること」をめざし、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアなどの電子情報工学分野の基礎を修得することに重点を置いたカリキュラムを構成している。（資料2-1-①-2、資料2-1-①-3）物質工学科は、「最近の高機能材料およびバイオテクノロジーなどの先端技術の展開に対応できる有為な人材の育成」をめざし、3年次までは専門分野の共通科目の修得、4年次からは「材料化学コース」と「生物工学コース」に分け、材料化学、生物工学など、それぞれの専門分野における専門科目および実験の修得を中心としたカリキュラムを構成している。（資料2-1-①-2、資料2-1-①-3）環境都市工学科は、「近年その重要性が叫ばれている環境問題や都市防災に関連した科学や工業技術を担い得る技術者の育成」をめざし、社会基盤の計画、設計、施工、管理に至るまでの専門知識と技術の修得できる科目に重点を置いたカリキュラムを構成している。（資料2-1-①-2、資料2-1-①-3）

本校で養成しようとする技術者像は、「最も得意とする専門工学の基礎知識と異なる分野の幅広い工学基礎の知識を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者」であり、学科の構成は、教育の目的を達成するのに適切なものとなっている。（資料2-1-①-4）

（分析結果とその根拠理由）

本校で養成しようとする技術者像は、「最も得意とする専門工学の基礎知識と異なる分野の幅広い工学基礎の知識を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者」であり、学科の構成は、準学士課程の学習・教育目標を達成するのに適切なものとなっている。

資料 2-1-①-1 学科構成と入学定員

第7条 学科、学組数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学 級 数	入学定員
機 械 工 学 科	1	40 人
電子メディア工学科	1	40 人
電子情報工学科	1	40 人
物 質 工 学 科	1	40 人
環境都市工学科	1	40 人

2 前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときには、異なる学科の学生をもって学級を編制することができる。

(出典：「平成 19 年度学生便覧」より)

資料 2-1-①-2 学科紹介

機械工学科 Department of Mechanical Engineering

機械工学は、科学技術を人間に役立つ“モノ”として形にするためには不可欠な工業技術の基本です。限りあるエネルギーを有効に利用することや、自動車、航空機などの人間に役立つ機械装置を設計すること、また、それらの製品を作り出すための機械の設計や、製造方法の研究、材料の開発などが機械工学の主要な分野です。さらに、近年の環境問題の解決にも機械工学の知識が必要とされていますし、目覚ましく発達しているエレクトロニクスや情報通信、医療や福祉などのあらゆる分野で機械技術者が求められています。本校の機械工学科では、研究、開発、設計、生産技術等の各分野で幅広く活躍できるように、基礎科目に重点を置いた次のような専門科目を学びます。

電子メディア工学科 Department of Electronic Media Technology

電気工学は急速に発展拡大しつづけ、今や広大な分野を覆っています。電力、制御、ロボットなどのエネルギー分野、半導体、電子材料、デバイス、超伝導、プラズマなどの電子分野、電波、光、移動体通信、GPSなどの通信メディア分野、コンピュータ、ネットワークなどの情報分野と極めて多岐にわたります。そして、その発展はいまや生命や地球環境の問題と密接にかかわるようになってきました。

技術を取り巻くこのような社会背景において、真の技術者には、広大な領域において自身の明確な方向性を持ち、そして地球社会の責任ある一員としての自覚を持って国際的に活躍することが求められます。

当科ではカリキュラムの全面見直しを行いました。新カリキュラムでは、生命と地球環境の問題を正しく認識でき、自然科学の基礎を充分理解できた上で、情報通信、およびそれを支える電子材料・エネルギーの3分野について、その基礎を体系化された形で理解した上で、それらを簡単な具体的問題に応用できる能力を有する学生を育てることを基本教育目標としています。

電子情報工学科 Department of Information and Computer Engineering

私たちは、急速に発展した「高度情報化社会」の中で生活していますが、この情報化があまりにも早い速度で進展したため、情報技術者が非常に不足しているのが現状です。この社会の情報化を維持、発展させるのに必要な情報技術者を育成するため、社会的な強い要求に基づき誕生したのが電子情報工学科です。群馬高専で育成しようとする情報技術者は、「高度情報化社会」を支える一般的技術者（車社会では車を運転する技術者：ドライバー）ではなく、この社会を高度に発展させるための研究・開発的技術者（車では、性能の良いエンジンの研究者や安全な車体の開発者）に相当します。21世紀は、情報ネットワークや知識処理技術の新時代を迎え、ますます若い優秀なエンジニアの活躍が期待されています。

物質工学科 Department of Chemistry and Materials Science

物質工学科は旧工業化学科を改組し、平成4年度に新設された学科です。旧工業化学科では化学品、繊維、医薬等に関する基礎的学問や製造法に関する化学技術を中心にして教育を行ってきました。最近の産業界は、電子・情報・高機能性材料およびバイオテクノロジー等の先端技術への事業展開がより活発に行われています。このような技術発展に対応するために、物質工学科は「材料化学コース」と「生物工学コース」より構成されています。

本学科では1～3年次において両コースに共通な科目を履修し、基礎をしっかりと勉強します。4年次に、学生の希望と適性により、それぞれのコースに分かれます。「材料化学コース」では、材料の（構造）－（性質）－（製法）の関係が明確になるように、また、「生物工学コース」では、生化学や分子生物学を基本としてそれらから展開される生物工学が理解できるように、専門科目や実験を履修します。

環境都市工学科 Department of Civil Engineering

環境都市工学科は、近年その重要性が叫ばれている環境問題や都市防災に関連した科学や工業技術の進歩を学ぶ学科です。

建設事業は、国民の経済や生活を豊かにする社会資本や産業基盤作りのため、また、自然災害から国民を守り、人にやさしい住み良い調和のとれた生活基盤を作るために行われています。

当学科では建設事業に必要な計画、設計、施工、管理の専門知識を学習し、実験実習を通してその最新技術を修得できるように教育課程を組み立てています。社会基盤を正確にかつ安全に築くためには、橋に代表される構造分野、河川の水利分野、地盤の土質分野、コンクリートに代表される材料分野、街づくりに必要な都市計画分野、道路や鉄道に代表される交通分野、水質の環境衛生分野、地震に代表される防災分野などの広範囲な専門知識が必要とされます。当学科ではこの広範囲な専門性を生かし、視野の広い人間性豊かなエンジニアを育成することを目標としています。

（出典：「平成19年度群馬工業高等専門学校学校要覧」より抜粋）

資料2-1-①-3 一般科目の教育課程

別表第1

一般科目（全学科）

（平成18年度以降の入学生に適用）

区分	授業科目		単位数	学年別 配当単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	人文・社会	国語表現	4	2	2				
		古典	3	1	2				
		国語講読	2			2			
		国語演習	1				1		
		倫理	2			2			
		哲学	1				1		
		歴史	3	1	2				
		地理	2	2					
		政治・経済	2			2			
	社会政策	1						1	
	法学	1						1	
	自然科学	数学AⅠ	6	2	2	2			
		数学AⅡ	6	2	2	2			
		数学B	7	3	2	2			
		物理Ⅰ	2		2				
		物理Ⅱ	2		2				
		化学Ⅰ	2	2					
		化学Ⅱ	2	2					
	生物	1	1						
	保健・体育		10	2	2	2	2	2	
	芸術	美術	1		1				
	外国語	英語表現A	1	1					
		英語表現B	1	1					
		総合英語Ⅰ	6	2	2	2			
		総合英語Ⅱ	6	2	2	2			
		英語A	4				2	2	
英語B		4				2	2		
選択科目	ドイツ語Ⅰ	2				2			
	ドイツ語Ⅱ	2					2		
開設単位数計			87	26	23	18	10	10	
最低履修単位数計			83	26	23	18	8	8	

（出典：「平成19年度学生便覧」より）

資料 2-1-①-3 専門科目の教育課程の一例

別表第2 専門科目

機械工学科 (平成18年度以降の入学生に適用)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2				2		
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	情報処理Ⅰ	3		2	1			
	材料力学	4			2	2		
	材料学	3			1	2		
	熱力学	2				2		
	流体工学Ⅰ	2				2		
	機械工作法	4		2		2		
	機械設計法	2				2		
	総合物作り体験	1	1					
	設計製図	11	2	3	3	3		
	工学実験	4				4		
	工作実習	9	3	4	2			
	卒業研究	6					6	
	機械工学序論	1	1					
	力学基礎	2	2					
	機構学	2			2			
	工業力学	2			2			
機械力学	2					2		
流体工学Ⅱ	2					2		
制御工学	2					2		
計測工学Ⅰ	2				2			
電気工学概論	2			2				
生産管理	2					2		
伝熱工学	2					2		
工業英語	1					1		
必修科目単位数計	81	9	11	17	27	17		
選択科目	応用物理Ⅲ	1					1	7単位中から 3科目3単位必修
	情報処理Ⅱ	1					1	
	知的財産権	1					1	
	内燃機関	1					1	
	計測工学Ⅱ	1					1	
機械工学特論Ⅰ	1					1		
機械工学特論Ⅱ	1					1		
選択科目開設単位数計	7					7		
選択科目最低履修単位数計	3					3		
開設単位数計	88	9	11	17	27	24		
最低履修単位数計	84	9	11	17	27	20		

(出典：「平成19年度学生便覧」より)

資料 2 - 1 - ① - 4 群馬高専の概要

2. 群馬高専の概要**(1) 本校の教育理念・目標・目的及び特色****1 本校の教育理念とその目指す技術者像**

本校では、科学技術を通し、地球と人の調和をはかり、人類の繁栄に貢献できる人材を育成することを教育理念としています。

この教育理念にもとづいて、最も得意とする専門工学の知識と異なる分野の幅広い工学基礎の知識を融合する事により、専門分野を広い視野で捉える事ができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことのできる基礎能力を有する技術者を養成することを目指しています。

2 学習・教育目標

上記の教育理念を受け、本校では次のような学習・教育目標が設定されています。

- A. 地球的規模での人、社会、環境についての倫理・教養を身につける。
- B. 技術的課題解決のための幅広い工学基礎の知識を身につける。
- C. 技術的課題解決のための専門分野の知識を身につける。
- D. 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身につける。
- E. コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。

3 目的及び特色

5年間の一貫教育による、一般科目及び工業に関する専門科目を教授して、視野の広い工業技術者を養成することを目的としています。

専門科目においては、理論とともに、実験・実習などの実技を重視し、人間形成という観点から一般科目にも力を入れ、また一学級 40 人の少人数編成で教員と学生の緊密な触れ合いを図り、学習面のみならず生活面にも行き届いた指導を行っています。

正規の授業のほかに課外活動を助長し、これを通じて人間性の形成を図るとともに、たくましい体力とおう盛な精神力を育成することに力を入れています。

(出典：「平成 19 年度学生便覧」より抜粋)

観点2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科課程における専攻は学則に定められており、生産システム工学専攻と環境工学専攻の2つの複合分野で構成されている。(資料2-1-②-1)

生産システム工学専攻は、機械工学、電子メディア工学、電子情報工学の各学科の専門分野およびそれらを融合した領域の教育に重点を置いたカリキュラムを構成し、各種の機器、デバイス、システムの開発・設計・製造に従事できる実践的で創造的な技術者の育成をめざしている。(資料2-1-②-2, 2-1-②-3) 環境工学専攻は、物質工学、環境都市工学の各学科の専門分野およびそれらを融合した、「環境」をキーワードとする建設系、資源系、物質系、生物系の教育に重点を置いたカリキュラムを構成し、自然環境の保全と分析、環境都市のデザイン、新しい材料や医薬品の創製、生物資源の開発などに従事できる実践的で創造的な技術者の育成をめざしている。(資料2-1-②-2, 2-1-②-3)

(分析結果とその根拠理由)

本校で養成しようとする技術者像は、「最も得意とする専門工学の基礎知識と異なる分野の幅広い工学基礎の知識を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者」であり、専攻科の構成は、専攻科課程の学習・教育目標を達成するのに適切なものとなっている。

資料 2-1-②-1 専攻科の設置

第8章 専攻科

(設置)

第40条 本校に専攻科を置く。

(目的)

第41条 専攻科は、高岸専門学校における教育の基礎の上に、より深く高度な工業に関する学術を教授研究し、今日の先端技術産業が必要とする実践的で創造的な技術者を育成することを目的とする。

(専攻及び学生定員)

第42条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

曇片モシステム工学専攻 12入

環境工学専攻 8入

(入学資格)

第43条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当するものとする。

(1) 高等専門学校を卒業した者

(2) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

(3) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学者の選考)

第44条 入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考の上、入学を許可する。

(修業年限及び在学年限)

第45条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することができない。

(休学の期間)

第46条 専攻科学生の休学期間は、1年を超えることができない。

2 休学の期間は、第45条に定める在学年限及び第48条に定める在学期間に算入しない。

(教育課程)

第47条 開設する授業科目及びその単拉致は、別表第3のとおりとする。

2 履修方法については、別に定めるところによる。

(修了)

第48条 専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者については、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

(出典：「平成19年度学生便覧」より)

資料 2 - 1 - ② - 2 専攻科紹介

1 生産システム工学専攻 **Advanced Production Systems Engineering Course**



日本文化論
Japanese Culture

機械工学系、電子メディア工学系、電子情報工学系の学科を基盤とし、各学科の専門分野およびそれらを融合した領域についての教育と研究を行い、各種の機器、デバイス、システムなどの開発・設計・製造に従事できる実践的で創造的な技術者を育成します。

Based on mechanical engineering, electronic media technology and computer engineering, the course provides the students with opportunities to study the fundamentals of their own research fields and new research areas which are formed by the union of engineering fields, with objectives of helping students design, develop and produce various kinds of high-tech machines, electronic devices and highly controlled systems, and work as practical and creative engineers in the future.



磁性薄膜作成装置
Deposition system for magnetic thin films

2 環境工学専攻 **Advanced Environmental Engineering Course**

物質工学系と環境都市工学系の学科を基盤とし、各学科の専門分野およびそれらを融合した、「環境」をキーワードとする建設系、資源系、物質系、生物系の教育と研究を行い、自然環境の保全と分析、都市環境のデザイン、新しい材料や医薬品の創製、生物資源の開発などに従事できる実践的で創造的な技術者を育成します。

Based on materials engineering and civil engineering, the course provides the students with opportunities to study the fundamentals of their own research fields and new research areas which are formed by uniting such fields as construction engineering, resources processing, materials engineering, and biological engineering, under the keyword Aenvironment, A with objectives of helping students work at the forefront in engineering fields, such as analysis and protection of natural environment, urban environmental design, creation of new materials and medicines and development of biological resources, and work as practical and creative engineers in the future.



複素解析
Analytic Function Theory



特別研究
Graduation Thesis Research

(出典：「平成 19 年度群馬工業高等専門学校学校要覧」より抜粋)

資料2-1-②-3 専攻科教育課程 (生産システム工学専攻)

別表第3
専攻科生産システム工学専攻(奇数入学年度用)

種別	授業科目	必修 選択 の別	単位数	学年・期別配当単位数				備考
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	
一般科目	英語	A	1	1				演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習
	英語	B	1		1			
	実用英語	A	1	1				
	実用英語	B	1		1			
	科学英語	A	1			1		
	科学英語	B	1				1	
	国語表現	I	1	1				
	国語表現	II	1		1			
	国語文化	論	2				2	
	国語文化	論	2				2	
現代西洋社会哲学	論	2				2		
現代西洋社会哲学	論	2				2		
一般科目開設単位数計			18	3	5	3	7	隔年開講科目を含む
一般科目最低履修単位数計			10			10		
専門科目	技術者倫理	必修	2				2	72単位中から26単位以上修得
	環境工学	必修	2				2	
	システム工学	必修	2				2	
	材料工学	選択	2		2			
	情報基盤	選択	2	2				
	応用解析	選択	2		2			
	応用解析	選択	2		2			
	特殊関数	選択	2	2				
	ベクトル解析	選択	2	2				
	線形代数	選択	2	2				
	線形代数	選択	2		2			
	解析力学	選択	2	2			2	
	量子力学	選択	2	2				
	量子力学	選択	2		2			
	機械物性	選択	2	2			2	
	熱力学	選択	2	2				
	弾性力学	選択	2	2			2	
	システム制御工学	選択	2		2			
	品質管理	選択	2	2			2	
	電気特論I	選択	2		2			
	電気特論II	選択	2		2			
	回路特論I	選択	2	2				
	電子物性特論I	選択	2		2			
	電子物性特論II	選択	2			2		
	プラズマ工学	選択	2	2			2	
	光通信工学	選択	2	2				
	デジタル信号処理	選択	2		2			
	難分散数学	選択	2	2			2	
	情報理論	選択	2		2			
	アルゴリズム論	選択	2			2		
	シミュレーション工学	選択	2			2		
	Fundamental Mechanics	選択	2		2			
精密加工論	選択	2			2			
工業数学演習I	選択	1	1					
工業数学演習II	選択	1		1				
物理工学演習I	選択	1		1				
物理工学演習II	選択	1			1			
機械・材料力学演習	選択	1	1					
熱流体力学演習	選択	1			1			
電気学演習	選択	1			1			
回路理論演習	選択	1	1					
インターンシップ	必修	1	1					
生産システム工学実験	必修	1		1				
生産システム工学特別研究	必修	1		2		5		
専門科目開設単位数計			102	30	31	30	11	隔年開講科目を含む
専門科目最低履修単位数計			52			52		
開設単位数計			120	33	36	33	18	隔年開講科目を含む
最低履修単位数計			62			62		

注：1. (※)は隔年開講を示す。

(出典：「平成19年度学生便覧」より)

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

全学的なセンターとして、情報処理教育センター、教育研究支援センター、地域共同技術開発センターが設置されている。また、本年度、新たに生物教育研究連携センターが設置された。(資料2-1-③-1)

情報処理教育センターは、情報処理関連授業の実習の場を全学的に提供し、また全学生にアカウントを発行し、学生が自由に利用できるネットワーク環境を用意するなど、本校の情報処理教育の中心を担っている。学内LANの充実や情報セキュリティの確保、各種ソフトウェアの導入などにより全学的に利用しやすい環境整備に努めている。(資料2-1-③-2)

教育研究支援センターは、これまでの学科ごとに勤務する技術職員組織を発展的に改組し、体験型学習科目に、全校的に対応する組織として平成18年度に設置された。同センターは、学科、専攻科における実験、演習、実習の技術支援を行うとともに、卒業研究、特別研究などに欠かせない実験装置の製作なども支援し、学生の実践的技術のレベル向上や自主性の育成に貢献している。(資料2-1-③-3)

地域共同技術開発センターは、地域の産業振興を図るとともに、学生の科学および工学教育の推進に貢献することをめざしている。同センターには、技術相談室、セミナー室、精密測定室、開放研究室などがあり、共同研究に関わる多目的使用が可能である。センター内の各種測定機器は、卒業研究、特別研究にも活用され、教育成果を上げている。(資料2-1-③-4)

生物教育研究連携センターは学科間の枠を越え、生物系教員の教育研究連携を全校的に推進するため設置された。今後、本校準学士課程および専攻科課程における生物教育研究の向上に資するものと期待されている。(資料2-1-③-5)

(分析結果とその根拠理由)

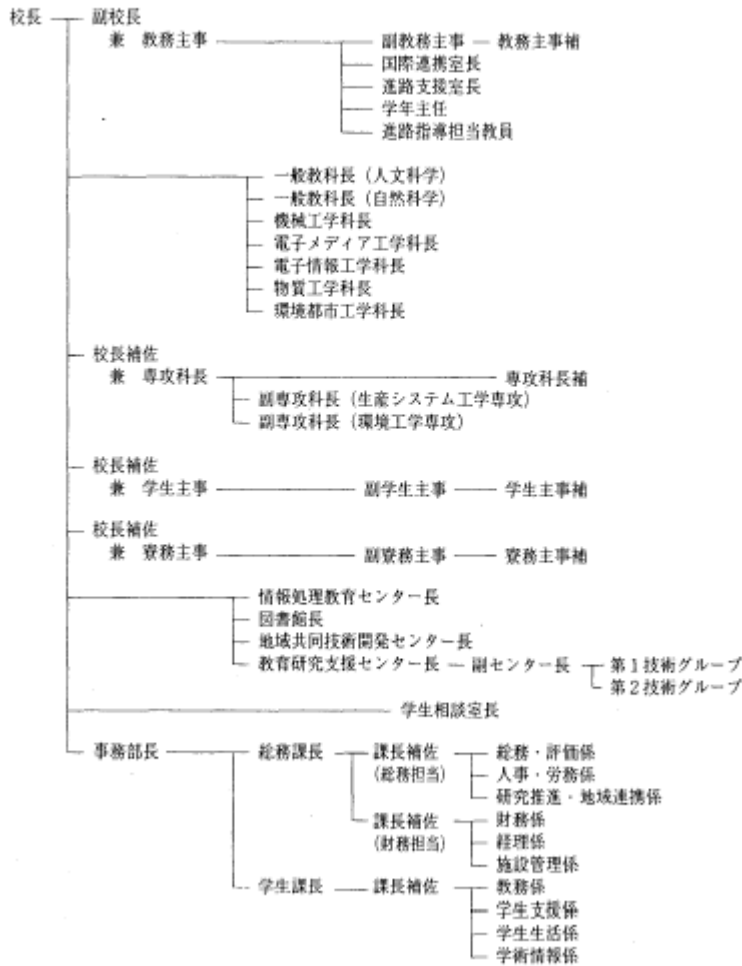
情報処理教育センターは、学生が自由に利用できるネットワーク端末を提供することにより、コンピュータをツールとして使いこなすことができる技量の向上に大きく貢献している。教育研究支援センターは専門各学科との有機的な連携により、実験・実習、卒業研究、特別研究におけるデザイン能力の育成に貢献している。地域共同技術開発センターは先端的測定機器を提供することにより、卒業研究、特別研究におけるデザイン能力の向上に貢献している。生物教育研究連携センターは、今後、準学士課程及び専攻科課程における生物教育研究の向上に資するものと期待される。

以上により、各センターは、教育の目的を達成するのに適切なものになっている。

資料2-1-③-1 学校組織図

(3) 学校組織

① 組織図



(出典：「平成19年度学生便覧」より抜粋)

資料 2 - 1 - ③ - 2 情報処理教育センター規則

○群馬工業高等専門学校情報処理教育センター規則

昭和 50 年 7 月 1 日

規 則 第 5 号

最終改正 平成 16 年 3 月 16 日

(設置)

第 1 条 群馬工業高等専門学校に情報処理教育を実施することを目的として情報処理教育センター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第 2 条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報処理教育に関すること。
- (2) 教材開発及び応用研究に関すること。
- (3) 電子計算機の運用に関すること。
- (4) その他センターに関すること。

(組織)

第 3 条 センターに、センター長のほか教員その他、必要な職員を置く。

第 4 条 センター長は、センターを代表し、センターに関する事項を掌理する。

- 2 センター長は、本校の専任教授とし、校長が任命する。
- 3 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長が欠員となつたときは、そのときから 1 月以内にセンター長を任命する。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。

(委員会)

第 5 条 センターの運営及び情報処理教育の実施を円滑に行うため、群馬工業高等専門学校情報処理教育委員会を置く。

- 2 委員会については、別に定める。

第 6 条 この規則の改正は、校長が行う。

附 則

- 1 この規則は、昭和 50 年 7 月 1 日から施行する。
- 2 制定時の任期限は、昭和 52 年 3 月末日とする。

附 則

この規則は、昭和 51 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より)

資料 2 - 1 - ③ - 3 教育研究支援センター規則

○群馬工業高等専門学校教育研究支援センター規則

平成 19 年 1 月 16 日制定

最終改正 平成 19 年 2 月 13 日

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規則は、群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第 11 条の規定に基づき、本校の技術支援組織及び所掌事項について定め、教育研究活動を支援する技術職員の業務を円滑かつ効率的に実施するとともに、技術職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とする。

第 2 章 技術支援組織

(教育研究支援センター及び技術グループ)

第 2 条 本校に教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置き、センターに第 1 技術グループ及び第 2 技術グループを置く。

2 センターに技術専門員、技術専門職員又は技術職員を置く。

3 技術専門員及び技術専門職員については、別に定める。

(センター長)

第 3 条 センターにセンター長を置き、教授をもって充てる。

2 センター長の任期は 2 年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

3 センター長は、校長の命を受け、技術支援業務に関する学内調整を行うとともに、センターの運営業務を掌理する。

(副センター長)

第 4 条 センターに副センター長を置く。

2 副センター長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの運営業務を処理する。

(技術グループ長)

第 5 条 センターに技術グループ長を置く。

2 技術グループ長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

3 技術グループ長は、上司の命を受け、技術グループの管理業務及び技術研修業務を処理する。

第 3 章 所掌業務

(業務)

第 6 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育研究支援計画の作成に関すること。
- (2) 学生の実験・実習等の技術支援及び技術指導に関すること。
- (3) 教育教材作成の技術支援に関すること。
- (4) 教員の研究活動に伴う技術支援に関すること。
- (5) 技術の研究、改善、継承及び保存に関すること。
- (6) 民間等との共同研究等に伴う技術支援に関すること。
- (7) 実験室・実習室等の整備、備品等の維持管理に関すること。
- (8) その他の教育研究活動等に関する技術支援に関すること。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より一部抜粋)

資料 2-1-③-4 地域共同技術開発センター規則

○群馬工業高等専門学校地域共同技術開発センター規則

(平成 12 年 3 月 7 日 規則第 1 号)

(設置)

第 1 条 群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域共同技術開発センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 センターは、地域産業界等との共同研究及び校内共同研究の推進を図り、もって幅広い視野と独創性の高い自主技術開発力を持つ技術者の養成及び地域社会の発展並びに科学技術教育の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域産業界等との共同研究，受託研究に関すること。
- (2) 地域産業界に対する技術相談及び学術情報の提供に関すること。
- (3) 校内共同研究に関すること。
- (4) 学生及び研究員等への技術教育に関すること。
- (5) 分析・計測機器等の共同利用設備の管理及び整備計画に関すること。
- (6) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

(組織)

第 4 条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- 2 センター長
- 3 センター員
- 4 その他校長が必要と認める職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、本校の専任教授とし、校長が任命する。

- 2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。
- 3 センター長が欠員となつたときは、そのときから 1 月以内にセンター長を任命する。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。

(職務)

第 6 条 センター長は、センターに関する業務を掌理する。

- 2 センター員は、センターの業務を処理する。

(委員会)

第 7 条 センターに関する重要事項を審議するため、産学交流委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(その他)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より)

資料 2 - 1 - ③ - 5 生物教育研究支援センター規則

○群馬工業高等専門学校生物教育研究連携センター規則

平成 19 年 5 月 15 日規則第 13 号

(設置)

第 1 条 群馬工業高等専門学校に、生物教育研究連携センター（以下「生物センター」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 生物系教員の教育研究連携を全校的に推進し、もって生物教育研究の向上に資することを目的とする。

(業務)

第 3 条 生物センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 生物系教育研究連携方策に関すること。
- (2) 生物系カリキュラム及び教材の共同開発に関すること。
- (3) 生物系共通教育研究設備及び施設の維持管理に関すること。
- (4) その他生物センターの目的達成に必要な業務に関すること。

(組織)

第 4 条 生物センターに、次に掲げる教員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 連携教員
- (4) 幹事教員

2 生物センターに属する教員は、校長が指名する。

(センター長)

第 5 条 センター長は教授とし、校長が任命する。

- 2 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 3 センター長が欠員となったときは、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 センター長は、生物センターに関する業務を掌理する。

(副センター長)

第 6 条 副センター長は、校長が任命する。

- 2 副センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 3 副センター長が欠員となったときは、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 副センター長はセンター長を補佐し、生物センターの運営業務を処理する。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より一部抜粋)

観点2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

本校における教育課程を検討する組織の相互関係は、教育点検システムとして概観できる。(資料2-2-①-1, 資料2-2-①-2, 資料2-2-①-3, 資料2-2-①-4) この中で準学士課程, 専攻科課程の全教育課程を統括し運営の中心となるものが, 主事主任会議(平成19年度より運営委員会として改組)である。その下で, 特にJABEEプログラム委員会は学科4・5年および専攻科の教育課程により構成される本校「生産システム環境工学」教育プログラムに対して, 責任を負っている。それぞれの組織の構成員は, JABEEプログラム委員会において専攻科主任が新たに加わる以外は, 重なっている。ここでは, 学習・教育目標の更新および教育点検結果を受けた新たな教育改善方針を提起し, その実施を, 関連する委員会(教務委員会, 入試運営委員会, 専攻科委員会, 教育研究委員会)へ指示する。各委員会は具体的な実施計画を作成し, 実行する。また, 卒業認定, 専攻科修了認定などの教育成果の評価以外に, 授業評価, 実態調査, 教員学生連絡会などを通じて学生の意見を吸い上げるとともに, 運営懇話会などを通じて, 学外の有識者から本校の教育実践に対する意見を聞いている。(資料2-2-①-5) こうした点検作業により得られた諸問題は, 主事主任会議の中で, またはJABEEプログラム委員会の中で改善方針としてまとめられ, 再び関連する委員会へ送られる。以上のような検討・運営体制の下, 本校教育課程は実践されている。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程全体の運営方針を審議・決定する機関として, 主事主任会議・JABEEプログラム委員会があり, その下に, 方針の具体化と実践を担う, 教務委員会, 入試運営委員会, 専攻科委員会, 教育研究委員会がある。結果の点検は, 授業評価, 実態調査, 教員学生連絡会, 運営懇話会が担っている。以上のように, 各委員会は適切に配置され, 機能している。

資料 2 - 2 - ① - 1 運営組織規則

○群馬工業高等専門学校運営組織規則

平成 3 年 2 月 27 日規則第 2 号
最終改正 平成 19 年 5 月 15 日

(目的)

第 1 条 この規則は、群馬工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 11 条の規定に基づき、群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）の運営組織に関する事項を定め、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

(会議等の設置)

第 2 条 本校に、運営委員会及び教員会議並びに別表に定める委員会（以下「会議等」という。）を置く。なお、校長が必要と認める場合には、他の会議等を置くことができる。

2 会議等に関し必要な事項は、別に定める。

(主事の任期)

第 3 条 学則第 9 条に定める教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）は、教授をもって充てる。

2 主事の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

(副主事等)

第 4 条 本校に、主事を補佐するため、次の各号に掲げる副主事等（以下「副主事等」という。）を置き、講師以上の専任教員をもって充てる。なお、第 1 号にあつては教務主事を、第 2 号にあつては学生主事を、第 3 号にあつては寮務主事を、それぞれ補佐する。

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 副教務主事及び教務主事補 | 若干名 |
| (2) 副学生主事及び学生主事補 | 若干名 |
| (3) 副寮務主事及び寮務主事補 | 若干名 |

2 副主事等の任期は 2 年とし、主事の意見を聴いて校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

(学科長等)

第 5 条 本校に、一般教科長（人文科学）、一般教科長（自然科学）、機械工学科長、電子メディア工学科長、電子情報工学科長、物質工学科長及び環境都市工学科長（以下「学科長等」という。）を置き、当該学科等の教授をもって充てる。

2 学科長等は、校長の命を受け、学科等に関する事項を掌理する。

3 学科長等の任期は 2 年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

(図書館長)

第 6 条 本校図書館規則第 1 条に定める図書館に、図書館長を置き、教授をもって充てる。

2 図書館長は、校長の命を受け、図書館の管理運営に関する事項を処理する。

3 図書館長の任期は、2 年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より抜粋)

資料 2 - 2 - ① - 2 運営委員会規則

○群馬工業高等専門学校運営委員会規則

平成 19 年 2 月 13 日制定

(目的)

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構中期計画等に基づき、業務の円滑な運営を図るため、群馬工業高等専門学校に運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(構成)

第 2 条 委員会は、次の教職員をもって構成する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 一般教科長及び学科長
- (5) 地域共同技術開発センター長
- (6) 教育研究支援センター長
- (7) 事務部長
- (8) 総務課長及び学生課長

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 運営に関する方針及び施策並びに業務の管理に関する重要事項
- (2) 情報公開に関する事項
- (3) その他本校の運営に関し必要な事項

(委員会)

第 4 条 委員会は、毎月 1 回校長が招集する。ただし、必要がある時は、臨時に招集することができる。

2 校長に事故がある時は、教務主事はその職務を代行する。

(構成員以外の出席)

第 5 条 校長は、必要に応じ構成員以外の教職員の出席を求めて意見を聴取することができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の事務は総務課において処理する。

第 7 条 この規則に定めるもののほか、委員会に関して必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 群馬工業高等専門学校主事・主任会議規則（昭和 59 年規則第 29 号）は、廃止する。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より)

資料 2-2-①-3 JABEE プログラム委員会規則

群馬工業高等専門学校 J A B E E プログラム委員会規則

平成 17 年 6 月 14 日

規 則 第 12 号

最終改正 平成 19 年 2 月 13 日

(設置)

第 1 条 群馬工業高等専門学校に、日本技術者教育認定機構により認定を受けた「生産システム環境工学プログラム」(以下「プログラム」という。)の推進を図るため、J A B E E プログラム委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を調査・審議する。

- (1) プログラムの実施状況に関する事。
- (2) プログラムの改善事項に関する事。
- (3) プログラムの改訂に関する事。
- (4) その他プログラムの推進方策に関する事。

(組織)

第 3 条 委員会は以下の教職員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 専攻科長
- (3) 教務主事
- (4) 学生主事
- (5) 寮務主事
- (6) 副専攻科長
- (7) 学科長等
- (8) 教育研究委員会委員長
- (9) 事務部長

(委員長, 副委員長)

第 4 条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は校長をもって充てる。
- 3 副委員長は専攻科長及び教務主事をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
- 5 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(ワーキンググループの設置)

第5条 委員会は、専門的事項を調査・検討するため、必要に応じ、ワーキンググループを設置することができるとともに、学内の他の委員会に調査・検討を指示することができる。

2 ワーキンググループの構成員については、校長が指名する。

(意見の聴取)

第6条 委員長は、委員会（ワーキンググループを含む。）において必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 委員会（ワーキンググループを含む。）の事務は、関係課等の協力を得て学生課が処理する。

附 則

この規則は、平成17年6月14日から施行する。

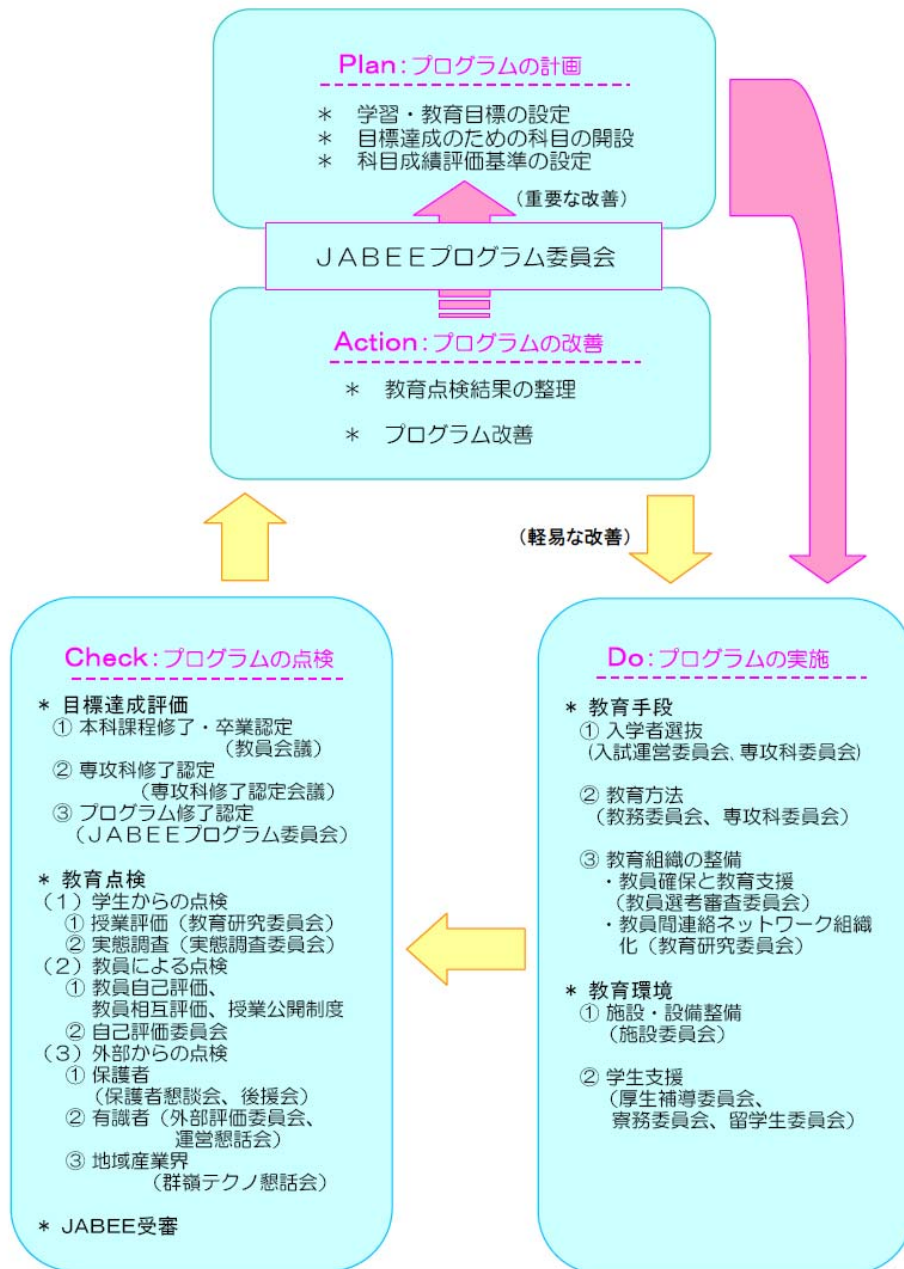
附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より)

資料 2 - 2 - ① - 4 教育点検システム

生産システム環境工学プログラム教育点検システム



(出典：「JABEE 中間審査自己点検書」より抜粋)

資料 2 - 2 - ① - 5 運営懇話会規則

○群馬工業高等専門学校運営懇話会規則

平成 17 年 3 月 8 日

規則 第 1 号

最終改正 平成 19 年 2 月 13 日

(設置)

第 1 条 群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外の有識者から学校運営に関する意見を求めるため、群馬工業高等専門学校運営懇話会（以下「懇話会」という。）を置く。

(任務)

第 2 条 懇話会は、本校の教育活動、研究活動、社会との連携活動、国際交流活動、管理運営活動等学校運営に関し、校長の求めに対して意見を述べるものとする。

(委嘱)

第 3 条 懇話会に委員を置き、委員は広く社会の実情に通じ、本校の発展に関心と理解のある者のうちから、校長が委嘱する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、再任は妨げない。

(懇話会の開催)

第 5 条 校長は、必要に応じ懇話会を開催する。

(意見の聴取)

第 6 条 懇話会は、必要があるときは関係者の出席を得て、意見を聴くことができる。

(事務)

第 7 条 懇話会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 17 年 3 月 8 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より)

資料2-2-①-5 運営懇話会実施例

第1回運営懇話会日程及び次第

日 時 平成17年11月30日(水) 13時00分～15時00分

場 所 群馬工業高等専門学校会議室A

次 第

- 開 会
- 出席者紹介
- 校長挨拶
- 群馬高専の現況説明
- 意見交換
- 施設見学(図書館) —時間の都合により中止—
- 閉 会

運営懇話会委員及び学校側出席者

運営懇話会委員

氏 名	職 名
鮎 澤 恭 一	群馬テクノ懇話会会長(関東精機株式会社代表者)
小 川 浩 平	東京工業大学教授
川 嶋 勝 芳	群馬県中学校長会会長(前橋市立元総社中学校校長)
後 藤 新	群馬県出納長
清 水 信 治	上毛新聞社論説委員長
宝 田 恭 之	群馬大学工学部長
永 島 明	群馬工業高等専門学校後援会会長

(五十音順・敬称略)

学校側出席者

氏 名	職 名
本 間 清	校 長
小 島 昭	副 校 長(教務主事)
下 田 祐紀夫	校長補佐(学生主事)
小 幡 常 啓	校長補佐(寮務主事)
青 木 利 澄	校長補佐(専攻科長)
海老根 裕	事務部長
野 村 貴 俊	一般教科(人文)主任
鈴木 福 藏	一般教科(自然)主任
高 橋 秀 夫	機械工学科主任
大 手 丈 夫	電子メディア工学科主任
櫻 井 治 男	電子情報工学科主任
赤 羽 良 一	物質工学科主任
古 川 茂	環境都市工学科主任
林 俱 子	図書館長
関 充	庶務課長
栗 林 優	会計課長
吉 見 日出明	学生課長
関 根 義 則	庶務係長

(出典：平成17年度運営懇話会報告書より)

観点 2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

本校では、平成17年度に、科目担当教員間のネットワーク業務の企画・立案を行い、教員連携の促進に資するため、JABEEプログラム委員会の下に教員連携WGを設置し、教育研究委員会と連携しながら、教育改善に向けた教員連携の促進活動を実施している。(資料 2-2-②-1) 平成18年度からは、各学科等の教員、技術職員が連携して行う「総合物作り体験(1年前期科目)」を開設した。また、非常勤講師との懇談会も定期的を実施して、常勤講師との連携を図っている。(資料 2-2-②-2) さらに、今年度新たに生物教育研究連携センターが設置され、学科の枠を越えた生物関連教員の連携を推進することとなった。(資料 2-2-②-3)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目や専門科目の科目間で整合性をとるため、教員連携WGがあり、教員間の連携が適切に行われている。また、非常勤講師と常勤講師の連携のための懇談会が定期的に行われるなど、教員間ネットワーク組織が整備され、機能している。新たに設置された生物教育研究連携センターは学科の枠を越えた教員の連携による教育成果が期待できる。

資料 2-2-②-1 教員連携WGの立ち上げ

平成17年度 第9回教育研究委員会議事要旨

日 時 平成18年2月13日(月) 16:20~17:05
場 所 会議室A
出席者 石澤委員長、八島(人文・体育)、碓氷(自然)、重松(機械)、富澤(電子メディア)、荒川(情報：柳田委員の代理)古川(環境：脇田委員の代理)、林(物質)、海老根事務部長の各委員
欠席者 小島教務主事、柳田(情報)、 関庶務課長、 吉見学生課長の各委員
幹 事 学生課：石間主任 庶務課：関根係長

議事に先立ち、委員長より平成17年度第8回教育研究委員会議事要旨を確認した。
議 事

1. FD関係(JABEE対応)について
 - 石澤委員長から、次の事項の報告があり、協議が行われた。
 - 1) 授業改善シートについて
 - ・ JABEEの授業科目を持っている教員全員に改善シートを記入してもらうことが了承された。
 - ・ なお、本年度は非常勤講師については、改善シートは展開しないことになった。
 - 2) 授業評価、学生の自己評価アンケートについて
 - ・ 授業評価、学生の自己評価アンケート結果について、フィードバックすることが確認された。
 - ・ 後期の最後の授業と2月の第1、2週の授業を統一する依頼文書で、今後、対応していくことになった。
 - ・ 学生に回収してもらうように統一することになった。
- 3) 教員連携WGについて
 - ・ 教員連携WGを立ち上げ、メンバーは石澤委員長、富澤教員、中島教員が中心となり、来年度の授業計画、シラバス作成に向けた連携を試みていくことになった。
 - ・ また、今回は初めての試みなので、それぞれの授業計画の概要説明と意見交換を主とすることになった。
 - ・ なお、取りまとめ教員は、英語：熊谷教員、情報関連教科：樫本教員、1年生の数学：斎藤教員、応用物理：五十嵐教員、1年生の化学：辻教員にそれぞれお願いしている旨の説明があった。
 - ・ 教育研究会委員に対して学科内で連携が必要な科目について、教員間で打ち合わせを行った場合は、打ち合わせ内容、決定事項等のメモを作成し、委員長に提出するよう依頼があった。

(出典：「平成17年度第9回教育研究委員会議事要旨」より)

資料 2—2—②—2 非常勤講師との教育改善合同懇談会

平成 17 年度専任教員・非常勤講師との教育改善合同懇談会議事要旨

- 1, 日 時 平成 17 年 12 月 1 日 (木) 13 時 30 分～15 時 05 分
 2, 場 所 会議室 A
 3, 出席者 群馬高専側
 本 間 清 (校 長) 小 島 昭 (教務主事)
 青 木 利 澄 (専攻科長) 赤 羽 教 授 (物質工学科主任)
 吉見学生課長、深津専門職員、小林教務係長
 非常勤講師出席者
 小林 祥男 (E: 発変電工学 群馬高専 教授)
 星 正敏 (K: 安全工学 群馬環境技研 会社員)
 丸橋 正幸 (K: 品質管理 経営コンサルタント)
 詫間 貴 (K: 反応工学 関東電化 会社員)
 大島 明 (C: 建設行政 群馬県土木部監理課)

4, 議 事・報告事項

- (1) 校長：開式の挨拶
 (2) 教務主事による群馬高専の関係者紹介
 (3) 教務主事による混合学級についての説明 (資料 1)
 (4) 教務主事による成績評価基準の改正 (合格基準 60 点への移行) についての説明 (資料 2)
 (5) 専攻科長による JABEE 関連事項についての説明 (資料 3)
 (6) 教務主事による群馬高専の現況についての説明 (配付資料：平成 17 年度学科卒業予定者・専攻科修了予定者の進路状況)

校長の挨拶内容

- ・群馬高専の進むべき座標軸 (目標；ターゲット) をどこに置くか (新たな教育改善に向けて混合学級と成績評価基準の改正をする。)

教務主事の説明内容

- ・群馬高専の個性化として上級校への進学 (大学編入学・専攻科の大学院進学) を推奨している。(出口目標)
- ・群馬高専として教育研究の推進及び地域貢献を図っている。
- ・入学者選抜に対しては中学生人口の減少する中で 2 倍以上の志願率を目指し活動を行っている。(入口目標)

非常勤講師からの主な意見

- 詫間氏：高専が進学予備校化しているのではないかと
 授業アンケートをどのような見地に立って行っているのか？

- 1 -

丸橋氏：[顧客 (学生) からの]評価は大事である。

特に、プレゼンテーション (説明) が必要である。

JABEE による教育改善は賛成である。

授業時間が足りない。？

星 氏：もの作り体験学習はどのようなものか？

大島氏：60 点の評価基準はどのようなものか？ 又、配付資料による評価シート

ではなく、教える側の個人評価でよいのではないかと (JABEE 基準の批判)

小林氏：数年前に論議された混合学級が実現するので隔世の感がある。

以 上

(出典：平成 17 年度専任教員・非常勤講師との教育改善合同懇談会議事要旨より)

資料 2 - 2 - ② - 3 生物教育研究支援センター規則

○群馬工業高等専門学校生物教育研究連携センター規則

平成 19 年 5 月 15 日規則第 13 号

(設置)

第 1 条 群馬工業高等専門学校に、生物教育研究連携センター（以下「生物センター」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 生物系教員の教育研究連携を全校的に推進し、もって生物教育研究の向上に資することを目的とする。

(業務)

第 3 条 生物センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 生物系教育研究連携方策に関すること。
- (2) 生物系カリキュラム及び教材の共同開発に関すること。
- (3) 生物系共通教育研究設備及び施設の維持管理に関すること。
- (4) その他生物センターの目的達成に必要な業務に関すること。

(組織)

第 4 条 生物センターに、次に掲げる教員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 連携教員
- (4) 幹事教員

2 生物センターに属する教員は、校長が指名する。

(センター長)

第 5 条 センター長は教授とし、校長が任命する。

- 2 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 3 センター長が欠員となったときは、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 センター長は、生物センターに関する業務を掌理する。

(副センター長)

第 6 条 副センター長は、校長が任命する。

- 2 副センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 3 副センター長が欠員となったときは、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 副センター長はセンター長を補佐し、生物センターの運營業務を処理する。

(出典：「群馬工業高等専門学校規則集」より一部抜粋)

観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

学科における学級担任の教育活動を円滑に行うための支援組織として、学習指導、ホームルームに関する事項については、「教務委員会」が、生活面に関する事項については「厚生補導委員会」がある。また横の連携として、学年ごとにクラス担任から構成される「学年会」があり、学年主任を中心に、学年行事に関する事項などについて合議し、円滑なクラス運営のための支援を行っている。専攻科における専攻主任の教育活動を円滑に行うための支援組織としては、「専攻科委員会」がある。専攻科委員会は、特別研究の正副担当教員と連携し、専攻主任の活動を支援している。寮生の生活指導などについては、「寮務委員会」があり、寮務係と連絡を保ちながら、学級担任の活動を支援している。

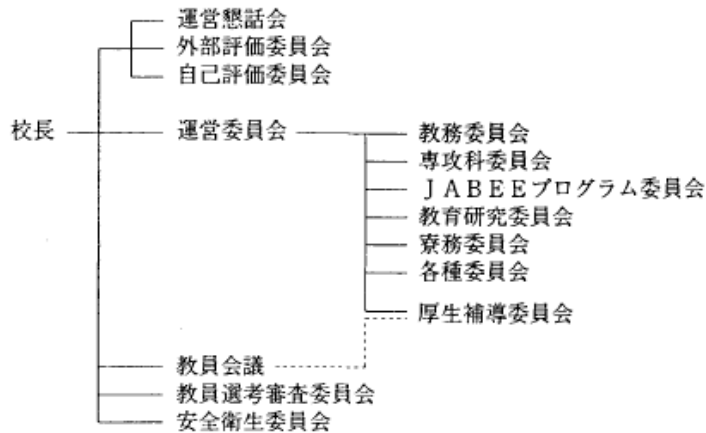
(資料2-2-③-1) 学生の悩み相談の場所として、「学生相談室」が設置されている。「学生相談室」は独自に学生の悩み相談に応じることにより、間接的に学級担任、専攻主任の教育活動を支援している。(資料2-2-③-2) これまで、学級担任に大きく依存してきた進路指導について、平成19年度から、「進路支援室」が設けられ、各学科に新たに進路指導教員が配置された。進路指導の各教員は「進路支援室」を構成し、相互の連携を図りながら、所属する学科4・5学生および専攻科生の進学・就職の指導に当たるとともに、情報の収集に務めている。(資料2-2-③-3)

(分析結果とその根拠理由)

教員が行う教育活動を支援するため、それぞれ異なった役割を担う各種委員会、学生相談室、進路支援室などの体制が整備され、十分に機能している。

資料 2 - 2 - ③ - 1 各種委員会構成図

② 委員会



(出典：「平成 19 年度学生便覧」より抜粋)

資料 2 - 2 - ③ - 2 学生相談室

(3) 学生相談室

学制相談室は、管理棟 1 階・保健寮の隣にあり、相談員の教員や専門のカウンセラーが、学生のみなさんからの相談に応じています。

みなさんは、自分の音吐を活かし、能力を十分に発揮できる道に進みたいと考えていることと思います。高専で過ごす 5 年間は、そうした自己実現”のための準備期にあたります。充実した学生生活を送るには、自己を知り、自己を高めることが求められます。そのためのみなさんの努力や取り組みを学生相談室は支援しています。

相談については固く秘密を守ります。個人でもグループでも、気軽に利用して下さい。

《学生相談室とは》

- ◇みなさんが学生生活を送るうえで、困ったことや悩みがある時、気軽に相談できるところです。
- ◇あなたがよりよい学生生活を送れるようにいろいろな心配や悩みについて一縷に考え、解決法を探してゆくところ。
- ◇性格検査や職業適性検査などの心理テストを受けることができ、みなさんが自己理解を深めるための手助けをします。
- ◇メンタルヘルスのための講習会やセミナーも開催しています。

《利用方法》 1. 直接来室するか、インターカーに連絡して下さい。

2. 電話や電子メールで予約することもできます。

《スタッフ》 241 頁参照

《開室日時・担当者》 相談室のリーフレット、ホームページで確認して下さい。

(出典：「平成 19 年度学生便覧」より抜粋)

資料 2-2-③-3 進路支援室規則

○群馬工業高等専門学校進路支援室規則

平成 19 年 2 月 13 日制定

(設置)

最終改正 平成 19 年 2 月 13 日

第 1 条 群馬工業高等専門学校に、進学指導等に関する業務を円滑に進めるため、進路支援室(以下「室」という。)を設置する。

(業務)

第 2 条 室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の進学等に関する情報の収集及び分析
- (2) 進路指導連絡会議(以下「会議」という。)に関する事。
- (3) その他進学指導等の支援に必要な業務に関する事。

(組織)

第 3 条 室に次の各号に掲げる教職員を置く。

- (1) 室長
- (2) その他校長が必要と認めた者

2 前項に掲げる教職員は、校長が任命する。

(任期)

第 4 条 室長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 前項の教職員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第 5 条 全校的な有機的連携の下で進路指導業務を実施するため、会議を開催する。

2 会議は、次の教職員をもって構成する。

- (1) 教務主事
- (2) 専攻科長
- (3) 進路指導担当教員
- (4) 副専攻科長
- (5) 室長
- (6) 学生課長
- (7) その他、教務主事が必要と認めた者

3 会議の議長は、教務主事とする。

(事務)

第 6 条 室の事務は、学生課において処理する。

(その他)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 19 年 2 月 13 日から施行する。
- 2 第 3 条 2 項に基づき平成 18 年度任命された教職員の任期は、第 4 条にかかわらず、平成 19 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。(出典：群馬工業高等専門学校規則集) より)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 情報処理教育センター，教育研究支援センター，地域共同開発センターは，それぞれ特色ある機能を備えており。本校の教育の目的を達成する上で適切なものになっている。
- ・ 準学士課程の1年から3年までは，正副担任の二人担任制をとっていて，きめ細かい教育指導が可能となっている。
- ・ 学生の多様な悩みに対処するうえで，学生相談室と進路支援室が有効に機能することが可能である。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準 2 の自己評価の概要

本校で養成しようとする技術者像は，「最も得意とする専門工学の基礎知識と異なる分野の幅広い工学基礎の知識を融合することにより，専門分野を広い視野で捉えることができ，将来，より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者」である。その実現に向け，学科の構成は，準学士課程の学習・教育目標達成のため，機械工学科，電子メディア工学科，電子情報工学科，物質工学科，環境都市工学科の5学科からなり，専攻科の構成は専攻科課程の学習・教育目標達成のため生産システム工学専攻と環境工学専攻の2専攻からなっている。

全学的なセンターとして，情報処理教育センター，教育研究支援センター，地域共同開発センターが設置されている。情報処理教育センターは，学生がコンピュータをツールとして使いこなすことができる技量の向上に大きく貢献し，教育研究支援センターは専門各学科との有機的な連携により，地域共同開発センターは先端的測定機器を提供することにより，実験・実習，卒業研究，特別研究におけるデザイン能力の向上に貢献している。

教育課程全体の運営方針を審議・決定する機関として，主事主任会議・JABEEプログラム委員会があり，その下に，方針の具体化と実践を担う，教務委員会，入試運営委員会，専攻科委員会，教育研究委員会がある。結果の点検は，授業評価，実態調査，教員学生連絡会，運営懇話会が担っている。

教員連携WGが，一般科目や専門科目の科目間で整合性をとるため組織され，教員間の連携が適切に行われている。また，非常勤講師と常勤講師の連携のための懇談会が定期的に行われるなど，教員間ネットワーク組織が整備され，機能している。

教員が行う教育活動を支援するため，各種委員会，学年会，学生相談室，進路支援室などの体制が整備され，十分に機能している。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

- ・一般科目担当の専任教員は英語6名、国語3名、社会2名、保健体育2名、数学7名、物理4名、化学2名、生物1名の合計27名の配置となっている。応用数学、応用物理等の専門科目の多くを一般科教員が担当しているため、人数は平均的な高専における人数よりも多くなっている(資料3-1-①-1, 2)。
- ・第2外国語であるドイツ語は選択科目とし、その分4年、5年次における英語の時間数を増やし、学生の英語力向上をはかっている。教員配置に関しては、英語は5名から6名、独語は1名から0名とした。
- ・学校の金銭的負担により、専攻科入学予定者、3年生、4年生の全員、および希望者にTOEIC-I P試験を受験させ、英語教員6名の協力のもとにより実践に近い英語力の向上をはかっている。
- ・4年次における国語表現においては、専任教員と非常勤講師が2人1組となり、より少人数でより実践に近い形での学生の表現能力向上をはかっている。
- ・1年次における、一般教科の科目は混合学級において、共通進度による共通試験が行われている。
- ・1年次における数学Bは中学までの数学と高専の数学の橋渡しとなるとともに、全ての専門科目の基礎となる科目であるため、各専門学科教員の担当で行われている。従来2単位で行われていたが、中学までの数学との接続をよりよくするために、平成15年度より3単位で行われている。各担当教員は試験内容等に関して定期的に話し合いの機会を持っている。
- ・1年次における力学基礎(内容は高校程度の物理における力学)は専門科目として、混合学級で行われている。物理担当教員と専門学科教員が担当している。講義内容と専門科目との接続、および、試験に関する会合が定期的に持たれている(資料3-1-①-3)。
- ・3年次には、1, 2年次の数学と物理の共通試験を行い、基礎学力の定着をはかっている。また、4年次への進級要件としている。

(分析結果とその根拠理由)

教科担当者の専門分野と担当科目に整合性があり、学生の教育のために適切な教員配置がなされている。一般科目の重要性の認識により、低学年の理工系基礎科目において一般科目教員と専門科目教員との連携がなされている。混合学級による、定期試験の共通化により教員相互の連携がなされている。3年次における理工系基礎科目の共通試験により、基礎学力の定着がなされている。英語教育充実のために、第二外国語専任教員を英語専任教員に替えている。また、在外経験、留学経験を有する英語教員も多い。

資料 3-1-①-1 一般教科教員

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	野村貴俊		英語学、文体論	英語
教授	飯野一彦	Master of Arts	言語学	英語
准教授	熊谷 健		英語学、言語学 英語教育	英語
准教授	八鳥吉明		英文学	英語
准教授	横山 孝一		英米文学、比較文学	英語
准教授	伊藤文彦	博士(英語教授法)	英語教授法 英語学習理論	英語
教授	大島 由紀夫		中世日本文学 伝承文学	国語
准教授	小野泰央	博士(文学)	平安朝文学 日本漢文学	国語、日本語
准教授	東城敏毅		上代国文学 古代和歌史	国語、日本語
准教授	宮川 剛	博士(文学)	イギリス近代史	歴史
准教授	杉浦立明		経済政策	政治経済、社会政策
准教授	櫻岡 広		バイオメカニクス	保健体育
講師	高橋健太郎	博士(体育学)	バイオメカニクス	保健体育
教授	斎藤 斉	博士(理学)	複素解析学	数学、応用数学
教授	宮越 俊一	農学博士	応用微生物学	生物、化学、生命科学
教授	鈴木福蔵		解析学	数学、応用数学
准教授	神長保仁	理学博士	素粒子論	数学
准教授	碓氷 久	博士(理学)	代数幾何学	数学、応用数学
准教授	谷口 正	博士(理学)	微分幾何学	数学、応用数学
准教授	吉田はん	博士(理学)	位相数学、双曲幾何学	数学、応用数学
講師	藤田慎也	博士(理学)	離散数学、組合わせ論	数学
准教授	狩野正徳	工学博士	乱流の数値解析	応用物理、物理、数学
准教授	五十嵐睦夫	博士(理学)	物性実験	力学基礎、応用物理
准教授	宇治野秀晃	博士(理学)	物性基礎論 数理物理学、可積分系	物理、応用物理
講師	辻川信二	博士(理学)	宇宙物理学	物理、応用物理
准教授	辻 和秀	博士(理学)	物理化学、分子分光学 計算化学	化学、物理化学特論
助教	平 靖之	博士(理学)	無機固体化学 無機化学、固体化学	化学、物理

(出典：学生便覧，群馬高専シーズ集より作成)

資料 3 - 1 - ① - 2 一般教科非常勤教員

職名	氏名	本務等	担当授業科目
非常勤講師	星野玲子	元・神奈川病院付属看護学校非常勤講師	英語B
非常勤講師	藤沼日出男	元・熊谷西高等学校教諭	英語B
非常勤講師	遠藤真知子	前橋国際大学英語非常勤講師	英語A, 英語B
非常勤講師	カレンルイーヅワカヤマ		英語表現A、英語表現B
非常勤講師	小林 喬	元・群馬県立女子大学教授	ドイツ語I, II
非常勤講師	小林・トーマス・康彦	上武大学専任	ドイツ語II
非常勤講師	小林文子		総合英語I, II
非常勤講師	塚越雅幸	元・県立中央高等学校教員	国語講読、国語演習
非常勤講師	新井小枝子	群馬大学留学センター非常勤講師	国語表現、日本語特講
非常勤講師	瀬間亮子	高崎経済大学付属高校非常勤講師	国語演習
非常勤講師	田村祐子	県立高崎女子高等学校非常勤講師	古典
非常勤講師	江原岳志	共愛高等学校非常勤講師	地理
非常勤講師	丸山秀樹	元・県立中央高等学校教員	地理
非常勤講師	新井保二郎	元・県立高崎工業高等学校教員	歴史
非常勤講師	須藤和夫	東京外国語大学非常勤講師	哲学
非常勤講師	大河内泰樹	元・学術振興会特別研究員	哲学
非常勤講師	西岡伸二	元・県立高崎女子高等学校教員	倫理
非常勤講師	佐藤純訟	城西大学学助教授	法学
非常勤講師	生形健司	元・群馬県前橋行政事務所長補佐兼振興課長	法学、政治経済
非常勤講師	高橋伸次	高崎経済大学教授	保健体育
非常勤講師	関 耕二	群馬大学TA	保健体育
非常勤講師	柳川美麿	群馬大学、前橋工科大学非常勤講師	保健体育
非常勤講師	小林 正	元・東京芸術大学非常勤講師	美術
非常勤講師	西谷 泉	群馬大学教育学部助教授	数学B
非常勤講師	村崎武明	群馬大学教育学部教授	数学B
非常勤講師	玉置豊美	群馬大学非常勤講師	力学基礎、物理II、応用物理I
非常勤講師	関根俊明	元・(財)放射線利用振興協会	原子力安全教育

(出典：学生便覧より作成)

資料3-1-①-3 力学基礎打ち合わせ資料

力学基礎の運営体制について 協議後改訂版 2006.1.23

(関係者出席により, 申し合わせ会議を行った。; 於会議室 [16:40~18:00])

(出席者: 青木, 小川, 大嶋, 藤平, 木村, 五十嵐, 平 [オブザーバー])

1. 授業内容

- 「高専の物理」に掲載された内容のうち, 力学に関する内容を扱う。
- 初年度は, 第1章 (p.1~p.60) までを対象とする。
- 取り扱うべき内容は, 授業担当者間の協議の上によりあらかじめ決めておくものとする。
- 決定した内容について, 共通シラバスを作る。シラバス上の表現は, 担当者名以外全く同じものとする。
- 授業進度は学年全体で共通になるようにする。 以下略

(出典: 力学基礎担当者議事録より抜粋)

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

- ・専任教員数は機械工学科11名，電子メディア工学科11名，電子情報工学科11名，物質工学科12名，環境都市工学科11名である。非常勤講師は物質工学科をのぞいては各学科とも3名程度である。物質工学科が他学科より専任教員数が多いのは，材料化学と生物工学の2コースがあるためである。また，物質工学科の非常勤教員数が多いのは，各分野の専門家によるオムニバス方式の講義が行われているためである。
- ・機械工学科については，産業技術や機械システムなどの工学分野に関する基礎知識を習得するための教員配置となっている（資料3-1-②-1）。
- ・電子メディア工学科については，電子材料，エネルギー，電子情報通信などの電子メディア工学分野の基礎知識を習得するための教員配置となっている。また，生命・地球環境を正しく認識するため生命科学，宇宙科学，物理化学の選択必修3科目では非常勤講師も含め各分野の専門家が担当している（資料3-1-②-2）。
- ・電子情報工学科については，コンピュータのハードウェア，ソフトウェアなどの電子情報工学分野の基礎知識を習得するための教員配置がなされている（資料3-1-②-3）。
- ・物質工学科については，化学的知識を元にして材料化学，生物工学などの物質工学分野に関する基礎知識を習得するための教員配置がなされている（資料3-1-②-4）。なお，4年次からは材料化学と生物工学の各コース別に基礎知識を学ばせるための教員配置となっている。なお，安全工学および物質工学総論は非常勤講師によるオムニバス方式で行われるため非常勤講師の人数は多くなっている。
- ・環境都市工学科については，計画，設計，施工，管理などの環境都市工学分野に関する基礎知識を習得するための教員配置がなされている（資料3-1-②-5）。

(分析結果とその根拠理由)

各専門学科の学習教育目標を達成するための教育課程が適切に編成されている。各教員の専門と担当科目に整合性がある。

以上より，本校の教育目標を達成するための各学科の担当教員は適切に配置されている。

資料 3-1-②-1 機械工学科教員

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	安田一美	博士(工学)	材料力学、数理工学	材料力学、流体工学
教授	下田祐紀夫	工学博士	機械工作法、品質管理	機械工作法、生産管理
教授	石澤静雄	工学博士	燃焼工学	伝熱工学、機械設計法
教授	高橋秀夫	博士(工学)	内燃機関、熱工学	熱力学、内燃機関
教授	金子忠夫	博士(工学)	機械材料	材料学、設計製図
准教授	重松洋一	工学博士	ロボット工学	機構学、機械力学
准教授	櫻井文仁	博士(工学)	生産工学、加工技術	機械工作法、工業力学
准教授	黒瀬雅詞	博士(工学)	材料力学	材料力学、弾性力学
准教授	岡田敬夫		流体工学	設計製図、数学
准教授	小川侑一		制御工学、計測工学 機械要素	情報処理、計測工学
准教授	樫本弘		機械力学	設計製図、情報処理
職名	氏名	本務等	担当授業科目	
非常勤講師	斎藤勝男	群馬大学工学部助教授	機械工学特論II	
非常勤講師	羽鳥 亘	羽鳥国際特許商標事務所	知的財産権	
非常勤講師	山田 功	群馬大学工学部助教授	制御工学	

(出典：学生便覧，群馬高専シーズ集より作成)

資料 3-1-②-2 電子メディア工学科教員

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	小幡常啓	博士(工学)	物理学、情報通信工学	通信工学、電子回路I
教授	大手丈夫	博士(工学)	電力応用工学、自動制御工学 プラズマ工学、電気電子材料工学	電気機器、自動制御
教授	青木利澄	工学博士	物性基礎論、統計力学	応用解析基礎、電磁気学II
教授	渡邊直寛	理学博士	磁気光学、高温超伝導	電子材料基礎、応用物理演習
教授	大嶋一人	理学博士	理論物理	電気磁気学I、確率統計
准教授	平井 宏	博士(学術)	物性実験	物理II、電気回路II
准教授	富澤良行	博士(工学)	電気計測	計算機基礎、情報科学
准教授	鈴木 靖		電気音響工学	音響工学、計測基礎
准教授	谷中 勝		情報科学、計算機工学	情報工学、計算機工学
助教	中山和夫	博士(工学)	大電流エネルギー工学	数学B、電気基礎II
助手	布施川秀紀		コンピュータグラフィックス コンピュータシミュレーション	工学実験
職名	氏名	本務等	担当授業科目	
非常勤講師	橋本 修	群馬県立天文台研究員	宇宙科学	
非常勤講師	関根俊明	元・(財)放射線利用振興協会	物理化学	

(出典：学生便覧，群馬高専シーズ集より作成)

資料3-1-②-3 電子情報工学科教員

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	柳田友士	工学博士	物理学、情報処理学	電気磁気学、情報処理
教授	樋口 博	工学博士	地理空間情報工学、画像工学 リモートセンシング	電子回路、計算機アーキテクチャ
教授	桜井治男	博士(工学)	情報通信工学	システムプログラム、プログラム言語
教授	鶴見 智	博士(工学)	画像工学、物性基礎論	プログラム言語、デジタル画像処理
教授	須田健二		システム情報数理工学 福祉情報工学	マイコン、数値解析
准教授	藤平威尚	理学博士	カオス、1/f ゆらぎ	電気磁気学、電子工学概論
准教授	大豆生田利章	博士(工学)	集積回路工学、電子デバイス工学	電気回路、情報ネットワーク
准教授	木村真也		情報工学	LSI工学、論理回路
准教授	荒川達也	博士(理学)	代数幾何学	電気回路、情報数学
助教	牛田啓太	博士(工学)	マルチメディア ヒューマンインターフェース	電子情報工学実験実習
助手	大墳 聡		福祉情報工学、情報工学	電子情報工学実験実習
職名	氏名	本務等		担当授業科目
非常勤講師	松井利一	群馬大学工学部助教授		工業英語、計測制御工学
非常勤講師	田中紘資			LSI設計製作II
非常勤講師	田中寛次	群馬大学工学部非常勤講師		LSI設計製作I

(出典：学生便覧，群馬高専シーズ集より作成)

資料 3 - 1 - ② - 4 物質工学科教員

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	林 俱子	医学博士	生物化学、糖タンパク質	生化学I、生物機能化学実験
教授	戸井啓夫	工学博士	生物有機化学、有機合成化学	微生物学、物質工学実験II
教授	赤羽良一	理学博士	有機化学、超分子化学、光化学	有機化学、分子機能化学実験
教授	藤野正家	工学博士	有機材料、電子材料、物性化学	物理化学、物質工学実験IV
教授	小島 昭	工学博士	無機材料、複合材料、環境化学 建築化学	材料無機化学I、物質工学実験II
准教授	真壁恭子	博士(医学)	分子生理学、実験動物学	生化学II、生物反応工学
准教授	太田道也	工学博士	機能性高分子材料、分子磁性体 炭素材料	無機化学、材料有機化学
准教授	友坂秀之	博士(理学)	天然物有機化学、生物有機化学	生物有機化学I、生物物理化学II
准教授	中島 敏	博士(理学)	有機物理化学	地球環境化学、基礎有機化学
准教授	田部井康一		化学工学、環境工学	物理化学I、精密分離工学
講師	出口米和	博士(工学)	電気化学、高分子化学	高分子化学II、電気化学
助手	藤重昌生	博士(工学)	環境工学、無機材料	物質工学実験II、材料化学実験II
職名	氏名	本務等		担当授業科目
非常勤講師	星 正敏	群馬環境技研		安全工学
非常勤講師	大沢武克	群馬環境技研		安全工学
非常勤講師	関 一郎	日本カーリット火薬製造部長		安全工学
非常勤講師	丸橋正幸	経営コンサルタント		品質管理
非常勤講師	上石洋一	群馬県新政策課科学技術振興室長		物質工学総論
非常勤講師	八木正剛	NTTフォトニクス研究所		物質工学総論
非常勤講師	海野雅史	群馬大学工学部教授		物質工学総論
非常勤講師	吉井文男	日本原子力開発研究機構		物質工学総論
非常勤講師	中野賢一	日本火薬(株)		物質工学総論

(出典：学生便覧，群馬高専シーズ集より作成)

資料 3-1-②-5 環境都市工学科

職名	氏名	学位	専門分野	担当授業科目
教授	山本好克	博士(工学)	水文学、水工水理学	水理学I, II、防災工学III
教授	古川 茂	博士(工学)	コンクリート工学、コンクリート構造学	コンクリート工学、材料学I, II
教授	青井 透	博士(工学)	衛生工学、環境工学	環境工学、設計製図
教授	阿部 博	博士(工学)	地盤工学、耐震工学、土質工学	土質工学、地盤工学
教授	脇田英治	博士(工学)	構造工学、環境工学、地盤工学	リモートセンシング、設計製図
准教授	野村和広	博士(工学)	都市交通計画	交通工学、景観工学、測量学
准教授	森田哲夫	博士(工学)	都市工学、交通まちづくり 都市環境評価、市民参加	計画数理、設計製図
准教授	木村清和	博士(工学)	構造工学、舗装工学、トンネル工学	構造力学I, III, CAD
准教授	谷村嘉恵	博士(工学)	衛生工学、生物学	環境化学、生物生態学
講師	三上 卓	博士(工学)	耐震工学、橋梁工学、防災工学	橋工学、構造力学、耐震構造学
助教	宮里直樹	博士(工学)	衛生工学、水環境工学	数学B、生物、環境都市工学実験実習
職名	氏名	本務等		担当授業科目
非常勤講師	勝守滋夫			CAD
非常勤講師	大島 明	群馬県土木部		建設行政
非常勤講師	大塚富男	コンサルタント		応用地質

(出典：学生便覧，群馬高専シーズ集より作成)

観点 3-1-③： 専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

- ・教員の専門分野と専攻科授業科目は合致しており，必要な専攻科の授業科目が適切に配置されている（資料 3-1-③-1，3-1-③-2）。また，特別研究を担当する教員も適切に配置されている（資料 3-1-③-3，3-1-③-4）。
- ・専攻科の科目担当は専任教員に限定している。また，資格審査に適合した教員のみが講義および特別研究を担当している。
- ・融合領域についての教育，研究をおこなうために，各専攻内において学科間共通科目が用意されている。また，各専攻内において，出身学科にこだわりなく，幅広い分野から特別研究題目を選ぶことのできる体制になっている。
- ・開発などを行うための基礎的能力を身に付けるために，企業等における実務経験者が 24 名いる（資料 3-1-③-5）。
- ・幅広い工学基礎の知識を身に付けるために，幅広い理工学分野の基礎科目を提供できるように教員配置がなされている。
- ・倫理・教養を身に付けるために，人文社会系科目まで含めた幅広い科目を提供できるように教員が配置されている。
- ・講義が全て英語で行われる専門科目(Fundamental Mechanics)を担当する教員が配置されている。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の講義および特別研究担当者は5年毎の資格審査において、適と認定された専任教員に限定しており、新規採用者においても、資格審査を適用している。特別研究を行うための教員が十分に配置されており、特別研究が適切に行われている。より高度な専門各分野の知識およびそれらの融合領域について学ぶための科目担当教員が適切に配置されている。開発などを行うための基礎的能力を身に付けるための教員が適切に配置されている。また、理工系基礎科目のみならず、人文社会系等まで含めた幅広い科目を提供されている。以上のことから、教員の配置は適切であるといえる。

資料3-1-③-1 専攻科講義担当者(生産・環境共通科目)

担当教員氏名	専門分野	担当科目
野村貴俊	英語学、文体論	英語演習A
野村貴俊	英語学、文体論	英語演習B
伊藤文彦	英語教授法	実用英語A
伊藤文彦	英語教授法	実用英語B
八鳥吉明	英文学	科学英語A
野村貴俊	英語学、文体論	科学英語B
東城敏毅	上代国文学	国語表現演習I
小野泰央	平安朝文学	国語表現演習II
櫻岡 広	バイオメカニクス	身体動作学
大島由紀夫	中世日本文学	日本文化論
杉浦立明	経済政策	日本経済論
宮川 剛	イギリス近代史	近代西洋社会論
下田祐紀夫	機械工作法	技術者倫理
樋口 博	地理空間情報工学	技術者倫理
オムニバス方式		総合工学
脇田英治	構造工学	システム工学
金子忠夫	機械材料	材料学特論
大豆生田利章	集積回路工学	情報基礎論
藤平威尚	力オス	数値解析特論
赤羽良一	有機化学	応用化学
谷口 正	微分幾何学	応用解析学
斎藤 斉	複素解析学	複素解析
神長保仁	素粒子論	特殊関数
辻川信二	宇宙物理学	ベクトル解析
藤田慎也	離散数学	線形代数学I
吉田はん	位相数学	線形代数学II
宇治野秀晃	物性基礎論	解析力学
大嶋一人	理論物理	量子力学I
神長保仁	素粒子論	量子力学II
青木利澄	物性基礎論	統計力学
柳田友士	物理学	シミュレーション工学
辻川信二	宇宙物理学	Fundamental mechanics

(出典：学生便覧，シーズ集，時間割表より作成)

資料 3 - 1 - ③ - 2 専攻科講義担当者 (生産, 環境)

担当教員氏名	専門分野	科目名
安田一美	材料力学	機械数理
石澤静雄	燃焼工学	熱・物質移動論
高橋秀夫	内燃機関	応用熱力学
黒瀬雅詞	材料力学	弾性力学
狩野正徳	乱流の数値解析	流体力学
重松洋一	ロボット工学	システム制御工学
下田祐紀夫	機械工作法	品質管理特論
平井 宏	物性実験	電磁気学特論I
小幡常啓	情報通信工学	電磁気学特論II
富澤良行	電気計測	回路理論
五十嵐睦夫	物性実験	電子物性特論I
渡邊直寛	磁気光学	電子物性特論II
大手丈夫	電力応用工学	プラズマ工学
櫻井治男	情報通信工学	光波工学
樋口 博	地理空間情報工学	デジタル信号処理特論
荒川達也	代数幾何学	情報理論
碓氷 久	代数幾何学	離散数学
鶴見 智	画像工学	アルゴリズム論
櫻井文仁	生産工学	精密加工論
藤野正家	有機材料	物理化学特論I
辻 和秀	物理化学	物理化学特論II
辻 和秀	物理化学	物理化学特論III
中島 敏	有機物理化学	有機化学特論I
赤羽良一	有機化学	有機化学特論II
友坂秀之	生物有機化学	有機化学特論III
太田道也	機能性高分子	無機化学特論I
戸井啓夫	生物有機化学	生物工学特論
林 俱子	生物化学	分子生物学特論
小島 昭	無機材料	材料工学特論
眞壁 恭子	分子生理学	生命科学特論
山本好克	水文学	水理学特論I
山本好克	水文学	水理学特論II
古川 茂	コンクリート工学	建設材料特論
三上 卓	耐震工学	構造解析学特論
阿部 博	地盤工学	土質工学特論
木村清和	構造工学	応用力学特論
青井 透	衛生工学	環境工学特論
脇田英治	構造工学	構造設計特論
阿部 博	地盤工学	環境防災特論
谷村嘉恵	衛生工学、生物学	環境微生物

(出典：学生便覧，シーズ集，時間割表より作成)

資料 3-1-③-3 生産システム工学専攻特別研究

指道教員氏名	生産システム工学科特別研究題目
金子忠夫	非平衡マグネトロンスパッタ法によるステンレス鋼への金属コーティング
重松洋一	マスタ・スレーブ型二足歩行ロボットの試作研究—XY可動部の試作—
安田一美	Compliant片持ちはりの変形解析
黒瀬雅詞	超音波測定法を用いた金型成形加工の品質評価
黒瀬雅詞	3次元CADを用いたプレス用金型治具の開発
黒瀬雅詞	温度による氷の時間ひずみに及ぼす影響
下田祐紀夫	自転車の盗難防止装置開発と技術管理の事例研究
桜井文仁	内径切削におけるセミドライ切削加工技術の研究
高橋秀夫	非定常噴流の生成機構に関する研究
石澤静雄	薄い小孔やスリットにおける消炎
小幡常啓	歩行運動の時系列解析
小幡常啓	能動進行波アンテナの伝送線路パラメータの測定
大手丈夫	プラズマを用いた材料表面モロフォロジーの制御法の開発
青木利澄	フェリ磁性体のモンテカルロシミュレーション
青木利澄	らせん磁性体のスピン波
渡邊直寛	Bi置換Gd鉄ガーネット薄膜の光学的研究
渡邊直寛	Bi置換Gd鉄ガーネット薄膜の結晶構造
大嶋一人	量子情報の基礎
富沢良行	小型FM-CW地中レーダシステムの開発
鶴見 智	Wavelet変換チップの設計と画像認識
鶴見 智	Wavelet変換を用いた画像認識
荒川達也	複素ニューラルネットワーク
荒川達也	顔表情の認識～ニューラル・ネットワークと判別分析の比較～
柳田友士	モンテカルロ法とシミュレーション
藤平威尚	量子コンピュータ
樋口 博	3次元画像計測に関する検討
樋口 博	赤外線画像による人（生体）の識別に関する検討
大豆生田利章	単電子論理回路のシミュレーションと信頼性解析
櫻井治男	境界要素法と電磁波散乱
神長 保仁	量子力学から場の理論へ
五十嵐 睦夫	小型MRIの開発—新型勾配磁場電源システムの検討—
五十嵐 睦夫	ナノ結晶セラミックスのサイズ・構造制御による新機能発現と機能向上
碓氷 久	公開鍵暗号に関する研究
宇治野 秀晃	差分と超離散
辻川 信二	量子力学の基礎

(出典：平成18年度特別研究説明会および中間発表会資料より作成)

資料 3 - 1 - ③ - 4 環境工学専攻特別研究

指道教員氏名	環境工学専攻特別研究題目
林 俱子	シイタケの耐熱性プロテアーゼの特性
藤野正家	色素増感太陽電池用ホール輸送材料の研究
太田道也	新規カーボンナノスフィアの開発
太田道也	ツイストカーボンナノチューブの新規調整法の開発
太田道也	電気二重層キャパシタ用膨張炭素電極の開発
太田道也	電子供与性基と電子受容性基を π 共益鎖の両端に持つ光増感
戸井啓夫	梨病原菌に対する生理活性を有する微生物由来物質の探索
戸井啓夫	植物病原菌由来の生理活性物質の探索
真壁恭子	脳幹部へのタンパク質・遺伝子導入の基礎的研究
赤羽良一	オレフィンカチオンラジカルの構造と反応性に関する研究
赤羽良一	有機カチオンラジカルの異性現象に関する研究
赤羽良一	自己集合による超分子集合体のデザインと合成に関する研究
赤羽良一	セルフアセンブリーの化学と分子設計—水素結合などによるアプローチ
赤羽良一	セルフアセンブリーの化学と分子設計—二次元集積場によるアプローチ
中島 敏	アミノ置換ナフタルイミドの蛍光挙動に対する溶媒効果の検討
辻 和秀	極低温マトリックス単離分光装置の開発
辻 和秀	極低温条件下のラジカル種の赤外吸収分光
辻 和秀	ナノ結晶ゼオライトのサイズ・構造制御による新機能発現と機能向上
三上 卓	地震時避難所の使用性に基づく整備優先順位に関する研究
阿部 博	弾塑性理論による液状化解析手法の開発
阿部 博	GISを利用した群馬県内の地震危険度および地下水資源情報システムの構築
阿部 博	軽石を用いた環境材料の開発
山本好克	流出モデルの性能に関する研究
脇田英治	振動実験および動的有限要素解析による構造物の動的挙動メカニズムの解明
脇田英治	衛星リモートセンシングによる群馬県の農業生産形態の解析
脇田英治	橋梁デザインの定量的評価法
脇田英治	風による構造物の動的挙動解析および設計法
森田哲夫	調査データ等を用いた都市生活・行動分析
谷村嘉恵	電気化学的方法を用いた藻類異常増殖の抑制
青井透	西湖底泥部分浚渫法の自動化
青井透	連作障害対策型土壌改良材の実農地への展開
青井透	神流川上流部珪藻優占種と河川中窒素濃度の関係の解明
古川 茂	繊維で補強したセメント系複合材料の力学的特性
木村清和	現道アスファルト舗装におけるわだちによる骨材移動解析
木村清和	アスファルト舗装におけるわだち抑制構造の開発
木村清和	埋設型ひずみゲージを用いた円柱供試体の弾性係数決定法の開発と実験的検証
木村清和	三層円形介在物に集中荷重が作用する場合の応力解析

(出典：平成 18 年度特別研究説明会および中間発表会資料より作成)

資料 3 - 1 - ③ - 5 実務経験者

氏名	所属学科	職名	経験年数
下田 祐紀夫	機械工学科	教授	1年 4月
安田 一美	機械工学科	教授	26年
石澤 静雄	機械工学科	教授	20年
金子 忠夫	機械工学科	教授	1年 9月
高橋 秀夫	機械工学科	教授	1年 3月
重松 洋一	機械工学科	准教授	4年
小幡 常啓	電子メディア工学科	教授	1年 9月
平井 宏	電子メディア工学科	准教授	2年
櫻井 治男	電子情報工学科	教授	13年 9月
樋口 博	電子情報工学科	教授	27年
柳田 友士	電子情報工学科	教授	2年
宮越 俊一	一般教科(自然)	教授	23年
赤羽 良一	物質工学科	教授	3年 4月
藤野 正家	物質工学科	教授	21年
小島 昭	物質工学科	教授	5年 3月
戸井 啓夫	物質工学科	教授	1年
真壁 恭子	物質工学科	准教授	4年
藤重 昌生	物質工学科	助手	10年 3月
青井 透	環境都市工学科	教授	22年
阿部 博	環境都市工学科	教授	23年
脇田 英治	環境都市工学科	教授	27年
森田 哲夫	環境都市工学科	准教授	15年
谷村 嘉恵	環境都市工学科	准教授	2年 1月
三上 卓	環境都市工学科	講師	4年 3月

(出典：人事係資料より作成)

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

- ・ 教員年齢構成表（資料 3-1-④-1）によれば、40歳代、50歳代の順に多く、20歳代は極めて少ない。若手の人数が少なめなのは、採用にあたり博士号の取得を前提としていることと、民間企業、大学等の研究者からの採用が40歳代以上であることが多いことが理由として考えられる。また、一般教科において50歳代以上がやや少ないのは、40歳代までに大学等へ転出する教員が少なからずいたためと考えられる。やや、年齢的かたよりはあるものの、教育と研究において十分な能力、経験を有する教員が配置されているといえる。女性教員数は4名であり、女子学生数は増加している中であまり多いとはいえない。
- ・ 年齢制限をつけた教員公募を行い、年齢構成の適正化をはかっている。教員の配置替え等による活性化もはかられている。
- ・ 民間企業等における実務経験者は全員で24名である（資料3-1-③-5）。学科間でやや偏りはあるが、各学科の教育目標にあわせて適正に配置されている。
- ・ 高専機構間の人事交流制度により、平成18年度には電子メディア工学科より1名が他高専に出向した。また、一般教科、電子メディア工学科、環境都市工学科に各1名の教員を他高専より迎えた。
- ・ 博士号取得者は一般科教員が17名であり、専門学科教員は47名である。また、未取得の教員には国内研修制度の利用も認められている。
- ・ 准教授以下の教員を対象にした教員表彰制度が定められている（資料3-1-④-2）。各業績に応じて選考されるが、教員の自己評価、相互評価（資料3-1-④-3、4）、授業評価（資料3-2-②-1）、ベストティーチャー（資料3-2-②-3）の結果も選考に当たって重要な要因とされる。初年度となる19年度は、一般教科（人文科学）の小野泰央准教授が研究業績賞を、機械工学科の黒瀬雅詞准教授が産学連携貢献賞を受賞した。また、国立高専機構教員顕彰制度により、平成17年度物質工学科の小島昭教授が高専機構理事長奨励賞を受賞した。

（分析結果とその根拠理由）

全体的にバランスの取れた教員構成になっている。年齢制限を付けた教員公募、配置替え、人事交流、民間企業等経験者の採用、研修制度、表彰制度等により教員組織のいっそうの活発化がはかられている。博士号取得者の割合が一般科教員においても高いことは教員組織の活動の活発さを意味している。

以上のことから、教員組織の活動をより活発化するための措置が講じられている。

資料3-1-④-1 教員の年齢構成

学科	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
一般教科	0	10	12	3	2	27
機械工学科	0	1	3	4	3	11
電子メディア工学科	0	1	4	6	0	11
電子情報工学科	1	1	4	3	2	11
物質工学科	0	2	3	5	2	12
環境都市工学科	0	2	3	4	2	11
計	1	17	29	25	11	83

(出典：平成19年5月1日現在 人事係資料より作成)

資料3-1-④-2 教員表彰規則

群馬工業高等専門学校教員表彰規則

〔平成18年5月9日規則第11号〕

(目的)

第1条 この規則は、群馬工業高等専門学校(以下「本校」という。) 中期計画に基づく教育、研究、外部連携、学生指導の各分野において、特に顕著な功績をあげた教員を表彰することにより、本校の教育、研究等の諸活動の充実・向上を図ることを目的とする。

(対象教員)

第2条 表彰の対象は、准教授以下の常勤教員とする。

(表彰の種類及び人数)

第3条 この規則により行う表彰は、次に掲げるものとする。また、表彰人数は、各賞若干名とする。

(1)教育貢献賞

国立高等専門学校の特性を踏まえて教育方法等の改善に取り組み、本校の教育活動の向上に貢献した者

(2)研究業績賞

- ① 3年間に2編以上の原著論文などを発表し、学術の進展に貢献した者
- ② 実用化が期待できる研究成果をあげるとともに、その成果を特許等にまとめ出願した者

(3)外部連携貢献賞

- ① 産学連携に積極的に取り組み、産業の発展に貢献した者

② 地域生涯学習機関として社会連携に積極的に取り組み、地域社会等の発展に寄与した者

③ 海外の大学等との国際連携に積極的に取り組み、本校の教育・研究活動の国際化に貢献した者

(4) 学生指導功績賞

学生の課外活動や生活面における指導に積極的に取り組み、全人的教育の向上に貢献した者

(表彰の条件)

第4条 同一年度における表彰者の複数表彰は行わないものとする。

2 受賞歴のある教員にあつては、受賞年度から3年以上の期間を経過しないと同種類の表彰は行わないものとする。

(推薦方法)

第5条 第3条第1号から第3号に掲げる表彰の候補者については、学科長、一般教科長及び専攻科長が推薦書を校長あて提出する。

なお、推薦人数については、原則として各主任2名以内とする。

第3条 第4号に掲げる表彰の候補者については、学生主事及び寮務主事が推薦書を校長あて提出する。

なお、推薦人数については、学生主事は2名以内、また寮務主事は1名以内とする。

(選考方法)

第6条 表彰者の選考に当たって、校長は執行運営部会構成員に意見を求めるものとする。なお、学生指導功績賞に関しては、学生主事、寮務主事以外の執行運営部会構成員に意見を求めるものとする。

2 校長は、推薦書を基に、執行運営部会構成員の意見、ベストティーチャー投票結果、学生授業評価結果、教員自己評価結果、教員相互評価結果等を勘案し、表彰者を選考する。

(表彰時期)

第7条 表彰は、5月に行う。

(表彰方法)

第8条 表彰は、校長が表彰状を授与することにより行う。なお、被表彰者には、副賞を贈呈する。

2 表彰は、校内外に公表するものとする。

第9条 教員表彰に関する事務は、総務課において処理するものとする。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、別に定めるものとする。

附 則

この規則は、平成18年5月9日から施行する。

(出典：群馬工業高等専門学校規則集より)

資料3-1-④-3 教員の自己評価, 相互評価

教員の教育業績等評価

第1部 教員の自己採点

自己評価項目についての留意事項

- (1) 多くの項目は5年間の平均値を書いてください.
- (2) 着任後5年未満の教員は, その年数の平均値を書いてください..
- (3) 完全にあてはまらないような設問, 回答に対しては適宜判断して答えてください.
- (4) 小数点が出るような場合, 四捨五入してください.

配点

A. 授業等の担当 [47]

1. 授業について [6]

- (1) 週当たりの授業単位時間数はどれだけですか?最近5か年の平均値で答えてください.
- (2) (1単位時間:約50分. 実験, 実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。)

1) 15単位時間以上: [3点]

2) 12~14単位時間: [2点]

3) 11単位時間以下: [1点]

- (2) 正規の授業のほかに補習授業をやっていますか?(不定期に実施しているものを含む。)

1) 進学・就職希望者, 資格試験受験者および達成度の低い学生に実施している: [3点]

2) 進学・就職希望者および資格試験受験者について実施している: [2点]

3) 達成度の低い学生についてのみ実施している: [2点]

4) 正規の授業で十分理解されていると自信をもっているのに, 補習授業は行っていない: [1点]

5) 補習授業をまったく考えていない: [0点]

2. 授業内容・方法 [9]

- (1) シラバスはありますか?また, 有効に利用していますか?

1) シラバスの内容を学生によく説明し, 講義や成績判定に利用している: [3点]

2) シラバスはあり, およその目安としている: [2点]

3) シラバスはあるが, あまり利用していない: [1点]

4) シラバスはまだ作成配布していない。: [0点]

- (2) 教科書および参考書は使用していますか?

1) 自著の教科書・参考書および自分で開発した最新の教材を使用している: [3点]

2) 標準的な教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している: [2点]

3) 自分で作った教材を用いるので, 教科書・参考書は使用していない: [2点]

4) 標準的な教科書あるいは参考書を使用している: [1点]

- (3) 教育方法の工夫

以下略

第2部 教員による相互評価

評価方法

教育活動, 学生生活指道, 地域社会への貢献等に積極的に取り組んでいる, 本人以外の複数の教員の指名を記入する。

実施方法

全教員を対象とし, 3名連記のうえ投票する。

投票については, 原則として無記名とし, 評価集計表の当該部分を切り取り投票する。

ただし, 記名があっても差し支えない場合は評価集計表をそのまま提出する。

(出典: 人事係資料より)

資料3-1-④-4 自己評価上位者点数, 相互評価上位者票数

自己評価上位5名

氏名	点数
A	122
B	106
C	106
D	106
E	101

満点 170(153)点

相互評価上位3名

氏名	票数
X	8
Y	8
Z	7

(出典: 人事係資料より)

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

- ・ 常勤教員の採用，昇任にあたっては明確な基準が定められている（資料3-2-①-1）。
- ・ 常勤教員の採用，昇任にあたっては博士号の取得を原則としている。博士号の未取得者については，教育における十分な経験と貢献のある場合は准教授までの昇任は認められている。
- ・ 常勤の採用については，以前は学科毎の縦割りの状況が強かったが，教員選考審査委員会において教育研究方針、学科等の意見、教員の専門分野や教員数等を総合的に勘案し決定している。

(分析結果とその根拠理由)

学位未取得者の准教授への昇格は学位取得者に比べて遅くなっている。また，専門学科においては教授の学位未取得者は極めて少数である。以上より，教員の採用，昇任に関する規定が明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされていると判断される。

資料3-2-①-1 教員選考規則

群馬工業高等専門学校教員選考規則，

[平成13年11月13日 規則第8号]

(趣旨)

第1条 群馬工業高等専門学校における教授，准教授，講師，助教及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任の選考は，高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）第11条から第14条に規定する教員の資格並びに国立高等専門学校教員選考方針（昭和37年3月31日文部大臣裁定）に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。

(選考)

第2条 教員の選考は，教員選考審査委員会（以下「委員会」という。）の審査を経て校長が行う。

2 教員の選考にあたっては，原則として公募により行うものとする。

(委員会)

第3条 校長は，教員選考の必要があると認めるとき又は学科長若しくは一般教科長（以下「学科長等」という。）から教員の採用及び昇任について申し出があつて教員選考の必要があると認めるときは，委員会を設置するものとする。

(任務)

第4条 委員会は，教員選考方針及び公募方法等の審議ならびに候補者の選考を行うも

ものとする。

第 5 条 委員会は、次に掲げる委員で構成する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事・学生主事，寮務主事及び専攻科長
- (3) 教員選考対象の学科長等
(委員長等)

第 6 条 委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

- 2 委員長は，委員会を招集し，議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する
(第一次選考審査)

第 7 条 委員会は，必要に応じて選考対象者から次の各号に掲げる書類を提出させ，書類による第一次選考審査を行う。

- (1) 履歴書(市販の書式を用い写真を貼付)
- (2) 教育・研究業績調書(適宜)
- (3) 高専教育への抱負(A4 判 1 枚程度)
- (4) 推薦書(形式は任意)
- (5) その他委員会が必要と認めた書類

2 委員会は，前項の第一次選考審査に際して，当該学科当に予審査を付託することができる。

(第二次選考審査)

第 8 条 委員会は，第一次選考審査の結果，適任であると認めた候補者について，面接による第二次選考審査を行う。

2 前項の面接は，第 5 条に規定する委員並びに選考する教員が担当する授業科目又は関連する専門分野の教授のうちから委員長が指名する者で行うものとする。

(外国人教師)

第 9 条 外国人教師の選考については，この規則を準用する。

(事務)

第 10 条 委員会の事務は，総務課人事・労務係において処理する。

(雑則)

第 11 条 この規則に定めるもののほか，必要な事項は校長が別に定める。

附 則

この規則は，平成 13 年 11 月 13 日から施行する。

(出典：群馬工業高等専門学校規則集より)

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

- ・ 教員の自己評価ならびに相互評価が年に一度なされている(資料3-1-④-3, 4)。
- ・ 複数の担当者で行われる実験、演習等の科目を除き学生による授業評価が毎年おこなわれている。12の項目につき講義終了後にアンケートがなされる。集計結果は校長等を經由のうえ、担当教員に配布される(資料3-2-②-1)。各担当教員は結果を踏まえて、教育研究委員会に次年度の改善目標を提出し、より一層の授業改善に励むしくみとなっている。また、年度途中においても、年2回行われる教員学生連絡会において学生から教科担当教員に関する要望が出され、教務主事より授業改善が促される。年度途中で授業改善が促された例をあげる(資料3-2-②-2)。
- ・ 良い教師像のいくつかの例に基づいて、3年生以上の学生を対象に年度ごとにベストティーチャーの投票が行われ、学科ごとに上位者は公表されている(資料3-2-②-3)。

(分析結果とその根拠理由)

自己評価、相互評価が適切に行われている。学生による授業評価、ベストティーチャーの投票がなされ授業改善に結びついている。

以上より、教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、評価が行われている。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされている。

資料3-2-②-1 授業評価アンケート結果例

(2006年度前期末実施分)

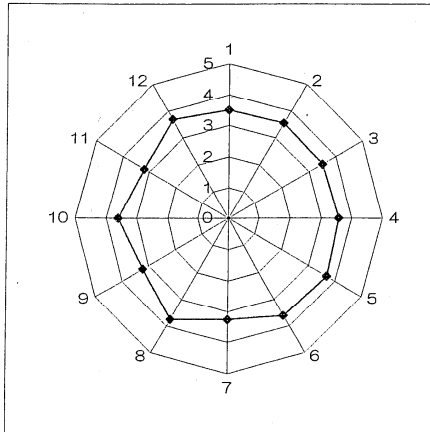
授業評価アンケート結果【 クラス別 】

クラス：
科目名：
教員コード：

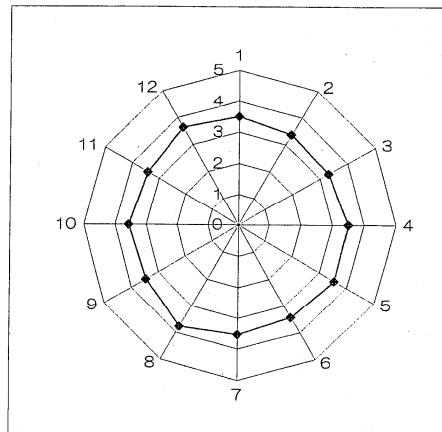
※1
当該コード番号のアンケート結果に対する度数分布表【100分率】

設 問	(配点)						平均	全体平均
	5	4	3	2	1	0		
1: 授業は分かりやすかった。	18	29	43	7	4	0	3.5	3.5
2: 授業のレベルは、あなたにとって適切であった。	14	36	43	4	4	0	3.5	3.4
3: シラバスに指定された教科書、参考書は授業にとって適切であった。	18	36	32	7	7	0	3.5	3.3
4: 授業中の黒板やプロジェクターの文字は見やすかった。	14	43	32	7	4	0	3.6	3.5
5: 試験の内容、レベルは授業に照らし適切であった。	21	39	29	7	4	0	3.7	3.6
6: シラバスどおりに授業が行われた。	21	32	36	7	4	0	3.6	3.4
7: 授業は学生が質問しやすい雰囲気が進められた。	11	32	36	14	7	0	3.3	3.5
8: 質問には熱心に答えてくれた。	25	36	32	4	4	0	3.8	3.8
9: 学生に理解度を確認しながら、授業が進められた。	11	25	46	11	7	0	3.2	3.4
10: レポートや課題は適切であった。	21	32	36	7	4	0	3.6	3.6
11: 授業はあなたにとって興味を引くものであった。	11	32	32	14	11	0	3.2	3.4
12: 授業は総合的に見て高く評価できる。	14	54	21	7	4	0	3.7	3.6
(平均)	16.7	35.4	34.8	8.0	5.1	0.0	3.5	3.5

※2
上表のアンケート結果について
各設問に対する重み付き平均値



※2
全JABEE対応科目について
全データの平均値 (全校単位)



注: 「無回答」はこのグラフには含まれません

※1 「コード番号」とは、(科目コード&教員コード)を含んだものです。
これは複数教員が同一科目を教えているケースであっても、このアンケートに答えたクラスを識別するために使われます。

※2 ここで言う「平均値」とは、各設問の回答について次のような重みをつけて平均操作を行ったものです。
そう思う=5、どちらかといえばそう思う=4、普通だと思う(どちらともいえない)=3
どちらかといえばそう思わない=2、そう思わない=1

例: 設問1の分布がそれぞれ20%、10%、30%、30%、10%であった場合、
平均 = 5x0.2 + 4x0.1 + 3x0.3 + 2x0.3 + 1x0.1 = 3.0 と計算されます。

(出典: 学生課資料より)

資料3-2-②-2 授業改善促進のなされた科目の例

	前期末(授業改善促進前)	後期中間(授業改善促進後)
クラス平均点	63	67

(出典：平成18年度成績表より)

資料3-2-②-3 ベストティーチャー投票結果(各学科上位3名)

学科等名	平成18年度ベストティーチャー		
一般教科(人文)	竹島尚仁	東城敏毅	八鳥吉明
一般教科(自然)	宇治野秀晃	碓氷久	斎藤齊
機械工学科	黒瀬雅詞	櫻井文仁	下田祐紀夫
電子メテ`ィア工学科	青木利澄	小幡常啓	鈴木靖
電子情報工学科	牛田啓太	大豆生田利章	櫻井治男
物質工学科	太田道也	中島敏	藤野正家
環境都市工学科	阿部博	古川茂	宮里直樹

(氏名は50音順)

(出典：人事係資料より)

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

教育支援に関わる事務職員は，学生課に課長補佐1名，教務係4名（他に一般教科担当事務補佐員1名及び専攻科担当事務補佐員1名），学生支援係4名，学生生活係1名（他に寮母3名），学術情報係2名（他に事務補佐員1名）を配置している。（資料3-3-①-1）

教務係では，教育課程，授業，成績管理及び学生異動など，学生支援係では，課外活動，福利厚生及び学生相談など，学生生活係では，学生寮の運営管理及び寮生の生活指導など，学術情報係では，学術情報の提供などの教育支援を行っている。（資料3-3-①-2）

技術職員は，教育研究支援センターに副センター長1名，第1技術グループ8名，第2技術グループ7名を配置している。（資料3-3-①-3）

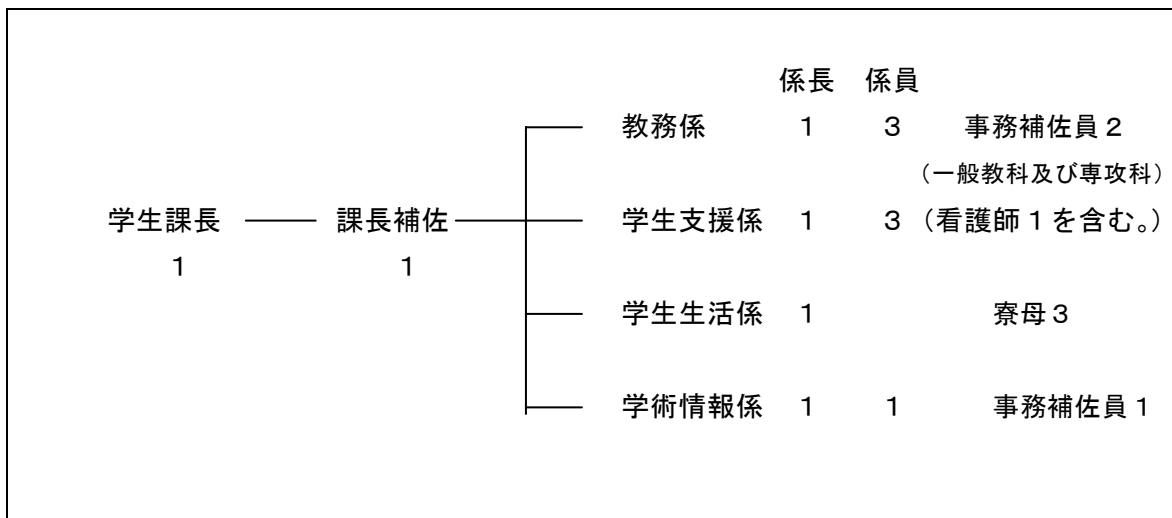
教育研究支援センターでは，各学科の要請に応じ，学生の実験，実習の技術支援及び技術指導並びに教育教材作成の技術支援などの教育支援を行っている。（資料3-3-①-4）（資料3-3-①-5）また，情報処理教育センターにも派遣し，情報処理教育の支援を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の事務部は，総務課及び学生課の2課で構成されているが，教育課程を展開するために必要な事務職員については，学生課に配置されている。学生課は4係で構成されており，それぞれ支援内容に応じて適切に配置されている。また，技術職員については，教育研究支援センターに集中配置され，各学科又は施設等における教育支援に関わる要望に応じ，適切に対応できるよう配置されている。

以上のことから，事務職員及び技術職員の教育支援者が適切に配置されている。

資料3-3-①-1 学生課組織図



(出典：学生課資料より)

資料3-3-①-2

群馬工業高等専門学校事務組織規則(抄)

(課長補佐)

第8条 略

3 学生課課長補佐は、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生関係事務の総括及び連絡調整に関する事。
- (2) 学生課の公印の管守に関する事。
- (3) 日本技術者教育認定機構の技術者教育プログラムに関する事(総務課の所掌を除く。)
- (4) 国際連携室に関する事(総務課の所掌を除く。)
- (5) 学生課の諸規則に関する事。
- (6) その他、学生関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関する事。

(学生課)

第10条 教務係は、次の事務をつかさどる。

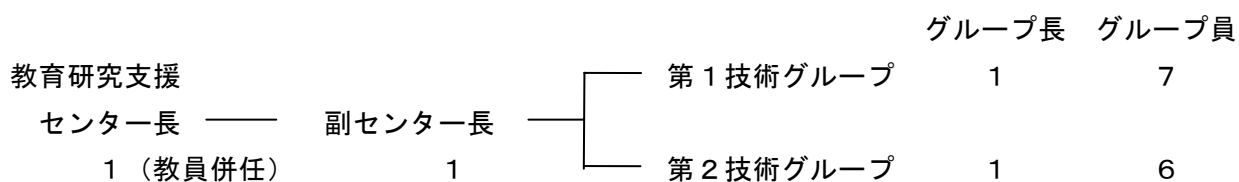
- (1) 入学者の選抜に関する事。
- (2) 入学、転学、休学及び退学に関する事。
- (3) 学生の修学指導に関する事。
- (4) 教育課程の編成、授業及び休業に関する事。
- (5) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。

- (6) 学生の学籍に関すること。
 - (7) 学籍に関する各種証明書発行に関すること。
 - (8) 文化講演会，修学旅行等の学校行事に関すること。
 - (9) 外国人留学生の受入れに関すること。
 - (10) 学生の進路指導に関すること（他の係の所掌を除く。）。
 - (11) 教室使用に関すること。
 - (12) その他，学生課他係の所掌に属しない事務に関すること。
- 2 学生支援係は，次の事務をつかさどる。
- (1) 学生の厚生事業に関すること。
 - (2) 学生の課外教育に関すること。
 - (3) 学生に対する奨学金，授業料免除・猶予及び経済支援に関すること。
 - (4) 学生の賞罰に関すること。
 - (5) 学生の身上調査に関すること。
 - (6) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
 - (7) 学生相談室の事務に関すること。
 - (8) 学生の保健衛生に関すること。
 - (9) 日本スポーツ振興センターに関すること。
 - (10) 学生の厚生施設の管理運営に関すること（他の係の所掌を除く。）。
 - (11) 学生の旅客運賃割引証及び通学に関すること。
 - (12) その他，学生支援に関する事務を処理すること。
- 3 学生生活係は，次の事務をつかさどる。
- (1) 学生寮の管理運営に関すること。
 - (2) 学生の入退寮に関すること。
 - (3) 寮生の給食に関すること。
 - (4) 寮生の保健衛生に関すること。
 - (5) 寮務に関する事務を処理すること。
 - (6) 外国人留学生の生活相談に関すること。
 - (7) 外国人留学生に関し，連絡調整すること。
 - (8) 学生食堂の管理運営に関すること。
 - (9) 学生に対する就職あっせんに関すること。
 - (10) 学生のアルバイトに関すること。
 - (11) その他，学生生活に関する事務を処理すること。
- 4 学術情報係は，次の事務をつかさどる。
- (1) 学術情報の主たる媒体である図書館資料（図書，逐次刊行物，視聴覚資料及び電子的資料）の契約，受入れ，整理及び保存管理等に関すること。
 - (2) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関すること。
 - (3) 図書館における参考調査，検索指導及び読書相談等に関すること。
 - (4) 図書の目録データベースの作成に関すること。
 - (5) 校内で作成された学術情報の収集，蓄積及び公開に関すること。

- (6) 学術情報の共同利用及び他機関との相互協力に関すること。
- (7) 図書館の管理運営に関すること。
- (8) 図書館の調査統計に関すること。
- (9) その他、学術情報に関する事務を処理すること。

(出典：群馬工業高等専門学校規則集より)

資料 3-3-①-3 教育研究支援センター組織図



(出典：総務課資料より)

資料3-3-①-4

教育研究支援センター規則

群馬工業高等専門学校教育研究支援センター規則

平成19年1月16日 制定

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、群馬工業高等専門学校(以下「本校」という。)学則第11条の規定に基づき、本校の技術支援組織及び所掌事項について定め、教育研究活動を支援する技術職員の業務を円滑かつ効率的に実施するとともに、技術職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とする。

第2章 技術支援組織

(教育研究支援センター及び技術グループ)

第2条 本校に教育研究支援センター(以下「センター」という。)を置き、センターに第1技術グループ及び第2技術グループを置く。

- 2 センターに技術専門員、技術専門職員又は技術職員を置く。
- 3 技術専門員及び技術専門職員については、別に定める。

(センター長)

第3条 センターにセンター長を置き、教授をもって充てる。

- 2 センター長の任期は2年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。
- 3 センター長は、校長の命を受け、技術支援業務に関する学内調整を行うとともに、センターの運営業務を掌理する。

(副センター長)

第4条 センターに副センター長を置く。

- 2 副センター長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
- 3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの運営業務を処理する。

(技術グループ長)

第5条 センターに技術グループ長を置く。

- 2 技術グループ長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
- 3 技術グループ長は、上司の命を受け、技術グループの管理業務及び技術研修業務を処理する。

第3章 所掌業務

(業務)

第6条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育研究支援計画の作成に関すること。
- (2) 学生の実験・実習等の技術支援及び技術指導に関すること。
- (3) 教育教材作成の技術支援に関すること。
- (4) 教員の研究活動に伴う技術支援に関すること。

- (5) 技術の研究，改善，継承及び保存に関すること。
- (6) 民間等との共同研究等に伴う技術支援に関すること。
- (7) 実験室・実習室等の整備，備品等の維持管理に関すること。
- (8) その他の教育研究活動等に関する技術支援に関すること。

(技術グループ)

第7条 技術グループの所掌する技術分野は，次のとおりとする。

- (1) 第1技術グループ 物理，機械工学及び電気・電子工学
- (2) 第2技術グループ 情報工学，化学・物質工学，生物・生物工学，
環境工学・都市工学及びその他の技術分野

第4章 技術支援業務連絡会

(連絡会)

第8条 技術支援業務の円滑かつ効率的な実施に資するため，技術支援業務連絡会(以下「連絡会」という。)を置く。

2 連絡会の議長は，センター長とする。

(構成)

第9条 連絡会は，次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) センター長 (2) 副センター長 (3) 技術グループ長
- (4) 一般教科長(自然科学)，専門学科長及び副専攻科長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同技術開発センター長
- (6) 学生課長 (7) その他センター長が必要と認める者

(庶務)

第10条 連絡会の事務は，センターにおいて処理する。

第5章 技術研修

(技術研修)

第11条 センター長は，技術専門員，技術専門職員及び技術職員に，その職務遂行に必要な知識及び技術等を習得させ，能力及び資質等を向上させる内容の研修に務めなければならない。

第6章 雑則

第12条 この規則の実施に関して必要な事項は，別に定める。

附則

- 1 この規則は，平成19年2月1日から施行する。
- 2 群馬工業高等専門学校技術職員の組織に関する規則(平成12年3月7日 規則第3号)は，廃止する。
- 3 本規則制定後最初に任命されるセンター長の任期は，第3条第2項の規定にかかわらず平成21年3月31日までとする。

(出典：群馬工業高等専門学校規則集より)

資料3-3-①-5 教育研究支援センターの各学科等への支援状況

平成19年度 授業支援計画(前期)							平成19年5月31日現在	
学科・学年	授業科目名 担当教員名	期別	時間割(暫定)	支援時間割 (シラバスの回数など)	支援人数	支援場所	支援担当者	
			曜日	時限				
全クラス1年	総合物作り体験、 (光技術)／五十嵐・辻・平	前期	月	7・8	300分×14回 前処理:60分、実験中:90分、 実験後:150分	1	物理実験室	金井
1年	化学I	前期	月	3・4	各クラス3回(準備4時間+実施1.5時間+片付け4時間)×3回×5クラス	1	K科棟I、2階 学生実験室	山道
共通M科1年	辻(代表) 工作実習 下田祐紀夫	通年	金	5～7	総支援時間180時間	5	機械工場	齋藤・須永・ 壽・岡本・平井
全クラス1年	総合物作り体験 櫻井文仁	前期	月	7・8	14回 (総支援時間は、システムのメンテナンスも含め、100時間以上)	1	M科設計実習室 M科器材室	関田
全クラス1年	総合物作り体験 下田祐紀夫	前期	月	7・8	14回 (総支援時間は、システムのメンテナンスも含め、101時間以上)	6	機械工場	齋藤・関口・須永・ 壽・岡本・平井
M科2年	工作実習 岡田敬夫	通年	火	5～8	総支援時間240時間	5	実習工場	齋藤・須永・ 壽・岡本・平井
M科3年	設計製図 榎本 弘	通年	水	1・2	45回(前期週1回、後期週2回) H18までと担当者が変更になる場合は課題に対する事前の準備として8時間程度	1	情報処理教育センター	関口
M科3年	工作実習 小川侑一	通年	水	3・4	総支援時間120時間	5	実習工場	齋藤・須永・ 壽・岡本・平井
M科4年	工学実験	通年	木	5～8	30回	5	機械工学科各実験室	関田・関口
M科5年	卒業研究 高橋	通年	水	な ど 7・8	・卒業研究の時間 ・卒業研究前後の時間 ・夏休み、春休み等の休業期間中(装置の試作、調整等)	1	熱工学研究室	関口
M科5年	卒業研究 石澤	通年	水	な ど 7・8	・卒業研究の時間 ・卒業研究前後の時間 ・夏休み、春休み等の休業期間中(装置の試作、調整等)	1	エネルギー系実験室 燃焼研究室	関田
M科5年	卒業研究 M科教員	通年	水	な ど 7・8	・卒業研究の時間 ・卒業研究前後の時間 ・夏休み、春休み等の休業期間中(実験装置の加工依頼、工作機械使用学生の指導と安全確保)	5	実習工場	齋藤・須永・ 壽・岡本・平井

専攻 科2 年	特別研究 高橋	通 年	火・ 金等	7～ 9	・特別研究の時間 ・特別研究前後の時間(特に特別研究の時間の後は引き続いて研究が行われる) ・夏休み、春休み等の休業期間中 (装置の試作、調整等)	1	熱工学研究室	関口
専攻 科 年	特別研究 石澤	通 年	火・ 金等	7～ 9	・特別研究の時間 ・特別研究前後の時間(特に特別研究の時間の後は引き続いて研究が行われる) ・夏休み、春休み等の休業期間中 (装置の試作、調整等)	5	エネルギー系実験室	関田
専攻 科 年	特別研究、M科 特別研究担当教員	通 年	火・ 金等	7～ 9	・特別研究の時間 ・特別研究前後の時間 ・夏休み、春休み等の休業期間中(実験装置の加工依頼、工作機械使用学生の指導と安全確保)	5	実習工場	齋藤・須永・ 壽・岡本・平井
全ク ラス1 年	総合物作り体験 谷中勝	前 期	月	7・8	14回、準備2時間、後片づけ1時間	2	電子メディア工房1	加藤・小城
E科2 年	工学実験 E科教員	通 年	火	5～ 8	30回、準備2時間、後片づけ1時間	2	電子メディア工房1	加藤・小城
E科3 年	工学実験 E科教員	通 年	木	5～ 8	30回、準備2時間、後片づけ1時間	2	電気機械実験室、ネットワーク実験セナー室、電子メディア工房1他	加藤・小城
E科4 年	工学実験 E科教員	通 年	金	5～ 8	30回、準備2時間、後片づけ1時間	2	電気機械実験室、ネットワーク実験セナー室、電子メディア工房1他	加藤・小城
E科5 年	デザイン実験 E科教員	通 年	月	5～ 8	30回、準備2時間、後片づけ1時間	2	電気機械実験室、ネットワーク実験セナー室、電子メディア工房1他	加藤・小城
E科5 年 専攻 科1・ 2年	卒業研究 特別研究	通 年	水	2～ 8 (9:35 ～ 17:1 5)	30回、後片づけ1時間	2	電気機械実験室、ネットワーク実験セナー室、電子メディア工房1、各教員研究室	加藤・小城

(出典：教育研究支援センター資料より抜粋)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

工学共通基礎科目である、数学、物理等については、一般教科と専門学科の全校的な連携がなされ、全学生が一定基準以上の基礎学力を修得するための体系ができています。また、この2科目の基礎学力の修得は進級要件とされている。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準3の自己評価の概要

一般教科、専門学科ともに各教員の専門科目と担当科目が一致しており、教員配置は適切になされている。工学基礎科目の重要性に対応した教員配置となっている。各専門学科の教育目標にあわせた適切な経験有する教員が適切に配置されている。

専攻科の教科担当は大学評価・学位授与機構の審査基準を満たす教員に限定されている。専攻科の教育課程は平成16年度に工学関連分野（融合・複合領域、新領域）においてJABEEにより認定されている。専攻科の担当教員は専任教員に限定されている。

教員の選考は、教員選考規則に従い公募により行われている。校長、主事を中心とした選考委員により書類選考に合格した複数の候補者に対する面接により選考が行われる。年齢、専門分野、教育能力、企業等における経験等が考慮される。教員の昇任は、教員昇任規則に従い、個人調査書、面接等に基づいて行われている。教授への昇任は博士号取得者を原則としている。

教育活動の活性化のため教員の在外研究制度の利用が認められている。また、学位未取得者は学位の取得を奨励され、国内研究制度の利用も認められている。教員の自己評価、相互評価の制度により、一層の教育活動の活性化がはかられている。また、授業評価、ベストティーチャーの制度等により授業改善がはかられている。これらの評価に基づいた教員表彰制度が制定されている。

学生課事務職員、図書係りが適切に配置され、授業、成績等の管理、様々な情報提供等を通して、教育支援にあたっている。技術職員による技術支援体制は学科等に従属する体制を発展改組し、全学的な支援が行えるようセンター化がなされている。総合ものづくり体験学習、工学実験等を中心とした教育支援を行っている。

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到に係る状況）

(1) アドミッション・ポリシーの明文化（資料 4-1-①-1, 2）

本校では、準学士課程入学生、編入学生、専攻科入学生を対象に入学者に求める能力、適性等についての考え方や入学者選抜の基本方針を明確に定めるとともに、各募集要項、本校ホームページ（入試情報）、学校要覧等にて公表している。

文章表現は簡略化された抽象的表現とならないように、本校の教育目的に沿った求める入学者像を具体的に複数項目で表しており、社会に対して分かりやすいように配慮した表現であると考えている。

(2) アドミッション・ポリシーの学内教職員への周知（資料 4-1-①-3, 4）

本校教職員ならびに非常勤講師には「群馬高専の教育理念、学習・教育目標等の資料」、学校要覧を配布するとともに、新年度当初の募集要項作成時期に募集要項等を回覧点検している。また、教員会議や各学科会議、で随時周知を図っている。

さらに教職員にアンケートを実施して、その周知の割合をみている。

(3) 将来の学生を含めた社会への公表（資料 4-1-①-5, 6, 7）

アドミッション・ポリシーは準学士課程入学者募集要項、編入学生募集要項、専攻科入学者募集要項、準学士課程入学者用学校案内、専攻科案内パンフレット、学校要覧、本校ホームページ上でも入試情報として記載している。

(i) 準学士課程入学に関する公表（資料 4-1-①-5, 6, 7）：

各中学校への入試 PR 訪問、体験入学、入試説明会、オープンスクールの際に配布したり、学習塾などに郵送している。また、入試説明会を本校を含めて 11 箇所で行っており、ここでは単なる資料配布とせずに必ず口頭説明にも入れて周知を心がけている。

(ii) 編入学に関する公表（資料 4-1-①-7）：

毎年受験生の数が少ないために群馬県内の工業高校、普通高校等に募集要項を郵送するに留まり、編入学試験合格発表後に行うオリエンテーションで該当学生にアドミッション・ポリシーを口頭で説明する程度である。

(iii) 専攻科入学に関する公表（資料 4-1-①-5, 6, 7）：

準学士課程入学に関する公表の際と一緒に説明を行っている。また、準学士課程 4 年生を対象に例年 11 月頃に進路説明を行い、その際に専攻科入学に関する説明会を実施している。さらに保護者後援会との連携によって、9 月ごろに 4 年生保護者を対象に進路説明会を開催し、その際に専攻科入学に関する説明会を実施している。

資料の配布数や各説明会等への参加者数、本校ホームページ入試情報へのアクセス回数の変遷などから、社会への公表がなされていると考えられる。

(分析結果とその根拠理由)

- ・各募集要項，本校ホームページ等にアドミッション・ポリシーが明文化されている。
- ・教職員には，募集要項の配布や教員会議，各学科科会議，学内教職員向けウェブサイトで随時説明がなされて周知されている。
- ・中学校ならびに中学生と保護者，中学校担任教諭，学習塾などを中心に冊子が配布されており，ウェブサイトでも公表されている。その普及については，資料の配布数，ウェブサイトへのアクセス回数などで定期的に確認している。

以上のことから，適切な対応がなされている。

資料4-1-①-1 入試情報 アドミッション・ポリシー

本科（準学士課程1年生入学及び4年生編入学）で期待される入学者像

本校では次のような人の入学を歓迎します。

本科で期待される入学者像

- (1) 科学技術者になりたいという志を持っている人
- (2) 人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人
- (3) 国際的な場で活躍したいという希望をもっている人
- (4) 工業技術に興味があり，自ら進んで学習する意欲のある人
- (5) 数学や理科などの自然科学系科目が得意で興味のある人

専攻科で期待される入学者像

本専攻科では，本校教育理念とその目指す技術者の下で，

- (1) 自分の得意とした工学分野を認識している人
- (2) より高い可能性に挑戦しようとし幅広い工学基礎に興味のある人
- (3) 地球環境を考慮した人間社会の繁栄に貢献する意欲のある人

等，将来，より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を身につけたい人を求めています。

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/nyushi/policy.html>

資料 4 - 1 - ① - 2 2006 年群馬高専 Q&A

Q4 高専にはどのような人が向いていますか。

A4 高専では低学年から数学や理科の授業が多く、これらの知識をもとにして専門科目の授業が進められます。

このため、数学や理科が好きな人が向いているでしょう。これらの科目が得意ならば、さらによいと思います。実験や物づくりの好きな人もよいと思います。このほか、国際化社会の技術者として活躍するために、英語が大切となりますので、英語も好きな人がよいでしょう。

高専では、一般の高校ほど規則は厳しくありませんが、自己管理のための努力が要求されます。

そして、何より、日本を支える科学技術者となって世界で活躍したいという希望に燃えていることが大切です。

群馬高専では、次のような人の入学を歓迎します。

期待される入学者像

- (1) 科学技術者になりたいという志を持っている人
- (2) 人類の繁栄と地球環境を守るための科学技術に関心のある人
- (3) 国際的な場で活躍したいという希望を持っている人
- (4) 工業技術に興味があり、自ら進んで学習する意欲のある人
- (5) 数学や理科などの自然科学系科目が得意で興味のある人

(出典：「2006年群馬高専 Q&A-高専を志望する中学生の皆さんへ-」
及び本校ウェブサイト <http://www.gunma-ct.ac.jp>)

資料4-1-①-3 教職員への群馬高専の教育目的及び教育目標等に関するアンケート

①群馬高専の教育目的及び教育目標等について

1)群馬高専の教育理念と学習・教育目標を理解していますか。

回答対象者	回答率 (%)	1. 理解している (%)	2. ある程度理解している (%)	3. していない (%)
教員	83	50	47	3
非常勤講師	79	17	83	0
事務職員・技術職員	82	30	60	10
本科学生	91	7	51	38
専攻科学生	86	14	73	14
合計	89	11	53	36

資料4-1-①-4 教職員への群馬高専のアドミッション・ポリシーに関するアンケート

2)群馬高専の準学士課程・専攻科入学希望者への入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を理解していますか。

回答対象者	回答率 (%)	1. 理解している (%)	2. ある程度理解している (%)	3. していない (%)
教員	83	47	47	6
非常勤講師	79	22	43	26
事務職員・技術職員	82	28	40	30
合計	82	37	44	17

(出典：群馬高専グループウェア)

資料 4-1-①-5 各種説明会等

平成 19 年度 群馬工業高等専門学校「体験入学」及び「入試説明会」について

■ 体験入学〔学校見学会〕（生徒、保護者、教諭対象）日程

学校見学会名称	期日	会場	備考
第 1 回体験入学	9 月 2 日（土）（午前の部と午後の部があります）	本校	校内を自由に見学できます。本校教職員等が研究室を紹介します。
第 2 回体験入学	11 月 12 日（日）	本校	小規模に実施します。第 1 回目の時に都合のつかなかった方や再度見学したい方が対象です。
オープンスクール	12 月 14 日, 15 日, 18 日, 19 日	本校	実験・実習を中心に日常の授業風景を見学できます。

■ 入試説明会（教諭及び保護者対象）日程

会場名	期 日	会 場	対 象 中 学 校
本 校	9 月 6 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分	本校大講義室	全地域
桐 生	9 月 7 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分	桐生市商工会議所会館 405 号室	桐生市 大間々町ほか 東毛地区 足利市 上都賀郡
館 林	9 月 13 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分	館林市文化会館 1 号室	館林市（板倉町 明和町 千代田町ほか）、東毛地区 佐野市 安蘇郡 周辺 加須市 羽生市周辺
太 田	9 月 14 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分	太田市学習文化センター会議室	太田市 新田町 尾島町 邑楽町 大泉町ほか 東毛地区
沼 田	9 月 19 日（火） 14 時 00 分～16 時 00 分	利根沼田文化会館 第 1 会議室	沼田市 利根郡ほか 北毛 地区
深 谷	9 月 22 日（金） 14 時 00 分～16 時 00 分	深谷市産業会館 301 号室	深谷市 本庄市 上里町 児玉町 岡部町周辺
吾 妻	9 月 26 日（火） 14 時 00 分～16 時 00 分	ツインプラザ大会議室	吾妻郡ほか 北毛地区
熊 谷	9 月 28 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分	熊谷文化創造館さくらめいと会議室 4	熊谷市 行田市 吹上町 江南町 妻沼町 南河原村周辺
富 岡	10 月 4 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分	富岡市生涯学習センター第 3 会議室	富岡市 藤岡市 安中市 甘楽郡多 野郡ほか 西毛地区
寄 居	10 月 5 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分	寄居町中央公民館 研修室	寄居町周辺
本 校	11 月 12 日（日） 12 時 00 分～12 時 30 分	本校大講義室	全地域

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/nyushi/taiken.html>

資料4-1-①-6 各種説明会等実施状況

オープンスクール実施状況

年度	参加者数
15	275 名
16	303 名
17	230 名

※オープンスクールは、中学3年生（中学校・塾の先生並びに保護者を含む。）を対象に本校の実際の授業や施設等の見学をしていただくものです。

平成17年度群馬高専体験入学参加者数

	生徒（名）	保護者・教諭（名）	計
第1回	541	292	1120
第2回	110	77	

平成18年度群馬高専体験入学参加者数

	生徒（名）	保護者・教諭（名）	計
第1回	531	271	1043
第2回	140	101	

平成18年度中学校入試PR

訪問教員数	66人
訪問中学校数	276校

（出典：本校ウェブサイト）

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/nyushi/openschool.htm>

資料4-1-①-7 公表状況を示すデータ

「各種冊子の配布数」

- | | |
|---|----------|
| 1. 準学士課程入学者募集要項 | 3,700 部 |
| 配布先：中学校PR訪問，体験入学，入試説明会，オープンスクール等で県内・
県外の中学校の先生，塾，保護者等へ配布 | |
| 2. 専攻科入学者募集要項 | 290 部 |
| 配布先：全国の高専等 | |
| 3. 編入学生募集要項 | 360 部 |
| 配布先：県内，県外高校等 | |
| 4. 学校案内 | 13,000 部 |
| 配布先：入試説明会，体験入学，公開講座，新入生，教職員，他高専，
群嶺テクノ懇話会，産学交流関係，その他PR用 | |
| 5. 学校要覧 | 800 部 |
| 配布先：入試広報，就職PR，産学交流関係，教職員，他高専，その他 | |
| 6. 専攻科案内パンフレット | 1,500 部 |
| 配布先：4年・5年在学生へ進学指導用，体験入学，
入試説明会，オープンスクール等で先生，塾，保護者等 | |
| 7. 群馬高専ホームページの該当箇所とアクセス回数 | |
| (1) 入試情報 (http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/nyushi/) | |
| 平成18年4月～平成18年12月（月別件数） | |
| 4月 5,806件，5月 5,908件，6月 8,188件，7月 9,747件，8月 10,424件，
9月 12,058件，10月 9,839件，11月 9,476件，12月 10,346件 | |
| (2) 入学者募集要項 (http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/nyushi/H19Honka_Boshyu.pdf) | |
| 平成18年4月～平成18年12月 | |
| 4月 0件，5月 0件，6月 0件，7月 0件，8月 0件，9月 6件，10月 865件，
11月 846件，12月 940件 | |
| (3) 本科・入学志願者及び入学者数
(http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/nyushi/H18Kekka_ho.html) | |
| 平成18年4月～平成18年12月 | |
| 4月 0件，5月 0件，6月 0件，7月 0件，8月 0件，9月 1件，10月 188件，
11月 215件，12月 248件 | |
| (4) 編入学試験 (http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/nyushi/H19hennyushi.pdf) | |
| 平成18年7,8月 | |
| 7月 72件，8月 442件 | |
| (5) 専攻科学生募集要項 (http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/nyushi/H19.pdf) | |
| 平成18年5,6月 | |
| 5月 132件，6月 205件 | |

(出典：教務係，総務・評価係，情報処理教育センター)

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校のアドミッション・ポリシーは、資料 4-1-①-1 にあるように 5 項目に志と意欲・興味のある人物の入学を歓迎するもので、推薦と学力選抜試験、面接内容、配点・出題方針はそれに基づいて行われている。

（1）準学士課程入学者選抜試験（資料 4-2-①-1）

（a）推薦選抜

- ・推薦選抜は、募集要項記載の出願資格を満たし中学校長から推薦のあった者を対象に実施している。
- ・選抜試験では、調査書の評価点と面接の評価点を加えた総合得点の高い順に一学科あたり 15 名の合格者を入学合格者選抜会議において決定する。面接評価点は 5 名の面接官による 5 段階評価の採点合計である。
- ・面接内容はアドミッション・ポリシーを基本として適性面接を行っている。

（b）学力選抜

- ・学力選抜は、調査書の評価点と学力検査の得点を加えた総合得点の高い順に合格者を入学合格者選抜会議において決定する。
- ・調査書の評価点は 3 学年の 9 教科（教科目によって加重係数を乗じた値）の評価点の合計とし、5 科目の学力検査の得点（検査科目によって加重係数を乗じた値）の合計とする。加重係数は数学 1.5、理科 1.5、英語 1.3、国語 1、社会 1 として傾斜配点をとっている。このことは、中学校への入試 PR 訪問、入試説明会、体験入学等で説明することで中学校進路担当教員、中学生ならびにその保護者に周知している。

（2）編入学選抜試験（資料 4-2-①-2-1、2-2）

- ・学力試験の得点と面接試験、調査書を基に編入学許可者選考会議において選考する。
- ・学力試験は本校のアドミッション・ポリシーに基づいて各専門学科において指定された試験科目から出題する。

（3）専攻科入学選抜（資料 4-2-①-3）

専攻科入学者選考におけるアドミッション・ポリシーは、資料 4-1-①-1 にあるように 3 項目に認識と興味・意欲のある人物の入学を歓迎するもので、推薦選抜（前期：入学定員の 50% 程度）、推薦選抜（後期：入学定員の 10% 程度）、学力選抜（入学定員の 40% 程度）によって実施されている。

（a）推薦選抜

- ・前期推薦選抜では出願年度に高専を卒業見込みの学生対象の学校長推薦と社会人特別推薦を行い、後期推薦選抜では出願年度に高専を卒業見込みで 2 年次から 4 年次までのクラス内席次の平均が上位 4 位以内である学生対象の学校長推薦を実施している。
- ・前期推薦選抜の面接試験はアドミッション・ポリシーに基づいて専攻ごとに 3 人の試験員により実施され、推薦書、調査書及び面接試験の結果を基に専攻科入学合格者選考会議において選考し、校長が決定する。
- ・後期推薦選抜は英語と数学の学力試験、ならびに専攻ごとに 3 人の試験員による面接試験に基づいて、推薦書、調査書、学力試験及び面接試験の結果を基に専攻科入学合格者選考会議にお

いて選考し、校長が決定する。平成19年度からは学力試験を取りやめ推薦書、調査書、面接試験の結果を基に専攻科入学合格者選考会議において選考し、校長が決定することとなった。

(b) 学力選抜（資料4-2-①-3）

- ・学力選抜では、一般科目（英語）、専門基礎Ⅰ（数学）及び専門基礎Ⅱの筆記試験を行い、推薦書、調査書、学力試験及び面接試験の結果を基に専攻科入学合格者選考会議において選考し、校長が決定する。
- ・専門基礎Ⅱの出題科目は、生産システム工学専攻では「力学」と「電磁気学」の2分野より各2題計4題主題してその中から3題を選択させる。環境工学専攻は「化学」、「構造力学」のそれぞれ2分野から各3題計6題を出題してその中から3題を選択させる。

（分析結果とその根拠理由）

- ・準学士課程入学者選抜ではアドミッション・ポリシーに基づいた推薦選抜ならびに学力選抜が実施されている。入学者選考では、調査書及び学力試験の採点に傾斜配点を設けるなどによって本校の教育目的に沿った入学者の選考を行っている。
- ・編入学者選抜試験はアドミッション・ポリシーに基づいて各専門学科において指定された学力試験と面接、調査書に基づいて実施されている。4学年ではすでに専門教科の割合が増加していることを考慮の上で学力試験の概ね60%以上の得点者について選考を行うことで本校の教育目的に沿った入学者の選考を行っている。
- ・専攻科入学選抜は、アドミッション・ポリシーに基づいた推薦選抜（前期）、推薦選抜（後期）、学力選抜の3回にわたって実施されている。
- ・平成15年度から18年度にわたって実施された入学者選抜の結果によると（資料4-2-②-1、資料4-2-②-2、資料4-2-②-3）少子化の傾向にありながら準学士課程入学選抜では定員数に対してほぼ横ばいの2.0倍で受験希望者数を確保している。

以上のことから、アドミッション・ポリシーに基づいて学生の受入方法が採用されており、選抜選考も適切に実施されている。

資料4—2—①—1 (出典 平成19年度入試説明会「平成19年度入学者募集要項 入学案内」から抜粋)

推薦選抜の出願資格

推薦選抜に出願できる者は、次の各号のすべてに該当する者で、在籍中学校又は在籍中等教育学校の校長の推薦を受けた者です。

なお、推薦人数は制限しません。

- (1)平成19年3月に中学校卒業見込みの者又は中等教育学校の前期課程修了見込みの者
- (2)人物が優れていて、志望学科に対して適性及び関心を有し、本校への入学意志が強固な者
(合格した場合には必ず入学するものとし、不合格となった場合には、学力検査を受験する意志のある者)
- (3)中学校等第2学年と第3学年の9教科の評定値の合計が、5段階評価で**77以上**であること。

出願書類作成上の留意事項等

注1) 志望学科の選定

5学科から第1志望及び第2志望を選定してください。

一般選抜では、選抜の結果によっては第2志望の学科に合格することがあります。推薦選抜において不合格となった場合、一般選抜を受験することとなりますので、推薦選抜の出願時においても第2志望まで記入してください。

(出典：教務係資料)

資料4—2—①—2—1 編入学者選抜要領

群馬工業高等専門学校編入学者選抜要領

平成17年6月14日

制 定

群馬工業高等専門学校学則第18条の2に基づき、編入学許可要領を次のとおり定める。

1. 編入学を許可する学科、学年次及び許可人員

学 科	編入学年次	許可人員
機 械 工 学 科	第4学年	各学科 若干名
電子メディア工学科		
電子情報工学科		
物 質 工 学 科		
環 境 都 市 工 学 科		

2. 出願資格

- (1) 工業高等学校または高等学校を卒業した者及び出願年度に卒業見込みの者
 (2) 編入学試験を受験することができる出身校の所属科は、次のとおりとする。

学 科	出身校における所属科
機 械 工 学 科	機械に関する科
電子メディア工学科	出身学校の科に関係なく志望することができる。
電子情報工学科	情報または電子に関する科
物 質 工 学 科	出身学校の科に関係なく志望することができる。
環 境 都 市 工 学 科	土木系に関する科

3. 試験方法

(1) 学力試験

- ① 学力試験は筆記試験とし、出題する科目は次のとおりとする。

学 科	試 験 科 目
機 械 工 学 科	機械設計、数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B）
電子メディア工学科	次の（ア）及び（イ）のうちから、どちらかを選択する。 (ア) 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学B・物理Ⅰ・物理Ⅱ (イ) 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学B・電気基礎 注意 上記の数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Bは（ア）及び（イ）で同一です。

(出典：編入学者選抜要領)

次ページに続く

資料4—2—①—2—2 編入学者選抜要領

電子情報工学科	電気基礎, 情報技術基礎, プログラミング技術 数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B), 英語(英語Ⅰ・英語Ⅱ)
物質工学科	工業化学 または 化学Ⅰ・化学Ⅱ 一部生物Ⅰも選択可能
環境都市工学科	土木基礎力学(土木構造力学関係のみ)

(出典: 編入学者選抜要領)

資料4—2—①—3 専攻科入学者選考要領

群馬工業高等専門学校専攻科入学者選考要領

平成 17 年 5 月 10 日
制 定
最終改正 平成 19 年 4 月 16 日

群馬工業高等専門学校学則第 44 条の規定に基づき、専攻科入学者選考要領を次の通り定める。

I. 入学者の選考

入学者の選考は、「推薦による選抜」と「学力による選抜」により行う。

II. 合格人数

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 推薦選抜（前期） | 入学定員の 50%程度 |
| 2. 推薦選抜（後期） | 入学定員の 10%程度 |
| 3. 学力選抜 | 入学定員の 40%程度 |

III. 出願資格

1. 推薦選抜（前期）

(1) 学校長推薦

出願年度に高等専門学校卒業見込みの者で、在籍学校長が人物及び学業がともに優れていると認め推薦する者

(2) 社会人特別推薦

高等専門学校を卒業し企業等の在籍者で、所属する企業等の長が勤務成績及び人物がともに優れていると認め推薦する者

2. 推薦選抜（後期）

学校長推薦

出願年度に高等専門学校卒業見込みの者で、2年次から4年次までのクラス内席次の平均が上位4番（小数点以下切り捨て）以内であって、在籍学校長が人物及び学業がともに優れていると認め推薦する者

3. 学力選抜

次の各号の一つに該当する者

- ① 高等専門学校を卒業した者又は出願年度に高等専門学校卒業見込みの者
- ② 短期大学を卒業した者又は出願年度に短期大学卒業見込みの者
- ③ 専修学校の専門課程を修了した者又は出願年度に専修学校の専門課程を修了見込みの者で、学校教育法第 82 条の 10 の規定により大学に編入することができる者
- ④ 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者
- ⑤ 外国の学校が通信教育により行う授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者
- ⑥ 外国の短期大学の課程（ただし、課程修了者が当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定した教育施設の課程を修了した者
- ⑦ その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力がある と認められた者

（出典：専攻科入学者選考要領）

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

- ・ 本校では JABEE の認定を受けるにあたってアドミッション・ポリシーの明文化がなされたが、それ以前には中学校への入試 PR 訪問や入試説明会、体験入学などを通して募集要項や資料 4-1-①-2にある「群馬高専 Q&A」の配布などを行うとともに、高専に向いている学生像を PR してきた。したがって、アドミッション・ポリシーの明文化にいたった後も中学生や中学校側に容易に受け入れられてきていると判断している。
- ・ 資料 4-2-②-1 に平成 16 年度～19 年度の過去 4 年間にわたる本科・入学志願者及び入学者数の変化を示す。細かなところでの志願者数の変動はあるが、平均すれば志願者倍率はほぼ 2.0 倍という数字で一定であることがわかる。少子化時代に入り中学生人口の激減の中で、新聞紙上でも定員割れする高等学校や大学の話取り上げられながらも、また高校・大学生の理科離れが問題となっている時代にもかかわらず本校では志願者数がほぼ横ばいであることから学生の受入に対する本校のアドミッション・ポリシーの取り組みならびに改善が適性になされている傍証とすることができる。
- ・ 資料 4-2-②-2 に平成 16 年～19 年度の過去 4 年間にわたる編入学試験実施状況の変化を示す。編入学志願者については志願者数を見る限りにおいては平均して 9 名の志願者数で横ばいである。また、さらに資料 4-2-②-3 に平成 16 年～19 年度の過去 4 年間にわたる専攻科入学試験実施状況の変化を示すが、3 倍近い倍率を確保している。専攻科の場合には、学生および保護者からの強い要望に従い定員よりも実質合格者数は多いが、それでもなお高い志願者倍率を保っていることは本校の積極的な取り組み姿勢の傍証である。
- ・ 平成 6 年度～17 年度の過去 12 年間にわたる学年別退学者数を調べた。この退学者数の変化の中で入学して 1 年目の学生の動向は、実際に入学した学生がアドミッション・ポリシーに沿って入学しているかどうかの傍証になり、同時に学生の資質等に関して入学後の学生に対して検証していることにもつながる。実際に平成 15 年度～17 年度の 1 学年における退学者に注目すると 200 名に対して 0.5%と大幅に減少している。このことから、本校のアドミッション・ポリシーに対してそれを理解してなおかつその要望に沿った学生が入学したことを示す。
- ・ 専攻科に進学する学生の多いこともまた本校及び専攻科のアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入ができていたことを示す。
- ・ 資料 4-2-②-1 は、本科・入学志願者数を過去と同等もしくはそれ以上確保し続けるためには、さらに入試 PR 活動の改善が必要であることを示している。本校では教員を派遣する入試 PR 訪問を群馬県だけでなく、埼玉県を中心に近県の中学校に広げている。
- ・ 資料 4-1-①-5 に各種説明会等の一覧をあげているが、そこでの PR 活動の際に入試に関する要望をアンケートによって回収し、それを次年度の入学者選抜の改善をはかるための資料としている。資料 4-2-②-4 に実施した各種アンケート一覧を示す。

(分析結果とその根拠理由)

- ・ アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入については、4年間にわたる入学志願者数の変化と1学年時の退学者数の12年間の変化を調査することで傍証することができた。
- ・ 本校では様々な入試 PR 活動を通じて広く入試に関する要望をアンケートしている。これを参考として次年度の入学者選抜の改善をはかるための資料としている。

以上のことから、当該観点について検証を行い、また検証結果を今後の入学者選抜の改善に役立てている。

資料4-2-②-1 本科・入学志願者及び入学者数

平成16年度～19年度本科・入学志願者及び入学者数

年度	学 科	入学 定員	入学志願者		入 学 者		志願者 倍 率
			推薦	学力	推薦	学力	
16	機械工学科	40	29	60(1)	15	26(1)	2.2
	電子メディア工学科	40	24(3)	50(3)	15(2)	26(1)	1.9
	電子情報工学科	40	39(10)	40	15(5)	26	2
	物質工学科	40	31(10)	53(11)	15(8)	26(2)	2.1
	環境都市工学科	40	26(5)	57(9)	15(4)	26(3)	2.1
計		200	149(28)	260(24)	75(19)	130(7)	2
17	機械工学科	40	29	58	15	26	2.2
	電子メディア工学科	40	26(3)	35	15(2)	26(2)	1.5
	電子情報工学科	40	18(1)	46(2)	15(1)	26(1)	1.6
	物質工学科	40	35(10)	46(9)	15(6)	26(6)	2
	環境都市工学科	40	24(11)	44(2)	15(7)	26(3)	1.7
計		200	132(25)	229(13)	75(16)	130(12)	1.8
18	機械工学科	40	38	57	15	26	2.4
	電子メディア工学科	40	24	45	15	26	1.7
	電子情報工学科	40	23(6)	52(4)	15(6)	26(2)	1.9
	物質工学科	40	55(29)	39(7)	15(11)	26(5)	2.4
	環境都市工学科	40	30(12)	42(3)	15(9)	26(6)	1.8
計		200	170(47)	235(14)	75(26)	130(13)	2
19	機械工学科	40	34(2)	51	15	26	2.1
	電子メディア工学科	40	21	59(3)	15	26(1)	2
	電子情報工学科	40	33(7)	45(1)	15(4)	26(2)	2
	物質工学科	40	34(17)	52(9)	15(11)	26(2)	2.2
	環境都市工学科	40	24(9)	35(3)	15(6)	26(3)	1.5
計		200	146(35)	242(16)	75(21)	130(8)	1.9

() 内は女子で内数

(出典：過去4年間の準学士課程入試から作成)

資料4-2-②-2 編入学試験実施状況

平成15年～19年度 編入学試験実施状況

年度	学 科	志願者	入学者
16	機械工学科	2	0
	電子メディア工学科	2	2
	電子情報工学科	0	0
	物質工学科	3	3
	環境都市工学科	3	1
計		10	6
17	機械工学科	0	0
	電子メディア工学科	1	0
	電子情報工学科	2	0
	物質工学科	3	1
	環境都市工学科	0	0
計		6	1
18	機械工学科	3	3
	電子メディア工学科	5	0
	電子情報工学科	1	0
	物質工学科	3	1
	環境都市工学科	1	0
計		13	4
19	機械工学科	6	0
	電子メディア工学科	1	0
	電子情報工学科	0	0
	物質工学科	1	1
	環境都市工学科	0	0
計		8	1

(出典：過去4年間の編入学入試から作成)

資料4-2-②-3 平成15年～19年度 専攻科入学試験実施状況

平成15年～19年度 専攻科入学試験実施状況

年度	学 科	入学 定員	入学志願者		入 学 者		志願者 倍 率
			推薦	学力	推薦	学力	
16	生産システム工学専攻	12	17	18	17	9	2.9
	環境工学専攻	8	16	10	15	4	3.3
計		20	33	28	32	13	3.1
17	生産システム工学専攻	12	20(1)	19	20(1)	9	3.3
	環境工学専攻	8	13(4)	11(3)	13(4)	4	3.0
計		20	33(5)	30(3)	33(5)	13	3.2
18	生産システム工学専攻	12	19	8	19	4	2.3
	環境工学専攻	8	14(8)	5(1)	14(8)	3(1)	2.4
計		20	33(8)	13(1)	33(8)	7(1)	2.3
19	生産システム工学専攻	12	19(1)	10	19(1)	7	2.4
	環境工学専攻	8	12(4)	3(1)	12(4)	3(1)	1.9
計		20	31(5)	13(1)	31(5)	10(1)	2.2

() 内は女子で内数

(出典：過去4年間の専攻科入試から作成)

資料4—2—②—4 平成18年度実施した各種アンケート一覧（抜粋）

各種アンケート実施状況一覧

平成18年12月5日 学生課

1. 体験入学アンケート

- (1) 目的等 今後の体験入学に活用するため。
- (2) 対象者 体験入学に参加した中学生，保護者及び教諭等
第1回参加者 中学生 531名，保護者及び教諭 271名 計 802名
第2回参加者 中学生 140名，保護者及び教諭 101名 計 241名
- (3) 実施時期（平成18年度） 第1回 9月 2日（土），第2回 11月12日（日）
- (4) 担 当 学生課教務係

3. オープンスクールアンケート

- (1) 目的等 今後のオープンスクールに活用するため。
- (2) 対象者 オープンスクールに参加した中学生，保護者及び教諭等
- (3) 実施時期（平成18年度） 12月14日（木），15日（金），18日（月），19日（火）
- (4) 担 当 学生課教務係

5. 新1年生保護者の意識調査

- (1) 目的等
- (2) 対象者 新1年生保護者
- (3) 実施時期 入学式の日（平成18年4月5日（水））
- (4) 担 当 実態調査委員会，学生課学生係

6. 1年次入学生実態調査

- (1) 目的等 入学して前期中間試験を終えた1年生を対象に，その実態を多角的にとらえ，今後の教育方法改善の参考とする。
- (2) 対象者 新1年生
- (3) 実施時期 7月（平成18年7月5日～14日）
- (4) 担 当 実態調査委員会，学生課学生係

9. 2年前本科卒業者（大学編入学・専攻科入学後）の進路調査

- (1) 目的等 本科を卒業し
- (2) 対象者 2年前本科卒業者，専攻科修了者
- (3) 実施時期 5月（平成18年5月11日～26日）
- (4) 担 当 実態調査委員会，学生課学生係

10. 進路に関するアンケート（専攻科）

- (1) 目的等 専攻科の充実発展のための基礎資料
- (2) 対象者 第4学年学生及び保護者
- (3) 実施時期 平成18年1月
- (4) 担 当 専攻科委員会，学生課
- (5) その他 現在のところ，今後の実施予定無し。

（出典：平成18年度実施した各種アンケート一覧から抜粋）

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

- ・ 準学士課程では平成15年から平成18年まで4年間のデータ（資料 4-2-②-1）から明らかのように、200名の定員に対して実入学者は205名であり、これは適切な人数であり、また適切な状態が持続していることも示している。
- ・ 編入学実入学者数は資料 4-2-②-2 に示すように、平成15年度から平成19年度5年間の平均で年3名である。これは編入学者選抜要領（資料 4-2-①-2-1）にある、編入学を許可する人数である各学科若干名と合致するものである。
- ・ 専攻科実入学者数は資料 4-2-②-3 に示すように、平成15年から平成19年の5年間にかけて、定員20名に対して約40名である。これはまず、準学士課程の学生やその保護者などからの熱烈的な専攻科進学希望の声が背景にあり、本校専攻科ではできるだけこれらの希望に応えるべく専攻科定員の拡充を目指しているところによる。

実入学者数は定員の約2倍となっているが、指導教員数を超えるものではなく、教室や研究室などの施設面での不足もない。

また、平成17年以前に入学した既に課程をおえた学生の多くが大学院修士課程に進学し、企業に就職している事実は、実入学者の定員超過が専攻科におけるなんらの障害にもなっていないことを示すと考える。

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 準学士課程及び編入学における実入学生数は定員と過不足のない状態を続けている。
- ・ 専攻科においてはここ5年、定員の約2倍の学生を受け入れてきているが、これは本校の専攻科拡充に向けた努力の結果であり、本校専攻科が実績の上でも40名以上の学生を受け入れられることが示されているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ アドミッション・ポリシーが簡明に明文化されており、機会のあるごとに学校の内外、特に準学士課程に入学者選抜を受験する中学生やその関係者にも周知している。
- ・ 準学士課程の学生で専攻科への進学を希望する者が多数いることは、準学士課程入学選抜において実際にアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることの証左となる。
- ・ 準学士課程、編入学、専攻科への実入学者は定員、または教育が可能な許容人数に対して適当な人数となっている。

(改善を要する点)

- ・ 該当なし。

(3) 基準4の自己評価の概要

本校では準学士課程，編入学生，専攻科入学生を対象に，教育目的に沿った求める入学者像を具体的に定め，準学士課程入学者募集要項，編入学生募集要項，専攻科募集要項，準学士課程入学者用学校案内，専攻科案内パンフレット，学校要覧，本校ホームページなどで公表し，各中学校への入試PR訪問，体験入学，入試説明会，オープンスクールなどの機会を通じて周知するようにしている。

また，学内においても本校教職員ならびに非常勤講師へ配布物や，在学学生に対しての進路説明会での説明を通して周知に務めている。

本学のアドミッション・ポリシーに沿った人物が入学できるよう，準学士課程では傾斜配点を採用することにより，また専攻科においては学力が高く強固な意欲を持つ推薦入試と，英語・数学・専門科目の試験による学力入試により，入学者の選抜を行っている。

準学士課程入学者の多数が本学専攻科への進学を希望し，専攻科が定員を大きく超える受験者を迎えている現状が，本校入学生がアドミッション・ポリシーに沿った人物であることを傍証している。

準学士課程への実入学者はここ4年定員である200名をわずかに超える205名で安定している。専攻科への実入学者は40名程度で定員の約2倍であるが，これを超える数の指導教員が在籍し，教室・研究室などの設備も整っていて十分許容できる人数である。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点到に係る状況)

(a) 高専設置基準に基づく教育課程表

- ・ 本校の教育課程は、高専設置基準第17条の「教育課程の編成」の主旨に従っており、その下で授業を実施している。尚、現在、学修単位導入に向けた準備をすすめている。（資料5-1-①-1）

(b) 学科と学年進行に沿った学校の学習・教育目標の体系性

- ・ 教育課程は、本校の教育目標である「最も得意とする専門工学の知識と異なる分野の幅広い工学基礎知識の融合」を実現すべく、各学科共通の一般科目と、学科ごとの専門科目とから構成されている。これはJABEEでいう「学習・教育目標」に対応しており、学年進行を考えながら、それに相応しい学習・教育目標(A)～(E)を設定し、それを具体化・細分化している。さらに、学習・教育目標(C)に倣い、各学科において、「専門分野の視点に立った学習目標」を定めることにより、専攻科を含めた7年間一貫教育システムにおける、準学士課程の教育目標を明確している。大局的には本校で養成しようとしている技術者像は統一されている。（資料5-1-①-2）
- ・ 学習・教育目標を各科で達成できるよう、教育課程は学年ごとに適切に作成されている。特に、各目標に対応する科目間のバランスに配慮されている。それは均等ではなく、高学年で目標(C)と(D)に比重が置かれた科目配置となっている。（資料5-1-①-3）

(c) 学科の科目構成の体系性

- ・ すべての科目は、一般科目、自然科学系科目、基礎工学科目、専門基礎科目の分類にしたがって体系化されている。特に、視野の広い工業技術者の養成を目的に、設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の科目を配置している。（資料5-1-①-4）

(d) 専門科目配置の体系性

- ・ 各学科において、専門科目は、学習・教育目標ごと、また分野ごとに、基礎から応用へ段階的に配置されている。（資料5-1-①-5）

(e) 一般科目授業内容の体系性

- ・ 英語科を例に示すと、学習・教育目標別の科目系統図の目標(E)に従って、担当教員は授業内容、目標達成度の評価基準と評価方法を定め、文法系と表現系に分類して体系的に教授している。（資料5-1-①-6）

(f) 一般および専門の学年ごとの科目配置

- ・ 低学年では一般科目に重点を置き、全ての学科で同じ科目を必修化することにより、幅広い工学的な知識を養うための配慮をしている。専門科目も低学年では、自然科学の高度な知識を必要としない科目に限定されているが、学年進行にともない、自然科学系科目の修得度に連動す

るように、より高度な自然科学の知識を要する専門科目を段階的に配置し、それらを無理なく学習できるように教育課程が構成されている。(資料5-1-①-7)

- ・それは学年が上がるにつれて一般科目の単位数が減少し、逆に専門科目が増加する、いわゆるくさび形となっている。(資料5-1-①-8(ア))
- ・その履修割合は、卒業要件に対してほぼ同等であり、さらに最低履修単位数を満たすための自由度も設けている。(資料5-1-①-8(イ))

(g) 職業に必要な能力の育成についての体系性

- ・高専は学校教育法第5章の2「高等専門学校の第70条の2(目的)」に従い、職業に必要な能力を育成するために設置された。この目的に沿って、全学科ともに、実験、実習、演習、製図、卒業研究などの実技系科目が、学年ごとに配置され、講義形式も少人数制やフィールド型、対話型が取り入れられ、画一的にならないよう配慮されている。(資料5-1-①-9) 応用分野を扱う選択科目も取得割合50%を目安に開設し、科目系統図等で示すように学科ごとに体系化されている。(資料5-1-①-10)

(h) 授業内容の適切性

- ・授業内容を着実に身に付けさせるため、特に低学年では家庭における学習時間を考慮し、同一科目が連続しないようにバランスの取れた時間割を編成している。(資料5-1-①-11)
- ・数学関連科目は高学年においても開設されており、学年相応の自然科学や情報技術に関する知識と能力を養えるよう配慮されている。(資料5-1-①-12)。
- ・英語の授業では中学英語の補充内容も扱いながら、基礎を固めるとともに、資料に示すようにプリント教材を作成して対話型の学習内容を取り入れ、さらにTOEIC対応教材を採用するなどして、授業の中で「コミュニケーション能力」が養えるよう効果的な配慮がされている。(資料5-1-①-13)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育課程は、学校教育法上の目的、および本校の定めた「教育目標」に則している。また、それらを具体化した5項目からなる「学習・教育目標」に沿って、教育課程が編成されている。

学年ごとに、一般科目と専門科目のバランス、実技系科目と座学系科目のバランス、学習・教育目標に対応する科目間のバランスが考慮されており、また自然科学系科目と専門科目が連携するように、各科目が系統的に適切に配置されている。さらに、各科目の教育内容と学習・教育目標との対応およびそれらの科目の学年進行にともなう系統的な流れが示されている。

以上のことから、本校の準学士課程では、教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程の体系性が確保されている。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために十分適切なものになっている。

(資料5-1-①-1) 高専設置基準第17条の教育課程の編成

(教育課程の編成)

第17条 高等専門学校は、当該高等専門学校及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程は、各授業科目を各学年に配当して編成するものとする。

3 各授業科目の単位数は、30単位時間(1単位時間は、標準50分とする。第7項において同じ。)の履修を1単位として計算するものとする。

4 前項の規定にかかわらず、高等専門学校が定める授業科目については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算することができる。

一 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で高等専門学校が定める時間の授業をもって1単位とする。

二 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で高等専門学校が定める時間の授業をもって1単位とする。

5 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は、60単位を超えないものとする。

6 第3項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

7 第1項に定める授業科目のほか、高等専門学校においては、特別活動を90単位時間以上実施するものとする。

(出典：平成18年度「学生便覧」P.13より引用)

資料 5 - 1 - ① - 1 学修単位導入委員会規則

○学修単位導入委員会規則

〔平成18年5月9日〕
規則第12号
最終改正 平成19年2月13日

(設置)

第1条 群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、高等専門学校設置基準（文部科学省令第41号 平成17年9月9日改正）に基づく学修単位の導入を円滑に進めるため、学修単位導入委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を調査・審議する。
 (1) 国立高等専門学校における学修単位導入状況に関すること。
 (2) 本校の学修単位導入方針に関すること。

(構成)

第3条 委員会は、次の教員をもって構成する。
 (1) 校長
 (2) 教務主事
 (3) 学科等の教授
 (4) 専攻科長
 (5) 副教務主事（学修単位担当）
 (6) 事務部長
 2 委員は、校長が任命する。
 3 委員の任期は平成19年3月31日までとする。

(委員長、副委員長及び幹事)

第4条 委員会に委員長、副委員長及び幹事を置く。
 2 委員長は、校長をもって充てる。
 3 副委員長は、教務主事をもって充てる。
 4 幹事は、教務専門委員（学修単位担当）をもって充てる。
 5 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
 6 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第5条 委員会において必要と認められた場合は、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、学生課が処理する。

附 則

この規則は、平18年5月9日から施行し、平成19年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規則は、平19年4月1日から施行する。

(出典：群馬工業高等専門学校 委員会規則集)

(資料 5 - 1 - ① - 2) 群馬高専の学習目標体系

学習目標 A~E は学科と専攻科に分かれており、5 年間教育と 7 年間教育に対応している。

単元	学科			専攻科		
	学習目標	専門分野の視点に立った教育目標		学習目標	専門分野の視点に立った教育目標	
A 文化・人間力	A	地球の規模での人、社会、環境について倫理・教養の基本を身に付ける。		A	地球の規模での人、社会、環境について倫理・教養を身に付ける。	
	A-1	人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。		A-1	人文社会系の科目の学習を通じて、多種多様な人間文化と社会生活を理解するとともに、ものごとに対して多角的観点から考察できる力を涵養する。	
	A-2	工学や技術の潜在的危険性を理解する。		A-2	地球と環境に関連した科目の学習を通じて、将来、人と地球の調和をはかる科学技術の発展に貢献できる学力を涵養する。	
B 工学基礎・学習力	B	技術的問題解決のための幅広い工学基礎の基本的知識を身に付ける。		B	技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識を身に付ける。	
	B-1	工学の基礎となる自然科学の科目を理解する。		B-1	工学の基礎となる自然科学の科目を確実に理解する。	
	B-2	基礎工学科目の学習を通して、工学基礎の基本を身に付ける。		B-2	設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学科目の学習を通して、工学基礎の知識を獲得する。	
	B-3	コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。		B-3	コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを技術的問題の解決に応用できる。	
C 専門基礎・理解力	C	技術的問題解決のための専門分野の基本的知識を身に付ける。 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。		C	技術的問題解決のための専門分野の知識を身に付ける。 各専攻分野における専門科目を総合的に学習することにより、技術的課題が解決できる。	
			M	産業技術や機械システムなどの機械工学分野に関する基礎知識を習得する。	AP	機械工学、電子メディア工学、電子情報工学の各学科で修得した知識を基礎とし、より高度な専門各分野の知識およびそれらを融合した領域について学び、各種の機器、デバイス、システムなどの開発・設計・製造を行うための基礎的能力を身に付ける。
			E	電子材料、エネルギー、電子情報通信などの電子メディア工学分野に関する基礎知識を習得する。		
			J	コンピュータのハードウェア、ソフトウェアなどの電子情報工学分野に関する基礎知識を習得する。		
			K	化学的な知識を基にして材料化学、生物工学などの物質工学分野の基礎知識を習得する。		
		C	計画、設計、施工、管理などの環境都市工学分野に関する基礎知識を習得する。	AE	物質工学と環境都市工学の各学科で修得した知識を基礎とし、より高度な専門各分野の知識および「環境」をキーワードとする、それらの融合領域について学び、自然環境の保全と分析、都市環境のデザイン、新しい材料や医薬品の創製、生物資源の開発などを行うための基礎的能力を身に付ける。	
D 課題解決力	D	技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基本的能力を身に付ける。		D	技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を身に付ける。	
	D-1	自然科学、基礎工学、専門分野の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。		D-1	自然科学、基礎工学、専門分野の知識を総合的に利用し、創造性を発揮して現実の技術的課題の解決に応用できる。	
	D-2	技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術および工学的ツールを活用できる。		D-2	技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための情報処理技術および工学的ツールを活用できる。	
	D-3	実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる能力を身に付ける。		D-3	実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的、そして計画的に学習できる能力を獲得する。	
E 表現・伝達力	E	コミュニケーション能力・プレゼンテーション基本的能力を身に付ける。		E	コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける。	
	E-1	自己の考えを論理的、客観的に口頭および文章で表現できる。		E-1	自己の考えを論理的、客観的に口頭および文章で表現できる。	
	E-2	異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。		E-2	異なった歴史や文化を持った人々の考えに共感し、それを理解できる。	
	E-3	英語の基礎的な文章を理解し、また英語で簡単な内容を伝えることができる。		E-3	母国語以外の外国語で自己の考えを伝える基礎的能力を獲得する。	

*学習目的内の M は機械工学科， E は電子メディア工学科， J は電子情報工学科， K は物質工学科， C は環境都市工学科， AP は生産システム工学専攻， AE は環境工学専攻

(出典：平成 18 年度「学生便覧」および平成 19 年 3 月 28 日主事主任会議議事録より作成)

(資料5-1-①-3その1) 学習・教育目標を達成するために必要な主たる授業科目の流れ
(ア) 機械工学科

学習・教育 目標	授業科目名									
	1年		2年		3年		4年		5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	歴史 地理 保健体育	古典 地理 保健体育	歴史 古典	歴史	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	保健体育 [ドイツ語Ⅰ] 哲学	保健体育 [ドイツ語Ⅰ]	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 法学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 社会政策
B	数学AⅠ 数学B 化学Ⅰ	数学AⅡ 数学B 化学Ⅱ 生物学 力学基礎 総合物作り体験	数学AⅠ 数学B 物理Ⅰ 生物 情報処理Ⅰ	数学AⅡ 数学B 物理Ⅱ	数学AⅠ 数学B	数学AⅡ 数学B				
C	工作実習	工作実習 機械工学序論	工作実習 機械工作法 設計製図	工作実習 機械工作法 設計製図	工作実習 応用物理Ⅰ 材料力学 機構学 電気工学概論	工作実習 応用物理Ⅰ 材料力学 機構学 電気工学概論	応用物理Ⅱ 熱力学 流体工学Ⅰ 機械工作法 工学実験 計測工学Ⅰ	応用物理Ⅱ 熱力学 流体工学Ⅰ 機械工作法 工学実験 計測工学Ⅰ	機械力学 流体工学Ⅱ 伝熱工学 工業英語 [知的財産権] 制御工学 [機械工学特論Ⅱ] [情報処理Ⅱ]	機械力学 流体工学Ⅱ 伝熱工学 [計測工学Ⅱ] [機械工学特論Ⅰ] 制御工学
D	設計製図	設計製図			情報処理Ⅰ 設計製図	設計製図	熱力学 機械工作法 機械設計法 工学実験 設計製図	熱力学 機械工作法 機械設計法 工学実験 設計製図	卒業研究 伝熱工学 [内燃機関] [機械工学特論Ⅱ] 生産管理	卒業研究 伝熱工学 生産管理
E	国語表現 英語表現A 総合英語Ⅰ	国語表現 英語表現B 総合英語Ⅱ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅰ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅱ	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ	英語A 英語B	英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B
									卒業研究 工業英語	卒業研究

(イ) 電子メディア・電気工学科

学習・教育 目標	授業科目名									
	1年		2年		3年		4年		5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	歴史 地理 保健体育	古典 地理 保健体育	歴史 古典	歴史	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	保健体育 [ドイツ語Ⅰ]	保健体育 [ドイツ語Ⅰ] 哲学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 法学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 社会政策
B	数学AⅠ 数学B 化学Ⅰ	数学AⅡ 数学B 化学Ⅱ 生物学 力学基礎 総合物作り体験 数学基礎演習Ⅰ	数学AⅠ 数学B 物理Ⅰ 生物 メディアリテラシ	数学AⅡ 数学B 物理Ⅱ	数学AⅠ 数学B	数学AⅡ 数学B				
C	電気基礎Ⅰ		電気基礎Ⅱ 工学実験	計測基礎 工学実験	電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ	電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ	工学実験 電子回路Ⅰ 解析学	工学実験 電気機器 電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ 解析学	電子回路Ⅱ [応用物理Ⅲ] [音響工学]	[計算機工学] [エネルギーシステム] [放送メディア工学] [電子材料基礎Ⅱ]
D	工学実験	工学実験							デザイン実験 卒業研究	デザイン実験 卒業研究
E	国語表現 英語表現A 総合英語Ⅰ	国語表現 英語表現B 総合英語Ⅱ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅰ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅱ	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ	英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B	英語A 英語B
									卒業研究	卒業研究

(出典：平成18年度「学生便覧」「シラバス」より作成)

(資料5-1-①-3その2) 学科専修関連におけるすべての目標
(ウ) 電子情報工学科

学習・教育 目標	授業科目名									
	1年		2年		3年		4年		5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	歴史 地理 保健体育	古典 地理 保健体育	歴史 古典	歴史	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	保健体育 [ドイツ語Ⅰ]	保健体育 [ドイツ語Ⅰ] 哲学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ]	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 法学 社会政策
B	数学AⅠ 数学B 化学Ⅰ	数学AⅡ 数学B 物理Ⅰ 生物	数学AⅠ 数学B 物理Ⅰ 生物	数学AⅡ 数学B 物理Ⅱ	数学AⅠ 数学B	数学AⅡ 数学B	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用物理Ⅱ 電気磁気学Ⅰ プログラム言語 システムプログラム 工学演習	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用物理Ⅱ 電気磁気学Ⅱ プログラム言語 システムプログラム 計算機アーキテクチャ	情報数学 電気磁気学Ⅲ	情報数学
C			電気回路 情報処理 マイコン	電気回路 情報処理 マイコン	電気回路 電子回路 論理回路 数値解析 プログラム言語	電気回路 電子回路 論理回路 数値解析 プログラム言語	電気回路 電子回路 パルス回路 [マイコンシステム] [L SⅠ工学Ⅰ]	電気回路 電子回路 [L SⅠ工学Ⅱ] [L SⅠ設計製作Ⅰ] [信号処理]	情報数学 システムプログラム 情報ネットワーク 電気磁気学Ⅲ 電子情報工学実験実習 計算機アーキテクチャ [L SⅠ設計製作Ⅱ] [電子工学特論Ⅰ] [電子工学特論Ⅲ]	情報数学 システムプログラム 情報ネットワーク 電子情報工学実験実習 [電子工学特論Ⅱ] [計測制御工学] [L SⅠ設計製作Ⅱ] [情報工学特論Ⅲ] [人工知能] [デジタル画像処理]
D	電子情報工学実験実習	電子情報工学実験実習	電子情報工学実験実習	電子情報工学実験実習			電子情報工学実験実習	電子情報工学実験実習	電子情報工学実験実習 卒業研究 計算機アーキテクチャ [L SⅠ設計製作Ⅱ] [情報工学特論Ⅱ]	電子情報工学実験実習 卒業研究 [情報工学特論Ⅲ]
E	国語表現 英語表現A 総合英語Ⅰ	国語表現 英語表現B 総合英語Ⅱ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅰ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅱ	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ	英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B	英語A 英語B 卒業研究 工業英語

(エ) 物質工学科

学習・教育 目標	授業科目名									
	1年		2年		3年		4年		5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	歴史 地理 保健体育	古典 地理 保健体育	歴史 古典	歴史	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	保健体育 [ドイツ語Ⅰ]	保健体育 [ドイツ語Ⅰ] 哲学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ]	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 法学
B	数学AⅠ 数学B 化学Ⅰ	数学AⅡ 数学B 物理Ⅰ 生物	数学AⅠ 数学B 物理Ⅰ 生物	数学AⅡ 数学B 物理Ⅱ	数学AⅠ 数学B	数学AⅡ 数学B	応用数学Ⅰ 応用物理Ⅱ 情報処理Ⅲ 高分子化学Ⅰ 材料有機化学Ⅰ 生物有機化学Ⅰ [応用数学Ⅱ]	応用数学Ⅰ 応用物理Ⅱ 情報処理Ⅲ 高分子化学Ⅱ [高分子化学Ⅱ]		
C					応用物理Ⅰ 物理化学Ⅰ	応用物理Ⅰ 物理化学Ⅰ	物理化学Ⅱ 無機化学Ⅱ 有機化学Ⅱ 物質工学演習Ⅰ 生化学Ⅱ [生化学Ⅱ] [化学工学概論Ⅰ]	物理化学Ⅱ 無機化学Ⅱ 有機化学Ⅱ 材料無機化学Ⅰ 材料物理化学Ⅰ 生物物理化学Ⅰ 生物無機化学Ⅰ 機器分析Ⅰ [化学工学概論Ⅱ]	機器分析 反応工学 分子生物学 [地球資源科学Ⅰ] [量子化学] [安全工学] [品質管理]	物質工学総論 新素材工学 生物反応工学 高分子化学 遺伝子工学 [地球環境科学Ⅱ] [精密分離工学]
D	物質工学実験Ⅰ	物質工学実験Ⅰ					物質工学実験Ⅳ	分子機能化学実験 生物機能化学実験	卒業研究 材料化学演習 生物工学演習 反応工学 材料化学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅱ	卒業研究 材料化学演習 生物工学演習 生物反応工学
E	国語表現 英語表現A 総合英語Ⅰ	国語表現 英語表現B 総合英語Ⅱ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅰ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅱ	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ	英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B 卒業研究

(出典：平成18年度「学生便覧」「シラバス」より作成)

(資料5-1-①-3その3) 学科専修関連におけるすべての目標
(オ) 環境都市工学科

学習・教育 目標	授業科目名										
	1年		2年		3年		4年		5年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A	歴史 地理 保健体育	古典 地理 保健体育	歴史 古典	歴史	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	国語講読 倫理 政治・経済 保健体育	保健体育 [ドイツ語Ⅰ]	保健体育 [ドイツ語Ⅰ] 哲学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 法学 社会政策	保健体育 [ドイツ語Ⅱ]	[生物生態学] [環境化学]
B	数学AⅠ 数学B 化学Ⅰ	数学AⅡ 数学B 化学Ⅱ 生物 力学基礎 総合物作り体験	数学AⅠ 数学B 物理Ⅰ 生物	数学AⅡ 数学B 物理Ⅱ	数学AⅠ 数学B 応用物理Ⅰ	数学AⅡ 数学B 応用物理Ⅰ	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 構造力学Ⅱ 情報処理Ⅲ	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 構造力学Ⅱ 情報処理Ⅲ			測量リモートセンシング
C	測量学 環境都市工学設計製図 環境都市工学実験実習	環境都市工学概論 環境都市工学設計製図 環境都市工学実験実習 材料学Ⅰ	材料学Ⅱ 構造力学Ⅰ 情報処理Ⅰ 環境都市工学設計製図 環境都市工学実験実習	構造力学Ⅰ 環境都市工学設計製図 環境都市工学実験実習	構造力学Ⅰ 土質工学 水理学Ⅰ コンクリート工学 情報処理Ⅱ 環境都市工学実験実習	構造力学Ⅰ 土質工学 水理学Ⅰ コンクリート工学 測量学 環境都市工学実験実習	応用物理Ⅱ 水理学Ⅱ コンクリート構造学 橋工学 環境工学Ⅰ 応用地質 地盤工学Ⅰ 環境都市工学実験実習 環境都市工学設計製図	地盤工学Ⅱ コンクリート構造学 橋工学 環境工学Ⅰ [交通工学Ⅰ] 地盤工学Ⅰ 環境都市工学実験実習 環境都市工学設計製図	環境工学Ⅱ 構造力学Ⅲ 都市計画 都市計画 計画数値 環境水工学 耐震構造学 [交通工学Ⅱ] [建設行政] [防災工学Ⅱ]	環境工学Ⅱ 都市計画 [防災工学Ⅰ] [防災工学Ⅲ] [景観工学] CAD	
D			測量学	測量学	環境都市工学設計製図		環境都市工学ゼミナール [校外実習]	環境都市工学ゼミナール	卒業研究		卒業研究 環境都市工学実験実習
E	国語表現 英語表現A 総合英語Ⅰ	国語表現 英語表現B 総合英語Ⅱ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅰ	国語表現 保健体育 総合英語Ⅱ	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅱ	英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B	英語A 英語B	

(出典：平成18年度「学生便覧」「シラバス」より作成)

(資料5-1-①-4その1) 専修科目構成一覧

(ア) 平成18年度開設「機械工学」

一般科目 (人文社会系 及び語学科目)	哲学 社会政策 法学	保健体育(4) 保健体育(5)	英語A(4) 英語B(4) 英語A(5) 英語B(5)
	身体動作学 日本文化論	日本経済論 近代西洋社会論 現代哲学	実用英語A 実用英語B 科学英語A 科学英語B
自然科学系科目	数学A I (3M) 数学A II (3M) 数学B (3M) 応用数学 I (4M) 応用数学 II (4M)	応用物理 I (3M) 応用物理 II (4M)	*応用物理 III (5M)
	応用解析学 複素解析 特殊関数 ベクトル解析	線型代数学 I 線型代数学 II	解析力学 量子力学 I 量子力学 II 統計力学 Fundamental Mech
基礎工学科目	設計・システム系	情報・論理系	材料・バイオ系
	機械設計法(4M) 設計製図(4M) 自動制御(5E) システムプログラム(4J) 環境都市工学設計製図(4C)	生産管理(5M) 情報科学 II (4E) 通信工学(5E) 計算機アーキテクチャ(4J) 情報数学(5J) 情報処理 III (4K) 情報処理 III (4C)	電子材料基礎 I (5E) 高分子化学 I (4K) 生物有機化学 I (4K) 材料有機化学 I (4K)
	システム工学	情報基礎論	材料学特論

・専門工学とは、「最も得意とする工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎知識」を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力に関する工学のことである。

・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。

・各科目類の点線上段は学科開設科目（*は選択科目で、他はすべて必修科目）、下段は専攻科開設科目（斜体は必修科目で、他は選択科目）を示す。

・専攻科隔年開講科目も含む。

・廃止科目とは現在は開設されていないが、過去に開設され、基礎工学科目であった科目をいう。

(出典：平成18年度「学生便覧」P.125より抜粋引用)

(資料5-1-①-4その2) 専修科目構成一覧

(イ) 平成18年度開設「電子メディア・電気工学」

基礎工学科目	設計・システム系	情報・論理系	材料・バイ
	機械設計法(4M) 設計製図(4M) 自動制御(5E) システムプログラム(4J) 環境都市工学設計製図(4C)	生産管理(5M) 情報科学Ⅱ(4E) 通信工学(5E) 計算機アーキテクチャ(4J) 情報数学(5J) 情報処理Ⅲ(4K) 情報処理Ⅲ(4C)	電子材料基礎 高分子化学Ⅰ 生物有機化学 材料有機化学
システム工学	情報基礎論	材料学特論	

(ウ) 平成18年度開設「電子情報工学」

専 門 基	電気磁気学Ⅰ(4J) 電気磁気学Ⅱ(4J) 電気回路(4J) 電子回路(4J) パルス回路(4J) プログラム言語(4J)	電気磁気学Ⅲ(5J) 計算機アーキテクチャ(5J) システムプログラム(5J) 情報ネットワーク(5J) 工業英語(5J)	*マイコンシステム(4) *LSI工学Ⅰ(4J) *LSI工学Ⅱ(4J) *LSI設計製作Ⅰ(4) *信号処理(4J)
-------------	--	---	---

(出典：平成18年度「学生便覧」PP.126-127より一部抜粋)

(資料5-1-①-4その3) 専修科目構成一覧

(エ) 平成18年度開設「物質工学」

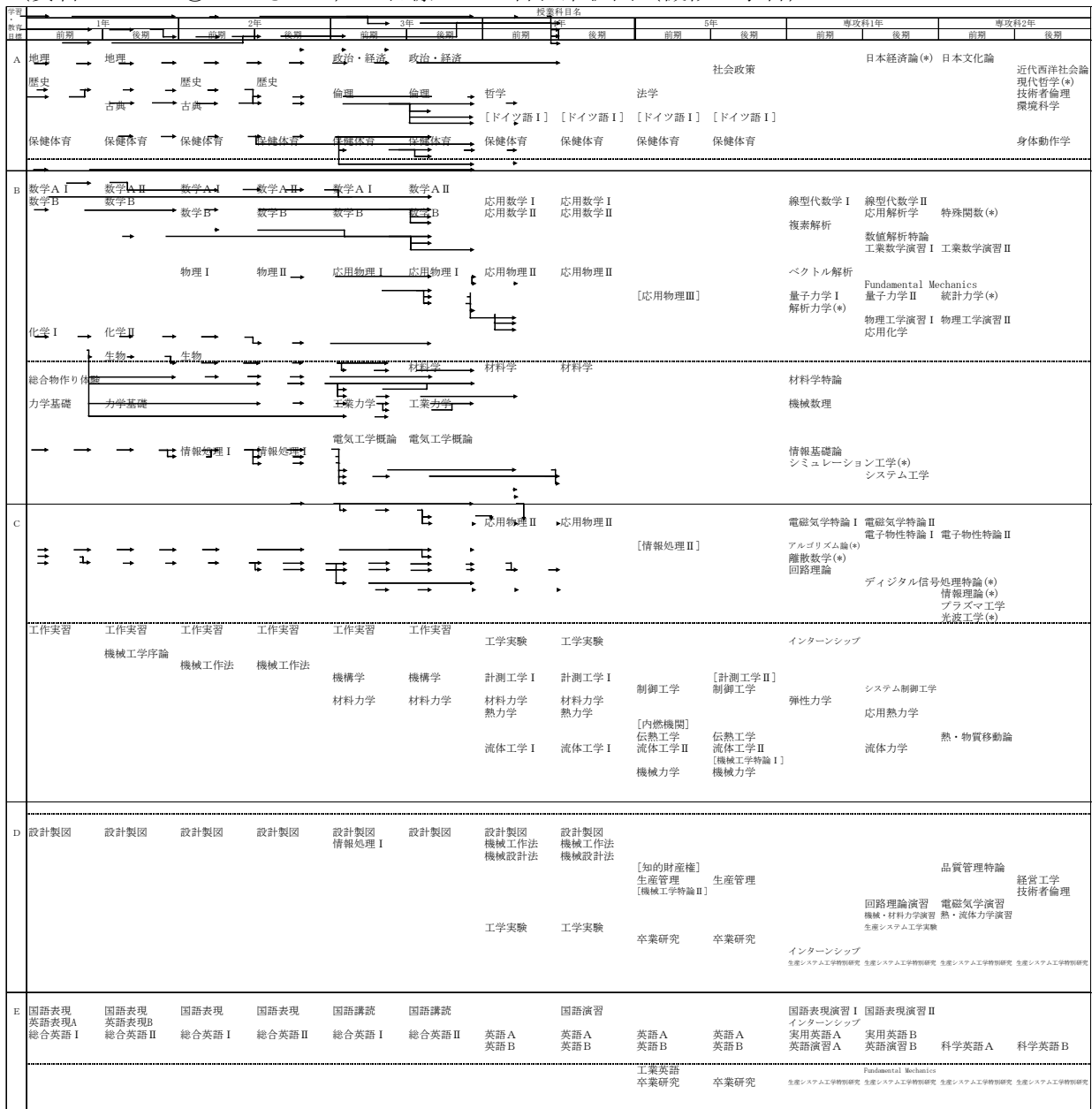
物理化学Ⅱ(4K)	材料無機化学Ⅰ(4K材)	物質工学総論(5K)
有機化学Ⅱ(4K)	高分子化学Ⅱ(4K材)	機器分析(5K)
無機化学Ⅱ(4K)	材料物理化学Ⅰ(4K材)	反応工学(5K材)
化学・生物英語Ⅰ(4K)	生物無機化学Ⅰ(4K生)	新素材工学(5K材)
化学・生物英語Ⅱ(4K)	生化学Ⅱ(4K生)	高分子化学(5K材)
機器分析Ⅰ(4K)	生物物理化学Ⅰ(4K生)	生物反応工学(5K生)
		遺伝子工学(5K生)

(オ) 平成18年度開設「環境都市工学」

専 門 基 礎 科 目	地盤工学Ⅱ(4C)	構造力学Ⅲ(5C)	*交通工学Ⅰ(4C)
	応用地質(4C)	都市計画(5C)	*校外実習(4C)
	水理学Ⅱ(4C)	計画数理(5C)	
	コンクリート構造学(4C)	測量リモートセンシング(5C)	
	橋工学(4C)	CAD(5C)	
	環境工学Ⅰ(4C)	環境工学Ⅱ(5C)	
		環境水工学(5C)	
		耐震構造学(5C)	
	技術者倫理	シミュレーション工学	水理学特論Ⅰ
	生産システム工学実験	物理化学特論Ⅱ	水理学特論Ⅱ
経営工学	物理化学特論Ⅲ	建設材料特論	
	有機化学特論Ⅰ	構造解析学特論	
	有機化学特論Ⅱ	土質工学特論	
	有機化学特論Ⅲ	応用力学特論	
	無機化学特論Ⅰ	環境工学特論	
	生物学特論	構造設計特論	
	分子生物学特論	環境防災特論	
材料工学特論			

(出典：平成18年度「学生便覧」PP.128-129より一部抜粋)

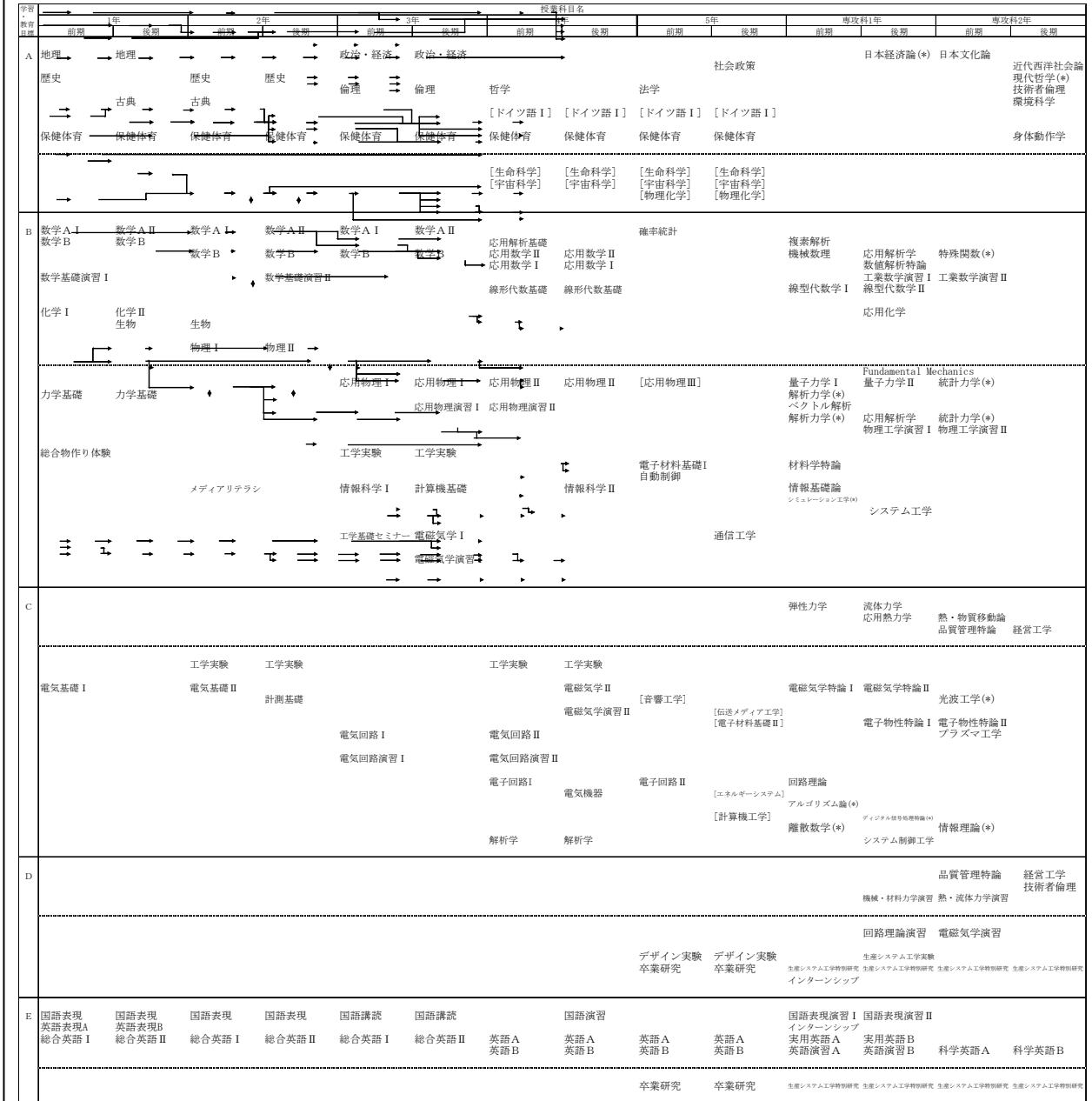
(資料5-1-①-5その1) 目標ごとの科目系統図 (機械工学科)



・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
 ・各目標の点線上段は一般科目、下段は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(*)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成18年度シラバスより作成)

(資料5-1-①-5その2) 目標ごとの科目系統図 (電子メディア・電気工学科)



・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
 ・各目標の点線上段は一般科目、下段は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(*)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成18年度シラバスより作成)

(資料5-1-①-5その5) 目標ごとの科目系統図 (環境都市工学科)

学年	授業科目名													
	1年		2年		3年		4年		5年		専攻科1年		専攻科2年	
科目	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	地理	地理	歴史	歴史	政治・経済	政治・経済			社会政策			日本経済論(*)	日本文化論	近代西洋社会論
	歴史	歴史	倫理	倫理	倫理	倫理			哲学	法学				現代哲学(*)
	古典	古典												技術者倫理
														環境科学
														身体動作学
														[生物生態学]
														[環境化学]
B	数学A I	数学A II	数学B	数学B	数学A I	数学A II	数学A I	数学A II	応用数学 I	応用数学 I		線型代数学 I	線型代数学 II	特殊関数(*)
	数学B	数学B	数学B	数学B	数学B	数学B	数学B	数学B	応用数学 II	応用数学 II		複素解析	数値解析特論	工業数学演習 I
														応用化学
														[環境化学]
	化学 I	化学 II												ベクトル解析
	力学基礎	力学基礎	物理 I	物理 II	応用物理 I	応用物理 I	応用物理 II	応用物理 II						Fundamental Mechanics
														量子力学 I
														量子力学 II
														統計力学(*)
														物理工学演習 I
														[生物生態学]
														材料学特論
														建設材料特論(*)
														材料学特論
														情報基礎論
														シミュレーション工学(*)
														システム工学
														物理化学特論 I
C	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験	環境都市工学実験
	材料学 I	材料学 II	材料学 I	材料学 II	材料学 I	材料学 II	材料学 I	材料学 II	材料学 I	材料学 II	材料学 I	材料学 II	材料学 I	材料学 II
	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論	環境都市工学概論
	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I	構造力学 I
														構造力学 II
														構造力学 III
														耐震構造学
														[防災工学 I]
														構造解析特論
														応用力学特論
														構造設計特論(*)
														土質工学特論(*)
														土質工学
														地盤工学 I
														地盤工学 II
														[防災工学 II]
														環境防災特論(*)
														水理学特論 I
														水理学特論 II
														水理学
														環境工学 I
														環境工学 II
														[環境化学]
														[生物生態学]
														生物工学特論
														[交通工学 I]
														[交通工学 II]
														都市計画
														都市計画
														計画数理
														[建設行政]
														経営工学
														物理化学特論 II
														物理化学特論 III
														有機化学特論 I
														有機化学特論 II
														有機化学特論 III
														分子生物学特論(*)
														無機化学特論 I
D	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学	測量学
	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図	環境都市工学設計製図
														測量リモートセンシング
														CAD
														環境工学実験
														インターンシップ
														環境工学特別研究
														環境工学特別研究
														環境工学特別研究
														環境工学特別研究
														土木工学演習 I
														技術者倫理
														土木工学演習 II
														土木工学演習 III
														総合化学演習 I
														総合化学演習 II
														総合化学演習 III
E	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現	国語表現
	英語表現A	英語表現B	英語表現A	英語表現B	英語表現A	英語表現B	英語表現A	英語表現B	英語表現A	英語表現B	英語表現A	英語表現B	英語表現A	英語表現B
	総合英語 I	総合英語 II	総合英語 I	総合英語 II	総合英語 I	総合英語 II	総合英語 I	総合英語 II	総合英語 I	総合英語 II	総合英語 I	総合英語 II	総合英語 I	総合英語 II
														英語 A
														英語 B
														英語 A
														英語 B
														英語 A
														英語 B
														英語 A
														英語 B
														科学英語 A
														科学英語 B
														Fundamental Mechanics
														環境工学特別研究
														環境工学特別研究
														環境工学特別研究
														環境工学特別研究

- ・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
- ・各目標の点線上段は一般科目、下段は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(*)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成 18 年度シラバスより作成)

(資料5-1-①-6) 英語科の学習体系表

学年	科目名 (概要)				備考
	文法系		表現系		
専攻科 2年	科学英語 A		科学英語 B		
	前期 1 単位		後期 1 単位		
	総合力養成		総合力養成		
専攻科 1年	実用英語 A	実用英語 B	英語演習 A	英語演習 B	・大学院入試対策 ・専攻科 1 年次全 員 TOEIC 受験
	前期 1 単位	後期 1 単位	前期 1 単位	後期 1 単位	
	英語 A の延長 長文読解		英語 B の延長 スピーチ・作 文		
学科 5年	英語 A		英語 B		
	通年 2 単位		通年 2 単位		
	長文読解力 養成		日常表現 リスニング・ スピーチ 英会話		
学科 4年	英語 A		英語 B		・編入試験対策 ・TOEIC トレーニ ング ・4 年次全員 TOEIC 受験
	通年 2 単位		通年 2 単位		
	長文読解力 養成		表現力養成 リスニング・ スピーチ 英会話		
学科 3年	総合英語 I	総合英語 II			・3 年次全員 TOEIC 受験
	前期 2 単位	後期 2 単位			
	文法, 読解	文法, 読解			
学科 2年	総合英語 I	総合英語 II			1-3 学年の同一教 員による網羅的授 業
	前期 2 単位	後期 2 単位			
	文法, 読解	文法, 読解			
学科 1年	総合英語 I	総合英語 II	英語表現 A	英語表現 B	・中学英語と高専 英語の補充目的 ・外国人教員によ る授業
	前期 2 単位	後期 2 単位	前期 1 単位	後期 1 単位	
	文法, 読解	文法, 読解	英会話	英会話	

○LL 教室の活用

特にリスニングの授業や発音練習の授業などで活用されている。

○インターネット教材

インターネット教材 (TOEIC 対策トレーニング) は学内のすべてのパソコンから利用できる。学科 1 年生から利用が可能で、学生に周知している。

(出典：英語科シラバスより作成)

(資料5-1-①-7) 学年ごとの授業科目およびその単位数

平成18年度機械工学科入学生の場合

別表第1

一般教科(全学科)(平成18年度の入学生に適用)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	人文学	4	2	2				
	国語表現	3	1	2				
	古典語	2			2			
	国語演習	1				1		
	倫理	2			2			
	哲学	1				1		
	歴史	3	1	2				
	地理	2	2					
	政治・経済	2			2			
	社会学	1					1	
	社会学	1					1	
	数学A I	6	2	2	2			
	数学A II	6	2	2	2			
数学B	7	3	2	2				
物理学 I	2		2	2				
物理学 II	2		2	2				
化学 I	2	2						
化学 II	2	2						
物生	1	1						
保健・体育	10	2	2	2	2	2		
芸術	1		1					
外国語	英語表現A	1	1					
	英語表現B	1	1					
	総合英語 I	6	2	2	2			
	総合英語 II	6	2	2	2			
英語	英語A	4				2	2	
	英語B	4				2	2	
選択科目	ドイツ語 I	2				2		
	ドイツ語 II	2					2	
開設単位数計	87	26	23	18	10	10		
最低履修単位数計	83	26	23	18	8	8		

別表第2 専門科目

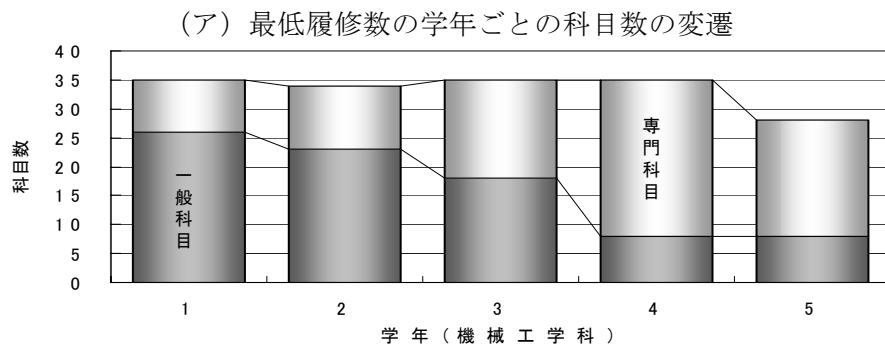
機械工学科(平成18年度の入学生に適用)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学 I	2					2	
	応用数学 II	2					2	
	応用物理学	2				2		
	応用物理	2					2	
	応用情報	3		2				
	応用材料	4			1			
	応用熱流	3			2			
	応用機械	2				1		
	応用機械	2					2	
	応用機械	4		2				
	応用機械	2					2	
	応用機械	2					2	
	応用機械	2					2	
	応用機械	1					2	
	応用機械	11	2	3	3		3	4
	応用機械	4						6
	応用機械	9	3	4	2			
	応用機械	6						
	応用機械	1	1					
	応用機械	2	2					
	応用機械	2			2			
	応用機械	2						2
	応用機械	2						2
応用機械	2						2	
応用機械	2						2	
応用機械	2						2	
応用機械	2						2	
応用機械	1						1	
必修科目単位数計	81	9	11	17	27	17		
選択科目	応用物産	1					1	7単位中から3科目3単位必修
	応用物産	1					1	
	応用物産	1					1	
	応用物産	1					1	
選択科目開設単位数計	7						7	
選択科目最低履修単位数計	3						3	
開設単位数計	88	9	11	17	27	24		
最低履修単位数計	84	9	11	17	27	20		

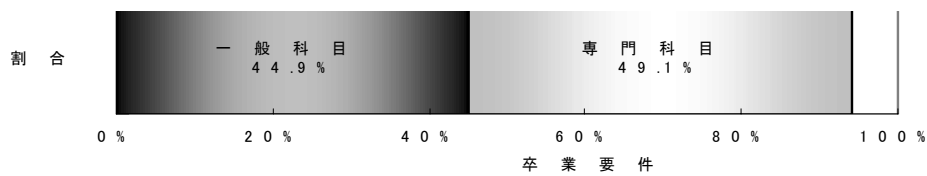
※他学科も同様に別表として掲載されている

(出典：平成18年度「学生便覧」PP.39-77より抜粋)

(資料5-1-①-8) 一般科目と専門科目における履修科目数のバランス



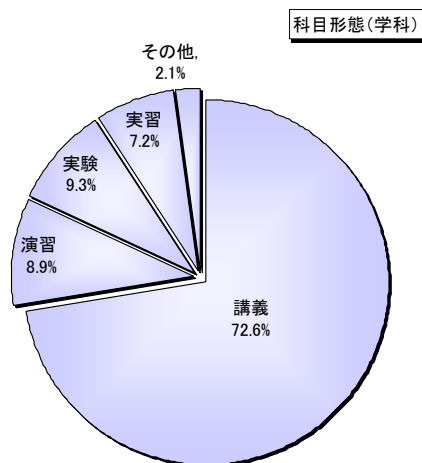
(イ) 卒業要件における一般科目と専門科目の必修要件比率



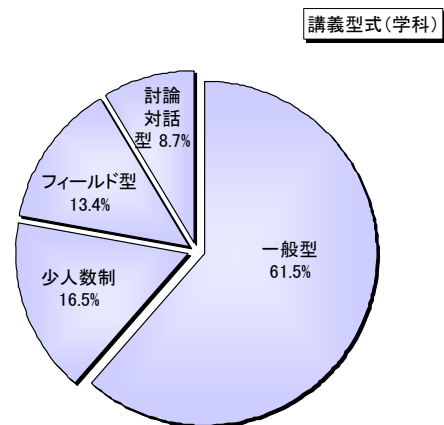
(出典：平成18年度「学生便覧」より作成)

(資料5-1-①-9) 職業に必要な能力を養うための授業形態の配置割合

(ア) 学科科目の授業形態 (回答者：教員)

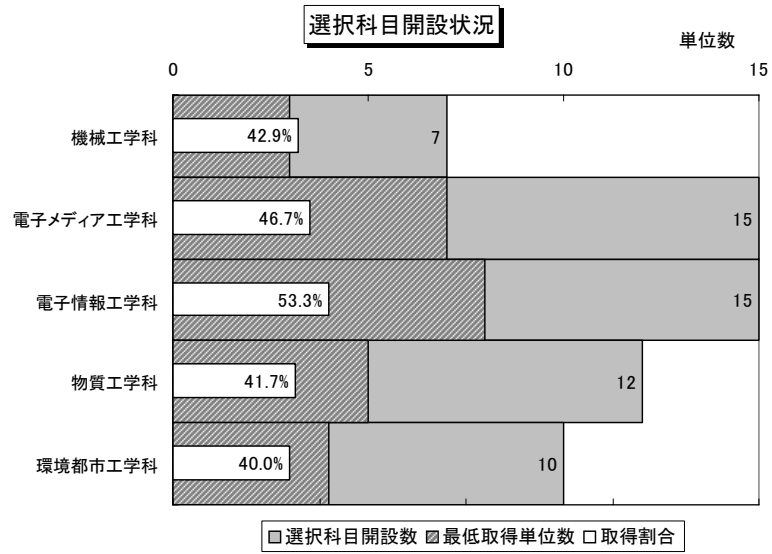


(イ) 講義形式の割合 (回答者：教員)



(出典：平成19年2月教育に関するアンケートより作成)

(資料5-1-①-10) 選択科目開設数および最低取得数とその割合



(出典：平成18年度「学生便覧」より作成)

(資料 5-1-①-11) 一般科目と専門科目の時間割上の配置

第 2 学年の時間割 (ハッチングが一般科目)

本科	月								火								水					
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6
M	生物 (戸村)	数学B (村崎)	設計製図 下田・金子						総合英語 I 横山	物理 I (水出)	工作実習 小川			国語表現 (新井[小])	情報処理 I 小川	HR	横山 小川					
	数学B (村崎)	物理 I 楡井	工作実習 高橋(秀)・ 小川					物理 I 楡井	総合英語 II 横山	設計製図 金子			国語表現 (新井[小])	情報処理 I 樫本	HR							
E	古典 大島(由)	生物 (戸村)	物理 I 狩野	体育 高橋(健)	物理 I 狩野	数学A I (沼田)	工学実験 E科教員			総合英語 I 横山	国語表現 (新井[小])	HR	狩野 楡井									
	数学B 藤田	計測基礎 鈴木(靖)	数学基礎演 習 II E科教員		総合英語 II 横山	数学A II (沼田)	工学実験 E科教員			計測基礎 鈴木(靖)	国語表現 (新井[小])	HR										
24 J	数学B (村崎)	電子工学 五十嵐	電気回路 大豆生田	工学演習 荒川	物理 I 辻川	情報処理 I 木村(真)	実験実習 木村(真)・J 科教員			総合英語 I 野村(貴)	古典 大島(由)	HR	辻川 木村(真)									
	体育 高橋(健)	数学B (村崎)	物理 II 辻川	電気回路 大豆生田	論理回路 木村(真)	数学A II 神長	実験実習 木村(真)・J 科教員			総合英語 II 野村(貴)	物理 II 辻川	HR										
K	数学B 藤田	基礎物理化学 藤野	体育 高橋(健)	情報処理 II 戸井	生物学 林(俱)	物理 I (玉置)	歴史 宮川	国語表現 東城	物理 I (玉置)	総合英語 I 野村(貴)	HR	神長 藤重										
	基礎無機化 学 太田	数学B 藤田	体育 高橋(健)	総合英語 II 野村(貴)	数学A II 神長	物理 II (玉置)	歴史 宮川		生物学 林(俱)	基礎物理化学 藤野	HR											
C	材料学 II 古川	数学A I 谷口	構造力学 I 三上	総合英語 I 横山	物理 I (玉置)	数学B 藤田	設計製図 野村(和)	古典 大島(由)	数学A I 谷口	物理 I (玉置)	HR	竹島 江口										
	総合英語 II 横山	数学A II 谷口	生物 (戸村)		物理 II (玉置)	国語表現 東城	数学B 藤田	設計製図 野村(和)	数学A II 谷口	物理 II 五十嵐	HR											

(出典：平成 18 年度時間割表より第 2 学年を引用)

(資料5-1-①-12) 一般教科の授業内容の適切性

数学科の場合

国立群馬工業高等専門学校 2006 年度シラバス 8303520004EE/20060327

(科目コード: 8303520004EE)

【科目】解析学

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】通年・2 単位

【対象学科・専攻】電子メディア工学科/電気工学科・4 年次

【担当教員】斎藤 斉

【授業目標・教育方針】

- ・関数の連続性について理解し、具体的な問題を通して連続性の説明ができること。
- ・テイラー展開・マクローリン展開が求められること。
- ・多変数関数の微分法が理解でき、その応用として極値問題が解けること。
- ・重積分の定義が理解でき、変数変換等を用いて具体的な計算ができること。
- ・重積分を用いて、曲面積や・体積および図形の重心を求めることができること。
- ・基本的な級数の収束・発散の判定ができること。
- ・その他、解析学に関する基礎知識を得る。

【授業概要】

関数の極限と連続性について理解を深める。

テイラー展開・マクローリン展開を学び、具体的な関数の展開が求められるようにする。多変数関数の微分法を学び、逆関数の定理の理解を図る。

重積分の定義を理解し、変数変換等を用いて具体的な計算の習熟を図る。

級数の収束・発散の判定が学習し、また収束半径について学ぶ。

【教科書・教材・参考書等】

教科書：上村 豊・坪井堅二 著：「微分積分学」開成出版

参考書：藤田 広 著：「大学の微積分 I」「大学の微積分 II」岩波書店

ハイラー・ワナー（蟹江幸博訳）解析教程 上・下 シュプリンガー・フェアラーク東京

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

特になし（座学）

【メッセージ】

3 年次の数学 AI・AII を踏まえて、より深く微分積分学を学びます。将来を見据えてしっかり学習して下さい。

【成績評価方法】

[前期] 中間試験：40%，期末試験：40%，レポート：20%

[後期] 中間試験：40%，期末試験：40%，レポート：20%

【本校の学習・教育目標】

◎ (C) 技術的課題解決のための専門分野の知識を身につける。

【JABEE 評価】

(c) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力

(出典：平成18年度シラバス（本校 HP）より引用)

(資料 5 - 1 - ① - 1 3) 英語科の TOEIC 対策を兼ねた対話型授業

(ア) 第 1 学年 「英語表現 A」 会話を促す教材



Contents

Number	Theme	Title	Vocabulary Task	Listening Task	Real World Listening	Language Awareness	Interaction Link
1	Introductions pages 8 - 9	Hi! How are you?	Greetings	Distinguishing greetings in different situations	A woman is greeted by coworkers as she comes to work.	Word stress	Meet Your Classmates: Greeting and sharing information about personal interests
2	Personal Information pages 10 - 11	What's your address?	Contact information	Giving contact information in different situations	A customer talks to a video store clerk about renting a video.	Reduced forms in information questions	Find Someone Who...: Getting to know one another by sharing personal information
3	Lifestyle pages 12 - 13	What's in your kitchen?	Rooms and furniture	Understanding descriptors of various rooms	Two friends compare two hotel rooms and decide where to stay.	Prepositions of location: next to, on, in	My Room: Drawing a room from a classmate's description

■ Listening Task ☎ Look at the pictures. Where are they?



1 First Listening

Listen. Complete the information.

1. David 2. Kiera 3. Sarah 4. / / /
 14A Name: Street Name: Date of birth
 WA 998 @mountain.com 292- Hillview Hig
 Address Cell Phone number School

(イ) 第 1 学年 「英語表現 B」 中学英語の橋渡しを促す教材

学習プリント No. 1

日付 _____ クラス 1 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____ 提出期限 _____

LESSON 4

5 文型(1)

1 第 1 文型 (S+V) (V: 完全自動詞—補語も目的語も要しない) (CD p. 39)

主語 (S)	述語動詞 (V)	
The sun	rises	in the east. ...1
Some students	come	to school by bus. ...2

主語と述語動詞(およびこれらを修飾する語句)だけで文が成り立つ。

2 第 2 文型 (S+V+C) (V: 不完全自動詞—補語を要する) (CD p. 39)

(S)	(V)	補語 (主格補語) (C)	
She	is	a police officer.	...3
The girls	look	very happy.	...4
Her son	became	a doctor.	...5

(ウ) 第 4 学年 「英語 B」 コミュニケーション学習を促す教材

Chapter 1

At an Airport

Grammar for the TOEIC Test

() 内に適当な語句を補充しながら、「基本文型」について確認しましょう。

何は(主語) + どうする(動詞) + + α(副詞)

英語の基本文型は、「何が(主語)」+「どうする(動詞)」で始まり、「どうする(動詞)」の意味によって後に続く語句が決まります(.....の部分)。これによってできる文型を整理すると、下の表のような 5 つの文型にまとめられます。また、α(副詞: どのように、どこで、いつ、どうして)は必要に応じて、これらの文の後ろ(または文頭)に加えられます。

文型	例文
第 1 文型: S+V+α	搭乗時刻の 2 時間前にカウンターでチェックインしてください。 You should () () at the counter two hours () the boarding time.
第 2 文型: S+V+C+α	乗客たちは便の遅れにいら立った。 Passengers () irritated because their () was delayed.
第 3 文型: S+V+O+α	免税店で買い物をする時間はありますか。 Do we () time to do some () at a duty-free shop?
第 4 文型: S+V+O+O+α	パスポートを見せていただけますか。 Could you () () your passport, please?
第 5 文型: S+V+O+C+α	ワインを 1 杯飲めば、リラックスでき、いくらか眠ることができますよ。 A glass of wine would () you () and help you get some () .

Practice for the TOEIC Test

CD 7

Part 1: Listen and select the one statement that best describes what you see in the picture.



1. (A) (B) (C) (D) 2. (A) (B) (C) (D)

Part 4: Listen and select the best response to each question.

CD 8

3. Which airline will take you to Honolulu? 4. What is the situation with the flight to New York?
- (a) All Japan Airways. (a) It is departing earlier than scheduled.
 (b) United Airlines. (b) It is canceled.
 (c) Air France. (c) It is delayed.
 (d) Japan Airlines. (d) Nothing has changed.

(出典: 平成 1 8 年度英語科授業教材より抜粋)

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

(a) 混合学級の実施

- ・ 産業の高度化・多様化に伴い、企業等においても人との共同・協調が求められるようになってきている。一方、高専制度下において、これまでは一学科40名の学生が同じクラスのまま5カ年を過ごしてきた。多様な人間関係を経験させるため、平成18年度より低学年を対象に、従来の画一的な学級編成ではなく、異なる学科の学生をもって編成する混合学級制度を発足させ、幅広い人間性の涵養を諮っている。（資料5-1-②-1）
- ・ クラス運営が円滑に進むよう、混合学級運営の規則を「教員の手引き」に記載している。また学年主任を置くことでクラス間や学科間の調整が円滑になされるよう配慮している。（資料5-1-②-2）
- ・ 実施は平成18年度の1学年からである。平成19年度には2学年までが混合学級により運営されている。（資料5-1-②-3）

(b) 転学科制度

- ・ 入学後の進路変更を可能にするものとして、転学科制度がある。学年進行の中で芽生えた、学生の勉学に対する新たな興味・関心に応えるため、平成18年度にこれまでの規則を改正した。これにより、2学年または3学年で一定学力のある、強い意志をもった学生が転学科しやすい環境が整えられた。（資料5-1-②-4）

(c) 他の高等教育機関との単位互換制度

- ・ 本校で開設されている授業を、他の高等教育機関などに所属する学生にも開放するため、特別聴講学生制度を有している。（資料5-1-②-5）
- ・ 本校学生が他の高等教育機関で学ぶことができるよう、平成16年度から群馬大学工学部と単位互換協定を締結している。（資料5-1-②-6）、（資料5-1-②-7）

(d) 専攻科課程教育との連携

- ・ 学科3年の一部科目と4年と5年の全授業科目は専攻科の教育課程とともに、「生産システム環境工学プログラム」を構成しており、準学士課程5年間にわたって、一般科目、自然科学系科目、基礎工学科目、専門基礎科目、専門工学科目が系統的に配置されることにより、専攻科課程までを見据えた科目履修ができるようになっている。（資料5-1-①-4）、（資料5-1-①-5）、（資料5-1-②-8）。

(e) 課外学習サポート事業

- ・ 入学当初、中学と高専の授業形式・内容のギャップに戸惑い、学力不振に陥る学生も見受けられる。そのようなギャップを少しでも埋め、日常的な自学自習を習慣づけるため、専攻科生および5年生が科目担当教員と連絡を取り合いながら、低学年の学生の一部を対象に、彼らの課外学習をサポートしている。学校が委嘱しているものではあるが、専攻科生らもチューターとして自発的に取り組んでいる。（資料5-1-②-9）

(f) 補充教育の実施状況

- ・ 留学生に対して第3学年の編入時から、留学生補充授業と呼んでいる補講を行っている。言

語や学習履歴のちがいによるハンディキャップに配慮し、日本語演習、日本語特講、数学特講、専門特設科目などの授業科目の時間割を個別に編成している。（資料5-1-②-10）

（分析結果とその根拠理由）

学生の多様なニーズや社会の動向等に配慮し、教育課程改善に向けた多くの取り組みが組織的に実施されている。

混合学級制度は学生に多様な人間関係を経験させ、幅広い人間性を育むためのものであり、転学科制度は、進路に迷う学生に対して新たな選択肢を提供するものである。群馬大学工学部との単位互換制度は、異なった環境で学ぶ絶好の機会を提供し、学生の視野を広めることに貢献している。本校の準学士課程は、生産システム環境工学プログラムを通して、専攻科の教育課程と有機的に結びついている。課外学習サポート事業は、学力不振に悩む1、2年生の自学自習を促すとともに、チューターとなる学生の貴重な体験の場となっている。補充授業は、留学生の負っている言語や学習履歴のちがいによるハンディキャップを埋めるだけでなく、確かな信頼関係を築く上で、重要な役割を果たしている。

以上のことから、本校の準学士課程では、学生のニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対して、教育課程の編成において、適切な配慮がなされている。

(資料5-1-②-1) 混合学級の規定

第7条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	40人
電子メディア工学科	1	40人
電子情報工学科	1	40人
物 質 工 学 科	1	40人
環境都市工学科	1	40人

2 前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときには、異なる学科の学生をもって学級を編制することができる。

(出典：平成18年度「学生便覧」P.30より引用)

(資料5-1-②-2) 混合学級の運用方法

11 混合学級運営について

- (1) 入学式において、各学科入学生の氏名読み上げは、当該学科の副担任が行う。
- (2) 入学式後の科別懇談会には、副担任のみが所属学科に参列する。
- (3) 入学式後のクラス(1～5組)懇談会は、各クラスの正副担任が執り行う。
- (4) 始業日と翌日の健康診断は、クラス単位で実施する。
- (5) 記念写真は、クラスの学生・正副担任と学年主任・学校長からなる集団撮影とする。
- (6) オリエンテーションは、全クラス同一行き先であるが、現地でのクラス別行動は可とする。
- (7) 学年主任は、上記事項及びクラス運営に関わる諸事項、またクラス間の連帯などについて総括調整する。

(出典：平成18年度「教員の手引き」P.2-7/7より抜粋)

(資料5-1-②-3) 混合学級に対応した時間割

本科	月						火						水										
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	
1級	化学I (平井)	数学B 岡田	設計製図 岡田	総合製作体験 下田	英語表現A (ワカヤマ)	地理 (宇田)	国語表現 小野	数学B 岡田	数学A I 齋藤	総合英語 I 伊藤(文)	HR	伊藤(文) 重松	化学II (平井)	数学AII 齋藤	設計製図 岡田	機械工学序 M科教員	力学基礎 五十嵐	地理 (宇田)	総合英語II 伊藤(文)	国語表現 小野	体育 櫻岡	生物 (戸村)	HR
	化学I 辻	数学A I 藤田	工学実験 E科教員	谷中	地理 (宇田)	数学B 谷中	英語表現A (ワカヤマ)	力学基礎 五十嵐	総合英語 I 伊藤(文)	生物 (戸村)	HR	辻 谷中	化学II 辻	英語表現B 八鳥	工学実験 E科教員		地理 (宇田)	歴史 (新井[保])	数学B 渡辺(直)	古典 大島(由)	総合英語II 伊藤(文)	数学AII 藤田	HR
1.4級	数学A I 狩野	力学基礎 藤平	情報処理 柳田	樋口	数学B 鶴見	英語表現A (ワカヤマ)	地理 (宇田)	化学I 戸井	数学A I 狩野	国語表現 小野	HR	小野 大豆生田	生物 (戸村)	化学II 林(俱)	情報処理 柳田		国語表現 小野	化学II 林(俱)	地理 (宇田)	力学基礎 藤平	数学AII 狩野	英語表現B (遠藤)	HR
	化学I (早川)	総合英語 I 飯野	化学概論 小島	中島・出口	化学 I (早川)	歴史 (新井[保])	数学B 田部井	体育 櫻岡	力学基礎 大嶋(一)	数学A I 齋藤	HR	八鳥 田部井	化学II (早川)	生物 (戸村)	情報処理 I 小川		化学II (早川)	力学基礎 大嶋(一)	古典 大島(由)	総合英語II 飯野	数学AII 齋藤	英語表現B 八鳥	HR
5級	総合英語 I 飯野	化学I 辻	設計製図 青井	岡部・木村(清)	歴史 宮川	力学基礎 木村(清)	数学B 谷村	国語表現 小野	化学I 辻	数学AI 藤田	HR	大島(由) 谷村	国語表現 小野	総合英語II 飯野	材料学 I 古川		数学AII 藤田	古典 大島(由)	化学II 真壁	体育 櫻岡	生物 (戸村)	英語表現B 熊谷	HR

(出典：平成18年度時間割表より第1学年を引用)

(資料5-1-②-4) 転学科規則

平成18年11月14日
校長 裁定

転学科規則

(趣旨)

第1条 群馬工業高等専門学校学則第25条の3に基づき、転学科に関し必要な事項を定めるものとする。

(学年)

第2条 転学科を認める学年は、第2学年、第3学年とする。

(受入数)

第3条 各学科の受入れ数は、次のとおりとする。

- (1) 第2学年では、各学科とも概ね3名以内とする。
- (2) 第3学年では、各学科とも概ね1名以内とする。

(資格・条件)

第4条 第1学年又は第2学年に在籍し、上級学年に進級できる学生であり、かつ、学科序列が下記の条件を満たすこと。

- (1) 第1学年に在籍する者にあつては、学科序列が概ね27番以内であること。
- (2) 第2学年に在籍する者にあつては、当該学年の学科序列が概ね20番以内であること。

(願出)

第5条 転学科を希望する学生は、別紙「転学科願」を1月末までに担任を経由して校長に提出するものとする。

(面接試験)

第6条

- (1) 受入学科は、面接試験を実施するものとする。
- (2) 面接員は、校長が委嘱する。

(選考)

第7条 転学科の可否は、学科序列、面接試験結果を踏まえ、主事主任会議の議を経て校長が決定する。

(その他)

第8条

- (1) 転学科した学生には、原則として当該学生のための補講は行わない。
- (2) 再度の転学科は認めない。

附 則

- 1 本規則は、平成19年度から施行する。
- 2 転学科に関する申合わせ(校長裁定 平成16年11月2日)は廃止する。

(出典：平成18年11月教員会議資料4より抜粋)

(資料5-1-②-5) 特別聴講学生規則

(3) 特別聴講学生規則

(趣旨)

第1条 この規則は、学則第52条の規定に基づき、特別聴講学生について必要な事項を定めるものとする。

(入学資格)

第2条 他の高等専門学校、短期大学並びに大学又は外国の学生で、本校における授業科目を履修しようとする者があるときは、当該他大学等との協議に基づき、特別聴講学生として受入れることができる。

(入学時期)

第3条 特別聴講学生の入学の時期は、原則として、学年又は学期の始めとする。

(単位の認定方法)

第8条 履修科目に係る単位の認定方法は、群馬工業高等専門学校学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定に関する内規（昭和62年4月1日制定）を準用する。

(単位取得証明書)

第9条 特別聴講学生が所定の授業科目を履修し、単位を取得したときは、所属する大学等に単位取得等証明書を交付するものとする。

(出典：平成18年度「学生便覧」PP.90-91より抜粋)

(資料5-1-②-6) 他高等教育機関との単位互換制度

群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校 との間における単位互換に関する協定書

群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校は、教育研究交流促進の一環として、学生の学習環境を充実するため、単位互換に関し、次のとおり協定する。

- 1 受入れ身分、入学資格、履修できる授業科目・単位数、履修手続、成績の評価及び単位の認定方法等に関しては、別紙1「群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校との間における単位互換に関する実施要領」（以下「実施要領」という。）の定めるところによる。
- 2 「実施要領」に関する取扱いについては、別紙2「群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校との間における単位互換に関する事務取扱要領」の定めるところによる。
- 3 この協定の改廃、疑義については、その都度協議するものとする。

上記協定の証として、協定書2通を作成し、双方は各1通を所持するものとする。

(出典：平成15年度教務資料より)

(資料 5-1-②-7) 他高等教育機関との単位互換制度実績例

平成17年7月4日

専攻科生 各位
5年生 各位

教務主事
専攻科長

工学部特別聴講学生募集の
お知らせ

工学部後期の授業が10月3日(月)から始まりますが受講希望学生は9月5日(月)までに教務係窓口で開講授業科目一覧を閲覧し、申し込み書を提出して下さい。
なお、授業は工学部(桐生キャンパス)で毎週受講することになりますので留意して下さい。

平成17年度馬大学工学部単位互換特別聴講学生出願者

機械工学科 5年

99115 ■ エネルギー変換工学

99123 ■ エネルギー変換工学

以上

平成17年度

群馬大学工学部特別聴講学生単位認定者

機械工学科 5年

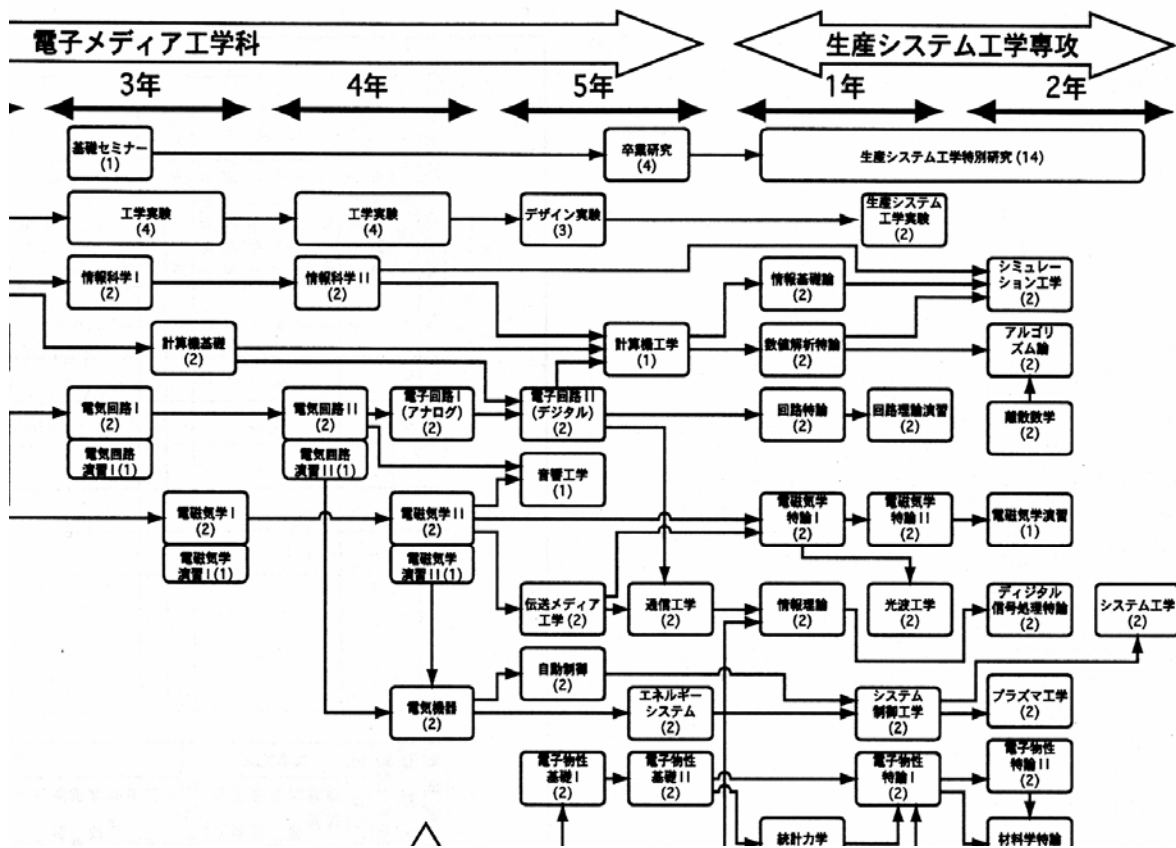
99115 ■ エネルギー変換工学 2単位

99123 ■ エネルギー変換工学 2単位

以上

(出典：平成17年度教務資料より作成)

(資料 5-1-②-8) JABEE 対応プログラムに基づく専攻科科目との連携系統図



(出典：電子メディア工学科HPより抜粋引用)

(資料 5 - 1 - ② - 9) 専攻科生による学科学生の課外学習サポート

18年11月6日
教務委員会資料№1

平成18年度 課外学習

チューター実施要項

平成17年9月

1. 目的

一般自然系(主として数学)の成績不振な低学年(1・2年生)学生の学力向上を図るとともに、自学自習(復習)の習慣を身に付けさせることを目的に、高学年(5年生)・専攻科(1・2年生)学生の指導による課外学習を行う。

2. 課外学習学生およびチューターの選出等

- (1) 課外学習学生(以下「学習学生」という。)は、1、2年各クラス正副担任が一般自然系教科の前期総合成績不良(合格点未満)学生及び保護者との面談などにより決定する。
- (2) チューターは、各科5年生正副担任及び各専攻科主任が協力(希望)者の募集や協力依頼により選定(5年生は各科1名、専攻科1・2年生は出身各科1名)し、学校が委嘱する。
- (3) 謝金 チューターへの謝金は、1回1,640円とする。

3. 課外学習内容等

- (1) 課外学習教科
1年生は、数学AⅠ・AⅡ・B及び化学Ⅰ・Ⅱ、2年生は、数学AⅠ・AⅡ・B及び物理Ⅰ・Ⅱとし、前期授業で学んだ内容を中心に学習する。なお、学習クラスは、クラス単位を基本とするが、学生数などの大幅なアンバランスは是正する。
- (2) チューターの担当クラス
5年生及び専攻科1・2年生チューターは、それぞれ同科1年生及び2年生を担当する。なお、チューターは、担当クラス正副担任と事前に話し合いをもつことにより、学習学生に関する担任指導状況などを把握する。
- (3) 曜日・時間帯
原則として毎週水曜日14:00~15:30(1.5時間)とし、10月下旬の水曜日から後期期末試験前週・水曜日まで実施(後期中間試験前週及び冬休みの水曜日は除く)する。
- (4) 学習形態
課題等を自学自習(復習)させ、学習当日における質疑応答を基本とする。なお、チューターは、各クラス数学・理科担当教員(非常勤講師を含む。)を毎学習前或いは後に訪問し、課題等の内容や量などに関する相談や助言を得る。

(5) 学習状況

チューターは、学習日ごとに学習学生一人ひとりのやる気(出席・姿勢)、自学自習状況などをクラス正(副)担任に報告する。なお、クラス正(副)担任は、必要に応じて学習学生さらには保護者との面談を行う。

(6) 報告書

課外学習終了後、学習学生は、勉学(自学自習)姿勢・成果などに関する自己評価報告書を、またチューターは、学習学生・学習内容・学習指導形態などに関する報告書を提出する。

(7) 連絡・調整

教務専門委員は、適宜、チューターの相談に応じるとともに、学習学生、各クラス担任や数学・理科担当教員(非常勤講師を含む。)相互間の連絡・調整などを行う。

課外学習学生のクラス担任教員(敬称略)

	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5
正担任	伊藤(文)	辻	小野	八鳥	大島(由)
副担任	重松	谷中	大豆生田	田部井	谷村

	2M	2E	2J	2K	2C
正担任	横山	狩野	辻川	神長	竹島
副担任	小川	楢井	木村(真)	藤重	江口

課外学習学生クラスの教科担当教員(敬称略)

	数学B	数学AⅠ	化学Ⅰ	力学基礎
1-1	岡田(M)	斎藤	(平井)	小川(M)
1-2	谷中(E)	藤田	辻	五十嵐
1-3	鶴見(J)	狩野	戸井	藤平(J)
1-4	田部井(K)	斎藤	(早川)	大嶋[-](E)
1-5	谷村(C)	藤田	辻	木村(C)

	数学B	数学AⅠ	物理Ⅰ	
2M	(村崎)	谷口	五十嵐	
2E	鈴木[福]	(沼田)	狩野	
2J	(村崎)	神長	辻川	
2K	藤田	神長	(玉置)	
2C	藤田	谷口	(玉置)	

(出典：平成18年11月教員会議資料1より抜粋)

(資料5-1-②-10) 留学生補充授業用時間割と担当教員

(ア) 3年機械工学科留学生時間割

平成18年度

3M

区分	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
科目名	総合英語 I	体育	機構学		※数学特講
担当教員	熊谷	(柳川)	重松		神長
場所	3M教室	グランド・体育館	3M教室		1-201
科目名	電気工学概論	数学A I	材料力学	設計製図	
担当教員	樫本	鈴木福	黒瀬	樫本	
場所	3M教室	3M教室	3M教室	情報処理センター	
科目名	数学A I	工作実習	HR	※日本語特講	
担当教員	鈴木福	安田	安田・熊谷	(新井)	
場所	3M教室	実習工場	3M教室	1-201	
科目名	情報処理 I	※日本語演習	数学B	応用物理 I	
担当教員	樫本	小野	吉田	狩野	
場所	情報処理センター	1-201	3M教室	3M教室	
科目名	総合英語 I	※機械工学特講	工業力学		
担当教員	熊谷	M科教員	岡田		
場所	3M教室	M科教室	3M教室		

(イ) 機械工学科担当教員割当表

学期	回	日付	曜日	時限	担当教員	備考
前期 (政経ウラ)		4月7日	金	34時限	*****	健康診断・身体測定
	1	4月14日	金	34時限	金子	
	2	4月21日	金	34時限	樫本	
	3	4月28日	金	34時限	樫本	
	4	5月12日	金	34時限	樫本	
	5	5月19日	金	34時限	樫本	
	6	5月26日	金	34時限	重松	
		6月2日	金	34時限	*****	前期中間試験
	7	6月9日	金	34時限	重松	
	8	6月16日	金	34時限	重松	
		6月23日	金	34時限	*****	球技大会
	9	6月30日	金	34時限	岡田	球技大会予備日
	10	7月7日	金	34時限	岡田	
	11	7月14日	金	34時限	岡田	
	12	9月1日	金	34時限	高橋	
13	9月8日	金	34時限	金子		
14	9月15日	金	34時限	金子		
	9月22日	金	34時限	*****	前期定期試験	
	9月29日	金	34時限	*****	前期定期試験	
学期	回	日付	曜日	時限	担当教員	備考/工学実験テーマ
後期 (倫理ウラ)	15	10月5日	木	78時限	安田	テーマ2
		10月12日	木	78時限	*****	3年合宿研修
	16	10月19日	木	78時限	下田	テーマ3
	17	10月26日	木	78時限	黒瀬	テーマ3
	18	11月2日	木	78時限	黒瀬	テーマ3
	19	11月9日	木	78時限	黒瀬	テーマ3
	20	11月16日	木	78時限	石澤	テーマ3
		11月30日	木	78時限	*****	後期中間試験
	21	12月7日	木	78時限	石澤	テーマ3
	22	12月14日	木	78時限	石澤	テーマ3
	23	12月21日	木	78時限	櫻井	テーマ4
	24	1月11日	木	78時限	櫻井	テーマ4
	25	1月18日	木	78時限	櫻井	テーマ4
	26	1月25日	木	78時限	安田	テーマ4
	27	2月1日	木	78時限	安田	テーマ4
28	2月8日	木	78時限	安田	テーマ4	
29	2月15日	木	78時限	安田	テーマ4	
	2月22日	木	78時限	*****	後期定期試験	

(出典：平成18年度教務資料および機械工学科担任作成資料)

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

(a) 授業形態のバランス

- 教育の目的ごとに、バランスのとれた特色ある授業形態となっている。学習教育目標(A)の「倫理・教養」の育成については、主に一般科目（人文系）が該当し、人文系の講義および保健体育などの実習が中心となっている。学習教育目標(B)の「幅広い工学基礎の知識」の育成については、主に一般科目（自然系）および専門科目が該当し、講義が中心となっている。学習教育目標(C)の「専門分野の知識」の育成について、主に専門科目が該当し、講義、演習、実験、実習がバランスよく配置されている。学習教育目標(D)の「システムをデザインする基礎能力」の育成には、主に専門科目が該当し、演習、実験・実習、卒業研究が中心となっている。また学科ごとに、バランスが適切に考慮されている。学習教育目標(E)の「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力」の育成には、主に一般科目（人文系）の講義および演習が中心となっている。

（資料5-2-①-1）

(b) 学習指導法の工夫

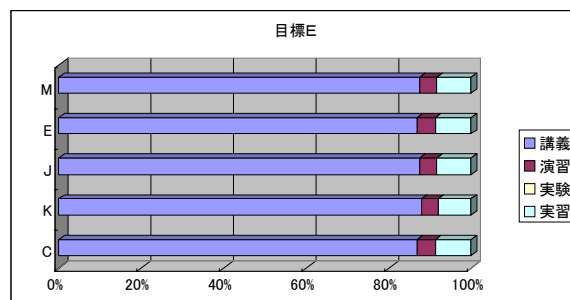
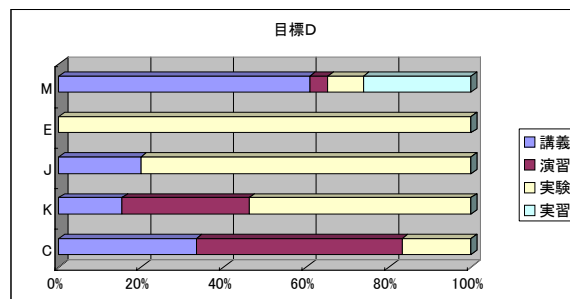
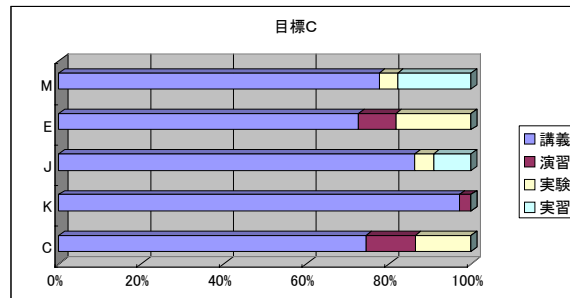
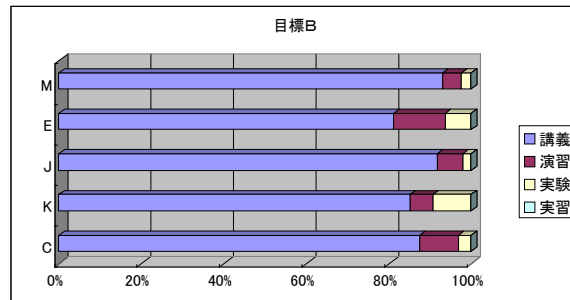
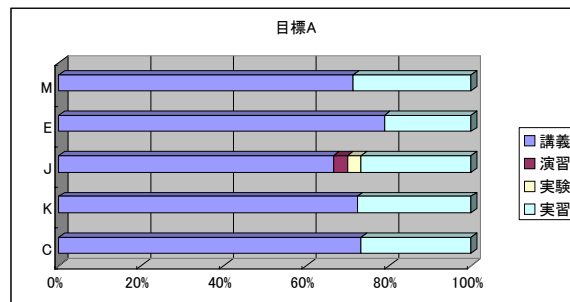
- 個々の授業科目の主な形態は講義、演習、実験、実習などに分類されるが、学習教育目標に応じて適切な授業形態が織り込まれており、工夫がなされている。また科目ごとに、学習指導方法や教材なども工夫されている。
- 例として、講義科目に実習的な要素を取り入れ教材が工夫された授業科目として、1年共通科目の「国語表現」が挙げられる。学習教育目標(E)の「コミュニケーション能力」の育成を達成すべく、講義以外に読むべき図書としての読書課題図書を4冊指定し、読書の確認として定期試験で図書の内容に関する簡単な質問を設定している。（資料5-2-①-2）
- 講義科目に実験を取り入れ、教材や授業形態が工夫されている例として、電子情報工学科5年生を対象とした「電子工学特論Ⅱ」が挙げられる。学習教育目標(C)の「専門的な知識」の習得を達成すべく、GPSの理論を講義で行い、その後学生一人一人にGPSを2週間程度使わせ実験をさせている。様々な技術的要素が総合的に集積した事例としてGPSを取り上げ、それらの要素技術が実際の総合技術の中でいかに活用されているかを学び、更に実験によって個々の技術に関する知識を実体験を通して身につけさせている。（資料5-2-①-3）

（分析結果とその根拠理由）

学習教育目標に適した形態がとられ、カリキュラムが編成されている。専門科目では、講義、実験、演習などが、その教育目的にあわせ、バランスよく配置されている。また、講義、実験、実習などの配分が適切に工夫された授業も、学習教育目標に応じて用意されている。また、科目ごとに学習指導方法や教材が工夫されている。

以上のことから、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料5-2-①-1 学習教育目標ごとの授業形態



(出典：シラバスより)

資料5-2-①-2 学習法の工夫の例1

- 一年「国語表現」後期末試験 問題用紙 一九・二・二二 小野
- 1、次の文のカタカナを漢字に直せ。
- ①機械のカドウ時間を増やす。 ②もうカンニンできない。 ③暴風雨でコウズイになる。
④「対一のキンコウを破る。 ⑤道路がジユウタイする。 ⑥外出前にケシヨウをする。
- 2、次の課題図書に対する問題の答えを後の選択肢から選んで記号で答えよ。
- ①「停電の夜」で、停電の間、二人は何をしたか。
ア、結婚の約束 イ、秘密の告白 ウ、殺人の計画 エ、電灯の修理 オ、心中の相談
- ②「ビルサダさんが食事してきたころ」で、ビルサダさんが心配していたことは何か。
ア、祖国の内乱 イ、地球温暖化 ウ、明日の天気 エ、期末テスト オ、停電
- ③「病気の通訳」で、ダス夫人が運転手に打ち明けたことは何か。
ア、自分の国籍 イ、余命 ウ、恋心 エ、将来の希望 オ、子供の父親
- ④「本物の門番」で、ブリー・マーが疑われたことは何か。
ア、性別 イ、門の破損 ウ、落書き エ、泥棒の手引き オ、殺人
- ⑤「セクシー」で、主題となっている事柄は何か。
ア、ダンス イ、初恋 ウ、試験 エ、就職 オ、不倫
- ⑥「セン夫人の家」で、セン夫人の仕事は何か。
ア、ベビーシッター イ、教師 ウ、花屋の店員 エ、警察官 オ、看護士
- ⑦「神の恵みの家」で、問題になっている宗教は何か。
ア、仏教 イ、キリスト教 ウ、イスラム教 エ、ユダヤ教 オ、ゾロアスター教
- ⑧「ビビ・ハルターの治療」で、ビビは何によって「治った」のか。
ア、薬 イ、運動 ウ、移植 エ、手術 オ、出産
- ⑨「三度目で最後の大陸」で、主人公の職業は何か。
ア、コンビニの店員 イ、水夫 ウ、パイロット エ、図書館の職員 オ、電気工事士
- ⑩短編集『停電の夜』で何篇かの作品に共通するテーマは何か。
ア、蠟燭 イ、科学 ウ、日本 エ、殺人 オ、結婚

(出典：期末試験問題 1年生共通科目「国語表現」)

資料5-2-①-3 学習法の工夫の例2

平成18年度電子工学特論Ⅱ GPS演習課題070116

1. 全般的並びに留意事項

1. 演習目的：GPS受信機を用いて測位データの取得・考察を通じ、衛星測位に関する理解を深める。
2. 演習要領：一人1台ずつGPS受信機を貸与するので、以下に示す手順でデータ収集する。
貸与日：1月16日（火）授業中に配布、一部の人は授業後に研究室に取りに来る
返却日：1月30日（火）授業中に回収します
3. PCにフリーソフト「カシミール3D」をインストールし、得られたGPSデータをこれにダウンロードする。群馬高専校内の詳細地図が必要なときは研究室まで取りに来ること。

「カシミール3D」ダウンロードサイト <http://www.kashmir3d.com/index.html>
4. レポート作成要領：表紙に、①（タイトル）「平成18年度電子工学特論Ⅱ GPS測位演習」、②学籍番号、③氏名、④データ収集年月日及び取得時間帯、⑤レポート作成年月日、各々を記し、本文に添付すること。
5. レポート提出形態期限：2007年2月6日（火）17:00 研究室のレポートボックスまで

備考：後期は定期試験のほか、このレポートのウェイトが大なので、必ず全員課題を履行すること。

（出典：配布資料 電子情報工学科5年「電子工学特論Ⅱ」）

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

(a) シラバスの作成

- ・ 準学士課程のシラバスは、平成18年度から準学士課程および専攻科課程をあわせたCD-ROMの形で学生一人一人に配布している。これらのシラバスは、群馬高専ウェブサイトで広く公開されており自由に閲覧できる。
- ・ 科目ごとに「授業目標・教育方針」，「授業概要」，「成績評価方法」および「授業計画」などが示されている。また各授業科目が本校の「学習・教育目標」(A)から(E)のどの項目に主に該当するかが明示されている。(資料5-2-②-1)
- ・ シラバスは各科目担当教員により、記載すべき項目が指示された「シラバス作成マニュアル」に従って作成されている。(資料5-2-②-2)

(b) シラバスの活用

- ・ 全学生を対象としたシラバス活用に関するアンケート結果から、以下のことが明らかとなった。4種類の全ての質問項目で、「シラバスを活用した」と答えた学生が「活用していない」と答えた学生を下回った。つまり、シラバスを活用していない学生が多い。成績評価の確認にシラバスを活用している学生がもっとも多く、全体の約1/3に達している。(資料5-2-②-3)
- ・ 全教員対象にシラバス活用に関するアンケートから以下のことが明らかとなった。4種類全ての質問項目で、「シラバスを活用した」と答えた教員が大多数を占めている。教員は概ねシラバスを活用している。授業開始時期に授業内容の確認、授業実施中には進捗の確認、また成績評価方法の確認などに活用している教員が多い。(資料5-2-②-4)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスは、教育課程に沿って、授業の学習目標や授業計画、評価方法などが明らかになるように作成され、学生一人一人に配布されている。また、群馬高専ウェブサイトを通して広く公開されている。授業科目の授業内容・進捗、評価方法などの確認のため、シラバスが各教員によって活用されている。また、学生は主に評価方法の確認についてシラバスを活用している。

以上のことから、教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されている。

資料 5-2-②-1 シラバスの例

国立群馬工業高等専門学校 2006 年度シラバス 4000420061Y2/20060327

(科目コード: 4000420061Y2)

【科目】化学 I

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】前期・2 単位

【対象学科・専攻】2 組・1 年次

【担当教員】

辻 和秀

平 靖之

【授業目標・教育方針】

1. 物質量 (モル) の概念を理解し、これを用いて実用的な計算ができるようにする。
2. 高校程度の化学の知識は今後生きていくために必須であり、これを学び身につける。
3. 化学を通して自然科学的なものの見方を学び、これをそれぞれの専門分野に活かせるようにする。

【授業概要】

1. 物質の基本単位としての原子を導入する。原子と原子式、分子と分子式、イオンとイオン式および組成式について学び、化学反応式の書き方を学ぶ。
2. モル (物質量) について学ぶ。化学反応における量的関係についてモルを用いて考える。
3. 化学反応におけるエネルギー保存則、熱エネルギーの吸収と放出について学ぶ。熱化学方程式、ヘスの法則を学ぶ。
4. 酸・塩基のいろいろな定義について学ぶ。電離度と酸・塩基の強弱について学ぶ。水素イオン濃度と水素イオン指数 (pH) について学ぶ。そして、中和反応および中和滴定について学ぶ。
5. 酸化還元反応の定義について学ぶ。酸化数を導入し酸化数の変化による酸化還元反応の見方を学ぶ。酸化剤と還元剤の反応式の書き方を学ぶ。金属のイオン化傾向について学ぶ。イオン化傾向に基づいて電池のメカニズムを学ぶ。電気分解およびファラデーの法則について学ぶ。
6. 無機化合物について学ぶ。元素の性質を周期表と関連づけて理解する。水素や酸素といった基本的な無機化合物に関する性質を学ぶ。代表的な金属と遷移金属の性質を学習する。

【教科書・教材・参考書等】

教科書: 高等学校検定教科書「化学 I」三省堂

参考書: 最新図説化学 第一学習社

化学 I の基本練習 啓林館

ニューグローバル化学 I II 東京書籍

【成績評価方法】

【前期】中間試験: 40%, 期末試験: 40%, レポート: 20%, その他: 小テスト、実験レポート、宿題など合計してレポート点 (20%) とする。

【本校の学習・教育目標】

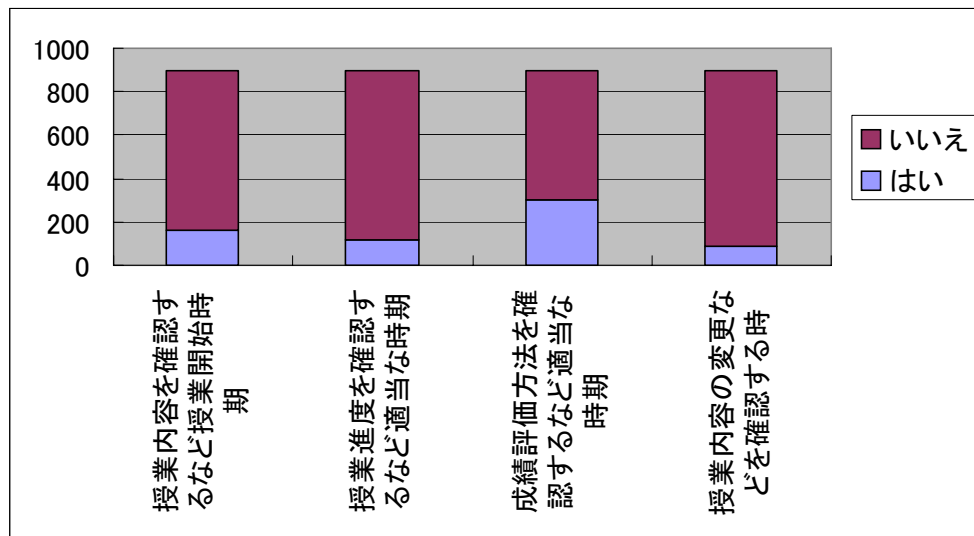
◎ (B) 技術的課題解決のための幅広い工学基礎の知識を身につける。

【授業計画】 (授業名: 化学 I)

回数	授業の主題	内容	レポート・宿題等
1	物質の構成	身の回りの化学、元素、化合物	
1	物質の構成	原子の構造、イオン	
1	物質の構成	イオン結合、共有結合	
1	物質の構成	金属、原子量、分子量	
1	物質の構成	物質量とアボガドロ数	
1	物質の構成	モル濃度	
1	物質の構成	化学反応式	
1	物質の構成	化学反応式の練習問題	
1	物質の構成	熱エネルギー	
1	物質の構成	熱化学方程式	
1	物質の構成	熱化学方程式とヘスの法則	
1	物質の構成	ヘスの法則	
1	実験	ヘスの法則	
1	中間試験	中間試験	
1	物質の変化	酸と塩基の定義	

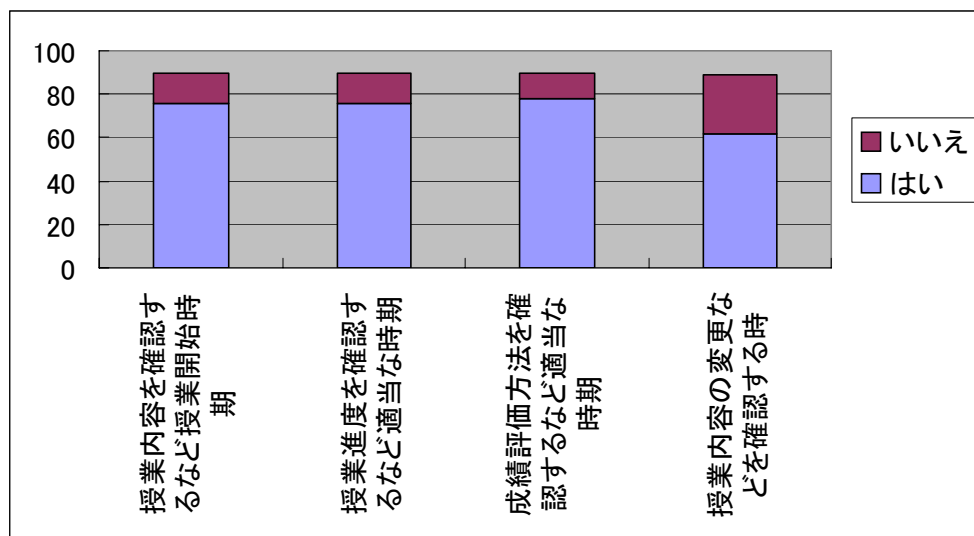
(出典: 群馬工業高等専門学校 2006 シラバス)

資料5-2-②-3 学生によるシラバスの活用について



(出典：群馬高専の教育に関するアンケート，平成19年2月実施)

資料5-2-②-4 教員のシラバスの活用について



(出典：平成19年2月教育に関するアンケートより作成)

観点 5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

（a）創造性を育む教育方法

- PBL（問題解決型授業）などの創造性を育む教育方法の工夫は、学習・教育目標（D）の該当科目で主に行われている。実験系科目の中でも、特にひとつの課題に対して学生が自ら解決を目指し実験計画を工夫・立案するような授業科目が該当する。このような、PBL型の授業科目が高学年に配置されている。
- 例えば、環境都市工学科 4 年「環境都市工学実験実習」では、爪楊枝を用いて、橋を定められた形式でつくらせ、性能評価実験をし、更にその結果をもとに今度は自由形式で設計製作させ、更に評価実験をすることで、問題解決能力を育てている。二度の評価実験は、設計グループごとにコンテスト形式になっており、学生のやる気を引き出している。（資料 5-2-③-1、資料 5-2-③-2）
- 電子メディア工学科 5 年「デザイン実験」では、各班がテーマを自ら設定し、班内で分担を決め、仕様の策定、予備実験、特性試験・製作などを協同して行うことにより、学生の創造性を育む工夫がなされている。授業当初には、「いかに部品を購入するか」を体験するため秋葉原電子パーツ購入実習も行われ、また、成績評価には同じ班に属する学生によるグループ内相互評価も導入している。（資料 5-2-③-3）

（分析結果とその根拠理由）

創造性を育む教育として PBL 型の授業が、高学年の実験科目を中心に配置され活用されている。これらの授業科目では自ら問題を設定し、または設定された問題を自らの力で工夫し解決することが目的とされている。以上のように、創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫が行われている。

資料 5-2-③-1 創造性を養うための学習指導方法の工夫例 1

3. 実験室のスペース等を考慮すると、クラス全体での実験実習は不可能である。そのため、A、Bのグループに分割し、一方を実験、もう一方をブリッジコンテストとし、翌週に両者を交代させるスタイルで授業を実施していく。実験については、両端単純支持梁や片持梁といった最も基本的な梁について、たわみやたわみ角、曲げ応力などを測定する。測定値と、講義で学んだ解析理論に基づく理論値との比較考察を行う。長柱の座屈実験については、柱のひずみを計測し、得られた荷重-ひずみ関係のデータを Southwell や Donnell の方法に従って整理し直すことにより座屈荷重の実験値を求める。さらに実験値と理論値とを比較考察する。ブリッジコンテストは、つまようじ等を材料とし、第1部では、定められた形式（ハウトラス or プラットトラス）で、スパン 15cm 以上、自重 30g 以内の橋を製作する。製作後、荷重載荷実験を行う。第2部では、自由形式とし、スパン 30cm 以上とし、桧材、たこ糸を限量使用して、橋を製作する。製作後、荷重載荷実験を行う。2回の製作・載荷実験を通じて、構造力学の基本事項、特に、トラス構造等を深く取得することを目指す。

（出典：平成 18 年度シラバス 環境都市工学科 4 年「環境都市工学実験実習」）

資料5-2-③-2 創造性を養うための授業の教材例1

平成18年12月22日

4C 環境都市工学科実験実習(構造実験)

第1回ブリッジコンテスト

載荷装置重量(1085g)

チームメンバー	自重 (g)	耐荷力 (g)	性能指標※	順位
■■■■■	23	16000	742.8	14
■■■■■	25	18000	763.4	10
■■■■■	23	28000	1047.2	3
■■■■■	26	21000	849.4	8
■■■■■	24	17000	753.5	13
■■■■■	25	18000	763.4	10

平成19年2月15日

4C 環境都市工学科実験実習(構造実験)

第2回ブリッジコンテスト

載荷装置重量(1112g)

チームメンバー	自重 (g)	耐荷力 (g)	性能指標※	順位
(3) ■■■■■	40	8000	227.8	16
(2) ■■■■■	50	18000	382.2	10
(1) ■■■■■	49	19000	410.4	8
(10) ■■■■■	41	12000	319.8	13
(16) ■■■■■	42	20000	502.7	2
(10) ■■■■■	49	23000	492.1	3

(出典：掲示資料 環境都市工学科4年「環境都市工学実験実習」)

資料5-2-③-3 創造性を養うための授業の教材例2

2007年1月19日

デザイン実験 実施計画

1. 前期スケジュール

準備第1回 1月19日(金) 12時50分～13時30分

説明会&希望分野アンケート

準備第2回 1月26日(金) 14時30分～16時

グループに分かれて計画作成。

準備第3回 2月2日(金) 仕様作成。

準備第4回 2月9日(金) 秋葉原へ買出ツアー

(授業開始日 4月9日(月))

第1回 4月13日(金) 午前 試作・試験・改良・(計画・仕様の練直し)

第2回 4月20日(金) 午前 試作・試験・改良・(計画・仕様の練直し)

第3回 4月27日(金) 午前 試作・試験・改良・(計画・仕様の練直し)

第4回 5月11日(金) 午前 試作・試験・改良・発表準備

第5回 5月18日(金) 午前 中間発表会

第6回 5月25日(金) 午前 試作・試験・改良

(中間試験 5月30日(水)～6月5日(火))

第7回 6月8日(金) 午前 試作・試験・改良

第8回 6月15日(金) 午前 試作・試験・改良

第9回 6月22日(金) 午前 試作・試験・改良

第10回 6月29日(金) 午前 試作・試験・改良

第11回 7月6日(金) 午前 試作・試験・改良

第12回 7月13日(金) 午前 試作・試験・改良

第13回 7月20日(金) 午前 完成・発表準備

(前期試験 7月25日(水)～7月31日(火))

第14回 8月3日(金) 午前 発表会

(夏季休業 8月8日(水)～9月下旬)

2. 実習時間における行動

時間初めに電子メディア工房に集合、出欠を受ける。

仕様を設定し、役割分担をきめ、材料を集め、予備実験、製作、動作確認、特性試験、組み立て、総合的な動作確認を実施する。この流れは1回で完結するものでなく、動作確認等で期待する結果が得られないときには、仕様の見直し等の途中のプロセスを繰返すことにより、完成度の高い物に近づけることになる。

各回毎に グループ単位で実施報告書を提出する。

3. 秋葉原買出しツアー

9時30分 群馬高専・正面玄関前ロータリーを出発
 11時30分(予定) 秋葉原到着
 パーツの調達
 15時30分 秋葉原出発
 17時30分(予定) 群馬高専到着

(出典：配付資料 電子メディア工学科「デザイン実験」)

観点 5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(a) 規定の組織的な策定

- ・ 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定については、「学業成績の評価等に関する内規」として策定されている。(資料 5-3-①-1)
- ・ その規程は全教員に氏名入りで配布される教員の手引きにも記載され、教職員が日常的に利用できるようになっている。成績は、定期試験等を総合して、100点法により評価され、60点以上の場合に単位が認定される。(資料 5-3-①-2)

(b) 規定の学生への周知

- ・ 毎年、全学生に配布される「学生便覧」に記載している。新学期のホームルームにおいて担任教員を通して、また各科目担当教員が授業開始当初に行うシラバスなどを用いたガイダンスを通して周知されている。(資料 5-3-①-2, 資料 5-3-①-3)
- ・ 実技科目や選択科目における欠課時数に関する規定の周知は一覧表を配布して説明し、特別活動についても「学生便覧」に記載して、必修であることを認識させている。(資料 5-3-①-4, 資料 5-3-①-5)
- ・ 周知状況は、アンケートの結果から、成績の評価、単位の認定についての認識は全体として高いものの、卒業認定の認識は低学年で低いことがわかる。(資料 5-3-①-6)

(c) 規定の運用

- ・ 成績評価方法は、卒業研究を含む全ての科目についてシラバスに記載している。(資料 5-3-①-7)
- ・ 止むを得ない場合、学生の理解度や状況に合わせて学習内容の変更を認めている。このとき、修正シラバスを配布するなどして変更内容を明確するよう求めており、これにしたがって、6割近い教員が修正シラバスにより授業内容の変更を行っている。(資料 5-3-①-8)
- ・ 成績評価は、シラバスに記載した評価方法にしたがって、評価の内訳を明確にし、また、3年の一部科目と4・5年の全科目については根拠となる答案の保管を義務付けるなどして、厳格に実施している。(資料 5-3-①-9)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価等の規定は「学業成績の評価等に関する内規」として学則に定められ、「学生便覧」に記載することにより、学生に周知されている。また、「教員の手引き」にも記載され、教員が日常的に確認ができるようになっている。

単位取得や学年修了の認定などは全教員の出席する「教員会議」の審議を経て、学校長が決定する仕組みが整っている。成績評価についても、評価の内訳などを明確にし、根拠となる答案を保管するなどしてその厳格性、公平性が保たれている。

以上のことから、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されており、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適正に実施されている。

(資料5-3-①-1) 学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する内規

昭和62年4月1日制定
平成18年3月13日最終改正

(定期試験・中間試験)

第1条 定期試験は、各学期末に行う。

2 前項に定める試験のほか、学芸の教授及び指導の参考に資するため、各学期の中間に試験(以下「中間試験」という。)を行うことがある。

第2条 定期試験の追試験は、病気その他やむを得ないと認められる理由により定期試験又は中間試験を受験できなかった場合、願出により校長が許可することがある

2 追試験許可願は、病気の場合は原則として医師の診断書、その他の場合はその理由を付して学級担任教員の承認を得た後、科目担当教員の承認を経て教務係に提出する。

3 追試験許可願の提出は、原則として当該科目の試験終了後1週間以内とする。

4 追試験は、原則として当該科目の試験終了後2週間以内に科目担当教員の責任において行う。

<中略>

(成績評価)

第5条 中間成績及び学期成績は、それぞれの試験成績、報告書及び論文、平素の学習状況等を総合して、各科目ごとに評価する。なお、学期成績は中間成績も考慮する。

第6条 成績評価は、100点法によって行う。

<中略>

第13条 第4条に規定する再々試験の評点が60点未満のときは、当該科目の単位の修得は認めない。

<中略>

(3年生共通試験)

第15条の3 3年生共通試験は第3学年に行う。23年生共通試験は数学及び理科の2科目について実施し、合格基準60点とする。

<中略>

(課程修了認定)

第16条 各学年の課程修了認定は、教員会議の議を経て校長がこれを行う。

第17条 欠席目数が年間58目を超えた者及び第10条の規定に該当する必修科目がある者は、当該学年の課程修了を認めず原学年に留める。ただし、校長が特に認めた場合においてはこの限りでない。

<中略>

(卒業認定)

第23条 卒業の認定は、教員会議の議を経て校長がこれを行う。

第24条 卒業の認定は、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上、かつ合計して167単位以上の単位を修得した者を対象とする。ただし、単位取得不能な未修得科目が1科目の場合は、その科目の単位を3単位を限度として、他の科目又は本校で認定した単位をもつて代えることができる。この場合において、取得不能な単位数が専門科目3単位である場合は、少なくとも1単位は専門科目の中で代えるものとする。

2 編入学した者及び転入学した者にあつては、前項の卒業認定単位数から編・転入学前の全学年における所属学科の最低履修単位数を減じた単位数とする。なお、単位取得不能な未取得科目の取り扱いは、前号のただし書きを準用する。

(選択必修科目及び選択科目の履修に関する届の提出)

第25条 選択必修科目及び選択科目を履修しようとする者は当該科目の授業開始日から3週間以内に履修届を科目担当教員に提出するとともに、選択科目の一覧表を学級担任教員に提出するものとする。

2 後期のみ開設される科目を履修する場合も前項と同様とする。

(出典：平成18年度「教員業務の手引き」より引用)

(資料 5 - 3 - ① - 2) 成績評価並びに課程修了及び卒業認定等に関する内規と周知

4. 教 務 関 係

(1) 学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する内規

(定期試験・中間試験)

第1条 定期試験は、各学期末に行う。

2 前項に定める試験のほか、学芸の教授及び指導の参考に資するため、各学期の中間に試験（以下「中間試験」という。）を行うことがある。

第2条 定期試験の追試験は、病気その他やむを得ないと認められる理由により定期又は中間試験を受験できなかった場合、願出により校長が許可することがある。

2 追試験許可願は、病気の場合は原則として医師の診断書、その他の場合はその理由を付して学級担任教員の確認を得た後、科目担当教員の承認を経て教務係に提出する。

3 追試験許可願の提出は、原則として当該科目の試験終了後1週間以内とする。

4 追試験は、原則として当該科目の試験終了後2週間以内に科目担当教員の責任において行う。

第3条 学年成績において60点未満の科目の再試験は、次の各号のいずれかに該当する場合には、第3条の2の規定に反しない限り、願出により教員会議の議を経て、校長が許可することがある。

(1) 前期のみで終了して学年成績とする科目（以下「前期終了科目」という。）については、60点未満の必修科目が4科目以内であること。

(2) 前項に該当しない必修科目については、学年成績において60点未満の必修科目が4科目以内であること。ただし、前期終了科目に未修得科目がある場合は、これを含めても4科目以内であること。

(3) 学年成績において、60点未満の選択科目は、卒業に必要な最低修得単位数に関わる場合のみ、前号の科目数と合わせて4科目以内であること。なお、4年次に履修した選択科目も再試験の受験科目とすることができる。

第3条の2 第3条に規定する再試験は、同一科目について当該年度1回限りとする。

2 第10条に該当する場合及び別に定める実技科目においては、再試験は認めない。

第3条の3 第3条に規定する再試験は次の各号に定める期間に実施する。

(1) 必修科目のうち前期終了科目については、10月上旬から1月末日の間

(2) 前号に該当しない科目については3月

第4条 第3条に規定する再試験を受験し、未修得科目があつて進級した者について

(出典：平成18年度「学生便覧」P.103より引用)

(資料 5 - 3 - ① - 3) 学生への成績評価規定の周知方法の指導例

4月7日(木)

1. HR (各教室) 8:50～

(1) 時間割、授業・行事計画表の配布と説明【別紙2】 (2) 学級内の「一日の仕事」の説明【別紙3】

(3) 学級の各種委員の選出【別紙4】 (4) 実技科目、選択科目の説明【別紙5】

(5) 選択科目の履修と一覧表について(4、5年生のみ)【別紙6】 (6) 教室清掃分担の説明【別紙7】

(7) その他

※途中、担任の指示に従って健康診断会場へ移動。

2. HR (各教室) 12:50～

(1) 明日からの注意事項 (2) その他 (3) 健康診断会場へ移動(担任指導)

(出典：平成18年度学年始業時配付資料より一部抜粋)

(資料 5-3-①-4) 実技科目の評価規定の周知例

平成 18 年度 実技科目一覧表

別紙 5

◎内規第 10 条により学年成績が 0 点となる欠課時数は下表のとおりである。

科	科目名	学年	単位	学年成績が 0 点となる欠課時数	期間	備考
人文	保健体育	1~5	各 2	16 (時間) 以上	通年	
M	工作実習	1	3	2 3 //	通年	
		2	4	3 1 //	通年	
		3	2	1 6 //	通年	
	設計製図	1	2	1 6 //	通年	
		2~4	各 3	2 3 //	通年	
	総合物作り体験	1	1	8 //	前期	
工学実験	4	4	3 1 //	通年		
卒業研究	5	6	4 6 //	通年		
F	工学実験	1	3	2 3 //	通年	

科	科目名	学年	単位	学年成績が 0 点となる欠課時数	期間	備考
C	総合物作り体験	1	1	8 (時間) 以上	前期	
	環境都市工学設計製図	1	1	8 //	前期	
		2	2	1 6 //	通年	
		3	1	8 //	前期	
		4	2	1 6 //	通年	
	環境都市工学実験実習	1	2	1 6 //	通年	
		2	3	2 3 //	通年	
		3	3	2 3 //	通年	
		4	3	2 3 //	通年	
		5	1	8 //	後期	
	ゼミナール	4	2	1 6 //	通年	
卒業研究	5	6	4 6 //	通年		

◎学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する内規

第 10 条 欠課時数が年間総授業時間数の 3 分の 1 (実技科目は 4 分の 1) を越えた科目の学年成績は 0 点とする。
ただし、校長が特に認めた場合においてはこの限りではない。

(出典：平成 18 年度学年始業時配付資料別紙 5 より抜粋)

(資料 5-3-①-5) 特別活動の規定

第 4 章 教育課程等

(授業を行う期間)

第 12 条 1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

(教育課程)

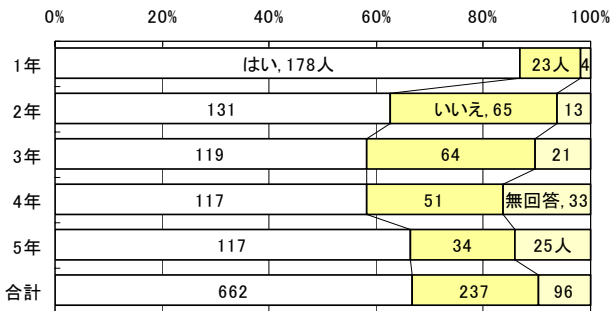
第 13 条 学年ごとの授業科目及びその単位数は、別表第 1 及び別表第 2 のとおりとする。

- 各授業科目の単位数は、30 単位時間の履修を 1 単位として計算するものとする。
- 前項の規定にかかわらず、卒業研究については、これの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 特別活動は、第 1 学年から第 3 学年まで、各学年 30 単位時間を履修するものとする。

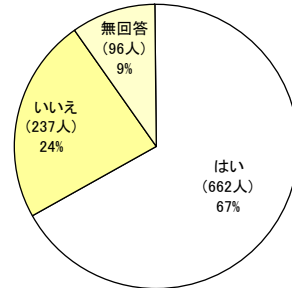
(出典：平成 18 年度「学生便覧」P. 30 より引用)

(資料5-3-①-6) 学科生の規定の周知状況

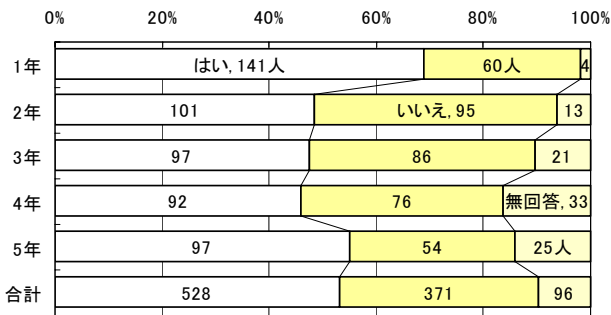
質問項目1：成績評価の方法を知っていますか



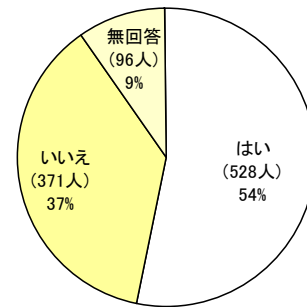
学科生



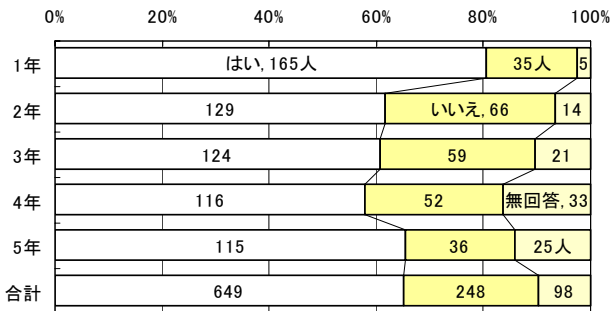
質問項目2：単位認定の方法を知っていますか



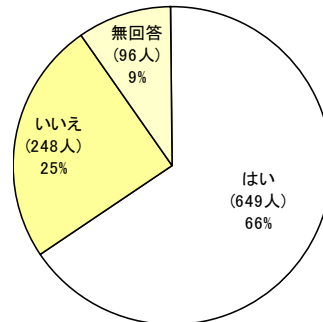
学科生



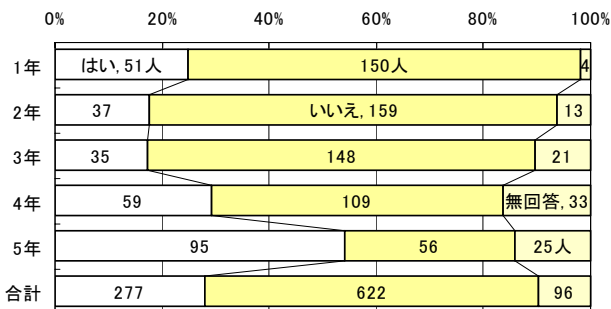
質問項目3：進級認定規定を知っていますか



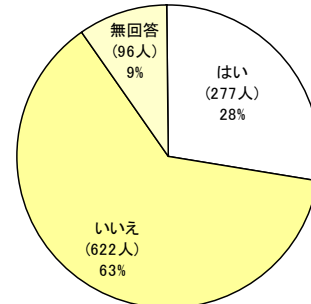
学科生



質問項目4：卒業認定規定を知っていますか



学科生



(出典：平成19年2月教育に関するアンケートより)

(資料5-3-①-7) シラバスに記載することによる成績評価の規定の運用

【科目】卒業研究

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】通年・8単位

【対象学科・専攻】機械工学科・5年次

【授業目標・教育方針】

与えられた課題に対して1年間にわたって研究を行うことで、機械工学に対してより深い理解を得るとともに、解決

すべき課題に対して自発的に取り組む問題解決能力を養う。

【授業概要】

数名ずつそれぞれの研究室に所属し、研究室で専門とする分野の課題に対して1年間にわたって研究を行う。研究の途中経過は秋に行われる中間発表会で、1年間の成果は、学年末の卒業研究発表会で発表する。

研究内容は実験的なもの、理論解析、コンピュータシミュレーション等多様であり、また、研究方法もテーマによってかなり異なるが、いずれの場合にも、研究を通して専門分野の理解を深めることや、自主的な問題解決能力を養うことが最大の目的である。研究とはすでに明らかになっている事柄を学ぶのではなく、未知の分野に挑戦し、問題を解決していくことである。そのためには、それぞれの分野に関してより深く理解する努力が必要であるが、さらに、問題の解決に向けて積極的に取り組む行動力が何よりも大切である。卒業研究は、時間割に示された時間のみに行うものでなく、場合によっては深夜まで行われることもある。高専における学修の仕上げとして、積極的な姿勢で研究に臨み技術者としての感性を修得してもらいたい。

【成績評価方法】

[前期] 内容理解度20%、研究態度20%、報告書30%、研究発表30%

[後期] 内容理解度20%、研究態度20%、報告書30%、研究発表30%

【本校の学習・教育目標】

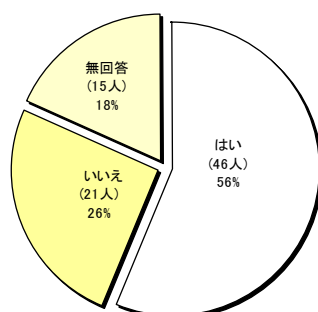
◎ (D) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身につける。

○ (E) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。

(出典：平成18年度シラバスより)

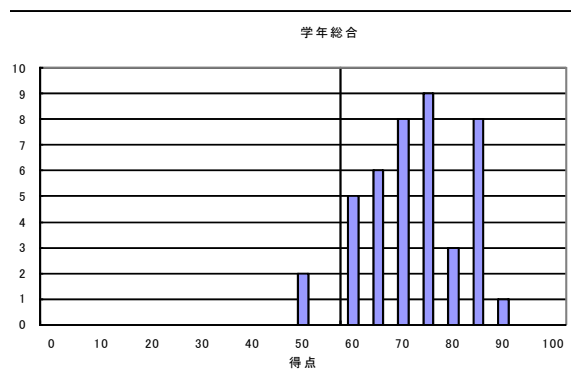
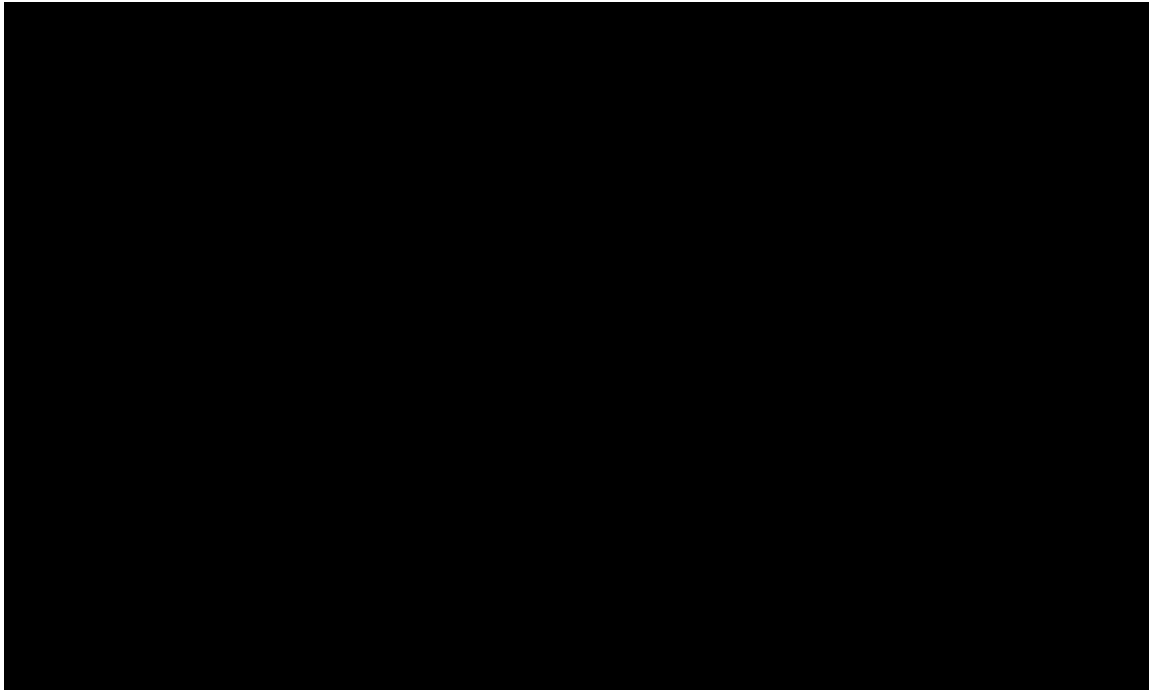
(資料5-3-①-8) 規定の運用例 (教員による成績評価の変更によるシラバスの利用状況)

質問項目：授業内容の変更などを確認する時にシラバスを活用していますか



(出典：平成19年2月教育に関するアンケートより)

(資料5-3-①-9) 規定の運用例 (成績内訳)



(出典：平成18年度教務保管資料より抜粋)

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

(a) ホームルーム

- ・ ホームルームは1～3年生で週1回実施されている。(資料5-4-①-1)
- ・ 学生は、1～3年の各学年に30単位時間履修している。(資料5-4-①-2)
- ・ ホームルームは、各クラス担任および副担任教員が中心となり、学生の希望を考慮しながら運営されている。(資料5-4-①-3)
- ・ 担任教員は、学期末にホームルームで行われたことをHR実績表にまとめ報告しており、その結果が集計されている。(資料5-4-①-4)
- ・ ホームルームでは、様々な素養を涵養する目的で、学年ごとにクラス合同の講話が行われている。(資料5-4-①-5)
- ・ 各クラスのホームルームは、様々なテーマで行われており、道徳心や地球人としての良心、技術者としての倫理観などの素養が涵養されるように配慮されている。たとえば、平成18年度1年2組のホームルームでは、地球温暖化問題が取り上げられている。(資料5-4-①-6)

(b) ホームルーム以外の工学実習や見学等の特別活動

- ・ ホームルーム以外に、新入生オリエンテーションや社会見学旅行などの校外実習・見学が1～4年生まで実施されている。(資料5-4-①-7)
- ・ 工場見学などを含む校外実習・見学は、専門の内容と学習進度(学年)に適した内容となっている。例えば、平成17年度3年機械工学科の合宿研修では、自動車の歴史と開発やロボットについての体験型研修を実施している。(資料5-4-①-8)
- ・ 4年次の社会見学旅行には、学生が一人一人自由に計画する自由時間が組み込まれており、自主性を育てている。また、企業見学などの体験は、学校便りの中で報告されている。(資料5-4-①-9)
- ・ 国際的な視野を拓げる目的で、4年生を対象に海外派遣事業を行っている。中国の上海工程技術大学の学生や教員と交流するとともに、上海周辺の見学、企業見学を実施している。(資料5-4-①-10)

(分析結果とその根拠理由)

特別活動は、様々な視点から人間の素養が涵養されるように配慮されている。1～3年生では、週に1回のホームルームが時間割に組み込まれている。またホームルームは各クラスで行われるものと、学年合同の講話が組み合わせられて実施されている。校外実習・見学等も各学年に配置されている。

以上のことから、教育課程の編成において特別活動の実施などにより、人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。

資料5-4-①-1 平成18年度授業時間割

学年	時限	月								火								水										
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8			
1	1組	化学I (平井)	数学B 岡田	設計製図 岡田	総合物作リ 験	英語表現A (ワカヤマ)	地 理 (宇田)	国語表現 小野	数学B 岡田	数学A I 斎藤	総合英語 I 伊藤(文)	生 物 (戸村)	HR 藤沢 重松															
	2組	化学I 辻	数学A I 藤田	工学実験 E科教員	下田	地 理 (宇田)	数学B 谷中	英語表現A (ワカヤマ)	力学基礎 五十嵐	総合英語 I 伊藤(文)	生 物 (戸村)	HR 辻 谷中																
	3組	数学A I (狩野)	力学基礎 藤平	情報処理 柳田	谷中	英語表現A (ワカヤマ)	地 理 (宇田)	化学 I 戸井	数学A I 狩野	国語表現 小野	数学A I 斎藤	HR 小野 延昭																
	4組	化学 I (早川)	総合英語 I 飯野	化学概論 小島	樋口	化学 I (早川)	歴 史 (新井[保])	数学B 田部井	数学B 田部井	力学基礎 大嶋(一)	数学A I 斎藤	HR 八島 田部井																
	5組	総合英語 I 飯野	化学 I 辻	設計製図 青井	阿部・木村(演)	歴 史 (宮川)	力学基礎 木村(清)	数学B 谷村	国語表現 小野	化学 I 辻	数学A I 藤田	HR 津崎 谷村																
2	M	生 物 (戸村)	数学B (村橋)	設 計 製 図 下田・金子	総合英語 I 横山	物理 I (水出)	工 作 実 習 小川	国語表現 (新井[内])	情報処理 小川	HR 横山 小川																		
	E	古典 大意(由)	生 物 (戸村)	物理 I 狩野	体 育 高橋(健)	物理 I 狩野	数学A I (沼田)	工 学 実 験 E科教員	総合英語 I 横山	国語表現 (新井[小])	HR 狩野 横井																	
	J	数学B (村崎)	電子工学 五十嵐	電気回路 大豆生田	工学演習 荒川	物理 I 辻川	情報処理 木村(典)	実 験 実 習 J科教員	総合英語 I 野村(貴)	古 典 大意(由)	HR 辻川 延昭																	
	K	数学B 基礎物化学 藤田	生 物 学 藤野	体 育 高橋(健)	情報処理 II 戸井	生 物 学 林	物理 I (玉置)	歴 史 宮川	国語表現 東城	物理 I (玉置)	総合英語 I 野村(貴)	HR 津崎 藤田																
	C	材料学 II 古川	数学A I 谷口	構造力学 I 三上	総合英語 I 横山	物理 I (玉置)	数学B 藤田	設計製図 野村(和)	古 典 大意(由)	数学A I 谷口	物理 I (玉置)	HR 竹島 江口																
3	M	総合英語 I 熊谷	体 育 (柳川)	機 構 学 重松	倫 理 竹島	電気工学概論 根本	数学A I 鈴木(福)	材料力学 黒瀬	設計製図 根本	数学A I 鈴木(福)	工 作 実 習 安田	HR 安田 熊谷																
	E	電気回路 I 鈴木(清)	倫 理 竹島	数学A I 吉田	電気回路演習 大手	総合英語 I (熊谷[由])	体 育 (関)	数学B (西谷)	数学B 青木	情報科学 I 谷中	電気回路 I 鈴木(清)	工学概論ナ E科教員	HR 渡辺 杉浦															
	J	電子工学 大豆生田	総合英語 I 熊谷	電気回路 荒川	体 育 (関)	数学B (西谷)	応用物理 I 学治野	倫 理 竹島	プログラム語 鈴木(福)	数学A I 鈴木(福)	工 作 実 習 安田	HR 堀川 朝臣																
	K	数学A I 碓氷	分析化学 小島	有機化学 I 赤羽	政治 経済 杉浦	数学B (西谷)	総合英語 I (熊谷[由])	体 育 藤岡	物理化学 I 田部井	無機化学 I 太田	生 化 学 I 林	HR 藤野 碓氷																
	C	体 育 (柳川)	数学A I 吉田	総合英語 I 熊谷	環境工学概 古川	物理学 I 山本	応用物理 I 狩野	設計製図 森田	土質工学 阿部	数学B 谷口	HR 三 東城																	
M	機械工作法 下田	哲 学 (須藤)	応用数学 II 藤田	熱 力 学 高橋(泰)	材 料 力 学 阿部	英語A 藤野	材 料 学 金子	流体工学 I 金子	応用物理 II 藤田	機械設計法 金子	英 語 B (渡辺[内])																	

(出典：平成18年度前期授業時間割)

資料5-4-①-2 ホームルームの履修時間

4 特別活動は、第1学年から第3学年まで、各学年30単位時間を履修するものとする。

(出典：平成18年度学生便覧)

資料5-4-①-3 ホームルームの指針

(1) 年度当初のHR

座席指定、授業時間割の伝達、行事予定、学級の各種委員の選出、日直者の職務、清掃分担、教科書の購入等々、教育活動が円滑に始動できるよう、教務主事及び学生主事の指示を受けて、関係諸事項を学生に周知徹底する。

(2) HR計画

前・後期の始業当初には、学生の意見も考慮に入れて学期ごとのHR計画を立てる。なお、各学期のHR実績を「HR実績表」により、定められた期日までに教務係に提出する。

(出典：教員業務の手引き)

資料5-4-①-4 ホームルーム実施テーマ例

	6月22日	6月29日	7月6日	7月13日	9月7日	9月14日
1 M	衛生講話	実態調査	学生相談室について	夏休みの過ごし方	夏休みの思い出	工華祭クラス企画
1 E	衛生講話	カウンセラーによる学生相談室説明	1年生アンケート	交通講話 [8月31日] 諸連絡	諸連絡 新刊本の紹介	試験についての注意
1 J	衛生講話	テストの成績の返却 工華祭についての話し合い	授業についてのアンケート	交通講話	数学小テスト	アンケート テスト勉強
1 K	衛生講話	工華祭のクラス企画について	カウンセラーHR訪問 席替え	交通講話 [8月31日] 担任の話	学生の話	工華祭の打ち合せ
1 C	衛生講話	工華祭の出し物について (部屋割りなど) /カウンセラーHR訪問	レポートの書き方(原担任)/「夏季休業を迎えるにあたって」の説明 /実態調査とアンケート	交通講話	勉強への取り組みにか かき再度指導/工華祭の つめー5人程度の 実行委員を選ぶ	工華祭の相談一連や かに帰宅し勉強する ように指導
2 M	中間試験について	工華祭クラス企画	工華祭クラス企画	工華祭クラス企画 [8月31日] 夏休みを ふりかえって	工華祭企画	担任からの話
2 E	成績、シグマ検査について	工華祭クラス企画	サッカー	夏休み	工華祭クラス企画	とことんやれば必ず できる
2 J	成績返却 進路と今後の学習に ついての指導	工華祭の打ち合せ	工華祭の打ち合せ	夏休みの読書につ いて	連絡事項 オイラーの公式 工華祭企画再検討	連絡事項 運営・Tシャツ・工 華祭打合せ
2 K	工華祭・ブックハン ティング 成績などについて	ブックリストスピー チ・工華祭について	工華祭について	工華祭について・ブ ックリストスピーチ	ブックリストスピー チ	期末試験について 工華祭について
2 C	環境都市工学科講演 会	工華祭クラス企画の 再検討	忘れにくさ: 処理水 準説について	夏季休業を迎えるに あたっての注意	工華祭準備の検討	車両通学申請に係る 担任面接
3 M	進路調査	工華祭企画調査	球技(ドッジボール)	夏季休業前事前連絡 体育大会補助学生選 出	夏季休業中課外活動 報告 工華祭企画打合せ	工華祭企画打合せ
3 E	合宿研修 成績関係	三分間スピーチ	工華祭関連	全国大会 T O E I C 共通試験関連	工華祭関連	英語 合宿研修関連
3 J	情報技術者試験問題 解説	オフィスパワーの利 用について 工華祭クラス展示内 容検討	実験発表説明 発表用スライドの内 容について 工華祭内容検討	3年生共通試験につ いて 夏休みの計画立案 [8月31日] 夏休みの成果 発表/合宿研修につ いて	実験発表会諸注意 工華祭役割分担	合宿研修詳細説明
3 K	原子力安全教育	原子力安全教育	工華祭のクラス企画 について	夏季休業の過ごし方 高専全国大会ポラン ティア選出	1分間スピーチ 夏休みの思い出	期末試験を迎えるに あたっての注意
3 C	C科講演会「農業は 知的労働」	工華祭3C企画につ いて(3)	原子力安全教育	原子力安全教育 [8月31日] 合宿研修 について	合宿研修先に関する 勉強会	C科三上先生のお話 し

(出典：平成17年度後期HR実績表)

資料5-4-①-5 講話テーマ一覧表

平成18年度 衛生講話実施計画

1. 開催日時・演題及び講演者

① 平成18年 5月10日(水) 午後1時～ 2年生対象
【麻薬と覚醒剤について】

② 平成18年 6月14日(水) 午後1時～ 1年生対象
【タバコと酒の害について】

〒370-3102 高崎市箕郷町生原685
青少年喫煙等健康問題研究会 TEL: 027-371-3953
(略称SKM研究会) 代表 小林 賢二 氏

③ 平成18年 5月24日(水) 午後1時～ 3年生対象
【タバコと酒の害について】

〒370-0033 高崎市中大類町501
高崎健康福祉大学看護学部 TEL: 027-352-1291
教授 坂本 浩之助 氏

④ 平成18年10月 4日(水) 午後1時～ 3年生対象
【エイズと性について】

〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15 TEL: 027-220-8665
群馬大学医学部附属病院総合診療部
部長(教授) 田村 遵一 氏

2. 場 所 大講義室(J科棟2階)

平成18年度 交通講話実施計画

1. 開催日時・演題及び講演者

① 平成18年 6月21日(水) 午後1時～ 2年生対象
【原付バイクの交通安全について】

② 平成18年 7月 5日(水) 午後1時～ 1年生対象
【自転車の交通安全について】

〒371-0853 前橋市総社町1-9-3
前橋警察署交通課 TEL: 027-252-0110 (内411)
木嶋 聡氏

2. 場 所 大講義室(J科棟2階)

(出典:平成18年度衛生講話実施計画, 交通講話実施計画)

資料5-4-①-6 ホームルームにおける配付資料の例

国民のみなさまへ

気候が急激に変化している。この気候変化が人為的温室効果ガス排出によるものであることは、科学的に疑う余地がない。このままの排出が続けば、人類の生存基盤である地球環境に多大な影響を与えることも明白である。

このようなことに、科学者はこれまでも強い懸念を示してきたし、気候の安定化に向けた行動を各界に呼びかけてきた。科学の検証プロセスには多くの知見の集積を必要とするため、科学者の警告は慎重であったし、「低炭素社会」への転換に向けた社会の変革もなかなか進んでいない。その間に、気候の変化は見えないところで進行し、近年になって、それが顕在化した。気候システムには慣性があり、さらに悪化してから手を打ったのでは安定化は極めて困難である。今回発表された、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第4次評価報告書では、気候変化における人為的原因が再確認され、同時に、地球規模での雪氷圏における変化などは予想以上に速く進みつつあることが確認された。さらに、このままのペースで排出を続けると、人類はこれまで経験したことのない温暖化した時代に突入する。限りある自然の吸収力を考えると、温室効果ガスの排出を現在の半分以下にまで削減しないと気候は安定化しない。

(出典：「科学者からの国民への緊急メッセージ，平成19年2月2日」，平成18年度1年2組HR配布資料)

資料5-4-①-7 学校行事(平成18年度)

(7) 学校行事予定

(前期)	春季休業	4月4日まで
	入学式	4月5日
	定期健康診断	4月6日～7日(1～5年生)
	新入生ガイダンス	4月7日
	新入生オリエンテーション	4月26日
	○中間試験	6月上旬頃
	科別講演会	6月～1月(4・5年生)
	球技大会	6月下旬
	夏季休業	7月中旬～8月末
	夏季実習	夏季休業中
	地区体育大会	7月中
	全国体育大会	夏期休業中
	○期末試験	9月下旬
	(後期)	始業
社会見学旅行		10月11日～13日(4年生・2泊3日)
3年生合宿研修		10月12日～13日(各学科実施・1泊2日)
2年生1日研修		10月13日
工華祭・体育祭		10月下旬(隔年ごとに開催:18年度は体育祭)
芸術鑑賞会		11月上旬
○中間試験		11月下旬頃
冬季休業		12月下旬～1月上旬
入学者選抜試験		1月下旬・2月下旬
○期末試験		2月下旬～3月上旬
学年末休業		3月上旬～3月31日
卒業式		3月中旬

(出典:平成18年度学生便覧)

資料5-4-①-8 合宿研修実施要項

平成17年7月24日

第3学年機械工学科合宿研修実施要項

正担任 黒瀬雅詞

1. 目的 合宿研修を通して、自動車や二輪車部品等の開発や歴史などを見学するとともに、最先端の設備における体験型学習により、学校で学んでいる基礎的な内容を、より実践的な内容として受け止められるようにする。
2. 期 日 平成17年10月5日(水)～6日(木)1泊2日
3. 宿泊場所 ホテルツインリンク(ツインリンクもてぎ内)【注:仮予定】
TEL:0285-64-0489 FAX:0285-64-0399
4. 参加者 機械工学科第3学年48名(男子47名,女子1名)引率教員2名(男女各1名)
5. 見学場所 ツインリンクもてぎ
〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町松山120番地1
代表電話番号 0285-64-0001 代表FAX番号 0285-64-0009
6. 日 程【注:予定】

10月5日(水)

8:50	学校集合	
9:00	学校出発	
12:00	昼食	
13:30	ツインリンクもてぎ着	
14:00～17:00	体験型学習	環境研究コース(180分)
17:30～18:30	担任講話	
18:30～22:00	夕食,入浴,自由時間	
22:00	消灯	

10月6日(木)

7:00	起床,掃除,朝食	
9:00～11:00	ツインリンクもてぎ内見学	
11:00～12:00	体験型学習	1.ピット体験教室 2.ロボット教室
12:00	昼食	
13:00～14:45	講演	場内担当職員
14:00	ツインリンクもてぎ発	
17:00	学校着,解散	

以上

(出典:平成17年度第3学年機械工学科合宿研修実施

資料5-4-①-9 合宿研修旅行の報告

3年生の合宿研修旅行

平成17年度3年合宿研修では、工場、現場、企業、研究所等において、最先端技術の見学が行われた。企業の技術開発に取組む姿勢の体感、製品製造過程の関連での見学等、学校ではなかなかできない体験をした。また、環境問題学習、環境セミナー受講、環境・安全を考慮した製造体制の見学等の環境関連の研修が多く行われた。さらに、特別講師による講話をはじめ、紙面では紹介しきれないほど充実した研修であった。各科の研修先を以下に記す。

機械工学科は栃木県にあるHONDAのツインリンクもてぎにて、ASIMO特別ステージ、レストア教室、ロボット学習等の体験型研修を行った。電子メディア工学科は、筑波宇宙センター、川崎にある東芝科学館において研修を行った。

電子情報工学科は、日本科学未来館、筑波宇宙センター、産業技術総合研究所を見学した。

物質工学科は、関東電化工業株式会社渋川工場、品木ダム水質管理所中和工場、佐久市のシリコンテクノロジー株式会社を見学した。

環境都市工学科は八ッ場ダム工事現場、中和工場、鎌倉郷土資料館、県営狩宿発電所等を見学した。

(電子メディア工学科 教授:大嶋 一人)



(出典:学校便り 第76号)

資料 5 - 4 - ① - 10 上海学生派遣事業

7. 中国上海工程技术大学との交流について

平成19年3月24日(土)～29日(木) 5泊6日

4年生、専攻科1年生 参加申込者 43名

3月24日(土) 高専→成田→上海→ホテル

25日(日) 市内見学

26日(月) 大学訪問、交流、

27日(火) 工場見学

28日(水) オプショナルツアー

29日(木) ホテル→空港→成田→高専

引率教員 青木、渡辺、谷村、平

出典：平成19年2月 教員会議報告事項（教員会議資料2）

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

(a) 生活指導

- ・ 生活面で注意すべき事項は、学生便覧に記載されている。(資料5-4-②-1)
- ・ 学生指導体制は、教務、厚生補導、寮務の各委員会が中心となっている。またそれぞれの委員会を統括調整する主事およびそれを補佐する副主事・主事補は、学生便覧に記載され学生にも周知されている。(資料5-4-②-2)
- ・ 担任による生活指導は、教員業務の手引きに記載されている。(資料5-4-②-3)
- ・ 入学後初めてのホームルームでは、学生として生活面や学習面で気をつけるべき事項を、学生および保護者に周知している。(資料5-4-②-4)
- ・ 遵法精神は社会人としての素養の一つであるが、高専生活においても学則の違反や反社会的な行動をした場合懲戒処分を受けることがある旨、学生便覧に記載されている。(資料5-4-②-5)

(b) 課外活動

- ・ 授業以外に、全校的な行事として球技大会、体育祭、工華祭(文化祭)、芸術鑑賞会が実施されている。(資料5-4-②-6)
- ・ 芸術を理解し楽しむ心を育むために、芸術鑑賞会が毎年実施されている。年ごとにテーマが異なるため、高専生活を通して様々な芸術に触れる機会となっている。また、実際の鑑賞会の運営は、学生会と教員の共同で運営されている。(資料5-4-②-7)
- ・ 学生会は、課外活動として学生が主体的に活動する場となっており、総務局、各種委員会、部(体育系クラブ、文化系クラブ)、および学級から構成されている。(資料5-4-②-8)
- ・ 様々な体育系クラブ、文化系クラブがあり、人間形成の場として重要な役割を果たしている。野球部を例に挙げると、父母会が中心となり学生および父母合同で、グラウンドの草刈りやバックネット裏の整備などの活動を行っている。(資料5-4-②-9、資料5-4-②-10)
- ・ 学生会の各種委員会や部(体育系クラブ、文化系クラブ)には、活動内容に応じ1~16名の顧問教員を配置し、指導助言を行っている。(資料5-4-②-11)
- ・ それぞれの部活動の時間は、おおむね7時前後に終了している。(資料5-4-②-12)
- ・ 学生会では、校内整備活動や規則違反のチェックなど自主的に活動を行っている。(資料5-4-②-13)

(c) 学生相談室

- ・ 学生の様々な悩みに対する相談窓口として、学生相談室が設置されている。学生相談室の案内は、入学当初にリーフレットとして全学生に配布される。インターカーを配置し、学生が相談しやすい環境づくりに努めるとともに、カウンセラーおよび担任は、ホームルームなどを通じて、学生相談室の利用を呼びかけている。(資料5-4-②-14)
- ・ 学生相談室では、2ヶ月に一度程度、学生相談室便りを発行し、各教室に掲示している。

(資料5-4-②-15)

(d) 図書館

- ・ 学生の日常学習に資する学習環境が整っている。様々な種類の書籍やDVDなどを所蔵しており、豊かな感性や人間性の涵養に供している。図書館の利用を促す目的で、新入生には4月に図書館オリエンテーションを実施して、図書館内の紹介や貸出手続などを図書館係が説明している。学生が自主的に図書を選択する機会として、ブックハンティングを実施している。ブックハンティングは、学生の代表が書店で好きな本を指名し図書館の蔵書にする行事であり、ブックハンティングで購入された蔵書は「図書館だより」に紹介される。また、「図書館だより」には教員が、授業科目とは関係なく推薦する本を推薦図書とし紹介されている。学生の英語によるコミュニケーション能力の向上に役立てるため、TOEIC試験対策用の参考書や自習のためのリスニング教材を多数所蔵している。学生の図書館の利用状況は、年々上昇している傾向にある。(資料5-4-②-16, 資料5-4-②-17, 資料5-4-②-18)

(分析結果とその根拠理由)

生活面の指導は、学生主事が統括し、ホームルームなどを通して担任教員により行われており、その内容は保護者にも周知されている。学生便覧には、生活上の注意や懲戒処分について記述されている。全校的な行事としては、球技大会、体育祭、工華祭、芸術鑑賞会などが実施されており、深い人間性を涵養している。学生会を中心として体育系クラブ、文化系クラブが数多く存在し、人間形成の場として重要な役割を果たしている。また、学生の様々な悩みに対する相談窓口として、学生相談室が設置され活用されている。日常学習や、人間性の涵養のため、図書館の環境が整備されている。以上のように、教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。

資料5-4-②-1 生活上の注意

(1) 生活上の注意

本校には、自由の伝統があり、生活の面で、学生諸君に必要な以上の規制を加えないことを基本方針としています。それは、学生諸君が、本校学生としてのプライドを持ち、責任を自覚して、良識ある行動をしてくれることを期待しているからです。

しかし、社会生活においては、勝手気ままな行動は許されず、思いやりの心と協調性、それに共同体のルールを守る心掛けが必要です。次に掲げる項目は、本校における学生生活上の注意事項であり、学生準則に付帯するものです。これらの注意事項を頭に置いて、積極的に有意義な学生生活を送ってください。

1. 礼儀について

挨拶は親愛の情、感謝の心の表現であり、人間関係に不可欠の潤滑油である。家庭から国際社会まで、人との出会いは挨拶で始まり挨拶で終わる。来校者・教職員・学友と挨拶を交わし、出会いを大切にする。

授業や集会において私語を慎むなど、知性に根ざす自制心をもって、言語・行動にけじめをつける。

2. 服装について

本校には、制服はない。通学時の正装は、学生服、又は地味な色のスーツである。略装を着用するときは、本校学生としての品位を損なわないように留意し、見苦しいものや不潔なものであってはならない。

3. 遅刻・早退について

授業開始時刻に遅れたときは、教科担当教員に、氏名と遅刻の理由を報告する。授業中に、早退又は退出するときは、教科担当教員に理由を説明し許可を得る。

4. 車両について

車両は文明の利器であるが、同時に凶器にもなる。車両を使用するときは、常に安全運転を心掛け、道路交通法その他の交通に関する法律の定めるところに従う。

なお、車両による通学及び寮生の車両使用については、別に定める 車両通学規則・寮生車両使用規則・構内交通に関する要項・駐車場使用心得 等に従う。

5. アルバイトについて

アルバイトには、労働の喜びと苦しみを体験するという意義がある。しかし、その反面アルバイトによって、学業に支障が生じることも少なくない。アルバイトをするときは、学業に支障をきたさないように、職種・期間・時間等を十分考慮し、保護者の了解を得た上で行う。

出典：平成18年度学生便覧

資料5-4-②-2 学生指導体制

14. 校務分掌・覧

① 教職員数

平成18年4月1日現在

区 分	教 育 職 員					職 員	計
	校 長	教 授	助教授	講 師	助 手		
現 員	1	31	38	7	8	48	133

② 校長・主事・主任等

校 長 本 間 清			
教務主事	小島 昭	寮務専門委員	櫻井 文仁
学生主事	下田祐紀夫	〃	三上 卓
寮務主事	樋口 博	専攻専門委員	重松 洋一
専攻科長	青木 利澄	一般教科（人文・体育）主任	野村 貴俊
専攻科生産システム工学専攻主任	金子 忠夫	〃（自然科学）主任	鈴木 福藏
専攻科環境工学専攻主任	脇田 英治	機械工学科主任	高橋 秀夫
教務専門委員	山本 好克	電子メディア工学科主任	大手 丈夫
〃	横山 孝一	電子情報工学科主任	櫻井 治男
〃	赤羽 良一	物質工学科主任	赤羽 良一
〃	鶴見 智	環境都市工学科主任	古川 茂
〃	宇治野秀晃	図書館長	林 俱子
〃	木村 真也	情報処理教育センター長	櫻井 治男
厚生補導専門委員	大豆生田利章	地域共同技術開発センター長	下田祐紀夫
学生会専門委員	吉田 はん		

(出典：平成18年度学生便覧)

資料 5-4-②-3 学生指導に関する実施要領

(1) 保護者との連絡

学生の服装が乱れてきたり、遅刻・欠課・欠席が多くなると必ず学業成績に影響が出る。学生の変化に気付いたら、本人に注意するとともに保護者に連絡して早めに対応する。

定例の保護者懇談会以外にも、必要に応じて保護者と話し合う機会を設け、学生の生活環境や保護者の考え方等を知り、保護者と協力して学生を指導する。

成績不良者の保護者には来校してもらうなどして、学校生活や成績状況、さらには家庭での生活状態等を話し合い、学生を激励し、学力の向上を図る。

(2) 保健室・学生相談室の利用

学生が在学中に、身体が不調になったり、精神状態が不安定になったり、また交通事故等不慮の災難にあう場合がある。

定期健康診断や保健室での健康相談で身体の異状が発見されたら、本人及び保護者に連絡し、以後の健康管理に十分配慮する。特に、体育の授業や学校行事に参加させるか否かについては、保健室担当職員と連絡を取り、事故が起こらないよう留意する。

また、学生の学業成績の不良・低下の原因としては、直接的な勉強不足に加えて、基礎学力・適性・意欲・生活態度・家庭環境等の様々な事柄が考えられる。したがって、個々の学生の学習意欲の診断また向上には、多面的・総合的な理解と指導が望まれる。

学生相談室は、本校の担当教員と専門のカウンセラーが各種の心理テスト（学力向上要因診断検査、YG性格検査他）等も用いて学生の相談に応じてい

るので、問題を抱えた学生に相談室を訪ねてみるよう勧めるのも指導の一方法である。

(3) 学業成績評価に関する内規第10条ただし書の取扱い

病気又は怪我等のやむを得ない理由で、欠課時数が年間総授業時数の3分の1（実技科目においては4分の1）を超えるおそれがある場合、特例として審議することがあるので、事前に教務主事に連絡する。

(4) 学生の懲戒処分

時に担任する学生が不祥事を起こし、懲戒処分を受けることがある。処分を受けた学生への指導は「懲戒処分に関する申合せ」を参考にし、保護者とも協力して、早く立ち直り、正常な学生生活に復帰できるようにする。

（出典：教員業務の手引き）

資料5-4-②-4 学生指導時の配付資料

平成18年度

新入生並びに保護者の皆さんへ

平成18年4月5日

群馬工業高等専門学校

入学おめでとうございます。

新たな環境での学校生活を始めるに当たり、さしあたって心得ておいていただきたいことを以下に列挙します。これだけでは分からないことや、不安な気持ちがすっかり解消するわけにはいかないと思いますが、実際に学校生活していく中で、疑問・不安・要求などが生じたら、遠慮なく学級担任・教科担任の先生、あるいは学生課教務係・学生係の事務職員に相談してください。

A. 学生であることを自覚する

高等教育機関である本校に学ぶ者は、「生徒」ではなく「学生」と呼ばれます。「学生」の本分は学問をすることにあり、「自主的学習」が求められます。

これからの5年間は、長いように感じられるでしょうが、高度技術社会の中で通用する優秀な技術者になるには、むしろ短いくらいです。「少年老いや早く学なり難し」。日々の時間を大切に、自分の人生の基礎固めの期間として勉学に勤しみ、有意義な学校生活を送ることを期待します。

B. 自律的生活をする

本校の時間表は90分授業として組まれています。これに耐えるには充実した気力と体力が必要です。その気力と体力を維持するために、食事・睡眠についても自律的な健康管理をきちんと行ってください。

C. 社会的規範を守る

学校は言うまでもなく一つの社会単位であり、共同生活の場所でもあります。お互いが気持ち良く学校生活していくために「挨拶をする」、「喫煙をしない」、「学級委員・日直・清掃当番等の責任をはたす」、「学生準則・車両通学規則等の諸規則を守る」といった社会的規範を必ず守ってください。

また、若い日の人との触れあいは大切なことです。その貴重な体験をするために、課外のクラブ活動や社会奉仕活動を積極的に活用してください。

D. 学生らしい服装に心がける

指定の校服はありません。本校学生としての品位を損なうことのないものを着用してください。なお、校舎内では靴のままで良いことになっていますが、下駄、サンダル等は禁止しています。

また、髪を染めたり、ピアスをすることは感心しません。

(出典：新入生入学当初の配付資料)

資料 5-4-②-5 学生の懲戒に関する規則

〔1〕 学生の懲戒処分に関する申合せ

1 懲戒処分の種類

本校の学生に対する懲戒処分の種類は、学則第38条に定めるとおり退学・停学・訓告・その他とし、その他は学生主事説諭とする。

2 懲戒処分の決定

懲戒処分は、厚生補導委員会の原案に基づき教員会議の議を経て校長が決定するものとする。この場合、不祥事の内容によっては、当該事実を確認するため教務委員会又は寮務委員会から意見を聴するものとする。

ただし、厚生補導委員会が過去における事例と同等と判断し、停学1週間以内の懲戒処分を適当と認めた場合は、これを校長が決定するものとし、事後、教員会議に報告することができるものとする。

なお、学生主事説諭は、不祥事の内容により、学生主事の判断で行うことができるものとする。この場合、学生主事は、速やかに学級担任教員及び関係教員に連絡し、かつ、厚生補導委員会に報告するものとする。

3 懲戒処分の方法

(1) 訓告以上の懲戒処分については、原則として保護者同席のもとに、学生主事より懲戒処分の内容を言い渡し、当該学生に対して、校長が訓戒を行うものとする。

(2) 訓告以上の懲戒処分は、校長名で全学生に対して告知するものとする。告知文の内容は、原則として学年、学科、該当行為、及び懲戒処分の種類を記し、氏名は伏せるものとする。

(3) 訓告以上の処分を受けた者は、校長あての誓約書を、学生主事説諭を受けた者は学生主事あての始末書を、それぞれ提出するものとする。

4 停学の扱い

(1) 停学は無期停学及び有期停学の2種類とする。

無期停学は、原則として1か月(30日間)以上とし、上限は特に定めない。解除の日は、学級担任教員が当該学科の解除決議書又は嘆願書を基に処分を解除することが適当と認めるときは、解除申請書を学生主事に提出し、厚生補導委員会および教員会議の議を経て校長が決定するものとする。有期停学の日数は、原則として1か月(30日間)以内とする。ただし、長期休業及び定期試験の期間はその日数に含めないものとし、定期試験は受けさせるものとする。

(2) 停学期間中は、原則として家庭謹慎とするが、家庭状況によっては学校謹慎

(出典：平成18年度学生便覧)

資料5-4-②-6 行事一覧表

平成18年度 授業・行事計画(改訂版)												平成18年 6月12日		
日	月	火	水	木	金	土	事					項		
四	2	3	4	5	6	7	8	1	1~4春季休業					1
月	9	10	11	12	13	14	15	2	5入学式, 6始業式(2~5年生)・対面式・健康診断・身体測定, 7ガイダンス(1年生)・健康診断・身体測定, 10授業開始, 12企業説明会(5年生), 英語実力試験(1年生), 16原付講習会, 19数学テスト(1年生), 23開校記念日, 261年生オリエンテーション, 26シグマテスト(2・3年生)					29
五	7	8	9	10	11	12	13	3	1開校記念日振替休業, 2臨時休講					6
月	14	15	16	17	18	19	20	4	10衛生講話(2年生), 131年生保護者懇談会					13
	21	22	23	24	25	26	27	5	10・17原子力安全教育(J科3年生), 17YGテスト(1年生)					20
	28	29	30	31				6	20・21祭祭, 24衛生講話(3年生)					27
六	4	5	6	7	8	9	10	7	28工業英語検定					3
月	11	12	13	14	15	16	17	8	1~8中間試験					10
	18	19	20	21	22	23	24	9	10実用英語検定					17
	25	26	27	28	29	30		10	14衛生講話(1年生)					24
七	2	3	4	5	6	7	8	11	21・28原子力安全教育(E科3年生), 21交通講話(2年生), 24後援会総会					1
月	9	10	11	12	13	14	15	12	30球技大会(予備日7/7)					8
	16	17	18	19	20	21	22	13	5-12原子力安全教育(K科3年生), 5交通講話(1年生)					15
	23	24	25	26	27	28	29	14	8.9地区体育大会(柔道), 14~16地区体育大会(バスケットボール)					22
	30	31						15	18~21授業予備日, 18~8/30夏季休業					29
八	6	7	8	9	10	11	12	16	5~11全国体育大会					2
月	13	14	15	16	17	18	19	17	12・13地区文化発表会(小山高専)					9
	20	21	22	23	24	25	26	18						16
	27	28	29	30	31			19	28編入学試験, 303年生共通試験, 31授業再開					23
九	3	4	5	6	7	8	9	20	2体験入学(第1回)					2
月	10	11	12	13	14	15	16	21	6入試説明会(本校主催), 94年生保護者懇談会(進路説明会)					9
	17	18	19	20	21	22	23	22	12午後休講(3年生・希望者:TOEICテスト)					16
	24	25	26	27	28	29	30	23	21~29前期定期試験					23
								30	29防災訓練					30
十	1	2	3	4	5	6	7	31	2後期始業日, 7・8第17回プロコン(主催:茨城高専), 4衛生講話(3年生),					1
月	8	9	10	11	12	13	14		11~134年生社会見学研修, 12・133年生合宿研修, 132年生1日研修,					8
	15	16	17	18	19	20	21		22ロボコン地区大会(会場:茨城高専), <2, 3年生保護者懇談会, 学級別随時>					14
	22	23	24	25	26	27	28		25体育祭(予備日11/1)					21
	29	30	31											28
十一	5	6	7	8	9	10	11	1	9芸術鑑賞会(3年生:1・2時限授業) 11英語弁論大会(東京高専)					4
月	12	13	14	15	16	17	18	2	12体験入学(第2回), 15・22原子力安全教育(M科3年生),					11
	19	20	21	22	23	24	25	3	26ロボコン全国大会(会場:両国国技館), 28~12/5後期中間試験					18
	26	27	28	29	30			4						25
十二	3	4	5	6	7	8	9	16	13・20原子力安全教育(C科3年生), 14・15・18・19オープンスクール					2
月	10	11	12	13	14	15	16	17	25・26授業予備日, 25~1/5冬季休業					9
	17	18	19	20	21	22	23	18						16
	24	25	26	27	28	29	30	19						23
	31							20						30
一	7	8	9	10	11	12	13	1	9授業再開 113年生1・2時限学習到達度試験					6
月	14	15	16	17	18	19	20	2	23推薦入試【休講】, 24臨時休講					13
	21	22	23	24	25	26	27	3						20
	28	29	30	31				4						27
二	4	5	6	7	8	9	10	11	13午後休講(4年生・希望者:TOEICテスト) 16午後休講					3
月	11	12	13	14	15	16	17	12	18入学試験, 19~21臨時休業, 21合格発表, 22~27後期定期試験(1-5年生)					10
	18	19	20	21	22	23	24	13	28~3/2後期定期試験(1-4年生)					17
	25	26	27	28	29	30		14						24
三	4	5	6	7	8	9	10	17	5~16授業予備日					3
月	11	12	13	14	15	16	17	18	<4年生進路指導, 各学科別随時>					10
	18	19	20	21	22	23	24	19	20卒業式, 22~30学年末休業					17
	25	26	27	28	29	30	31	20						24
日数	月	火	水	木	金	計	◇保護者懇談会・進路指導(4・5年, 随時)					計		
前	15	15	15	15	15	76	◇講演会 各学科(年間1回, 随時)					76		
2年	15	15	15	15	15	77	◇衛生講話, 交通講話低学年(1~3年, 各年間1回, 随時)					77		
3年	15	15	15	15	15	77	◇卒業研究発表会 各学科(2月上旬, 期日未定)					77		
期	15	15	15	15	15	77	合計					77		
4年	15	15	15	15	15	77						77		
5年	15	15	15	15	15	77						77		
後	15	15	15	15	15	80						156		
2年	15	15	15	15	15	79						156		
3年	15	15	15	15	15	78						155		
期	15	15	15	15	15	77						154		
4年	15	15	15	15	15	80						157		
5年	15	15	15	15	15	80						157		

□は祝日 土曜 日曜 祝祭日 試験期間 休業期間 ○は臨時休講など

(出典:平成18年度 授業・行事計画表)

資料5-4-②-7 芸術鑑賞会の実施要項

平成18年度 芸術鑑賞会実施要項

1. 目的 生のオーケストラの鑑賞を通して芸術に対する視野を広め教養と人間性を高めるため。
2. 日時 平成18年11月 9日(木) 13:30開場 14:00開演
公演時間 1時間30分
3. 場所 群馬音楽センター(高崎市高松町28 TEL027-322-4527)
4. 実施内容 群馬交響楽団によるオーケストラ演奏
5. 対象 専攻科生を含む全学生、全教職員、保護者(希望者)
6. 運営担当者 教務主事、学生主事、教務・厚生・学生会専門委員、各科教務委員、
厚生補導委員(人文・M・E・J)、学生課長、専門職員、学生課職員、
各クラス文化委員(3年除く)

※車で来場する運営担当者は群馬音楽センター内正面玄関裏側の駐車場に駐車して下さい。
7. 連絡事項
 - (1) 保護者の鑑賞希望は10月20日(金)までに後援会総会で配布した申込み用紙を学生課に提出するように案内済。
(後日、入場整理券を配付します。多数の場合は先着順)
 - (2) 11月8日(水)HR時(4・5年生は授業終了後適宜)までに芸術鑑賞会に関する説明、その他を伝達しておいて下さい。
なお、入場券は運営担当者打ち合せ時【下記(7)により行う】に、各クラスの文化委員に渡しますので、当日までに各自氏名を記入させておいて下さい。
 - (3) 11月9日当日は、13:30までに受付を済ませるように指示してください。
その際、入場整理券を受付の係員に渡すように伝えて下さい。
当日出席するクラス担任は、学生受付で受付をした後、受付担当者と一緒に学生の出席状況のチェックを行って下さい。
 - (4) ホール内は一部を除き自由席です。
 - (5) ホール内への飲食物、カメラ、録画・録音装置の持ち込みは一切禁止します。
携帯電話は必ず電源を切っておくように指示して下さい。
 - (6) 学生は現地集合・解散とするのであらかじめ会場の位置を確かめておくように指示してください。また、なるべく公共交通機関を利用するように指示して下さい。
(電車)高崎駅下車、西口徒歩約10分
(バス)各方面より高崎駅行きバス、高崎駅下車西口徒歩10分
(自転車)駐輪にあたっては係員の指示にしたがってください。
(バイク)許可を受けているバイクのみとする。駐車にあたっては係員の指示にしたがってください。
(自動車)許可を受けている車両のみとする。会場には駐車場がないので、車で来場する場合には、周辺の有料駐車場に止めてください。
 - (7) **運営担当者の打ち合せは11月1日(水)14時30分～J科棟大講義室で行います。
授業のため出席できない学生は、後日連絡します。**
 - (8) 3年生以下の学生に対しては11月15日(水)HR時以降、4、5年生については適宜、アンケート調査を行って下さい。回収したアンケートは11月17日(金)までに教務係へ提出して下さい。

(出典：平成18年度芸術鑑賞会実施要項)

資料5-4-②-10 部活動の例

平成17年度群馬高専野球部父母会活動報告

月 日	活動内容	対戦校	場 所
7月31日	第八回定期総会		群馬高専
8月18日	夏季中毛リーグ	勢多農	渋川市民球場
20日	〃	玉村・前西	伊勢崎市民球場
21日	草刈り		高専グラウンド
21日	夏季中毛リーグ	前工	前工グラウンド
22日	〃	市立前橋	前橋市民球場
9月3日	監督・コーチ室クーラー修理		高専グラウンド
10日	第58回秋季関東地区大会県予選2回戦	桐高	桐生球場
3月4日	5年生(小金沢先生)を送る会		群馬ロイヤルホテル
19日	バックネット裏整備		高専グラウンド
31日	春季中毛リーグ	渋工・勢多農	前橋市民球場
4月2日	〃	伊商・前南	前南グラウンド
3日	〃	伊勢崎東	伊勢崎市民球場
9日	第58回春季関東地区大会県予選2回戦	明和県央	前橋市民球場
22日	第18回若駒杯中毛地区大会	前南	前南グラウンド
30日	新入会者に対する活動内容等の説明会		群馬高専
5月27日	草刈り バックネット裏整備		高専グラウンド
7月1日	激励会(OBと合同)		高専食堂
8日	第88回全国高校野球選手権群馬大会開会式		県営敷島球場
10日	第88回全国高校野球選手権群馬大会2回戦	明和県央	桐生球場
16日	第88回全国高校野球選手権群馬大会3回戦	富岡	高崎城南球場

(出典：平成17年度群馬高専野球部父母会活動報告)

資料5-4-②-11 クラブ顧問教員一覧

平成19年度学生会及びクラブ顧問教員一覧

学 生 主 事 飯 野 一 彦
 学生主事補(厚生補導担当) 出 口 米 和
 学生主事補(学生会担当) 辻 和 秀

平成19年4月1日

委 員 会

◎主任

名 称	顧 問 教 員	名 称	顧 問 教 員
文化委員会	◎辻 和秀・出口 米和	群嶺委員会	◎神長 保仁・岡田 敬夫
体育委員会	◎櫻岡 広・高橋 健太郎	新聞委員会	◎赤羽 良一・鶴見 智
評議委員会	◎辻 和秀・出口 米和	環境委員会	◎出口 米和・辻 和秀
図書委員会	◎青井 透		

体 育 部

◎主任, ☆地区大会専門部常任委員, ★地区大会専門部委員

名 称	顧 問 教 員
陸 上 競 技 部	◎熊谷 健・★大埴 聡・辻川 信二・谷口 正
硬 式 野 球 部	◎小野 泰央・☆櫻岡 広・下田 祐紀夫・平 靖之・出口 米和 ・五十嵐 睦夫・中島 敏・野村 和広・辻 和秀・黒瀬 雅詞 ・戸井 啓夫・真壁 恭子・森田 哲夫・宮越 俊一
サ ッ カ ー 部	◎三上 卓・★鈴木 靖・碓氷 久・荒川 達也・青井 透 ・杉浦 立明・宮里 直樹
バレーボール部	◎友坂 秀之・★大手 丈夫・吉田 はん・横山 孝一
バスケットボール部	◎藤田 慎也・★山本 好克・石澤 静雄・田部井 康一
ソフトテニス部	◎藤重 昌生・★櫻本 弘・太田 道也・渡邊 直寛
卓 球 部	◎宮川 剛・☆高橋 秀夫・野村 貴俊・谷村 嘉恵
柔 道 部	◎布施川 秀紀・★大島 由紀夫・八鳥 吉明・藤野 正家
剣 道 部	◎☆高橋 健太郎・宇治野 秀晃・大嶋 一人
テ ニ ス 部	◎櫻井 文仁・★須田 健二・櫻井 治男・古川 茂
バドミントン部	◎中山 和夫・★木村 清和・平井 宏・東城 敏毅
水 泳 部	◎伊藤 文彦・☆脇田 英治・重松 洋一・林 俱子

文 化 部

◎主任

名 称	顧 問 教 員
吹 奏 楽 部	◎藤平 威尚・柳田 友士・狩野 正徳・牛田 啓太
文 芸 部	◎安田 一美・斎藤 斉
写 真 部	◎斎藤 斉・阿部 博
美 術 部	◎阿部 博・安田 一美
理 科 部	◎小川 侑一・小幡 常啓
英 語 部	◎八鳥 吉明・伊藤 文彦
茶 道 部	◎岡田 敬夫・神長 保仁
S F 研 究 部	◎鶴見 智・赤羽 良一
電 算 部	◎小幡 常啓・小川 侑一
演 劇 部	◎東城 敏毅・碓氷 久

(愛 好 会)

◎主任

名 称	顧 問 教 員
ロボット研究会	◎木村 真也・大豆生田 利章・谷中 勝・富澤 良行
女子バスケボール愛好会	◎高橋 健太郎・東城 敏毅
コンクリートカヌー愛好会	◎青井 透・木村 清和
エコノパワー愛好会	◎高橋 秀夫・石澤 静雄・野村 和広
将 棋 愛 好 会	◎熊谷 健・藤平 威尚
構造デザイン愛好会	◎三上 卓・古川 茂

出典：平成17年度学生会およびクラブ顧問教員一覧

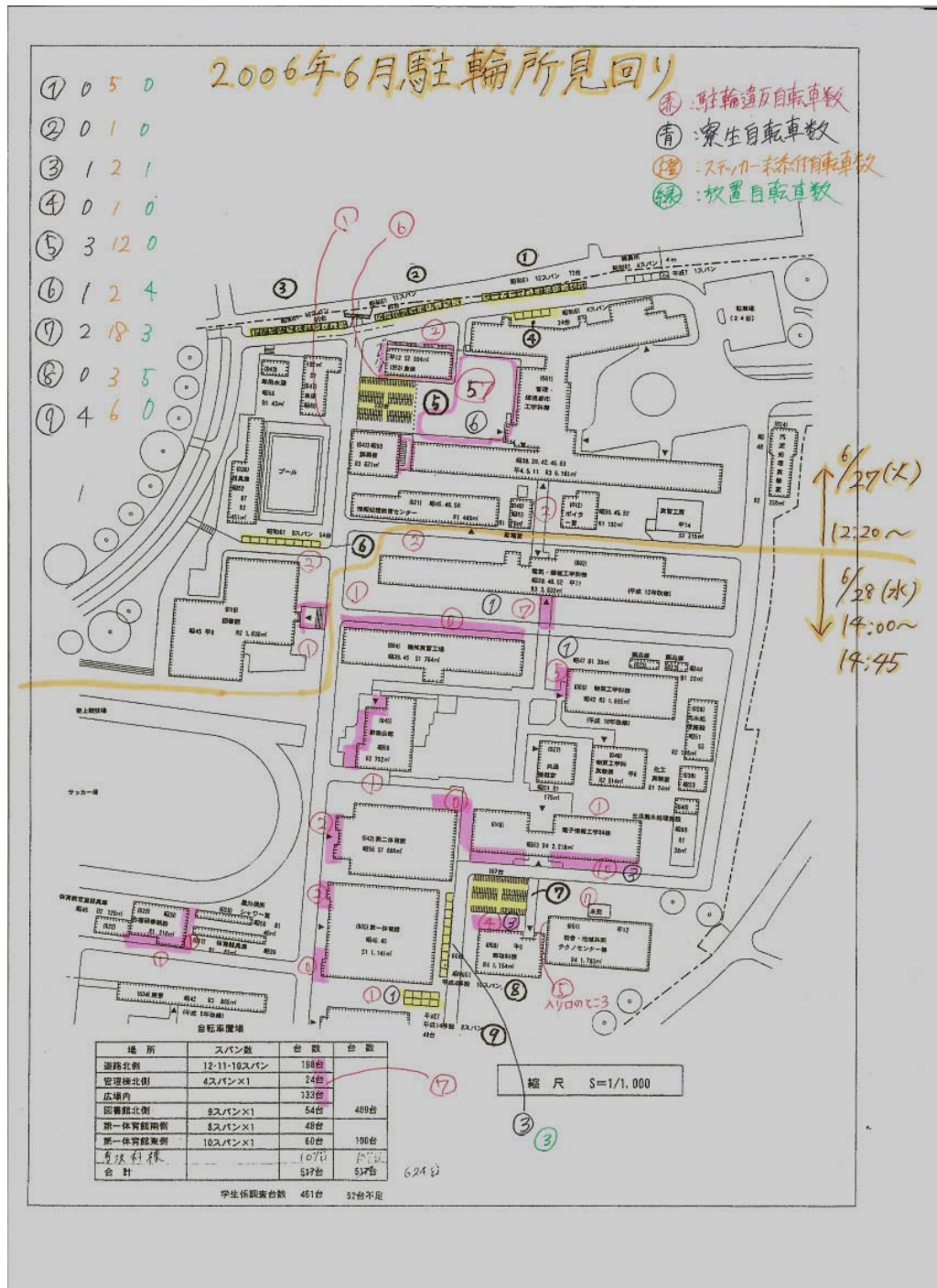
資料5-4-②-12 部活動の活動時間について

平成17年度 クラブ活動終了時間(平成17年12月時点での調査)

		運動部	文化部
4月	5:30		英語 茶道 ロボ研 将棋
	6:00	女子バスケ 水泳	文芸 美術 理科 演劇 エコパワ
	6:30	ソフトテニス 柔道 剣道 テニス	
	7:00	陸上 野球 サッカー 卓球 バドミントン	吹奏楽 SF 電算
	7:30	バレー 男子バスケ	
	8:00		
5月	5:30	女子バスケ	英語 茶道 将棋
	6:00	水泳	文芸 美術 演劇 ロボ研 コンクリートカヌー エコパワ
	6:30	柔道 剣道 テニス	
	7:00	陸上 サッカー ソフトテニス 卓球 バドミントン	吹奏楽 理科 SF 電算
	7:30	野球 バレー 男子バスケ	
	8:00		
6月	5:30		茶道 将棋
	6:00	女子バスケ ソフトテニス 水泳	英語 文芸 美術 演劇 ロボ研 コンクリートカヌー エコパワ
	6:30	柔道 剣道 テニス	
	7:00	陸上 サッカー 男子バスケ 卓球 バドミントン	吹奏楽 理科 SF 電算
	7:30	バレー	
	8:00	野球	
7月	5:30	女子バスケ	英語 将棋
	6:00	水泳	文芸 美術 茶道 コンクリートカヌー エコパワ
	6:30	柔道 剣道	
	7:00	陸上 ソフトテニス 卓球 テニス バドミントン	吹奏楽 理科 SF 電算 演劇 ロボ研
	7:30	サッカー バレー 男子バスケ	
	8:00	野球	
8月	AM12:00	陸上 男子バスケ 卓球 柔道 水泳	吹奏楽
	PM1:00	サッカー テニス	
	2:00	野球	
	3:00	ソフトテニス バドミントン	英語
	4:00	バレー	写真 理科
	5:00		茶道 コンクリートカヌー エコパワ
	6:00	剣道	茶道 演劇 電算
	7:00		ロボ研
9月	5:30		英語 将棋
	6:00	女子バスケ ソフトテニス テニス 水泳	文芸 美術 茶道 演劇 エコパワ
	6:30	陸上 柔道 剣道	
	7:00	サッカー バレー 卓球 バドミントン	吹奏楽 理科 SF 電算
	7:30	男子バスケ	
	8:00	野球	ロボ研
10月	5:30		英語 エコパワ 将棋
	6:00	女子バスケ ソフトテニス テニス 水泳	文芸 美術 茶道 演劇
	6:30	陸上 柔道 剣道	
	7:00	サッカー 卓球 バドミントン	吹奏楽 理科 SF 電算
	7:30	バレー 男子バスケ	
	8:00	野球	
11月	10:00		ロボ研
	5:30		英語部 SF エコパワ 将棋
	6:00	女子バスケ 陸上 ソフトテニス 卓球 テニス 水泳	美術 茶道 演劇
	6:30	サッカー 柔道 剣道	文芸
	7:00	野球 バドミントン	吹奏楽 理科 電算
	7:30	バレー 男子バスケ	
	10:00		ロボ研

(出典：平成18年9月20日教員会議資料)

資料5-4-②-13 学生会の自主活動例



(出典：学生会駐輪場見回り資料，平成18年度)

資料 5-4-②-14 学生相談室の案内

相談室開設日

月曜日 15:00~17:00
大島由紀夫 (前期)
木村真也 (後期)

水曜日 12:30~15:30
西川恵美子

金曜日 15:00~17:00
木村真也 (前期)
大島由紀夫 (後期)

管理棟 1F

群馬工業高等専門学校

〒371-8530
群馬県前橋市鳥羽町580番地

☎ (027) 254-9058 (学生課)

発行 平成18年4月

よりよい明日へ

向かって

— あなたへのメッセージ —

学生相談室

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/soudan>

こんなことで悩んでいますか

- ◇勉強に身が入らない
- ◇何事にも意欲がわかない
- ◇部活動のことで悩んでいる
- ◇寮生活になじめない
- ◇将来のことを考えると不安である
- ◇友人関係のことで悩んでいる
- ◇家庭のことで悩んでいる
- ◇今のままでいいのか時々不安になる
- ◇自分の性格を知りたい
- ◇進学か就職か、進路のことで迷っている
- ◇学費のことで悩んでいる

あなたの

学生相談室とは

- ◇あなたが学生生活を送るうえで、困ったことや悩みがある時、気軽に相談ができる場所です。
- ◇あなたがよりよい学生生活を送れるようにいろいろな悩みについて一緒に考え、解決法を探してゆく場です。
- ◇相談室では、性格検査や職業適性検査など、心理テストも受けることができます。
- ◇進学関係の資料も取りそろえています。また、インターネットで情報を検索できます。

何となくおしゃべりをしたい人も
ぜひ相談室においで下さい。

相談については固く

学生相談室を利用するには

- ◇直接来室するか、インターカーに連絡して下さい。
- インターカー (相談窓口)
藤川直美 (保健室)
新井美登里 (学生係)
- ※インターカーとは…相談を希望する学生や関係者の話を最初に聞き、援助のし方を判断する人のことです。話の内容によって適切な相談先 (カウンセラー・相談員・校医など) に取りつぎます。
- ◇相談室開室時に電話で予約できます。
- ☎ 027-254-9067 (相談室直通)
- ☎ 027-254-9101 (相談室長 大島)
- ◇電子メールでも予約できます。
- アドレス
soudan@jim.gunma-ct.ac.jp
- ◇家族の方からの相談も受け付けています。
- ※電話相談も行っています。

個人でも、グループでもどうぞ。

秘密を守ります

(出典：学生相談室の手引き)

資料5-4-②-15 学生相談室だより

学生相談室だより

2006年10月

私達は毎日さまざまなストレスにさらされています。ストレスが全て悪いというわけではありません。何かの課題に挑戦することは、ストレスとして感じられるかもしれませんが、自分を向上させるために役に立つこともあります。

何をストレスと感じるか、ストレスをどうやって解消するかは人それぞれだと思います。例えば、スポーツをしたり、音楽を聞いて気分転換をしたり、問題の解決策を考えたり、友だちに話を聞いてもらったり、ゆっくりお風呂に入ったりなど……していると思います。

皆さんがよく行っている対処法には、どんなものがありますか？

日頃の自分の行動を思い出してみると、いつも同じような対処法を取っているのではないのでしょうか？自分の対処のクセに気づいて、他にどんな対処ができそうか考えて見ましょう。様々な対処法を持っておいて、時と場合に応じて使い分けられるとよいと思います。

ストレス対処のポイントは、

- ①ストレスが小さいうちに対処すること
- ②様々な対処法を上手に使い分けること

と言えるでしょう。そのためには、日頃から、ストレスマネジメントの知識を持っておかれることをオススメします。

今回、ストレス対処法の一つとして、皆さんと一緒にリラクゼーションを体験してみたいと思います。誰にでもできる簡単な方法で、色々な場面で使えると思います。皆さんの対処法の一つに加えていただけたらうれしいです。

大切な試験の前など誰でも緊張しますね。そんな時皆さんはどうやって緊張をほぐしていますか？ ゆっくりと息を吐き出してみましょう。息を吐くことに意識を集中して何回か繰り返していると、気持ちが落ち着いてくると思います。

また精神的に緊張すると、身体までガチガチに硬くなりますね。心と身体は繋がっているので、何らかの精神的ストレスが身体に影響を及ぼすことも日常よく経験します。ストレスの原因を取り除ければよいのですが、試験など避けて通れない事もありますね。

ではどうしたらよいでしょう？

今回取り上げようとしているのは、「筋弛緩法」といって筋肉を弛緩することによってリラックス状態を作る方法です。緊張や不安を感じている時には、打ち消そうとすればするほど焦ってしまいます。そんな時は、リラクゼーションが役に立ちます。ストレスをなくそうと慌てないで、ちょっと筋肉の緊張を緩めてみましょう。すると穏やかな気分になりませんか？普段から練習しておく、自分がリラックスしたいと思う時にセルフコントロールできるようになります。休憩時に取り入れると作業の効率が高まります。心身の疲労回復効果もあります。寝る前にリラックスしてぐっすり眠るのもよいと思います。

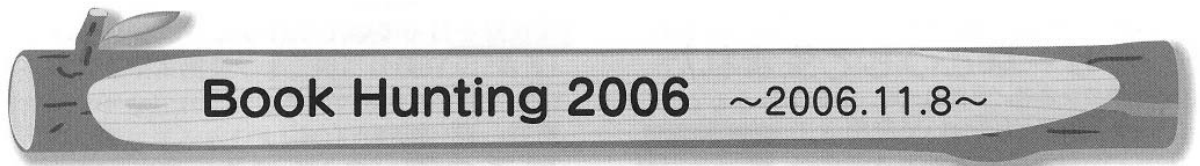
ストレスは誰にでもあるもの、うまく付き合っていきましょう！

当日は、ストレスの対処法についてお話をさせていただき、「呼吸法」や「筋弛緩法」を実際にやってみようと思います。どうぞ楽な服装でおいでください。

(カウンセラー 西川恵美子)

(出典：2006年10月学生相談室だより)

資料 5-4-②-16 ブックハンティング



Book Hunting 2006 ~2006.11.8~



11月8日、私は図書委員としてブックハンティングに参加しました。ブックハンティングは選ぶ人次第でジャンルや好みが偏りがちになってしまうので、なるべく多くの人に読んでもらえるよう、広告や話題性を考慮しながら客観性をもって選ん

でいきました。良い本が選べたと思います。皆さんぜひ読んでみて下さい。[読 本] [本]

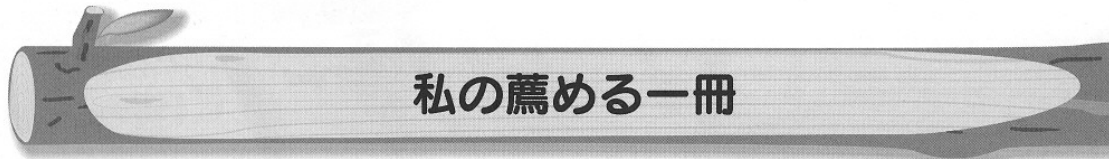
* *

平成18年11月8日、晴れ。図書委員会の仕事でブックハンティングに行きました。授業の課題が終わらずに遅刻しました。ごめんなさい。ぼくが選んだ本は文庫のライトノベルばかりですが、みんなはハードカバーの物を選んでいたので偉いなあと思いました。そこで、負けじと安倍晋三著『美しい国へ』を選びました。日本国民として、国を預かる首相の考えを知っておいたほうが良いと思ったからです。でも、選んだ中での一番のお気に入り、甲田学人著『断章のグリムII』です。同著者の『Missing』も図書館で読んでおもしろかったです。買いたかった本がほとんど買えたので、参加して良かったです。

ところで、図書館の教員著作本の裏・雑誌側に

(出典：群馬高専図書館だより第21号)

資料5-4-②-17 私の薦める一冊



★は図書館所蔵，◎は購入予定

大島 由紀夫 (一般教科・人文科学)

★ 日本の伝統 (岡本太郎の本2)

岡本太郎著，みすず書房

「伝統の継承とは，過去の模倣ではなく，創造的な営みでなければならない。」と主張する本書を，学生時代に何度も読み返しました(当時は新書版で)。怪しげなナショナリズムが徘徊する今日この頃，もう一度読み直したいと思う一冊です。

(開架702.1:042)



ならない」と主人公は，放火する。美しいものの存在を消滅させることによって，「私」のなかだけに存在する「永遠の美」へと昇華させるという心理を緻密に描く。今こそ，高専生が直視しなければならない主題がここにある。(文庫913.6:Mi53)



東城 敏毅 (一般教科・人文科学)

★ 潤一郎訳 源氏物語

谷崎潤一郎著，中央公論新社

いわずとした『源氏物語』の，谷崎潤一郎代語訳。主語のない原文を，そのまま現代の訳に反映させ，原文の持っている雰囲気・さ・曖昧さ・「色気」を忠実に再現している中の名訳。原文を読んだのと同様の達成感を与えることを保証！(開架913.36:Mu56:1~8)

小野 泰央 (一般教科・人文科学)

★ 金閣寺

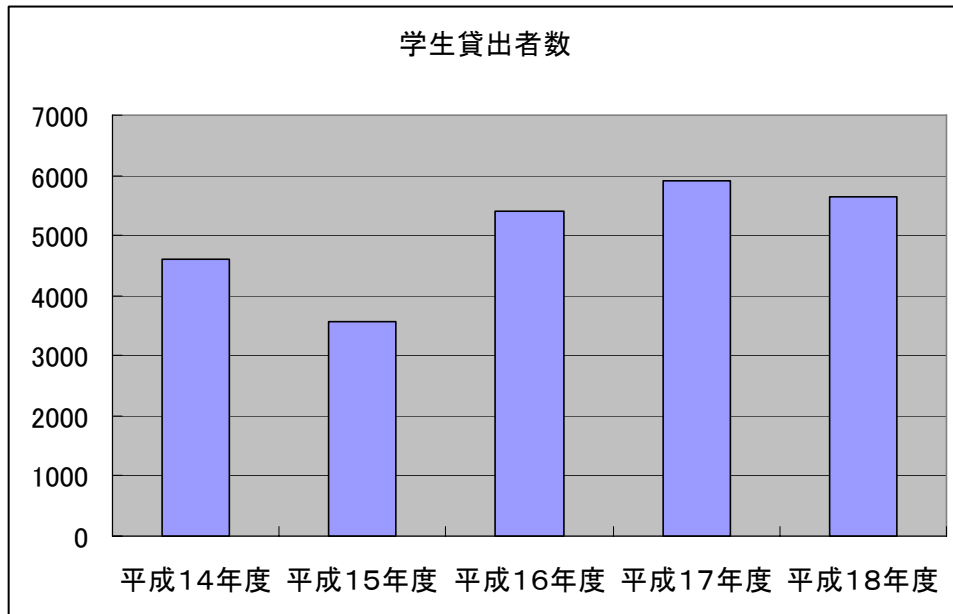
三島由紀夫著，新潮社

昭和25年，金閣寺が寺僧によって焼かれたという事件に基づいて書かれた。「美」の象徴である金閣寺の存在に堪えられなくなり，「自分の心の中にだけその美しさを閉じ込めてしまわなければ

宮里 直樹 (環境都市工学科)

(出典：群馬高専図書館だより第21号)

資料5-4-②-18 図書館年度別利用状況



(出典：図書委員会資料)

<専攻科課程>**観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。**

(観点に係る状況)

(a) 専攻科教育課程概念

本校専攻科は豊かな教養と高度の専門技術を身につけた視野の広い科学技術者を育成することを目的に機械工学科，電子メディア工学科，電子情報工学科を基盤とした生産システム工学専攻と，物質工学科，環境都市工学科の環境工学専攻を設置している。(資料5-5-①-1，資料5-5-①-2)

(b) 準学士課程の教育との連続性

専攻科課程は科目系統図に示されるように，準学士課程で修得した基礎知識を踏まえつつ，さらに高度な専門知識を身につけることにより視野の広い科学技術者を育成できるよう，連携を十分に考慮したものとなっている。(資料5-5-①-3)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の基礎知識を踏まえつつ，より高度な専門知識を身につけた実践的で創造的な技術者を育成できるように専攻科課程は準学士課程との連携を十分考慮した教育課程となっている。

資料 5-5-①-1 専攻科案内

群馬高専 専攻科案内

「平成18年度 2006」

国立群馬工業高等専門学校

高等専門学校制度と専攻科

高等専門学校は、中学校卒業後5年ないし7年間の一貫教育により、一般教育及び工業に関する専門科目を教授して、豊かな教養と高度の専門技術を身につけた視野の広い科学技術者を育成することを目的としています。

専攻科は、学科における5年間の教育の基礎の上に、より深く高度な工学に関する学術を2年間教授研究し、今日の先端産業技術が必要とする創造的な技術者を育成しています。

専攻科において、所定の単位を修得し、大学評価・学位授与機構が行う試験に合格すると、大学学部卒業者と同様に学士（工学）の学位が取得できます。

また、これによって大学院進学資格がえられます。

群馬工業高等専門学校専攻科は、平成7年度に設置され、生産システム工学専攻と環境工学専攻の2専攻があります。

教育体制

本校の専攻科の教育については、独立行政法人大学評価・学位授与機構において、大学教育に相当する水準を有する教育を行っているか、教員が適切に配置されているかなどの認定審査を受け、5年ごとに教育の実施状況等の審査（レビュー）も受け、教育の水準が維持されていることが確認されています。

生産システム工学専攻

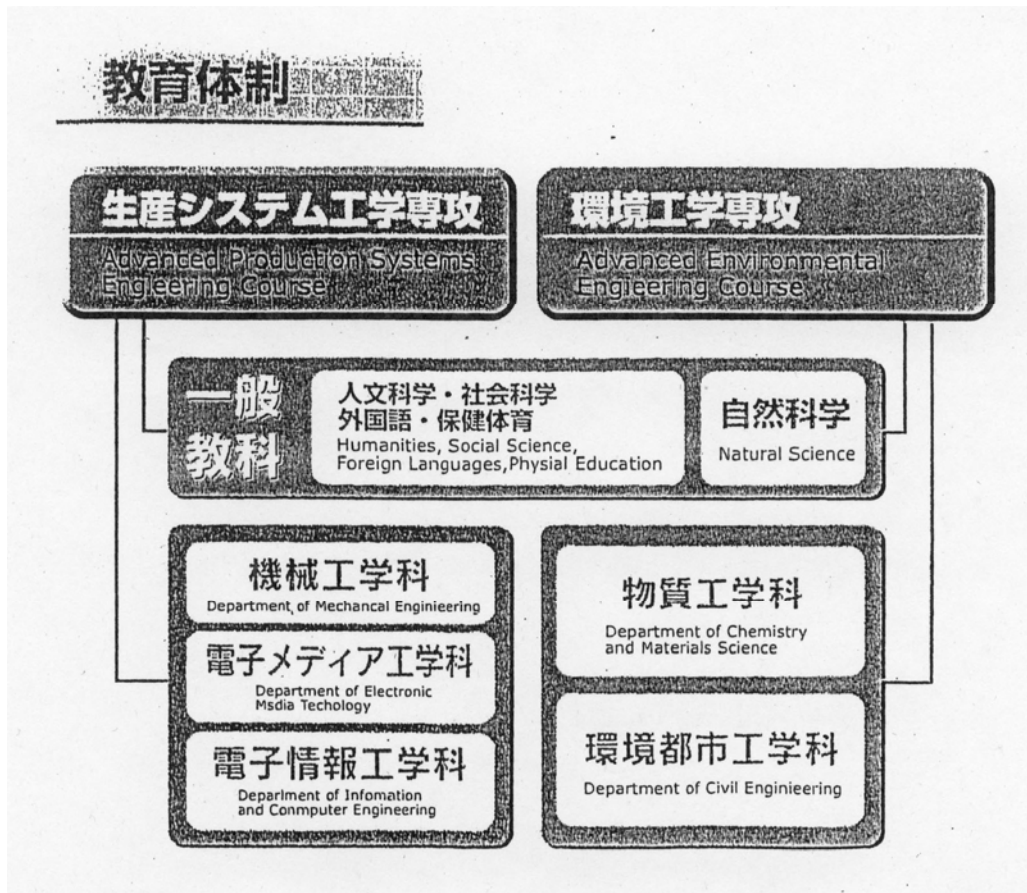
機械工学系、電子メディア工学系、電子情報工学系の学科を基盤とし、各学科の専門性を組み合わせて発展させた領域についての基礎的な教育、研究を行い、各種機器の開発、設計、製造及びシステムの開発、運用などに従事できる実践的で創造的な技術者を育成します。

環境工学専攻

物質工学系と環境都市工学系の学科を基盤とし、各学科の専門性を組み合わせて発展させた、環境の保全や改善に力点を置いて基礎的な教育、研究を行い、環境問題の分析と対策、新しい材料や医薬品の創製、資源の有効利用、水資源保全などに従事できる実践的で創造的な技術者を育成します。

(出典：2006年専攻科案内)

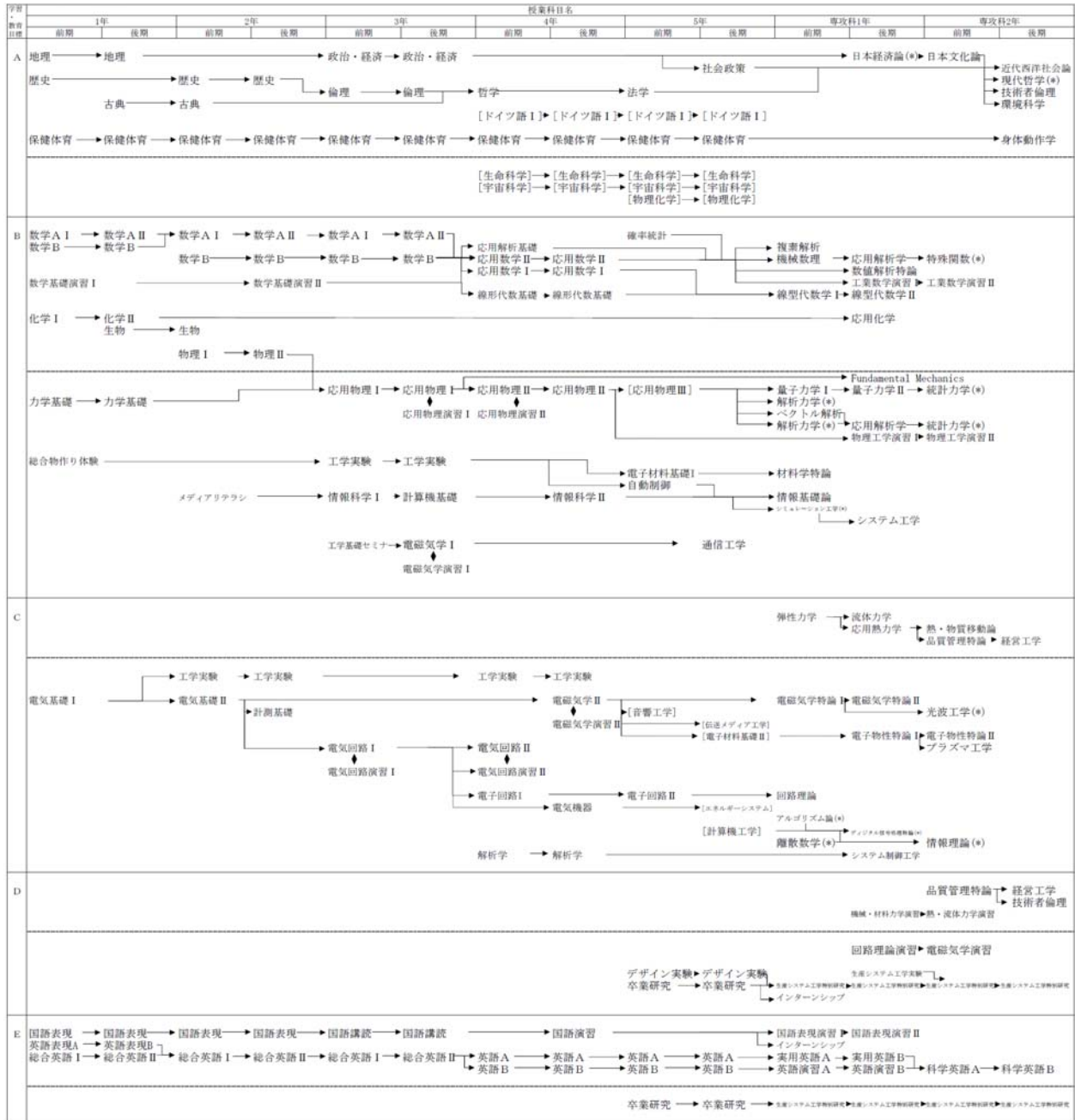
資料 5-5-①-2 専攻科教育体制



(出典：2006年専攻科案内)

資料 5-5-①-3 科目系統図

【準学士課程：電子メディア工学科，専攻科：生産システム工学専攻】

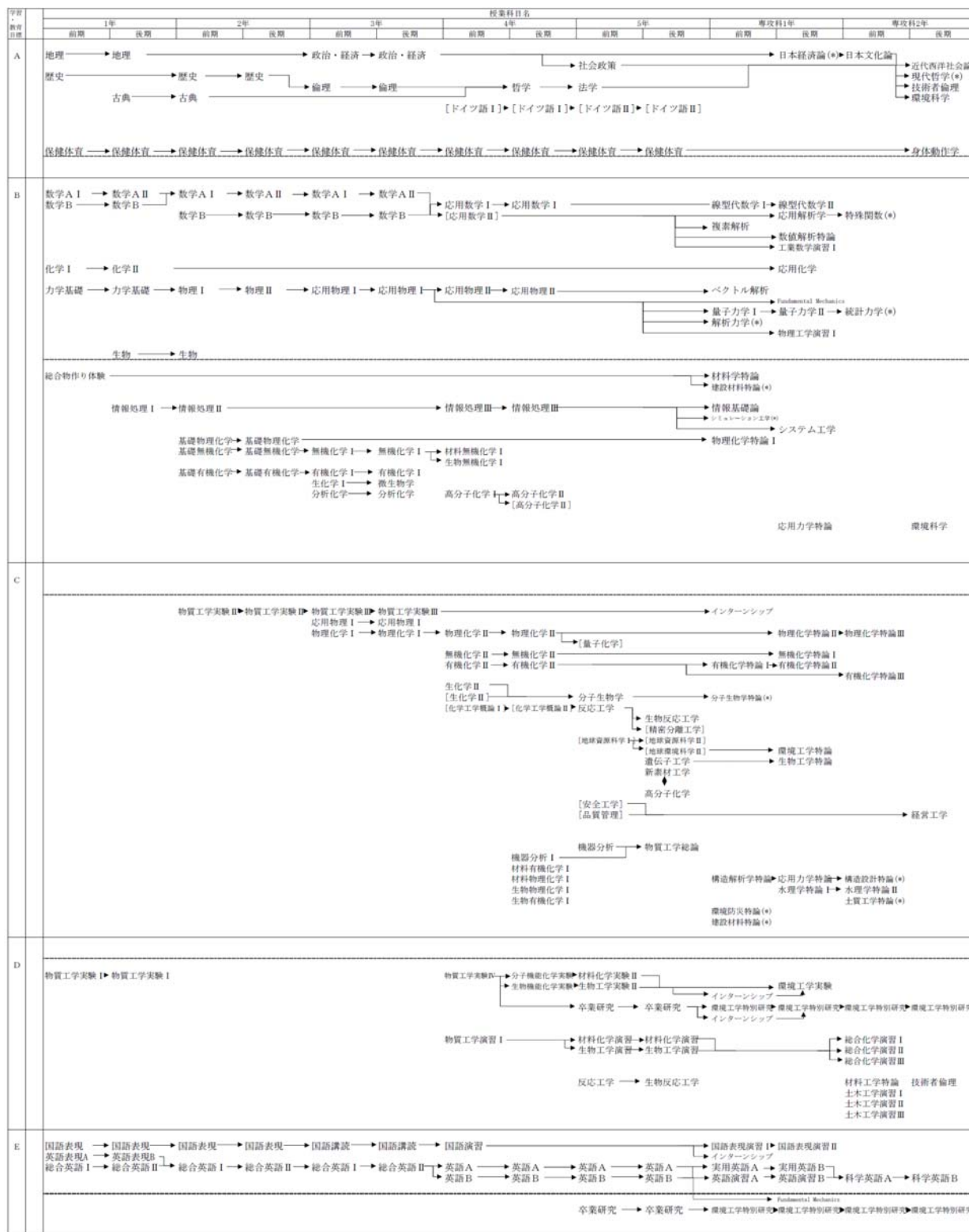


・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
 ・各目標の点線上位は一般科目、下位は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(*)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成18年度シラバスより作成)

資料 5-5-①-3 科目系統図

【準学士課程：物質科学工学科，専攻科：環境工学専攻】



・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
 ・各目標の点線の上段は一般科目、下段は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(*)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成 18 年度シラバスより作成)

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

（a）達成目標に照らして授業科目の配置を基に教育課程が体系的に編成されているか。

- ・ 本校専攻科では準学士課程で修得した学力を基礎に、各専門工学において実践的で創造的な技術者を育成するため、各分野の科目の関連性を考慮しながら、学年進行に伴い開設科目を定めている。（資料5-5-②-1）

（b）各専攻の専門に照らして体系的に構成されているか。

- ・ 科目は一般科目、「異なる分野の幅広い工学基礎知識」を修得するための自然科学系科目、基礎工学科目、「最も得意とする工学の知識」を修得するための専門基礎科目で構成され専門分野を広い視野で捉えることが出来るように配置され、さらに融合的な技術課題に取り組むことができる基礎能力を修得するために専門工学が設置されている。（資料5-5-②-2）
- ・ 学習・教育目標(A)～(E)を達成するためにどの科目をどのような順序で学習するのかを表す科目の流れを示す。（資料5-5-②-3）

（c）授業の内容が教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

- ・ 目標にあげる「得意とする専門工学の基礎知識」には、選択科目として各工学分野の専門科目を当てている。その授業内容は学科で修得した基礎知識を基盤にして、より発展させた内容となっている。例えば、「電磁気学特論Ⅱ」は本科で学んだ電磁気学の内容を基礎として授業内容が編成されている。（資料5-5-②-4）
- ・ 目標にあげる「異なる分野の工学基礎の知識」には、専門の必修科目として両専攻とも同一科目が当てられている。例えば、今日の技術者には「技術者倫理」は不可欠であり、さらに創造的な技術者には、広範な知識が要求されるため、「環境科学」、「情報基礎論」が配置されている。さらに専門知識の融合をめざし「総合工学」が用意されている。（資料5-5-②-5、資料5-5-②-6、資料5-5-②-7、5-5-②-8）

（分析結果とその根拠理由）

- ・ 専攻科教育課程は、準学士課程からの継続性を考慮しながら、本校が掲げる5つの学習・教育目標を達成できるよう体系的に構成されている。
- ・ 学年進行に伴う関連科目の系統図により、準学士課程の学力を基礎に各専門分野において実践的で創造的な技術者を育成するために必要な科目の位置づけが、各専攻において適切になされている。

以上のこと、授業科目は専攻科の教育目的を達成するために適切なものとなっている。

資料 5-5-②-1 カリキュラム【生産システム工学専攻】

専攻科 生産システム工学専攻 (平成18年度入学生に適用)

区分	授業科目	必修 の別	単位数	学年・期別配当単位数				備考
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	
一般科目	英語演習A	選必	1	1				6単位中 から4単 位以上 修得
	英語演習B	選必	1		1			
	実用英語A	選必	1		1			
	実用英語B	選必	1			1		
	実用英語C	選必	1				1	
	実用英語D	選必	1				1	
	国語表現演習I	選択	1	1				12単位中から 6単位以上 修得
	国語表現演習II	選択	1		1			
	国語身体動作学	選択	2				2	
	日本文化論	選択	2			2		
	日本経済論(※)	選択	2		2			
	近代西洋社会論	選択	2				2	
現代哲学(※)	選択	2				2		
一般科目開設単位数計			18	3	5	3	7	隔年開講科目を含む
一般科目最低履修単位数計			10	10				
専門科目	技術者倫理	必修	2				2	72単位中から 26単位以上 修得
	総合工学	必修	2				2	
	環境科学	必修	2				2	
	システム工学	選択	2		2			
	材料学特論	選択	2	2				
	情報基礎論	選択	2	2				
	数値解析特論	選択	2		2			
	応用解析学	選択	2		2			
	応用解析学	選択	2		2			
	複素解析	選択	2	2				
	特殊関数(※)	選択	2			2		
	ベクトル解析	選択	2	2				
	線型代数学I	選択	2	2				
	線型代数学II	選択	2		2			
	解析力学(※)	選択	2	2				
	量子力学I	選択	2	2				
	量子力学II	選択	2		2			
	統計力学(※)	選択	2			2		
	機械数理	選択	2	2				
	熱・物質移動論	選択	2			2		
	応用熱力学	選択	2		2			
	弾性力学	選択	2	2				
	流体力学	選択	2		2			
	システム制御工学	選択	2		2			
	品質管理特論	選択	2			2		
	電気学特論I	選択	2	2				
	電気学特論II	選択	2		2			
	回路理論	選択	2	2				
	電子物性特論I	選択	2		2			
	電子物性特論II	選択	2			2		
	プラズマ工学	選択	2			2		
	光波工学(※)	選択	2			2		
デジタル信号処理特論(※)	選択	2		2				
離散数学(※)	選択	2	2					
情報理論(※)	選択	2			2			
アルゴリズム論(※)	選択	2	2					
シミュレーション工学(※)	選択	2	2					
Fundamental Mechanics	選択	2		2				
精密加工論	選択	2			2			
工業数学演習I	選必	1		1				
工業数学演習II	選必	1			1			
物理工学演習I	選必	1		1				
物理工学演習II	選必	1			1			
機械・材料力学演習	選必	1		1				
熱・流体力学演習	選必	1			1			
電気学演習	選必	1			1			
回路理論演習	選必	1		1				
インターンシップ	必修	1	1					
生産システム工学実験	必修	1		1				
生産システム工学特別研究	必修	1	1	2	6	5		
専門科目開設単位数計			102	30	33	28	11	隔年開講科目を含む
専門科目最低履修単位数計			52	52				
開設単位数計			120	33	38	31	18	隔年開講科目を含む
最低履修単位数計			62	62				

注：1. (※)は隔年開講を示す。

(出典：平成18年度学生便覧)

資料 5-5-②-1 カリキュラム【環境工学専攻】

専攻科 環境工学専攻 (平成18年度入学生に適用)

区分	授業科目	必修 選択 の別	単位数	学年・期別配当単位数				備考	
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期		
一般科目	英語演習 A	選必修	1	1				6単位中 から4単 位以上 修得	
	英語演習 B	選必修	1		1				
	英語演習 A	選必修	1		1				
	英語演習 B	選必修	1			1			
	英語演習 A	選必修	1				1		
	英語演習 B	選必修	1						
	国語表現演習 I	選択	1	1					12単位中から 6単位以上 修得
	国語表現演習 II	選択	1		1				
	国語文化論	選択	2				2		
	国語文化論(※)	選択	2				2		
日本経済論	選択	2		2					
日本西洋論	選択	2				2			
現代哲学	選択	2				2			
一般科目開設単位数計			18	3	5	3	7	隔年開講科目を含む	
一般科目最低履修単位数計			10	10					
専門科目	技術者倫理	必修	2				2	76単位中から 27単位以上 修得	
	総合環境工学	必修	2				2		
	システム工学	選択	2		2				
	材料工学	選択	2	2					
	情報基礎論	選択	2	2					
	数値解析特論	選択	2		2				
	応用解析学	選択	2		2				
	複素解析	選択	2	2					
	特殊関数(※)	選択	2			2			
	ベクトル解析	選択	2	2					
	線型代数学 I	選択	2	2					
	線型代数学 II	選択	2		2				
	量子力学(※)	選択	2	2					
	量子力学 II	選択	2	2					
	統計力学(※)	選択	2			2			
	シミュレーション工学(※)	選択	2	2					
	物理化学特論 I	選択	2	2					
	物理化学特論 II	選択	2		2				
	物理化学特論 III	選択	2	2		2			
	有機化学特論 I	選択	2	2					
	有機化学特論 II	選択	2		2				
	有機化学特論 III	選択	2	2		2			
	有機化学特論 I	選択	2		2				
	生物工学特論	選択	2	2					
	分子生物学特論(※)	選択	2	2					
	材料工学特論	選択	2			2			
	環境分析化学特論(※)	選択	2			2			
	水理学特論 I	選択	2		2				
	水理学特論 II	選択	2			2			
	建設材料特論(※)	選択	2	2					
	構造解析学特論(※)	選択	2	2					
	土質工学特論(※)	選択	2			2			
応用力学特論	選択	2		2					
環境工学特論	選択	2		2					
構造設計特論(※)	選択	2			2				
環境防災特論(※)	選択	2	2						
Fundamental Mechanics	選択	2		2					
環境微生物(※)	選択	2			2				
工業数学演習 I	選必修	1		1			8単位中から 3単位以上 修得		
物理工学演習 I	選必修	1		1					
土木工学演習 I	選必修	1			1				
土木工学演習 II	選必修	1			1				
土木工学演習 III	選必修	1			1				
総合化学演習 I	選必修	1			1				
総合化学演習 II	選必修	1			1				
総合化学演習 III	選必修	1			1				
インターンシップ	必修	1	1						
環境工学実験	必修	1		1					
環境工学特別研究	必修	14	1	2	6	5			
専門科目開設単位数計			106	30	33	32	11	隔年開講科目を含む	
専門科目最低履修単位数計			52	52					
開設単位数計			124	33	38	35	18	隔年開講科目を含む	
最低履修単位数計			62	62					

注：1. (※)は隔年開講を示す。

(出典：平成18年度学生便覧)

資料 5-5-②-2 科目一覧表【生産システム工学専攻 機械工学専修関連】

科目一覧（機械工学専修関連） 平成18年度開設

一般科目（人文社会系及び語学科目）	哲学 社会政策 法学	保健体育(4) 保健体育(5)	英語A(4) 英語B(4) 英語A(5) 英語B(5)	*ドイツ語Ⅰ(4) *ドイツ語Ⅱ(5)	国語演習
	身体動作学 日本文化論	日本経済論 近代西洋社会論 現代哲学	実用英語A 実用英語B 科学英語A 科学英語B		英語演習A 英語演習B 国語表現演習Ⅰ 国語表現演習Ⅱ
自然科学系科目	数学AⅠ(3M) 数学AⅡ(3M) 数学B(3M) 応用数学Ⅰ(4M) 応用数学Ⅱ(4M)	応用物理Ⅰ(3M) 応用物理Ⅱ(4M)	*応用物理Ⅲ(5M)		
	応用解析学 複素解析 特殊関数 ベクトル解析	線型代数学Ⅰ 線型代数学Ⅱ	解析力学 量子力学Ⅰ 量子力学Ⅱ 統計力学 Fundamental Mechanics		工業数学演習Ⅰ 工業数学演習Ⅱ 物理学演習Ⅰ 物理学演習Ⅱ
基礎工学科目	設計・システム系	情報・論理系	材料・バイオ系	力学系	社会技術系
	機械設計法(4M) 設計製図(4M) 自動制御(5E) システムプログラム(4J) 環境都市工学設計製図(4C)	生産管理(5M) 情報科学Ⅱ(4E) 通信工学(5E) 計算機アーキテクチャ(4J) 情報数学(5J) 情報処理Ⅲ(4K) 情報処理Ⅳ(4C)	電子材料基礎Ⅰ(5E) 高分子化学Ⅰ(4K) 生物有機化学Ⅰ(4K生) 材料有機化学Ⅰ(4K材)	材料力学(4M) 応用物理Ⅱ(4E) 応用物理Ⅲ(4J) 構造力学Ⅱ(4C) 地盤工学Ⅰ(4C)	*知的財産権(5M)
	システム工学	情報基礎論	材料学特論	数値解析特論 物理化学特論Ⅰ	環境科学
廃止科目		電子計算機(4E)	電気材料(5E) 有機材料化学(4K材) 分子生物学(4K生)	基礎工学(4K)	*工業法規(5M)
専門基礎科目	材料学(4M) 熱力学(4M) 流体工学Ⅰ(4M) 機械工作法(4M) 計測工学Ⅰ(4M)	機械力学(5M) 流体工学Ⅱ(5M) 制御工学(5M) 伝熱工学(5M) 工業英語(5M)		*情報処理Ⅱ(5M) *内燃機関(5M) *計測工学Ⅱ(5M) *機械工学特論Ⅰ(5M) *機械工学特論Ⅱ(5M)	工学実験(4M)
	技術者倫理 生産システム工学実験 経営工学	機械数理 熱・物質移動論 応用熱力学 弾性力学 流体力学 システム制御工学 品質管理特論	電磁気学特論Ⅰ 電磁気学特論Ⅱ 回路理論 電子物性特論Ⅰ 電子物性特論Ⅱ プラズマ工学 光波工学	デジタル信号処理特論 離散数学 情報理論 アルゴリズム論 シミュレーション工学 応用化学	機械・材料力学演習 熱・流体力学演習 電磁気学演習 回路理論演習
	卒業研究(5K)				
専門工学科目	特別研究	インターンシップ	総合工学		

- ・専門工学とは、「最も得意とする工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎知識」を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力に関する工学のことである。
- ・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
- ・各科目類の点線の上段は本科開設科目（*は選択科目で、他はすべて必修科目）、下段は専攻科開設科目（斜体は必修科目で、他は選択科目）を示す。
- ・科目右隣（ ）中の英数字は当該科目の学科と開設学年を示す。
- ・ここで、M（機械工学科）、E（電気工学科または電子メディア工学科）、J（電子情報工学科）、K（物質工学科）、C（環境都市工学科）であり、材（材料化学コース）、生（生物工学コース）である。
- ・専攻科隔年開講科目も含む。
- ・廃止科目とは現在は開設されていないが、過去に開設され、基礎工学科目であった科目をいう。

（出典：平成18年度学生便覧）

資料 5-5-②-2 科目一覧表【生産システム工学専攻 電気工学専修関連】

科目一覧（電子メディア工学または電気工学専修関連） 平成18年度開設

一般科目（人文社会系及び語学科目）	哲学 社会政策 法学	保健体育(4) 保健体育(5)	英語A(4) 英語B(4) 英語A(5) 英語B(5)	*ドイツ語Ⅰ(4) *ドイツ語Ⅱ(5)	国語演習
	身体動作学 日本文化論	日本経済論 近代西洋社会論 現代哲学	実用英語A 実用英語B 科学英語A 科学英語B		英語演習A 英語演習B 国語表現演習Ⅰ 国語表現演習Ⅱ
自然科学系科目	数学AⅠ(3E) 数学AⅡ(3E) 数学B(3E)	解析学(4E) 線形代数基礎(4E) 応用解析基礎(4E) 確率統計(5E)	応用物理Ⅰ(3E)	*応用物理Ⅲ(5E)	応用物理演習Ⅱ(4E)
	応用解析学 複素解析 特殊関数 ベクトル解析	線型代数学Ⅰ 線型代数学Ⅱ	解析学 量子力学Ⅰ 量子力学Ⅱ 統計力学 Fundamental Mechanics		工業数学演習Ⅰ 工業数学演習Ⅱ 物理工学演習Ⅰ 物理工学演習Ⅱ
基礎工学科目	設計・システム系	情報・論理系	材料・バイオ系	力学系	社会技術系
	機械設計法(4M) 設計製図(4M) 自動制御(5E) システムプログラム(4J) 環境都市工学設計製図(4C)	生産管理(5M) 情報科学Ⅱ(4E) 通信工学(5E) 計算機アーキテクチャ(4J) 情報数学(5J) 情報処理Ⅲ(4K) 情報処理Ⅳ(4C)	電子材料基礎Ⅰ(5E) 高分子化学Ⅰ(4K) 生物有機化学Ⅰ(4K生) 材料有機化学Ⅰ(4K材)	材料力学(4M) 応用物理Ⅱ(4E) 応用物理Ⅱ(4J) 構造力学Ⅱ(4C) 地盤工学Ⅰ(4C)	*知的財産権(5M)
	システム工学	情報基礎論	材料科学特論	数値解析特論 物理化学特論Ⅰ	環境科学
廃止科目		電子計算機(4E)	電気材料(5E) 有機材料化学(4K材) 分子生物学(4K生)	基礎工学(4K)	*工業法規(5M)
専門基礎科目	電気回路Ⅱ(4E) 電磁気学Ⅱ(4E) 電子回路Ⅰ(4E) 電気機器(4E)	電子回路Ⅱ(5E)	*物理化学(4E) *生命科学(4E) *宇宙科学(4E)	*伝送メディア工学(5E) *エネルギーシステム(5E) *電子材料基礎Ⅱ(5E) *音響工学(5E) *計算機工学(5E)	電気回路演習Ⅱ(4E) 電磁気学演習Ⅱ(4E) 工学実験(4E) デザイン実験(5E)
	技術者倫理	機械数理 熱・物質移動論 応用熱力学	電磁気学特論Ⅰ 電磁気学特論Ⅱ 回路理論	デジタル信号処理特論 離散数学 情報理論 アルゴリズム論 シミュレーション工学	機械・材料力学演習 熱・流体力学演習 電磁気学演習 回路理論演習
	生産システム工学実験 経営工学	弾性力学 流体力学 システム制御工学 品質管理特論	電子物性特論Ⅰ 電子物性特論Ⅱ プラズマ工学 光波工学	応用化学	
専門工学科目	卒業研究(5E)				
	特別研究	インターンシップ	総合工学		

- ・専門工学とは、「最も得意とする工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎知識」を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力に関する工学のことである。
- ・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
- ・各科目類の点線上段は本科開設科目（*は選択科目で、他はすべて必修科目）、下段は専攻科開設科目（斜体は必修科目で、他は選択科目）を示す。
- ・科目右隣（ ）中の英数字は当該科目の学科と開設学年を示す。
- ・ここで、M（機械工学科）、E（電気工学科または電子メディア工学科）、J（電子情報工学科）、K（物質工学科）、C（環境都市工学科）であり、材（材料化学コース）、生（生物工学コース）である。
- ・専攻科隔年開講科目も含む。
- ・廃止科目とは現在は開設されていないが、過去に開設され、基礎工学科目であった科目をいう。

（出典：平成18年度学生便覧）

資料 5-5-②-2 科目一覧表【生産システム工学専攻 電子情報工学専修関連】

科目一覧（電子情報工学専修関連） 平成18年度開設

一般科目（人文社会系及び語学科目）	哲学 社会政策 法学	保健体育(4) 保健体育(5)	英語A(4) 英語B(4) 英語A(5) 英語B(5)	*ドイツ語Ⅰ(4) *ドイツ語Ⅱ(5)	国語演習
	身体動作学 日本文化論	日本経済論 近代西洋社会論 現代哲学	実用英語A 実用英語B 科学英語A 科学英語B		英語演習A 英語演習B 国語表現演習Ⅰ 国語表現演習Ⅱ
自然科学系科目	数学AⅠ(3J) 数学AⅡ(3J) 数学B(3J) 応用数学Ⅰ(4J) 応用数学Ⅱ(4J)	応用物理Ⅰ(3J)			
	応用解析学 複素解析 特殊関数 ベクトル解析	線型代数学Ⅰ 線型代数学Ⅱ	解析力学 量子力学Ⅰ 量子力学Ⅱ 統計力学 Fundamental Mechanics		工業数学演習Ⅰ 工業数学演習Ⅱ 物理工学演習Ⅰ 物理工学演習Ⅱ
基礎工学科目	設計・システム系	情報・論理系	材料・バイオ系	力学系	社会技術系
	機械設計法(4M) 設計製図(4M) 自動制御(5E) システムプログラム(4J) 環境都市工学設計製図(4C)	生産管理(5M) 情報科学Ⅱ(4E) 通信工学(5E) 計算機アーキテクチャ(4J) 情報数学(5J) 情報処理Ⅲ(4K) 情報処理Ⅲ(4C)	電子材料基礎Ⅰ(5E) 高分子化学Ⅰ(4K) 生物有機化学Ⅰ(4K生) 材料有機化学Ⅰ(4K材)	材料力学(4M) 応用物理Ⅱ(4E) 応用物理Ⅱ(4J) 構造力学Ⅱ(4C) 地盤工学Ⅰ(4C)	*知的財産権(5M)
	システム工学	情報基礎論	材料科学特論	数値解析特論 物理化学特論Ⅰ	環境科学
廃止科目		電子計算機(4E)	電気材料(5E) 有機材料化学(4K材) 分子生物学(4K生)	基礎工学(4K)	*工業法規(5M)
専門基礎科目	電気磁気学Ⅰ(4J) 電気磁気学Ⅱ(4J) 電気回路(4J) 電子回路(4J) ハルス回路(4J) プログラム言語(4J)	電気磁気学Ⅲ(5J) 計算機アーキテクチャ(5J) システムプログラム(5J) 情報ネットワーク(5J) 工業英語(5J)	*マイコンシステム(4J) *LSI工学Ⅰ(4J) *LSI工学Ⅱ(4J) *LSI設計製作Ⅰ(4J) *信号処理(4J)	*電子工学特論Ⅰ(5J) *電子工学特論Ⅱ(5J) *電子工学特論Ⅲ(5J) *LSI設計製作Ⅱ(5J) *計測制御工学(5J) *情報工学特論Ⅱ(5J) *情報工学特論Ⅲ(5J) *人工知能(5J) *デジタル画像処理(5J)	工学演習(4J) 電子情報工学実験実習(4J) 電子情報工学実験実習(5J)
	技術者倫理	機械数理 熱・物質移動論 応用熱力学 弾性力学 流体力学 システム制御工学 品質管理特論	電磁気学特論Ⅰ 電磁気学特論Ⅱ 回路理論 電子物性特論Ⅰ 電子物性特論Ⅱ プラズマ工学 光波工学	デジタル信号処理特論 離散数学 情報理論 アルゴリズム論 シミュレーション工学 応用化学	機械・材料力学演習 熱・流体力学演習 電磁気学演習 回路理論演習
	生産システム工学実験 経営工学				
専門工学科目	卒業研究(5J)				
	特別研究	インターンシップ	総合工学		

- ・専門工学とは、「最も得意とする工学」と「幅広い工学基礎知識」を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力に関する工学のことである。
- ・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
- ・各科目類の点線・上段は本科開設科目（*は選択科目で、他はすべて必修科目）、下段は専攻科開設科目（斜体は必修科目で、他は選択科目）を示す。
- ・科目右隣（ ）中の英数字は当該科目の学科と開設学年を示す。
- ・ここで、M（機械工学科）、E（電気工学科または電子メディア工学科）、J（電子情報工学科）、K（物質工学科）、C（環境都市工学科）であり、材（材料化学コース）、生（生物工学コース）である。
- ・専攻科隔年開講科目も含む。
- ・廃止科目とは現在は開設されていないが、過去に開設され、基礎工学科目であった科目をいう。

（出典：平成18年度学生便覧）

資料 5-5-②-2 科目一覧表【環境工学専攻 物質工学専修関連】

科目一覧（物質工学専修関連） 平成18年度開設

一般科目 及び 語学科目	哲学 社会政策 法学	保健体育(4) 保健体育(5)	英語A(4) 英語B(4) 英語A(5) 英語B(5)	*ドイツ語Ⅰ(4) *ドイツ語Ⅱ(5)	国語演習
	身体動作学 日本文化論	日本経済論 近代西洋社会論 現代哲学	実用英語A 実用英語B 科学英語A 科学英語B		英語演習A 英語演習B 国語表現演習Ⅰ 国語表現演習Ⅱ
自然科学系科目	数学AⅠ(3K) 数学AⅡ(3K) 数学B(3K) 応用数学Ⅰ(4K)	応用物理Ⅰ(3K) 応用物理Ⅱ(4K)	*応用数学Ⅱ(4K)		
	応用解析学 複素解析 特殊関数 ベクトル解析	線型代数学Ⅰ 線型代数学Ⅱ	解析力学 量子力学Ⅰ 量子力学Ⅱ 統計力学 Fundamental Mechanics		工業数学演習Ⅰ 物理工学演習Ⅰ
基礎工学科目	設計・システム系	情報・論理系	材料・バイオ系	力学系	社会技術系
	機械設計法(4M) 設計製図(4M) 自動制御(5E) システムプログラム(4J) 環境都市工学設計製図(4C)	生産管理(5M) 情報科学Ⅱ(4E) 通信工学(5E) 計算機アーキテクチャ(4J) 情報数学(5J) 情報処理Ⅲ(4K) 情報処理Ⅲ(4C)	電子材料基礎Ⅰ(5E) 高分子化学Ⅰ(4K) 生物有機化学Ⅰ(4K生) 材料有機化学Ⅰ(4K材)	材料力学(4M) 応用物理Ⅱ(4E) 応用物理Ⅱ(4J) 構造力学Ⅱ(4C) 地盤工学Ⅰ(4C)	*知的財産権(5M)
	システム工学	情報基礎論	材料科学特論	数値解析特論 物理化学特論Ⅰ	環境科学
廃止科目		電子計算機(4E)	電気材料(5E) 有機材料化学(4K材) 分子生物学(4K生)	基礎工学(4K)	*工業法規(5M)
専門基礎科目	物理化学Ⅱ(4K) 有機化学Ⅱ(4K) 無機化学Ⅱ(4K) 化学・生物英語Ⅰ(4K) 化学・生物英語Ⅱ(4K) 機器分析Ⅰ(4K)	材料無機化学Ⅰ(4K材) 高分子化学Ⅱ(4K材) 材料物理化学Ⅰ(4K材) 生物無機化学Ⅰ(4K生) 生化学Ⅱ(4K生) 生物物理化学Ⅰ(4K生)	物質工学総論(5K) 機器分析(5K) 反応工学(5K材) 新素材工学(5K材) 高分子化学(5K材) 生物反応工学(5K生) 遺伝子工学(5K生)	*生化学Ⅱ(4K材) *高分子化学Ⅱ(4K生) *地球資源科学Ⅰ(5K) *地球資源科学Ⅱ(5K) *地球環境科学Ⅱ(5K) *量子化学(5K) *安全工学(5K) *品質管理(5K) *精密分離工学(5K) *化学工学総論Ⅰ(4K) *化学工学総論Ⅱ(4K)	物質工学演習Ⅰ(4K) 物質工学実験Ⅳ(4K) 分子機能化学実験(4K材) 生物機能化学実験(4K生) 材料化学実験Ⅱ(5K材) 材料化学演習(5K材) 生物工学実験Ⅱ(5K生) 生物工学演習(5K生)
	技術者倫理	シミュレーション工学	水理学特論Ⅰ 水理学特論Ⅱ 建設材料特論 構造解析学特論 土質工学特論 応用力学特論 環境工学特論 構造設計特論 環境防災特論	環境微生物学	土木工学演習Ⅰ 土木工学演習Ⅱ 土木工学演習Ⅲ 総合化学演習Ⅰ 総合化学演習Ⅱ 総合化学演習Ⅲ
	生産システム工学実験 経営工学	物理化学特論Ⅱ 物理化学特論Ⅲ 有機化学特論Ⅰ 有機化学特論Ⅱ 有機化学特論Ⅲ 無機化学特論Ⅰ 生物工学特論 分子生物学特論 材料工学特論		応用化学	
専門工学科目	卒業研究(5K)				
	特別研究	インターンシップ	総合工学		

- ・専門工学とは、「最も得意とする工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎知識」を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力に関する工学のことである。
- ・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
- ・各科目類の点線は本科開設科目（*は選択科目で、他はすべて必修科目）、下段は専攻科開設科目（斜体は必修科目で、他は選択科目）を示す。
- ・科目右隣（ ）中の英数字は当該科目の学科と開設学年を示す。
- ・ここで、M（機械工学科）、E（電気工学科または電子メディア工学科）、J（電子情報工学科）、K（物質工学科）、C（環境都市工学科）であり、材（材料化学コース）、生（生物工学コース）である。
- ・専攻科隔年開講科目も含む。
- ・廃止科目とは現在は開設されていないが、過去に開設され、基礎工学科目であった科目をいう。

（出典：平成18年度学生便覧）

資料 5-5-②-2 科目一覧表【環境工学専攻 環境都市工学専修関連】

科目一覧（環境都市工学専修関連）平成18年度開設

一般科目 (人文社会系 及び語学科目)	哲学 社会政策 法学	保健体育(4) 保健体育(5)	英語A(4) 英語B(4) 英語A(5) 英語B(5)	*ドイツ語Ⅰ(4) *ドイツ語Ⅱ(5)	国語演習
	身体動作学 日本文化論	日本経済論 近代西洋社会論 現代哲学	実用英語A 実用英語B 科学英語A 科学英語B		英語演習A 英語演習B 国語表現演習Ⅰ 国語表現演習Ⅱ
自然科学系科目	数学AⅠ(3C) 数学AⅡ(3C) 数学B(3C) 応用数学Ⅰ(4C) 応用数学Ⅱ(4C)	応用物理Ⅰ(3C) 応用物理Ⅱ(4C)			
	応用解析学 複素解析 特殊関数 ベクトル解析	線型代数学Ⅰ 線型代数学Ⅱ	解析力学 量子力学Ⅰ 量子力学Ⅱ 統計力学 Fundamental Mechanics		工業数学演習Ⅰ 物理学演習Ⅰ
基礎工学科目	設計・システム系	情報・論理系	材料・バイオ系	力学系	社会技術系
	機械設計法(4M) 設計製図(4M) 自動制御(5E) システムプログラム(4J) 環境都市工学設計製図(4C)	生産管理(5M) 情報科学Ⅱ(4E) 通信工学(5E) 計算機アーキテクチャ(4J) 情報数学(5J) 情報処理Ⅲ(4K) 情報処理Ⅳ(4C)	電子材料基礎Ⅰ(5E) 高分子化学Ⅰ(4K) 生物有機化学Ⅰ(4K生) 材料有機化学Ⅰ(4K材)	材料力学(4M) 応用物理Ⅱ(4E) 応用物理Ⅲ(4J) 構造力学Ⅱ(4C) 地盤工学Ⅰ(4C)	*知的財産権(5M)
	システム工学	情報基礎論	材料科学特論	数値解析特論 物理化学特論Ⅰ	環境科学
廃止科目		電子計算機(4E)	電気材料(5E) 有機材料化学(4K材) 分子生物学(4K生)	基礎工学(4K)	*工業法規(5M)
専門基礎科目	地盤工学Ⅱ(4C) 応用地質(4C) 水理学Ⅱ(4C) コンクリート構造学(4C) 橋工学(4C) 環境工学Ⅰ(4C)	構造力学Ⅲ(5C) 都市計画(5C) 計画数理(5C) 測量リモートセンシング(5C) CAD(5C) 環境工学Ⅱ(5C) 環境水工学(5C) 耐震構造学(5C)	*交通工学Ⅰ(4C) *校外実習(4C)	*建設行政(5C) *防災工学Ⅰ(5C) *防災工学Ⅱ(5C) *防災工学Ⅲ(5C) *交通工学Ⅱ(5C) *景観工学(5C) *生物生態学(5C) *環境化学(5C)	環境都市工学実験実習(4C) 環境都市工学セミナー(4C) 環境都市工学実験実習(5C)
	技術者倫理 生産システム工学実験 経営工学	シミュレーション工学 物理化学特論Ⅱ 物理化学特論Ⅲ 有機化学特論Ⅰ 有機化学特論Ⅱ 有機化学特論Ⅲ 無機化学特論Ⅰ 生物工学特論 分子生物学特論 材料工学特論	水理学特論Ⅰ 水理学特論Ⅱ 建設材料特論 構造解析学特論 土質工学特論 応用力学特論 環境工学特論 構造設計特論 環境防災特論	環境微生物学 応用化学	土木工学演習Ⅰ 土木工学演習Ⅱ 土木工学演習Ⅲ 総合化学演習Ⅰ 総合化学演習Ⅱ 総合化学演習Ⅲ
専門工学科目	卒業研究(5C)				
	特別研究	インターンシップ	総合工学		

- ・専門工学とは、「最も得意とする工学の知識」と「異なる分野の幅広い工学基礎知識」を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力に関する工学のことである。
- ・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
- ・各科目類の点線・上段は本科開設科目（*は選択科目で、他はすべて必修科目）、下段は専攻科開設科目（斜体は必修科目で、他は選択科目）を示す。
- ・科目右隣（ ）中の英数字は当該科目の学科と開設学年を示す。
- ・ここで、M（機械工学科）、E（電気工学科または電子メディア工学科）、J（電子情報工学科）、K（物質工学科）、C（環境都市工学科）であり、材（材料化学コース）、生（生物工学コース）である。
- ・専攻科隔年開講科目も含む。
- ・廃止科目とは現在は開設されていないが、過去に開設され、基礎工学科目であった科目をいう。

（出典：平成18年度学生便覧）

資料 5-5-②-3 科目の流れ【生産システム工学専攻 機械工学専修関連】

学習・教育目標を達成するために必要な主たる授業科目の流れ 平成18年度開設科目

〔機械工学専修関連〕

学習・教育 目標	授業科目名											
	3年		4年		5年		専攻科1年				専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A			保健体育 [ドイツ語 I]	保健体育 [ドイツ語 I] 哲学	保健体育 [ドイツ語 II] 法学	保健体育 [ドイツ語 II] 社会政策				日本経済論 (★)	日本文化論	身体動作学 近代西洋社会論 現代哲学 (★)
B	数学B 数学A I	数学B 数学A II										技術者倫理 環境科学
	応用物理 I	応用物理 I	応用数学 I 応用数学 II 応用物理 II 流体工学 I 材料力学 機械設計法 設計製図	応用数学 I 応用数学 II 応用物理 I 流体工学 I 材料力学 機械設計法 設計製図	制御工学 制御工学 生産管理 [応用物理 III]	制御工学 制御工学 生産管理 [機械工学特論 I]	複素解析 線型代数 I 量子力学 I 機械数論 情報基礎論 ベクトル解析 材料学特論 解析力学 (★) シミュレーション工学 (★)	応用解析学 線型代数 II 量子力学 II 数値解析特論 システム工学 応用化学 Fundamental Mechanics 工業数学演習 I 物理学演習 I	工業数学演習 II 物理学演習 II 統計力学 (★) 特殊関数 (★)		環境科学	
C	応用物理	応用物理	応用物理 II 材料学 熱力学 流体工学 I 機械工作法 工学実験 計測工学 I	応用物理 II 材料学 熱力学 流体工学 I 機械工作法 工学実験 計測工学 I	機械力学 流体工学 II 伝熱工学 工業英語 [応用物理 III] [内燃機関] [機械工学特論 II] [情報処理 II]	機械力学 流体工学 II 伝熱工学 [計測工学 II] [機械工学特論 I]	弾性力学 電磁気学特論 I 回路理論 インターンシップ 離散数学 (★) アルゴリズム論 (★)	応用熱力学 流体工学 システム制御工学 電磁気学特論 II 電子物性特論 I 物理学演習 I デジタル信号処理特論 (★)	熱・物質移動論 品質管理特論 物理工学演習 II プラズマ工学 情報理論 (★) 光工学 (★)		経営工学	
D			熱力学 機械工作法 機械設計法 工学実験	熱力学 機械工作法 機械設計法 工学実験	卒業研究 伝熱工学 [内燃機関] [機械工学特論 II] [情報処理 II]	卒業研究 伝熱工学 [計測工学 II]	生産システム工学特別研究 インターンシップ	機械・材料力学演習 回路理論演習 生産システム工学実験 生産システム工学特別研究	品質管理特論 熱・流体工学演習 電磁気学演習 生産システム工学特別研究		技術者倫理 生産システム工学特別研究	
E			英語 A 英語 B 英語演習	英語 A 英語 B	英語 A 英語 B	英語 A 英語 B 卒業研究	実用英語 A 英語演習 A 英語表現演習 I	実用英語 B 英語演習 B 英語表現演習 II	科学英語 A		科学英語 B	
					卒業研究 工業英語		生産システム工学特別研究 インターンシップ	Fundamental Mechanics 生産システム工学特別研究	生産システム工学特別研究		生産システム工学特別研究	

・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
 ・各目標の点線は一般科目、下段は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(★)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成 18 年度学生便覧)

資料5-5-②-3 科目の流れ【生産システム工学専攻 電気工学専修関連】

学習・教育目標を達成するために必要な主たる授業科目の流れ 平成18年度開設科目

[電子メディア工学または電気工学専修関連]

学習・教育 目標	授業科目名									
	3年		4年		5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A			保健体育 [ドイツ語Ⅰ]	保健体育 [ドイツ語Ⅰ] 哲学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 法学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 社会政策		日本経済論(★)	日本文化論	身体動作学 近代西洋社会論 現代哲学(★)
			[生命科学] [宇宙科学] [物理化学]	[生命科学] [宇宙科学] [物理化学]	[物理化学] [生命科学] [宇宙科学]	[物理化学] [生命科学] [宇宙科学] [エネルギーシステム]				技術者倫理 環境科学
B	数学B 数学AⅠ	数学B 数学AⅡ								
	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ 解析学 線形代数基礎 応用解析基礎 応用物理演習Ⅱ 電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ	応用物理Ⅱ 解析学 線形代数基礎 電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ 情報科学Ⅱ	電子材料基礎Ⅰ 自動制御 [応用物理Ⅲ]	確率統計 通信工学 [計算機工学]	複素解析 線型代数Ⅰ 量子力学Ⅰ 機械処理 情報基礎論 ベクトル解析 材料学特論 解析力学(★) シミュレーション工学(★)	応用解析学 線型代数Ⅱ 量子力学Ⅱ 数値解析特論 システム工学 応用化学 Fundamental Mechanics 工業数学演習Ⅰ 物理学演習Ⅰ	工業数学演習Ⅱ 物理学演習Ⅱ 統計力学(★) 特殊関数(★)	環境科学
C	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅰ	工学実験 電子回路Ⅰ 電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ	工学実験 電気機器 電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ	電子回路Ⅱ デザイン実験 [応用物理Ⅲ] [音響工学]	デザイン実験 [エネルギーシステム] [伝送メディア工学] [電子材料基礎Ⅱ] [計算機工学]	弾性力学 電磁気学特論Ⅰ 回路理論 インターンシップ 離散数学(★) アルゴリズム論(★)	応用熱力学 流体力学 システム制御工学 電磁気学特論Ⅱ 電子物性特論Ⅰ 物理学演習Ⅰ デジタル信号処理特論(★)	熱・物質移動論 品質管理特論 電子物性特論Ⅱ プラズマ工学 情報理論(★) 光工学(★)	経営工学
			工学実験 電子回路Ⅰ	工学実験 電気機器	電子回路Ⅱ デザイン実験 卒業研究	デザイン実験 卒業研究 [電子材料基礎Ⅱ] [エネルギーシステム]	生産システム工学特別研究 インターンシップ	機械・材料力学演習 回路理論演習 生産システム工学実験 生産システム工学特別研究	品質管理特論 熱・流体力学演習 電磁気学演習 生産システム工学特別研究	技術者倫理 生産システム工学特別研究
E			英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B	英語A 英語B	実用英語A 英語演習A 国語表現演習Ⅰ	実用英語B 英語演習B 国語表現演習Ⅱ	科学英語A	科学英語B
					卒業研究	卒業研究	生産システム工学特別研究 インターンシップ	Fundamental Mechanics 生産システム工学特別研究	生産システム工学特別研究	生産システム工学特別研究

・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
 ・各目標の点線の上段は一般科目、下段は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(★)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成18年度学生便覧)

資料5-5-②-3 科目の流れ【生産システム工学専攻 電子情報工学専修関連】

学習・教育目標を達成するために必要な主たる授業科目の流れ 平成18年度開設科目

[電子情報工学専修関連]

学習・教育 目標	授業科目名									
	3年		4年		5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A			保健体育 [ドイツ語Ⅰ]	保健体育 [ドイツ語Ⅰ] 哲学	保健体育 [ドイツ語Ⅱ]	保健体育 [ドイツ語Ⅱ] 法学 社会政策		日本経済論(★)	日本文化論	身体動作学 近代西洋社会論 現代哲学(★)
B	数学B 数学AⅠ	数学B 数学AⅡ	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用物理Ⅱ 電気磁気学Ⅰ プログラム言語 システムプログラム	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用物理Ⅱ 電気磁気学Ⅱ プログラム言語 システムプログラム 計算機アーキテクチャ	情報数学 電気磁気学Ⅲ	情報数学	複素解析 線形代数Ⅰ 量子力学Ⅰ 機械数理 情報基礎論 ベクトル解析 材料科学特論 解析力学(★) シミュレーション工学(★)	応用解析学 線形代数Ⅱ 量子力学Ⅱ 微分解析特論 システム工学 応用化学 Fundamental Mechanics 工業数学演習Ⅰ 物理学演習Ⅰ	工業数学演習Ⅱ 物理学演習Ⅱ 統計力学(★) 特殊関数(★)	環境科学
C	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ 電気磁気学Ⅰ 電気回路 電子回路 パルス回路 電子情報工学実験実習 工学演習 電子情報工学実験実習 [マイコンシステム] [L S I 工学Ⅰ]	応用物理Ⅱ 電気磁気学Ⅱ 電気回路 電子回路 電子情報工学実験実習 [L S I 工学Ⅱ] [L S I 設計製作Ⅰ] [信号処理]	情報数学 システムプログラム 情報ネットワーク 電気磁気学Ⅲ 電子情報工学実験実習 計算機アーキテクチャ [L S I 設計製作Ⅱ] [電子工学特論Ⅰ] [電子工学特論Ⅱ] [情報工学特論Ⅱ]	情報数学 システムプログラム 情報ネットワーク 電子情報工学実験実習 [電子工学特論Ⅱ] [計測制御工学] [情報工学特論Ⅲ] [人工知能] [デジタル画像処理]	弾性力学 電気磁気学特論Ⅰ 回路理論 インターンシップ 離散数学(★) アルゴリズム論(★)	応用熱力学 流体力学 システム制御工学 電気磁気学特論Ⅱ 電子物性特論Ⅰ 物理学演習Ⅰ デジタル信号処理特論(★)	熱・物質移動論 品質管理特論 電子物性特論Ⅱ プラズマ工学 情報理論(★) 光工学(★)	経営工学
D		工学演習 電子情報工学実験実習 [L S I 工学Ⅰ]	電子情報工学実験実習 卒業研究 [L S I 設計製作Ⅰ]	電子情報工学実験実習 卒業研究 計算機アーキテクチャ [L S I 設計製作Ⅱ] [情報工学特論Ⅱ]	電子情報工学実験実習 卒業研究 [情報工学特論Ⅲ]	生産システム工学特別研究 インターンシップ	機械・材料力学演習 回路理論演習 生産システム工学実験 生産システム工学特別研究	品質管理特論 熱・流体力学演習 電気磁気学演習 生産システム工学特別研究	技術者倫理 生産システム工学特別研究	
E		英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B	英語A 英語B	実用英語A 英語演習A 国語表現演習Ⅰ	実用英語B 英語演習B 国語表現演習Ⅱ	科学英語A	科学英語B	
				卒業研究 工業英語	卒業研究	生産システム工学特別研究 インターンシップ	Fundamental Mechanics 生産システム工学特別研究	生産システム工学特別研究	生産システム工学特別研究	

・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
・各目標の点線・上段は一般科目、下段は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(★)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成18年度学生便覧)

資料 5 - 5 - ② - 3 科目の流れ【環境工学専攻 物質工学専修関連】

学習・教育目標を達成するために必要な主たる授業科目の流れ 平成18年度開設科目

【物質工学専修関連】

学習・教育目標	授業科目名								授業科目名			
	3年		4年		5年		専攻科1年		専攻科2年			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A			保健体育 【ドイツ語Ⅰ】	保健体育 【ドイツ語Ⅰ】 哲学	保健体育 【ドイツ語Ⅱ】 社会政策	保健体育 【ドイツ語Ⅱ】 法学			日本経済論(★)	日本文化論	身体動作学 近代西洋社会論 現代哲学(★)	
B	数学B 数学AⅠ	数学B 数学AⅡ	応用数学Ⅰ 応用物理Ⅱ 情報処理Ⅲ 高分子化学Ⅰ 材料有機化学Ⅰ 生物有機化学Ⅰ 【応用数学Ⅱ】	応用数学Ⅰ 応用物理Ⅱ 情報処理Ⅲ			複素解析 線形代数Ⅰ 量子力学Ⅰ 材料学特論 情報基礎論 ベクトル解析 物理化学特論Ⅰ 解析力学(★) シミュレーション工学(★)	システム工学 応用解析学 線形代数Ⅱ 量子力学Ⅱ 数値解析特論 応用力学特論 応用化学 Fundamental Mechanics 工業数学演習Ⅰ 物理工学演習Ⅰ	情報論(★) 統計力学(★)	環境科学		
C	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ 物理化学Ⅱ 無機化学Ⅱ 有機化学Ⅱ 生化学Ⅱ 【化学工学概論Ⅰ】	応用物理Ⅱ 物理化学Ⅱ 有機化学Ⅱ 無機化学Ⅱ 高分子化学Ⅱ 材料無機化学Ⅰ 材料物理化学Ⅰ 生物物理化学Ⅰ 生体無機化学Ⅰ 機器分析Ⅰ 【化学工学概論Ⅱ】	機器分析 反応工学 分子生物学 【地球資源科学Ⅰ】 【量子化学】 【安全工学】 【品質管理】	物質工学概論 新素材工学 生物反応工学 高分子化学 遺伝子工学 【地球資源科学Ⅱ】 【地球環境科学Ⅱ】 【精密分離工学】	有機化学特論Ⅰ 構造解析学特論 インターンシップ 分子生物学特論(★) 環境防災特論(★) 建設材料特論(★)	物理化学特論Ⅱ 有機化学特論Ⅱ 無機化学特論Ⅰ 生物工学特論 水理学特論Ⅰ 応用力学特論 環境工学特論 物理工学演習Ⅰ	物理化学特論Ⅲ 有機化学特論Ⅲ 水理学特論Ⅱ 土質工学特論(★) 構造設計特論(★)	経営工学		
D		物質工学実験Ⅳ 物質工学演習Ⅰ	分子機能工学実験 生物機能化学実験	卒業研究 材料化学演習 生物工学演習 反応工学 材料化学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅱ	卒業研究 材料化学演習 生物工学演習 生物反応工学		環境工学特別研究 インターンシップ	環境工学実験 環境工学特別研究	材料工学特論 土木工学演習Ⅰ 土木工学演習Ⅱ 土木工学演習Ⅲ 総合化学演習Ⅰ 総合化学演習Ⅱ 環境工学特別研究	技術者倫理 環境工学特別研究		
E		英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B	英語A 英語B	英語A 英語B	実用英語A 英語演習A 国語表現演習Ⅰ	実用英語B 英語演習B 国語表現演習Ⅱ	科学英語A	科学英語B		
			化学・生物英語Ⅰ	化学・生物英語Ⅱ	卒業研究	卒業研究	環境工学特別研究 インターンシップ	Fundamental Mechanics 環境工学特別研究	環境工学特別研究	環境工学特別研究		

・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、環境工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
 ・各日曜の点線は一般科目、下段は専門科目を示す。字色の【】は選択科目を示す。専攻科の(★)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成18年度学生便覧)

資料 5-5-②-3 科目の流れ【環境工学専攻 環境都市工学専修関連】

学習・教育目標を達成するために必要な主たる授業科目の流れ 平成18年度開設科目
 [環境都市工学専修関連]

学習・教育 目標	授業科目名						授業科目名				
	3年		4年		5年		専攻科1年		専攻科2年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A			保健体育 【ドイツ語Ⅰ】	保健体育 【ドイツ語Ⅰ】 哲学	保健体育 【ドイツ語Ⅱ】 法学 社会政策	保健体育 【ドイツ語Ⅱ】		日本経済論(★)	日本文化論		身体動作学 近代西洋社会論 現代哲学(★)
											技術者倫理 環境科学
B	数学B 数学AⅠ	数学B 数学AⅡ									
	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅰ	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用物理Ⅱ 構造力学Ⅱ 地盤工学Ⅰ 情報処理Ⅱ 環境都市工学設計概論	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 構造力学Ⅱ 地盤工学Ⅰ 情報処理Ⅱ 環境都市工学設計概論	農業リモートセンシング 【生物生態学】 【環境化学】		複素解析 線形代数Ⅰ 量子力学Ⅰ 材料科学特論 情報基礎論 ベクトル解析 物理化学特論Ⅰ 解析力学(★) シミュレーション工学(★)	システム工学 応用解析学 線形代数Ⅱ 量子力学Ⅱ 数値解析特論 応用力学特論 Fundamental Mechanics 工業数学演習Ⅰ 物理学演習Ⅰ	特殊関数(★) 統計力学(★)		環境科学
C	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ 水理学Ⅱ コンクリート構造学 統工学 環境工学Ⅰ 応用地質	地盤工学Ⅱ 水理学Ⅱ コンクリート構造学 統工学 環境工学Ⅰ 【交通工学Ⅰ】	環境工学Ⅱ 構造力学Ⅲ 都市計画 【防災工学Ⅰ】 【防災工学Ⅱ】 【環境工学】 耐震構造学 【交通工学Ⅱ】 【建設行政】 【防災工学Ⅱ】	環境工学Ⅱ 都市計画 【防災工学Ⅰ】 【防災工学Ⅱ】 【環境工学】	有機化学特論Ⅰ 構造解析学特論 インターンシップ 分子生物学特論(★) 環境防災特論(★) 建設材料特論(★)	物理化学特論Ⅱ 有機化学特論Ⅱ 無機化学特論Ⅱ 生物工学特論 水理学特論Ⅰ 応用力学特論 環境工学特論 物理学演習Ⅰ	物理化学特論Ⅲ 有機化学特論Ⅲ 水理学特論Ⅱ 土質工学特論(★) 構造設計特論(★)		経営工学
			環境都市工学実験実習 環境都市工学セミナー 【校外実習】	環境都市工学実験実習 環境都市工学セミナー 【校外実習】	卒業研究	卒業研究 CAD 環境都市工学実験実習	環境工学特別研究 インターンシップ	環境工学実験 環境工学特別研究	材料工学特論 土木工学演習Ⅰ 土木工学演習Ⅱ 土木工学演習Ⅲ 総合化学演習Ⅰ 総合化学演習Ⅱ 総合化学演習Ⅲ 環境工学特別研究		技術者倫理 環境工学特別研究
D			英語A 英語B 国語演習	英語A 英語B	英語A 英語B	英語A 英語B	実用英語A 英語演習A 国語表現演習Ⅰ	実用英語B 英語演習B 国語表現演習Ⅱ	科学英語A		科学英語B
			【校外実習】		卒業研究	卒業研究	環境工学特別研究 インターンシップ	Fundamental Mechanics 環境工学特別研究	環境工学特別研究		環境工学特別研究

・専修とは、最も得意とする専門分野の修得を意味し、機械工学専修、電子メディア工学または電気工学専修、電子情報工学専修、物質工学専修、環境都市工学専修の5専修からなる。
 ・各目標の点線は一般科目、下線は専門科目を示す。学科の[]は選択科目を示す。専攻科の(★)は隔年開講科目を示す。

(出典：平成18年度学生便覧)

資料 5-5-②-4 電磁気学特論Ⅱシラバス

群馬工業高等専門学校 2007年度シラバス 8808620006AP/20070416

(科目コード:8808620006AP)

【科目】電磁気学特論Ⅱ

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】選択 【学期・単位数】後期・2単位

【対象学科・専攻】生産システム工学専攻・1年次

【担当教員】

小幡 常啓

【授業目標・教育方針】

5年課程で学習した電磁気学を基礎として、物質が介在する場合の電磁気現象について深く学び、電磁気現象の利用が現代文明の一端を担っていることを認識すると共に、自然に対する理解を一層深める。

【授業概要】

原子内部におけるミクロスケールの電荷分布を考慮した微視的電磁場に対して真空中の Maxwell 方程式が成り立つと仮定する。物質中の電磁現象を調べるときには一般にこのような微視的量は興味がなく、巨視的に関心がある。そこで微視的 Maxwell 方程式を巨視的スケールで時空平均することにより、巨視的 Maxwell 方程式を導出する。それをもとに、物質が関係するさまざまな電磁現象を調べる。また、誘電率、透磁率、導電率の微視的理論も一部取り上げる。

【教科書・教材・参考書等】

参考書：物理入門コース 電磁気学Ⅱ：長岡洋介：岩波書店

参考書：電磁気学Ⅰ・Ⅱ、丸善物理学基礎コース：太田浩一：丸善

参考書：電磁気学上・下：パノフスキー/フィリップス：吉岡書店

参考書：電磁気学：ゾンマーフェルト：講談社

参考書：電磁気学Ⅰ・Ⅱ：ランダウ・リフシッツ：東京図書

参考書：ファイマン物理学(3)電磁気学：ファイマン：岩波書店

授業ノートは講義終了後に Web 上にアップしていく予定です。

【授業形式・視覚・機器等の活用】

講義形式で行う。

【リンク】

<http://www.elc.gunma-ct.ac.jp/Subjects/>

【備考】

静電磁場から電磁波までを一通り学習したことを前提にして、主として物質中の電磁場について深く掘り下げて解説してきます。また、ベクトル解析は道具として縦横に使います。これまで学習した電磁気学とベクトル解析をよく復習しておいてください。

【成績評価方法】

【後期】期末試験：100%

【本校の学習・教育目標】

◎ (C) 技術的課題解決のための専門分野の知識を身につける。

【JABEE 評価】

(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力(分野別要件)

工学(複合融合・新領域)分野の分野別基準

(2-a) 専門工学(工学(融合複合・新領域)における専門工学の内容は申請大学が規定するものとする)の知識と能力

(2-d)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力

(出典：2007年度 シラバス)

資料5-5-②-5 技術者倫理シラバス

国立群馬工業高等専門学校 2006年度シラバス 8800520007AA/20060327

(科目コード: 8800520007AA)

【科目】技術者倫理

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】後期・2単位

【対象学科・専攻】専攻科共通・2年次

【担当教員】

下田 祐紀夫
樋口 博
竹島 尚仁

【授業目標・教育方針】

これからの技術者には、技術が社会および自然に及ぼす影響を考慮し、技術者として社会および自然に対する責任を自覚する能力(技術者倫理)が要求される。

- (1) 技術者倫理についての理解を深め、技術が社会および自然に及ぼすプラスの面とマイナスの両面を考え、技術者として社会および自然に対する責任を自覚することができる。
- (2) 各学生が取り組んでいる「特別研究」の内容について、技術者倫理の視点より多面的に考え、報告することができる。
- (3) わかりやすいプレゼンテーションができる。
- (4) 相手の意見を聞き、自分の意見も相手に伝えることができる。
- (5) 発表要旨、議事録等をわかりやすくまとめることができる。

【授業概要】

代表的な幾つかの事故例を中心に、事故の原因、責任の所在、社会への影響、自然への影響、考えられた未然防止策など、学生が技術について多面的に考えることができるように、次のテーマについて倫理基礎知識を事例を通して学習する。

組織とエンジニア、企業の社会的責任、安全性と設計、事故調査、製造物責任、知的財産権、施行管理、工程管理、維持管理、企業秘密を守る、内部告発、倫理規定、専門的知識の研鑽等

【教科書・教材・参考書等】

教科書 齊藤了文、坂下浩司著、「はじめての工学倫理」、昭和堂、2005

参考書 (1) C.H. ハリス他(日本技術士会訳編)、「科学技術者の倫理—その考え方と事例」、丸善、1998。

(2) 加藤尚武著、「現代倫理学入門」、講談社学術文庫、1997

(3) 飯野弘之著、「新・技術者になるということ」、雄松堂、2000

(4) 加藤尚武編、「環境と倫理 - 自然と人間が共生を求めて」、有斐閣アルマ、1999

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

学生を班に分け、班ごとに、1テーマを担当する。各班は1回の授業を担当し、授業前に、テーマの調査を行い、発表内容を相談し、発表要旨を作成し、当日配布する。問題提起を含めてプレゼンテーションを行い、全員で議論する。議事録を作成し、次回の授業の最初に議事録の説明を行い、議事録の確認を全員で行う。

【メッセージ】

学生が自ら学ぶ授業を基本とする。倫理の各テーマについて、学生が事前に調べ、発表要旨をまとめ、プロジェクター原稿を作成する。問題提起を含め学生がプレゼンテーションを行い、学生同志で議論し、学生がまとめ、議事録を作成し、学習内容を報告する。

【成績評価方法】

【後期】期末試験：30%、その他：工学倫理小テスト10%、授業での討議・役割(発表、司会、議事録)等15%、報告書45%

【本校の学習・教育目標】

- ◎ (A) 地球的規模での人、社会、環境についての倫理・教養を身につける。
- (D) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身につける。

【JABEE 評価】

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
- (d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力(分野別要件)
工学(複合融合・新領域)分野の分野別基準
(2-d)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力
- (e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

【授業計画】(授業名：技術者倫理)

回数	授業の主題	内容	レポート・宿題等
第1回	授業ガイダンス 技術者倫理序論	学習目標、授業の進め方、学習方法と学習内容、課題、定期試験、評価方法 技術者倫理の基礎	課題
第2回	組織とエンジニア	チャレンジャー号事件 又は コロンビア号事故	課題
第3回	企業の社会的責任	フォード・ピント事件 又は環境に配慮したデンソーカーエアコン	課題
第4回	安全性と設計	日本航空ジャンボ機墜落事故 又は 阪急伊勢丹駅のユニバーサルデザインについて	課題 小テスト
第5回	事故調査	日航機ニアミス 又は信楽高原駅鉄道事故	課題 小テスト
第6回	製造物責任	レガシイ・リコール事件 又は六本木ヒルズ回転ドア 小テスト	課題 小テスト
第7回	知的財産権	遺伝子スパイ事件又は技術情報の囲い込み、IBM産業スパイ	課題 小テスト
第8回	施工管理	原発コンクリート大量加水事件 又は欠陥住宅	課題 小テスト
第9回	工程管理	雪印乳業集団食中毒事件 又はJOC臨界事故	課題
第10回	維持管理	ボパール 又は東京電力トラブル隠し	課題 小テスト
第11回	企業秘密を守る	転職のモラル 又は新潟鐵工事件 守秘義務と公衆の福利	課題 小テスト
第12回	内部告発	キルベイン・ゴールド 又はグッドリッチ社のブレーキ開発	課題 小テスト
第13回	倫理規定	原発用圧力容器のゆがみ矯正 又はアメリカ機械技術者協会 vs ハイドロレベル社	課題
第14回	専門的知識の研鑽	無駄な開発 又は現地ワーカーから抗議された	課題
第15回	定期試験		

(出典：2006年度シラバス)

資料5-5-②-6 環境科学シラバス

国立群馬工業高等専門学校 2006年度シラバス 8000520007AA/20060327

(科目コード: 8000520007AA)

【科目】環境科学

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】後期・2単位

【対象学科・専攻】専攻科共通・2年次

【担当教員】

小島 昭
石澤 静雄
林 俱子
森田 哲夫
青井 透

【授業目標・教育方針】

地球と調和しながら人類を繁栄させるための基本的な事項を学ぶ。

【授業概要】

人類は、快適な生活を求め地球に多くの負荷をかけているが、これからの世紀に宇宙船地球号をどう運転するのか、人類の存続に係わる問題が山積している。それらは水環境保全、地球温暖化、オゾン層破壊、地球観測、廃棄物処理、土壌環境保全、化学物質汚染、環境ホルモン、環境測定・評価、都市環境整備などである。

【教科書・教材・参考書等】

プリント利用

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

特になし（座学で実施）

【成績評価方法】

【後期】期末試験：80%，レポート：20%

【本校の学習・教育目標】

◎(A) 地球的規模での人、社会、環境についての倫理・教養を身につける。

【JABEE 評価】

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
- (c) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (g) 自主的、継続的に学習できる能力

【授業計画】(授業名: 環境科学)

回数	授業の主題	内容	レポート・宿題等
第1回(青井)	水の環境科学	21世紀の戦略的な水問題、水資源の有限性と人口増加への対応、国際的な水質汚濁、国際河川での水紛争	
第2回(青井)	水の環境科学	利根川の水質と汚濁の原因、源流部分の水質と大気汚染の関係、都市排水と農業排水の負荷	
第3回(青井)	水の環境科学	水の浄化方法各論、有機物汚濁、栄養塩汚濁、微量有機化合物や重金属汚染	
第4回(石澤)	大気環境科学	大気の物理化学(対流圏オゾン、対流圏光化学など)	
第5回(石澤)	大気環境科学	大気環境汚染物質(1)窒素酸化物、光化学オキシダントの生成機構、環境基準、現状について	
第6回(石澤)	大気環境科学	環境汚染物質(2)浮遊粒子状物質、2酸化硫黄の生成機構、環境基準、現状について	
第7回(小島)	廃棄物問題	一般廃棄物と産業廃棄物	
第8回(小島)	資源の循環	リユース、リサイクル、リデュース	
第9回(林)	生物の情報伝達機構	神経系と内分泌系による個体内情報伝達、遺伝子による世代間情報伝達	
第10回(林)	ホルモン作用と環境ホルモン	ホルモン中枢、フィードバック制御、標的細胞、受容体、タンパク性ホルモン、ステロイドホルモン	
第11回(林)	遺伝子とガン	突然変異、紫外線、発ガン物質、ウイルス、原ガン遺伝子、ガン遺伝子、ガン抑制遺伝子	
第12回(森田)	都市環境の現状	全国の都市の環境負荷からみた現状および比較	
第13回(森田)	持続可能な都市	持続可能な都市実現のための目標および対策	
第14回(森田)	都市環境の総合評価	多面的な視点からみた都市環境の総合評価	
第15回	試験	環境科学に関する総合問題	

(出典: 2006年度シラバス)

資料 5-5-②-7 情報基礎論シラバス

国立群馬工業高等専門学校 2006 年度シラバス 8007820006AA/20060327

(科目コード: 8007820006AA)

【科目】情報基礎論

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】選択 【学期・単位数】前期・2 単位

【対象学科・専攻】専攻科共通・1 年次

【担当教員】

大豆生田 利章

【授業目標・教育方針】

UNIX 上のソフトウェアを利用した情報整理・情報発信ができるようになる。

【授業概要】

以下の各項目について実習を中心に学び、工学各分野において技術者・研究者に求められる計算機科学の基礎的能力とインターネットマナーを実習を通して身に付ける。

- ・UNIX の基礎コマンド
- ・emacs と日本語入力
- ・インターネットリテラシー (電子メール、WWW)
- ・DTP 入門 (日本語 LaTeX)
- ・作図入門 (tgif、GNUPLOT)
- ・プログラミング入門 (Java applet)

【教科書・教材・参考書等】

オンラインテキストやプリントを適宜使用

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

情報処理教育センターを使用した実習が中心となる

【リンク】

<http://www.ice.gunma-ct.ac.jp/~mame/kougi/kisoron/>

【成績評価方法】

【前期】期末試験: 20%, レポート: 80%, その他: 提出課題の内容および試験の内容により評価する。

【本校の学習・教育目標】

◎ (B) 技術的課題解決のための幅広い工学基礎の知識を身につける。

【JABEE 評価】

- (c) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
 (d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力 (分野別要件)
 工学 (複合融合・新領域) 分野の分野別基準

- (1) 基礎工学の内容は、1) 設計・システム系科目群, 2) 情報・論理系科目群, 3) 材料・バイオ系科目群, 4) 力学系科目群, 5) 社会技術系科目群からなり、各群から少なくとも 1 科目、合計最低 6 科目についての知識と能力

【授業計画】 (授業名: 情報基礎論)

回数	授業の主題	内容	レポート・宿題等
1	ガイダンス・WWW	ログイン・ログアウト、ウィンドウシステムの基礎、WWW (World Wide Web) とは、ブラウザの設定と使い方、ネチケット	
2	emacs	emacs の操作および日本語入力	
3	UNIX の基本コマンド	ファイル操作、テキストファイルの印刷	
4		ファイルの複写とバックアップ、シェルの機能	
5	電子メール	mh によるメールの送受、マナー	課題 1
6	HTML (1)	Web ページの仕組み、HTML 入門、Web ページ作成	課題 2
7	作図入門	tgif の使い方	課題 3
8	HTML (2)	Web ページへの画像の取り込み	課題 4
9	LaTeX	LaTeX の基本的な使い方	課題 5
10		LaTeX への画像の組込み	課題 6
11	Java アプレット入門	アプレット作成の基礎	課題 7
12		基本制御構造	課題 8
13		イベント操作	課題 9
14	グラフ作成	GNUPLOT の基本操作、LaTeX への組込み	課題 10
15	定期試験		定期試験

(出典: 2006 年度シラバス)

資料 5 - 5 - ② - 8 総合工学シラバス

群馬工業高等専門学校 2007 年度シラバス 8800620067AA/20070416

(科目コード：8800620067AA)

【科目】総合工学

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】後期・2単位

【対象学科・専攻】専攻科共通・2年次

【担当教員】

下田 祐紀夫
 石澤 静雄
 大手 丈夫
 渡邊 直寛
 樋口 博
 牛田 啓太
 戸井 啓夫
 三上 卓
 井草 勝
 佐々木 悟

【授業目標・教育方針】

異なる分野の幅広い工学基礎の知識と最も得意とする工学の知識を融合することにより、専門分野を広い視野でとらえることができ、将来、より高度な技術的課題にとりくむことのできる基礎となる能力を養う。

【授業概要】

毎年度、1つのテーマを設定し、このテーマに沿った事項を各専門分野 (M.E.J.K.C) の立場から取り上げ講ずる (10回分程度)。各科の教員がそれぞれ2回分の講義を担当し、担当分が終了した段階で、学生にレポートを課し、評価する。4回分は企業人講師による「ものづくり」に関する講義 (企業見学含む) である。やはり終了後レポートを提出し、評価する。尚、初回はガイダンスを行なう。以上の講義を受ける中で、学生は与えられたテーマに関する問題設定を自ら行い、それについて資料調査し、得られた事実に基づいて自らの考えを述べた総合報告書を作成、提出する。報告書は A4 判 (40 字 × 30 行) 4～8 枚 (図表など含む)

【教科書・教材・参考書等】

各担当教員が指定する文献、または配布資料など

【成績評価方法】

【後期】 レポート：100%、その他：評価法：各科の教員が行なう 2 回分の講義に対するレポート：6 点 × 5 = 30 点
 企業人講師が行なう 4 回分の講義に対するレポート：20 点
 総合報告書 : 50 点
 尚、総合報告書は講義を担当した教員 5 名 (各 10 点満点) が評価する。

【本校の学習・教育目標】

◎ (D) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身につける。

【JABEE 評価】

- (d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力 (分野別要件)
 工学 (複合融合・新領域) 分野の分野別基準
 (2-c) 工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力
 (2-d) (工学) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力
 (e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
 (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

(出典：2007年度シラバス)

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

（a）TOEICとインターンシップの単位認定

- ・ 教育目標(E)のコミュニケーション能力の向上を目指すとともに社会的ニーズよりTOEIC試験の結果を単位として認定している。学生の就労体験は今日の社会の要請となっており，専攻科ではインターンシップを必修科目として位置づけ，単位を認定している。（資料5-5-③-1，資料5-5-③-2）

（b）外部機関との単位互換

- ・ 放送大学科目の履修の規則を定め10単位（5科目）までの履修を可能としている。（資料5-5-③-3，資料5-5-③-4）
- ・ 学生の学習環境を充実するため群馬大学工学部との相互履修協定に基づく単位互換制度を実施している。（資料5-5-③-3，資料5-5-③-5，資料5-5-③-6，資料5-5-③-7）
- ・ さらに，現代的教育ニーズ支援プログラムにおける「単位実践型講義配信事業」に参画し，鈴鹿高専と岐阜高専との単位互換制度を実施している。（資料5-5-③-3，資料5-5-③-8，資料5-5-③-9）

（c）補充授業

- ・ 専攻科入学時未修得単位の科目がある場合の補充授業の実施し，学力の認定を行っている。（資料5-5-③-10，資料5-5-③-11）

（d）他専攻の授業の履修

- ・ 教育目標にある「最も得意とする専門工学の知識と異なる分野の幅広い工学基礎の知識の融合」という観点から，カリキュラムの中に両専攻の学生が共通に履修できる専門科目を多く設けている。尚，他専攻の授業を履修し，試験に合格した科目についても，専攻科の単位として認める方向で検討が進められている。（資料5-5-③-12）

（分析結果とその根拠理由）

- ・ 学生の授業科目に対する多様なニーズに応えるため他の高等教育機関における単位履修の方法について諸規則が定められ，単位を認定している。
- ・ 社会的ニーズとしての英語コミュニケーション能力の向上をはかり，また英語教育の幅を広げるため，TOEIC試験の結果を単位として認定している。
- ・ 社会的要請に応じてインターンシップを必修科目として位置づけ，単位を認定している。
- ・ 両専攻の学生が履修可能な多くの共通専門科目を用意し，科目選択の幅を広くしている。また補充授業により，専攻科における学習が円滑に進められるよう学生に配慮している。

以上のことから，学生の多様なニーズや，社会からの要請に配慮した教育課程となっている。

資料5-5-③-1 TOEIC試験の単位認定規則

注6 TOEICを受験し規定の得点を取得した者は、以下の基準にしたがい、これを英語(選択必修a)の単位に替えることができる。

取得得点	認定単位	評価
500点以上	2単位	優
460点以上500点未満	1単位	優

※ 専攻科入学後から修了認定前までに受験し取得したもののみ有効とする。

(出典：平成18年度専攻科履修のしおり)

資料 5-5-③-2 インターンシップ実施要領

群馬工業高等専門学校専攻科インターンシップ実施要項

平成16年4月1日
改 定

(目的)

第1条 インターンシップは、企業又は官公庁における就業体験を通して、職業意識の育成、将来設計及び実務能力の向上を図るとともに、就業体験で得た成果を自己の学習に生かすことを目的とする。

(インターンシップ機関)

第2条 学生がインターンシップを履修する機関（以下「就業体験機関」という。）は、専攻科委員会の議に基づき、校長が決定するものとする。

(インターンシップの履修)

第3条 インターンシップを履修する学生（以下「就業体験学生」という。）は、就業体験機関の定める諸規則を遵守するとともに、及び就業体験機関における就業責任者の指示に従ってインターンシップを行わなければならない。

(インターンシップ履修願)

第4条 就業体験学生は、インターンシップ履修願（別紙様式1）を校長に提出許可を受けなければならない。

(インターンシップの申込み)

第5条 インターンシップを履修しようとする学生は、インターンシップ申込書（別紙様式2）を就業体験機関に提出しなければならない。

2 前項のインターンシップ申込書について、就業体験機関所定の様式がある場合は、その様式をもって替えることができる。

(報告書)

第6条 就業体験学生は、インターンシップ終了後速やかに、次に掲げる書類を校長に提出しなければならない。

(1) インターンシップ実施証明書（別紙様式3）

(2) インターンシップ日誌（別紙様式4）

(インターンシップの実習先・実習期間)

第7条 インターンシップの実習先は原則として県内とする。また、期間は原則として2週間以上とする。

(単位の認定)

第8条 インターンシップ就業体験学生はインターンシップ終了後、評価基準に適合している学生には所定の単位認定をする。

(事務)

第9条 インターンシップに関する事務は、学生課教務係において処理する。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、インターンシップに関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：専攻科インターンシップ実施要領)

資料 5-5-③-3 専攻科科目履修の規則

9 学位(工学士)の取得について

学位(工学士)を取得するには、専攻科で単位を修得するとともに、大学評価・学位授与機構の審査に合格しなければなりません。本校専攻科の単位の一部は群馬大学・放送大学でも修得できるようにしています。

10 授業時間割

- (1) 生産システム工学専攻 (別紙参照)
- (2) 環境工学専攻 (別紙参照)

11 教育課程表等

- (1) 生産システム工学専攻教育課程表 (別表 1)
- (2) 環境工学専攻教育課程表 (別表 2)
- (3) 放送大学の指定科目 (別表 3)
- (4) 専攻科の修了要件 (修了に必要な単位数) (別表 4)

12 授業科目概要等

- (1) 一般科目、生産システム工学専攻専門科目、環境工学専攻専門科目のシラバスはCD-ROM版で配布します。

13 放送大学の授業受講方法等

専攻科の授業のみで修了に必要な単位を修得することは可能ですが、その単位の一部を放送大学の履修単位で充当することも可能です。ただし、次のような制約がありますので、注意してください。

- (1) 放送大学における修得単位が専攻科の授業科目の単位として認定されるのは、最大 10 単位(5 科目)までであること。
- (2) 放送大学の受講指定科目は、別表 3 に記載された科目の中から選ぶこと。
- (3) 受講者本人が放送大学へ直接、受講申込みを行うこと。
- (4) 放送大学の授業科目は、専攻科の時間割には掲載していないこと。
- (5) 放送大学の単位を取得しようとする学生は、あき時間等を使い、各自が学校又は自宅でテレビを視聴し、学習すること。
- (6) 学位申請の関係上、放送大学の単位は専攻科 1 年次に取得すること。ただし、後期に受講した科目のうち、不合格となった科目の再試験は 2 年前期にずれ込んでもよい。
- (7) 放送大学から受講者本人に単位修得認定結果(試験結果)が届いた場合、速やかにその写しを本校学生課教務係へ提出すること。

14 群馬大学工学部との単位互換

群馬大学工学部との単位互換協定が締結されていて、授業の聴講が可能になっています。手続き等については、別途掲示等でお知らせします。

15 現代的教育ニーズ取組支援プログラムにおける「単位実践型講義配信事業」に係る単位互換

群馬工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校で単位互換協定が締結され、授業の聴講が可能になりました。手続き等については、別途掲示等でお知らせします。

(出典：平成 18 年度専攻科履修のしおり)

資料5-5-③-4 放送大学の指定科目

別表3

【放送大学の指定科目】

下記の科目の中から、10単位(5科目)までを、専攻科選択科目の修得単位に含めることができる。

一般科目(共通)	開講時期	認定試験の日程
心理学入門('06) (2単位)	前・後	前: 7/26(7)、後: 2/3(8)
社会福祉入門('04) (2単位)	前・後	前: 7/23(6)、後: 1/31(7)
専門科目(生産システム工学)		
基礎化学('06) (2単位)	前・後	前: 7/25(8)、後: 1/28(1)
基礎生物学('03) (2単位)	前・後	前: 7/25(4)、後: 1/30(5)
人工物と設計('04) (2単位)	前・後	前: 7/22(7)、後: 1/30(8)
実験科学のその方法('06) (2単位)	前・後	前: 7/22(1)、後: 1/30(2)
エネルギー工学と社会('06) (2単位)	前・後	前: 7/25(4)、後: 1/30(5)
物質・材料工学と社会('05) (2単位)	前・後	前: 7/23(7)、後: 1/31(8)
情報技術と社会('05) (2単位)	前・後	前: 7/22(2)、後: 1/30(3)
数学とコンピュータ('03) (2単位)	前・後	前: 7/25(3)、後: 1/28(6)
物性物理学入門('04) (2単位)	前・後	前: 7/25(6)、後: 1/28(7)
専門科目(環境工学)		
基礎生物学('03) (2単位)	前・後	前: 7/25(4)、後: 1/30(5)
都市システム工学('03) (2単位)	前・後	前: 7/23(2)、後: 1/31(3)
エネルギー工学と社会('06) (2単位)	前・後	前: 7/25(4)、後: 1/30(5)
変化する地球環境('04) (2単位)	前・後	前: 7/22(1)、後: 1/30(2)
日本列島の地球科学('03) (2単位)	前・後	前: 7/25(5)、後: 1/30(6)
環境社会学('03) (2単位)	前・後	前: 7/26(1)、後: 2/3(2)
物質の科学・量子化学('03) (2単位)	前・後	前: 7/22(1)、後: 1/30(2)
物質の科学・反応と物性('04) (2単位)	前・後	前: 7/25(3)、後: 1/28(6)
物質の科学・有機化学('06) (2単位)	前・後	前: 7/23(5)、後: 1/31(6)
物質の科学・有機構造解析('03) (2単位)	前・後	前: 7/23(8)、後: 1/31(1)
分子生物学('05) (2単位)	前・後	前: 7/25(7)、後: 1/28(8)

(出典:平成18年度専攻科履修のしおり)

資料 5-5-③-5 群馬大学工学部との単位互換協定書

群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校 との間における単位互換に関する協定書

群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校は、教育研究交流促進の一環として、学生の学習環境を充実するため、単位互換に関し、次のとおり協定する。

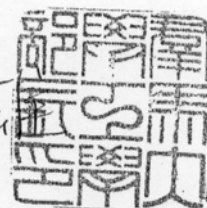
- 1 受入れ身分、入学資格、履修できる授業科目・単位数、履修手続、成績の評価及び単位の認定方法等に関しては、別紙1「群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校との間における単位互換に関する実施要領」（以下「実施要領」という。）の定めるところによる。
- 2 「実施要領」に関する取扱いについては、別紙2「群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校との間における単位互換に関する事務取扱要領」の定めるところによる。
- 3 この協定の改廃、疑義については、その都度協議するものとする。

上記協定の証として、協定書2通を作成し、双方は各1通を所持するものとする。

平成16年 2月26日

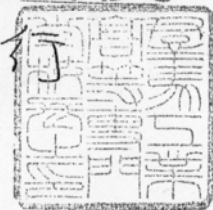
群馬大学工学部長

本間重広



群馬工業高等専門学校長

吉澤晴行



（出典：群馬大学工学部との単位互換協定書）

資料5-5-③-6 群馬大学工学部との単位互換実施要領

別紙1

群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校との
間における単位互換に関する実施要領

群馬大学工学部と群馬工業高等専門学校は、それぞれの所属学生が履修した単位の互換を認めるため、次のとおり実施するものとする。

- 1 受入れ学生の身分は、特別聴講学生とする。
- 2 特別聴講学生として入学できる者は、群馬大学工学部にあつては2年次生以上の学生、群馬工業高等専門学校にあつては5年次の学科学生及び専攻科学生とする。
- 3 履修できる授業科目の単位数は、群馬大学工学部の学生にあつては1学期4単位を上限とし、群馬工業高等専門学校の学生にあつては1学期10単位を上限とする。
- 4 履修を希望する学生は、所属大学（高等専門学校）補導教官（指導教官）の承認を得たうえ、特別聴講学生願書及び成績証明書を所定の期日までに所属大学（高等専門学校）に提出しなければならない。
- 5 上記4により書類を受理した大学（高等専門学校）は、高等専門学校（大学）に、特別聴講学生としての許可を求める。
- 6 特別聴講学生の願い出を受けた大学（高等専門学校）は、履修予定科目について、授業担当教官の許可を得るものとする。
- 7 成績の評価については、受入れ大学（高等専門学校）で定める評価基準によるものとする。
- 8 高等専門学校（大学）において取得した単位は、所属大学（高等専門学校）の定めるところにより、所属大学（高等専門学校）の単位として認めることができる。
- 9 群馬工業高等専門学校の学生が大学において履修し、単位を修得した科目については、当該学生が編入学により大学に入学しようとする際には、審査を行った上で、大学における既修得単位として認めることができる。
- 10 特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は、相互に不徴収とする。
- 11 この要領は、平成16年2月26日から実施し、平成16年4月1日から適用する。

（出典：群馬大学工学部との単位互換実施要領）

資料5-5-③-7 群馬大学工学部との単位互換実績

群馬大学工学部単位互換特別聴講生

出願者(6名)

専攻科 生産システム工学専攻 1年

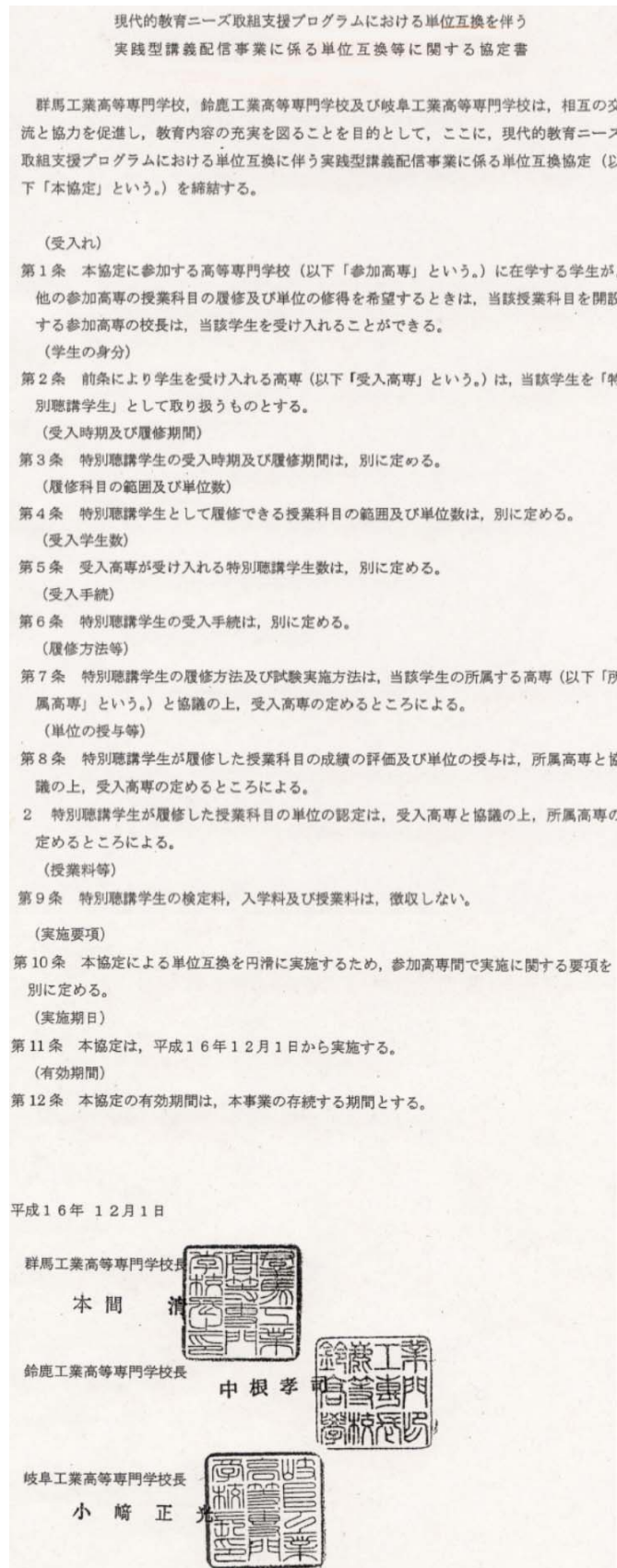
学籍番号	名前	科目名	可否
		エネルギー変換工学	×
		エネルギー変換工学	○
		機械材料	×
		機械材料	×

本 科 機械工学科 5年

学籍番号	名前	科目名	可否
		エネルギー変換工学	○
		エネルギー変換工学	○

(出典：平成17年度教務委員会資料より作成)

資料5-5-③-8 「実践型講義配信事業」の単位互換協定書



(出典：「実践型講義配信事業」の単位互換協定書)

資料 5-5-③-9 「実践型講義配信事業」の単位互換に関する実施要領

現代的教育ニーズ取組支援プログラムにおける単位互換を伴う
実践型講義配信事業に係る単位互換に関する実施要項

現代的教育ニーズ取組支援プログラムにおける単位互換を伴う実践型講義配信事業に係る単位互換に関する協定書（以下「本協定」という。）第 10 条に基づき、群馬工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校及び岐阜工業高等専門学校は、ここに、単位互換に関する実施要項（以下「本実施要項」という。）に合意する。

1 申請資格

特別聴講学生として申請できる者は、参加高専に在学する学生（科目等履修生及び研究生等の非正規学生を除く。）とする。

2 受入時期及び履修期間

- (1) 特別聴講学生の受入時期は、当該学生の履修する授業科目の開設期間の始めとする。
- (2) 特別聴講学生としての履修期間は、当該学生の履修する授業科目の開設期間とする。

3 履修科目及び単位数

- (1) 受入高専は、特別聴講学生が履修できる授業科目を定め、所定の期日までに参加高専に通知する。
- (2) 特別聴講学生が履修できる授業科目及び単位数の上限は、所属高専の定めるところによる。
- (3) 特別聴講学生が履修した授業科目の単位認定の計算は、所属高専の定めるところによる。

4 受入学生数

特別聴講学生数は、授業科目毎に受入高専が決定し、所定の期日までに参加高専に通知する。

5 特別聴講学生の受入手続

- (1) 特別聴講学生を希望する学生は、所属高専の定める期間内に申請手続を行う。
- (2) 所属高専は、授業科目毎に希望学生を取りまとめ、所定の期日までに受入高専の校長に受入れを依頼する。
- (3) 受入高専は、所定の期日までに受入通知書を所属高専へ送付する。
- (4) 所属高専は、速やかに受入許可を希望学生に通知する。
- (5) 受入れを許可された学生は、所定の期日までに受入高専の定める特別聴講学生の入学手続を行う。

6 試験の実施方法

- (1) 試験の取扱い及び追試験等の実施については、所属高専と協議の上、受入高専の定めるところによる。

7 成績の通知及び管理

- (1) 受入高専は、特別聴講学生の成績を所定の期日までに所属高専へ通知する。
- (2) 受入高専は、特別聴講学生の成績原簿を保管する。

8 施設等の利用

受入高専は、特別聴講学生の履修上必要な施設・設備の利用について便宜を供与する。

9 経費の負担

特別聴講学生が、授業科目を履修する上で必要となる教科書代、教材費等の個人的経費については、特別聴講学生の負担とする。

10 規則等の遵守

- (1) 特別聴講学生は、受入高専の規則等を遵守しなければならない。
- (2) 受入高専は、特別聴講学生が規則等に違反した場合、その身分を取り消すことができる。

11 特別聴講学生に係る通知

- (1) 特別聴講学生が履修を取りやめた場合及び所属高専を休学、退学等した場合は、所属高専は受入高専へ通知する。ただし、受入高専は、休学、退学等の場合、単位授与を行わないことができる。
- (2) 特別聴講学生が履修している授業科目の日程変更等については、受入高専が所属高専へ通知する。

12 平成16年度の取扱い

平成16年度における受入時期及び履修期間等については、特別な取扱いとする。

13 その他

本実施要項に定めるもののほか、必要な事項は、参加高専間の協議により定める。

平成16年12月1日

群馬工業高等専門学校教務主事
群馬工業高等専門学校専攻科長

齋藤 齊
小島 昭

鈴鹿工業高等専門学校教務主事
鈴鹿工業高等専門学校専攻科長

香坂 正美
梶山 利彦
木下 祥次

岐阜工業高等専門学校教務主事
岐阜工業高等専門学校専攻科長

和田 青

(出典：「実践型講義配信事業」の単位互換実施要領)

資料 5-5-③-10 専攻科入学時未修得単位の取り扱いについて

3 専攻科入学時未修得単位の取り扱いについて

- 高専本科 3 年次 JABEE 対応科目（数学 A I、数学 A II、数学 B、応用物理 I）未修得学生を JABEE 認定教育プログラム履修者として群馬高専専攻科へ入学させる場合の措置について
- (1) 高校から高専本科 4 年次に編入学し、本校専攻科へ進学する場合：
進学後、該当する数学、物理について、学生の学力に応じて適宜補講を行った後、学力認定試験を実施し、学力認定を行う。
 - (2) JABEE 対応科目が未修得のまま高専本科を修了し、本校専攻科へ進学する場合：
進学後、学力認定試験を実施し、学力認定を行う。
 - (3) 高専・短大・専修学校を卒業し、本校専攻科へ入学する場合：
該当する数学、物理を、卒業した高専・短大・専修学校ですでに履修・修得していると認められる場合には、これをもって相当する科目の学力を修得したものと見なす。なお、学力修得の可否は入学当初に本人へ伝える。学力修得が認められない場合には、入学後、該当する数学、物理について、学生の学力に応じて適宜補講を行った後、学力認定試験を実施し、学力認定を行う。
 - (4) 学力認定試験は進学年度に 1 回実施し、学力認定は JABEE プログラム委員会において行う。
なお、学力認定試験で不合格となった場合には再試験を行うことができる。
 - (5) 学力認定試験・再試験に関し、必要な事項は別に定める。
 - (6) 本校以外で既に修得した科目による、JABEE 対応科目相当の学力の認定は、入学前年度に JABEE プログラム委員会において行う。
- 高専本科 4・5 年次必修科目未修得学生を JABEE 認定教育プログラム履修者として群馬高専専攻科へ入学させる場合の措置について
- (1) 必修科目が未修得のまま高専本科を修了し、本校専攻科へ進学する場合：
進学後、学力認定試験を実施し、学力認定を行う。
 - (2) 高専・短大・専修学校を卒業し、本校専攻科へ入学する場合：
必修科目に該当する科目を、卒業した高専・短大・専修学校ですでに履修・修得していると認められる場合には、これをもって相当する必修科目の学力を修得したものと見なす。なお、学力修得の可否は入学当初に本人へ伝える。学力修得が認められない場合には、入学後、該当する科目について、学生の学力に応じて適宜補講を行った後、学力認定試験を実施し、学力認定を行う。
 - (3) 学力認定試験は進学年度に 1 回実施し、学力認定は JABEE プログラム委員会において行う。なお、学力認定試験で不合格となった場合には再試験を行うことができる。
 - (4) 学力認定試験・再試験に関し、必要な事項は別に定める。
 - (5) 本校以外で既に修得した科目による、JABEE 対応科目相当の学力認定は、入学前年度に JABEE プログラム委員会において行う。

（出典：平成 18 年度専攻科履修のしおり）

資料 5 - 5 - ③ - 1 1 補充授業実績

専攻科進学者(本科編入生)学力認定報告書

平成 18 年 12 月 13 日

教員名 神長保仁



対象学生 環境工学専攻1年 AE06905 剣持恵理

対象科目 3年次 JABEE 科目 数学 AII

学生は必要な補講を受講し、認定試験に合格したことを認めま

記

試験成績 60点 (100点満点)

補講実施記録

1)平成 18 年 11 月 1 日

2)平成 18 年 11 月 15 日

(出典：JABEE プログラム委員会資料)

資料5-5-③-12 専攻科カリキュラム(環境工学専攻)

専攻科環境工学専攻(奇数入学年度用)

種別	授業科目	必修 選択の別	単位数	学年・期別配当単位数				備考	
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期		
一般 科目	英語	必修	1	1				演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	
	英語	必修	1		1				
	英語	必修	1			1			
	英語	必修	1				1		
	英語	必修	1	1					
	英語	必修	1		1				
	英語	必修	1				1		
	英語	必修	1						
	英語	必修	1						
	英語	必修	1						
一般科目開設単位数計				18	3	5	3	7	隔年開講科目を含む
一般科目最低履修単位数計				10	10				
専 門 科 目	技術者倫理	必修	2				2	}	
	総合工学	必修	2				2		
	環境工学	必修	2				2		
	システム工学	選択	2		2				
	材料工学	選択	2	2					
	情報工学	選択	2	2					
	数値解析	選択	2		2				
	応用化学	選択	2		2				
	応用解析	選択	2		2				
	複素関数	選択	2	2					
	ベクトル解析	選択	2	2					
	線型代数	選択	2	2					
	線型代数	選択	2	2	2				
	解析力学	選択	2			2			
	量子力学	選択	2	2	2				
	統計学	選択	2	2					
	シミュレーション工学	選択	2			2			
	物理化学特論Ⅰ	選択	2	2					
	物理化学特論Ⅱ	選択	2		2				
	物理化学特論Ⅲ	選択	2			2			
	有機化学特論Ⅰ	選択	2	2					
	有機化学特論Ⅱ	選択	2		2				
	有機化学特論Ⅲ	選択	2			2			
	生物工学特論	選択	2		2				
	分子生物学特論	選択	2			2			
	生命科学特論	選択	2	2					
	都市計画特論	選択	2		2				
	建設材料特論	選択	2	2					
	構造解析特論	選択	2	2					
	土質工学特論	選択	2	2					
応用力学特論	選択	2		2					
環境工学特論	選択	2	2						
環境防炎特論	選択	2			2				
Fundamental Mechanics	選択	2		2					
環境微生物	選択	2	2						
工業数学演習Ⅰ	必修	1		1					
物理工学演習Ⅰ	必修	1			1				
土木工学演習Ⅰ	必修	1				1			
土木工学演習Ⅱ	必修	1				1			
土木工学演習Ⅲ	必修	1				1			
土質工学演習Ⅰ	必修	1				1			
土質工学演習Ⅱ	必修	1				1			
土質工学演習Ⅲ	必修	1				1			
総合化学演習Ⅰ	必修	1				1			
総合化学演習Ⅱ	必修	1				1			
総合化学演習Ⅲ	必修	1				1			
インターンシップ	必修	1	1						
環境工学学実	必修	1		1					
環境工学特別研究	必修	1	1	2	6	5			
専門科目開設単位数計				104	32	35	26	11	隔年開講科目を含む
専門科目最低履修単位数計				52	52				
開設単位数計				122	35	40	29	18	隔年開講科目を含む
最低履修単位数計				62	62				

注：1. (※)は隔年開講を示す。

(出典 「平成19年度学生便覧」より)

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

(a) 授業形態のバランス

- ・ 本校の専攻科において開講されている全授業科目の授業形態の配分を見ると、[講義・演習・実験・その他] の分類へ全科目が偏ることなく、バランスよく配分されている。（資料5-6-①-1）

(b) 学習指導法の工夫

- ・ 本校の専攻科において開講されている授業科目のうち、[講義形態]を採用している科目の講義の型は、[少人数制、フィールド型、討論、その他]に分類される。実際、分類してみると、一部の型へ偏ることなく、バランスよく配分されていることがわかる。（資料5-6-①-2）
- ・ 専攻科の各授業科目では担当教員ごとに学習指導法の工夫がなされている。

例として、「科学英語 A」（平成18年度前期、専攻科2年）の場合、事前（1週間前）に次の授業で扱う内容を問題形式のレポートとして提出させ、そのレポートを教員が添削し、全学生分の添削結果から学生達の理解が不足しているところを確認するとともに、メモ（解答の上に理解不足箇所を教員が書き加えたもの）を作成している。授業では解答を確認させながら、作成したメモを参考に、学生達の理解が不足している箇所を中心にして解説を行っている。こうした形式で授業を行うことで、学生に予習を促し、さらに理解不足の箇所を重点的に講義することができるため、学力を満遍に効率よく向上させることができている。（資料5-6-①-3、資料5-6-①-4）

また、Fundamental Mechanics（平成18年度後期、専攻科1年）の場合、大学初年級の力学の授業を英語で行っている。授業では原則、日本語の使用を禁止し、英語によって物事を考える力および英語のよるコミュニケーション能力の向上を図っている。（資料5-6-①-5）

（分析結果とその根拠理由）

- ・ 本校の教育目標は(A)～(E)の5項目あり、それを実現するために、2年間を通してバランスのよいカリキュラムが編成されている。実験・演習科目の割合も全科目の44%あり、高度な実践力を養成するために望ましい形になっている。
- ・ 専攻科の各授業科目では担当教員ごとに学習指導法の工夫がなされている。

以上のことから、本校の専攻科課程では、教育の目的に照らして、授業形態のバランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料 5-6-①-1 科目の授業形態の配分(専攻科)

専攻科授業科目を担当する全教員を対象として平成 19 年 2 月にアンケートが実施された。その結果を集計して、表で示すと、次のとおりである。

科目の授業形態の配分(専攻科) (単位：科目数)

	教育目標				
	目標 A	目標 B	目標 C	目標 D	目標 E
講義	5	1 3	2 3	1	0
演習	3	5	2	1 3	6
実験	0	0	0	6	1
その他	0	0	0	2	2
合計	8	1 8	2 5	2 2	9

(出典：平成 19 年 2 月教育に関するアンケート)

資料 5-6-①-2 講義の型の分類(専攻科)

専攻科授業科目を担当する全教員を対象として平成 19 年 1 月にアンケートが実施された。その結果を集計して、表で示すと、次のとおりである。

科目の授業形態の配分(専攻科) (単位：科目数)

	教育目標				
	目標 A	目標 B	目標 C	目標 D	目標 E
少人数制	3	3	9	1 2	4
フィールド型	0	3	0	2	0
討論	3	0	5	3	1
その他	2	1 1	1 0	3	4
合計	8	1 7	2 4	2 0	9

(出典：平成 19 年 2 月教育に関するアンケート)

資料 5-6-①-3 専攻科授業科目「科学英語 A」における学習指導法の工夫の例
(教員のための授業用手元資料)

専攻科 科学英語 A 課題 第 1 回

Unit 1-1

担当者：八鳥

Introduction (p.6)

[全席で40以上 × 4人は意識的に質問を!]

- 1) However 2) relationships 3) common
 4) element 5) properties 6) Thus
 7) impossible 8) predict や「間違ひする」(predict, -ed, etc) 9) thought 間違ひする (sort, search, source, etc) 10) expression

<Identifying General and Specific Ideas (p.7)> [全席として、できている]

- 1) Steel is an alloy.
 (訳) 鋼鉄(スチール)は合金である。(「鋼」と「鉄」は買ひ合)
 2) Five important classes of compounds are acids, bases, salts, metallic oxides, and non metal oxides.
 ↑ 2015年17年5月

- (訳) 化合物の重要な5種類とは、酸、塩基、塩、金属酸化物、非金属酸化物である。
 × 「化合物」「混合物」 「塩基」 ? 「酸化金属」 ? 「酸化非金属」
 (= metal oxide)

- 3) A deer is a mammal.
 (訳) シカは哺乳類である。(「哺乳」の字!)

- 4) Carbon exists in three forms: graphite, diamond, and amorphous.
 (訳) 炭素は3つの形状で存在する。すなわち、黒鉛、ダイヤモンド、非結晶質である。
 × 炭素 前半の訳: 「炭素(炭)は3つの形(形状)で存在する」

- 5) Rocks are grouped into three categories: igneous, metamorphic, and sedimentary.
 (訳) 岩石は3種類に分類される。すなわち、火成岩、変成岩、堆積岩である。
 × 火成岩 × 変成岩 × 堆積物 {この辞書と使っているか(レベル) 通じれば訳語と訳訳できるか}

<Changing Active Voice to Passive Voice (pp.7-8)> [科学英語では必須、しかし教員は学生が苦手にする分野]

- 1) The electric battery was invented by Luigi Galvani in 1786.
 (訳) 電池は1786年、Luigi Galvaniによって発明された。
 × by以下は必ず(国名)

- 2) The American space shuttle program was temporarily suspended (by the authorities) after the accident in 1986.
 (訳) アメリカのスペースシャトル計画は1986年の事故の後、(当局によって)一時中断された。
 × 機関(者たち)

- 3) The Panama Canal was completed (by workers) in 1914.
 (訳) パナマ運河は1914年に完成した。
 × 「職人」 ↑ 一般的な(日・英ともに)

- ④ Many people were killed in the 1986 earthquake in Mexico City.
 (訳) 1986年にメキシコ市を襲った地震で多くの人が死んだ。
 × 襲った △ 「殺した」

- ⑤ Nitrogen can be extracted from the air by liquefaction (by chemists).
 (訳) 液化によって空気から窒素を抽出できる。
 × 「液化」 × 「抽出」 → 能動態で訳す

Short Reading (p.8) [15分・問題5問]

- 1) drink 2) solid 3) freedom
 4) classes 5) hand 6) container
 7) dioxide 8) tire

Unit 1-1

Short Reading (全訳)

物質の性質「自然」

私たちの周りにあるものは全て物質から成り立っている。例えば、この本も、身体も、呼吸する空気も、飲料水も。物質とは、重量あるいは質量を持ち、空間を占めるもの全てである。
「on a hand」の熟語
「all over」"all"は強調
「will」= can
However は 副詞

全ての物質は、固体、液体、あるいは気体として分類できる。固体は強く、明確な形を持っている。ゴム、木、ガラス、鉄、綿、砂は全て固体として分類される。例えば、鉄棒の形や体積を変えるためには、相当な力が必要とされるだろう。というのも、固体の原子や分子はぎっしりと詰まっていて、運動の自由はほとんどないからである。
cf 「...」の「水か」として「水」をE.L.の
「would」の意味
「is it is ...」の意味
「very little」→ negative (Lol, "no" では for)

固体はさらに二つの種類に分類できる。すなわち、結晶性と非結晶性である。岩、木、紙、綿は結晶性固体である。結晶性固体は明確な型に配列された原子から成り立っている。こうした固体が熱せられると、融解として知られる液体への変化は急激で、はっきりとしている。非結晶性物質にはゴム、ガラス、硫黄が含まれる。こうした物質においては、原子の型は規則的ではなく、熱せられるとこれらの物質は徐々に柔らかくなる。
「may」の意味
「atoms arranged」(分類・理解の徹底)
「know as ...」(分類の理解 + 押入りの理解)
sharp (← gradually)

これに対して、液体はかたくない。水や牛乳や油をテーブルの上に注ぐと、テーブルの表面全体に流れるだろう。液体の原子や分子は互いに引きつけあい、その結果、液体が流れることを可能にさせる。しかしこうした原子は厳密に構造化されているわけではないため、その形を保つことはない。したがって、液体はそれが注ぎ込まれるどんな容器の形も取ることが出来る。しかしながら、液体は明確な体積を持っている。したがって、1クオートの牛乳を1パイントの容器に収めることは出来ない。
「on a hand」の熟語
「all over」"all"は強調
「will」= can
However は 副詞
「cannot」の意味

空気や酸素や二酸化炭素のような気体は、それらに特有の一定した形や体積を持っていない。それらは拡散し、すなわち広がり、どんな容器をも満たす。水をタイヤの中に入れると、水はタイヤの底に流れる。一方、空気をタイヤの中に入れると、空気はタイヤ内部の空間全体を満たす。気体の原子や分子の間隔は大きく、それらは非常に速く動く。それらは縮むか、膨張するかして、どんな空間にでも適応する。
「such as」の区別(明と暗)
「of - own」は熟語
「no fixed shape」(固定されていない)の訳出(再)の「分類」の理解
「of」とは、ている意味(And then)
「to」不足語の結果用法
「run to」の理解
動詞「space」の意味
either = each 「それぞれ」と訳解

私たちが知っている全てのものは、固体や液体や気体の形をした物質から成り立っている。
「to」不足語
「私たちが知っている全ての物質は固・液・気から成る」と訳出(再)

(出典：「科学英語 A」 教員のための授業用手元資料(平成18年度))

資料 5-6-①-4 専攻科授業科目「科学英語 A」シラバス

国立群馬工業高等専門学校 2006 年度シラバス 7006320007AA/20060327

(科目コード：7006320007AA)

【科目】科学英語 A

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】選択必修 【学期・単位数】前期・1 単位

【対象学科・専攻】専攻科共通・2 年次

【担当教員】

八鳥 吉明

【授業目標・教育方針】

科学技術英語の基礎を体系的に解説し、英語で書かれた科学技術文献を理解する能力と、より良い科学技術英語を書くための技術を与えることを目的とする。同時に、リスニング力と語彙力を養成することも目的とする。

【授業概要】

以下の二部から構成される。

- ・第一部・・・科学 (Topic Focus) と言語 (Language Focus) に学習の焦点を合わせ、科学的主題を扱った英語を題材として、言語的課題 (リスニング演習・文法演習・読解演習) に取り組む。
- ・第二部・・・読解のストラテジーに焦点を合わせた長文読解演習とその長文に関連したリスニング演習を行なう。同時に、語彙力の強化を図る。

【教科書・教材・参考書等】

「English for Science 役に立つ科学技術英語」南雲堂

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

授業形式：座学

使用機器：CD プレーヤー

【メッセージ】

教科書の性質上、相当量の学習 (予習等) が要求されます。
受講にあたっては、相応の覚悟をして下さい。

【成績評価方法】

【前期】中間試験：35%、期末試験：35%、レポート：30%

【本校の学習・教育目標】

◎ (E) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。

【JABEE 評価】

(f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

国立群馬工業高等専門学校 2006 年度シラバス 7006320007AA/20060327

【授業計画】(授業名：科学英語 A)

回数	授業の主題	内容	レポート・宿題等
第 1 回	イントロダクション	授業の全般的ガイダンス： 授業の目的と方向性、授業の展開の仕方、授業に対する学習法、課題の内容、成績評価の方法	
第 2 回	Unit 1: 1-1	Language Focus: Classifying 分類 Topic Focus: The Composition of Matter 物質の成り立ち	課題
第 3 回	Unit 1: 1-2	Main Reading: The Infinitesimal Atom とても小さな原子	課題
第 4 回	Unit 2: 2-1	Language Focus: Comparing 比較 Topic Focus: The Elements 元素	課題
第 5 回	Unit 2: 2-2	Main Reading: The Life-Supporting Gases 生命を支える気体	課題
第 6 回	Unit 3: 3-1	Language Focus: Cause and Effect 原因と結果 Topic Focus: Color, Light, and Sound 色・光・音	課題
第 7 回	Unit 3: 3-2	Main Reading: Reflecting on Light 光の反射について考える	課題
第 8 回	試験	中間試験	
第 9 回	Unit 4: 4-1	Language Focus: Hypothesizing 仮説 Topic Focus: Motion and Gravity 運動と重力	課題
第 10 回	Unit 4: 4-2	Main Reading: Newton Explains Motion ニュートンと運動	課題
第 11 回	Unit 5: 5-1	Language Focus: Defining 定義 Topic Focus: Energy エネルギー	課題
第 12 回	Unit 5: 5-2	Main Reading: $E = mc^2$	課題
第 13 回	Unit 6: 6-1	Language Focus: Exemplifying 例証 Topic Focus: Heat 熱	課題
第 14 回	Unit 6: 6-2	Main Reading: How Heat is Transferred 熱の伝導	課題
第 15 回	試験	期末試験	

(出典：専攻科授業科目「科学英語 A」シラバス)

資料 5-6-①-5 専攻科授業科目「Fundamental Mechanics」シラバス

群馬工業高等専門学校 2007年度シラバス 8008720066AA/20070416

(科目コード：8008720066AA)

【科目】 Fundamental Mechanics

【科目分類】 専門科目 【選択・必修の別】 選択 【学期・単位数】 後期・2単位

【対象学科・専攻】 専攻科共通・1年次

【担当教員】

辻川 信二

【授業目標・教育方針】

英語を用いた授業により、大学初年級レベルの力学を学ぶ。
 基礎的な物理学を英語を通して学習することにより、英語によって物事を考える力および英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

【授業概要】

運動方程式、運動量と力積、運動エネルギーと仕事、質点系の力学、角運動量と力のモーメント、剛体の運動といった基礎的な力学の事項を、英語により講義する。なおそれに付随した力学の問題を解くことも行い、英語でレポートを提出してもらう。

【教科書・教材・参考書等】

特に教科書は指定しないが、
 MIT物理 力学 (A・P・フレンチ著)
 が参考書として挙げられる。

【成績評価方法】

〔後期〕 期末試験：70%，レポート：30%

【本校の学習・教育目標】

- (B) 技術的課題解決のための幅広い工学基礎の知識を身につける。
- ◎(E) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。

【JABEE 評価】

- (c) 数学，自然科学および情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力
- (f) 日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

【授業計画】 (授業名：Fundamental Mechanics)

回数	授業の主題	内容	レポート・宿題等
第1回～第3回	運動方程式	速度、加速度、運動方程式	レポート
第4回～第5回	運動量と力積	運動量と力積の関係、力が変化する場合の力積、2物体の衝突、運動量保存、物体の分裂、反発係数	
第6回～第8回	運動エネルギーと仕事	仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、保存力	レポート
第9回～第10回	質点系の力学	質点系、重心運動、相対運動	
第11回～第12回	角運動量と力のモーメント	角運動量、力のモーメント、中心力を受けた物体の運動	
第13回～第15回	剛体の運動	慣性モーメント、剛体のつりあい、回転の運動方程式	レポート

(出典：専攻科授業科目「Fundamental Mechanics」シラバス)

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

(a) インターンシップの活用

- ・将来、創造性や実践力を十分に有する技術者となるためには、現実の課題に取り組む訓練を積むことが重要であるとの認識の下に、1年前期にインターンシップを行っている。（資料5-6-②-1）
- ・インターンシップは、選択科目で1週間の期間であったが、平成17年度からは期間2週間で実施するの必修科目とし、充実を図った。（資料5-6-②-1、資料5-6-②-2）
- ・受け入れ先は多岐にわたっており、企業ばかりではなく、官公庁や大学、また最近では海外の大学へも出かけている。（資料5-6-②-3）
- ・インターンシップ終了後、報告会を実施しており、インターンシップで経験したことを発表し、それについて質疑・討論を行っている。（資料5-6-②-4）
- ・インターンシップ終了後、学生はインターンシップ報告書の提出が義務付けられている。報告書には、インターンシップを通じて貴重な体験ができたことや学校の授業では得られない知識が得られたことなどが綴られており、「有意義であった。行って良かった。」という感想が多く見られる。（資料5-6-②-5）

(b) 創造性を育む教育方法の工夫

- ・専攻科の授業科目では創造性を育む教育方法に工夫がなされているものが少なくない。その具体的な例として、ある教員の担当する「特別研究」では、できるだけ早い時期に特別研究で得られた成果を学会誌などに投稿する等のことを意識的に行っている。これにより学生が自分の特別研究に明確な目標を持つことができ、また論文としてまとめてゆく作業の中で、オリジナリティや創造性の意味を学生自身が身をもって認識することができる。（資料5-6-②-6：専攻科学生が著者の論文）専攻科の必修科目「技術者倫理」では、学生を班に分け、それぞれ班が1つのテーマについて、授業前に文献調査を行わせ、発表要旨を作成、授業の中でその内容を、問題提起を含めプレゼンテーションさせ、全員で討論させる。正解はない。次回の授業までに討論内容について議事録を作成し報告させる。技術者倫理を学ぶ中で、学生は、同じ班の中での連携、プレゼンテーションの手法、討論方法、報告書の作成法など多くのことを学ぶことができる。（資料5-6-②-7）本年度後期、専攻科2年生を対象に「総合工学」（必修）を開講する。これは共通テーマ（今年度は「安全」）について、機械、電気・電子、情報、化学・生物、土木の各分野からの講義を聞かせ、また企業人講師の話を通して、企業現場の実態にも触れさせながら、横断的視点から学生に考えさせようとするものである。（資料5-6-②-8）

（分析結果とその根拠理由）

- ・インターンシップは平成17年度から必修科目に位置付け、期間も2週間としている。
 - ・インターンシップに対する学生の満足度は高い。
 - ・専攻科の授業科目では創造性を育む教育方法に工夫がなされているものが少なくない。
- 以上のことから、インターンシップの活用や創造性を育む教育方法の工夫は十分行われている。

資料 5 - 6 - ② - 1 専攻科インターンシップシラバス(平成 18 年度)

国立群馬工業高等専門学校 2006 年度シラバス 8008220006AA/20060327

(科目コード：8008220006AA)

【科目】 インターンシップ

【科目分類】 専門科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 前期・1 単位

【対象学科・専攻】 専攻科共通・1 年次

【担当教員】

脇田 英治

【授業目標・教育方針】

社会の中で技術者が経験する実務上の問題点、課題の内容や対応のしくみを習得する。それと共に、技術を役立て、企業、機関として運営していくためのしくみ、方策、価値観等を理解する。つまり、学校でその学生が受けた教育内容に直接関係する内容にのみ限定せず、もっと幅広く一般的な技術者としての社会常識も含めた知識、経験の習得を目標としている。

【授業概要】

実習先は原則として群馬県内の企業、官庁等である。学生本人が企業担当者の指導を受けながら、実習先に一定期間（2 週間）就業し、実務を通して工学を学ぶ。

実習期間中に特別研究の指導教員が実習先を必ず訪問するので、訪問日時等について指導教員と事前に打ち合わせをしておく必要がある。実習先は各学生の希望をできるだけ優先するので、各学生から提出された実習先希望票に基づいて、実習先の選定を行う。ただし、教育効果や受け入れ先の意向等を考慮して、学生本人の希望とは異なる実習先に決定せざるを得ない場合もある。

終了後、全学生参加のインターンシップ報告会が開催されるので、自らの就業体験について発表を行い、質疑応答を行う。

【教科書・教材・参考書等】

実習先の各企業担当者の指示による。

【成績評価方法】

【前期】 実習先の企業から終了後に送られてくる実施証明書に記載されている評価、および日誌、報告書、インターンシップ報告会での発表等を総合して評価する。基準となる判断項目の重みは以下のようである。○実施証明書の評価：70%○日誌、報告書、報告会での発表の評価：30%

【本校の学習・教育目標】

◎(D) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身につける。

○(E) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身につける。

【JABEE 評価】

(c) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

(f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

【授業計画】(授業名：インターンシップ)

回数	授業の主題	内容	レポート・宿題等
1	実習先の指定するテーマ	実習先の指定するテーマに関する就業体験を実習先の指導の元で実施する。	インターンシップ日誌 インターンシップ報告書

(出典： インターンシップ報告書(平成 18 年度))

資料 5-6-②-2 専攻科インターンシップ実施要領

群馬工業高等専門学校専攻科インターンシップ実施要項

平成16年4月1日
改定

(目的)

第1条 インターンシップは、企業又は官公庁における就業体験を通して、職業意識の育成、将来設計及び実務能力の向上を図るとともに、就業体験で得た成果を自己の学習に生かすことを目的とする。

(インターンシップ機関)

第2条 学生がインターンシップを履修する機関（以下「就業体験機関」という。）は、専攻科委員会の議に基づき、校長が決定するものとする。

(インターンシップの履修)

第3条 インターンシップを履修する学生（以下「就業体験学生」という。）は、就業体験機関の定める諸規則を遵守するとともに、及び就業体験機関における就業責任者の指示に従ってインターンシップを行わなければならない。

(インターンシップ履修願)

第4条 就業体験学生は、インターンシップ履修願（別紙様式1）を校長に提出許可を受けなければならない。

(インターンシップの申込み)

第5条 インターンシップを履修しようとする学生は、インターンシップ申込書（別紙様式2）を就業体験機関に提出しなければならない。

2 前項のインターンシップ申込書について、就業体験機関所定の様式がある場合は、その様式をもって替えることができる。

(報告書)

第6条 就業体験学生は、インターンシップ終了後速やかに、次に掲げる書類を校長に提出しなければならない。

(1) インターンシップ実施証明書（別紙様式3）

(2) インターンシップ日誌（別紙様式4）

(インターンシップの実習先・実習期間)

第7条 インターンシップの実習先は原則として県内とする。また、期間は原則として2週間以上とする。

(単位の認定)

第8条 インターンシップ就業体験学生はインターンシップ終了後、評価基準に適合している学生には所定の単位認定をする。

(事務)

第9条 インターンシップに関する事務は、学生課教務係において処理する。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、インターンシップに関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：専攻科インターンシップ実施要領)

資料5-6-②-3 専攻科インターンシップ実施一覧(平成18年度)

インターンシップ実施一覧(平成18年度)

学籍番号	氏名	実施場所(実施機関)	実施期間
	志	(株)チノー	7月20日～8月2日
	本	スウェーデン王立工科大学	7月17日～8月22日
	介	(株)チノー	7月20日～8月2日
	克	小倉クラッチ(株)	8月21日～9月1日
	作	(株)沖情報システムズ	8月14日～8月25日
	匠	同和発條(株)	7月24日～8月4日
	典	厚木プラスチック(株)	7月24日～8月4日
	行	日本カーリット(株)群馬工場	7月24日～8月4日
	郎	(株)沖情報システムズ	8月14日～8月25日
	亮	(株)ベーシックエンジニアリング	7月31日～8月11日
	人	(株)芹沢システムリサーチ	7月31日～8月11日
	祐	(株)ジーシーシー	8月14日～8月25日
	之	(株)チノー	7月20日～8月2日
	介	日本サーボ(株)桐生工場	7月24日～8月4日
	伸	関東精機(株)	7月31日～8月11日
	順	アートエンジニアリング(株)	7月24日～8月4日
	龍	厚木プラスチック(株)	7月24日～8月4日
	貴	日新電機(株)前橋製作所	8月17日～8月30日
	明	(株)ベーシックエンジニアリング	7月31日～8月11日
	明	共和産業(株)	7月31日～8月11日
	人	群馬県立群馬産業技術センター	7月31日～8月11日
	介	日新電機(株)前橋製作所	8月17日～8月30日
	司	共和産業(株)	7月31日～8月11日

		(株)環境技研	8月17日～8月30日
		高崎市役所	7月31日～8月4,21～25日
		(株)大谷組	7月31日～8月11日
		群馬県(太田土木事務所)	8月2日～8月15日
		群馬県衛生環境研究所	8月18日～8月31日
		群栄化学工業(株)	7月31日～8月11日
		九州大学	7月31日～8月11日
		高崎市役所	8月7日～8月18日
		福田道路(株)技術研究所	7月31日～8月11日
		東京工業大学	7月31日～8月11日
		独立行政法人 産業技術総合研究所	7月31日～8月11日
		群栄化学工業(株)	7月31日～8月11日
		(株)ヤマト	7月31日～8月11日
		群馬県衛生環境研究所	8月18日～8月31日
		群馬県水質検査センター	8月4日～8月30日
		群馬県立群馬産業技術センター	7月24日～8月7日
		(株)環境技研	8月17日～8月30日

以上 27機関 40名

(出典：インターンシップ報告書(平成18年度))

資料5-6-②-4 インターンシップ報告会の計画書

平成18年9月 専攻科

インターンシップ報告会の計画

日時：平成18年9月29日（金）午後1:00—3:00

専攻科の定期試験：9月12日～27日

9月28日（木）：臨時休業

9月29日（金）：インターンシップ報告会

9月30日（土）～10月1日（日）：赤城フレッシュセミナー

参加学生： 専攻科1年生全員(40名)

参加教員： できるだけ多くの教員に参加を求めるメールを送る。

場所： 専攻科棟の教室を使用

場所	出席学生	担当教員
S103教室	M科出身学生	安田、金子
視聴覚室	E科出身学生	渡邊、青木
第3講義棟3-203教室	J科出身学生	鶴見、五十嵐
専攻科棟S301教室	K科出身学生	戸井、東城
専攻科棟S101教室	C科出身学生	青井、脇田

会の進め方： インターンシップの成果について全員の学生が発表を行い、
それについて、学生、教員が質疑応答を行う。

1人分の発表に要する時間の目安（発表5分＋質疑応答4分）

担当教員（上表参照）のうち1人は司会を行う。また、2人の教員は評価シートを用いて成績評価を行う。最終的なインターンシップの成績はこの評価と実施機関から評価に基づいて行う。

配布資料（当日）：

・インターンシップ報告書：

全員の学生から提出されたインターンシップ報告書とインターンシップ日誌を綴じたもの。ただし、5会場に別れて実施するため、会場毎に章立てを行う。

・インターンシップ成績評価シート：

当日、担当教員（上表参照）が学生の発表や質疑応答を聴き、評価項目毎に採点を行うためのシート。

（出典：インターンシップ報告書(平成18年度)）

資料5-6-②-5 インターンシップ報告書の例

インターンシップ報告書

専攻名	生産システム工学専攻	氏名		担当教員名 (専攻主任)	金子 忠夫
実施機関名	(株) ベーシック エンジニアリング	実施機関の 郵便番号・ 住所・TEL	〒370-0841 群馬県高崎市栄町16-11 高崎イーストタワービル6F Tel 027-327-5431		
実施期間	平成18年 7月31日(月)～平成18年 8月 4日(金) 平成18年 8月 7日(月)～平成18年 8月11日(金) 平成18年 月 日()～平成18年 月 日()				

実 習 内 容	
<p>「システム開発とは何か」から始め、要求分析、標準化、設計・プログラミング、テストなどの各開発工程を学ぶと共に、各種開発成果や製品の説明・デモを通して、学んだ知識を深める。</p> <p>(1) システム開発カリキュラム 情報化構想の立案、システム分析、要求定義、システム構想の策定、設計計画の立案、インターフェース設計、システムテスト、移行・運用計画、という実際の開発の流れに沿った形で「システム開発とは何か」を学ぶ。参考書として、「アプリケーションエンジニア試験」の教本を用いる。</p> <p>(2) 製品紹介：ビジネスシステム・地図情報システム 財務会計や情報管理などを行うビジネスシステム、そして、地図情報システム(GIS)の説明・デモを通して、普段馴染みの無い業務アプリケーションや地図情報・衛星データの利用法に触れ、どのようなシステムなのか、どのような場面で必要とされるのか、どのような工夫がされているのかを学ぶ。また、現役の技術者との質疑応答によって、実際の開発手順や問題点などを知り、カリキュラムで学んだ内容を深めると共に、技術者になるために参考となる様々な話を聞く。</p> <p>(3) その他 システム開発カリキュラムや製品紹介、質疑応答を通して、疑問に思った事、興味を持った事について、インターネットなどを用いて、適宜自習を行う。</p>	
感 想 ・ 後 輩 へ の ア ド バ イ ス 等	
<p>本科で学んできた事の上に位置するシステム開発について、知識としてだけでなく、実際の開発事例や体験談を交えて学ぶ事ができたのは、非常に有意義なものだった。また、今まであまり興味を持っていなかったデータベースや他の開発言語について、その重要性や特色を知り、それらを学びたいと思えた事は今後どこかで役に立つと思う。しかしながら、実習全体を通してはシステム開発の学習がほとんどであり、実際に何かを設計したり、プログラミングしたりといった作業が行えなかった事は少し残念である。とはいえ、学校では出来ない良い経験を得られた事は確かである。</p> <p>今回の実習を終え、インターンシップを行って良かったと思うが、心残りの事もある。それは、希望していた業種・職種での実習が行えなかった事である。可能ならば、いずれまたインターンシップに参加したいとも思う。なので、今後実習を行う後輩たちには、希望の業種が決まっているのであれば、実習先を自分で良く探し、調べ、考えて欲しいと思う。</p>	

(出典：インターンシップ報告書(平成18年度))

資料 5 - 6 - ② - 6 特別研究の成果の学会誌掲載例(専攻科学生が著者の論文)



Journal of Photopolymer Science and Technology
Volume 16, Number 1 (2003) 67-70 ©2003 TAPJ

Condition and Effects of Various Plasmas after Passing through the Slits

Masaaki Katoh, Masaki Shibata, Akira Kojima and Takeo Ohte

Gunma National College of Technology, 580 Toriba-cho, Maebashi, 371-8530, Japan

The conditions and effects of various plasmas after passing through narrow slits have been investigated. It is important to know them in order to improve solid materials of complex structure. We have studied them, using a sample which simply represents the complex solid materials. This sample consists of slit plates, spacers and a base plate. Modification sources, which modify the material, were introduced into the sample through the slit plates. The conditions and effects of various plasmas were estimated by measuring the change between the contact angles before the plasma improvement and those after the plasma improvement. The material was treated in oxygen plasma, argon plasma and nitrogen plasma mainly. These kinds of plasma were generated by a discharge reactor of induction (coil) type. It has been found that these plasma gases can pass through a very complex route with twists and turns and treat a part behind the material. However, the processing effect is different with every plasma. Oxygen plasma's effect was the strongest of the gases that we used. Argon plasma's effect was not very strong in the condition of our experiment. In case of nitrogen plasma, its effect became low rapidly near the slits.

Keywords: plasma improvement, plasma treatment effects, complex surface, slit, plasma condition

1. Introduction

Surface modification of various materials with plasma has been used widely and applied to many industrial fields^{[1][2]}. That can improve characteristics of material surfaces^[3]. The material surface treatment can be done in a low temperature and in a short time. Most materials are solids with complicated inner structures and surfaces. Modification of such materials is a very important subject. However, the theme has not been investigated in detail. In case of plasma improvement of complicated solid-type materials, it is important to investigate the action of plasma on their surfaces and whether the surfaces are reformed uniformly and fully.

In this study, we have examined conditions and effects of plasma on the surfaces after passing narrow slits when the surface modification by plasma is carried out. We paid attention to a very complex route of plasma with twists and turns in particular. The simple model^[4] (sample) representing this phenomenon has been developed successfully, and for investigating this phenomenon in detail, the sample was modified by plasma in case that discharge of a plasma apparatus is raised with a coil^{[5][6]}. The self-bias in this

discharge type is not very large^[7].

2. Method

2.1. Sample

The solid material used in this experiment is shown in Fig.1. This represents real complex materials simply. We call it the sample. It consists of slit plates, spacers and a base plate. The slit plates have narrow gaps. The spacers, the base plate, and the slit plates are made of aluminum.

A modification source, that is, plasma modifying the material, was introduced into the sample through the narrow gaps in the slit plates. The sides of the sample were covered with plates in order to prevent the plasma from intruding except their slits. The route of plasma is changed by modulating the length the spacers as shown in Fig.1. The thickness of the spacers and the slit gap can be changed, too. The number of steps in the sample is variable. All parts of this sample is tightly fixed to each other.

A glassy carbon (GC; Showa Denko, SG-3) were used in order to estimate the effect of surface modification by plasmas. The plate is 25 mm in length, 50 mm in width and 0.6 mm in thickness. It was washed with ethyl alcohol and water, and then

(以下、省略)

(出典 : Masaaki Katoh, Masaki Shibata, Akira Kojima and Takeo Ohte : Journal of Photopolymer Science and Technology, Volume 16, Number 1, pp. 67-70, 2003.)

資料 5-6-②-7 専攻科授業科目「技術者倫理」シラバス

群馬工業高等専門学校 2007年度シラバス 8800520007AA/20070416

(科目コード：8800520007AA)

【科目】技術者倫理

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】後期・2単位

【対象学科・専攻】専攻科共通・2年次

【担当教員】

下田 祐紀夫

樋口 博

藤野 正家

【授業目標・教育方針】

これからの技術者には、技術が社会および自然に及ぼす影響を考慮し、技術者として社会および自然に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）が要求される。

- (1) 技術者倫理についての理解を深め、技術が社会および自然に及ぼすプラスの面とマイナスの両面を考え、技術者として社会 および自然に対する責任を自覚することができる。
- (2) 各学生が取り組んでいる「特別研究」の内容について、技術者倫理の視点より多面的に考え、報告することができる。
- (3) わかりやすいプレゼンテーションができる。
- (4) 相手の意見を聞き、自分の意見も相手に伝えることができる。
- (5) 発表要旨、議事録等をわかりやすくまとめることができる。

【授業概要】

代表的な幾つかの事故例を中心に、事故の原因、責任の所在、社会への影響、自然への影響、考えられた未然防止策など、学生が技術について多面的に考えることができるように、次のテーマについて倫理基礎知識を事例を通して学習する。

組織とエンジニア、企業の社会的責任、安全性と設計、事故調査、製造物責任、知的財産権、施行管理、工程管理、維持管理、企業秘密を守る、内部告発、倫理規定、専門的知識の研鑽等

【教科書・教材・参考書等】

教科書：はじめての工学倫理：斉藤了文、坂下浩司著：昭和堂

参考書：科学技術者の倫理—その考え方と事例：C.H. ハリス他、日本技術士会編：丸善

参考書：現代倫理学入門：加藤尚武：講談社学術文庫

参考書：新・技術者になるということ：飯野弘之：雄松堂

参考書：加藤尚武編：環境と倫理 - 自然と人間が共生を求めて：有斐閣アルマ

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

学生を班に分け、班ごとに、1テーマを担当する。各班は1回の授業を担当し、授業前に、テーマの調査を行い、発表内容を相談し、発表要旨を作成し、当日配布する。問題提起を含めてプレゼンテーションを行い、全員で議論する。議事録を作成し、次回の授業の最初に議事録の説明を行い、議事録の確認を全員で行う。

【メッセージ】

学生が自ら学ぶ授業を基本とする。倫理の各テーマについて、学生が事前に調べ、発表要旨をまとめ、プロジェクター原稿を作成する。問題提起を含め学生がプレゼンテーションを行い、学生同志で議論し、学生がまとめ、議事録を作成し、学習内容を報告する。

【成績評価方法】

【後期】期末試験：30%、その他：工学倫理小テスト 10%、授業での討議・役割（発表、司会、議事録）等 15%、報告書 45%

【本校の学習・教育目標】

- (A) 地球的規模での人、社会、環境についての倫理・教養を身につける。
- (D) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身につける。

【JABEE 評価】

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
 - (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
 - (d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力(分野別要件)
- 工学(複合融合・新領域)分野の分野別基準
- (2-d)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力
 - (e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
 - (f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

(出典：専攻科授業科目「技術者倫理」シラバス)

資料 5 - 6 - ② - 8 専攻科授業科目「総合工学」シラバス

群馬工業高等専門学校 2007 年度シラバス 8800620067AA/20070416

(科目コード：8800620067AA)

【科目】総合工学

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】後期・2 単位

【対象学科・専攻】専攻科共通・2 年次

【担当教員】

下田 祐紀夫
 石澤 静雄
 大手 丈夫
 渡邊 直寛
 樋口 博
 牛田 啓太
 戸井 啓夫
 三上 卓
 井草 勝
 佐々木 悟

【授業目標・教育方針】

異なる分野の幅広い工学基礎の知識と最も得意とする工学の知識を融合することにより、専門分野を広い視野でとらえることができ、将来、より高度な技術的課題にとりくむことのできる基礎となる能力を養う。

【授業概要】

毎年度、1 つのテーマを設定し、このテーマに沿った事項を各専門分野 (M,E,J,K,C) の立場から取り上げ講ずる (10 回分程度)。各科の教員がそれぞれ 2 回分の講義を担当し、担当分が終了した段階で、学生にレポートを課し、評価する。4 回分は企業人講師による「ものづくり」に関する講義 (企業見学含む) である。やはり終了後レポートを提出し、評価する。尚、初回はガイダンスを行なう。以上の講義を受ける中で、学生は与えられたテーマに関する問題設定を自ら行い、それについて資料調査し、得られた事実に基づいて自らの考えを述べた総合報告書を作成、提出する。報告書は A4 判 (40 字×30 行) 4～8 枚 (図表など含む)

【教科書・教材・参考書等】

各担当教員が指定する文献、または配布資料など

【成績評価方法】

【後期】レポート：100%、その他：評価法：各科の教員が行なう 2 回分の講義に対するレポート：6 点×5 = 30 点
 企業人講師が行なう 4 回分の講義に対するレポート：20 点
 総合報告書：50 点
 尚、総合報告書は講義を担当した教員 5 名 (各 10 点満点) が評価する。

【本校の学習・教育目標】

◎ (D) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身につける。

【JABEE 評価】

(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力 (分野別要件)
 工学 (複合融合・新領域) 分野の分野別基準
 (2-c) 工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決する能力
 (2-d) (工学) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力
 (e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
 (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

(出典：専攻科授業科目「総合工学」シラバス)

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

(a) シラバスの作成

- ・ シラバスには、授業目標・教育方針や内容に関する項目の他に、本校の学習・教育目標(A)～(E)と授業科目との対応が明示されている。成績評価方法において、定期試験、レポート課題などについて各評価の内訳が%表示で定量的に記載されている。(資料5-6-③-1, 資料5-6-③-2)
- ・ 授業の回数を重ねるうちに、当初、設定したシラバスと授業内容にずれが生じることが予想される場合、「修正シラバス」を学生に配布・説明し、了解を得ることが義務付けられている(資料5-6-③-3)。
- ・ シラバスは全専攻科生に配布(CD-ROM)されると共に、本校ウェブサイトに掲載されており、いつでも学生が見ることができるよう配慮されている。(資料5-6-③-1)
- ・ 平成19年度より、専攻科委員会の決定に基づき、シラバスに「事前に行う準備学習」を記載している。(資料5-6-③-4, 資料5-6-③-5)

(b) シラバスの活用

- ・ 平成19年2月にシラバスの活用度に関するアンケートを実施した結果、全体として、シラバスの活用度はかなり高くなっている。しかし教員に比べ学生のシラバス活用にはさらなる改善の余地が残されている。(資料5-6-③-6)
- ・ 毎年、学生に対して科目ごとにシラバスの活用状況に関するアンケートを実施している。平成17年度におけるアンケート結果を集計した結果によると、「シラバスどおりに授業が行われていない」とする回答が「行われている」とする回答を上回っている。(資料5-6-③-7) 「シラバスどおりに授業が行われていない」とする回答の中には、当初示された授業計画がその後、学生の学力の現状に合わせて修正された場合も含まれている。授業計画などの一部変更は、学生の現状を考えて必要な場合もあるため、学期途中でシラバスの修正ができるよう手続きを定めている。(資料5-6-③-8)

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 専攻科のシラバスは教育課程の編成の趣旨に沿って、作成されており、シラバスは、教員には高い割合で活用されると共に、学生にもかなりの程度活用されている。

以上のことから、専攻科のシラバスは教育課程の編成の趣旨に沿って、作成されており、教員に活用されると共に、学生にも活用されていると評価される。

資料 5-6-③-1 シラバスの例(システム工学 2006 年)

国立群馬工業高等専門学校 2006 年度シラバス 8000620006AA/20060327

(科目コード：8000620006AA)

【科目】システム工学

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】選択 【学期・単位数】後期・2 単位

【対象学科・専攻】専攻科共通・1 年次

【担当教員】

脇田 英治

【授業目標・教育方針】

システム工学について全般的、総合的に、かつ、各項目毎の基本的な要点を修得する。

【授業概要】

現代社会は多くの複雑なシステムにより構成されている。システム工学はこのようなシステムを安全性・効率性・経済性などを含む総合的な視点から最適となるようシステムを分析、計画、設計するための工学である。機械、電子、物質、土木等の工学がシステムを構成する個々の技術要素を取り扱うのに対して、システム工学はそれら個々の技術を実際の問題解決に役立つよう総合化、体系化する横断的学問である。

システムが複雑化した現代社会においては、システムを構成する個々の技術要素に関する知識だけで対処することは困難であり、技術者にはシステム工学的視野も同時に要求される。本授業ではこのような要求を満足するシステム工学の基本的な要点を総合的に学習することを目指している。

【教科書・教材・参考書等】

脇田英治：システム工学(技報堂出版)

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

パソコン

【成績評価方法】

【後期】中間試験：25%、期末試験：25%、その他：小テスト：50%

【本校の学習・教育目標】

◎(B) 技術的課題解決のための幅広い工学基礎の知識を身につける。

【JABEE 評価】

(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力(分野別要件)

工学(複合融合・新領域)分野の分野別基準

(1) 基礎工学の内容は、1) 設計・システム系科目群、2) 情報・論理系科目群、3) 材料・バイオ系科目群、4) 力学系科目群、5) 社会技術系科目群からなり、各群から少なくとも 1 科目、合計最低 6 科目についての知識と能力

【授業計画】(授業名：システム工学)

回数	授業の主題	内容	レポート・宿題等
第 1 回	概説およびシステム計画	システム概念とシステム工学、およびシステム計画の概要について学習する。	
第 2 回	モデル化 1	モデリングの基礎概念とシステムの数学モデルについて学習する。	
第 3 回	モデル化 2	モデリングの基礎概念とシステムの数学モデルについて学習する。	演習、レポート
第 4 回	シミュレーション 1	シミュレーションの理論・方法・応用について学習する。	
第 5 回	シミュレーション 2	シミュレーションの理論・方法・応用について学習する。	
第 6 回	システム同定 1	カルマンフィルタを中心に理論・方法・応用について学習する。	演習、レポート
第 7 回	適合性評価	システムの適合性評価の理論・方法・応用について学習する。	
第 8 回	最適化 1	システムの最適化の理論・方法・応用について学習する。	
第 9 回	最適化 2	システムの最適化の理論・方法・応用について学習する。	
第 10 回	信頼性	システムの信頼性の理論・方法・応用について学習する。	演習、レポート
第 11 回	システムの特性分析 1	システムの特性分析の理論・方法・応用について学習する。	
第 12 回	システムの特性分析 2	システムの特性分析の理論・方法・応用について学習する。	
第 13 回	複雑系への対処	カオスの理論・方法・応用について学習し、解析演習(パソコン室で実施)を行う。	
第 14 回	数値解析演習	最適化・特性分析に関する解析演習(パソコン室で実施)を行う。	
第 15 回	定期試験	定期試験	

(出典：平成 17 年度シラバス)

資料 5 - 6 - ③ - 2 シラバスの作成に関するマニュアル

群馬高専様シラバスシステム
教員用入力操作マニュアル

目 次

ログイン	1
インフォメーション	1
教員情報変更	2
シラバス入力	3
プレビュー	7
過去データ参照	8
仮科目コード入力	10

(途中省略)



09 シラバス入力画面 (その5)

- ・「リンク」は2件まで設定することができます。
- ・成績評価方法を入力してください。前述(その1)で選択した「学期」(通年・前期・後期等)に対応して入力してください。
- ・「達成目標(表9)」を入力します。(この欄はJABEE対象外科目には表示されません)



10 シラバス入力画面 (その4)

- ・「学習目標(表3)」を入力します。(この欄はJABEE対象外科目には表示されません)
- ・「学習・教育目標」と「JABEE基準」との対応関係を確認する場合は、「ヘルプ」をクリックしてください。
- ・「本校の学習・教育目標」への対応を選択します。

(出典：群馬高専シラバスシステム 教員用入力操作マニュアル)

資料5-6-③-3 修正シラバスの例

システム工学 シラバス (修正版)

(担当教員：脇田 英治) H18.1

1. 授業目標

システム工学について全般的・総合的に、かつ、各項目毎の基本的な要点を修得する。それによりシステム工学の基礎・手法を応用できる力を身に付ける。

2. 授業概要

現代社会は多くの複雑なシステムにより構成されている。システム工学はこのようなシステムを安全性・効率性・経済性などを含む総合的な視点から最適となるようシステムを分析・計画・設計するための工学である。

複雑化した現代社会においては、システムを構成する個々の技術要素に関する知識だけで対処することは困難であり、技術者にはシステム工学的視野が同時に要求される。本授業ではこのような要求を満足するシステム工学の基本的な要点を総合的に学習する。

3. 授業形式

主に講義形式で授業を行うが、授業をより深く理解できるよう、また、同時に成績評価を行うため演習を小テストを兼ねて3回に1回程度、実施する。

4. 教科書：脇田英治：システム工学（技報堂出版）

5. 成績評価

演習・小テストの評価 50%, 定期試験 50 %

6. 授業計画

第1回(10/6)：概説---- システム概念とシステム工学の概要

システム計画---システム計画の方法・演習

第2-3回(10/13-10/20)：モデル化

---- モデリングの基礎概念・システムの数学モデル

第4-5回(10/27-11/10)：シミュレーション

--- シミュレーションの理論・方法・応用

第6回(11/17)：システム同定

--- カルマンフィルタを中心に理論・方法・応用

第7回(11/24)：適合性評価---システムの適合性評価の理論・方法・応用

第8-9回(12/1-12/8)：最適化---システムの最適化の理論・方法・応用

第10回(12/15)：信頼性----システムの信頼性の理論・方法・応用

第11-12回(12/22-1/19)：特性分析

---システムの特性分析の理論・方法

第13回(1/26)：複雑系への対処----カオスの理論・方法・応用

数値解析演習（カオス解析—パソコン室）

第14回(2/2)：数値解析演習（最適化・特性分析—パソコン室）

(出典：授業時配布資料(平成17年度専攻科授業「システム工学」))

資料5-6-③-4 シラバスの準備学習記入欄に関する専攻科委員会の議事録

平成18年度 第9回専攻科委員会議事要旨

日時 平成19年1月15日(月) 16:30～19:35

場所 会議室A

出席者 青木委員長、脇田専攻主任(環境)、金子専攻主任(生産)、東城(人文)、五十嵐(自然)安田(M)、渡邊(E)、鶴見(J)、戸井(K)、小島教務主事、長津学生課長、

欠席者 青井(C)

「報告事項」

1. 前回議事要旨の確認について
異議なく了承された。
2. 学位授与機構関係について
青木専攻科長から、小論文試験が1名(名)受験し、現在、小論文試験が
3. 1年生特別研究中間発表
脇田専攻主任

(途中省略)

16. シラバスの作成について

青木専攻科長から、シラバス作成上の注意事項について下記のとおり報告があり、確認された。

- (1) 新設科目の学習・教育目標は総合評価基準の分類に合わせる。
- (2) JABEEに対応した成績評価法を確認する。

また、脇田専攻主任から、専攻科の機関認証評価に対応したシラバスの形式について次のとおり説明があり、「事前に行う準備学習」となる要件はシラバスの備考欄を使用し、対応することが確認された。

※機関認証評価に対応したシラバスの形式(専攻科分)の内容

平成19年度機関認証評価に対する対応(案)

「基準5-6-3: 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。」

【留意点】

○教育課程の編成の趣旨に沿って、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標、評価方法等が記載されたシラバスが整備されているかどうかについて分析する。

17. 平成20年度専攻科入試に向けた要項等の改正について

青木専攻科長から、資料5に基づき説明があり、原案の文言等の確認を行い、主事・主任会議に諮ることが了承された。

(出典:平成18年1月の専攻科委員会議事録)

資料5-6-③-5 シラバスの準備学習記入に関する専攻科委員会資料

資料(9)
19.2.6

平成19年1月29日

専攻科担当教員各位

専攻科委員会

専攻科シラバスへ「事前に行う準備学習」項目を記載することについて

来年度受審を予定している高等専門学校機関別認証評価では1から11までの基準が設けられ、基準ごとに自己評価を行うことになっています。その中の、基準5-6-③は以下の内容です。

「教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示などの内容が適切に整備され、活用されているか。」

ここでいう、「事前に行う準備学習」とは、当該科目を履修・修得するために、受講学生に要求される最低限の知識またはそのための事前の準備と解釈されます。この項目を記入する欄が本校専攻科シラバスには設けられていません。今後、このような欄を設けることを検討中です。来年度シラバス作成に向け、当面はシラバスの「備考欄」に、ご担当の科目（講義・演習のみ）を学生が受講するに当たって必要な、「事前に行う準備学習」を記入願います。

【専攻科生産システム工学専攻 科目「電磁気学特論Ⅰ」の記入例】

例1. 学科4年の応用物理Ⅱで学んだ電磁気学をもう一度復習しておいて下さい。

例2. クーロンの法則、アンペールの法則、電磁誘導の基本を復習しておいて下さい。

【専攻科生産システム工学専攻 科目「電磁気学特論Ⅱ」の記入例】

例 専攻科科目「電磁気学特論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

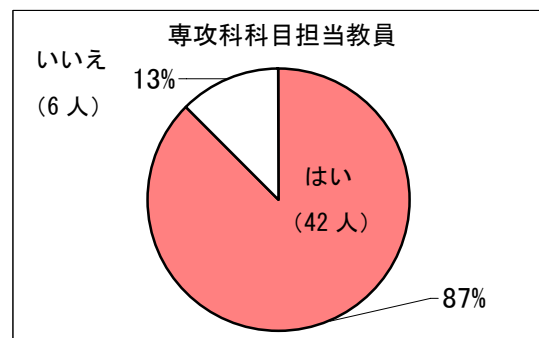
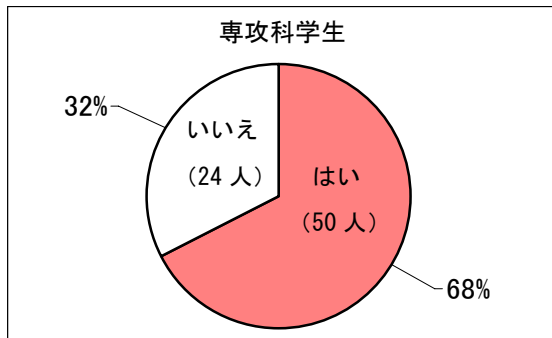
上記はあくまでも「例」としてご理解下さい。事前の準備学習の趣旨に則った記述をお願いします。尚、準備学習の「しぼり」が強すぎると、学生の受講意欲を削ぐ結果にもなりかねません。適切な範囲内での記述をお願いします。ご質問などあれば、専攻科長までお知らせ下さい。

(出典：平成18年1月の専攻科委員会資料)

資料 5-6-③-6 シラバスの活用度アンケート結果（平成19年2月実施）

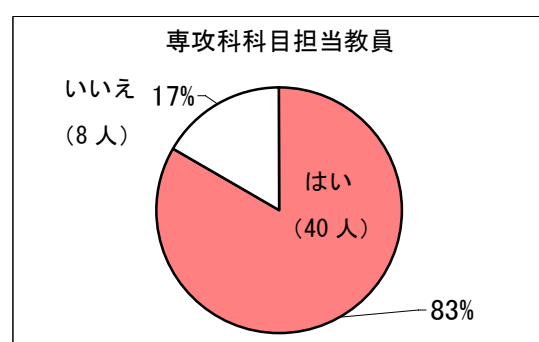
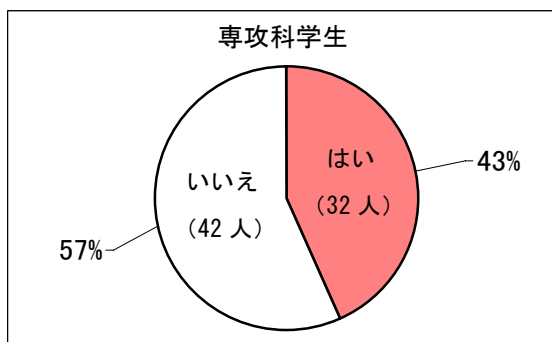
設問 1：あなたは授業内容を確認するなど授業開始時期にシラバスを活用していますか。

アンケート対象者：専攻科学生・専攻科科目担当教員



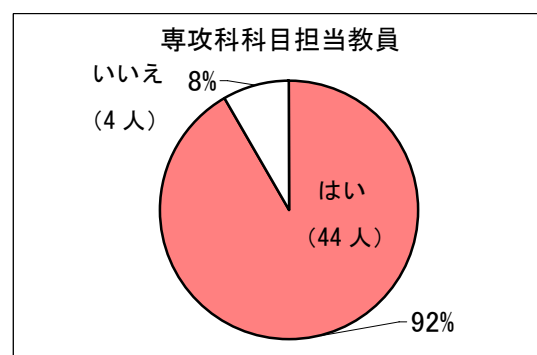
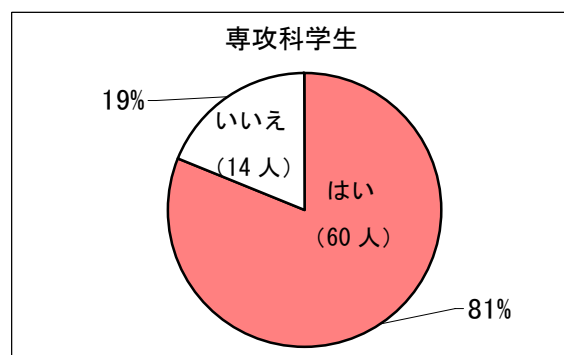
設問 2：あなたは授業進捗を確認するなど適当な時期にシラバスを活用していますか。

アンケート対象者：専攻科学生・専攻科科目担当教員



設問 3：あなたは成績評価方法を確認するなど適当な時期にシラバスを活用していますか。

アンケート対象者：専攻科学生・専攻科科目担当教員



（出典：平成 19 年 2 月教育に関するアンケート）

資料 5-6-③-7 シラバスの活用度アンケート結果 (平成17年度)

(2006年度前期末実施分)

授業評価アンケート結果

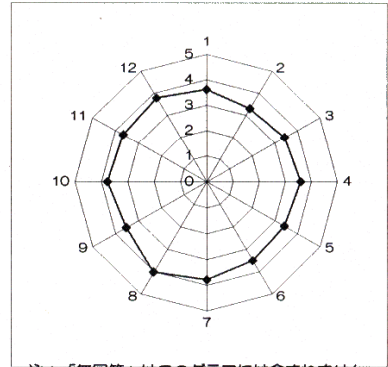
【 学年別 】

【 専攻科 1年 全体 】

全JABEE対応科目についてのアンケート結果に対する
度数分布表【100分率】 (アンケート総数：476人)

設 問	(配点)	5	4	3	2	1	0	平均
1: 授業は分かりやすかった。		23	32	30	12	3	3	3.6
2: 授業のレベルは、あなたにとって適切であった。		12	31	37	14	5	5	3.3
3: シラバスに指定された教科書、参考書は授業にとって適切であった。		16	28	46	7	2	2	3.4
4: 授業中の黒板やプロジェクターの文字は見やすかった。		22	30	36	10	2	2	3.6
5: 授業を受けるに当たり、シラバスは適切であった。		14	23	58	4	0	0	3.4
6: シラバスどおりに授業が行われた。		17	28	45	8	0	0	3.5
7: 授業は学生が質問しやすい雰囲気が進められた。		27	34	32	5	1	1	3.8
8: 質問には熱心に答えてくれた。		35	36	27	2	0	0	4.0
9: 学生に理解度を確認しながら、授業が進められた。		18	32	39	9	2	2	3.5
10: レポートや課題は適切であった。		26	31	38	4	1	1	3.8
11: 授業はあなたにとって興味を引くものであった。		20	37	36	6	2	2	3.7
12: 授業は総合的に見て高く評価できる。		24	39	33	4	1	1	3.8
(平均)		21.0	31.7	38.2	7.1	1.6	1.6	3.6

左表のアンケート結果について
各設問に対する重み付き平均値

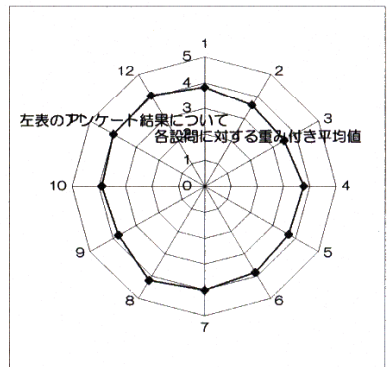


【 専攻科 2年 全体 】

全JABEE対応科目についてのアンケート結果に対する
度数分布表【100分率】 (アンケート総数：133人)

設 問	(配点)	5	4	3	2	1	0	平均
1: 授業は分かりやすかった。		27	38	26	10	0	0	3.8
2: 授業のレベルは、あなたにとって適切であった。		18	36	36	8	2	2	3.6
3: シラバスに指定された教科書、参考書は授業にとって適切であった。		16	31	44	7	2	2	3.5
4: 授業中の黒板やプロジェクターの文字は見やすかった。		25	35	33	6	1	1	3.8
5: 授業を受けるに当たり、シラバスは適切であった。		17	36	46	1	0	0	3.7
6: シラバスどおりに授業が行われた。		20	44	35	1	0	0	3.8
7: 授業は学生が質問しやすい雰囲気が進められた。		32	41	23	2	1	1	4.0
8: 質問には熱心に答えてくれた。		43	36	19	2	0	0	4.2
9: 学生に理解度を確認しながら、授業が進められた。		23	35	35	6	1	1	3.7
10: レポートや課題は適切であった。		30	34	32	2	2	2	3.9
11: 授業はあなたにとって興味を引くものであった。		29	43	26	2	0	0	4.0
12: 授業は総合的に見て高く評価できる。		33	41	23	2	1	1	4.0
(平均)		26.1	37.5	31.5	4.0	0.8	0.8	3.8

左表のアンケート結果について
各設問に対する重み付き平均値



※ ここで言う「平均値」とは、各設問の回答について次のような重みをつけて平均操作を行ったものです。

そう思う=5、どちらかといえばそう思う=4、普通だと思う(どちらともいえない)=3、どちらかといえばそう思わない=2、そうは思わない=1

例：設問1の分布がそれぞれ20%、10%、30%、30%、10%であった場合、平均 = 5x0.2 + 4x0.1 + 3x0.3 + 2x0.3 + 1x0.1 = 3.0と計算されます。

(出典：教育研究委員会資料—授業評価アンケート結果(平成17年度))

資料5-6-③-8 修正シラバスの作成・配布に関する資料

平成18年7月19日

教員各位

JABEEプログラム委員会

シラバスどおりの授業の実施に向けて
—学期途中のシラバスの修正について—

平成16年度のJABEE審査において、基準3.教育手段の3・2(2)に関し、「教育については一部の科目において必ずしもシラバス通りに実施されているとは言えないことが学生インタビューから分かったので、この点で改善が望まれる。」(〔C〕)との指摘を受けています。このことについて、今後は「授業改善シート」の提出(公開)などを利用し、教員自らの努力を促す形で改善を進めてゆくことになっています。

尚、やむを得ない事情により、シラバスに当初記載した内容どおりに授業が進められない場合には、学期途中であっても、適宜、シラバスの修正を行い、「シラバスどおりの授業の実施」に努めていただくようお願い致します。シラバスの途中修正については、以下の手続きに従って下さい。

1. 文書などを配布して、学生にシラバスの修正点を明示し、担当クラスの了解を得て下さい。尚、学生に配布した文書は必ず保管しておいて下さい。保管期間は当該年度終了後1年間とします。
2. 学期終了後、必ず、シラバスシステムの該当科目の修正を行なって下さい。
(学生課教務係は、学期終了後にシラバス修正可能な期間を設定)

(出典：教員会議配布資料(平成18年度9月教員会議))

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

（a）研究指導が学校教育法上目的および学校の教育目的を達成する上で適切なものであるか

- ・ 学科単位の勤務実態になっていた、これまでの技術職員組織を発展的に改組し、体験型学習科目に、全校的に対応する組織として平成18年度に教育研究支援センターが設置された。同センターは、専攻科における実験、演習、実習の技術支援を行うとともに、特別研究などに欠かせない実験機材や装置などの製作も支援し、専攻科学生の実践的技術のレベル向上や自主性の育成に貢献している。技術職員はすべて同センターに所属し、センターがつくる研究支援計画にもとづいて、実習工場、各センター、学科などへ技術職員を派遣している。（資料5-7-①-1）

（b）複数指導体制

- ・ 特別研究の指導においては主査と副査の複数教員指導体制をとり、2名とも博士号を取得した教員が行っている。本校の博士取得率は62人/84人中で74%である（資料5-7-①-2，資料5-7-①-3）
- ・ 特別研究のテーマ決定はテーマ説明会を開催し、学生の希望と適性を考慮しながら、専攻科委員会で決定している。（資料5-7-①-4，資料5-7-①-5）

（分析結果とその根拠理由）

以上のことより、本専攻科での特別研究は技術教育支援センターの全面的な協力の下、複数教員による指導体制が確立されており、高度な専門技術を身につけるのに相応しい体制が整っているといえる。

資料 5-7-①-1 教育研究支援センター規則

群馬工業高等専門学校教育研究支援センター規則

平成 19 年 1 月 16 日
制 定

最終改正 平成 19 年 2 月 13 日

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規則は、群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第 11 条の規定に基づき、本校の技術支援組織及び所掌事項について定め、教育研究活動を支援する技術職員の業務を円滑かつ効率的に実施するとともに、技術職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とする。

第 2 章 技術支援組織

(教育研究支援センター及び技術グループ)

第 2 条 本校に教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置き、センターに第 1 技術グループ及び第 2 技術グループを置く。

- 2 センターに技術専門員、技術専門職員又は技術職員を置く。
- 3 技術専門員及び技術専門職員については、別に定める。

(センター長)

第 3 条 センターにセンター長を置き、教授をもって充てる。

- 2 センター長の任期は 2 年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。
- 3 センター長は、校長の命を受け、技術支援業務に関する学内調整を行うとともに、センターの運営業務を掌理する。

(副センター長)

第 4 条 センターに副センター長を置く。

- 2 副センター長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
- 3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの運営業務を処理する。

(技術グループ長)

第 5 条 センターに技術グループ長を置く。

- 2 技術グループ長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
- 3 技術グループ長は、上司の命を受け、技術グループの管理業務及び技術研修業務を処理する。

第 3 章 所掌業務

(業 務)

第 6 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育研究支援計画の作成に関すること。
- (2) 学生の実験・実習等の技術支援及び技術指導に関すること。
- (3) 教育教材作成の技術支援に関すること。
- (4) 教員の研究活動に伴う技術支援に関すること。
- (5) 技術の研究、改善、継承及び保存に関すること。
- (6) 民間等との共同研究等に伴う技術支援に関すること。
- (7) 実験室・実習室等の整備、備品等の維持管理に関すること。

(8) その他の教育研究活動等に関する技術支援に関すること。

(技術グループ)

第7条 技術グループの所掌する技術分野は、次のとおりとする。

- (1) 第1技術グループ 物理、機械工学及び電気・電子工学
- (2) 第2技術グループ 情報工学、化学・物質工学、生物・生物工学、環境工学・都市工学及びその他の技術分野

第4章 技術支援業務連絡会

(連絡会)

第8条 技術支援業務の円滑かつ効率的な実施に資するため、技術支援業務連絡会（以下「連絡会」という。）を置く。

2 連絡会の議長は、センター長とする。

(構成)

第9条 連絡会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 技術グループ長
- (4) 一般教科長（自然科学）、専門学科長及び副専攻科長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同技術開発センター長
- (6) 学生課長
- (7) その他センター長が必要と認める者

(庶務)

第10条 連絡会の事務は、センターにおいて処理する。

第5章 技術研修

(技術研修)

第11条 センター長は、技術専門員、技術専門職員及び技術職員に、その職務遂行に必要な知識及び技術等を習得させ、能力及び資質等を向上させる内容の研修に務めなければならない。

第6章 雑則

第12条 この規則の実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成19年2月1日から施行する。
- 2 群馬工業高等専門学校技術職員の組織に関する規則（平成12年3月7日規則第3号）は、廃止する。
- 3 本規則制定後最初に任命されるセンター長の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず平成21年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

資料 5-7-①-2 特別研究の実施に関する申し合わせ

5 特別研究の実施に関する申合せ（平成18年度改訂）

1 研究課題と指導教員

研究課題は、学位申請に必要な「基礎となる専門的科目」との関連性を考慮して設定する。

- (1) 指導教員は、正副担当の複数制とする。
- (2) 主担当教員は研究課題を決定する。
- (3) 主担当教員は、研究課題の内容を考慮して、相応しい研究分野の教員に副担当を依頼し、了解が得られたらそれを各専攻主任に報告する。主担当教員あるいは副担当教員のいずれかは教授とする。
- (4) 副担当教員の役割は次のとおりとする。①大学評価・学位授与機構に提出する〔学習の成果〕の内容検討、②特別研究論文作成に関する助言、③正担当教員が出席できない場合の特別研究合否判定会議への出席
- (5) 研究課題は、毎年4月にその概要とともに、学生に掲示する。
- (6) 原則として、学生にはそれぞれ異なる研究課題を与える。

2 主担当教員の決定等

- (1) 主担当教員は、学生の希望および研究課題の内容を考慮し、必要に応じて、専攻主任、当該教員等の協議より決定する。
- (2) 主担当教員は、原則として、当該学生が専攻科に在籍する間に変更しない。

3 特別研究のための時間

授業時間割に配当された特別研究の時間帯は、担当教員の判断により、随時変更できるものとする。

4 成績評価（審査・認定方法）

- (1) 特別研究の成績評価は、第2学年の年度末に行う。（ここでは、1年を超えて在籍する学生はすべて第2学年在籍とする。）
- (2) 特別研究の成績は、合格(合)又は不合格(否)の2区分とする。
- (3) 合否判定は、特別研究発表会終了後、正担当教員及び専攻科委員会委員で構成する特別研究合否判定会議を開催し決定する。

5 研究成果の発表

- (1) 学生は、原則として第1学年の末、第2学年の末に、校内において研究成果の発表を行う。なお、第2学年の研究発表会は公開とする。
- (2) 特別研究の成果を学会等で発表することを奨励し援助する。

3 履修届について

専攻科の学生は、授業開始約3週間以内に選択科目について別紙3、4に示した履修届を教務係に提出する。各授業担当教員には、この届のコピーが教務係から配付される。

（出典：平成18年度専攻科履修の手引き）

資料5-7-①-3 特別研究発表プログラム

群馬工業高等専門学校 専攻科 第11期生 特別研究発表会プログラム(生産システム工学専攻)

- 1) 実施日時：平成19年2月23日(金) 8:50-17:50
- 2) 発表時間：発表10分、質疑5分
- 3) 開催場所：電子情報工学科棟 大講義室
- 4) 進行予定：(2/23) 挨拶8:50-、発表8:55-、総括17:40-

No.	学生氏名	研究題目	正副担当教員	所属
2月23日(金)プログラム				
[挨拶] 8:50-8:55 金子生産システム工学専攻主任				
[セッション1] 座長：渡邊教員] 8:55-				
1		直交変換に基づく画像処理の研究	鶴見/荒川	AP
2		パルス式レーダにおける高分解能処理	富澤/小幡	
3		フラクタル画像符号化に基づく電子透かし	鶴見/柳田	
4		地中誘電率の高精度推定	富澤/青木	
5		論理回路の故障検出プログラム作成	大豆生田/小幡	
休憩 10分 (10:10-10:20)				
6		フェリ磁性体の分子場理論	青木/五十嵐	AP
7		高精度GPS受信装置と受信信号処理に関する検討	樋口/櫻井	
8		歩行運動の時系列解析	小幡/大手	
9		高精度GPSによる自律航法車両の設計製作	樋口/柳田	
10		能動進行波アンテナの理論と製作	小幡/富澤	
11		量子コンピュータの学習	藤平/大嶋	
昼休憩 50分 (11:50-12:40)				
[セッション2] 座長：安田教員] 12:40-				
12		量子状態識別	大嶋/宇治野	AP
13		壁内空間でのプラズマ構成要素の飛行	大手/小幡	
14		量子計算における量子状態の複雑さ	大嶋/藤平	
15		プラズマ中への材料入出時の過渡応答	大手/小幡	
16		現在の宇宙の加速度膨張を説明するスカラー場を用いた模型の構築	辻川/大嶋	
休憩 10分 (13:55-14:05)				
17		小型MRI装置の開発	五十嵐/小幡	AP
18		量子Fourier変換とその応用	宇治野/青木	
19		予混合気の圧縮着火燃焼に関する研究	高橋/石澤	
20		非定常噴流の生成機構に関する研究	高橋/石澤	
休憩 10分 (15:05-15:15)				
[セッション3] 座長：鶴見教員] 15:15-				
21		赤外線レーザー吸収法による壁面付近の未燃焼炭化水素の測定	石澤/高橋	AP
22		混合気のルイス数の推定	石澤/高橋	
23		火災伝播方向が消炎直径に及ぼす影響	石澤/高橋	
24		粒子分散複合材料の強化機構に関する実験及び力学解析	黒瀬/安田	
25		路面状況表示装置XY可動部の試作研究 (モータの角速度検出)	重松/下田	
休憩 10分 (16:30-16:40)				
26		金型の切削加工を対象としたセミドライ加工の研究	櫻井x/下田	AP
27		電解研磨法・電解複合研磨法による超精密加工の条件出しシステムについて	下田/櫻井x	
28		大型ステンレス容器の超精密加工に関する基礎研究-非回転型の工具	下田/櫻井x	
29		電極による電解複合研磨法-スパッタ法による超微粒子状金属膜の作製	金子/安田	
[総括] 17:40-17:50 校長				

群馬工業高等専門学校 専攻科 第11期生 特別研究発表会プログラム(環境工学専攻)

- 1) 実施日時：平成19年2月23日(金) 9:00-14:30
- 2) 発表時間：発表10分、質疑5分
- 3) 開催場所：専攻科棟 視聴覚室
- 4) 進行予定：(2/23) 挨拶9:00-、発表9:05-、総括14:20-

No.	学生氏名	研究題目	正副担当教員	所属
2月23日(金)プログラム				
[挨拶] 9:00-9:05 脇田環境工学専攻主任				
[セッション1] 座長：五十嵐教員] 9:05-				
1		小型液状化実験装置の開発	阿部/木村	AE
2		担子菌の子実体から得られるプロテアーゼの精製および分析	林/戸井	
3		地盤内空洞の周辺地盤及び地盤表面への影響に関する実験的検討	阿部/木村	
4		両生類 (アフリカツメガエル) と魚類 (カレイ) の卵リントタンパク質の比較	林/戸井	
5		群馬県の中山間地における木橋の現状と住民意識に関する基礎的調査	三上/山本	
休憩 10分 (10:20-10:30)				
[セッション2] 座長：青井教員] 10:30-				
6		ゼオライト微粒子集合系における吸着分子の発光強度分布の観測	赤羽/辻	AE
7		JR高崎問屋町駅における新規駐車場事業の潜在需要に関する移動手段実態および意識調査	三上/山本	
8		吹付けアスベストの低温分解	小島/藤野	
9		地震発生時の群馬工業高等専門学校における安否情報の収集についてのサイト作成と意識調査	三上/古川	
10		LTA型ゼオライトナノ結晶のサイズ制御とその蛍光特性	小島/辻	
11		構造物の動的パラメータの同定	三上/脇田	
昼休憩 50分 (12:00-12:50)				
[セッション3] 座長：戸井教員] 12:50-				
12		活性炭/バインダー電極とCMSフィルム電極の電気化学的特性の評価	太田/小島	AE
13		三層円柱供試体の割裂試験による弾性係数決定法の開発	木村/阿部	
14		カーボンナノチューブの高温処理にともなう鉄触媒の挙動	太田/小島	
15		実道におけるアスファルト舗装内部の骨材移動解析	木村/阿部	
16		カーボンナノチューブの生成におよぼす原料有機化合物の影響	太田/小島	
17			青井/阿部	
[総括] 14:20-14:30 校長				

(出典：平成18年度特別研究発表プログラム)

資料5-7-①-4 特別研究課題説明会プログラム

平成18年度 専攻科 環境工学専攻 特別研究課題説明会

日時：4月10日(月)

場所：専攻科3F 301教室

開始時間	教員名	特別研究課題
9:00 -	三上(環境)	地震時避難所の使用性に基づく整備優先順位に関する研究
9:10 -	林(物質)	シイタケの耐熱性プロテアーゼの特性
9:20 -	阿部(環境)	GISを利用した群馬県内の地震危険度および地下水資源情報システムの構築
	阿部(環境)	弾塑性理論による液状化解析手法の開発
	阿部(環境)	軽石を用いた環境材料の開発
9:35 -	藤野(物質)	色素増感太陽電池用ホール輸送材料の研究
9:45 -	谷村(環境)	電気化学的方法を用いた藻類異常増殖の抑制
9:55 -	太田(物質)	新規カーボンナノスフィアの開発
	太田(物質)	ツイストカーボンナノチューブの新規調整法の開発
	太田(物質)	電気二重層キャパシタ用膨張炭素電極の開発
	太田(物質)	電子供与性基と電子受容性基を π 共役鎖の両端に持つ光増感色素の合成
10:10 -	山本(環境)	流出モデルの性能に関する研究
		休憩(10:20 - 10:30)
10:30 -	脇田(環境)	振動実験および動的有限要素解析による構造物の動的挙動メカニズムの解明
	脇田(環境)	衛星リモートセンシングによる群馬県の農業生産形態の解析
	脇田(環境)	橋梁デザインの定量的評価法
	脇田(環境)	風による構造物の動的挙動解析および設計法
10:45 -	戸井(物質)	ホウ酸-糖相互作用とその利用
	戸井(物質)	梨病原菌に対する生理活性を有する微生物由来物質の探索
	戸井(物質)	植物病原菌由来の生理活性物質の探索
11:00 -	森田(環境)	調査データ等を用いた都市生活・行動分析
11:10 -	真壁(物質)	脳幹部へのタンパク質・遺伝子導入の基礎的研究
11:20 -	青井(環境)	西湖底泥部分浚渫法の自動化
	青井(環境)	連作障害対策型土壌改良材の実農地への展開
	青井(環境)	神流川上流部珪藻優占種と河川中窒素濃度の関係の解明
11:35 -	赤羽(物質)	オレフィンカチオンラジカルの構造と反応性に関する研究
	赤羽(物質)	セルフアセンブリーの化学と分子設計-水素結合などによるアプローチ
	赤羽(物質)	セルフアセンブリーの化学と分子設計-二次元集積場によるアプローチ
	赤羽(物質)	カチオンラジカルの異性現象に関する研究
11:50 -	古川(環境)	繊維で補強したセメント系複合材料の力学的特性
		休憩(12:00 - 12:50)
12:50 -	辻(自然)	極低温条件下のラジカル種の赤外吸収分光
	辻(自然)	ナノ結晶ゼオライトのサイズ・構造制御による新機能発現と機能向上
13:10 -	木村(環境)	現道アスファルト舗装におけるわだちによる骨材移動解析
	木村(環境)	アスファルト舗装におけるわだち抑制構造の開発
	木村(環境)	三層円形介在物に集中荷重が作用する場合の応力解析
13:25 -	中島(物質)	シクロファン型ナフタルイミドの蛍光挙動
-13:40	中島(物質)	アミノ置換ナフタルイミドの蛍光挙動に対する溶媒効果の検討
		休憩(13:40 - 13:50)
13:50-14:10	兼松(鈴鹿高専)	「実践工業数学」の説明(特別研究ではありませんが、この時間帯を利用して、鈴鹿高専より本校へ出張し、説明があります。)

1)OHPとプロジェクターを用意します。学生数は17名です。

2)予定時間の5分前にはおいでください。進行係はいないので、時間になったら始めてください。

(出典：平成18年度特別研究課題説明会プログラム)

資料5-7-①-5 特別研究課題決定資料

資料(2)

平成18年度専攻科1年生特別研究課題及び担当教員一覧

「生産システム工学専攻」

No.	学生氏名	特別研究課題名	主担当教員	副担当教員
1		「らせん磁性体のスピン波」	青木教授 (E)	五十嵐助教授 (自然)
2		「ZnO を母体とする透明磁性薄膜の試作」	渡邊教授 (E)	大手教授 (E)
3		「低温プラズマ処理を用いた新蓄電システム用材料の性能向上」	大手教授 (E)	渡邊教授 (E)
4		「改良型非平衡デュアルマグネトロンスパッタ法によるステンレス鋼への高密着強度銅コーティング」	金子教授 (M)	黒瀬助教授 (M)
5		「衛星リモートセンシングによる3次元空間データの生成」	樋口教授 (J)	櫻井教授 (J)
6		「音弾性法による熱間鍛造金型の残留応力計測」	黒瀬助教授 (M)	安田教授 (M)
7		「冷風セミドライ加工の実用化研究」	櫻井助教授 (M)	下田教授 (M)
8		「リングワンダリングの実験研究」	小幡教授 (E)	大嶋教授 (E)
9		「衛星リモートセンシングによるマルチスペクトル画像解析と環境監視への応用」	樋口教授 (J)	鶴見教授 (J)
10		「Wavelet 変換を用いた画像認識 (その2)」	鶴見教授 (J)	樋口教授 (J)
11		「FM-CW地中レーダに関する研究」	富澤助教授 (E)	小幡教授 (E)
12		「複素ニューラルネットワークの理論と応用」	荒川講師 (J)	柳田教授 (J)
13		「地中レーダシステムの広帯域化に関する研究」	富澤助教授 (E)	小幡教授 (E)
14		「小型MRI装置の開発 ~MRIプローブ周辺の検討~」	五十嵐助教授 (自然)	安田教授 (M)
15		「ナノスケール材料試験のためのマイクロテストステージの製作」	黒瀬助教授 (M)	金子教授 (M)
16		「ニューラルネットワークによる制御」	荒川講師 (J)	金子教授 (M)
17		「マスタ・スレーブ型二足歩行ロボットの研究」	重松助教授 (M)	下田教授 (M)
18		「磁性薄膜のFaraday/Kerr効果による測定」	渡邊教授 (E)	大手教授 (E)
19		「Wavelet 変換を用いた画像認識 (その1)」	鶴見教授 (J)	荒川講師 (J)
20		「非定常噴流の生成機構に関する研究」	高橋教授 (M)	石澤教授 (M)
21		「パラメトリック励振アンテナの実用化」	小幡教授 (E)	富澤助教授 (E)
22		「量子情報理論の基礎」	大嶋教授 (E)	小幡教授 (E)
23		「構造解析ソフトによる異方性力学支援教材の開発」	黒瀬助教授 (M)	下田教授 (M)

平成18年度専攻科1年生特別研究課題及び担当教員一覧

「環境工学専攻」

No.	学生氏名	特別研究課題名	主担当教員	副担当教員
1		「アミノ置換ナフタリイミドの蛍光挙動に対する溶媒効果の検討」	中島助教授 (K)	藤野教授 (K)
2		「軽石を用いた環境材料の開発」	阿部教授 (C)	木村助教授 (C)
3		「神流川上流部珪藻優占種と河川中窒素濃度の関係の解明」	青井教授 (C)	阿部教授 (C)
4		「現道アスファルト舗装におけるわだちによる骨材移動解析」	木村助教授 (C)	阿部教授 (C)
5		「シイタケの耐熱性プロテアーゼの特性」	林教授 (K)	戸井教授 (K)
6		「セルフアセンブリーの化学と分子設計-水素結合などによるアプローチ」	赤羽教授 (K)	藤野教授 (K)
7		「ツイストカーボンナノチューブの新規調整法の開発」	太田助教授 (K)	戸井教授 (K)
8		「弾塑性理論による液状化解析手法の開発」	阿部教授 (C)	木村助教授 (C)
9		「三層円形介在物に集中荷重が作用する場合の応力解析」	木村助教授 (C)	阿部教授 (C)
10		「極低温条件下のラジカル種の赤外吸収分光」	辻助教授 (自然)	藤野教授 (K)
11		「新規カーボンナノファイバの開発」	太田助教授 (K)	戸井教授 (K)
12		「植物病原菌由来の生理活性物質の探索」	戸井教授 (K)	林教授 (K)
13		「アスファルト舗装におけるわだち抑制構造の開発」	木村助教授 (C)	青井教授 (C)
14		「梨病原菌に対する生理活性を有する微生物由来物質の探索」	戸井教授 (K)	林教授 (K)
15		「西湖底泥部分浸漬法の自動化」	青井教授 (C)	古川教授 (C)
16		「カチオンラジカルの異性現象に関する研究」	赤羽教授 (K)	中島助教授 (K)
17		「連作障害対策型土壌改良材の実地への展開」	青井教授 (C)	木村助教授 (C)

(出典：平成18年度第2回専攻科委員会資料)

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(a) 成績評価等の規定の策定

- ・ 成績評価・単位認定・修了認定に関する規定が定められており、全学生に配布される資料(「履修のしおり」など)に掲載され、周知されている。(資料5-8-①-1)
- ・ 追試験・再試験の評価法についても資料(「履修のしおり p.32 第6条」)に規定が定められている。(資料5-8-①-1)
- ・ 定期試験の採点結果について、学生の意見申立ての機会が、議題としては平成18年度、専攻科委員会で討議され、平成18年度の後期定期試験から導入されている。(資料5-8-①-2)

(b) 規定の学生への周知

- ・ 成績評価・単位認定・修了認定等の規定は学生に十分周知されている(資料5-8-①-3)。
- ・ 授業科目の1単位が45時間であることについても、規定(履修のしおり P.32 第3条)に示されている。(資料5-8-①-1)
- ・ 専攻科の学生を対象に平成18年度に実施されたアンケート結果によると、授業科目の1単位が45時間であることは、学生には十分周知されている。(資料5-8-①-4)

(b) 成績評価等の適切な実施状況

- ・ 授業科目ごとの成績評価は相対評価や嵩上げ等を行うことなく、シラバスに示された成績評価方法に基づいて、厳正に実施されている。尚、そのことを裏付けるため、教員には担当授業科目の成績総活表の提出を義務付けている。(資料5-8-①-5)
- ・ 修了の認定は専攻科履修規則第8条の2で定める委員で構成された専攻科修了認定会議で審議し、その議を経て校長が行っている。(資料5-8-①-6)

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 成績評価や修了認定規定は専攻科の授業科目の履修等に関する規定に明確に定められており、専攻科入学時に配布される「履修のしおり」により、学生に周知されている。
- ・ 単位および修了の認定は、専攻科履修規則に定められた専攻科修了認定会議で十分審議し、その議を経て校長が行っている。

以上のことから、成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

資料5-8-①-1 専攻科授業科目履修規則

17. 専攻科関係規則等

(1) 群馬工業高等専門学校専攻科授業科目履修規則

平成7年4月1日

規則第1号

(目的)

第1条 この規則は、群馬工業高等専門学校学則第47条第2項の規定に基づき、専攻科の履修方法、試験、成績の評価及び修了等について定めることを目的とする。

(授業)

第2条 専攻科の授業は、1単位時間を標準50分とする。

2 授業は、講義、演習、実験及び研究のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

(単位)

第3条 1単位当たりの履修時間は教室及び教室外をあわせて45時間とし、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義は、1単位時間の講義に対し、教室外において2単位時間の準備のための学修を要するものとして、15単位時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習は、2単位時間の演習に対し、教室外における1単位時間の準備のための学修を要するものとして、30単位時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験及び研究は、45単位時間の授業をもって1単位とする。

(受講方法)

第4条 授業科目の履修に当たっては、年度始めに各科目ごとの受講届を学生課に提出しなければならない。

(試験)

第5条 試験の種類は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、各学期末に実施し、時間割は試験開始日の1週間前に公示する。

3 試験の内容及び方法は、担当教員が定める。なお、平素の成績によって評価しうる授業科目については、試験の全部又は一部を行わないことができる。

4 病気その他やむを得ないと認められる理由によって、定期試験を受験できなかった者については、追試験を行うことができる。

5 成績が不良の者については、再試験を行うことができる。

6 再試験は、原則として当該科目が開設された年度内に実施し評価する。

(成績の評価)

第6条 成績は、授業科目ごとに試験の成績及び平素の成績を総合して100点法によって評価し、次の区分によって優、良、可、又は不可と評定する。

ただし、特別研究については、合格又は不合格で評定する。

評 定	評価区分
優 (5)	100点から80点まで
良 (4)	79点から70点まで
可 (3)	69点から60点まで
不可 (0)	59点以下

2 追試験の成績は、85%（小数点以下切り上げ）に減点する。ただし、校長が特に認めた場合は、この限りではない。

3 再試験の成績は、最高60点として評価する。

（単位の認定）

第7条 単位の認定は、前条に規定する試験の評価が60点以上の場合に履修した授業科目に対応する単位で行うものとする。

2 科目の単位を修得するためには、当該科目の総授業時数の5分の4以上の出席が必要である。ただし、病気等、やむを得ない事情によりこれが満足できない場合、補講等により相当する時間数を確保できると担当教員が認めればこの限りでない。

3 単位の認定は、専攻科長及び副専攻科長の協議を経て、校長が行う。

（修了要件）

第8条 専攻科を修了するためには、学則第48条に規定するもののほか、次表に掲げる修了に必要な単位数を修得しなければならない。

修了要件

生産システム工学専攻

区 分	一 般 科 目		専 門 科 目			合 計
	選択必修科目	選択科目	必修科目	選択必修科目	選択科目	
修得単位数	4以上	6以上	22	4以上	26以上	62以上

環境工学専攻

区 分	一 般 科 目		専 門 科 目			合 計
	選択必修科目	選択科目	必修科目	選択必修科目	選択科目	
修得単位数	4以上	6以上	22	3以上	27以上	62以上

(修了認定)

第8条の2 修了の認定は、専攻科修了認定会議（以下「認定会議」という。）の議を経て、校長が行う。

2 認定会議は、次の教職員をもって構成する。

- (1) 校長
- (2) 専攻科長
- (3) 副専攻科長
- (4) 専攻科長補
- (5) 専攻科委員会委員
- (6) 事務部長

(大学等における授業科目の履修)

第9条 大学や他の高等専門学校の専攻科等で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ指導教員の許可を得た上で、受講届を学生課に提出しなければならない。これにより、履修の上修得した単位は、10単位を限度として、専攻科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(再履修)

第10条 定期試験、追試験及び再試験で不合格となった授業科目のうち、修得する必要がある授業科目は、原則として次年度に再履修しなければならない。

2 再履修する場合も第4条に規定する手続を行うものとする。ただし、授業科目担当教員が認めた場合に限り、特別の試験等により単位認定することがある。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：平成19年度専攻科履修のしおり)

資料5-8-①-2 学生の意見申立ての機会に関する専攻科委員会の議事録

平成18年度 第8回専攻科委員会議事要旨

日 時 平成18年12月5日(火) 16:30～17:55

場 所 会議室A

1. 前回議事要旨の確認について
異議なく了承された。
2. 学位授与機構小論文試験について
青木専攻科長から、下記のとおり報告があった。
 - ・実施日：12月17日(日) 場所：一橋大学小平国際キャンパス
 - ・小論文試験直前対策について
12月13日(水) 13:00～ 専攻科1F視聴覚室で実施する。
受験上の諸注意と受験報告書を配布する。
3. 専攻科1年生中間発表について
脇田専攻主任から、資料3に基づき
なお 題目等について

(途中省略)

12. 平成19年度機関別認証評価に対する対応について

青木専攻科長から、機関別認証評価の次の基準について専攻科委員会として対応する必要がある旨の説明があり、各科に持ち帰り次回委員会までに検討することとした。

・「基準 5-8-① 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

【留意点】

- 成績に関する学生からの意見申立ての機会があるかどうかについて分析

対応：(1) 定期試験の模範解答(採点基準)の学生への開示

(2) 定期試験の答案の学生への返還

(3) 学生からの意見申立期間(1日間以上)の確保

以上の3点を担当教員、学生に周知し、平成18年度後期以降から実施する。

13. 2年生の進路先について

青木専攻科長から、資料2に基づき報告があった。

14. 中国上海工程技術大学との交流について

青木専攻科長から、下記のとおり報告があった。

- ・実施時期：平成19年3月末(5泊6日)

(出典：専攻科委員会議事録(平成18年度))

資料5-8-①-2 専攻科学生に向けた掲示

平成19年1月29日

専攻科学生の皆さんへ

専攻科長
青木利澄

定期試験の答案の返却、採点基準の開示、意見申立期間の設定について

平成18年度専攻科後期定期試験から、成績評価の客観性をより一層高めるため、専攻科として、以下の様な取り組みを実施することになりましたのでお知らせします。

1. 定期試験の答案を返却します。
2. 定期試験の採点基準（模範解答など）を開示します。
3. 定期試験成績についての意見申立期間（1日以上）を設けます。

具体的な実施方法については、各科目担当教員の指示に従って下さい。

以上です。

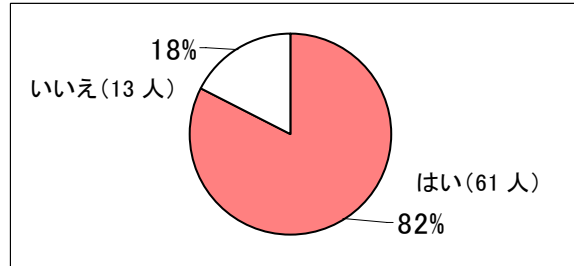
（出典：専攻科学生に向けた掲示より）

資料 5 - 8 - ① - 3 規定の周知状況に関するアンケート結果結果

設問 1 : あなたは, 成績評価の方法を知っていますか。

対象 : 専攻科学生

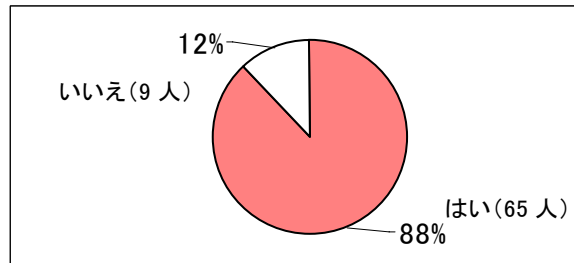
アンケート結果 :



設問 2 : あなたは, 単位認定の方法を知っていますか。

対象 : 専攻科学生

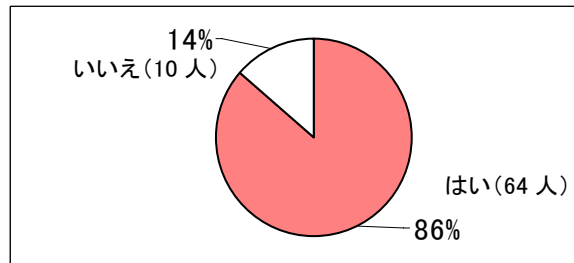
アンケート結果 :



設問 3 : あなたは, 進級認定規定を知っていますか。

対象 : 専攻科学生

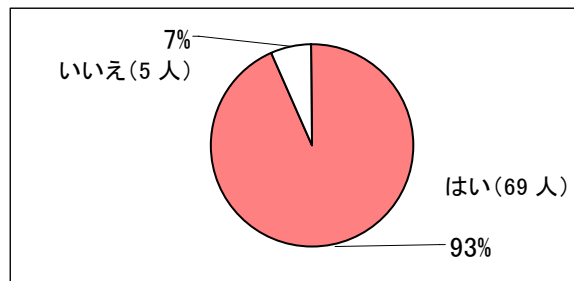
アンケート結果 :



設問 4 : あなたは, 修了認定規定を知っていますか。

対象 : 専攻科学生

アンケート結果 :



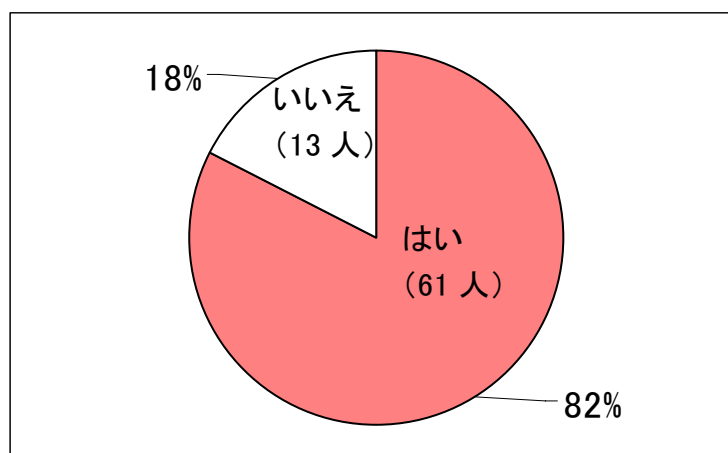
(出典 : 平成 19 年 2 月 教育に関するアンケート)

資料5-8-①-4 1単位が45時間であることの認知度に関するアンケート結果

設問：あなたは1単位の履修時間が授業時間外の学習を含めて45時間であることを知っていますか。

対象：専攻科学生

アンケート結果：



(出典：平成19年2月教育に関するアンケート)

資料5-8-①-5 成績の分布状況

成績総括表

成績総括表 平成18年度 脇田英治

科目名:システム工学 科目コード:20301 学年:1年 学科:専攻科

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	前期	前期	前期	前期	前期	後期	後期	後期	後期	後期		
学籍	小テスト	レポート	中間	期末	合計	小テスト	レポート	中間	期末	合計	総合	
番号	0%	50%	0%	50%	100%	50%	0%	0%	50%	100%	100点満点	
0001							0	0				
0002							0	0				
0003							0	0				
0004							0	0				
0005							0	0				
0006							0	0				
0007							0	0				
0008							0	0				
0009							0	0				
0010							0	0				
0011							0	0				
0012							0	0				
0013							0	0				
0014							0	0				
0015							0	0				
0016							0	0				
0017							0	0				
0018							0	0				
0019							0	0				
0020							0	0				
0021							0	0				
0022							0	0				
0023							0	0				
0024							0	0				
0025							0	0				
0026							0	0				
0027							0	0				
0028							0	0				
0029							0	0				
0030							0	0				
0031							0	0				
0032							0	0				
0033							0	0				
0034							0	0				
0035							0	0				
0036							0	0				
0037							0	0				
0038							0	0				
0039							0	0				
0040							0	0				
0041							0	0				
0042							0	0				
0043							0	0				
0044							0	0				
0045							0	0				
0046							0	0				
0047							0	0				
0048							0	0				
0049							0	0				
0050							0	0				
0051							0	0				
0052							0	0				
0053							0	0				
0054							0	0				
0055							0	0				
0056							0	0				
0057							0	0				
0058							0	0				
0059							0	0				
0060							0	0				
0061							0	0				
0062							0	0				
0063							0	0				
0064							0	0				
0065							0	0				
0066							0	0				
0067							0	0				
0068							0	0				
0069							0	0				
0070							0	0				
0071							0	0				
0072							0	0				
0073							0	0				
0074							0	0				
0075							0	0				
0076							0	0				
0077							0	0				
0078							0	0				
0079							0	0				
0080							0	0				
0081							0	0				
0082							0	0				
0083							0	0				
0084							0	0				
0085							0	0				
0086							0	0				
0087							0	0				
0088							0	0				
0089							0	0				
0090							0	0				
0091							0	0				
0092							0	0				
0093							0	0				
0094							0	0				
0095							0	0				
0096							0	0				
0097							0	0				
0098							0	0				
0099							0	0				
0100							0	0				

(出典：成績総括表（平成18年度専攻科授業「システム工学」）)

資料5-8-①-6 成績評価・単位認定・修了認定に関する議事録

平成17年度専攻科修了認定会議議事要旨

日時 平成18年2月27日(月) 13:35～13:45
場所 大会議室
出席者 校長、青木専攻科長、金子生産システム工学専攻主任、脇田環境工学専攻主任、小島教務主事、下田、小幡、野村、鈴木、高橋、大手、櫻井、赤羽、古川、海老根の主事・主任会議の構成員
五十嵐、安田、平井、鶴見、戸井、青井、吉見の専攻科委員会の構成員

欠席者 東城(一般教科:人文・体育)

議 事

1. 専攻科2年生の修了認定(判定)について

青木専攻科長から、専攻科2年生(46名)の修了認定に関する説明があり、金子生産システム工学専攻主任から、生産工学システム専攻(27名)の単位修得状況に関する説明があった。

引き続き、脇田環境工学専攻主任から、環境工学専攻(19名)の単位修得状況に関する説明があった。

青木専攻科長から、46名全員が専攻科修了要件の基準を満たしているので修了させたい旨の提案があり、協議の結果、報告のとおり修了者46名が承認された。

以 上

(出典: 専攻科修了認定会議議事録)

(2) 優れた点および改善を要する点

(優れた点)

<準学士課程>

(1) 教育課程編成上の配慮と工夫

- ・ 5年間を通して学生がより多くの学生と交流し、社会性を養うよう、低学年で混合学級を導入している。
- ・ 第1学年で「総合ものづくり体験学習」を実施することにより、他分野にも興味・関心を持てるよう、また広い視野に立って今後の学習が進められるよう配慮している。
- ・ 英語によるコミュニケーション能力向上のため、TOEIC・英検などの利用を積極的に推進し、校内団体受験を実施している。
- ・ 成績不振の1・2年の学生に対して、専攻科生と5年がチューターとなり、放課後を利用した「課外学習サポート事業」を実施している。
- ・ PBL型の授業が高学年の実験科目に取り入れられており、創造性の涵養に配慮している。
- ・ 新入生オリエンテーション、合宿研修、社会見学旅行などが、各学年に配置され、企業、研究所などの見学や施設を利用した体験型研修を実施している。
- ・ 学生の国際的な視野を拓げるため、4年生を対象に海外派遣事業を実施している。
- ・ 芸術鑑賞会が毎年実施され、様々な優れた芸術にふれる機会が設けている。

(2) シラバス

- ・ シラバスは全学科生にCD-ROMで配布されるとともに、いつでも閲覧できるよう本校ウェブサイトにより学内外に開示されている。

(3) 成績評価の厳格性

- ・ 成績評価はシラバスに記載されている基準にそって適正に実施されており、教員会議の議を経て校長により単位の認定が行われている。

<専攻科課程>

(1) 教育課程編成上の配慮と工夫

- ・ 準学士課程からの継続性を考慮した、科目編成を行っている。
- ・ 多様な学習環境を保障するため、他の高等教育機関との単位互換制度を導入し単位認定を行っている。
- ・ 英語によるコミュニケーション能力の向上を目指して、TOEICの受験を奨励・援助し、その成績に応じて単位を認定している。
- ・ 専攻科入学時未修得単位の科目がある場合の補充授業の実施し、学力の認定を行っている。
- ・ 必修科目として、期間2週間のインターンシップが行われており、学生の満足度も高い。

(2) シラバス

シラバスは全専攻科生にCD-ROMで配布されるとともに、いつでも閲覧できるよう本校ウェブサイトにより学内外に開示されている。

(3) 成績評価の厳格性

- ・ 各授業科目の成績評価はシラバスに記載された基準にそって適正に実施されており、専攻科修了認定会議の議を経て、校長により単位の認定が行われている。

(改善を要する点)

<準学士課程>

(1)教育課程編成上の配慮と工夫

- ・「専門工学の知識と異なる分野の幅広い工学基礎知識の融合」という観点から、他学科の授業科目の履修・修得を可能とする体制の導入が必要である。
- ・学修単位の導入により、社会の動向に配慮しながら、学習・教育目標に沿った授業内容の見直し、教育課程の再編成が必要である。

(2)シラバス

- ・シラバスの入力項目などはマニュアル化されているが、具体的な作成指針は与えられておらずその内容に統一性を欠く部分が見受けられる。現在、指針「シラバス作成」の準備を進めている。
- ・シラバスの活用度に関して、教員と学生間に大きな差異が生じている。学生にはシラバスの意義や利用法を説明し、シラバスの活用を促す必要がある。

<専攻科課程>

- ・「専門工学の知識と異なる分野の幅広い工学基礎知識の融合」という観点から、他専攻の授業科目の履修・修得を可能とする必要である。現在、他専攻の授業を履修し、試験に合格した科目については、専攻科の単位として認める方向で検討が進められている。

(3) 基準5の自己評価の概要

<準学士課程>

本校の教育課程は学校教育法上の目的および本校の定めた「学習・教育目標」に則している。

「学習・教育目標」は(A)から(E)に細分化、具体化した5項目からなり、それを受けて、各学科は「専門分野の視点に立った学習目標」を定めている。教育課程は「異なる分野の幅広い工学基礎知識」と「最も得意とする専門工学の知識」を身に付けるため、各学科共通の一般および自然科学系科目と学科ごとの専門科目とから編成されている。本校の教育目標に沿って、専攻科を含めた7年間の教育体系の中で、5年間の準学士課程の中で目指すべき学習目標を明確にし、それに沿った教育が実施されている。大局的には本校で養成しようとしている技術者像は統一されている。

学年ごとに、一般科目と専門科目のバランス、実技系科目と座学系科目のバランス、学習・教育目標に対応する科目間のバランスが考慮されており、自然科学系科目と専門科目の連携を考えながら、学年が進むにつれて一般科目の単位数が減少し、逆に専門科目が増加するように、各科目が系統的に適切に配置されている。選択科目も取得割合50%を目安に開設し、科目系統図等で示すように学科ごとに体系化されたカリキュラムになっている。また、各学科ともに、実験、実習、演習、製図、卒業研究などの実技系科目が、学年ごとに配置され、講義形式以外に少人数制やフィールド型、対話型も取り入れられ、画一的にならないよう配慮されている。

シラバスは教育課程の編成の趣旨に沿って、作成されており、教員に活用されると共に、十分ではないものの、学生にも活用されている。

成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

<専攻科課程>

専攻科の学習・教育目標は本科のそれをより発展させたものとなっており、カリキュラムは7年間を一貫した体系で設計されている。準学士課程で修得した専門分野の基礎知識を踏まえつつさらに高度な専門知識を身につけることにより専門分野を広い視野で捉えることのできる技術者が育成されるよう配慮されている。分野の異なる幅広い工学基礎知識の修得のため、両専攻にまたがる多数の共通専門科目を開設している。英語によるコミュニケーション能力の向上をめざして、学生のTOEIC受験を積極的に推進するとともに、TOEIC受験を念頭においた授業科目の開設およびTOEIC試験の得点に応じた単位換算を実施している。最も得意とする専門工学の基礎知識修得のため、準学士課程からより深化した授業内容の科目が開設されている。また、2年間の課程の中に、工学実験、演習科目、インターンシップ、総合工学、特別研究をバランスよく配置することにより、技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする総合的な能力の向上を目指している。特別研究の発表を通じてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を向上に取り組んでいる。学外の高等教育機関との単位互換など、学習環境の充実に努めるとともに、準学士課程において未修得となっている科目に対する補充授業など、学生の多様なニーズや、社会からの要請に配慮した教育課程となっている。

専攻科の教育課程は準学士課程からの継続性・一貫性が十分に配慮されたものとなっており、準学士課程と連動した科目系統図として、学習・教育目標ごとに、また専修分野別にその体系が明示されている。学習・教育目標実現のために、授業形態がバランスよく配分されており、実験・演習科目の割合も全科目の44%と高く、高度な実践的能力を養成するために望ましい形になっている。それぞれの授業科目においては、教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

シラバスは教育課程の編成の趣旨に沿って、作成されており、教員に活用されると共に、学生にも活用されている。

成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

準学士課程

- (a) 平成19年3月に、5項目の学習・教育目標に対して、12点の学習目標細目を新たに定めた（6-1-①-1）。
- (b) 12点の学習目標細目は以前から実践されてきた学習内容を明文化したものであり、目的の達成度については主として単位の修得をもって評価している。
- (c) 目標（A-2）に関しては、特別教育活動（HR）の時間を利用して、「原子力安全教育」を3年生に対して実施している（資料6-1-①-2）。
- (d) 目標（B-1）に関しては、「3年生共通試験」を実施することで、目標に具体性を持たせ、「数学」と「理科（物理と化学）」について必要な基礎知識の習得状況を確認するとともに、試験に合格することを4年生への進級要件としている（資料6-1-①-3）。さらに、平成18年度からは、国立高等専門学校機構による「3年生学習到達度試験（数学）」に参加し、「数学」の学習到達度の確認を行なっている（資料6-1-①-4）。
- (e) 目標（D）ならびに目標（E-1）に関しては、目的の達成度を卒業研究によって評価している。
- (f) 目標（E-3）に関しては、目標に具体性を与えていくことを念頭に、全学生が外部試験を受ける機会を定めている（6-1-①-5）。
- (g) 準学士課程卒業時に、本校の5項目の学習・教育目標と総合的な基礎能力の習得状況を判断する一つの材料として、卒業生に対して「群馬高専の教育に関するアンケート」を実施した（資料6-1-①-6）。

専攻科課程

- (a) 平成19年3月に、5項目の学習・教育目標に対して、13点の学習目標細目を定めた（資料6-1-①-7）。
- (b) 専攻科課程では全学生がJABEE対象者であり、「生産システム環境工学」プログラム修了要件を併せて定めている（資料6-1-①-8）（資料6-1-①-9）。
- (c) 5項目13点の学習目標細目は、平成15年度に定められ、平成16年度から実際に実践されてきたものである。これらの学習目標はいずれも以前から実践されてきた学習内容を明文化したものであり、目的の達成度は主として単位の修得をもって評価しているが、併せて外部評価を取り入れている点で客観性を持っている（資料6-1-①-7）（資料6-1-①-8）（資料6-1-①-9）。
- (d) 目標（D）ならびに目標（E-1）に関しては、目的の達成度を特別研究によって評価している。
- (e) 目標（E-3）に関しては、目標に具体性を与えていくことを念頭に、全学生が外部試験を受

ける機会を専攻科生についても定めている（6-1-①-5）。

- (f) 目標（E-3）に関しては、具体的到達目標をTOEIC400点相当とし、専攻科課程修了時に、目標とする学力を身に付けていることを把握・評価するため、学力認定の手続きを定めている（資料6-1-①-10）。
- (g) 専攻科課程修了時に、本校の5項目の教育目標と総合的な基礎能力の習得状況を判断する一つの材料として、修了生に対して「群馬高専の教育に関するアンケート」を実施した（資料6-1-①-11）。

（分析結果とその根拠理由）

- (a) 準学士課程では、5項目の学習・教育目標に対して定めた12点の学習目標細目が主体であるが、目的達成度は基本的に単位修得をもって判断しているのが現状である。そのため、到達目標の細目と目標の示す方向性は定まっている一方、目標にはやや具体性に欠けるきらいもある。しかし、卒業時に実施する「群馬高専の教育に関するアンケート」により、全体的な状況を判断することは可能になるように思われる。
- (b) 専攻科課程では、5項目の学習・教育目標に対して定めた13点の学習目標細目が主体であり、目的達成度は基本的に単位修得で判断しているが、単位修得に併せてJABEEという外部資格取得が加わっていること、さらに「群馬高専の教育に関するアンケート」を実施していることにより、評価方法と評価基準はより明確になっている。
- (c) 以上のことから、教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業時や修了時に到達すべき目標は定められており、その達成状況を把握・評価するための取組は適切に行われている。

資料 6-1-①-1 学習目標 (準学士課程)

- A. 地球的規模での人、社会、環境について倫理・教養の基本を身に付ける。
1. 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。
 2. 工学や技術の潜在的危険性を理解する。
- B. 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の基本的知識を身に付ける。
1. 工学の基礎となる自然科学の科目を理解する。
 2. 基礎工学科目の学習を通して、工学基礎の基本を身に付ける。
 3. コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを簡単な工学的問題に応用できる。
- C. 技術的問題解決のための専門分野の基本的知識を身に付ける。
- 各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる。
- D. 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身に付ける。
1. 自然科学、基礎工学、専門分野の知識を用いて、現実の技術的課題を理解し、それを解決するための工夫ができる。
 2. 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための基本となる情報処理技術および工学的ツールを活用できる。
 3. 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的に学習できる能力を身に付ける。
- E. コミュニケーション能力・プレゼンテーション基本的能力を身に付ける。
1. 自己の考えを論理的、客観的に口頭および文章で表現できる。
 2. 異なった歴史や文化を持った人々の考えを理解できる。
 3. 英語の基礎的な文章を理解し、また英語で簡単な内容を伝えることができる。

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/school/Gakushyu1.pdf>

資料6-1-①-2 原子力安全教育

平成18年度 原子力安全教育実施日(第3学年)

平成18年 3月13日現在

実施予定日	学 科 名
平成18年 5月10日・17日	電 子 情 報 工 学 科
平成18年 6月21日・28日	電 子 メ デ ィ ア 工 学 科
平成18年 7月 5日・12日	物 質 工 学 科
平成18年11月15日・22日	機 械 工 学 科
平成18年12月13日・20日	環 境 都 市 工 学 科

実施場所：物理実験室

(出典：教務係資料)

資料 6-1-①-3 3年生共通試験

平成 18 年 6 月 5 日

3 年生諸君

3 年生共通試験について

教務主事

本校では、平成 12 年度から、3 年生を対象として、基礎学力をきちんと身に付けてもらうために共通試験を実施しています。

ところで、本校は、「社会の要請水準を満たしているとともに、国際的な同等性（国際的に通用する技術者教育）が確保されている」ことが JABEE（日本技術者教育認定機構）により認められたように、世界に通用する技術者の養成を目標とした教育を行っていますが、こうした教育の基本は基礎学力を確実に身に付けることにあります。

今年度（平成 18 年度）から、下記による共通試験の成績は、4 年生への進級要件（合格基準 60 点）といたします。週末や夏休みを利用した復習などにより、対象科目の理論・計算法などに関する基礎力を十分に確認して試験に臨んでください。

なお、共通試験による進級要件などの詳細については、「学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する内規」第 15 条の 3～7 および第 18 条の 2（平成 18 年度『学生便覧』 pp.105-106）を参照してください。

記

1. 期 日 平成 18 年 8 月 30 日（水）
2. 場 所 各 HR 教室
3. 日 程 ① 数学 9:00～ 9:50（50分）
 ② 理科 10:10～11:20（70分）

4. 出題範囲

数 学

- 1～2 年の数学 AI・AII・B の範囲
- ・ 教科書 [基礎数学]、[微分積分 I] のすべて
 - ・ 教科書 [線形代数] 第 1～2 章

理 科

- (1) 物理 IB・II の全範囲
- (2) 化学 I および化学 II（1 年次または 2 年次の科目）における教科書 [化学 I・II]（数研出版または三省堂）のすべて

* 「出題内容など」に関する詳細は、各科目担当教員から説明があります。

（出典：教務係資料）

資料6-1-①-4 3年生学習到達度試験

平成18年12月4日

3年生学習到達度試験（数学）等について（案）

1. 試験日時等

(1) 試験日：平成19年1月11日（木）

(2) 試験時間等

- ・ 8 : 4 0 : 各HR教室に集合
- ・ 8 : 4 0 ~ 8 : 5 0 (1 0 分) : 試験問題及び解答用紙の配布、
注意事項等の説明
- ・ 8 : 5 0 ~ 1 0 : 2 0 (9 0 分) : 試験
- ・ 1 0 : 2 0 ~ 1 0 : 3 0 (1 0 分) : 解答用紙の回収・確認
- ・ 1 0 : 3 0 ~ 1 0 : 4 0 (1 0 分) : 休憩
- ・ 1 0 : 4 0 ~ : 通常の授業

(出典：教務係資料)

資料6-1-①-5 TOEIC試験

平成18年度TOEICテスト

第1回TOEICテスト

実施日 平成18年9月12日（火曜日） 12時50分～15時30分

対象 3年生全員，専攻科生全員，希望者

第2回TOEICテスト

実施日 平成19年2月13日（火曜日） 12時50分～15時30分

対象 4年生全員，専攻科入学予定者

(出典：英語科資料)

資料 6-1-①-6 群馬高専の教育に関するアンケート（準学士課程）

1) 地球的規模での人、社会、環境について倫理・教養が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた	2. まあまあ身に付いた	3. 身に付いていない
2) 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた	2. まあまあ身に付いた	3. 身に付いていない
3) 技術的問題解決のための専門分野の知識が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた	2. まあまあ身に付いた	3. 身に付いていない
4) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた	2. まあまあ身に付いた	3. 身に付いていない
5) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた	2. まあまあ身に付いた	3. 身に付いていない
6) 総合的にみて、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた	2. まあまあ身に付いた	3. 身に付いていない

(出典：平成19年2月教育に関するアンケート)

資料 6-1-①-7 学習目標 (専攻科課程)

- A. 地球的規模での人、社会、環境について倫理・教養を身に付ける。
1. 人文社会系の科目の学習を通じて、多種多様な人間文化と社会生活を理解するとともに、ものごとに対して多角的観点から考察できる力を涵養する。
 2. 地球と環境に関連した科目の学習を通じ、将来、人と地球の調和をはかる科学技術の発展に貢献できる学力を涵養する。
 3. 工学や技術の潜在的危険性を理解し、技術者の社会的責任を自覚するための倫理観を身に付ける。
- B. 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識を身に付ける。
1. 工学の基礎となる自然科学の科目を確実に理解する。
 2. 設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学科目の学習を通して、工学基礎の知識を獲得する。
 3. コンピュータリテラシーの基礎を学習し、それを技術的問題の解決に応用できる。
- C. 技術的問題解決のための専門分野の知識を身に付ける。
- 各専攻分野における専門科目を総合的に学習することにより、技術的課題が解決できる。
- D. 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を身に付ける。
1. 自然科学、基礎工学、専門分野の知識を総合的に利用し、創造性を発揮して現実の技術的課題の解決に応用できる。
 2. 技術的問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための情報処理技術および工学的ツールを活用できる。
 3. 実験・実習科目の修得を通じて、自主的、継続的、そして計画的に学習できる能力を獲得する。
- E. コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける。
1. 自己の考えを論理的、客観的に口頭および文章で表現できる。
 2. 異なった歴史や文化を持った人々の考えに共感し、それを理解できる。
 3. 母国語以外の外国語で自己の考えを伝える基礎的能力を獲得する。

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/school/Gakushyu1.pdf>

資料 6-1-①-8 J A B E E プログラム修了要件

「生産システム環境工学」プログラム修了要件

本プログラムの修了要件は、次の各号の全てに該当するものとする。

1. 本プログラムの総合評価基準が満たされていること。
2. 本校学科卒業に必要な単位が取得されていること。
3. 本校専攻科修了に必要な単位が取得されていること。
4. 学士の学位が取得されていること

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/JABEE/EduPro/program.htm>

資料 6-1-①-9 専攻科の履修方法，修了要件

7 専攻科の履修方法、修了要件等

専攻科の履修方法、試験、成績評価、修了等については、別紙 1 の「群馬工業高等専門学校専攻科授業科目履修規則」及び別紙 2 「定期試験等の受験心得(専攻科)」の定めるところによります。

ただし、専攻科の修了要件(別表 4)とともに、本校「生産システム環境工学」プログラムの修了要件である、総合評価基準が満たされないと、専攻科を修了できないので注意して下さい。

(出典：履修のしおり)

資料 6-1-①-10 TOEIC400点相当の学力認定方法

【TOEIC400点相当の学力認定方法】

○TOEIC400点相当の学力認定は以下のいずれかによるものとする。

1. 専攻科在籍中に受験した TOEIC のスコアシートを提出させ、400 点以上を得点した学生について認定する。
2. 専攻科生全員を対象に、TOEICIP 試験を学内で実施し、400 点以上を得点した学生について認定する。
3. TOEIC 試験・TOEICIP 試験で 400 点に達しないか、または、TOEIC・TOEICIP のいずれも受験していない専攻科 2 年の学生を対象として、専攻科で開設している、「英語演習 A」、「英語演習 B」、「実用英語 A」、「実用英語 B」、「科学英語 A」、「科学英語 B」の単位を取得した者の内、その成績に基づいて、TOEIC400 点相当の学力を有する学生について認定する。

○認定の手続きについては以下による。

- ・TOEIC 試験、および TOEICIP 試験終了後、結果の通知を待って、学生の届け出により、専攻科委員会において認定する。
- ・3 については、本専攻科の英語授業の合格基準と TOEIC400 点基準の関連性を明らかにして、本校英語授業の合格基準の正当性を確認の上、専攻科委員会において学生の学力認定を行う。

*補遺

- ・ TOEIC 未受験の学生、ならびに受験していても 400 点以上を得点していない専攻科 2 年の学生に対しては、全員、本校で 10 月実施される TOEIC IP 試験を受験させる。その成績で 400 点以上を得点しなかった学生については、英語科で学習の指導を実施しながら、専攻科修了まで TOEIC 試験を（毎回）受験させ、400 点獲得を目指す。
- ・ 2 年生から TOEIC の成績（受験者分）を集め、それと 1 年生時の「英語演習」と「実用英語」の成績を表にして、本専攻科の英語授業の合格基準と TOEIC400 点基準の関連性ならびに正当性の説明を可能にする。

（出典：専攻科資料）

資料 6-1-①-11 群馬高専の教育に関するアンケート（専攻科課程）

1) 地球規模での人、社会、環境について倫理・教養が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた 2. まあまあ身に付いた 3. 身に付いていない
2) 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた 2. まあまあ身に付いた 3. 身に付いていない
3) 技術的問題解決のための専門分野の知識が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた 2. まあまあ身に付いた 3. 身に付いていない
4) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた 2. まあまあ身に付いた 3. 身に付いていない
5) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた 2. まあまあ身に付いた 3. 身に付いていない
6) 総合的にみて、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力が身に付いたと思いますか。	1. 十分に付いた 2. まあまあ身に付いた 3. 身に付いていない

（出典：平成19年2月教育に関するアンケート）

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程

- (a) 単位修得状況、進級の状況、卒業時の状況から判断して、成績評価等は適切に行なわれている。
- (b) 資格取得については、外部資格の取得を奨励するため、資格取得による単位の認定を行なっている（資料6-1-②-1）（資料6-1-②-2）。
- (c) 卒業研究は、卒業論文の提出を義務づけており、併せて各学科で卒業研究発表会講演予稿集を発行している（資料6-1-②-3、資料6-1-②-4、資料6-1-②-5、資料6-1-②-6、資料6-1-②-7）。

専攻科課程

- (a) 単位修得状況、修了時の状況から判断して、成績評価等は、J A B E Eに対応した基準も含めて、適切に行なわれている。
- (b) 資格取得については、外部資格の取得を奨励するため、専攻科においても、資格取得による単位の認定を行なっている（資料6-1-②-8）（資料6-1-②-9）。
- (c) 特別研究では、専攻科特別研究論文集を発行している（資料6-1-②-10）。

（分析結果とその根拠理由）

- (a) 教育の成果や効果は上がっている。
- (b) 本科・専攻科ともに、ほぼ全員が進学・就職できている。留年者・退学者は出ているものの、その割合は本校の意図する教育の成果や効果を損なう程度のものではないと判断される。
- (c) 卒業研究発表会講演予稿集や特別研究論文集は、高専における卒業研究および特別研究の成果の報告として相応の水準に達している。

資料 6-1-②-1 資格取得の単位認定に関する規則及び認められる資格取得名（準学士課程）

実用英語技能検定及び工業英語能力検定合格者に対する 単位修得の認定について

制定 平成 8 年 3 月 6 日

平成 8 年度から、文部大臣認定の実用英語技能検定（実用英検）及び工業英語能力検定（工業英検）の合格者に対して、申請により下記のとおり単位修得を認定する。

記

1 認定単位数について

実 用 英 検		工 業 英 検	
1 級合格者	8 単位	1 級合格者	8 単位
準 1 級合格者	6 単位		
2 級合格者	4 単位	2 級合格者	4 単位
準 2 級合格者	1 単位	3 級合格者	2 単位

(注) 1 各級における認定単位は、既修得単位に加算されることはなく、上限を示す。

(注) 2 評価は、すべて 80 点（評語は優又は良）とする。

2 取得時期について

すべて在学中の取得に限る。

ただし、実用英検準 2 級に関しては、3 年次までに取得した者に限る。

(注) この規程により、卒業認定の際に修得を認定される単位は、学則 及び 学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する内規 第 24 条により、1 科目 3 単位以内となります。

(出典：学生便覧)

資料 6-1-②-2 資格取得の現状

	16年度	17年度	18年度
I. 英語英検			
2級	6 (41)	6 (30)	3 (17)
準2級	30 (57)	51 (94)	18 (43)
II. 工業英検			
3級	5 (16)	3 (15)	5 (7)
4級	1 (1)	6 (8)	4 (4)

注： () は受験者数。

(出典：教務係資料)

資料 6-1-②-3 平成18年度機械工学科卒業研究発表会講演予稿集の目次 (抜粋)

6. 車載用梯子昇降装置の運動解析	10:30~10:42	11頁
7. 協調動作を目的とする多指ハンドの開発	10:43~10:55	13頁
8. タワー型照明装置の制御制御	10:56~11:08	15頁
9. 平宙車の振動挙動に関する実験的研究	11:09~11:21	17頁
10. 低真空蒸着による酸化亜鉛微結晶の形成	11:22~11:34	19頁
11. スパッタ膜の微細構造に及ぼす基板運動の影響	11:35~11:47	21頁

(出典：平成18年度機械工学科卒業研究発表会講演予稿集)

資料 6-1-②-4 平成 18 年度電気工学科卒業研究発表会講演予稿集の目次 (抜粋)

目 次

I. 午前の部前半 8:55-10:25 (司会：大嶋教員)	時刻	頁
【主任挨拶】	8:55	
1. PLD 法を用いた強磁性薄膜の試作と結晶構造の解析	9:00	1
		(磁気光学研究室)
2. 強磁性薄膜の試作と評価	9:20	3
		(磁気光学研究室)
3. 実験用給配電システムにおける電力伝送効率に関する基礎研究	9:35	5
		(物性基礎研究室)
4. 電流通電による蒸着フィルムの溶断特性	9:45	7
		(物性基礎研究室)
5. 3次元 CG による草原の生成法の検討	9:55	9
		(情報幾何学研究室)

(出典：平成 18 年度電気工学科卒業研究発表会講演予稿集)

資料 6-1-②-5 平成 18 年度電子情報工学科卒業研究発表会講演予稿集の目次 (抜粋)

第 16 回 電子情報工学科 卒業研究発表会

講演予稿集 目次

■ 第 1 セッション	08:55-10:19	座長：木村先生
1. ニューラルネットワークを用いた信号処理		
(大豆生田研究室)	08:55-09:04	1
2. ニューラルネットワークを用いた行動学習		
(大豆生田研究室)	09:05-09:14	5
3. ニューラルネットワークを用いた誤り検出と訂正		
(大豆生田研究室)	09:15-09:24	9
4. ニューラルネットワークを用いた時系列データ予測		
(大豆生田研究室)	09:25-09:34	13
5. ポテンシャル場の解析と境界要素法		
(桜井研究室)	09:35-09:49	17

(出典：平成 18 年度電子情報工学科卒業研究発表会講演予稿集)

資料 6-1-②-6 平成 18 年度物質工学科卒業研究発表会講演予稿集の目次 (抜粋)

要旨集目次

・9:00 ~ 10:20

小島研究室

1

炭素繊維による底泥の分解促進

藤重研究室

2

超高性能活性炭の開発

3

アスベストの低温分解とガラス化の同時処理

4

電磁波を用いたアスベストの無害化

(出典：平成 18 年度物質工学科卒業研究発表会講演予稿集)

資料 6-1-②-7 平成 18 年度環境都市工学科卒業研究発表会講演予稿集の目次 (抜粋)

平成18年度環境都市工学科 卒業研究発表 目次

No.	研究題目	発表者	ページ
1	構造物の動的挙動の逆解析		1・2
2	重回帰分析による都市の利用形態の解析		3・4
3	フラクタル次元を用いた橋の景観評価		5・6
4	言語の音声解析		7・8
5	群馬県の土砂災害とその要因について		9・10

(出典：平成 18 年度環境都市工学科卒業研究発表会講演予稿集)

資料 6-1-②-8 資格取得の単位認定に関する規則及び認められる資格取得名 (専攻科課程)

注 6 TOEICを受験し規定の得点を取得した者は、以下の基準にしたがい、これを英語(選択必修 a)の単位に替えることができる。

取得得点	認定単位	評価
500点以上	2単位	優
460点以上500点未満	1単位	優

※ 専攻科入学後から修了認定前までに受験し取得したもののみ有効とする。

(出典：専攻科 履修のしおり)

資料6-1-②-9 TOEICの取得得点による単位認定の現状

TOEICの取得得点による単位認定者数

	2単位(500点以上)	1単位(460点以上500点未満)
平成16年度	7名	7名
平成17年度	11名	10名
平成18年度	13名	12名

(出典：教務係資料より作成)

資料6-1-②-10 平成18年度専攻科特別研究論文集の目次(抜粋)

目次

直交交換に基づく画像処理の研究	1
パルス式レーダにおける高分解能処理	5
フラクタル画像符号化に基づく電子透かし	9
地中誘電率の高精度推定	15
論理回路の故障検出プログラム作成	19

(出典：平成18年度専攻科特別研究論文集)

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

進学士課程

- (a) 例年卒業者に占める進学者の割合が高いことが進路状況実績の特徴であるが，就職者に対する求人倍率も高倍率であり，就職率はほぼ100%である（資料 6-1-③-1）。
- (b) 進学状況を資料に示す（資料 6-1-③-2）。
- (c) 就職先については，学生はそれぞれが受けた教育に関連する分野にほとんど進んでいる（資料 6-1-③-3）。

専攻科課程

- (a) 例年修了生に占める大学院進学者の割合が高いことが進路状況実績の特徴であるが，就職者に対する求人倍率も高倍率であり，就職率はほぼ100%である（資料 6-1-③-4）。
- (b) 進路状況を資料に示す（資料 6-1-③-2）。
- (c) 就職先については，学生はそれぞれが受けた教育に関連する分野にほとんど進んでいる（資料 6-1-③-5）。

（分析結果とその根拠理由）

- (a) 例年，進学率が高く，進学希望者のほぼ全員が進学できており，また求人倍率も高く，就職希望者のほぼ全員が就職できていることから，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。また，進学先や就職先については，学生はそれぞれが受けた教育に関連する分野にほとんど進んでいる。
- (b) 以上のことから，学生は教育の目的において意図している進路に進んでおり，教育の成果や効果は上がっている。

資料 6-1-③-1 卒業生数及び卒業後の進路

(1) 卒業生数及び卒業後の進路

(平成15年度)

種別 学科	卒業生数	就職者数	求人数	求人倍率	進学者数	その他
機械工学科	37	6	272	45.3	30	1
電気工学科	34	2	298	149.0	29	3
電子情報工学科	39(2)	2(1)	249	62.3	32(1)	5
物質工学科	36(10)	4(3)	145	36.3	31(7)	1
環境都市工学科	37(2)	5(1)	121	24.2	30(1)	2
計	183(14)	19(5)	1,085	51.7	152(9)	12

(平成16年度)

種別 学科	卒業生数	就職者数	求人数	求人倍率	進学者数	その他
機械工学科	38(1)	1	328	328.0	35(1)	2
電気工学科	37(2)	12(1)	342	28.5	23(1)	2
電子情報工学科	35(4)	3(1)	288	96.0	31(3)	1
物質工学科	37(12)	7(3)	158	22.6	30(9)	0
環境都市工学科	33(9)	8(2)	130	16.3	24(6)	1(1)
計	180(28)	31(7)	1,246	40.2	143(20)	6(1)

(平成17年度)

種別 学科	卒業生数 (予定)	就職者数 (内定)	求人数	求人倍率	進学者数 (合格)	その他
機械工学科	36	4	492	123.0	31	1
電気工学科	41(3)	4	495	61.9	32(2)	5(1)
電子情報工学科	30(6)	1(1)	397	198.5	26(4)	3(1)
物質工学科	38(19)	7(4)	269	38.4	30(15)	1
環境都市工学科	41(6)	12(2)	223	17.2	25(4)	4(0)
計	186(34)	28(7)	1,876	55.2	144(25)	14(2)

- 注) 1. 数字は各年度卒業時の数
 2. 平成17年度は平成18年1月17日現在の内定者数
 3. 表中の()は女子で内数

(出典：平成18年度就職のしおり)

資料 6-1-③-2 平成18年度学科卒業生・専攻科修了者の進学状況

群馬工業高等専門学校
平成19年4月1日現在

学科からの大学編入学進学者 145名

大 学 名 (国立)	進学者数
北海道大学	1
東北大学	2
秋田大学	1
茨城大学	7 (1)
筑波大学	15 (2)
宇都宮大学	3 (2)
群馬大学	11 (1)
埼玉大学	1 (1)
千葉大学	3
東京大学	3
東京工業大学	2
電気通信大学	1 (1)
東京農工大学	1 (1)
お茶の水女子大学	2 (2)
東京海洋大学	1
横浜国立大学	2 (1)
新潟大学	6 (1)
長岡技術科学大学	13 (1)
福井大学	1
金沢大学	4 (1)
富山大学	1
山梨大学	1
信州大学	1
静岡大学	3 (2)
豊橋技術科学大学	4
名古屋大学	1
京都大学	3
佐賀大学	1
宮崎大学	1 (1)
小 計	96 (18)

大 学 名 (公立)	進学者数
首都大学東京	2 (1)
はこだて未来大学	1
京都府立大学	1
小 計	4 (1)

大 学 名 (私立)	進学者数
足利工業大学	1
東京理科大学	2
東京工芸大学	1
小 計	4

大 学 名 (外国)	進学者数
小 計	

専 攻 科 名	進学者数
群馬高専専攻科	41 (6)
小 計	41 (6)
総 計	145 (25)

専攻科からの大学院進学者 39名

大 学 院 名	進学者数
東北大学大学院	2
筑波大学大学院	3
宇都宮大学大学院	1 (1)
群馬大学大学院	6
東京大学大学院	5
東京工業大学大学院	12 (1)
電気通信大学大学院	1
横浜国立大学大学院	4 (1)
金沢大学大学院	1 (1)
名古屋大学大学院	2
京都工芸繊維大学大学院	2 (1)
合 計	39 (5)

() 内は、女子で内数を示す。

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/H18sinrojyokyo.pdf>

資料6-1-③-3 卒業生の産業別就職状況

(平成15年度)

産業 学科	機 械	電 気 ・ 電 子	情 報 処 理	輸 送 機 器	化 学	エ ネ ル ギ ー	通 信 ・ 出 版 告 白	建 設	パ ー キ ン グ ・ 紙 工 業	官 公 庁	そ の 他	計
機械工学科	4	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
電気工学科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
電子情報工学科	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
物質工学科	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	4
環境都市工学科	1	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	5
計	5	3	1	0	4	0	1	2	0	1	2	19

(平成16年度)

産業 学科	機 械	電 気 ・ 電 子	情 報 処 理	輸 送 機 器	化 学	エ ネ ル ギ ー	通 信 ・ 出 版 告 白	建 設	パ ー キ ン グ ・ 紙 工 業	官 公 庁	そ の 他	計
機械工学科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
電気工学科	0	3	0	2	0	1	1	1	2	0	2	12
電子情報工学科	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3
物質工学科	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	3	7
環境都市工学科	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	3	8
計	0	3	0	3	3	1	3	6	2	1	9	31

(平成17年度)

産業 学科	機 械	電 気 ・ 電 子	情 報 処 理	輸 送 機 器	化 学	エ ネ ル ギ ー	通 信 ・ 出 版 告 白	建 設	パ ー キ ン グ ・ 紙 工 業	官 公 庁	そ の 他	計
機械工学科	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	4
電気工学科	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	4
電子情報工学科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
物質工学科	0	2	0	0	3	0	0	0	1	0	1	7
環境都市工学科	0	0	0	0	0	1	0	5	0	1	5	12
計	1	2	0	3	3	2	1	5	1	1	9	28

注) 平成17年度は平成18年1月17日現在の内定者数

(出典:平成18年度就職のしおり)

資料 6-1-③-4 修了者数及び修了後の進路

種別 年度	修了者数 (予定)	就職者数 (内定)	求人数	求人倍率	進学者数 (合格)	その他
平成15年度	33(3)	5(1)	100	14.3	25(2)	3
平成16年度	40(2)	5(1)	197	39.4	35(1)	0
平成17年度	46	5	317	63.4	38	3

(出典：平成18年度就職のしおり)

資料 6-1-③-5 修了生の産業別就職状況

産業 年度	機	電	情	輸	化	エ	通	建	織	官	そ	計
	械	気 ・ 電 子	報 処 理	送 機 器	学	ネ ル ギ ー	信 ・ 出 版 告	設	維 ・ ル 紙 プ	公 庁	の 他	
平成15年度	0	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	5
平成16年度	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	5
平成17年度	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	5

- 注) 1. () 内の数字は女子で内数
2. 平成17年度は平成18年1月17日現在の内定者数

(出典：平成18年度就職のしおり)

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

教育の成果や効果については，基本的に，卒業単位あるいは修了単位の修得をもって効果があったものと判断しているが，学生自身の評価についても実態調査委員会と学生課がアンケートにより調査している。平成18年度の準学士課程卒業予定者と専攻科課程修了予定者に対し，5項目の学習基本目標，ならびに，それにより達成されるべき本校の教育目標に対する達成度を調査した結果は以下のとおりである。

準学士課程（資料 6-1-④-1～2）

準学士課程卒業直前に、本校の教育目標として定めた内容が総合的にみて身に付いたかとの問いに対し、80%の卒業予定者が「十分身に付いた」または「まあまあ身に付いた」と答えており、教育の成果が上がっていると判断できる。

「十分身に付いた」または「まあまあ身に付いた」と答えた割合を5項目の学習基本目標別にみると、「b 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識を身に付ける」については80%、「c 技術的問題解決のための専門分野の知識を身に付ける」については83%、「e コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける」については80%で、教育効果が上がっていると考えられる。

「a 地球的規模での人、社会、環境についての倫理・教養を身に付ける」と「d 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身に付ける」については共に70%であり前3項目に比べて低い。目標「a」について「十分身に付いた」と「まあまあ身に付いた」を合わせた割合を学科ごとに比較してみると、電子情報工学科が43%と他学科に比べて低いことがその原因であることがわかる。情報系の学生はコンピューターを前にして学習することが多いことを反映した結果と推察される。目標「d」について分析してみると、機械工学科が76%、電子メディア工学科が87%、物質工学科が71%であるのに対して、電子情報工学科と環境都市工学科はそれぞれ60%と58%であり、6割程度にとどまっている。情報系と環境都市工学系の学生はいわゆる装置的なシステムを自ら設計・製作することが少ないことを反映した結果と受け止めることができる。

専攻科課程（資料 6-1-④-3～4）

専攻科課程修了直前に、本校の教育目標として定めた内容が総合的にみて身に付いたかとの問いに対し、93%の卒業予定者が「十分身に付いた」または「まあまあ身に付いた」と答えており、教育の成果が上がっていると判断できる。準学士課程卒業予定者に比べて数値が高く、これは、本校の教育目標を十分に達成するためには5年教育では不十分であり、7年一貫教育によりはじめて十分な成果を上げることができることを示している。

「十分身に付いた」または「まあまあ身に付いた」と答えた割合を5項目の学習基本目標別にみると、「b 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識を身に付ける」については95%であり、準学士課程の80%を大きく上回っている。7年一貫教育の成果が表れたものと受け止めることができる。

「a 地球的規模での人、社会、環境についての倫理・教養を身に付ける」については90%、「c 技術的問題解決のための専門分野の知識を身に付ける」については88%で、教育効果が十分に上がっていると考えられる。「d 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力を身に付ける」については81%であり前3項目に比べて低い。この項目について「十分身に付いた」と「まあまあ身に付いた」を合わせた割合を専攻ごとに比較してみると、環境工学専攻が77%であり生産システム工学専攻の83%に比べて低いことがこの原因であることがわかる。機械・電気・情報を専攻しない学生はいわゆる装置的なシステムを自ら設計・製作することが少ないことを反映した結果と受け止めることができる。「e コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を身に付ける」については83%であり、他項目の数値がすべて準学士課程卒業予定者の数値を大きく上回っているにもかかわらず、微増にとどまっている。「十分身に付いた」と「まあまあ身に付いた」を合わせた割合を専攻ごとに比較してみると、生産システム工学専攻が79%で、環境工学専攻の92%に比べて低いことがわかる。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程卒業予定者および専攻科課程修了予定者を対象として、学習到達度に関するアンケート形式の意見聴取が実施されており、その結果からは、両者共に教育の成果や効果が上がっていると判断できる。特に、本校の教育目標に定められた内容が「十分身に付いた」または「まあまあ身に付いた」と答えた専攻科課程修了予定者の割合は準学士課程卒業予定者よりも圧倒的に多く、本校の7年一貫教育が十二分に機能していることをうかがわせる。

以上のように、学生が行う学習到達度から判断して、十分に教育の成果や効果が上がっている。

資料 6 - 1 - ④ - 1 学生が行う学習達成度評価（準学士課程卒業予定者）－全体

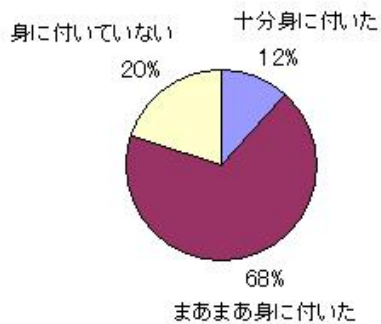
■ 総合的にみて、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力が身に付いたと思いますか。



(a) 地球的規模での人、社会、環境について倫理・教養が身に付いたと思いますか。



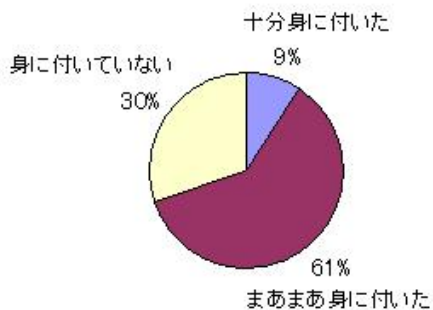
(b) 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識が身に付いたと思いますか。



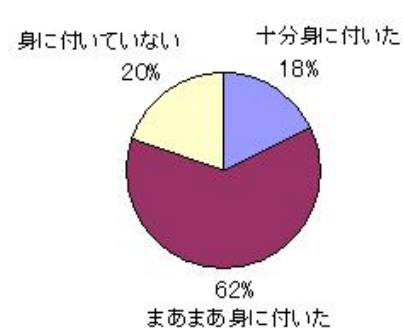
(c) 技術的問題解決のための専門分野の知識が身に付いたと思いますか。



(d) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力が身に付いたと思いますか。



(e) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が身に付いたと思いますか。



(出典：平成 19 年 2 月教育に関するアンケート)

資料 6 - 1 - ④ - 2 学生が行う学習達成度評価（準学士課程卒業予定者）－学科別

■ 総合的にみて、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力が身に付いたと思いますか。

	M	E	J	K	C	全体
1. 十分身に付いた	10%	23%	9%	23%	3%	14%
2. まあまあ身に付いた	71%	67%	51%	60%	84%	66%
3. 身に付いていない	19%	10%	40%	17%	13%	20%

(a) 地球的規模での人、社会、環境について倫理・教養が身に付いたと思いますか。

	M	E	J	K	C	全体
1. 十分身に付いた	14%	10%	0%	11%	10%	9%
2. まあまあ身に付いた	53%	73%	43%	63%	74%	61%
3. 身に付いていない	33%	17%	57%	26%	16%	30%

(b) 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識が身に付いたと思いますか。

	M	E	J	K	C	全体
1. 十分身に付いた	5%	13%	11%	17%	13%	12%
2. まあまあ身に付いた	85%	74%	58%	69%	61%	68%
3. 身に付いていない	10%	13%	31%	14%	26%	20%

(c) 技術的問題解決のための専門分野の知識が身に付いたと思いますか。

	M	E	J	K	C	全体
1. 十分身に付いた	5%	17%	6%	14%	13%	11%
2. まあまあ身に付いた	81%	73%	63%	72%	74%	72%
3. 身に付いていない	14%	10%	31%	14%	13%	17%

(d) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力が身に付いたと思いますか。

	M	E	J	K	C	全体
1. 十分身に付いた	5%	17%	9%	11%	3%	9%
2. まあまあ身に付いた	71%	70%	51%	60%	55%	61%
3. 身に付いていない	24%	13%	40%	29%	42%	30%

(e) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が身に付いたと思いますか。

	M	E	J	K	C	全体
1. 十分身に付いた	10%	20%	20%	26%	10%	18%
2. まあまあ身に付いた	66%	80%	40%	63%	67%	62%
3. 身に付いていない	24%	0%	40%	11%	23%	20%

(凡例)

M:機械工学科、E:電子メディア工学科、J:電子情報工学科、K:物質工学科、
C:環境都市工学科

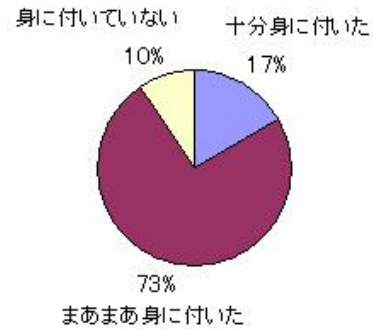
(出典：平成 19 年 2 月教育に関するアンケート)

資料 6 - 1 - ④ - 3 学生が行う学習達成度評価（専攻科課程修了予定者）－全体

■ 総合的にみて、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力が身に付いたと思いますか。



(a) 地球的規模での人、社会、環境について倫理・教養が身に付いたと思いますか。



(b) 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識が身に付いたと思いますか。



(c) 技術的問題解決のための専門分野の知識が身に付いたと思いますか。



(d) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力が身に付いたと思いますか。



(e) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が身に付いたと思いますか。



(出典：平成 19 年 2 月教育に関するアンケート)

資料 6 - 1 - ④ - 4 学生が行う学習達成度評価（専攻科課程修了予定者）－専攻別

■ 総合的にみて、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力が身に付いたと思いますか。

	生産システム工学専攻	環境工学専攻	全体
1. 十分身に付いた	21%	38%	26%
2. まあまあ身に付いた	76%	47%	67%
3. 身に付いていない	3%	15%	7%

(a) 地球的規模での人、社会、環境について倫理・教養が身に付いたと思いますか。

	生産システム工学専攻	環境工学専攻	全体
1. 十分身に付いた	14%	23%	17%
2. まあまあ身に付いた	79%	62%	73%
3. 身に付いていない	7%	15%	10%

(b) 技術的問題解決のための幅広い工学基礎の知識が身に付いたと思いますか。

	生産システム工学専攻	環境工学専攻	全体
1. 十分身に付いた	28%	38%	31%
2. まあまあ身に付いた	65%	62%	64%
3. 身に付いていない	7%	0%	5%

(c) 技術的問題解決のための専門分野の知識が身に付いたと思いますか。

	生産システム工学専攻	環境工学専攻	全体
1. 十分身に付いた	24%	31%	26%
2. まあまあ身に付いた	66%	54%	62%
3. 身に付いていない	10%	15%	12%

(d) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする基礎能力が身に付いたと思いますか。

	生産システム工学専攻	環境工学専攻	全体
1. 十分身に付いた	21%	8%	17%
2. まあまあ身に付いた	62%	69%	64%
3. 身に付いていない	17%	23%	19%

(e) コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が身に付いたと思いますか。

	生産システム工学専攻	環境工学専攻	全体
1. 十分身に付いた	14%	15%	14%
2. まあまあ身に付いた	65%	77%	69%
3. 身に付いていない	21%	8%	17%

(出典：平成 19 年 2 月教育に関するアンケート)

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

実態調査委員会と学生課により卒業生実態調査、2年前本科卒業生（大学編入学・専攻科入学後）の進路調査、卒業生アンケート調査が組織的に実施されている。また、平成18年度より機構本部主管の卒業生による学校評価アンケート（未集計）が実施されている。その結果は以下のとおりである。

卒業生実態調査結果

（非公開資料：卒業生実態調査）

この調査の目的は、高専生活を終えようとしている5年生の本校での学校生活を振り返っての思い、また、将来への思いを調査し、今後の教育方法の改善の参考とするためである。5年生を対象として毎年1月に実施されている。平成18年1月に実施された第40期卒業生においては、高専に入学した主たる動機（複数回答可）として「工業技術者になりたい」「理数系が得意」と答えた学生がそれぞれ34%、45%であり、卒業予定者の8割が専攻科もしくは大学へ進学している。進学する学生の76%は「専門分野について更に深く専攻したい」「学歴社会を意識して」をその動機に挙げており、本学で学ぶことにより一定レベルの学力や資質・能力等を身に付けたものの、それでは不十分と自覚している様子が見える。また、「工業基礎知識（物理・数学等）」「工学専門知識」についての自己評価では、「十分」「やや十分」「普通」を合わせると73%に達しており、7年一貫教育の中途段階ではあるものの、本校の教育目標である「最も得意とする専門工学の基礎知識と異なる分野の幅広い工学基礎の知識を融合することにより、専門分野を広い視野で捉えることができ、将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる基礎能力を有する技術者を養成する」ことが、一定レベルで達成されていることがわかる。卒業研究については「満足」との答えが37%と最も多いが、「時間不足」と答えた学生の割合が25%となっている。「指導不十分」と感じている学生の割合が15%であることは気に掛かることである。学科別に見てみると、物質工学科はゼロ%、機械工学科は1割、電子メディア工学科と電子情報工学科および環境都市工学科はそれぞれ2割となっている。専門分野ごとに指導方法が異なることを反映したものと思われる。

2年前本科卒業生（大学編入学・専攻科入学後）の進路調査結果

この調査の目的は、本科を卒業し、大学3年次編入および専攻科に入学した学生の卒業後の進路を把握し、今後の教育改善に役立てるためである。2年前本科卒業生と専攻科修了者を対象として、進学先へのアンケート依頼により実施されている。平成18年度より、毎年5月に実施することとしている。

平成17年4月に3年次編入学または専攻科へ入学した学生の66%は卒業後に大学院へ進学している（資料6-1-⑤-1, 2）。専攻科へ入学した学生についてみると、その85%が大学院へ進学している（資料6-1-⑤-3）。大学院への進学率は編入学生・専攻科生のいずれについても高いが、専攻科へ入学した学生の進学率は特に高い。これは、本校専攻科での基礎能力重視の教育方針が十分に反映された結果と見ることができる。将来、より高度な技術的課題に取り組むことができる技術者になるために、専門分野についてより一層深く専攻したいという学生の思いが表れたものと捉えることができ、十分な教育効果が上がっていると判断できる。

卒業生アンケート調査

(非公開資料：第5回群馬工業高等専門学校実態調査報告書)

この調査の目的は、卒業生の眼から本校の教育、高専の教育についての意見を調査し、今後の教育方法の改善資料とし、教育環境の整備に役立てるためである。5年に1回の割合で実施している。平成4年3月～平成12年3月卒業生1,631人の33%を無作為に抽出して平成13年1月に行ったところでは、約3割の166人からアンケートを回収することができ、結果の一例は以下のとおりである。

高専で受けた教育が「卒業後の生活の中でどれほど役に立っていますか」との問い掛けに対して、「専門科目の座学」が「とても役だった」あるいは「やや役だった」と答えた数を合計すると92%に達し、次いで「専門科目の実験・実習」が88%、「理数系の一般教養」が87%となっている。高専の教育内容については、「満足している」が29%、「やや満足している」が52%で、合わせて81%の卒業生が満足していると答えている。大学編入または専攻科に進学した卒業生を対象にして、編入後または進学後の勉強や学生生活について尋ねたところ、一般教育と専門教育の面では大変であるとは思っていないようであるが、46%の卒業生が外国語教育の面ではついて行くのが大変と感じている。英語教育の充実を求める声が多い。この結果を反映して、本校では平成17年度から英語の授業時間数を増やしている（資料6-1-⑤-4）。さらに、それまで希望者のみを対象に実施していた TOEIC 試験を、平成17年度以降は3年生、4年生、専攻科1年生の全員に対して受験を義務づけている。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程卒業予定者と専攻科課程修了生を含む卒業生について、アンケートによる意見聴取がそれぞれ定期的に行われている。その結果は、彼らの大部分が高専を選んだことに満足しており、全般的に見て相応の実力がついたと自覚していることを示している。このことから、卒業生や修了生が在学時に身に付けた資質・能力の聴取に対する取り組みは実施されており、教育の成果や効果は上がっていると言える。

資料6-1-⑤-1 卒業生の大学編入学等状況

大 学 等 名		H15年3月 卒 業	H16年3月 卒 業	H17年3月 卒 業	H18年3月 卒 業	H19年3月 卒 業
国立	北海道大学					1
	室蘭工業大学		1		1	
	弘前大学	1				
	岩手大学			1	2	
	東北大学	3	2		4	2
	秋田大学	1	4	3		1
	山形大学			1		
	茨城大学	4	4	4	6	7
	筑波大学	4	10	8	13	15
	宇都宮大学	5	1	3	3	3
	群馬大学	15	20	22	17	11
	埼玉大学	1		1	3	1
	千葉大学	1	2	1	1	3
	東京大学	2	2	2	1	3
	電気通信大学					1
	東京農工大学	2	3		1	1
	東京工業大学	4		5	3	2
	東京水産大学	1				
	お茶の水女子大学	1			1	2
	東京海洋大学					1
	横浜国立大学		1			2
	新潟大学	1	2	5	7	6
	長岡技術科学大学	21	21	18	18	13
	富山大学	1	2			1
	金沢大学	2	2	2	2	4
	福井大学			1		1
	山梨大学	3	4	3	2	1
	信州大学	1	2	2	2	1
	岐阜大学			1	2	
	静岡大学		3	1		3
	名古屋大学	2			1	1
	名古屋工業大学			1		
	豊橋技術科学大学	3	2	2	3	4
	三重大学					
	京都大学		1			3
	京都工芸繊維大学		1	1		
	大阪大学	4				
	神戸大学		1		1	
	奈良女子大学				1	
	和歌山大学		1		1	
島根大学			1			
岡山大学		1		1		
広島大学						
山口大学						
九州大学工学部	2	1				
九州工業大学			1			
九州大学	2			1		
佐賀大学		2	1		1	
宮崎大学					1	

(続)

資料6-1-⑤-1 卒業生の大学編入学等状況（続）

大学名等		H15年3月 卒業	H16年3月 卒業	H17年3月 卒業	H18年3月 卒業	H19年3月 卒業	
公立	公立はこだて未来大学					1	
	高崎経済大学	2	2	1			
	群馬県立県民健康科学大学			1			
	前橋工科大学	1	1				
	首都大学東京（東京都立大学）					2	
	都立科学技術大学		1				
	愛知県立大学	1					
	京都府立大学					1	
	大阪府立大学		1				
	大阪府立大学						
	愛媛工業大学	1					
	私立	前橋国際大学			1		
		足利工業大学					1
上武大学							
文教大学			1				
ものづくり大学					1		
多摩美術大学				1			
東海大学							
東京電機大学			1				
東京造形大学		1					
東京電機大学							
東京工芸大学						1	
東京理科大学				1	1	2	
日本大学					1		
法政大学					1		
明治大学	1						
立命館大学	1						
外国	University of Bradford Department of Peace Studies				1		
高専	旭川高専専攻科	2					
	八戸高専専攻科						
	茨城高専専攻科						
	小山高専 専攻科		2				
	群馬高専 専攻科	41	45	46	40	41	
	東京高専 専攻科	1					
	東京都立産業技術高専 専攻科				1		
	長岡高専 専攻科						
	長野高専 専攻科	1		1			
	和歌山高専 専攻科						
合 計		140	150	143	144	145	
卒 業 生 数		184	181	180	185	176	
進 学 率		76%	83%	79%	78%	82%	

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/singaku.html>

資料6-1-⑤-2 卒業生（大学編入学・専攻科入学後）の大学院入学状況

大 学 院 名	H 1 7 年 4 月	H 1 8 年 4 月	H 1 9 年 4 月	
	大学卒業・専攻科修了	大学卒業・専攻科修了	大学卒業・専攻科修了	
国立	北海道大学大学院		2 (2)	
	室蘭工業大学大学院		1	
	東北大学大学院	8 (5)	8 (7)	2 (2)
	秋田大学大学院			1
	山形大学大学院			1
	茨城大学大学院	1	1	
	筑波大学大学院	5 (3)	11 (7)	13 (3)
	宇都宮大学大学院	4 (1)	2 (2)	2 (1)
	群馬大学大学院	12 (10)	10 (1)	14 (6)
	埼玉大学大学院			1
	千葉大学大学院	1	3 (1)	1
	東京大学大学院	2 (1)	4 (3)	7 (5)
	東京農工大学大学院	3 (1)	1	
	東京芸術大学大学院	1		
	東京工業大学大学院	11 (8)	12 (10)	18 (12)
	お茶の水女子大学大学院	1		
	電気通信大学大学院		1 (1)	1 (1)
	横浜国立大学大学院		2 (2)	4 (4)
	新潟大学大学院	1	2	1
	長岡技術科学大学大学院	14	16	15
	富山大学大学院		1	
	金沢大学大学院	1 (1)	1 (1)	1 (1)
	山梨大学大学院	1	2	1
	信州大学大学院	1	1	1
	静岡大学大学院		2	1
	名古屋大学大学院	2 (1)		3 (2)
	豊橋技術科学大学大学院	2	2	1
	京都大学大学院	2 (1)	1	1
	京都工芸繊維大学大学院			2 (2)
	大阪大学大学院	1	1	
	神戸大学大学院		1	
	九州大学大学院	4 (1)	2 (1)	
	佐賀大学大学院		1	
北陸先端科学技術大学院大	1 (1)	1 (1)	2	
公立	前橋工科大学大学院		1	
	首都大学東京大学院		1	
	静岡県立大学大学院	1 (1)		
私立	兵庫県立大学大学院	1		
	東京造形大学大学院	1		
	明治大学大学院	1		
合 計		83 (35)	94 (39)	95 (39)
大学院進学率		59%	63%	66%

注) () 内は、本校専攻科修了者で内数を示す。

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/honkasingaku.htm>

資料6-1-⑤-3 専攻科修了生の大学院入学状況

大 学 院 名		H15年3月 修了	H16年3月 修了	H17年3月 修了	H18年3月 修了	H19年3月 修了
国立	北海道大学大学院		1		2	
	東北大学大学院	2	7	5	7	2
	茨城大学大学院					
	筑波大学大学院	1	1	3	7	3
	宇都宮大学大学院			1	2	1
	群馬大学大学院	3	3	10	1	6
	千葉大学大学院		1		1	
	東京大学大学院		1	1	3	5
	東京農工大学大学院			1		
	東京工業大学大学院	8	5	8	10	12
	電気通信大学大学院	2			1	1
	横浜国立大学大学院	3	1		2	4
	長岡技術科学大学大学院		3			
	金沢大学大学院			1	1	1
	信州大学大学院		1			
	静岡大学大学院	1				
	名古屋大学大学院			1		2
	京都大学大学院			1		
	京都工芸繊維大学大学院					2
	大阪大学大学院		1			
九州大学大学院			1	1		
北陸先端科学技術大学院大			1	1		
公立	東京都立大学大学院					
	静岡県立大学大学院			1		
合 計		20	25	35	39	39
修了生数		30	33	40	46	46
進学率		67%	76%	88%	85%	85%

(出典：本校ウェブサイト)

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/singaku2.html>

資料 6-1-⑤-4 平成 16・17 年度外国語カリキュラムの比較

平成 16 年度学生便覧に記載されている外国語カリキュラム※

外国語	英語表現 A	1	1					
	英語表現 B	1	1					
	総合英語 I	6	2	2	2			
	総合英語 II	6	2	2	2			
	英語	4					2	2
	ドイツ語	4					2	2

平成 17 年度学生便覧に記載されている外国語カリキュラム※

外国語	英語表現 A	1	1					
	英語表現 B	1	1					
	総合英語 I	6	2	2	2			
	総合英語 II	6	2	2	2			
	英語 A	4					2	2
	英語 B	4					2	2
選択科目	ドイツ語 I	2					2	
	ドイツ語 II	2						2

※いずれも平成 14 年度以降の入学生に対して適用

(出典：平成 16～17 年度学生便覧)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程・専攻科課程ともに単位修得、修了時の成績評価などは、J A B E Eに対応した基準も含めて適切になされており、その結果として、進学率が80%程度と高く、進学希望者のほぼ全員が進学できている。また、求人倍率が高く、就職希望者のほぼ全員が就職できている。

実態調査委員会と学生課により、卒業予定者・修了予定者に対する学習到達度評価アンケート、卒業生実態調査、2年前本科卒業生（大学編入学・専攻科入学後）の進路調査、卒業生アンケート調査が組織的・体系的に行われている。また、平成18年度より機構本部主管の卒業生による学校評価アンケートが実施されている。

(改善を要する点)

本校は進学希望の学生が多く、例えば平成18年度の就職率が16%と低いことに起因すると思われるが、企業への意見聴取が行われていない。

(3) 基準6の自己評価の概要

準学士課程では5項目について定めた学習・教育目標を主として修得単位で判断しており、到達目標の方向性が定まっている。専攻科課程では5項目13点について定めた学習・教育目標の目標達成度を修得単位で判断するとともに、併せて外部資格取得を加えることで評価法ならびに評価基準をより明確にしている。これらのことから、教育目的に沿った形で卒業時や修了時に到達すべき目標が定められ、その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われていると言える。

準学士課程・専攻科課程ともに単位修得、修了時の成績評価などは、J A B E Eに対応した基準も含めて適切になされていること、卒業論文・特別研究論文が高専の報告として一定の水準に達していることから、教育の成果と効果が上がっている。

進学率が80%程度と高く、進学希望者のほぼ全員が進学できていること、求人倍率が高く、就職希望者のほぼ全員が就職できていること、且つ、それら学生の行き先がほとんどそれぞれの教育を受けた関連分野であることから、教育の成果と効果が上がっている。

準学士課程卒業予定者と専攻科課程修了予定者を対象とするアンケート形式の学習到達度調査が実施されており、平成18年度の場合を例に挙げれば、前者の80%、後者の93%が本校の教育目標に定められた内容に対して「十分身に付いた」または「まあまあ身に付いた」と答えている。この結果から教育の成果と効果が上がっていると判断できる。

準学士課程卒業生と専攻科課程修了生に対して、在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関するアンケート形式の意見聴取が定期的に行われている。その結果は、卒業生、修了生ともに高専を選んだことに満足し、相応の実力がついたと自覚していることを示していることから、教育の成果と効果が上がっている。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

(a) 学習を進める上でのガイダンスの実施状況

ガイダンスは、準学士課程入学者全員に対し、1年生ガイダンスを行い、教務主事、学生主事等より、学習を進める上での基本的な心構えを示し(資料7-1-①-1)、その後、HRで、担任より学生便覧を用いて教務、厚生補導関係の説明会を実施している。

資料7-1-①-1 1年生, ガイダンス

ガイダンス (J科棟大講義室) ……………10:30~12:00
 (1) 教務主事の話 (樋口先生) (2) 学生主事の話 (飯野先生)
 (3) 寮務主事の話 (金子先生) (4) 学年主任の話 (五十嵐先生)
 (5) 学生相談室について(大島先生) (6) 「総合物作り体験」について (下田先生)
 (7) 校歌の練習 (谷中先生) (8) その他

(出典：学生課資料)

また、1年生にはオリエンテーション(バス旅行、日帰り)(資料7-1-①-2)、2年生は1日研修(資料7-1-①-3)、3年生は一泊2日の合宿研修(資料7-1-①-4)、4年生に対してはクラス毎に進路説明会(資料7-1-①-5)を実施している。

専攻科課程では、1年生および2年生全員を対象に、別々にガイダンスを行い、学習内容、年間の授業計画、進路等の説明を行っている。(資料7-1-①-6)

ガイダンス実施要領学生を対象としたガイダンスの他に、保護者を対象のガイダンス・懇談会も実施している。1年生の保護者を対象に「高専での学習・生活・進路等についてのガイダンス」を5月中旬に、3年生の保護者を対象に7月中旬に、4年生の保護者を対象に「進路説明会・懇談会」を9月上旬に実施している。いずれも前半は保護者全員を対象に、学校全体のガイダンスを行い、後半はクラス毎に分かれて、担任と懇談および必要に応じ個別指導を行っている。特に、保護者対象のガイダンス・懇談会への出席率が例年高く、学習を進める上で適切なガイダンスになっていることが伺える(資料7-1-①-7)。

資料7-1-①-2 1年生, オリエンテーション(バス旅行, 日帰り)

平成19年度 第一学年オリエンテーション(バス見学旅行)実施要項

1. 目的 学生の知的好奇心を高めるとともに、教員と学生及び学生間の相互理解と親睦を深める。
2. 期 日 平成19年4月25日(水)
3. 行 先

つくばエキスポセンター	茨城県つくば市吾妻 2-9	TEL029-858-1100
高エネルギー加速器研究機構	茨城県つくば市大穂 1-1	TEL029-879-6047
筑波宇宙センター	茨城県つくば市千現 2-1-1	TEL029-879-6047
4. 参加者

1年1組	学生41名	引率教員: 谷口 正、下田祐紀夫
1年2組	学生41名	引率教員: 藤田慎也、平井 宏
1年3組	学生41名	引率教員: 熊谷 健、柳田 友士
1年4組	学生41名	引率教員: 五十嵐睦夫、戸井啓夫
1年5組	学生41名	引率教員: 宮川 剛、森田哲夫
5. 費 用 337円(入場料280円、保険料57円)
6. 行 程 別紙
7. 携行品 保険証(写し)、雨具、常備薬、弁当
8. 諸注意
 - 1 授業の一環として実施するもので、服装は学生服などきちっとしたものを着ること。
 - 2 団体行動であることを忘れず、集合時間を厳守し、規律ある行動をとること。
 - 3 ラジカセ、楽器類等の音が出るもの、およびゲーム機器類等を持参しないこと。
 - 4 カメラ、時計、現金等は、各自でしっかりと管理すること。
 - 5 上記事項を守り、学生にあるまじき行為をしないよう、十分留意すること。

【学校で準備するもの】薬品一揃い

(出典: 学生課資料)

資料7-1-①-3 2年生, 1日研修

平成18年度第二学年一日研修実施要項

1. 日 時 平成18年10月13日(金)
2. 参加者 機械工学科・・・・・・41名
電子メディア工学科・・・・39名
電子情報工学科・・・・・・41名
物質工学科・・・・・・42名
環境都市工学科・・・・・・44名
3. 引率者 機械工学科・・・・・・横山 孝一、小川 侑一
電子メディア工学科・・・・狩野 正徳、楡井 雅巳
電子情報工学科・・・・・・辻川 信二、木村 真也
物質工学科・・・・・・神長 保仁、藤重 昌生
環境都市工学科・・・・・・竹島 尚仁、江口 忠臣
4. 旅行業者 名鉄観光 高崎支店 担当：河津 正文 TEL.027-322-4394
5. 見学場所 機械工学科 ○東京タワー
〒105-0011 東京都港区芝公園4-2-8
TEL.03-3433-5111
○メガウェイブ
〒135-0064 東京都江東区青梅1丁目
TEL.03-3599-0808
- 電子メディア工学科 ○地球観測センター
埼玉県比企郡鳩山町大字大橋字沼ノ上1401
TEL.049-298-1200
○武蔵丘陵森林公園
埼玉県東松山市
TEL.0493-57-2111
- 電子情報工学科 ○国立科学博物館
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL.03-3822-0111
- 物質工学科 ○ぐんまこどもの国
〒373-0054 群馬県太田市長手町480
TEL.0276-22-1766
○富士重工業株式会社群馬製作所矢島工場および工場内の
スバルピジターセンター
〒373-0822 群馬県太田市庄屋町1-1
TEL.0276-48-3101
- 環境都市工学科 ○ハツ場ダム
〒377-1395 吾妻郡長野原町大字与喜屋11
Tel.0279-82-2311
○碓氷峠鉄道文化むら
〒379-0301 安中市松井田町横川407-16
Tel.027-380-4163

(出典：学生課資料)

資料7-1-①-4 3年生, 一泊2日の合宿研修

第3学年機械工学科合宿研修実施要項

1. 目的 合宿研修を通して、最もポピュラーな機械の代表である自動車や二輪車の開発の歴史や先端的な技術を学び、学校で学んでいる専門科目が応用されている現場を体感する。また最先端ロボットのASIMOを見学し、制御技術の到達水準を肌で感じ取り、関連専門科目を学ぶ動機付けに資する。
2. 期 日 平成18年10月12日(木)～13日(金) 1泊2日
3. 宿泊場所 ホテルツインリンク(栃木県芳賀郡茂木町松山120-1)
Tel 0285-64-0001
4. 参加者 機械工学科第3学年42名、(男子40名、女子2名)
引率教員 安田 一美(機械工学科)、熊谷 健(一般教科人文)
5. 見学場所 ◎ ツインリンクもてぎ
〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町松山120-1 Tel 0285-64-0001
6. 日 程 10月12日(木)
- | | |
|-------------|----------------|
| 8:50 | 学校集合 |
| 9:00 | 学校出発 |
| 12:00 | 昼食 |
| 13:30 | ツインリンクもてぎ着 |
| 14:00～17:00 | 体験型学習(環境研究コース) |
| 17:30～18:30 | 担任講話 |
| 18:30～22:00 | 夕食, 入浴, 自由時間 |
| 22:00 | 消灯 |
- 10月13日(金)
- | | |
|-------------|--------------------|
| 7:00 | 起床, 掃除, 朝食 |
| 9:00～11:00 | 体験型学習(ロボット教室) |
| 11:00～12:00 | ツインリンクもてぎ内見学 |
| 12:00 | 昼食 |
| 13:00～14:30 | 体験型学習(モータースポーツ・構造) |
| 15:00 | ツインリンクもてぎ発 |
| 18:00 | 学校着, 解散 |

(出典: 学生課資料)

資料7-1-①-5 4年生, クラス毎の進路説明会

平成18年度 第5回教務委員会議事要旨

日 時 平成18年9月4日(月) 16:20～17:05

場 所 会議室A

11. 4年生進路説明会について

小島教務主事から、学生への説明会(4K:9/6、4E:9/7、4J:9/19、4Mと4Cは10月実施)、保護者への説明会(9月9日)、豊橋技術科学大学説明会(11月16日)などが実施される旨の報告がされた。

(出典: 教務委員会議事録)

資料7-1-①-6 専攻科生対象のガイダンス

【2007年度専攻科1年生へのガイダンス】**日時と場所**：平成19年4月4日（金）15:00～、 J科棟大講義室**配布資料**： ○2007年度専攻科1年生へのガイダンス

- 履修のしおり
- シラバス（CD-ROM）（4月？日に配布予定）
- 学生便覧
- 年間授業計画表
- 平成18年度専攻科授業時間割
- 特別研究課題調査票（教員が提出した原稿のコピー：説明順）
- 特別研究課題一覧表（説明順）
- 特別研究希望先調査票
- 「専攻科棟の土日、祝祭日の使用について」、「施設・設備使用願」
- JABEE説明資料
- H18年度修了生の進路状況一覧
- 学位授与機構の審査による学位（学士）の取得状況

1. 校長あいさつ
2. 教務主事のあいさつ
3. 専攻科長の話
4. 専攻科関係教職員の紹介
5. 連絡、説明事項：
6. JABEE「生産システム環境工学プログラム」について

（出典：専攻科委員会資料）

資料7-1-①-7

保護者への進路説明会通知

平成18年8月11日

4年生の保護者各位

群馬工業高等専門学校
後援会長 小倉 良子

進路説明会の開催について

晩夏の候、後援会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素より後援会活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、今年も4年生の保護者を対象に下記の日程で進路説明会を開催いたします。夏休みも終わり授業が再開されますと、社会見学旅行や定期試験等の学校行事にめまぐるしく振り回されがちですが、いよいよ高専卒業後の進路について具体的に考える時期でもあります。

そこで、先生方からは最新情報と大学編入学試験や就職試験の実態をお話しさせていただきます。また就職・進学先が決まった、本科5年生や専攻科2年生に経験やアドバイスを話してもらい、進路決定や学習の参考にしていただきたいと思っております。

質疑応答やクラス別懇談会の時間も設けておりますので、是非ご出席いただきますようご案内申し上げます。

なお、駐車場が混雑いたしますので、時間に余裕を持ってご来場いただきますよう併せてお願いいたします。

記

日時 平成18年9月9日(土) 14:00～

会場 群馬工業高等専門学校
電子情報工学科棟2階 大講義室内容 1. 就職・進学等の進路について
2. クラス別懇談会

学校側出席予定者

校長, 教務主事, 学生主事, 専攻科長
学生課長, 学生相談室長, 4年生担任

(出典: 後援会通知資料)

(b)学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制について

準学士課程はクラス担任（1年，2年の混合学級では一般教科選出の学級担任と専門学科担当の副担任の2人体制，3年生は正副担任の2人体制，4年生はクラス担任1人，5年生はクラス担任2人）が，専攻科課程は，各専攻とも副専攻科長が，学生の学習上の相談および助言を行っている。なお，進路指導に関しては，進路指導の担当教員（一般教科2名・専門学科各1名の計7名からなり，全て教授）を中心に4年生，5年生の相談，情報提供および助言を行っている。（資料7-1-①-8）

資料 7 - 1 - ① - 8 相談・助言体制（学級担任，専攻科担当教員，進路指導担当教員）

学 級 担 任 表

平成 19 年度

	1組	2組	3組	4組	5組	学年主任
1年	谷口 正 9154 下田 祐紀夫 9133	藤田 慎也 9125 平井 宏 9163	熊谷 健 9103 柳田 友士 9231	五十嵐 睦夫 9126・9350 戸井 啓夫 9220	宮川 剛 9097 森田 哲夫 9179	五十嵐 睦夫 9126・9350
2年	伊藤 文彦 9102 岡田 敬夫 9146	高橋 健太郎 9108 中山 和夫 9170	小野 泰央 9099 荒川 達也 9254	八鳥 吉明 9109 田部井 康一 9200	辻 和秀 9281 脇田 英治 9187	八鳥 吉明 9109
	機械工学科	電子メディア工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	学年主任
3年	小川 侑一 9147 狩野 正徳 9117	谷中 勝 9161 神長 保仁 9123	大豆生田 利章 9239 野村 貴俊 9106	友坂 秀之 9223 横山 孝一 9096	谷村 嘉恵 9185 辻川 信二 9127	谷中 勝 9161
4年	重松 洋一 9143	富澤 良行 9171	木村 真也 9232	真壁 恭子 9215	山本 好克 9188	山本 好克 9188
5年	石澤 静雄 9270 高橋 秀夫 9137	小幡 常啓 9160 大嶋 一人 9158	須田 健二 9247 牛田 啓太 9238	林 俱子 9221 出口 米和 9210	木村 清和 9176 野村 和広 9186	石澤 静雄 9270

校 務 分 掌

分 掌	氏 名	分 掌	氏 名
教務主事	樋口 博 9246	一般教科長（人文科学）	野村 貴俊 9106
副教務主事（学修単位）	赤羽 良一 9208	一般教科長（自然科学）	斎藤 斉 9120
教務主事補（教務）	平井 宏 9163	機 械 工 学 科 長	高橋 秀夫 9137
教務主事補（教務）	中島 敏 9218	電 子 メ デ ィ ア 工 学 科 長	大手 丈夫 9156
副教務主事（入試）	鶴見 智 9282	電 子 情 報 工 学 科 長	櫻井 治男 9253
教務主事補（入試）	東城 敏毅 9105	物 質 工 学 科 長	赤羽 良一 9208
		環 境 都 市 工 学 科 長	古川 茂 9184
学生主事	飯野 一彦 9104	図書館長	青井 透 9271
学生主事補（厚生補導）	出口 米和 9210	情報処理教育センター長	小幡 常啓 9160
学生主事補（学生会）	辻 和秀 9281	地域共同技術開発センター長	下田 祐紀夫 9133
		学生相談室長	大島 由紀夫 9101
寮務主事	金子 忠夫 9139	教育研究支援センター長	阿部 博 9193
寮務主事補	櫻井 文仁 9132	国際連携室長	渡邊 直寛 9165
寮務主事補	三上 卓 9189		
専攻科長	青木 利澄 9280	進路指導担当教員	
副専攻科長		一般教科（人文科学）	野村 貴俊 9106
生産システム工学専攻担当	渡邊 直寛 9165	一般教科（自然科学）	斎藤 斉 9120
環境工学専攻担当	戸井 啓夫 9220	機 械 工 学 科	石澤 静雄 9270
		電 子 メ デ ィ ア 工 学 科	小幡 常啓 9160
		電 子 情 報 工 学 科	鶴見 智 9282
		物 質 工 学 科	藤野 正家 9212
		環 境 都 市 工 学 科	阿部 博 9193

（出典：学生課資料）

(c) オフィスアワーについて

全教員のオフィスアワーを設定し、各教室に掲示するとともに、ウェブ上でも公開し、学生に周知している。(資料7-1-①-9) 教員によっては電子メールによる相談・助言を受け付けており、オフィスアワー一覧に指示している。

資料7-1-①-9 オフィスアワーの一例

学校長			一般教科(自然)		
教員名	オフィスアワー	備考	教員名	オフィスアワー	備考
本間 清 honma@jin.	[1] 月曜日 16:15-17:00		鈴木 福蔵 suzuki@nat.	[1] 金曜日 16:30-18:00	
一般教科(人文・体育)			斎藤 斉 saitoh@nat.	[1] 金曜日 16:00-17:30 [2] その他空いているときはいつでもどうぞ	進路相談も受けます e-mailで連絡 直接訪問
野村 貴俊 nomura@gen.	[1] 月曜日 16:00-18:00		宮越 俊一 miyako@nat.	[1] 木曜日 16:00-17:00	左記の時間以外でも、在室の限りいつでも歓迎です
飯野 一彦 (学生主事) iino@gen.	[1] 月曜日 16:00-17:15		狩野 正徳 kano@nat.	[1] 金曜日 16:00-17:00	
大島 由紀夫 oshimay@gen.	[1] 木曜日 16:00-18:00		神長 保仁 kaminaga@nat.	[1] 月曜日 16:10-17:40	
櫻岡 広 sakura@gen.	[1] 火曜日 16:30-19:00		谷口 正 tani@nat.	[1] 木曜日 16:00-18:00	
熊谷 健 kumagai@gen.	[1] 月曜日 16:15-17:15 [2] 火曜日 16:15-17:15 [3] +適宜アポによる		窪米 久 usui@nat.	[1] 金曜日 16:10-17:40	
小野 泰央 ono@gen.	[1] 火曜日 16:00-17:00		五十嵐 隆夫 igarashi@nat.	[1] 木曜日 16:10-17:40	
八島 吉明 hachi@gen.	[1] 火曜日 16:00-18:00		辻 和秀 tsuji@nat.	[1] 金曜日 16:00-17:00	
横山 孝一 yokoyama@gen.	[1] 火曜日 16:10-18:00		宇治野 秀晃 ujino@nat.	[1] 月曜日 16:10-17:40	詳細は http://h4ujino.hp.infoseek.co.jp/ を参照のこと 他の曜日も放課後の在室時は質問を受け付けます
富川 剛 miyagawa@gen.	[1] 火曜日 16:00-17:00		吉田 はん han@nat.	[1] 木曜日 16:30-18:00	
杉浦 立明 sugiura@gen.	[1] 月曜日 16:20-17:20	予備: 火 16:20-17:20	辻川 信二 shinji@nat.	[1] 金曜日 16:30-17:30	
東城 敏毅 tojo@gen.	[1] 木曜日 16:30-18:00		藤田 慎也 fujita@nat.	[1] 火曜日 16:00-17:00	
伊藤 文彦 itoh@gen.	[1] 金曜日 15:00-17:00		平 靖之 tiara@nat.	[1] 月曜日 16:30-18:00	
高橋 健太郎 takaken@gen.	[1] 月曜日 16:30-19:00			◎ http://www.nat.gunma-ct.ac.jp/~tsira/officehour.html	

(出典: 本校ウェブサイト)

(d) 学生相談室の相談・助言体制について

学生相談室は、1年生ガイダンスにおいて学生相談室のパンフレットを全員に配布し、学生相談室の趣旨を説明し学生に周知している。(資料7-1-①-10)

実施体制は、相談室のスタッフとして、相談室長(教員)、カウンセラー2人(臨床心理士)、インターカー2人(看護師・学生支援係員)、校医(精神科医)で構成され、相談室開設日は、月、水、木の3日の他に、必要に応じて対応できるようになっている(資料7-1-①-11)

また、1年生には、臨床心理士のカウンセラーが各クラスのHRの時間にHR訪問を行い、学生相談が相談しやすい環境作りを行っている。

なお、学生相談室の活動内容は学生相談委員会で審議し、教員会議で報告している。(資料7-1-①-12)

学生相談室は、個別相談の他に、1年生～3年生を対象にシグマテスト(教育相談のための総合調査)、4年生、専攻科1年生を対象にGHQ(精神健康調査)を実施している。(資料7-1-①-13, 7-1-①-14)

なお、学生相談数は平成18年度では147件であり、進路に関するものが5割弱あり、卒業後の進路に悩んでいる様子が見られる。(資料7-1-①-15)

資料7-1-①-10 学生相談室パンフレット, 表と裏

学生相談室とは

- ◇あなたが学生生活を送るうえで、困ったことや悩みがある時、気軽に相談ができる場所です。
- ◇あなたがよりよい学生生活を送れるようにいろいろな悩みについて一緒に考え、解決法を探してゆく場です。
- ◇相談室では、性格検査や職業適性検査など、心理テストを受けることができます。
- ◇メンタルヘルスのための講習会やセミナーも開催しています。

学生相談室を利用するには

- ◇直接来室するか、インターカーに連絡して下さい。
インターカー
藤川直美(保健室)
新井美登里(学生支援係)
- ※インターカーとは…相談を希望する学生や関係者の話を最初に聞き、援助のしかたを判断する人のことです。話の内容によって適切な相談先(カウンセラー・相談員・校医など)に取りつぎます。
- ◇相談室開室時に電話で予約できます。
☎ 027-254-9067
(相談室直通)
☎ 027-254-9101
(相談室長 大島)
- ◇電子メールでも予約できます。
アドレス
soudan@jim.gunma-ct.ac.jp
- ◇家族の方からの相談も受け付けています。

**何となくおしゃべりをしたい人も
ぜひ相談室においで下さい。**

個人でも、グループでもどうぞ。

相談については固く

秘密を守ります

(出典：学生相談室パンフレット)

資料7-1-①-11 学生相談室のスタッフと開設日案内

よりよい明日へ
向かって

■■■■ 相談室開設日 ■■■■

火曜日 15:00~17:00
大島由紀夫 (相談室長)

水曜日 12:30~15:30
西川恵美子 (カウンセラー)

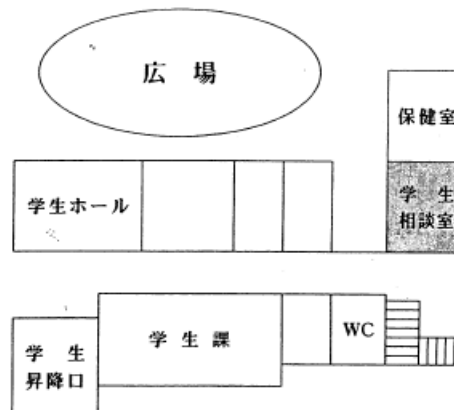
木曜日 15:30~17:30
塚越理恵 (カウンセラー)

— あなたへのメッセージ —

学生相談室

<http://www.gunma-ct.ac.jp/Gakusei/soudan>

管理棟 1F



(出典：学生相談室パンフレット)

資料7-1-①-12 学生相談室の活動内容

学生相談委員会議事録

学生相談室

1. 平成19年度・学生相談室のスタッフと開室日について

- (1) スタッフ 相談室長 大島由紀夫(一般教科・人文 教員)
 カウンセラー 西川恵美子(臨床心理士)
 塚越 理恵(臨床心理士)
 インターカー 藤川 直美(保健室・看護師)
 新井美登里(学生支援係・職員)
 校 医 渡邊 泰雄(精神科医)
- (2) 開室日 火曜日 15:00～17:00 大島
 水曜日 12:30～15:30 西川
 木曜日 15:30～17:30 塚越
 不定期(必要に応じて) 渡邊

2. 各種検査の実施について

- 1年生 シグマ(教育相談のための総合調査) 5月16日(水)HR時
 2・3年生 シグマ 4月25日(水)HR時
 4年生 GHQ(精神健康調査) 4月5日(木)～6日(金)の間
 専攻科1年生 GHQ 4月4日(水)ガイダンス時

※各種検査のフィードバック

シグマ…結果個人表を学生に配布 教師用結果一覧表を正担任に貸し出し
 結果に関する質問・相談には相談室長・カウンセラーが対応
 GHQ…ポイント集計・分析作業終了後、結果を聞きに来るよう、掲示に
 よって学生に呼びかける。結果を聞きに来ない学生のうち、ポイ
 ントが高く心配な学生に対しては、来室を促す手紙を出す。
 結果に関する説明・相談にはカウンセラーが対応

3. カウンセラーHR訪問(1年生)予定

- 6月13日(水)12:50～13:20 1年1組
 6月13日(水)13:20～13:40 1年2組
 6月21日(水)12:50～13:20 1年3組
 6月21日(水)13:20～13:40 1年4組
 6月28日(水)12:50～13:20 1年5組

(出典：学生相談委員会資料)

資料7-1-①-13 1-3年生実施のシグマテスト案内

平成19年5月2日

第1学年

学級正担任各位

学生相談室長

シグマテストの実施について

学生相談室では相談活動上の資料とすべく、1-3年生を対象にシグマテスト(教育相談のための総合調査)を実施しています。本年度も下記の要領で実施致しますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

記

- 1 日時：平成19年5月16日(水)HR時
- 2 実施要領：小冊子(質問用紙)と回答用紙を学生に配布し、質問用紙の指示に従って回答させて下さい。
- 3 注意事項：1) 回答用紙は折らないようにして下さい。
2) 回答はHBの鉛筆を使用させて下さい。
3) 「学校名」は「群馬高专」と記入させて下さい。
4) 「科」はそれぞれ「機械」「電子」「情報」「物質」「環境」と記入させて下さい。
「組」は「1-5」の数字を記入させて下さい。
5) 番号は出席番号(整理番号)を記入させて下さい。
- 4 出欠確認：出欠確認票に必要事項を記入して下さい。
- 5 回収：回答用紙・質問用紙を回収して、出欠確認票と共に封筒に入れ、学生支援係へ提出して下さい。
※回答用紙は番号順にそろえて下さい。

*あらかじめ教師用「実施のしかた」(黄色の印刷物)に日をお通し下さい。

*欠席者に対しては、後日、学生相談室で実施します。

*不明な点等ありましたら、大島へお問い合わせ下さい。

以上

(出典：学生課資料)

資料7-1-①-14 4年生・専攻科1年生実施のGHQテスト案内

学生相談室

GHQ(精神健康調査)実施要項

1. 目的 学生のメンタルヘルス対策の一環として本調査を実施し、学生の自覚症状から心と体の健康度を測り、その程度に応じて学生へ助言する。
2. 実施対象 学科4年生 専攻科1年生
3. 実施日時・方法
専攻科1年生 4月4日ガイダンス終了後、学生相談室スタッフの監督下で実施する。
学科4年生 4月5日・6日のうち、都合のよい時間帯に担任の監督下で実施する。
4. 学生へのフィードバック
 - (1)ポイント集計作業終了後、掲示により「結果を学生相談室へ聞きに来よう」通知する。
 - (2)学生相談室ではカウンセラーが結果について説明・助言し、必要に応じてカウンセリングに移行する。
 - (3)説明を聞きに来ない学生のうち、ポイントが高い学生に対しては、相談室より来室を促す手紙を届け、上記(2)の対応をとる。
5. 実施にあたっての連絡・注意《担任の先生方へ》
 - (1)静粛な、落ち着いた状態で実施して下さい。
 - (2)「GHQの実施にあたって」を配布し、読ませて下さい。
 - (3)調査用紙を配布し、のり付けされて「このページは開けないでください」と書いてあるところを開かないよう、学生に注意して下さい。
 - (4)筆記具は鉛筆でもボールペンでもかまいません。
 - (5)調査用紙の「記入日・氏名・生年月日・現住所」欄に楷書で記入させて下さい。
「電話番号」欄への記入は不要です。
 - (6)全部の質問にもれなく答えるよう、お伝え下さい。
 - (7)質問項目13の「仕事」は、勉強・部活動・アルバイト等の毎日「していること」について答えるよう、説明を加えて下さい。
 - (8)全員の記入が終わりましたら、配布時のように調査用紙を閉じさせ、**整理番号順**に回収して下さい。
 - (9)同封の出欠確認票に必要事項を記入して下さい。
 - (10)回収した調査用紙・出欠確認表を袋に入れて、**学生係へお届け下さい。**
 - (11)欠席者に対しては、4月10日(火)16:00～17:00に学生相談室で実施しますので、**該当学生に上記の日時に学生相談室に来よう、ご連絡下さい。**

※不明の点がありましたら、学生相談室長に問い合わせして下さい。

以上

(出典：学生課資料)

資料 7-1-①-15

学生相談件数

平成18年度相談件数

3月31日現在

	学 業		進 路		性 格		人間関係		生活全般		その他		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1年	1						2	3					6
2年			1	1			1	2	4			1	10
3年		2		5				3			2	1	13
4年		2	14	5	2		1	1	7	3	6	1	42
5年			20	16					3		3		42
専1年													0
専2年			2	2									4
学年不明			2		2						5		9
卒業生			1										1
保護者											1	7	8
教職員											11	1	12
計	1	4	40	29	4	0	2	6	15	7	28	11	147

※ 年間相談実人数 87人

※ 上記件数に、各種検査の結果説明は含まない。

月別延べ件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
西川	2	5	5	4	/	2	5	2	6	4	2	2	39
塚越	/	/	/	/	/	/	/	/	1	5	5	/	11
大島	13	26	10	2	2	1	4	7	5	8	1	5	84
木村	3	3	0	0	/	0	2	4	0	0	0	1	13
計	18	34	15	6	2	3	11	13	11	17	8	8	147

年度別延べ件数

平成	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
件数	16	75	19	42	54	30	80	/	/	/	34	60
平成	13	14	15	16	17	18						
件数	67	98	105	158	145	147						

(出典：学生課資料)

(e) 担任・チューターによる成績不審者に対するサポート体制

1年生、2年生の一般教科自然系科目(数学、化学、物理)の成績不振者を対象にクラス担任および科目担当教員の指導のもとにチューター(準学士課程5年生、専攻科課程1・2年生)が、自主学習のやりかたを中心に、学習指導を行っている。該当する課外学習学生(以下「学習学生」という)は、クラス正副担任が前期総合成績不良(合格点未満)学生および保護者との面談などにより決定する。チューターは担当クラス担任と事前に話しあい、学習学生の担任指導状況を把握する。(資料7-1-①-16) 課外学習を実施している途中で、学生の反応を見るとこの制度がある程度機能していることがわかる。(資料7-1-①-17)

平成17年9月

チューター実施要領

1. 目的

一般自然系（主として数学）の成績不振な低学年（1、2年生）学生の学力向上を図るとともに、自学自習（復習）の習慣を身に付けさせることを目的に、高学年（5年生）・専攻科（1・2年生）学生の指導による課外学習を行う。

2. 課外学習学生およびチューターの選出等

- (1) 課外学習学生（以下「学習学生」という。）は、1、2年各クラス正副担任が一般自然系教科の前期総合成績不良（合格点未満）学生及び保護者との面談などにより決定する。
- (2) チューターは、各科5年生正副担任及び各専攻科主任が協力（希望）者の募集や協力依頼により選定（5年生は各科1名、専攻科1・2年生は出身各科1名）し、学校が委嘱する。
- (3) 謝金
チューターへの謝金は、1回1,640円とする。

3. 課外学習内容等

(1) 課外学習教科

1年生は、数学AⅠ・AⅡ・B及び化学Ⅰ・Ⅱ、2年生は数学AⅠ・AⅡ・B及び物理Ⅰ、Ⅱとし、前期授業で学んだ内容を中心に学習する。
なお、学習クラスは、クラス単位を基本とするが、学生数などの大幅なアンバランスは是正する。

(2) チューターの担当クラス

5年生及び専攻科1・2年生チューターは、それぞれ同科1年生及び2年生を担当する。なお、チューターは、担当クラス正副担任と事前に話し合いをもつことにより、学習学生に関する担任指導状況などを把握する。

(3) 曜日・時間帯

原則として毎週水曜日14:00～15:30（1.5時間）とし、10月下旬の水曜日から後期期末試験前週・水曜日まで実施（後期中間試験

前週及び冬休みの水曜日は除く)する。

(4) 学習形態

課題等を自学自習(復習)させ、学習当日における質疑応答を基本とする。なお、チューターは、各クラスの数学・理科担当教員(非常勤講師を含む。)を毎学習前或いは後に訪問し、課題等の内容や量などに関する相談や助言を得る。

(5) 学習状況

チューターは、学習日ごとに学習学生一人ひとりのやる気(出席・姿勢)、自学自習状況などをクラス正(副)担任に報告する。なお、クラス正(副)担任は、必要に応じて学習学生さらには保護者との面談を行う。

(6) 報告書

課外学習終了後、学習学生は、勉学(自学自習)姿勢・成果などに関する自己評価報告書を、またチューターは、学習学生・学習内容・学習指導形態などに関する報告書を提出する。

(7) 連絡・調整

教務専門委員は、適宜、チューターの相談に応じるとともに、学習学生、各クラス担任や数学・理科担当教員(非常勤講師を含む。)相互間の連絡・調整などを行う。

(出典：学生課資料)

資料 7-1-①-17 課外学習受講者アンケート

平成 18 年度課外学習中間アンケート集計結果【2年】

学習学生数・・・53 回答数・・・14

(原文のまま記載)

1. 課外学習前後の自学自習の状況(場所・時間・方法など)を聞かせてください。

- 2Kの教室で90分。課題(授業の)をやっている。
- 勉強するようになった。
- 場所は自宅。とにかく多くの問題を解く。
- 家、2、3時間、教科書などの問題を解く。
- 前にくらべ、家で勉強する時間がふえた(1時間くらい)。
- なし。
- あまり変化なし。
- 前と変化なし。
- 特になし。1時間程度、シャーペンで書く。
- 学校で放課後に宿題等を、少しずつやるようになった。
- 家でちょっとやるようになった。
- 家で2時間程度。学校で買ったものや自分で買った問題集等を使って。
- 前：リビング、決まっていない、特になし 後：自分の部屋&リビング、決まっていない、特になし。
- 家で数十分程度。

2. 成果(出た・出ない・まだ分からない・その他など具体的に)を聞かせてください。

- 再試をしたのが課外学習の前だったので、何ともいえない。課題の質問をしたら丁寧に答えてくれるのでいい。
- 下がった。
- まだ分からない。
- 出た。
- 成果はあまりまだでていない。
- まだ分からない。
- 出た。
- 出た。
- 出た。
- 少し、意欲が出た。
- すこしでたとおもう。
- 出ない。でも5点くらいは上がった。
- 出た。再試で3つのうち2つクリアした。明日あと1つ・・・。
- 出ない。

3. TAの指導方法(課題・質疑応答方式)の適否や方法に関する希望(あれば)を聞かせてください。

- たまに一人一人回って経過を見てくれるのでいい。
- なし。
- 特になし。
- 特になし。
- 正しい。
- 正しい。
- 特にないです。
- 質問をしたら答えてはくれるが、たまに間違ってることがある。
- 今のままでいい。
- 見ているだけというスタンスが嫌。聞いても分からなかったり、聞きづらい空気だったりする。

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 学生対象および保護者対象のガイダンスを、学年進行に応じて実施している。
- ・ 学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が、担任を中心に全教員およびチューター学生により整備され、機能している。
- ・ 学生相談室は、学生の個別の相談の他に、シグマテスト、GHQなど実施し、各教員の学生指導を側面から援助する活動も行っている。

以上のことから、学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されている。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

（a）自主的学習環境

自主的学習や補習の場としては，講義棟改修により整備された学生ホール（資料7-1-②-1），平日は21時まで，土曜日は17時まで開館され，自主的学習の場として機能している図書館（資料7-1-②-2，7-1-②-4），補習の場としてチューターによる課外学習にも使用されているHR教室（資料7-1-②-3），全学生に利用されている情報処理教育センター（資料7-1-②-5），また設計実習室（機械工学科），ロボコンや1年生対象の総合ものづくり体験にも使用されている 機械工場（機械工学科）（資料7-1-②-6，7-1-②-7）が整備され，効果的に利用されている。さらに専攻科学生のために，専攻科第1専攻生室，第2専攻生室が用意され，レポート・論文作成や大学院等の受験勉強に利用されている。

資料7-1-②-1 学生ホールの写真



（出典：学生課資料）

資料 7-1-②-2 図書館閲覧室における学習状況



(出典：学生課資料)

図書館利用の しおり

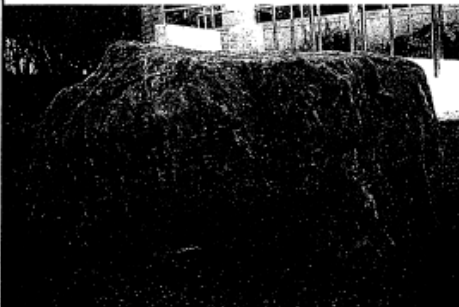
開館時間

平日 9:00～21:00
土曜日 9:00～17:00

〔休業期間中〕
平日 9:00～17:00
土曜日 休館

休館日

日曜日・国民の祝日・年末年始



〒371-8530 群馬県前橋市烏羽町580

群馬工業高等専門学校図書館

電話 027-254-9013

URL

<http://www.lib.gunma-ct.ac.jp/>

《本を借りるには》

◎手続き

貸出希望図書に学生証を添えて、カウンターで係員に提示してください。学生証のバーコードが、図書館の利用IDになっています。

返却予定日の書いてあるしおりが渡されます。雑誌の場合は雑誌貸出簿に必要事項を記入してください。

館外に資料を帯出する時は、必ずこの手続きをしてください。

なお、「禁帯出」のシールが貼ってある資料は館外へ持ち出しできませんので注意してください。

貸出を受けた本や雑誌を汚破損・紛失した場合は、同じものを弁償していただきますので注意して大切に扱ってください。

◎貸出冊数・期間

	貸出冊数	貸出期間
学生	5冊まで	2週間
教職員	10冊まで	1ヶ月間
学外者	3冊まで	2週間

貸出期限の延長を希望する場合は、期間内にその資料をカウンターまで持参し、申し出てください。長期休暇の前には特別貸出を行っています。

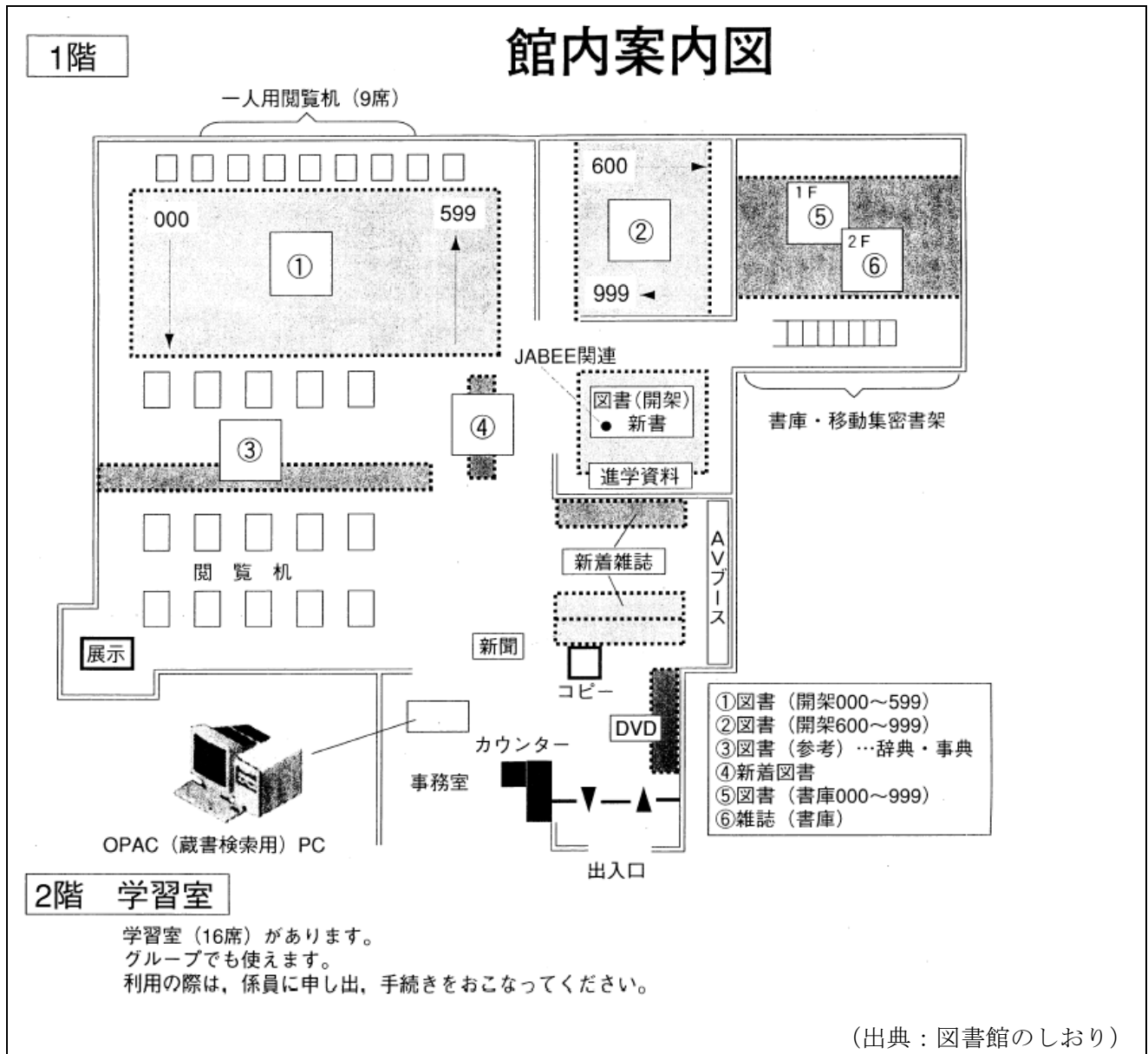
◎返却

貸出した資料は返却期限までにカウンターに返却してください。雑誌はカウンターで返却手続きを受けてください。

閉館後や休館日は時間外図書返却ポストに返すことができます。

次に借りたい人が困りますので、返却期限は必ず守ってください。

長期延滞者には、父兄宛に督促状を送付します。ご承知おきください。



情報処理教育センターの設備・機器

【目次】

1. 第1演習室
2. 第2演習室 → ※ 2006年12月をもって閉室しました。
3. 図書館パソコン室
4. サーバについて
5. その他

1. 第1演習室

第1演習室ではPC端末上でWindows2000またはUNIX(Solaris9)環境上でプログラミングや文書作成、Web閲覧等を行うことができる。

Windows2000環境ではユーザのSolaris9におけるホームディレクトリがドライブ名 H: として共有されており、どちらの環境からも同一のファイルを利用することが可能である。

Windows2000とSolaris9とのOS選択は端末起動時に表示されるメニューで行うが、Windows2000上からSolaris9環境を開いて同時に利用することもできる。

第1演習室には次の機器が設置されている。

- 演習用端末 46台 (うち教員用1台)
- プリンタ 2台 (ポストスクリプト対応)
- LCDプロジェクタ
- VHSビデオデッキ
- 書画カメラ

(出典：情報処理教育センター校内向けウェブサイト)

資料 7-1-②-6 設計実習室の利用状況と時間外利用記録簿

平成 19 年 6 月 6 日

○機械工学科 設計実習室

平成 18 年度 総使用人数 87 人 総使用時間 9979 分

(1)月別使用人数と使用時間

4月 12人 1581分
 5月 13人 1081分
 6月 11人 1276分
 7月 23人 2506分
 10月 2人 263分
 11月 5人 906分
 12月 10人 1138分
 1月 9人 1033分
 3月 2人 195分

(2)使用目的

ロボット研究会 57人
 卒業研究 15人
 特別研究 13人
 設計製図 2人

○実習工場機械設備

旋盤 12 台、立フライス盤 2 台、横フライス盤 1 台、型削り盤 3 台、平面研削盤 1 台、NC 旋盤 1 台、NC フライス盤 1 台、マシニングセンタ 1 台、シェアリング 1 台、スポット溶接機 1 台、アーク溶接機 4 台、歯切り盤 1 台、ホブ盤 1 台、弓のこ盤 1 台、切断機 2 台、ドリル研削盤 1 台、両頭グラインダ 3 台、スロッター 1 台

機械工学科製図室・CAD 授業時間外利用記録簿(指導教員に許可された者のみ利用を許可する)

使用年月日	入室時間	退出時間	学籍番号	氏名	関連授業科目 (所属クラブ)	承諾教員	使用機器 (PCのNo)	備考(清掃 故障など)
(例)06/05/11	16:30	18:40	m00000	製図太郎	設計製図	櫻井	cad32	清掃O
06/12/16	16:00				卒研	小川	cad03	
06/12/11	16:30	18:10			ロボ研	櫻井	cad29	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad13	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad25	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad26	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad44	(印)
〃	16:34	〃			〃	〃	cad28	(印)
06/12/12	19:40	18:50			特研	黒瀬	cad16	(印)
06/12/21	13:30	18:50			特研	黒瀬	cad25	(印)
07/1/10	14:10	16:10			ロボ研	櫻井	cad15	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad13	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad25	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad26	(印)
〃	14:24	〃			〃	〃	cad28	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad29	(印)
〃	〃	〃			〃	〃	cad1	(印)
07/1/17	14:17	16:45			〃	〃	cad2	(印)
〃	〃	16:45			〃	〃	cad2	(印)

*必ず記入し、使用後は承諾教員に必ず確認してもらうこと。使用後は清掃して帰ること。

(出典：実習工場資料)

資料7-1-②-7

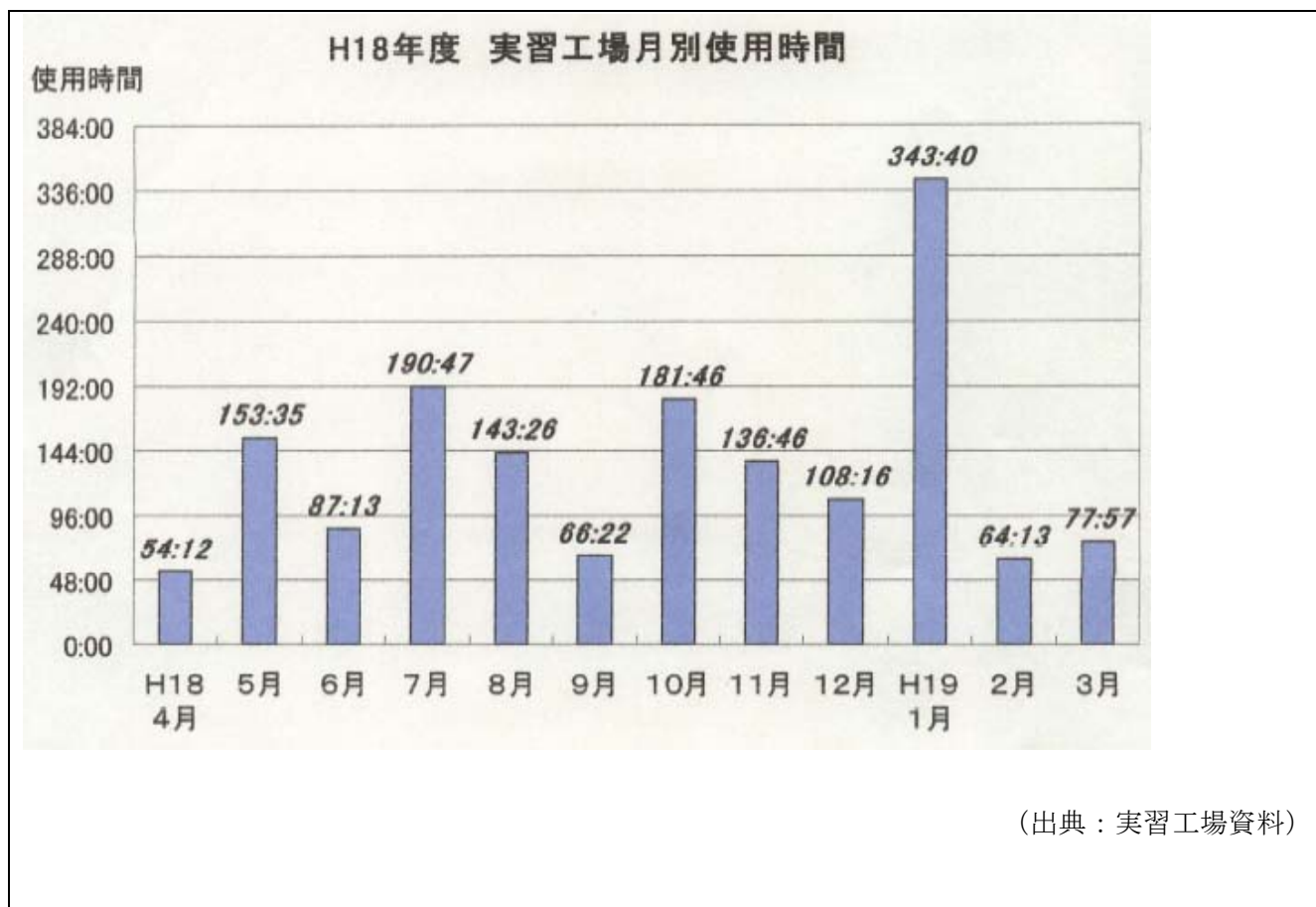
機械実習工場利用状況

表 H18年度実習工場月別利用者数状況

	卒業研究(機械)	特別研究	ロボット研究会	エコノパワー	その他
4月	16	6	0	0	7
5月	64	5	0	1	4
6月	40	14	26	0	2
7月	39	11	133	0	3
8月	70	8	81	16	11
9月	19	16	53	2	3
10月	54	15	40	2	2
11月	53	16	0	0	0
12月	41	9	0	4	0
1月	77	13	0	9	2
2月	14	11	0	2	1
3月	9	9	0	1	4
合計	496	133	333	37	39

表 実習工場機械別利用回数状況

	旋盤	ボール 盤	フライ ス盤	N C 旋盤	マシニ ング	溶接	弓ノ コ盤	高速カッ ター	シェー パー	シャー リング	その他
4月	12	6	4	0	0	2	7	1	6	1	2
5月	54	14	21	1	6	0	5	2	0	0	4
6月	20	21	16	0	4	4	7	2	0	3	5
7月	50	67	15	1	0	0	12	15	2	10	6
8月	47	58	5	3	0	0	6	12	1	11	4
9月	15	49	11	0	2	0	5	13	1	8	3
10月	37	48	18	2	7	0	6	9	0	9	2
11月	24	26	8	2	0	0	5	0	0	8	10
12月	14	12	5	3	9	0	12	1	0	3	11
1月	47	36	13	5	13	1	13	1	0	6	5
2月	10	9	2	1	5	0	1	1	1	2	3
3月	10	10	6	3	0	0	1	0	0	5	1
合計	340	356	124	21	46	7	80	57	11	66	56



(b) 厚生施設、コミュニケーションスペース等

福利厚生施設として、群嶺会館(食堂、購買部)(資料7-1-②-8)および合宿研修施設(7-1-②-10, 7-1-②-11)があり、前者は食堂、購買部として、後者は部活動の合宿に利用されている。

コミュニケーションスペースとして、学生ホール、図書館ホール(資料7-1-②-9)があり、学生の情報交換等のコミュニケーションスペースとして利用されている。また専攻科棟専攻生室も、コミュニケーションスペースとしても利用されている。

資料 7-1-②-8 福利厚生施設の購買部



(出典：学生課資料)

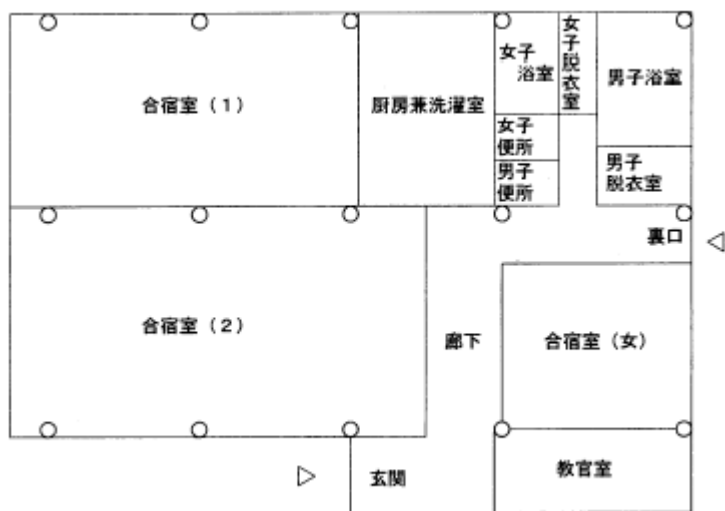
資料 7-1-②-9 図書館ホール



(出典：学生課資料)

資料7-1-②-10

合宿研修施設とレイアウト



(出典：学生課資料)

資料7-1-②-11

合宿所利用状況

平成18年度 合宿所利用状況

日付	クラブ名	人数
4月	柔道部	6
	柔道部	6
	小計	12
6月	野球部	26
	野球部	26
	野球部	26
	バスケットボール部	20
	バスケットボール部	20
	小計	118
7月	バドミントン部	25
	バスケットボール部	13
	バスケットボール部	13
	バドミントン部	6
	小計	57
8月	ソフトテニス部	10
	ソフトテニス部	10
	ソフトテニス部	10
	野球部	19
	野球部	19
	野球部	19
	小計	87
11月	陸上部	18
	陸上部	18
	小計	36
12月	吹奏楽部	24
	吹奏楽部	24
	吹奏楽部	23
	吹奏楽部	23
	吹奏楽部	23
	吹奏楽部	23
	吹奏楽部	23
	吹奏楽部	23
	小計	186
3月	吹奏楽部	21
	吹奏楽部	21
	吹奏楽部	21
	吹奏楽部	21
	吹奏楽部	21
	吹奏楽部	21
	小計	126
	合計	622

集計

月	人数
4月	12人
6月	118人
7月	57人
8月	87人
11月	36人
12月	186人
3月	126人
合計	622人

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

自主的学習や補習の場として、各種自主的学習環境および厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されている。

以上のことから、自主的学習環境および厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されている。

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

学習支援に関する学生のニーズ調査は、実態調査委員会が、1年次学生・1年次学生保護者・3年次学生・5年次の卒業時及び卒業生を対象にアンケート調査を行い、学生のニーズを把握している。(資料 7-1-③-1) 特に5年次学生については、在学中に取得した免許や資格について調査している。(資料 7-1-③-2)

資料 7-1-③-1 新1年生保護者に対するアンケート

16. 学校に対する要望等が有りましたらご記入下さい。

回答例

英検や漢検など積極的にチャレンジするように働き掛けてほしい。

(出典：実態調査委員会報告 新1年生保護者に対するアンケート)

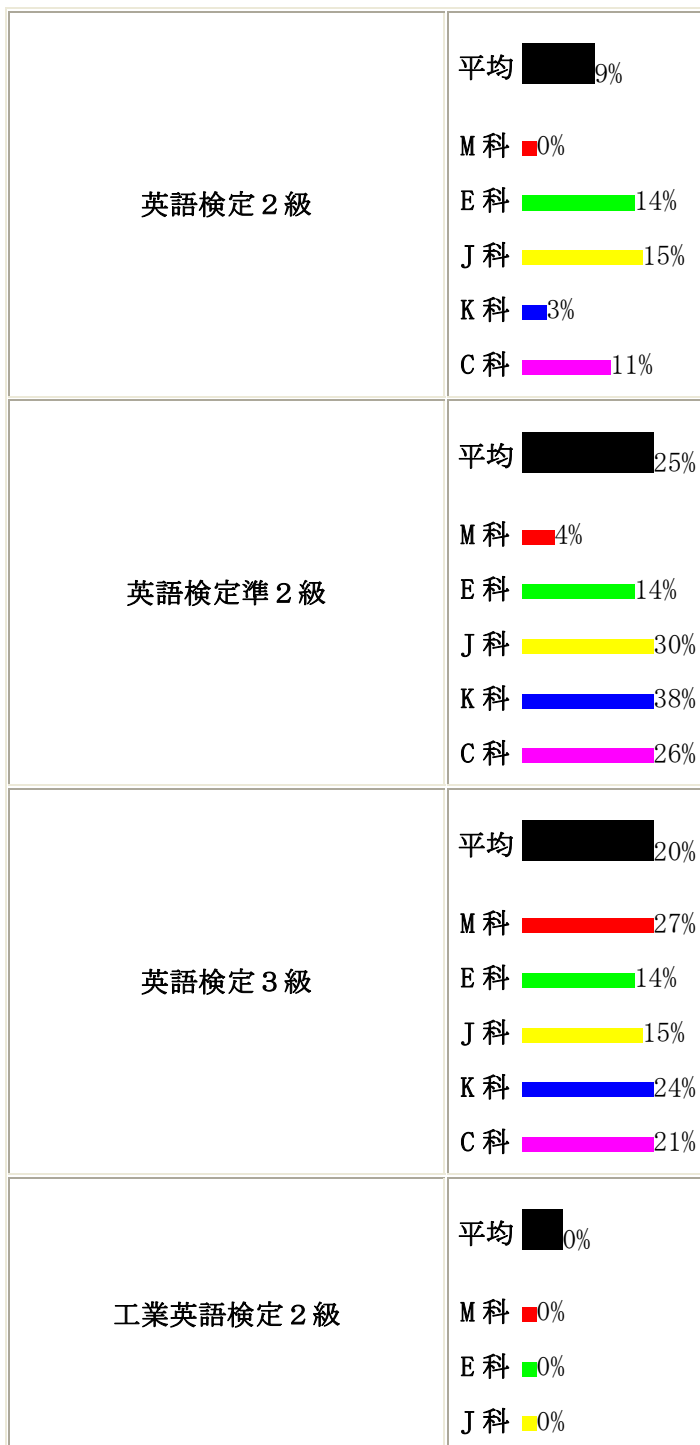
資料 7-1-③-2 在学中に取得した免許・資格についてのアンケート

- 9. (c) (Q17) その他の免許・資格について。 [分類項目-☆ (Q1) あなたの所属...]
- 集計結果 — 表

項目	M科	E科	J科	K科	C科	合計
1. 英語検定 2 級	0	2	6	1	4	13
2. 英語検定準 2 級	1	2	12	13	10	38
3. 英語検定 3 級	7	2	6	8	8	31
4. 工業英検 2 級	0	0	0	0	0	0
5. 工業英検 3 級	1	1	1	2	0	5
6. TOEIC(IP を含む) (460 点以上～500 点未満)	1	2	3	2	4	12
7. TOEIC(IP を含む) (500 点以上)	1	1	6	5	1	14
8. 基本情報処理技術者	0	0	8	0	0	8

9. 初級システムアドミニストレータ	0	0	2	0	0	2
10. 第2種電気工事士	0	0	0	0	0	0
11. 危険物取扱主任者甲種	0	0	0	3	0	3
12. 危険物取扱主任者乙種4類	0	0	0	0	1	1
13. その他	0	0	1	1	1	3

• 集計結果 — グラフ



	<p>K 科 ■0%</p> <p>C 科 ■0%</p>
工業英語検定 3 級	<p>平均 ■3%</p> <p>M 科 ■4%</p> <p>E 科 ■7%</p> <p>J 科 ■3%</p> <p>K 科 ■6%</p> <p>C 科 ■0%</p>
TOEIC(460 点～499 点)	<p>平均 ■8%</p> <p>M 科 ■4%</p> <p>E 科 ■14%</p> <p>J 科 ■8%</p> <p>K 科 ■6%</p> <p>C 科 ■11%</p>
TOEIC(500 点～)	<p>平均 ■9%</p> <p>M 科 ■4%</p> <p>E 科 ■7%</p> <p>J 科 ■15%</p> <p>K 科 ■15%</p> <p>C 科 ■3%</p>
基本情報処理技術者	<p>平均 ■5%</p> <p>M 科 ■0%</p> <p>E 科 ■0%</p> <p>J 科 ■20%</p> <p>K 科 ■0%</p> <p>C 科 ■0%</p>
初級システムアドミニストレータ	<p>平均 ■1%</p> <p>M 科 ■0%</p>

	<p>E 科  0%</p> <p>J 科  5%</p> <p>K 科  0%</p> <p>C 科  0%</p>
第 2 種電気工事士	<p>平均  0%</p> <p>M 科  0%</p> <p>E 科  0%</p> <p>J 科  0%</p> <p>K 科  0%</p> <p>C 科  0%</p>
危険物取扱主任者甲種	<p>平均  2%</p> <p>M 科  0%</p> <p>E 科  0%</p> <p>J 科  0%</p> <p>K 科  9%</p> <p>C 科  0%</p>
危険物取扱主任者乙種 4 類	<p>平均  1%</p> <p>M 科  0%</p> <p>E 科  0%</p> <p>J 科  0%</p> <p>K 科  0%</p> <p>C 科  3%</p>
その他	<p>平均  2%</p> <p>M 科  0%</p> <p>E 科  0%</p> <p>J 科  3%</p> <p>K 科  3%</p> <p>C 科  3%</p>

● 13. その他

- 3. 電子情報工学科
 - ソフトウェア開発技術者.
- 4. 物質工学科
 - 秘書検定3級
- 5. 環境都市工学科
 - 漢字検定

(出典：実態調査委員会報告)

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 学習支援に関するニーズは、実態調査委員会がアンケート調査を行い適切に把握している。
以上のことから、学習支援に関する学生のニーズは適切に把握されている。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

- ・ TOEICテストを3年次と4年次の全学生には受験させ（資料7-1-④-1），また希望者にも受験するよう案内している。（資料7-1-④-2）。また成績を集計して，上位成績者を公表することによって，学生の学習意欲を喚起している。（資料7-1-④-3）コンピュータを利用した自習システムを構築し（資料7-1-④-4），また図書館には，特別にコーナーを設けて，複数の教材を取り揃え，学生が自主的に学習する環境を提供している。（資料7-1-④-5）（資料7-1-④-6）。
- ・ 実用英検を受けるように学生に案内し（資料7-1-④-7），受験に際しての注意事項を周知している。（資料7-1-④-8）また受験者数および合格者数を集計することで，学生の動向を把握している。（資料7-1-④-9）
- ・ 学生が国際的な広い視野をもてるように，中国の上海工程技術大学と教育学術連携協定を締結し，4年生，5年生，専攻科生を派遣している。（資料7-1-④-10）

資料7-1-④-1

TOEIC テスト実施要項

事前準備

- ・英語科スタッフは、一週間前に届く問題・解答用紙・CD等の数量を確認し、クラスごとに分けて保管する。また、教室の音響とCDプレイヤーの音量のチェックを行なう。
- ・監督者は、事前に『実施マニュアル』を読み、担当部分の流れを把握しておく。
特に重要な点は下にまとめた。（疑問等あれば、英語科伊藤・横山へ問合せ下さい）。
- ・4年クラス担任は、学生に、HB鉛筆と消しゴムを13日試験当日に持ってくるよう指示を出し、13:00～15:30まで教室で試験があることを周知させる。
- ・5年クラス担任は、専攻科入学予定者に、HB鉛筆と消しゴムを13日試験当日に持ってくるよう指示を出し、13:00～15:30までJ科棟大講義室で試験があることを周知させる。
- ・1～3年のクラス担任は、HRで、13日授業終了後は試験の邪魔にならぬように指示を出す。
- ・教務係と英語科スタッフは、前日夕方、会場となる各教室の時計を合わせる。

試験当日

- ・教務係は、2月13日当日、午前中の授業終了後にチャイムを切る。
- ・教務係と英語科スタッフは、教務事務室のテーブルに試験問題・解答用紙・団体コードポスターとセロテープ・CDプレイヤー等を用意する。
- ・前半に当たっている監督者2名は、教務係で担当クラス分を受領し、開始5分前（12:55）までに余裕をもって入室し、音が漏れないようにドアと窓を閉める。
黒板に団体コードのポスターをはり、解答用紙（A面を上）と受験のしおりを配る。
CDプレイヤーをセットし、13時より事前説明を行なう。特に、解答用紙の団体コードと両面にある受験番号欄（＝左詰で学籍番号を記入）氏名欄を記入したか確認する。
トイレ休憩をいれ、13:20より問題を配布し、テスト終了時刻（開始の2時間後＝15:25）を黒板に明記し口頭でも予告し、13:25にテストを開始。CD（トラック2）をかける。監督者1名は、問題用紙を1部開封し、表紙上部に「試験官使用」と書いて問題を目で追い、万が一中断した場合、その箇所がわかるようにしておく。
- ・後半の監督者2名は、14:15に交代できるように静かに廊下で待機し、リスニング問題が終わっていることを確認して、受験者の気が散らぬようにそっと交代する。
黒板に終了時刻が書いてあることを確認し、時間が来たらテストをすみやかに終わらせる。問題用紙を先に回収して数量を確認。次に解答用紙を回収して数量と、両面に受験番号（＝学籍番号）と氏名が記入されていることを確認。未使用分を合わせて、封筒の数量と一致していることを確かめて、解散。団体コードポスターをはがして、CDをケースに戻し、問題・解答用紙一式、CDプレイヤーと教務係へ返却する。
- ・英語科スタッフは、問題用紙と解答用紙をまとめ、TOEIC本部へ郵送する。

資料7-1-④-1 (続き)

H18年 7月 5日

教 員 殿

TOEIC試験監督のお願い

教務主事

学校行事「TOEIC試験」は、9月12日(火)に3年生・専攻科1・2年生(無料)と希望者(有料)を対象として、また来年2月13日(火)に4年生・5年生専攻科入学予定者(無料)と希望者(有料)を対象として実施されます。

試験は、昨年度同様、両日とも午後の全授業を休講として、13時～15時30分(説明30分・Listening45分・Reading75分)まで行う予定です。

つきましては、下表のように、両日の午後の授業ご担当の先生方に監督をご依頼申し上げますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、監督ができない事由などが生じましたら、当該先生が所属される学科にて交代などの対応をお願いいたします。その旨(交代教員名など)は速やかに教務係へお知らせください。

試験問題等の受領・返却方法、および説明内容・CDプレイヤー操作方法などについては、追ってご連絡・ご説明させていただきます。

9/12(火) TOEIC試験監督予定者(敬称略)

	13:00～14:15	14:15～15:30
3M	小川・宇治野	岡田・重松
3E	谷中・中山	小幡・大島(由)
3J	藤平・牛田	須田・竹島
3K	中島・出口	戸井・田部井
3C	野村(和)・宮里	森田・谷村
専攻科1・2年生	金子・五十嵐	青木・石澤
希望者	野村(貴)・横山	

2/13(火) TOEIC試験監督予定者(敬称略)

	13:00～14:15	14:15～15:30
4M	黒瀬・吉田	高橋(秀)・樫本
4E	鈴木(靖)・布施川	大嶋(一)・楡井
4J	木村(真)・大墳	樋口・櫻岡
4K	伊藤(文)・真壁	太田・小野
4C	飯野・山本	青井・阿部
5年専攻科入学 予定者・希望者	熊谷・横山	

(出典：教務課作成資料)

資料7-1-④-2 TOEICテスト受験案内

2007年1月11日

学生諸君

英語科

平成18年度第2回学内TOEICテスト受験希望者募集

下記の要領で試験を実施します。奮って、受験してください。

(4年生と専攻科入学予定者は受験が義務づけられているので、申し込む必要はありません。)

実施日 2月13日(火)

会場 J科棟大講義室

時間 13:00~15:30 (12:50には着席すること)

検定料 3,100円

手続き 検定料を1月22日(月)までに

専攻科棟3階講師控室(秋山さん)に納めて申し込んでください。

用意するもの ・HBの鉛筆またはシャープペン, 消しゴム

注意事項 ・試験は2時間(Listening45分とReading75分), 途中休憩なし。

・問題用紙へのメモは禁止。

・受験番号は, 自分の学籍番号を使用。

・図書館に参考書と問題集を揃えているので, 問題形式をよく把握してから受験すること。

・情報センター等のコンピュータでもTOEICの問題を学習することができます

(<http://172.16.64.241/smarthtml/servlet/clientLogin>)。

(出典:英語科資料)

資料7-1-④-3 TOEIC試験成績優秀者の公表資料

平成18年度 TOEIC 試験成績優秀者

平成19年2月13日 英語科

1位	A	(4K)	980点
2位	B	(4M)	870点
3位	C	(4J)	625点
4位	D	(4J)	600点
5位	E	(4J)	570点
6位	F	(4J)	560点
7位	G	(4M)	555点
8位	H	(4K)	550点
9位	I	(4E)	545点
9位	J	(4E)	545点
	・		
	・		

(出典：英語科作成資料)

資料 7-1-④-4 コンピュータを利用した英語自主学习システム

平成 19 年 4 月 18 日

コンピュータを利用した英語学習の案内

一般教科（人文）
英語科

本校には、コンピュータを利用した英語学習システムがあります。利用方法は以下の通りですの
で、大いに活用して、英語力を伸ばしてください。

利用方法

- 1 校内 LAN に接続しているパソコンのブラウザ（Internet Explorer 推奨）から、SMART-HTML ク
ライアントビューアを表示させる。

アドレス <http://172.16.64.241/smarhtml/servlet/clientLogin>

- 2 画面の指示に従って、以下の項目を入力する。

- 1) 学習者 ID を入力する。

（学習者 ID は、std01~std45 の任意とする。入力されている ID をすでに誰かが使用している場
合は、先に利用している人に優先順位がありますので、その場合は他の ID を入力してくださ
い。）

- 2) パスワードを入力する。

（パスワードは、temp01~temp45、下 2 桁の数字は、学習者 ID の数字を入力する。）

- 3) 講義名：英語学習（英語）を選択する。

- 4) コースウェアを選択する。

- 1) 英文法徹底トレーニング
- 2) TOEIC(R)テストスーパー模試 470 点攻略
- 3) TOEIC テストリスニング完全攻略
- 4) 2005 年英検 2 級
- 5) ベーシック工業英語

以上、5 コースの中から選択してください。

- 3 以下、画面の指示に従って学習をする。

注意：情報センターやパソコン室の端末を使ってリスニングを行う際は、各自イヤホンやヘッドホ
ンを使用して、他人の迷惑にならないように学習してください。

（出典：英語科作成資料）

資料7-1-④-5 英語自主学習のための蔵書リスト

TOEIC・TOEFL関係 蔵書リスト (語学・英検コーナー)

No.	タイトル	冊数
1	470点をめざすTOEICテスト	5
2	600点をめざすTOEICテスト	5
3	TOEIC Test プラス・マガジン	8
4	TOEIC official test-preparation guide : Test of English for International Communication	10
5	TOEIC TEST 実力診断模試	1
6	TOEIC TESTパーフェクトテキストリスニング	10
7	TOEIC TESTパーフェクトテキスト文法	10
8	TOEIC TEST英単語スピードマスター	6
9	TOEIC TEST英文法出るとこだけ! : 出題パターンを見抜く鉄則32	10
10	TOEIC TEST文法完全攻略 : 必須単語も同時に身につく	10
11	TOEIC TEST文法直前模試 : 200点up(アップ)を狙う240問	5
12	TOEIC650点7時間速修	5
13	TOEIC Test 「正解」が見える	1
14	TOEICスピーキングテスト : ライティングテスト公式ガイド	2
15	TOEICテスト「正解」のたねあかし : 問題を作ってみれば解き方がわかる!	5
16	TOEICテスト1週間でやりとげる英文法	10
17	TOEICテスト4万人の弱点 : 模試データ分析でわかった 間違えるパターンをランキングで一挙掲載!!	10
18	TOEICテストスコアアップ131のヒント : 中村澄子が教える	1
19	TOEICテストスコアアップ体験記 : 私の目標と英語学習法	1
20	TOEICテストトレーニングブック	2
21	TOEICテストにでる順英熟語 : 英会話表現満載でリスニング力もぐーんとアップ	10
22	TOEICテストにでる順英単語 : これだけ覚えれば860点突破!	10
23	TOEICテストボキャブラリーパーフェクト選語 : 1000語	10
24	TOEICテストリーディング読走のルール	10
25	TOEICテストリスニング聴躍のルール	10
26	TOEICテスト完全模擬問題集 : 自己診断と弱点補強ができる	4
27	TOEICテスト厳選問題集プラス : 実力を100パーセント出し切るための全400問+直前対策重要語句リスト	5
28	TOEICテスト実戦パック	1
29	TOEICテスト新・最強トリプル模試 : New Version対応の模試を3回分収録	10
30	TOEICテスト新・必修イディオム : パート別出題形式で覚えるイディオム1300	4
31	TOEICテスト新・必修単語 : パート別出題形式で覚える2800語	4

32	TOEICテスト新公式問題集 Vol.1	13
33	TOEICテスト新公式問題集 Vol.2	13
34	TOEICテスト文法・語彙考速のルール	10
35	TOEIC英文法解き方の[○秘]法則	1
36	TOEIC公式ガイド&問題集：日本語版 Vol.1	10
37	TOEIC公式ガイド&問題集：日本語版 Vol.2	11
38	TOEIC最重要単語熟語使い方辞典	1
39	TOEIC直前総合対策	1
40	TOEIC必修イディオム：パート別出題形式で覚えるイディオム1200	5
41	TOEIC必修単語：パート別出題形式で覚える2700語	3
42	TOEIC必修文法：問題を解きながら覚える重要21項目	6
43	パート別TOEIC TEST LISTENINGパーフェクト攻略	10
44	はじめてのTOEFL TEST対策解法マスター：1冊ですべてがわかる次世代iBT	1
45	はじめてのTOEFL TEST対策学習法ガイド	1
46	はじめてのTOEFLテスト完全対策：すべてのセクションに対応	1
47	はじめてのTOEIC	5
48	はじめて受けるTOEIC TESTパーフェクト攻略	10
49	わかりやすい新TOEICテストリーディング	5
50	わかりやすい新TOEICテストリスニング：4アクセント対応	5
51	わかりやすい新TOEICテスト問題集：新TOEICテストを受ける前に!	5
52	実戦模試TOEIC Test「正解」が見える	10
53	新TOEIC testキム・デギュンの究極厳選400問	5
54	新TOEIC TEST英文法スピードマスター：new version対応	10
55	新TOEIC TEST英文法出るとこだけ!：直前5日間で100点差がつく27の鉄則	10
56	新TOEIC TEST総合スピードマスター：New Version対応	5
57	新TOEICテスト「勝ち組」のスピード攻略法	2
58	新TOEICテスト「倍速」スピードリーディング：30日間完成!	5
59	新TOEICテスト470点攻略本	5
60	新TOEICテスト620点攻略本	5
61	新TOEICテストリスニング基礎強化編	4
62	新TOEICテスト一発で正解がわかる	5
63	新TOEICテスト完全攻略ガイド：New version対応	5
64	新TOEICテスト文法特訓プログラム	4
65	闘耳（とーみみ）：発音でTOEICテストのリスニングを攻略する	1
67	Longman preparation series for the TOEIC test, Advanced course	1
69	Practice tests for the TOEIC：test of English for international communication	1
66	Barron's how to prepare for the TOEFL：test of English as a foreign language	1
68	Monarch's preparation for the TOEFL	1
70	トーフルで650点：私の英語修業：海外留学英語試験TOEFL	1

71	TOEFL TEST対策iBTリーディング	1
72	TOEFL test対策のための発音・聞き取りトレーニング：iBT対応	1
73	TOEFL TEST対策完全英文法：250点をクリアするThree Steps	1
74	TOEFL test対策基礎英語	1
75	TOEFL TEST対策速修ライティング	1
76	TOEFL TEST対策徹底リスニング：実力250点へのLogic & Practice	1
77	TOEFL test対策必修単語集：iBT対応	1
78	TOEFL TEST対策分野別単語&イディオム集	1
79	TOEFL英文法：クリフス版	1
80	TOEFL完全演習	1

(出典：図書館集計資料)

資料7-1-④-6 英語自主学习用図書の利用統計

TOEIC（語学・英検）関係図書 利用統計

月	“TOEIC関連図書貸出冊数”	“CDプレーヤー貸出件数”
平成18年4月	105	1
5月	74	0
6月	80	3
7月	89	1
8月	37	4
9月	90	4
10月	56	0
11月	32	1
12月	72	0
平成19年1月	116	3
2月	69	2
3月	71	0
合計	891	19

(出典：図書館集計資料)

資料7-1-④-7 実用英語技能検定の受験案内

学級担任教員各位

教務主事

平成19年度第1回実用英語技能検定（英検）について

標記の件について、下記要領にて試験が実施されます。

ついては、貴クラス学生の受験希望者について、ご指導方よろしくお願ひいたします。

記

一次試験	実施日	平成19年6月9日（土）	
	会場	本校（準会場）	※ 受験者10名以上の場合
	時間	準2級 : 午前10時開始 2級 : 午後1時30分開始	
	検定料	準2級 3400円 2級 3900円	
	手続き	申込用紙（人文体育系の八鳥・野村教員室にあります）に検定料を添えて、お釣りの必要がないように、5月11日（金）までに、一般教科事務室（中澤さん）へ申し込んでください。	
二次試験	実施日	平成19年7月8日（日）	
	会場	本会場	

（出典：教務主事作成資料）

資料7-1-④-8 実用英語技能検定の実施要項

実用英語技能検定試験受験申し込み学生へ

本校を準会場として一次試験を実施できることになりました

平成19年度第1回実用英語技能検定一次試験実施要項

1 実施日 平成19年6月9日(土)

2 試験日程

	集合時刻	開始時刻	終了時刻
準2級	9時50分	10時00分	11時40分
2級	13時20分	13時30分	15時10分

3 試験会場

本校 L.L.教室 (図書館2階)

用意するもの：HBの黒鉛筆かシャープペンシル，消しゴム
試験終了後，問題用紙も提出する

4 試験監督者

一般教科(人文科学)教員 八鳥・野村

※ 二次試験 7月8日(日)，本会場
写真を貼った一次試験結果票，身分証明書，
HBの黒鉛筆かシャープペンシルを持参すること

(出典：英語科作成資料)

資料7-1-④-9 実用英語技能検定の受験結果

平成18年7月24日

教務主事 殿

英語科

平成18年度第1回実用英語検定の結果報告
 (1次試験6月10日, 2次試験7月9日実施)

平成18年度第1回実用英語検定の本校学生の団体受験結果は下記の通りでした。
 また, 合格者名は別紙の通りです。

記

	2級	準2級	計
出願者数	17名	43名	60名
1次試験受験者数	16名	40名	56名
(1次試験免除者数)	1名	1名	2名)
(1次試験欠席者数)	0名	2名	2名)
合格者数	2名	26名	28名
2次試験受験者数	3名	26名	29名
	(1次免除者1名含む)	(1次免除者1名含む)	
(2次試験欠席者数)	0名	1名	1名)
合格者数	3名	18名	21名

以上

(出典: 英語科作成資料)

資料7-1-④-10 海外の大学との教育学術連携と実施状況

国際連携室

群馬高専では、学生が国際的な広い視野をもてるように、また、教員についても海外との情報交換が容易になるよう支援を行う、という目的で、平成18年11月21日、国際連携室を設置しました。これからはこの連携室を中心に海外の大学との教育研究連携を推進して行く予定です。特に学科第4学年の学生については、3月末に上海工程技术大学に派遣し交流を深める予定となっています。

上海工程技术大学と教育学術連携協定締結

平成18年(2006年)3月27日、群馬工業高等専門学校は、中国の[上海工程技术大学](#)と教育学術連携協定を締結しました。

群馬高専では、同連携協定に基づき、学生や教職員の交流、学術資料等の交換等を積極的に行い、教育学術分野の国際化を推進していきたいと考えています。

上海学生派遣

群馬高専では、連携協定締結に合わせて、本間校長、小島副校長はじめ教員6名、本科4年生33名、専攻科1年生10名を2006年3月25日から5泊6日の日程で上海に派遣しました。

(群馬高専：本校ウェブサイト(国際連携室))

(分析結果とその根拠理由)

- ・ TOEIC テスト等の語学試験や検定試験受講および海外大学との交流プログラム等の支援体制が整備され、機能している。

以上のことから、資格試験や検定試験受講、海外大学との交流プログラムの支援体制が整備され、機能している。

観点7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

本校では、留学生、編入学生を受け入れており、それぞれに支援体制を実施している。

- (1) 留学生の指導に関しては外国人留学生規則(資料7-1-⑤-1)に基づき、留学生委員会を設け、留学生指導教員および留学生相談員により学習指導を行っている。
カリキュラムについては、3年次の人文系の科目の代わりに留学生特設科目を設置している(資料7-1-⑤-2)。
- (2) 編入学生に関しては、事前にオリエンテーションを実施している(資料7-1-⑤-3)。
- (3) 障害を持つ学生に関しては、過去に在籍した障害を持つ学生のためにスロープ・エレベータを設置し、その後も順次バリアフリー化を進めている(資料7-2-②-7)。

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対しては指導教員・相談員による支援体制、および特別カリキュラムの実施が行われている。編入学生に対しては事前のガイダンスが実施されている。障害のある学生に対してはエレベータ・スロープ等の設置がされている。

以上のことから、特別な支援を行うことが必要と考えられる者への学習支援が整備されている。

資料 7-1-⑤-1 留学生に対する支援体制

群馬工業高等専門学校外国人留学生規則 (抜粋)

(目的)

第 1 条 この規則は、群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第 56 条第 2 項の規定に基づき、本校に受け入れる外国人留学生（以下「留学生」という。）の入学及び教育課程その他に関する特例について定めることを目的とする。

[略]

(留学生委員会)

第 5 条 留学生の教育指導及びその他必要事項を審議するため、留学生委員会を置く。

2 留学生委員会に関する必要事項は、別に定める。

(留学生指導教員)

第 6 条 留学生に対する学習及び生活に必要な指導を行うため、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

2 指導教員は、学科主任の推薦により、校長が委嘱するものとする。

(留学生相談員)

第 7 条 留学生の学習活動及び生活に対する指導助言を行うため、留学生相談員（以下「相談員」という。）を置く。

2 前項の相談員は、学生の中から校長が委嘱するものとする。

3 相談員は、留学生の相談に応じ、学習活動及び生活について、適切な指導助言を行い、定期的に指導教員等に連絡し、その指導を受けるものとする。

[略]

(出典：学生便覧)

資料 7 - 1 - ⑤ - 2

留学生授業時間割

群馬工業高等専門学校

留学生授業時間割表(前期)

平成18年度

3M

区分	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	科目名 総合英語 I	体育	機構学		※数学特講
	担当教 熊谷	(柳川)	重松		神長
場	3M教室	グランド・体育館	3M教室		1-201
火	科目名 電気工学概論	数学A I	材料力学	設計製図	
	担当教 樫本	鈴木福	黒瀬	樫本	
場	3M教室	3M教室	3M教室	情報処理センター	
水	科目名 数学A I	工作実習	HR	※日本語特講	
	担当教 鈴木福	安田	安田・熊谷	(新井)	
場	3M教室	実習工場	3M教室	1-201	
木	科目名 情報処理 I	※日本語演習	数学B	応用物理 I	
	担当教 樫本	小野	吉田	狩野	
場	情報処理センター	1-201	3M教室	3M教室	
金	科目名 総合英語 I	※機械工学特講	工業力学		
	担当教 熊谷	M科教員	岡田		
場	3M教室	M科教室	3M教室		

留学生授業時間割表(後期)

平成18年度

3M

区分	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	科目名 体育	総合英語 II	機構学	※数学特講	
	担当教 (柳川)	熊谷	重松	吉田	
場	グランド・体育館	3M教室	3M教室	1-201	
火	科目名 設計・製図	数学A II	材料力学	電気工学概論	
	担当教 樫本	鈴木福	黒瀬	樫本	
場	情報処理センター	3M教室	3M教室	3M教室	
水	科目名 総合英語 II	工作実習	HR	※日本語特講	
	担当教 熊谷	安田	安田・熊谷	(新井)	
場	3M教室	実習工場	3M教室	1-201	
木	科目名 ※日本語演習	設計・製図	数学B	※機械工学特講	
	担当教 小野	樫本	碓氷	M科教員	
場	1-201	情報処理センター	3M教室	M科教室	
金	科目名 応用物理 I	数学A II	材料学	工業力学	
	担当教 狩野	鈴木福	金子	櫻井文	
場	3M教室	3M教室	3M教室	3M教室	

※1 赤字は、留学生特設科目です。

※2 ()は、非常勤講師を表します。

(出典：学生課資料)

資料7-1-⑤-3 編入学者に対する学習支援体制

平成19年度編入学者オリエンテーション実施要項

1 日時 平成18年11月1日(水) 13:00～

2 場所 会議室A及び物質工学科

3 日程

○受付 13:00～ 於:学生課
○全体オリエンテーション 13:10～ 於:会議室A

司会 教務専門委員

(1) 教務主事の話 13:10～13:15 (5分)
(2) 応用物理担当教員の話 13:15～13:25 (10分)
(3) 英語担当教員の話 13:25～13:35 (10分)
(4) 数学担当教員の話 13:35～13:45 (10分)
(5) 事務連絡 13:45～13:55 (10分)

○学科オリエンテーション 14:00～ 於:物質工学科

(6) 学科主任の話 14:00～

(注) 1 学科オリエンテーションへの移動及び案内は、学科でお願いします。
2 学科オリエンテーション終了後は、適宜解散させてください。

(出典:学生課資料)

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

(1) クラブ活動

本校には22クラブ（運動部12，文化部10），6愛好会がある。クラブ活動に対する支援は主任顧問を中心とした複数顧問制により実施している（資料7-1-⑥-1）。クラブ活動にかかる経費は学生会費より配分されている（資料7-1-⑥-2）。顧問教員による技術指導が困難なクラブに関して，学外の指導者に技術指導を委託している（資料7-1-⑥-3）。クラブ活動に対して学生表彰内規に基づき学生に対する表彰を行っている（資料7-1-⑥-4）。平成18年度は13クラブ延べ48名の学生が表彰対象となった。

(2) 学生会活動

学生会活動に対しては学生会規約に基づき学生主事・学生会専門委員及び顧問教員による指導助言が行われている（資料7-1-⑥-5）。また，教員学生間の連絡手段として，教員学生会連絡会が開催されている（資料7-1-⑥-6）。学生会傘下の各種委員会に対しては（資料7-1-⑥-7），クラブ活動と同様に主任顧問を中心に複数の教官による支援を行っている（資料7-1-⑥-1）。学生会活動に対しても，学生表彰内規に基づき学生に対する表彰を行っている（資料7-1-⑥-4）。平成18年度は6名の学生が表彰対象となった。

(分析結果とその根拠理由)

クラブ活動に関しては教員が顧問を分担して支援し，必要に応じて学外の指導者による指導を実施している。学生会活動に関しては学生主事，学生会専門委員および顧問教員による指導支援がなされている。

以上のことから，課外活動に関する支援体制が整備され，機能している。

資料7-1-⑥-1 クラブ活動の支援体制

平成18年度学生会及びクラブ顧問教員一覧

学 生 主 事 下 田 祐紀夫
 厚生補導専門委員 大豆生田 利 章
 学生会専門委員 吉 田 は ん

平成18年4月10日

委 員 会

◎主任

名 称	顧 問 教 員	名 称	顧 問 教 員
文化委員会	◎吉田 はん	群嶺委員会	◎神長 保仁・狩野 正徳
体育委員会	◎櫻岡 広・(高橋 健太郎)	新聞委員会	◎鶴見 智・赤羽 良一
評議委員会	◎吉田 はん・大豆生田 利章	環境委員会	◎大豆生田 利章・吉田 はん
図書委員会	◎林 俱子		

体 育 部

◎主任, ☆地区大会専門部常任委員, ★地区大会専門部委員

名 称	顧問 教 員
陸上競技部	◎熊谷 健・★大墳 聡・(平井 宏)・辻川 信二・谷口 正
硬式野球部	◎吉田 はん・☆大豆生田 利章・森田 哲夫・平 靖之・出口米和 ・鈴木 福蔵・真壁 恭子・五十嵐 睦夫・小野 泰央・渡辺 直寛
サッカー部	◎櫻岡 広・★鈴木 靖・碓氷 久・荒川 達也・黒瀬 雅詞・青井
バレーボール部	◎阿部 博・★大手 丈夫・岡田 敬夫・(友坂 秀之)・楡井 雅巳
バスケットボール部	◎竹島 尚仁・☆山本 好克・三上 卓・古川 茂・藤田 慎也
ソフトテニス部	◎藤重 昌生・★金子 忠夫・櫻本 弘・太田 道也
卓球部	◎宮川 剛・☆高橋 秀夫・野村 貴俊
柔道部	◎八鳥 吉明・☆大島 由紀夫・布施川 秀紀・藤野 正家
剣道部	◎飯野 一彦・(☆高橋 健太郎)・大嶋 一人
テニス部	◎櫻井 文仁・★須田 健二・櫻井 治男
バドミントン部	◎中山 和夫・★田部井 康一・木村 清和
水泳部	◎富澤 良行・★脇田 英治・杉浦 立明・小幡 常啓

文 化 部

◎主任

名 称	顧問 教 員
吹奏楽部	◎藤平 威尚・柳田 友士・宇治野 秀晃・牛田 啓太
文芸部	◎安田 一美・東城 敏毅
写真部	◎斎藤 斉・谷村 嘉恵
美術部	◎林 俱子・安田 一美
理科部	◎小川 侑一・重松 洋一
英語部	◎野村 貴俊・八鳥 吉明
茶道部	◎谷村 嘉恵・林 俱子
S F 研 究 部	◎横山 孝一・小川 侑一
電算部	◎重松 洋一・斎藤 斉
演劇部	◎東城 敏毅・横山 孝一

(愛 好 会)

◎主任

名 称	顧問 教 員
ロボット研究会	◎木村 真也・石澤 静雄・谷中 勝・戸井 啓夫・大豆生田 利章
女子バスケットボール愛好	(◎高橋 健太郎)・東城 敏毅
コンクリートカヌー愛好会	◎青井 透・木村 清和
エコノパワー愛好会	◎高橋 秀夫・石澤 静雄・野村 和広
将棋愛好会	◎熊谷 健・藤平 威尚
構造デザイン研究会	◎三上 卓・古川 茂

(出典：学生課資料)

資料7-1-⑥-2 学生会費の中の部活動費

平成18年度学生会予算案

(収入)

前年度繰越金	494,369
学生会費 (5000円×980)	4,900,000
後援会費	1,276,000
合計	6,670,369

(支出)

学生会本部費	700,000
部活動費	4,818,425
地区文化発表会費	350,000
工華祭費	700,000
予備費	101,944
合計	6,670,369

(出典：学生会資料)

資料7-1-⑥-3 クラブの技術指導委託

平成18年度 クラブ指導一覧表

クラブ名	指導者名	住 所	指導目的
硬式野球	=====	〒===== 前橋市=====	基本技術指導等
ソフトテニス	=====	〒===== 前橋市=====	基本技術指導等
テニス	=====	〒===== 前橋市=====	基本技術指導等
吹奏楽	=====	〒===== 高崎市=====	定期演奏会のため の集中指導
茶 道	=====	〒===== 前橋市=====	茶道指南

(出典：学生課資料)

資料7-1-⑥-4 学生表彰

学生表彰内規

(趣 旨)

第1条 群馬工業高等専門学校学則第37条の規定に基づく学生の表彰については、この内規の定めるところによる。

(表 彰)

第2条 表彰は、次の各号の一つに該当するものについて行う。ただし、学校又は学生会が主催する行事の表彰については、その都度定める。

- 一、学生の模範として推奨できる行為のあった者
- 二、課外活動において顕著な功績を収めた者
- 三、その他、校長が特に推薦した者

(表彰者の決定)

第3条 学級担任又は顧問教員等は、前条第一号及び第二号の規定に該当する者がいる場合は、別紙様式の推薦書により推薦する。

2 表彰は、前項の推薦に基づき、厚生補導委員会及び教員会議の審議を経て校長が決定する。

(表彰の期日)

第4条 表彰の期日は別に定める。

(表彰状の授与)

第5条 表彰は、校長が表彰状を授与して行う。

- 2 前項の表彰状に添えて、記念品を授与することができる。
- 3 表彰状の様式は別に定める。

(表彰の記録及び公示)

第6条 表彰された者は、記録にとどめるほか、全学生に公示する。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：学生便覧)

資料 7-1-⑥-5 学生会規約

群馬工業高等専門学校学生会規約（抜粋）

[略]

第 7 章 顧 問 教 員

第 30 条 本会は、群馬工業高等専門学校学生準則（昭和 62 年規則第 7 号）第 21 条による学生主事・学生会専門委員及び顧問教員の指導助言を受ける。

2 教員と学生との連絡を密にし、学生会運営の円滑と学生会活動の充実を期するために、群馬工業高等専門学校教員学生会連絡内規（昭和 42 年規則第 3 号）により、教員学生会連絡会を開くものとする。

3 教員学生会連絡会には、会長、副会長、書記が出席するものとする。

[略]

（出典：学生便覧）

資料 7-1-⑥-6 教員学生会連絡会

平成 18 年度 教員学生会連絡会（後期）次第

日 時 平成 18 年 12 月 19 日（火） 16：20～

場 所 会議室 B

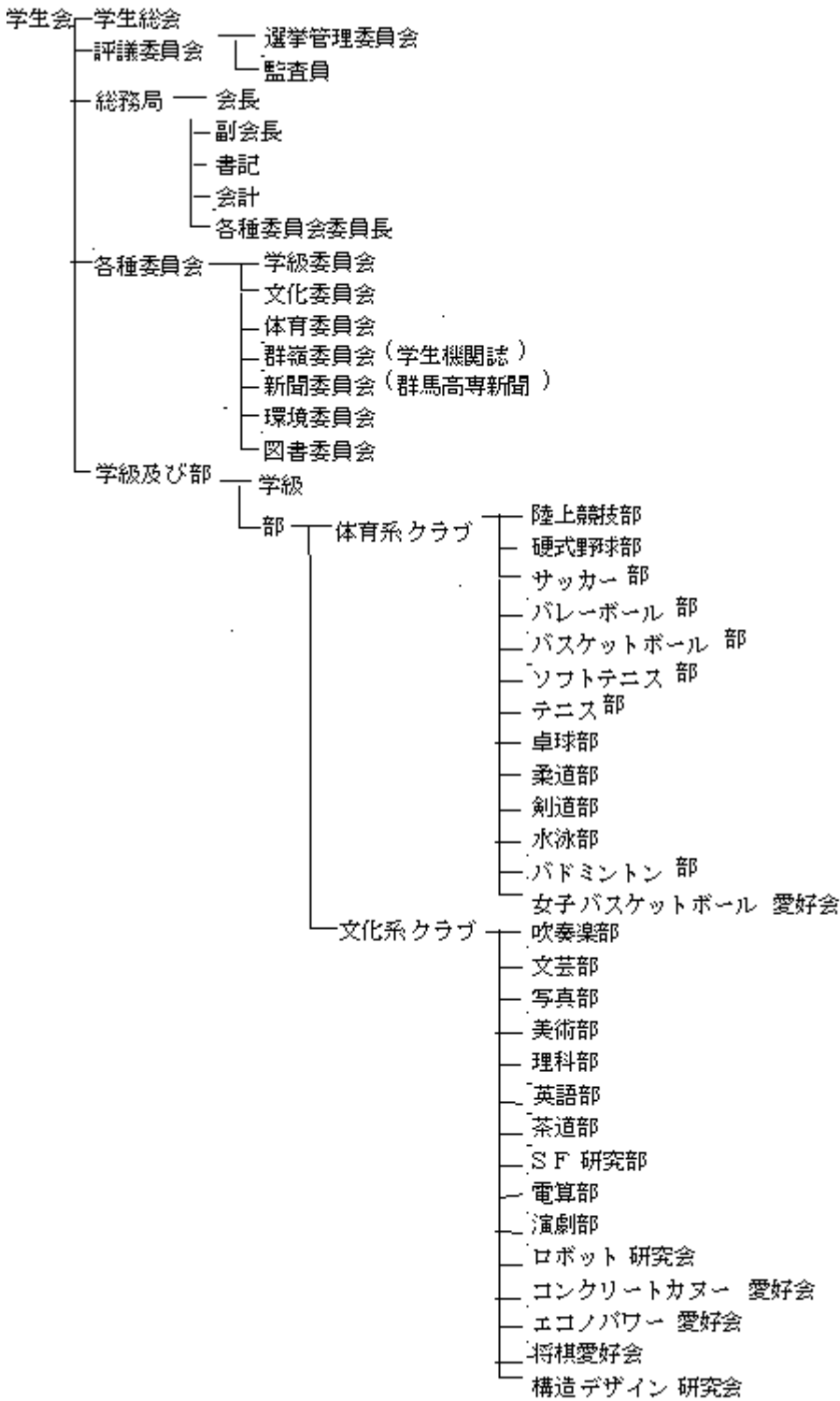
議 題 1. 施設について

2. 教員について

3. その他

（出典：学生課資料）

資料 7 - 1 - ⑥ - 7 学生会組織図



(出典：学生便覧)

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の生活面に関しては以下のような体制をとっている。

- (1) 学生の生活面に関する全学的な指導は学生主事，厚生補導専門委員，厚生補導委員会が中心になって行っている。厚生補導関係の案内や規則は学生便覧に掲載し学生への周知を行っている（資料7-2-①-1）。
- (2) 学級担任は教員業務の手引きに従い，学生の生活指導を実施している（資料7-2-①-2）。
- (3) 学生の生活に関する相談窓口として，学生相談室が設置され，学生相談委員会および専門のカウンセラーにより運営されている（資料7-2-①-3および資料7-2-①-4）。セクシャルハラスメントに関しても学生相談室が担当している（資料7-2-①-5）。

学生の経済面に関しては以下のような体制をとっている。

- (1) 授業料免除に関しては学生便覧，掲示板，担任等により学生へ周知している（資料7-2-①-6）。授業料免除は授業料及び寄宿料の免除等に関する規則に基づき，厚生補導委員会により選考している（資料7-2-①-7）。平成18年度後期の実績は申請者68名中39名が授業料全額免除を，11名が半額免除を許可された（資料7-2-①-8）。
- (2) 日本学生支援機構奨学金その他の育成制度に関しては学生便覧，掲示板等により学生へ周知し，学生支援係が担当している（資料7-2-①-6）。

(分析結果とその根拠理由)

学生の生活面に係わる指導・相談・助言は学生主事，厚生補導専門委員，厚生補導委員会，学級担任，学生相談委員会および専門のカウンセラーにより実施されている。学生の経済面に係わる指導・相談・助言は学生主事，厚生補導専門委員，厚生補導委員会，学級担任および学生課職員により実施されている。

以上のことから，学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

資料7-2-①-1 厚生補導関係の学生への周知

学生便覧目次（抜粋）

[略]

- | | | |
|--------------------------|----|-----|
| 7. 厚生補導関係 | …… | 141 |
| (1) 生活上の注意 | …… | 143 |
| 〔1〕 学生の懲戒処分に関する申合せ | …… | 145 |
| 〔2〕 喫煙及び車両違反学生の処置に関する申合せ | …… | 146 |
| (2) 学資援助 | …… | 147 |
| 〔1〕 授業料及び寄宿料の免除等に関する規則 | …… | 147 |

- [2] 育英制度 …… 150
- [3] 運賃割引 …… 151
 - 1 学生生徒旅客運賃割引証
 - 2 通学定期乗車券
- (3) 学生相談室 …… 153
- (4) 福利厚生 …… 153
 - [1] 健康管理 …… 153
 - 1 健康診断
 - 2 保健室
 - 3 災害共済給付制度
 - 4 事故発生時の処置
 - [2] 食堂及び売店 …… 156
- (5) 学生表彰 …… 157
 - [1] 学生表彰内規 …… 157
 - [2] 学生表彰に関する申合せ …… 157
- (6) 車両使用 …… 158
 - [1] 学生車両通学規則 …… 159
 - [2] 構内交通に関する要項 …… 162
 - [3] 駐車場使用心得 …… 16

[略]

(出典：学生便覧)

資料7-2-①-2 学級担任による学生の生活指導

教員業務の手引目次 (抜粋)

[略]

2 学級担任教員の業務

- 1 始業前の準備
- 2 始業直後
- 3 平常授業
- 4 中間試験及び期末試験
- 5 欠席日数及びHR欠席時数の集計
- 6 休学、退学の取扱い
- 7 進学希望者への対応
- 8 原級留置者の処置
- 9 指導要録への記入
- 10 混合学級運営について

[略]

(出典：教員業務の手引き)

資料7-2-①-3 学生相談室の学生への周知

(3) 学 生 相 談 室

学生相談室は、管理棟1階・保健室の隣にあり、相談員の教員や専門のカウンセラーが、学生のみなさんからの相談に応じています。

みなさんは、自分の適性を活かし、能力を十分に発揮できる道に進みたいと考えていることと思います。高専で過ごす5年間は、そうした“自己実現”のための準備期にあたります。充実した学生生活を送るには、自己を知り、自己を高めることが求められます。そのためみなさんの努力や取り組みを学生相談室は支援しています。

相談については固く秘密を守ります。個人でもグループでも、気軽に利用して下さい。

《学生相談室とは》

◇みなさんが学生生活を送るうえで、困ったことや悩みがある時、気軽に相談できる場所です。

◇あなたがよりよい学生生活を送れるように、いろいろな心配や悩みについて一緒に考え、解決法を探してゆく場所です。

◇性格検査や職業適性検査などの心理テストを受けることができ、みなさんが自己理解を深めるための手助けをします。

◇進学・就職等、進路に関する相談にも応じ、みなさんに必要な情報収集に協力します。

《利用方法》 1. 直接来室するか、インテーカーに連絡して下さい。

2. 電話や電子メールで予約することもできます。

《スタッフ》 249頁参照

《開室日時・担当者》 年度当初、各教室に掲示します。

(出典：学生便覧)

資料7-2-①-4 学生相談室スタッフ

7 学生相談室スタッフ

◇スタッフ

室 長 大島由紀夫 (一般教科・国語)

相 談 員 木村真也 (電子情報工学科)

＝＝＝＝ (カウンセラー・臨床心理士)

＝＝＝＝ (カウンセラー・精神科医)

インテーカー 藤川直美 (保健室看護師)

新井美登里 (学生係職員)

(出典：学生便覧)

資料7-2-①-5 セクシュアル・ハラスメントへの対応

セクシュアル・ハラスメント のない高専にするために

- ◆セクシュアル・ハラスメントとは？
- ◆セクシュアル・ハラスメントは、なぜ問題なのでしょう？
- ◆セクシュアル・ハラスメントになりうる言動は？
- ◆どのような点に気をつければよいのでしょうか？
- ◆どこに相談したらよいのでしょうか？

群馬工業高等専門学校

セクシュアル・ハラスメントとは？

相手を不快にさせる性的な言動を言います。

校内における相手を不快にさせる性的な言動はもちもん、校外における本校の学生や教職員、又は本校の学生の保護者等を不快にさせる性的な言動も対象となります。

セクシュアル・ハラスメントに該当するかどうかは、基本的には言動の受け手がそれを不快に感じるかどうかによって決まります。

セクシュアル・ハラスメントは、なぜ問題なのでしょう？

セクシュアル・ハラスメントを受けることにより、学生が学業に専念できなくなる程度に修学上の環境が不快になること、又は教職員が職務に専念することができなくなる程度に就労上の環境が不快になることとなります。個人に対する影響としては、

- ・ セクシュアル・ハラスメントを拒否したことにより、修学上又は勤務条件の面で不利益を受けることがあります。
 - ・ セクシュアル・ハラスメントに耐えきれずに退学、退職せざるを得ないこともあります。
 - ・ 個人の尊厳や名誉を、プライバシーなどの人格を害します。
 - ・ 精神や身体を健康を害します。
- また、学校に対する影響としては、
- ・ 校内の人間関係を悪化させます。
 - ・ 組織の士気を低下させます。
 - ・ 高専の秩序を乱します。
 - ・ 高専の信頼性を失墜させます。

セクシュアル・ハラスメントになりうる言動は？

(1) 性的な発言

① 性的な関心、欲求に基づくもの

- ・ スリーサイズを聞くなど身体的特徴を話題にする。
- ・ 聞くに耐えない卑猥な冗談を交わす。
- ・ 体調が悪そうな女性に「今日は生理日か」などと言う。
- ・ 性的な経験や性生活について質問する。
- ・ 性的な噂を立てたり、性的なからかいの対象とする。

② 性別により差別しようとする意識等に基づくもの

- ・ 「男のくせに根性がない」「女には任せられない」などと発言する。
- ・ 「男の子、女の子」「僕、坊や、お嬢さん」「おじさん、おばさん」などと人格を認めないような呼び方をする。

(2) 性的な行動

① 性的な関心、欲求に基づくもの

- ・ ノードポスターなどを部室、研究室、事務室等に貼る。
- ・ 雑誌等の卑猥な写真、記事等をわざと見せたり、読んだりする。
- ・ 身体を執拗に眺め回す。
- ・ 食事やデートにしつこく誘う。
- ・ 性的な内容の電話をかけたり、性的な内容の手紙やEメールを送る。
- ・ 身体に不必要に接触する。
- ・ 浴室や更衣室をのぞき見する。
- ・ 性的な関係を強要する。

② 性別により差別しようとする意識等に基づくもの

- ・ 女性であるというだけでお茶くみ、掃除、私用を強要する。
- ・ カラオケでのデュエットを強要する。

・ 会合(酒席, コンパ)等で, 上司(上級生)の側に席を指定したり, お酌やダンス等を強要する。

セクシュアル・ハラスメントをしないように気をつけることは？

- (1)セクシュアル・ハラスメントに当たるかどうかは, 受け手の判断が重要です。
- (2)受け手が嫌がっていることが分かったら決して繰り返さないことが大切です。
- (3)不快な性的な言動であるか否かについて, いつも明確に意志表示がある(嫌だと否定する)とは限りません。

セクシュアル・ハラスメントの態様等によっては, 職員の場合は信用失墜行為, 国民全体の奉仕者たるにふさわしくない非行などに該当し, 学生では性行不良で改善の見込みのないと認められる者, 高専の秩序を乱し学生としての本分に著しく反したものとして, 懲戒処分に付されることもあります。

良好な勤務・修学環境を確保するため, 気をつけることは？

- (1)高専内でのセクシュアル・ハラスメントについて問題提起する者をトラブルメーカーとみたり, セクシュアル・ハラスメントに関する問題を当事者間の個人的な問題として片づけないことです。
- (2)セクシュアル・ハラスメントに関する問題の被害者や加害者を出さないように, 周囲に対する気配りをし, 友人又は同僚として注意するなど, 必要な行動をとるようにしましょう。

セクシュアル・ハラスメントの被害を深刻にしないために？

- (1)セクシュアル・ハラスメントを無視したり, 受け流したりしているだけでは必ずしも状況は改善されません。嫌なことは相手に対してはっきりと拒否の意志を伝えることが望まれます。
- (2)信頼できる人に相談してみましょう。
一人で我慢しないで, まず身近な人に相談することが大切です。

どこに相談したら良いのでしょうか？

セクシュアル・ハラスメントに関する苦情の申し出や相談のために, 次のとおり相談員を配置しています。

なお、相談等は所属(科・課)に関わらずどこの相談窓口でも受け付けてもらえます。

学生相談室長

平成18年4月1日現在

(所属等)	(氏名)
一般教科(人文)	大島 由紀夫 教授 (内線9101)

学生担当相談員

平成18年4月1日現在

(所属等)	(氏名)
一般教科(人文)	竹島 尚仁 助教授(内線9098)
一般教科(自然)	谷口 正 助教授(内線9154)
機械工学科	安田 一美 教授(内線9130)
電子メディア工学科	谷中 勝 助教授(内線9161)
電子情報工学科	木村 真也 助教授(内線9232)
物質工学科	太田 道也 助教授(内線9214)
環境都市工学科	阿部 博 教授(内線9193)
学生課(保健室)	藤川 直美 看護師(内線9065)

教職員等担当相談員

平成18年4月1日現在

(所属等)	(氏名)
庶務課長	江田 進 (内線9004)
学生課(保健室)看護師	藤川 直美 (内線9065)

(出典：本校ウェブサイト(学生相談室))

資料7-2-①-6 学資援助の学生への周知

学 資 援 助

少ない学資で学業に励んでいる学生に対し、経済的な悩みをできるだけ軽減して、学業に専念できるようにするための奨学制度として、授業料の免除の制度と育英制度があります。

授業料免除の制度は、国立高等専門学校機構の定めた額の範囲内で、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められた者に対して、願い出によって審査して、校長が許可するものです。

育英制度は、日本学生支援機構及びその他の育英事業団体等が学資（奨学金）を貸与するものです。

授業料の免除を許可されるにも、奨学金の貸与を受けるにも、それぞれ募集の時期に所定の手続きをしなければなりません。募集の時期、申請の方法などは、掲示により学生に知らせますから、希望者はそのときに学生係から申請書の交付を受け、必要な書類を整えて、定められた期日までに提出して下さい。

(出典：学生便覧)

資料7-2-①-7 授業料及び寄宿料の免除等規則

授業料及び寄宿料の免除等に関する規則（抜粋）

[略]

第2条 授業料の免除（以下「免除」という。）は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、本人の申請に基づき選考の上、許可することができる。

[略]

（申請の手続き）

第4条 免除又は猶予の許可を受けようとする学生は、所定の申請書（別紙様式1，2，3）に次の書類を添え、校長に願い出るものとする。

[略]

第6条 前2条により申請があったときは、厚生補導委員会の議を経て、選考の上校長が許可する。

2 免除又は猶予の選考基準については、別に定める。

(出典：学生便覧)

資料7-2-①-8 授業料免除の実績（平成18年度後期）

	人数	授業料	収入予定額	免除可能額
学科生	981	117,300	115,071,300	6,633,432
専攻科生	86	117,300	10,087,800	
	1,067		125,159,100	

※人数は、11月1日現在で国費留学生及び休学者を除く

※免除可能額は、収入予定額の5.3%

学年・クラス	申請者数 (人)	免除金額 (円)	全額免除		半額免除		不許可 人数
			人数	金額	人数	金額	
[中略]							
合計	68	5,219,850	39	4,574,700	11	645,150	18

※免除総額／収入予定額×100＝免除率

$$5,219,850 \quad / \quad 125,159,100 \quad \times \quad 100 \quad = \quad 4.2\% \quad < \quad 5.3\%$$

(出典：学生課資料)

観点7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

(a) 留学生に対する支援

- ・留学生に対する教育指導および必要事項に関する審議は「留学生委員会」が行う。具体的な指導は、校長が委嘱した「留学生指導教員」が行い、さらに留学生相談員（チュータ）が勉学および生活面のサポートを行っている。（資料7-2-②-1）
- ・「新留学生歓迎会及び留学生懇談会」を開催することで、留学生同士の親睦、および留学生と教職員・学生の相互理解を図っている。（資料7-2-②-2）
- ・「留学生旅行」を実施することで、留学生同士の懇親、および留学生の日本に対する理解を深めている。（資料7-2-②-3）
- ・「ショートホームステイ」を行うことで、日本の生活への理解や地域に根ざした交流を図っている。（資料7-2-②-4）
- ・学生寮には、留学生専用シャワー室、及びイスラム教徒に配慮した補食室が整備してある。（資料7-2-②-5）

(b) 障害のある学生に対する支援

・入学志願者については、「入学者募集要項 入学案内」に「身体に障害を有する入学志願者との事前相談について」の項目を設け、受験上特別な措置および修学上特別な配慮に関する必要事項を事前に相談してもらうことを明示して受験の際の配慮、また入学後の早期対応を図る体制を取っている。(資料7-2-②-6)

・学内での生活に支障が出ないように、エレベーター・身障者用トイレ・車椅子用スロープを設置するなどのバリアフリー化を行っている。(資料7-2-②-7)

(分析結果とその根拠理由)

留学生への支援は、留学生委員会、指導教員、相談員と複数の体制が整えられている。

障害のある学生に対しても、施設のバリアフリー化が実施されている。

以上のことから、留学生および障害のある学生に対して生活面での支援が適切に行われている。

資料7-2-②-1 留学生規則

(留学生委員会)

第5条 留学生の教育指導及びその他必要事項を審議するため、留学生委員会を置く。

2 留学生委員会に関する必要事項は、別に定める。

(留学生指導教員)

第6条 留学生に対する学習及び生活に必要な指導を行うため、留学生相談員（以下「指導教員」という。）を置く。

2 指導教員は、学科主任の推薦により、校長が委嘱するものとする。

(留学生相談員)

第7条 留学生の学習活動及び生活に対する指導助言を行うため、留学生相談員（以下「相談員」という。）を置く。

2 前項の相談員は、学生の中から校長が委嘱するものとする。

3 相談員は、留学生の相談に応じ、学習活動及び生活について、適切な指導助言を行い、定期的に指導教員等に連絡し、その指導を受けるものとする。

(出典：群馬工業高等専門学校外国人留学生規則)

資料7-2-②-2 新留学生歓迎会及び懇談会

学 校 長

学校長主催 新留学生歓迎会及び留学生懇談会

このことについて、下記のとおり開催致します。

なお、出欠の確認について、下欄に記入の上 月 日 () までに学生課教務係まで提出願います。

記

- 1 日 時 平成18年 月 日 () 17:00～19:00
- 2 場 所 大会議室(群嶺会館2F)
- 3 出席者 学校長, 教務主事, 学生主事, 寮務主事, 専攻科長, 事務部長, 庶務課長, 会計課長, 学生課長, 留学生在籍クラス正副担任
留学生(9名), 留学生チューター(5名), 学生会長,
寮生代表(2名)
- 4 日 程

○学校長挨拶	17:00～17:10
○学生会会長挨拶	17:10～17:15
○寮生代表挨拶	17:15～17:20
○留学生代表挨拶(5年留学生)	17:20～17:25
○新留学生自己紹介	17:25～17:35
○意見交換	17:40～18:00
○懇談会	18:00～19:00

(進行: 学生課長)

5 その他

懇談会では、軽食を用意

(出典: 学生課作成資料)

資料7-2-②-3 留学生旅行

平成17年度留学生旅行実施要項

1 目的

日本の最先端技術及び伝統的文化に触れ日本をより一層理解するとともに、留学生相互間の親睦を深めることも目的とする。

2 期日

平成17年9月9日(金)～9月11日(日)

3 場所

- ・愛・地球博(愛知県愛知郡長久手町大字熊張字茨ヶ廻間乙1533-1)
- ・明治村(愛知県犬山市内山1番地)
- ・馬籠宿(岐阜県中津川市馬籠)

4 旅行行程

別紙のとおり

5 参加学生

本校在籍留学生 9名

(留学生名)	(学年・学科)	(区分)
=== (男)	3年・機械工学科	政府派遣
=== (女)	3年・物質工学科	政府派遣
=== (男)	4年・機械工学科	政府派遣
=== (女)	4年・電子工学科	国 費
=== (男)	4年・電子情報工学科	国 費
=== (女)	4年・電子情報工学科	政府派遣
=== (女)	5年・物質工学科	政府派遣
=== (男)	5年・電子情報工学科	政府派遣
=== (女)	5年・電子情報工学科	国 費

4 引率教員

一般教科(人文) 教授 野村 貴俊
 一般教科(人文) 講師 伊藤 文彦

(出典：学生課作成資料)

資料7-2-②-4 留学生ショートホームステイ

平成18年10月16日

留学生 諸君

学生課長
(公印省略)

平成18年度外国人留学生ショートホームステイについて

平成18年度外国人留学生ショートホームステイについて、下記の書類を送付します。

(2)については、ショートホームステイ受入先決定後、(3)については、ショートホームステイ終了後、記入して学生課教務係まで提出してください。

記

- (1) 平成18年度外国人留学生ショートホームステイ実施要項
- (2) 留学生のプロフィール(参考)
- (3) ショートホームステイに参加しての感想

学校長主催 新留学生歓迎会及び留学生懇談会

1 日時 平成18年 月 日(水) 17:00~19:00

2 場所 大会議室

3 出席者 40名

学校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、庶務課長、
会計課長、学生課長、留学生在籍クラス正副担任

留学生(9名)、留学生チューター(5名)、学生会長、寮生代表(2名)

【学生会長】

1 名

【寮生代表】

2 名

4 日程

- 学校長挨拶 17:00~17:10
- 学生会会長挨拶 17:10~17:15
- 寮生代表挨拶 17:15~17:20
- 留学生代表挨拶(未定) 17:20~17:25

- 新留学生自己紹介 17:25～17:35
- 意見交換及び懇談会 17:40～19:00 (予定)
(進行: 学生課長)

5 その他

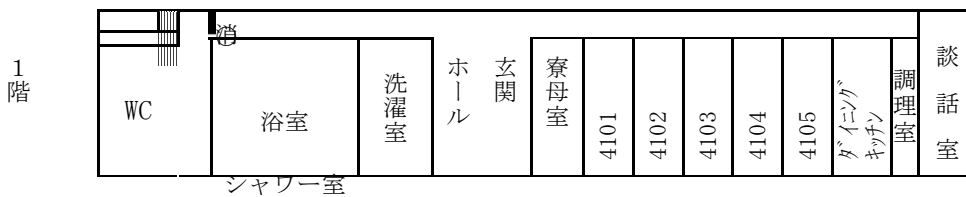
懇談会では、軽食を用意

(出典: 学生課作成資料)

資料7-2-②-5 留学生専用施設 (シャワー室, 捕食室, ダイニングキッチン)
中寮



藤寮



(出典: 寮生便覧)

資料7-2-②-6 障害のある学生への支援体制

8 身体に障害を有する入学志願者との事前相談について

身体に障害があつて、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、出切るだけ早い時期に本校学生課教務係へご相談ください。

(出典: 入学者募集要項 入学案内)

資料7-2-②-7

バリアフリー

エレベーター

- (002)電子メディア・機械工学科棟 H10 3階3停止設置済み
 (051)校舎・地域共同技術開発センター H12 4階4停止設置済み
 スロープ、手摺り
 (001)管理・環境都市工学科棟 H10 スロープ、手摺り済み
 (002)電子メディア・機械工学科棟 H10 スロープ済み
 (003)物質工学科棟 H10 スロープ済み
 (005)第一体育館 H10 スロープ済み
 (019)図書館 H9 スロープ、手摺り済み
 (042)第二体育館 H17 スロープ、手摺り済み
 (045)群嶺会館 H9 スロープ、手摺り済み
 (048)電子情報工学科棟 S63 スロープ、手摺り済み
 (051)校舎・地域共同技術開発センター H12 スロープ、手摺り済み
 身障者用トイレ
 (001)管理・環境都市工学科棟 H10 1カ所
 (002)電子メディア・機械工学科棟 H10 1カ所
 (051)校舎・地域共同技術開発センター H12 1カ所

(出典：会計課作成資料)

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

(生活面)

- ・学生に修学の便宜を与えると共に、共同生活を通じて豊かな人間を形成するために、寮務主事（1名）・寮務専門委員（2名）・寮務委員会（各科1名計7名）・学生生活係長（1名）・舎監（全教員）・寮母を中心に指導を行っている。（資料7-2-③-1）（資料7-2-③-2）
- ・寮務主事指導の元、寮生による寮生会を組織し、学生寮の運営改善を図っている。（資料7-2-③-3）（資料7-2-③-4）（資料7-2-③-5）

(勉強面)

- ・1年生には、上級生のチューターをつけて、勉強での相談・指導を行っている。
- ・1、2年生の居室がある北寮には、「自習室」を整備している。（資料7-2-③-6）

(分析結果とその根拠理由)

寮務主事・寮務専門員を中心として、寮務委員会を審議の場とし、全教員が舎監を担当しながら、全学的組織で、寮生の生活面および勉学面をサポートしている。

以上のことから、学生寮が学生の生活および勉学の場として有効に機能している。

資料7-2-③-1 学寮規則

(管理責任者)

第4条 学寮は、校長が管理する。

- 2 寮務主事は校長の命を受けて、学寮に関する教育的管理運営の業務を掌理する。
- 3 学寮の管理運営に関する事務は、学生課寮務係（以下「寮務係」という。）の所管とする。
- 4 鴻志寮には、教官による宿直及び日直を置く。宿直者及び日直者は、舎監と称する。
- 5 舎監の任務の細部については、別に定める。

(寮母)

第5条 女子寮には、寮生の日常生活の世話にあたるため寮母を置く。

(寮務専門委員)

第6条 第4条第2項の業務については、寮務主事を補佐するために、寮務専門委員を置く。

- 2 寮務専門委員は、教官の中から校長が任命する。

(寮務委員会)

第7条 寮生の厚生補導に関する具体的な方策を審議し、その円滑な運用を図るため、校長の諮問機関として、寮務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(出典：群馬工業高等専門学校学寮規則)

資料7-2-③-2 学寮運営

4. 舎監（宿直・日直）の服務

(1) 宿直の服務

- a) 服務時間：「割当表」で決められた日の17：15から翌朝の8：30までとする。
- b) 舎監室の鍵：17：15までに寮事務室で当日提出分の「外泊届」と共に受け取る。
翌朝の退室時には寮母用の鍵と共に寮務係（不在時は学生課）に返す。
- c) 外泊届の整理：帰省者等を「点呼表」に記入する（藤寮分は18：00までに終える）。
寮母には18：00ごろ「藤寮夜の点呼表」を渡す。
- d) 寮内の見回り：20：00から、藤寮、北寮、中寮、南寮を巡視する。
- e) 週番の引継ぎ：木曜日には、21：00からの週番の引継ぎに立ち会う（北寮談話室）。
- f) 寮母からの引継ぎ：21：30「点呼表」と藤寮の鍵を受け取り、報告を受ける。
- g) 夜の点呼：22：00の放送(自動)と男子週番の放送後に、週番と共に
北寮→中寮→南寮(以上、男子週番)→藤寮(女子週番)の順で点呼を取る

(女子週番は藤寮玄関ロビーで待機している)。

- ・ 点呼は居室の前で受けさせる。男子 1 年生は居室のドアを開ける。
- 不在の場合は週番にノック等によって確認させる。
- ・ 電話、風呂、他の部屋にいるなど自分の居室にいない場合は、不在(ノ印)を週番に記入させる(その後、確認出来た場合は×印に訂正する)。
- ・ 22時以降の帰寮は認めていないので、不在のままとする。
- ・ 週番が来ない時は、舎監室の前に貼ってある 1 ヶ月分の男女週番表に従って、放送で呼び出す(週番名を入口の黒板に書いておく)。
- ・ 点呼後、男女週番に「週番日誌」を記入させ、翌朝の点呼の確認をとる。

h) 北寮・藤寮の施錠：点呼終了後に、北寮・藤寮玄関ドアの下の鍵を掛ける。

j) 朝の点呼：7：40に男子週番が放送してから、ラジオ体操の曲を流す。

- ・ 1～3年生の男女寮生は班毎に並び、ラジオ体操をする。
- ・ 体操終了後、男女の週番がそれぞれ点呼を取る。
- ・ 週番は必ず全員の名前を呼んで出席を確認する(上級生から順に行う)。
不在者については同じ班の者を指名して呼出させる(点呼不在はそのままとする)。
- ・ 雨天の時は、寮食堂で点呼を取るのみとする。

金曜日は、男女 1 年生が点呼終了後に寮外回りのゴミ拾いを行う
(週番に舎監室のゴミ袋を渡す)。

- ・ 休・祝祭日、定期試験 1 週間前から試験終了日までは、朝の点呼は行わない。

(2) 日直の服務

- a) 服務時間：休・祝祭日の 8：30～17：15 とする。
- b) 宿直との引継ぎ：就務と退務の際は、宿直者と鍵や諸事項の引継ぎを行う。
- c) 寮内の見回り：10：00と15：00には寮内(藤寮も含む)を巡視する。

(3) 面会者(保護者を含む)の取り扱い

- a) 面会者には北寮のロビーで面会させるようにする。
- b) 特に必要と認められた場合は、「立ち入り許可願」を提出させる。
- c) 無許可での立ち入り者を見つけた場合は寮関係者に連絡するか、舎監日誌に特記する。
- d) 男子寮生と女子寮生についても、特別の許可がない限り、a) を適用する。

(3) その他(緊急時の処置など)については、「舎監服務要領」を参照する。

(出典：学寮運営の手引き)

資料7-2-③-3 寮生会

(寮生会)

第5条 学寮に、寮生全員をもって構成する寮生会を置く。

2 学生は、入寮と同時に寮生会の会員となるものとする。

第6条 寮生会は、学寮における生活規律を保持し、寮生相互の親睦を図るとともに、全寮生の共同生活を自治的に運営するものとする。

2 寮生は、寮生会の運営に積極的に参加し、個人及び共同の生活向上のため努力しなければならない。

第7条 寮生会の指導は、学寮規則第4条第2項の定めるところに従い、寮務主事が行う。

第8条 寮生会は、規約を制定して校長の承認を受けるものとする。規約の改正についても、同様とする。

2 規約の中には、次の事項を記載しなければならない。

- (1) 名称
- (2) 目的
- (3) 役員の種類、人数、任務、任期
- (4) 総会及び役員会の組織
- (5) 会費に関する事。
- (6) 会計及び会計監査に関する事。
- (7) 選挙に関する事。
- (8) 規約改正に関する事。
- (9) 規約発効に関する事。

第9条 寮生会の代表は、総会及び役員会の議題を事前に寮務主事に報告しなければならない。

第10条 校長は、寮生会の総会及び役員会の議決事項を不相当と認めるときは、その修正又は取り消しを命ずることができる。

第11条 寮生会規約には、寮生の規律維持について、次の事項を記載しなければならない。

- (1) 日課表「起床時間、食事時間、入浴時間、消灯時間、門限時間」
- (2) 寮内外の清掃
- (3) 防火安全
- (4) 保健衛生
- (5) 各種委員会
- (6) その他寮務主事の指示した事項

(寮内の規律)

第12条 寮生会は、寮務主事の指導の下に寮内の規律の維持に当たるものとする。

第19条 寮生会の代表は、寮生が健康に異常を感じた場合は、直ちに寮務主事に届け出て、その

指示に従わなければならない。

(出典：群馬工業高等専門学校寮生準則)

資料7-2-③-4 寮生会規約

1 2. 群馬工業高等専門学校寮生会規約

第1章 総 則

第1条 本会は、寮生準則第5条に基づき、群馬工業高等専門学校寮生会（以下「本会」という。）と称する。

第2条 本会は、学寮における共同生活を自治的に営み、寮生相互の連絡を密接かつ円滑にすることを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を実現するために、会員を若干名の班に分け、次の各号に掲げる目標の達成に努めるものとする。

(1) 寮生活を楽しく、豊かで規律正しいものにし、寮の良い伝統を育てる。

(2) 寮生活を通じて集団生活において自主的かつ民主的に行動する態度を養い、公民としての資質を向上する。

第4条 寮生は、いかなる場合においても、個人の思想良心等に関する基本的な自由を侵されることはない。

2 寮生は、寮生活において暴力その他による私的制裁を加えられることはない。

第2章 会員の資格、権利義務および会費

第5条 本会は、寮生全員をもって構成する。

2 学生は、入寮と同時に本会の会員となる。

3 会員は、本会の各種の選挙権および被選挙権を有する。

4 会員は、寮生準則およびこの規約を忠実に履行し、本会の運営に常に関心を払い、その活動に積極的に参加しなければならない。

5 会員は、年会費1,000円を4月30日までに納入するものとする。

6 会員は、寮生総会により寮生会及び寮生会主催の企画運営上必要と決議された場合、決議された金額を期日までに納入するものとする。

第3章 役 員

第6条 本会に次の役員を置く。ただし、寮長、総会、役員会のいずれかが必要と認めた場合は、別に役員を置くことができる。

(1) 寮 長 男女各1名

(2) 副 寮 長	各学年男女各 1 名
(3) 書 記	2 名
(4) 会 計	各学年男女 1 名
(5) 監 査	2 名
(6) 食事委員	各学年男女 1 名
(7) 風紀委員	6 名
(8) ネットワーク委員	5 名
(9) 車両委員	各学年男女 1 名
(10) 班 長	各班 1 名
(11) 副 班 長	各班 1 名

第7条 寮長および副寮長の選出は、推薦立候補制とし、会員の互選による。

2 寮長は、会員の過半数を得たものでなければならない。過半数が得られない場合は、決選投票を行う。決選投票の方法については、学生会細則に準じて行う。

3 寮長は、原則として4年生から男女各1名が選出される。

4 副寮長は1年・2年・3年及び4年生から男女各1名が選出される。

第8条 寮長は、本会の代表者であって会務を執行する。副寮長は、寮長を補佐し、寮長に事故があるときは、その職務を代行する。

第9条 書記および会計は寮長が指名する。書記は、庶務（寮史の資料の収集およびその保管を含む）を、会計は、会計事務を分掌する。会計は、本会の会計事務のほか、寮費徴収等の会計事務に協力する。

2 監査は、寮長が指名する。監査は、会計事務を監査する。

3 各種委員は、寮長の指名による。

4 食事委員は、寮生の食事の改善、給食、欠食などについて栄養士と連絡を密にする。

5 風紀委員は、寮生の風紀向上、寮内外の清掃美化など環境整備に努める。

6 車両委員は、寮生の事故防止及び寮生車両使用規則の遵守に協力する。

7 ネットワーク委員は、寮内における校内LANに接続されているネットワーク端末のメンテナンスや管理を行う。

8 班長は、各班の代表者で寮長が指名する。班長は、班員の親睦を深め共同生活の向上に努める。（原則として5年生とする。）

9 副班長は、班長を補佐し、班長に事故があるときは、その職務を代行する。副班長の任命は、班長が行う。

第10条 寮長は、役員の指示を忠実に実行しなければならない。

2 寮長は、本条に違反した寮生に対し、罰則を設けることができる。

第11条 寮長は、必要に応じ、当番制度を設けることができる。

2 当番制を実施する場合は、当番表を作成し、これを掲示するものとする。

3 寮長は、必要に応じ寮の役員を、当番の割当てから除外することができる。

4 当番を都合により交代する場合は、寮長の許可を要する。この場合寮長は、当番表を修正して勤務が確実に実施されるようにする。

第12条 役員の任期は、原則として10月1日から翌年9月30日までとする。ただし、班長についてはこの限りでない。

第4章 会 議

第13条 本会に総会及び役員会を置く。

第14条 総会は、本会の会計報告、予算、決算、寮生会規約の改正等本会活動の全般にわたる基本事項について審議決定する。

2 総会は、会員中から互選された議長、副議長により運営されるものとする。

3 総会は、少なくとも年1回は開かなければならない。ただし、新執行部発足1か月以内とする。

4 総会は、前項以外に、寮長または役員会のいずれかが必要と認めた場合にのみ総会を開くことができるものとする。

5 総会の運営方法は、本校学生会の総会に準じて行う。

第15条 役員会は、本会の執行機関で、本会の運営に当たる。

2 役員会は、寮長、副寮長、書記、会計、各委員長及び班長をもって構成する。

3 役員会は、少なくとも毎月1回開かなければならない。

4 役員会の運営方法は、本校学生会の評議委員会に準じて行う。

第16条 寮長は、総会の議決に対して1回限り拒否することができる。

2 前項の拒否があった場合、総会は直ちに休会に入る。休会は、48時間を限度とする。

3 再開した総会で同じ議決がなされた場合は、役員は辞任しなければならない。後任の役員は、この議決が成されてから14日以内に選出するものとする。

第5章 会計および監査

第17条 本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもってこれに充てる。

2 会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。

第18条 本会の決算報告は、省略することができない。

第19条 予算の使用及び監査の方法は、学生会細則を準用する。

第6章 生 活

第20条 寮生は、礼儀を守り、互助、互譲の精神に基づいて生活するものとし、共同生活を破壊する言動をしてはならない。

第21条 寮の日課時間表は、次のとおりとする。（括弧内は休業日の時間を示す。）

起床	7:00	(任意)
点呼	7:40	(休業日, 定期試験の前1週間と期間中は除く)
清掃	7:50～8:00	(任意)
朝食	7:30～8:30	(8:00～9:00)
登校	8:30～8:40	
昼食	12:00～12:40	(12:00～13:00)
夕食	17:00～20:00	(17:00～19:30)
入浴	17:00～21:55	
静粛	19:30～	
門限	22:00	
点呼	22:00	
消灯	24:00	

第22条 日課時間表は、共同生活の基本であるから、厳守しなければならない。

第23条 起床後の余暇時間には、点呼、体操その他の軽易な運動をする。

第24条 静粛時間中は、他人に迷惑になる言動を慎まなければならない。

第25条 消灯時には、1・2・3学年は、机上灯及び指定常夜灯を除いてすべて消し、4・5学年は、自主性にまかせ任意とする。ただし、1・2・3学年も、試験前の1週間及び試験中は、消灯は任意とする。

第26条 登校時間は、始業10分前とする。

第27条 食事は、時間内に任意に摂るものとする。ただし、食堂内の混雑を防ぐために、制限を行うこともある。

2 食堂の食器を寮舎内に持ち込んで서는ならない。ただし、病気等のため食事委員の許可を得た場合は、この限りではない。

第28条 清掃は、各室ごとに行うものとする。

2 寮内外の共通部分の清掃は、当番を定めて行うものとする。

第29条 閉寮時及び寮長が必要と認めた場合は、大掃除を実施しなければならない。

2 大掃除を実施した場合は、寮務主事の点検を受ける。

第30条 所持品は、原則として寮生活に必要な物品のみとし、次の事項にしたがって保管しなければならない。

(1) 所持品は、常に整頓しておくこと。

(2) 所持品で記名可能なものはすべて記名し、寮内に持ち込むに当たって届け出の必要な物件については、「私物持込届」を寮務主事に提出すること。

(3) 所持品でカメラ、時計等製品番号のあるものは、これを各自記録しておくこと。

(4) 貴重品は、施錠した場所に保管すること。

(5) 危険物を寮内に持ち込まないこと。

第31条 寮生は、常に健康に留意し、特に次の事項に注意するものとする。

- (1) 暴飲、暴食を慎むこと。
- (2) 衣類等の洗濯の励行
- (3) 布団の日光消毒の励行
- (4) 窓の開放による換気の励行
- (5) 夜間の寝冷え対策の励行

第7章 旅行、火災予防、その他

第32条 外泊、旅行および帰省するものは、寮生準則第17条により所定の手続きをするものとする。

第33条 帰寮時間は22時とする。

第34条 寮生が外泊等の理由により欠食を希望するときは、4日前までに寮食堂に欠食届を提出しなければならない。

- 2 正規の届け出をしない欠食は欠食と認めない。
- 3 欠食は1食単位とする。ただし、本人が寮内にいる場合は、正当な理由がなければ欠食を認めない。
- 4 原則として20時00分以降の食事は認めない。

第35条 病人用の食事を希望するものは、食事委員に申し出るものとする。

第36条 寮生は、寮生準則第18条に示すとおり、火災予防に細心の注意を払わなければならない。

- 2 登校時の最終離室者は、火気の有無を点検しなければならない。

第37条 寮生が掲示を行う場合は、寮長の許可を得なければならない。

第38条 寮長は、寮務主事の下に、新入寮生に対して寮に関するオリエンテーションを計画実施しなければならない。

第8章 選挙管理委員会

第39条 選挙管理委員会（以下「選管」という。）は、第7条に定められた選挙を行うために設置される。

- 2 選管は、各学年から推薦された2名ずつの委員をもって構成する。
- 3 選管委員長は、委員の互選によって選出する。
- 4 選管は、選挙が公正に執行されるよう管理する。

第40条 選挙の期日は、役員会で決定する。

第41条 選管は、選挙期日の少なくとも10日前に置かななければならない。

第42条 選管は、その構成員の4分の3以上の出席による成立し、議決はその出席者の過半数の賛成による。

第43条 選管は、選挙に関する次の事項について選挙期日の少なくとも4日前に決定しなければならない。

- (1) 候補者の推薦の方法の決定
- (2) 立候補者の意見発表会及び推薦演説会の必要の有無，並びにその期日及び方法
- (3) 投票方法
- (4) 多数決，過半数など当選者決定の方法
- (5) 選挙に立ち会う委員の数
- (6) その他必要事項

第44条 前条第4号の場合において，過半数による当選者が選出されない場合は，学生会細則に準ずる決選投票を行う。

第45条 その他選管に関することは，本校学生会規約細則に準じて行う。

第9章 罷 免

第46条 会員は，役員会の活動が不活発であったり，好ましくない状態にあるとき，会員の3分の1以上の署名を持って寮長に役員会の解散願いを提出することができる。また寮長が署名発起人になったときは，監査が会計監査の業務を離れて願いを受理する。

2 前項によって提出された願いは，受理者が速やかに公示するとともに特別総会を招集する。

3 特別総会で出席者の3分の2以上が解散に同意するときは，役員は辞任しなければならない。

第47条 新役員が選出されるまでの事務処理は，前役員が引き続いて行う。

附 則

1. この規約は，本会運営の大綱を示すもので，この規約に記載されない事項については，本校学生会規約及び同細則を準用するものとする。準用に際し疑義のある事項については，寮生会で決定する。

2. この規約は，寮生準則第8条に基づいて，総会の議決により，改正することができる。

3. この規約は，平成5年4月1日から実施する。

附 則

この規約は，平成13年10月1日から実施する。

附 則

この規約は，平成15年4月1日から実施する。

(出典：群馬工業高等専門学校寮生会規約)

資料7-2-③-5 学生寮の年間行事

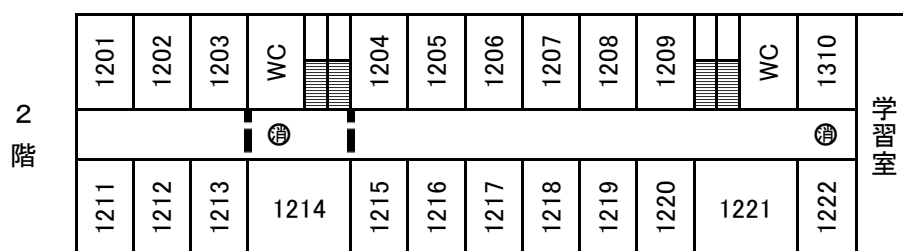
1. 群馬高専学寮の歳時記

(鴻志寮・藤寮)

4月初旬	留学生ガイダンス	約1週間
〃	開寮	入学式の前日
〃	入寮式	〃 当日
4月中旬	対面式(新入寮生歓迎会)	〃 約1週間後
〃	新入寮生への指導	約10日間
〃	〃 の自己紹介	指導期間に続く3日間
5月初旬	寮祭準備期間	連休後の約2週間
〃	〃 スポーツ	3～4種目
〃 中旬	〃 本祭	土・日の2日間
6月初旬	防災点検	避難訓練の前の3日間
〃	前期学寮防災避難訓練	消火器・放水・消火栓取り扱い訓練
6月下旬	寮生保護者懇談会	後援会総会当日
7月中旬	寮内清掃	夏期休業日の前日
〃	夏期休業による部分閉寮	卒研・部活等による残寮
〃 下旬	〃 完全閉寮	留学生・一部専攻科生以外
8月 末	開寮	
9月中旬	学寮見学会	第1回体験入学当日
〃 下旬	部屋替え	前期期末試験終了後
10月初旬	寮生総会	新寮生会役員承認
11月初旬	防災点検	避難訓練の前の3日間
〃	後期学寮防災訓練	早朝訓練, 消火訓練はなし
〃	学寮見学会	第2回体験入学当日
12月末	寮内清掃	冬期休業日の前日
〃	冬期休業による閉寮	
1月初旬	開寮	
2月上旬	5年生予餞会	寮生会役員表彰
2月下旬	5年生のみ退寮	
2月下旬	1～4年生部屋替え, 大掃除	後期期末試験終了後
3月初旬	完全閉寮	留学生・一部専攻科生以外

(出典 寮生便覧)

資料7-2-③-6 自習室の整備（北寮2階）



(出典：寮生便覧)

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

(進路体制)

- ・就職・進学の指導に対しては、学科教員・クラス担任を中心に対応している。(資料7-2-④-1) (資料7-2-④-2) (資料7-2-④-3) (資料7-2-④-4)
- ・平成19年度から各科に進路指導担当教員を設置し、進路に対する重点的な指導を行う。(資料7-2-④-5) (資料7-1-①-8)
- ・学生相談室では、進路のことで迷っている学生への相談に応じ、進学関係の資料の整理も行っている。(資料7-2-④-10)
- ・教務主事を中心に進路説明会を開催している。(資料7-1-①-5) (資料7-1-①-7) (資料7-2-④-4) (資料7-2-④-6) (資料7-2-④-7)
- ・「群嶺テクノ懇話会」と称する産学連携の組織を元に就職説明会を開催している。(資料7-2-④-8) (資料7-2-④-9)
- ・図書館および学生課事務室に、大学学部編入試験・高専専攻科入試試験・大学院入学試験問題を置き、誰でも閲覧できる状態にある。(資料7-2-④-10) (7-2-④-11)

(分析結果とその根拠理由)

進路指導担当教員を始めとして、学生相談室、科担任等が連携して、進学および就職に関する支援を行っている。保護者に対しても、説明会を開き、密接な連携を図っている。

以上のことから、進路指導を行う体制が整備され機能している。

資料 7 - 2 - ④ - 1 進路指導打ち合わせ会議就職資料：配布資料一覧

平成 19 年度進路指導打ち合わせ会議就職関係資料

就職に関する確認事項

文部省からの通知（平成 18 年 10 月 17 日付け）	資料 1
求人一覧表項目内容	資料 2 - 1
求人一覧	資料 2 - 2
健康診断書の取扱について	資料 3
進路指導に関する基本方針について	資料 4
求人票	資料 5
挨拶状	資料 6
礼状送付依頼用紙	資料 7
平成 19 年度就職担当教員	資料 8
教員室配置図	資料 9
公欠願	
就職のしおり（平成 19 年度）	

（出典：学生課作成資料）

資料7-2-④-2

進路指導打ち合わせ会議就職資料：就職に関する確認事項

就職に関する確認事項

1. 文部科学省からの就職に関する通知（平成17年10月18日付け）確認（資料1参照）
 - ア. 企業等の説明及び学生の会社訪問は7月1日以降とする。
 - イ. 学校推薦は、原則として7月1日以降とする。
 - ウ. 正式採用内定日は、10月1日以降である。

2. 本年度の本校の方針
 - ア. 企業からの求人関係書類（郵送・持参を問わず）は、学生係を受付窓口とする。従って、各科教員宛に郵送されてきた場合も、中身が明らかに就職関係と思われるものは、学生係が開封して処理する。また、関係書類が学生係を経由しないで、直接各科教員の手元に届いた場合は、いったん学生係へ転送する。
 - イ. 求人関係書類を各科に渡す場合は、学生係が必要事項を求人一覧表（資料2）に記入した後に行う。（企業、官公庁の2種類作成）
 - ウ. 受付事務を完了した求人関係書類は、各科（M高橋教員，E大手教員J須田教員，K戸井教員，C青井教員，専攻科脇田教員）に届ける。
 - エ. 求人一覧表について
 - (1) 求人一覧表は、速やかに作成し配付する。
 - (2) 配付先は各科とも就職担当主任とする。
 - (3) 配付部数は各科1部とする。
 - (4) 求人一覧表（企業）については、求人一覧表項目内容（資料2-1）を参照する。
 - (5) 求人一覧表は1葉の空欄がなくなった場合に配付（全学科同時）することを原則とするが、求人状況又は就職指導状況を考慮して適宜弾力的に処理する。
 - (6) 企業からの会社案内が1部しか送られてこない場合は、備考欄に記入してある学科に赴いて利用する。（求人票については各科にコピーを配付する。）
 - (7) 求人一覧表の学生への掲示及び求人関係書類の学生への閲覧は、当該書類受理後速やかに行う。閲覧場所は各科において決定するものとする。
 - オ. 就職応募書類について
 - (1) 企業等への応募書類（成績証明書、卒業見込証明書、健康診断書、推薦書）の提出は、原則として7月1日以降とする。
（やむを得ず7月1日以前になる場合は以下のとおりとする。）
 - (2) 成績証明書、卒業見込証明書、健康診断書の発行者は、校長名（写し）とする。
 - (3) 推薦書については、就職担当主任又は担任名等で発行するが、主任とは記さず、教授・というように個人名とする。
 - (4) 4月中旬までに教務係が5年生全員に成績証明書、卒業見込証明書を作成する。作成した2種類の書類を各科の主任に配付し、これを原本としてコピーしたものを就職担当者が就職書類に使用する。
 - (5) 健康診断書については、看護師が5月1日までに作成して配付するので、上記同様に扱う。ただし、この日以前に健康診断書が必要な場合は、学生個人の責任において、資料3により取り扱うこととする。
 - (6) 応募書類は、求人先締切日の3日前までに提出することを原則とする。

(7) 応募書類の発送は簡易書留速達とし、担当教員が種類を確認し、教員もしくは学生が宛名を記入の上、各自郵便局へ持って行く。郵便局では、受取書が発行されるので、各自で保管する。(書類が届かなかった場合に、受取書の記号番号で照会するので、受取書は必ず保管しておくこと。)

カ. 2つ以上の企業、あるいは官公庁と企業といったように重複して受験する学生には先決主義を守らせる。

キ. 学校の就職斡旋に関する基本方針について、5年生・専攻科2年生全員の保護者宛の文書(資料4)に対する回答を、各科の責任において保護者に求め、クラス担任が回収し保管する。

ク. クラス担任は、学生の面接を行い、進路希望を把握し指導を行う。

ケ. 進路に関する保護者との懇談会を各科ごとに行う。

コ. 本校の求人票(資料5)、学校要覧等の送付の依頼があった企業に対しては、学生係が送付する。

サ. 就職に関する求人先への挨拶状について

(1) 挨拶状は、就職内定企業へ別紙様式(資料6)を送付し、挨拶状を送付する企業については各学科就職担当主任が判断する。

(2) 挨拶状の発信名は、原則として校長名とする。

(3) 挨拶状の発送については、挨拶状送付依頼用紙(資料7)に必要事項を記入(9月下旬頃学生係が就職担当主任に依頼)し、10月中旬までに学生係に提出する。その後、内定のあった学生については、随時受付する。

(4) 宛先は採用担当部(課)長宛とする。

シ. 来校する企業の人事担当者に対する対応について

(1) 学生課に来た求人者は、原則として学生係が各科に案内する。ただし、各科の担当者が不在の場合は、学生課が対応することもある。

(2) 案内先は、各科とも在室を電話で確認して案内する。各科教員の案内は、各科就職担当教員(資料8)を参照する。

(3) 主任及び担任は、就職業務が一段落するまでは、授業以外で教員室を長時間不在となる場合(出張・休暇・会議等)は学生係に連絡する。

(4) 2科以上にまたがって面接を希望する来校者の場合は、学生係がそれぞれの科に連絡するが、次の科への案内は、面談の済んだ科が行う。

(5) 来校者には、校内の案内図(資料9)を渡す。案内図の必要な科は、学生係に申し出ること。

ス. 就職活動に関しての欠席は公欠扱いとなる。公欠願(資料10)を使用する。ただし、単なる見学、会社訪問は除く。

セ. 合否(内定・決定・不採用)の通知(文書・電話)が教員に直接あった場合は、その旨を学生係に連絡する。就職内定のお礼状(資料6)は、内定通知が届き次第送付する。

※ 学校で1名の推薦枠については、原則として学科間で調整することとし、決定できない場合は学生主事が裁定するものとする。

(出典：学生課作成資料)

資料 7 - 2 - ④ - 3 進路指導打ち合わせ会議就職資料：就職のしおり

(表紙)

平成19年度

就職のしおり

(目次)

1. 就職活動にあたって

就職手続きの流れ	1
(1) 職業・会社選択にあたっての注意	2
(2) 書類作成・応募にあたっての注意	2
(3) 会社訪問(面接試験)	3
(4) 合否の通知・採用内定以後について	4

2. 本校の就職の傾向

(1) 卒業者数及び卒業後の進路	6
(2) 卒業生の地域別就職状況	7
(3) 卒業生の産業別就職状況	8
(4) 修了生の就職状況	9
(5) 就職先一覧	10

3. 資料(抜粋)

(1) 卒業予定者の就職内定状況調査	11
(2) 就職(内定)率の推移(高専男子)	15

(続く)

(就職活動にあたって)

(1) 職業・会社選択にあたっての注意

① 適性の把握

職業の選択にあたり、自分がどのような仕事に向いているか、いわゆる「自己の適性」を把握することが重要である。しかし、現実には、単なる学校の成績や好みだけでは的確に判断できない場合が多く、潜在的な能力や性格、興味の方向、価値観などを総合的に判断する必要があり、また、両親、卒業生などの意見を聞くことも重要であろう。

② 会社案内等の活用

各学科ごとに求人企業の会社案内等を展示し、学生が自由に閲覧できるようになっている。また、学生課においても各種の就職情報雑誌を閲覧することができる。

③ 保護者懇談会について

例年3月中旬～下旬に各科別の保護者懇談会を実施している。就職担当教員（学科主任、学級担任）、から本校の就職斡旋についての基本方針の説明と進路（会社等の選択）について懇談を行うので、自分の職業適性等について事前に十分相談しておくこと。

(2) 書類作成・応募にあたっての注意

① 履歴書作成について

- ア. 黒のボールペンもしくは会社指定の筆記用具を使用する。わかりやすく丁寧に書くことに心がけ、誤字・脱字には十分気をつけること。
- イ. 家庭欄には、同居している家族の範囲を書く。
- ウ. 資格は志望する企業等にとって、有利なものを記入すること。
- エ. 写真はスピード写真ではなくスタジオで撮影した証明書用のものとする。印鑑も、簡易スタンプ印は使用しないこと。

② 身上書作成について

- ア. 長所・短所については、あえて不利になることは記入しない。
- イ. 趣味については、面接等において質問される場合が予想されるので、担当者に詳しく説明することが出来るようなものを記入すること。
- ウ. 得意科目は、日頃の成績ではなく、学業に対する態度を知るためのものであるが、成績証明書と比較される点を考慮すること。

③ 健康診断について

健康診断書は、4月の定期健康診断を基に作成するので、必ず受けること。

なお、身体に異常がある場合は就職に重大な影響があるので、就職担当教員と十分相談すること。

④ 応募について

- ア. 原則として二つ以上の企業（又は官公庁）に重複した推薦はしない。
- イ. 内定した就職先の変更及び取消しは、特にやむを得ないと認められる場合以外は認めない。

（注）履歴書，身上書及び写真は早めに準備しておくとともに，提出した履歴書，身上書のコピーは必ずとっておくこと。

（3）会社訪問（面接試験）について

高専卒業生の採用にあたって，重視する要素を，文部科学省の調査から見ると，

- ①人物 34% ②身体 24% ③学業成績 22% ④採用試験成績 19%となっている。試験には，平素から健康に留意し体調を整えて臨むことはもちろん重要であるが，他に次のような点に留意するよう心がけること。

i 服装・所持品のチェック

現在，個性の求められている時代ではあるが，企業等が求めているのは，内面の個性であることを十分に認識し，次の点に留意すること。

- ア. スーツが望ましい。
- イ. ワイシャツは色柄のものではなく白が望ましい。また，ネクタイは，明るく若々しい色と柄のものがよい。
- ウ. 茶髪・長髪・ピアスは禁物であり，少なくとも耳がやや隠れる程度までがよい。
- エ. 靴は，黒が基本。先のとがったものやエナメルは不可。
- オ. 靴下は無地が無難。白の綿ソックスは避ける。
- カ. カバンは，あまりかさばらない物がよい。（与えられた資料を持ち帰ることができる程度の大きさのもの）
- キ. 学生証，手帳，ボールペン，シャープペンシル，印鑑，小銭を必ず持参すること。
- ク. 身体検査を行う場合があるので，下着にも気を配ること。

ii 学力試験のポイント

企業が行う筆記試験には，常識試験，専門試験，適性試験がある。試験結果を合否の重要な判断材料とする企業も多く，良い成績を取って面接時における印象を良くする必要がある。

常識問題は，英語（英文和訳，英作文），数学（計算，文章問題），国語（漢字読み書き）等で中学校から高等学校程度の実力が試される。市販の常識問題に目を通しておくとうぜんであろう。

専門試験は，学科の基礎的問題，英文和訳，場合によってはその企業の仕事内容に関連した問題が出される。基礎的問題にはきちんと答えられるようにしておく必要がある。ときには大変むずかしい問題も出題されるが，難問には，誰も解けないと考え，あわてずに，解くための努力をしている態度を示しておくことが大切であろう。

適性試験は，すべての企業で，内定の前後は別として一度は実施するので，常に心の準備をしておく必要があるだろう。

試験内容は，各企業により異なる。過去の事例を就職担当教員がある程度把握しているので

聞くとよい。

iii 面接試験のポイント

先に記したとおり、採用にあたって企業等は、人物を最重視し、面接に大きなウエイトを置いている。

面接試験では、次のようなことがマイナス要因となる。

- ・声が小さく、面接官が聞き取れない。
- ・分かっていないことを分かった振りをして答える。
- ・質問の意味を理解しないで答えてしまい、質問の答えになっていない。
- ・質問に対し、下を向いて黙っている。
- ・自分の良いところ、自分の特徴を自信を持って説明できない。
- ・元気がなく消極的と思われる。等々

上記を踏まえ、面接試験では次のようなことに注意し、最善の努力をすること。

- ア. 姿勢は正しく、視線はまっすぐ面接官に向けること。話の途中で質問者から目をそらしたり、天を仰いだり、上目遣いで質問者を見てはいけない。
- イ. 正しい言葉遣いで、はっきりと話すこと。特に、語尾をあいまいにしない。
- ウ. 敬語の使いすぎ、使用間違いをしない。
- エ. 予想もしなかった質問に対しては、落ち着いて考える時間を置き、自信を持って答える。また、あいまいな質問に対しては、臆病にならず、質問の意図をはっきり確かめてから答える。
- オ. なぜその会社を選択したか、その会社で何をしたいか、自分がどの様にその会社に貢献できるのかを明確に主張できるよう準備しておくこと。

過去の実例から面接時において高専の学生は、大学生、短大生に比べておとなしいとの印象がある。面接官の質問については、赤面したり、あがったりしても上記のことを踏まえて活発に対応すること。

iv 就職試験に行く場合は、必ず公欠願を提出すること。

(4) 合否の通知・採用内定以後について

① 内定後の通知

正式な内定通知は10月1日以降になるが、会社訪問（面接試験等）が終了すると、当日又は直後から2週間程度の間には電話等で合否の連絡がある。校内では就職に関する情報はすべて就職担当教員が把握できる体制であるので、連絡がない場合は就職担当教員に尋ねること。

なお、学校を経ないで内定の通知（口頭等）があった場合は、必ず就職担当教員に連絡すること。

② 内定後の辞退

内定を受けた後の辞退は後輩のために悪影響を与える恐れがあるので慎むこと。
なお、家庭の状況等でどうしても辞退しなければならなくなった場合は、就職担当教員に相談すること。

③ 内定から卒業まで

内定を受けた場合であっても、卒業できなかった場合、補導上の問題を起こした場合、交通事故等で身体的な問題が生じたなどの場合は、内定取り消しになる場合があるので、内定を受けたからといって学業をおろそかにしたり、開放感から交通事故などを起こしたりすることのないよう努力すること。

(出典：就職のしおり)

資料7-2-④-4 進路指導打ち合わせ会議進学資料および進路説明会資料：
高専専攻科入学・大学編入学のためのガイドブック

(表紙)

高専専攻科入学・大学編入学
のためのガイドブック

平成18年度

群馬工業高等専門学校

(目次)

○高専専攻科入学関係について**1 入学案内等**

(1) 入学定員	1
(2) 修業年限及び修了要件	1
(3) 専攻科の教育方針	1
(4) J A B E Eについて	1
(5) 学士の学位の取得方法	1
(6) 入学時に必要な諸経費	2

○大学編入学受験関係について**1 編入学受験に当たって遵守すべき事項** 3**2 編入学受験に当たって注意すべき事項**

(1) 手続の流れ	
(2) 大学編入学に当たっての必要:	
(3) 大学選択に関する注意	5
(4) 書類作成, 応募に当たっての注意	5
(5) 受験に当たっての注意	
I 学力試験における注意	6
II 面接試験における注意	7

3 編入学受験等スケジュール 9**4 資料**

(1) 群馬高専学生専攻科入学状況	10
(2) 平成19年度編入学生募集大学一覧	11
(3) 大学編入学・進学及び専攻科入学状況	20
(4) 平成16年3月卒業者の大学院進学状況	22

(出典：高専専攻科入学・大学編入学のためのガイドブック)

資料7-2-④-5 進路指導体制

平成18年 月 日

校長 裁定

進路指導体制について（案）

1 一般教科，学科に専任の進路指導担当教員（以下「指導教員」という。）を置く。

（一般教科指導教員）

2（1）一般教科（人文等）及び（自然）に指導教員を置く。

（2）指導教員は，原則として教授とする。

（3）指導教員は，一般科目の受験指導に関する教科教員への連絡調整業務を担当する。

（学科指導教員）

3（1）学科に指導教員を置く。

（2）指導教員は，原則として教授とする。

（3）学科指導教員は，進路指導を担当する。

4（任期）

（1）一般教科の指導教員の任期は，2年とする。ただし，1年毎に更新できるものとする。

（2）学科の指導教員の任期は，3年とする。ただし，1年毎に更新できるものとする。

（3）指導教員は，校長が委嘱する。

（進路指導教員会議）

5 指導教員間での有機的連携を図るため，進路指導教員会議を開催する。

（1）教務主事は，本科進路指導教員会議を主宰する。

幹事は，教務専門委員（進路担当）とする。

（2）専攻科長は，専攻科指導教員会議を主宰する。

幹事は，専攻科専攻主任とする。

（3）進路指導教員会議の事務は，学生課が処理する。

（施行）

1. 本裁定は，平成19年度本科4年次及び専攻科1年次の学生から適用する。

（出典：平成18年8月29日主事主任会議資料）

資料7-2-④-6 4年生保護者対象の進路説明会の案内

4年クラス担任各位

小島です。お世話になっております。

後援会主催の進路説明会を9月9日(土)の14時から行います。大講義室です。全体説明会の後に、クラス別懇談会を実施していただきますよう、お願いします。会場は各HRで、正副担任どちらか1名の先生で対応してください。

14時から全体説明会を行いますので、そこにも参加してください。冒頭、ご紹介させていただきます。

全体説明会は、下記のように実施します。

不明な点などありましたら、小島まで連絡してください。

よろしく申し上げます。

(全体説明会 14時～15時30分)

1. 開会

2. 挨拶 後援会長
本間校長

3. 出席者紹介
教務主事, 学生主事, 専攻科長, 学生相談室長,
4年クラス担任

4. 進路説明について

①全般 教務主事

この中で5年生3名, 専攻科生2名が体験発表を行います。

②就職関係 学生主事

③専攻科関係 専攻科長

④学生相談関係 相談室長

5. 質疑応答

6. 閉会

(クラス別懇談会 15時30分～, 各HR クラス担任主導)

(出典: 2006年8月15日付け教務主事からの電子メール)

資料7-2-④-7 4年生進路説明会の案内

4年正担任各位

こんにちは、お世話になっております、教務専門委員の
横山@です。

今年度の4年生進路説明会は、よりきめ細かい指導をという
各科の希望で、青木先生、木村真也先生おふたりで、進学に
絞って各クラスごとにお話をさせていただくことになりました。

9月中に行なうように、しかも定期試験中は避けたほうがよい
とのこと。おふたりの先生のご都合を合わせると、

9月の、4（月）、6（水）、7（木）、11（月）、19（火）

で各クラスの調整をおこなわなければなりません。つきましては、
お忙しいところ恐縮ですが、クラスのご都合をお聞かせください。
どうしても避けるべき日がありましたらお知らせください。
どこでもよい場合でも、確認のメールをいただければ幸いです。

（出典：2006年8月24日付け電子メール）

資料7-2-④-8 企業説明会の案内

平成19年4月4日

本科4・5年生，専攻科1・2年生へ

群嶺テクノ懇話会会長 舩澤恭一

群馬工業高等専門学校長本間 清

企業技術説明会の実施について

学生の皆さんは新学年を向かえ，希望に胸をふくらませていることと思います。

皆さんの中には，高専卒業後，あるいは専攻科修了後，さらに大学，または大学院修了後に，群馬県内の優良企業で活躍したいと計画されておられる方も多いと思います。

この度，本校の支援機関である群嶺テクノ懇話会では，会員企業（別紙26社）の業務内容や保有技術などを，群馬高専の学生諸君に紹介する説明会を開催します。

将来，地域の産業界で活躍したい学生諸君への参考となればと考えております。

つきましては，就職を目指している学生さん達はもちろんのこと，進学を希望している学生さんにも参考になりますので是非参加し，企業の方々から色々なお話を聞いて下さい。

1. 日時 平成19年4月6日（金）14時00分～16時30分
2. 会場 群馬工業高等専門学校大会議室（群嶺会館2階）
3. 実施方式 企業と学生との直接面談方式
※企業ごとにテーブルと椅子を用意し，学生がそのテーブルに直接面談に行く方式です。
4. 問合せ先 機械工学科教授下田祐紀夫

（続く）

5. 参加企業

株式会社 赤城商会（渋川市）

会社紹介：コンクリート製品の製造、販売及び三井ホームの設計・施工を行っています。

NSKニードルベアリング株式会社（高崎市）

会社紹介：主に自動車向けニードルベアリングを製造しています。

株式会社 桂機械製作所（前橋市）

会社紹介：コンクリートブロック・インクーロッキングブロック製造装置の専門メーカーです。

株式会社 神垣鉄工所（前橋市）

会社紹介：圧力容器（レトルト殺菌機、真空乾燥機）の製造を行っています。

共和産業 株式会社（高崎市）

会社紹介：F1、ロケット、航空機等の開発試作部品の精密加工を行っています。

株式会社 キンセイ産業（高崎市）

会社紹介：焼却装置・熱エネルギープラントの製造販売を行っています。

群栄化学工業 株式会社（高崎市）

会社紹介：「樹脂」と「糖」の2つを柱とするユニークな化学メーカーです。

コガックス 株式会社（伊勢崎市）

会社紹介：カーエアコン用コンプレッサー部品の製造を主力とし、その他自動車部品の製造をしています。また、社内にて省力機器の設計・製作をしています。

澤藤電機 株式会社（太田市）

会社紹介：商用車用電装品、ポータブル発電機、小型電気冷蔵庫の開発・製造・販売を行っています。

サンデン 株式会社（伊勢崎市）

会社紹介：カーエアコンシステムや自動販売機等の研究開発・製造を中心に、23カ国52拠点に事業展開をしています。

サンヨー 株式会社（藤岡市）

会社紹介：金型の設計・製造と精密部品加工、精密治工具の設計・製作を行っています。

三陽測量 株式会社（前橋市）

会社紹介：安全・安心・環境を考える建設コンサルタント会社です。

三洋電機 株式会社東京製作所（大泉町）

会社紹介：環境とエネルギーの先進メーカーです。

株式会社 重松製作所（東京都千代田区、埼玉県さいたま市）

会社紹介：防じん・防毒マスクの製造を行っています。

末広産業 株式会社（前橋市）

会社紹介：高速道路等のコンクリート構造物をスリップフォーム工法にて施工しています。

東京レーダー 株式会社 藤岡事業所（藤岡市）

会社紹介：モバイル・コミュニケーションの開発・設計・製造を行っています。

東邦工業 株式会社（安中市）

会社紹介：パソコン・携帯電話・デジカメ等のプラスチック製品の製造を行っています。

日本カーリット 株式会社（渋川市）

会社紹介：化学・工業薬品・電子部品の製造がコア事業です。

日本ハイコム 株式会社（前橋市）

会社紹介：自動車生産技術エンジニアリングの会社です。

藤田エンジニアリング 株式会社（高崎市）

会社紹介：総合設備工事を主体とするエンジニアリング企業です。

株式会社 古川製作所（太田市）

会社紹介：産業用ロボットシステムの開発，製造，販売を行っています。

株式会社 ミツバ（桐生市）

会社紹介：二幅・四輪自動車用電装品の開発・製造・販売を行っています。

有限会社 三山産業（高崎市）

会社紹介：IT業界を影で支える精密ダイヤモンドカッターのベースメーカーです。

株式会社 ヤマト（前橋市）

会社紹介：空調・衛生設備の設計・施工を行っています。

株式会社 吉野工業所 群馬工場（藤岡市）

会社紹介：飲料用PETボトル，食品，化粧品，薬品，洗剤等のプラスチック容器の総合製造メーカーです。

株式会社 両毛システムズ（桐生市）

会社紹介：コンピュータソフトウェアの会社です。

合計26社

（出典：群嶺テクノ懇話会資料）

資料7-2-④-9 企業説明会の参加人数

参加学生数 約 120名

（出典：研究推進地・域連連携系の調べをもとに作成した資料）

資料7-2-④-10 過去問題一覧

H18 入手 図書館にある過去問一覧

入試年度 (=入学年度)

大学	学部	学科	18	17	16	15
愛知県立	情報科学部	情報システム				
秋田	工学資源学部		210	166		
茨城	工学部		230	112	111	110
茨城	理学部		231			
茨城	農学部					
岩手	工学部					
岩手県立	ソフトウェア情報学部		227	180		
岩手県立	看護・社会福祉・総合政策			180		
愛媛	工学部		222	122		
愛媛	理学部		197	167		
大分	工学部			162		
大阪	工学部		234	145		
大阪	工学部		234	145		
大阪	基礎工学部		224	179		
大阪府立	工学部		215	143		
大阪府立	総合科学部					
大阪市立	理学部		199	174		
大阪市立	工学部					
お茶の水	理学部					

.....

(出典：学生相談室作成資料)

資料7-2-④-11

平成19年度 学生募集大学院一覧

No	大学院名等	募集研究科等	出願期間	試験日	合格発表	備考
1	北海道 大学大学院	情報科学研究科	要項参照	8/3, 4	8/11	
2	宮城 大学大学院	事業構想学研究科	5/22 ~ 5/29	7/1	7/12	
3	東北 大学大学院	生命科学研究科	要項参照	要項参照	要項参照	
4	名古屋工業 大学大学院	工学研究科	5/8 ~ 5/12	7/3	7/14	
5	東北 大学大学院	工学研究科	6/2 ~ 6/8	7/3	7/5	
6	大阪 大学大学院	工学研究科	7/25 ~ 7/28	8/21, 22 23, 24	9/4	
7	広島 大学大学院	理学研究科	6/16 ~ 6/22	7/3	7/12	
8	長岡技術科 学 大学大学院	工学研究科	要項参照	要項参照	要項参照	
9	広島 大学大学院	先端物質科学研究科	6/19 ~ 6/23	7/7	7/24	

.....

(出典：学生課作成資料)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・1年生にはバス旅行，2年生は1日研修，3年生は一泊2日の合宿研修，4年生に対してはクラス毎に進路説明会を実施している。
- ・学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制については，準学士課程はクラス担任の2人体制，専攻科課程は，各専攻とも副専攻科長が，学生の学習上の相談および助言を行っている。
- ・クラブ活動については，主任顧問を中心とした複数顧問制により実施している。
- ・学生相談室，留学生委員会，進路指導担当教員等によって学生支援の体制が整っている。
- ・TOEICテストを3年次と4年次の全学生には受験させ，コンピュータを利用した自習システム等を構築して資格試験に対する支援がされている。

(改善を要する点)

- ・該当なし。

(3) 基準7の自己評価の概要

- ・学習を進める上でのガイダンスの実施状況については，準学士課程入学者全員に対して説明会を実施している。また，1年生にはバス旅行，2年生は1日研修，3年生は一泊2日の合宿研修，4年生に対してはクラス毎に進路説明会を実施している。専攻科課程では，1年生および2年生全員を対象にガイダンスを行い，学習内容，年間の授業計画，進路等の説明を行っている。
- ・学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制については，準学士課程はクラス担任の2人体制が，専攻科課程は，各専攻とも副専攻科長が，学生の学習上の相談および助言を行っている。
- ・全教員のオフィスアワーを設定し，各教室に掲示するとともに，ウェブ上でも公開し，学生に周知している。
- ・学生相談室は，個別相談の他に，1年生～3年生を対象にシグマテスト(教育相談のための総合調査，4年生，専攻科1年生を対象にGHQ(精神健康調査)を実施している。
- ・1年生，2年生の成績不振者を対象にクラス担任および科目担当教員の指導のもとにチューター(準学士課程5年生，専攻科課程1・2年生)が，自主学習のやりかたを中心に，学習指導を行っている。
- ・自主的学習や補習の場として，講義棟改修により整備された学生ホール，自主的学習の場として機能している図書館，情報処理教育センター，設計実習室(機械工学科)，実習工場(機械工学科)が整備され，効果的に利用されている。
- ・福利厚生施設として，食堂，購買および合宿研修施設がある。コミュニケーションスペースとして，学生ホール，図書館ホールがある。
- ・授業料免除に関しては学生便覧，掲示板，担任等により学生へ周知している。
- ・TOEICテストを3年次と4年次の全学生には受験させ，コンピュータを利用した自習システム等を構築し，学生が自主的に学習する環境を提供している。さらに学生が国際的な広い視野をもて

るように、中国の上海工程技術大学と教育学術連携協定を締結し、4年生、5年生、専攻科生を派遣している。

- ・留学生の指導に関しては外国人留学生規則に基づき、留学生委員会を設け、留学生指導教員および留学生相談員により学習指導を行っている。
- ・障害を持つ学生に関しては、過去に在籍した障害を持つ学生のためにスロープ・エレベータを設置し、その後も順次バリアフリー化を進めている。
- ・クラブ活動については、本校には22クラブ（運動部12，文化部10），6愛好会がある。クラブ活動に対する支援は主任顧問を中心とした複数顧問制により実施している。
- ・学生会活動に対しては学生会規約に基づき学生主事・学生会専門委員及び顧問教員による指導助言が行われている。各種委員会に対しては主任顧問を中心に複数の教官による支援を行っている。
- ・学生の生活面に関しては、全学的な指導は学生主事，厚生補導専門委員，厚生補導委員会が中心になって行っている。
- ・留学生に対する支援・教育指導および必要事項に関する審議は「留学生委員会」が行う。具体的な指導は、校長が委嘱した「留学生指導教員」が行い、さらに留学生相談員（チュータ）が勉学および生活面のサポートを行っている。
- ・障害のある学生に対する支援については、学内での生活に支障が出ないように、エレベーター・身障者用トイレ・車椅子用スロープを設置するなどのバリアフリー化を行っている。
- ・学生に修学の便宜を与えると共に、共同生活を通じて豊かな人間を形成するために、寮務主事・寮務専門委員・寮務委員会・学生生活係長・舎監・寮母を中心に指導を行っている。
- ・寮務主事指導の元、寮生による寮生会を組織し、学生寮の運営改善を図っている。
- ・就職・進学への指導に対しては、学科教員・クラス担任を中心に対応している。平成19年度から各科に進路指導担当教員を設置し、進路に対する重点的な指導を行う。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点到に係る状況）

本校は、敷地総面積114,128㎡、建物総延面積31,142㎡を有している。用途別では、所有地及び用途別建物面積（資料 8-1-①-1）のとおりである。

資料 8-1-①-1		用途別建物面積	
所有地		用途別建物面積	
区分	面積 (㎡)	区分	面積 (㎡)
校舎等敷地	59,648	校舎	17,996
学生寮敷地	12,569	図書館	1,502
運動場等	27,266	体育館	2,869
西湖（その他）	14,645	福利施設	1,567
敷地総面積	114,128	学生寮	3,894
		管理部	2,089
		その他	1,227
		合計	31,142

（出典：学校要覧の施設の概況等を基に作成）

主な建物及び施設は、次のとおりであり、配置は校内配置図及び建物平面図（資料 8-1-①-2）のとおりである。（〔 〕内の数字は、「校内配置図及び建物平面図」の数字を示す。）

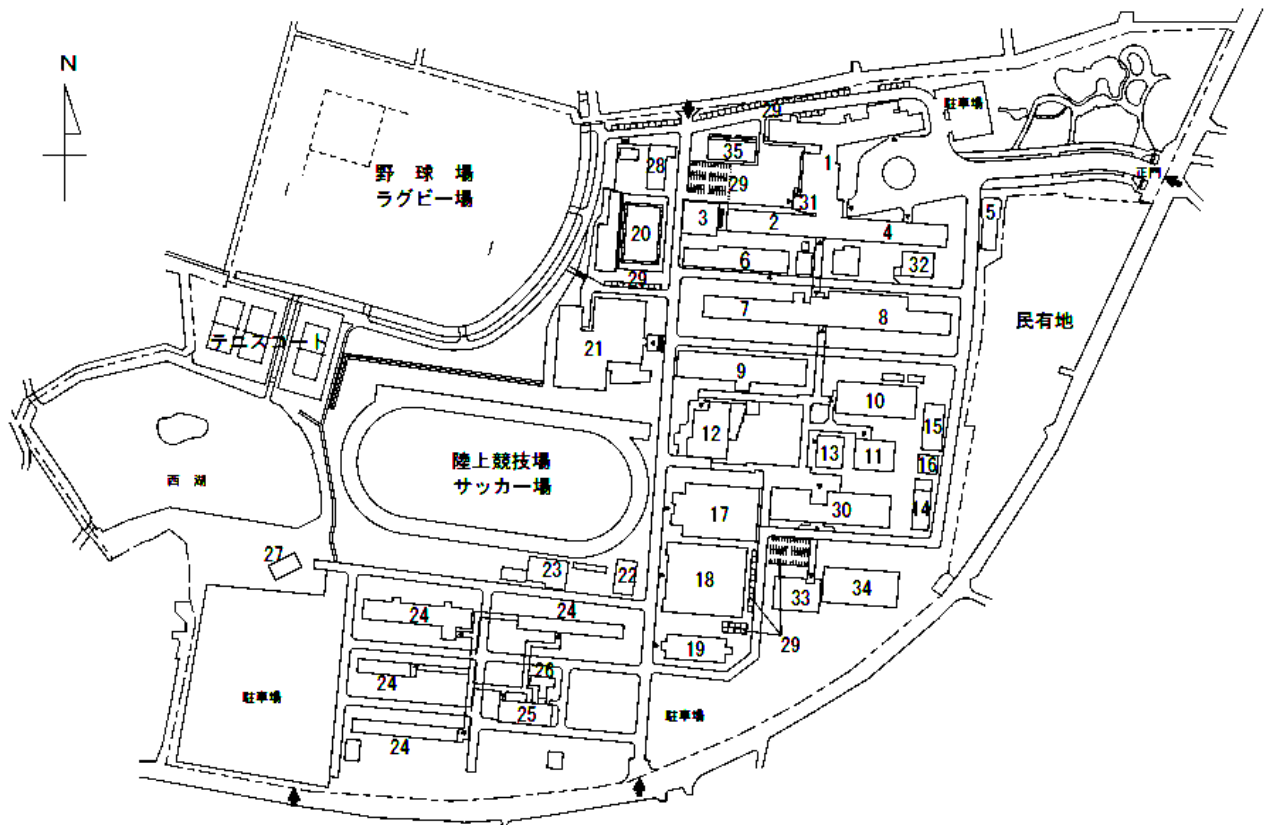
- 管理棟・一般教科棟〔1〕（物理実験室、磁気・電子実験室、保健室、学生相談室、教員室、事務室等）
- 第1講義棟・第2講義棟〔2, 3〕（1～3年教室）
- 第3講義棟〔34〕（4・5年教室、ゼミナール室、教員室、地域共同技術開発センター）
- 電子情報工学科棟西側〔30〕（4・5年教室、大講義室）
- 専攻科棟〔33〕（実験室、ゼミナール室、視聴覚室、コンピュータ室、専攻生室、教員室）
- 専攻科講義室〔13〕
- 各専門学科棟〔4, 7, 8, 10, 11, 30〕（実験室、実習室、教員室等）
- 情報処理教育センター〔6〕（演習室、教育電算室・校内LANサーバ室）
- 図書館〔21〕（図書館、マルチメディア教室、LL教室、語学演習室等）
- 機械工学科実習工場、実習工房〔9, 32〕
- 体育施設〔18, 17, 19, 22, 20〕（第1体育館、第2体育館、武道場、体育共用センター、プール、野球・ラグビー場、陸上競技・サッカー場）
- 群嶺会館〔12〕（学生食堂、大会議室等）

○課外活動施設〔35, 23〕（課外活動施設, 合宿研修施設）

○学生寮〔24, 25, 26〕（男子寮, 女子寮, 食堂, 浴室, 談話室, 補食室, 事務室等）

資料 8-1-①-2

構内配置図及び建物平面図



- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 管理棟 | 20. プール |
| 2. 第1講義棟 | 21. 図書館 |
| 3. 第2講義棟 | 22. 体育共用センター |
| 4. 環境都市工学科棟 | 23. 合宿研修施設 |
| 5. 衛生実験室 | 24. 学寮 |
| 6. 情報処理教育センター | 25. 学寮食堂 |
| 7. 機械工学科棟 | 26. 学寮浴場 |
| 8. 電子応用工学科棟 | 27. 職員集会所 |
| 9. 機械工学科実習工場 | 28. 車庫 |
| 10. 物質工学科棟Ⅰ | 29. 駐輪場 |
| 11. 物質工学科棟Ⅱ | 30. 電子情報工学科棟 |
| 12. 群嶺会館（学生食堂） | 31. 学生ホール |
| 13. 専攻科講義室 | 32. 実習工房 |
| 14. 生活廃水処理施設 | 33. 専攻科棟 |
| 15. 廃液等管理室・化学工業廃棄物公害実験室 | 34. 第3講義棟・地域共同技術開発センター |
| 16. 化学工業廃棄物公害実験機器室 | 35. 課外活動施設 |
| 17. 第2体育館 | |
| 18. 第1体育館 | |
| 19. 武道館 | |

（出典：学生便覧）

各クラスにおける講義科目については、原則としてクラスごとに配置した教室で実施しており、クラスごとの教室配置は、クラス別教室一覧（資料 8-1-①-3）のとおりである。実験・実習及び卒業研究などは共通教室又は実験室を使用しており、主な共通教室及び実験室の種類及び使用状況は、主な共通教室等使用状況一覧（資料 8-1-①-4）のとおりである。また、各科に設置されている実験室・実習室及びその設備状況は、主な共通教室・実験室・実習室等設備一覧（資料 8-1-①-5）のとおりである。

資料 8-1-①-3

クラス別教室一覧（準学士課程）

平成19年4月1日現在

棟名	教室番号	面積(m ²)	在籍者数	クラス名
第1講義棟	1-102	90	41	1年1組
	1-103	90	41	1年2組
	1-104	90	41	1年3組
第2講義棟	2-101	98	41	1年4組
	2-102	98	41	1年5組
第1講義棟	1-202	90	42	2年1組
	1-203	90	41	2年2組
	1-204	90	42	2年4組
第2講義棟	2-201	98	42	2年3組
	2-202	98	42	2年5組
第1講義棟	1-302	90	41	3年機械工学科
	1-303	90	41	3年電子メディア工学科
	1-304	90	38	3年電子情報工学科
第2講義棟	2-301	79	44	3年物質工学科
	2-302	79	44	3年環境都市工学科
第3講義棟	3-201	80	43	4年物質工学科
	3-202	80	41	4年電子情報工学科
	3-303	80	42	4年機械工学科
電子情報 工学科棟	J-101	75	33	4年環境都市工学科
	J-102	75	40	4年電子メディア工学科
第3講義棟	3-401	80	46	5年機械工学科
	3-402	80	33	5年電子メディア工学科
	3-403	80	33	5年環境都市工学科
	3-301	80	38	5年物質工学科
	3-302	80	38	5年電子情報工学科

(出典：学生課資料)

資料 8-1-①-4

主な共通教室等使用状況一覧（平成18年度〔後期〕開設授業科目における使用教室等）

名 称	面積	月	火	水	木	金	備 考
設計実習室 (機械工学科棟)	159	2	3			3	
各種実験室 (")	—	2	2	2	6	2	
機械工学科実習工場	579	6	2	4	6	5	
電気機械実験室 (電子メディア工学科棟)	124	2			4	4	
電気工作実習室 (")	49	2			4		
ネットワーク実験セミナー室 (")	59	2			4	4	
電子メディア工房1 (")	159	4	4		4	4	
各種実験室 (")	—	2	2	2		2	
情報処理実習室 (電子情報工学科棟)	120	3			3		
電子情報基礎実験室 (")	83		3		3	3	
情報応用実験室 (")	83				3		
各種実験室 (")	—	2			2	4	
構造実験室(102) (環境都市工学科棟)	60					(4)	
水理・土質実験室(107) (")	159		(4)				
創造・情報工房(207) (")	159	2	4			4	
各種実験室 (")	—	2	4		4		
学生実験室(1) (物質工学科棟Ⅰ)	112	4				4	他化学実験で数回
学生実験室(2) (")	112					4	
生物工学学生実験室 (物質工学科棟Ⅱ)	125	4			4		
各種実験室 (物質工学科棟Ⅰ・Ⅱ)	—	2	4		4	2	
第1演習室 (情報処理教育センター)	142	2	2	2	6	2	
マルチメディア教室 (図書館1階)	120	6	4	4	6	2	
LL教室 (" 2階)	125		2				
専攻科講義室S-103	175	6	6	4	4	6	
講義室S-101 (専攻科棟1階)	38	4	4	2	4		
第2ゼミナル室S-301 (" 3階)	58	4	2	2	2	2	
第1ゼミナル室3-203 (第3講義棟2階)	45			2	4		
大会議室 (群嶺会館2階)	131	研究発表会, 各種説明会, 会議等					
大講義室 (電子情報工学科棟2階)	237	研究発表会, 各種説明会, 会議等					

(注) () 数字は, 授業内容に応じて使用することを示す。

(単位: m², コマ (2コマ=90分))

(出典: 学生課資料)

資料 8-1-①-5

主な共通教室・実験室・実習室等設備一覧

棟名 教室等名(室番号)	面積 (㎡)	利用対象 学生数	主 な 設 備
◎一般教科棟			
磁気電子実験室	78	30	超伝導電磁石, 常伝導電磁石, 核磁気共鳴分光装置, パソコン15, 机7, IS0ラック5, 書庫2, 大電流電源1, 極低温冷凍機
物理実験室(301)	172	400	実験台15, 物品庫20, 各種実験用物品
◎第1講義棟			
留学生ゼミ室(205)	30	9	テーブル4, 机4, テレビデオ, 3連ロッカー
ゼミ室(303)	30	9	机5, パソコン8, プリンタ, 物品庫2, ホワイトボード
◎環境都市工学科棟			
光弾性実験室(101)	30	40	光弾性実験装置, 暗幕
構造実験室(102)	60	110	万能試験装置1セット(計測PCを含む), 本棚3, 大型テーブル4, テーブル, 流し台
コンクリート実験室(106)	61	40	凍結融解装置, 万能試験機, 流し台, 実験台3
水理・土質実験室(107)	159	40	恒温高湿室, 水理実験装置, 実験台4, 流し台
地盤・耐震・応用力学研究室	90	20	机9, 書庫2, テーブル5, 振動台2
環境情報研究室	31	8	机4, パソコン8, プリンタ2, 黒板, OAラック5, 書庫2
創造・情報工房(207)	159	40	製図机48, 視聴覚機器, 製図庫
都市交通研究室	30	6	書庫6, パソコン6, 机2
水工水理研究室	30	8	パソコン4, プリンタ2, 机4, 書庫2
地震防災研究室	30	8	本棚, 机6, テーブル
材料研究室	31	7	パソコン4, プリンタ, 実験台3, 書庫3
先端共通ラボ(311)	80	28	机5, 物置, パソコン, テーブル3, 書庫3, 棚2台, 実験台, 乾燥機, 冷蔵庫2, クリーンベンチ, 流し台
◎衛生実験室			
実験室	134	40	ドラフト, 実験台, 作業台, 恒温槽
準備室	19	5	薬品庫, 顕微鏡
測定室	19	5	パソコン7
◎実習工房			
演習準備室	156	40	大テーブル10, 実験テーブル5, 棚8, 視聴覚機器
ピロティール	80	40	実験テーブル
◎機械工学科棟			
制御工学実験室	29	3	ねじ締め用直交座標型三軸ロボット, 研究用電動車いす2, 油圧制御装置, 歯車振動試験装置, パソコン3

制御工学実験室	2 9	7	小型産業用多関節ロボット, 噴射乾式油圧制御装置, 本棚2, 実験台2, 流し台
材料力学実験室	5 9	5 8	引張試験機2, ねじり試験機, 回転曲げ試験機, 作業台4, 計器多数, パソコン7
電顕室	2 9	4	電子顕微鏡
加工技術実験室	5 9	4 5	電解複合研磨実験装置, 精密切断機, 流し台2
工業材料実験室	2 9	4 5	スパッタ装置, 電気炉
加工技術研究室	2 9	9	机6, 整理棚3台, コンプレッサ, 実験装置, 流し台
研究支援室	2 9	6	電子顕微鏡, 薬品保管庫3, 書庫3
エネルギー系実験室	8 0	2	水撃ポンプ, 燃焼器, 質量流量計2, 赤外線レーザー, 電子天秤, 排気ダクト
機械力学研究室	2 9	5 0	パソコン4, ねじ締付け試験機(自作)2, 書庫, 整理棚2, ロッカー, 作業台5, 流し台, 冷蔵庫
機械力学研究室	2 9	5 0	教育用CADシステム(WS3台), パソコン2, プリンタ3, 整理棚
工業材料研究室	2 9	4 5	スパッタ装置, 机
メカニズム研究室	5 9	5 3	プリンタ, パソコン5, 机7, 流し台2, 書庫1, 自作装置1(3×3m), コンプレッサ-2
流体研究室	3 9	9	パソコン3
教育器材室	2 9	4 2	コピー機, FAX, 電動ハンチ, イースイッチ等, サーバ4, パソコン2, 机8, 書庫, 保管庫, プロジェクター
材料力学研究室	2 9	9	パソコン11, プリンタ4, 書庫1, 机10
設計実習室	1 5 9	2 8 0	製図板45, 整理棚3, 教育用3次元CADシステム(パソコン45, プリンタ)
◎電子メディア工学科棟			
情報通信実験室 1	2 9	1 2 0	パソコン2, プリンタ2, 書庫, ロッカー3, 電気・電子装置多数
情報通信実験室 2	2 9	8 0	パソコン3, プリンタ2, 書庫3, 倒立振子, 各種電気・電子装置等多数
情報幾何学研究室	3 0	4 0	パソコン3, プリンタ2, 書庫3, 流し台, 冷蔵庫, ネットワークアナライザ, マイクロ波(電波)関係の装置多数, シュリーレン装置1台, 各種電源多数, オシロスコープ3, ファンクションジェネレータ, 各種電気・電子装置多数
照明実験室	2 9	1 0 0	照明実験装置, 高電圧パルス発生器, サイスタチョップユニット, 高周波電源, 各種写真撮影装置, 書庫, 保管庫2, 流し台
半導体研究室	2 9	4 0	パソコン6, プリンタ3, 書庫3, ロッカー, 流し台, 冷蔵庫, 各種電源多数, オシロスコープ5, 電気・電子装置多数
実験管理室	2 9	1 2 0	パソコン3, プリンタ2, 書庫3, 保管庫5, ロッカー, 流し台, 冷蔵庫, 各種特性測定器, 各種電気・電子装置多数
プラズマ・EPR 解析室	5 9	1 0 0	広帯域超音波発生装置, プラズマ解析装置, 気体放電実験装置, 常磁性共鳴吸収装置, マイクロ波発生装置, パソコン2, プリンタ, 書庫2, 棚2, 各種特性測定器, 研究用材料保管庫, 各種電気・電子装置

高電圧実験室	80	50	高電圧実験装置, シュリーレン法装置, エネルギーシステム実験装置, 各種放電実験装置, 発電電送配電装置, 新エネルギー装置
電気機械実験室	124	125	各種電動機, 発電機, 変圧器, 溶接器, 継電器等各種電源装置, 整流器・インバータ装置, 小型多関節系ロボット, 位置決め制御実験装置, パソコン2, プリンタ, 負荷装置, 書庫7, ロッカー6, 流し台, 電気・電子装置多数
電気工作実習室	49	200	ホール盤, アルミ板切断機等, ドリル, アルミ板折り曲げ機, 流し台, 書庫, ロッカー5, 各種保管庫多数, 電気・電子装置多数
セミナー・会議室	50	80	コピー機, 印刷機, ファックス, 会議用机6, 椅子12, 書庫2, 物品庫2, ロッカー4, 書籍ケース, 大型資料掲示・展示板
量子数理研究室	29	40	パソコン2, プリンタ, 冷蔵庫, 流し台, 書庫1, ロッカー3, 電気・電子装置
知識情報研究室	30	40	パソコン4, 書庫3, 流し台, 電気・電子装置多数
ネットワーク実験センター	59	200	メールサーバー・WWWサーバー・ネットワーク機器, パソコン15, プリンタ2, 書庫2, ロッカー, 流し台, 電気・電子装置多数
新機能素子研究室	29	40	パソコン, プリンタ, ロッカー, 流し台, 素子関係の装置, 電気・電子装置多数
電子材料実験室	80	50	電気炉1システム, 熱分析装置1システム, レーザー装置1システム, 各種真空チャンバー, 電気伝導度・ホール係数・AC帯磁率などの測定器1システム, 電気・電子装置多数, パソコン, プリンタ, ドラフトチャンバー, 書庫2, 流し台
電子応用研究室	59	100	パソコン9, プリンタ3, 書庫4, 流し台2, 電気・電子装置多数
実験管理室	29	120	パソコン2, プリンタ, 書庫3, ロッカー, 冷蔵庫, 流し台, ホール盤, フライス盤, レーザー, 電気・電子装置多数
電子メディア工房2	29	40	パソコン3, プリンタ2, 書庫, 流し台, オーディオアライバー, レーザー, FFTアライバー, テータレコーダ, 広帯域フィルタ, 電気・電子装置多数
音響実験室	59	40	各種機器の音響特性の測定, 音響・振動信号の計測及び処理実験装置多数, 電気・電子装置多数
電子メディア工房1	159	200	大型スクリーン, 情報コンセント1システム, 1学生あたり約1㎡の机上スペース, 電気・電子に関する各種基礎実験用の装置(機器)多数, 安定化電源多数, 信号発生器多数, オシロスコープ多数, 電子回路実験装置多数, ハルス回路実験装置多数, ロジック・トレナ, マイクロコンピュータ実験装置, パソコン25, 書庫2, 保管庫7, 冷蔵庫, 流し台2, 電気・電子装置多数, 実験用資材
◎物質工学科棟 I			
化学工学実験室	61	8	イソノマト3, パソコン6, UV, 薬品庫3
会議室	28	40	流し台, 会議用テーブル6, 椅子14

共通機器室	1 1 2	8	流し台2, 作業台6, CODリアクター1, ガス乾固装置, ホットプレス, 大型炭化炉, 超高温炉, 小型管状炉, タイヤモントカッター, ガスクロマトグラフ, TG/DTA熱分析装置, 乾燥機, インキュベータ, 恒温槽, 冷却機能付き恒温槽, 作業台6
機器分析・合成実験室	5 6	8	質量分析計, ドラフト, 流し台, 薬品庫, 作業台2, 冷蔵庫2
有機化学実験室	6 1	9	ドラフト2, 流し台3, 実験台, 高性能計算専用パソコン3, ワークステーション, 簡易真空ライン一式
学生実験室(1)	1 1 2	4 5	実験台6, 流し台4, ドラフトファンパー4, 器具戸棚6, 乾燥機(オープン)
耐水実験室	2 8	4	ドラフト2, ローリーエバポレーター, 流し台3, 実験台(大)2, テーブル, 金属製台, 特殊蒸留装置一式
機器分析室	2 8	8	ドラフト(900mm), 実験台3, 流し台, 蛍光分光器, 電気化学測定装置, キセノンランプ, 高速液体クロマトグラフ, 試薬棚
物理化学実験室	9 6	9	ドラフトファンパー, 流し台2, 実験台3, 机9, パソコン4, プリンタ4, 書庫4
学生実験室(2)	1 1 2	4 0	実験台6, 流し台4, ドラフトファンパー4, 器具戸棚6, 乾燥機(オープン)
無機化学実験室	8 4	6	ドラフトファンパー2, 流し台3, 薬品庫4, ホットプレス3, 水質分析計, パソコン8
◎物質工学科棟Ⅱ			
実験準備室	5 8	2 0	流し台2, 作業台8, 学生実験用機器
生物学学生実験室	1 2 5	4 0	実験台11, ドラフト1, 薬品庫, 冷蔵庫, 乾燥機, 滅菌機, クリーンベンチ3
生物学実験室(1)	4 4	1 2	実験台2, 冷蔵庫, 流し台, ドラフト, クリーンルーム
生物学実験室(2)	7 2	6	中央実験台3, 流し台, ドラフト2, 薬品棚, 低温室
生物学機器分析室	4 1	6	中央実験台1, 壁側実験台, 天秤台, 冷蔵庫, 冷凍庫, 液クロマトグラフ, アミノ酸分析器
◎化学工業廃棄物公害実験施設			
化学工業実験室	6 1	4 6	学生実験テーマ16常設
◎電子情報工学科棟			
大講義室	2 3 7	1 0 8 1	固定机椅子126席, 教卓, ビデオ装置, スクリーン
コンピュータ工学実験室	4 2	4 0	実験台3, 実験用測定装置, パソコン4, プリンタ
ソフトウェア工学実習室	4 1	4	パソコン5, WS3, プリンタ
情報システム研究室	4 1	5	パソコン5, プリンタ
情報処理実習室	1 2 0	2 0 0	パソコン50, プリンタ2
CAD実習室	4 0	7	パソコン4, プリンタ
電子情報基礎実験室	8 3	1 6 0	実験台11, 実験用測定装置, パソコン2, プリンタ2
光物性実験室	5 0	4 0	実験台4, 光通信実験装置
メカトロ実習室	4 0	6	パソコン8, 大型表示装置, 机, プリンタ, 工作机

電子応用研究室	47	4	パソコン4, プリンタ
電子応用実験室	83	160	実験台10, 実験用測定装置, パソコン22, プリンタ
マイコン開発室	50	40	実験台4, 実験用測定装置, パソコン4, プリンタ
情報共同情報伝送 実習室	80		
情報応用研究室	47	4	パソコン4, プリンタ
情報応用実験室	83	190	実験台10, 実験用測定装置, パソコン7, プリンタ2
知識情報実験室	50	40	実験台4, 実験用測定装置, パソコン4, プリンタ
◎情報処理教育センター			
第1演習室	142		パソコン48, プリンタ2
◎専攻科棟			
視聴覚室	109	86	テーブル25, 椅子50, テレビモニター他
講義室(専攻科)	38	86	テーブル7, 椅子21, テレビ
第3環境工学実験室	48	5	ドラフトチャンバー, 実験台4, 極低温分析装置1, 可視分光装置
環境工学実験室 (第1, 第2)	48, 46	34	ドラフトチャンバー
第1生産システム工学実験 室	48	55	パソコン4, プリンタ2, 冷蔵庫, 恒湿器, 流し台, 実験台, 机4, テ ーブル3, 排気ダクト
生産システム工学実験室 (第2, 第3)	46, 46	52	
第1専攻生室	40	86	テーブル7, 椅子21, テレビ
第2専攻生室	39	86	机10, 椅子20, テレビモニター, 書棚
第2ゼミナール室(専攻科)	58	86	机4, 椅子4, テーブル4, テレビ
コンピュータ室	58	86	コンピュータ20, 書棚
◎第3講義棟			
第1ゼミナール室(専攻科)	45	86	机20, 椅子20
卒業研究室(1)(3- 304)	60	86	机20, 椅子20
多目的室(3-305)	45	86	机20, 椅子20
ゼミナール室(3-405)	45	86	机20, 椅子20
◎図書館			
閲覧室(事務室を含 む)	728	1081	パソコン7, プリンタ, テレビ6, DVDプレイヤー6, コピー機, 書架, 机33 椅子128, テーブル3
マルチメディア教室	120	1081	パソコン48, プリンタ2
LL教室	125	1081	LL器機48
語学演習室	38	1081	テレビ, カセットコーダー3, 机2, パソコン3, ロッカー9, 書庫4
学習室	44	1081	机2, 椅子16
◎専攻科講義室(S-103)	175	86	

◎機械工学科実習工場棟			
機械工学科実習工場	579		NC旋盤, マシニングセンター, NCフライス盤, 万能フライス盤, 立てフライス盤, 横フライス盤, 旋盤11, 形削り盤3, 歯車形削り盤, ホブ盤, 平面研削盤, トリル研削盤, 立削り盤, ホール盤7, 交流アーク溶接機4, スポット溶接機, 直流TIG溶接機, 電気溶解炉, 油圧プレス, 弓鋸盤, シャーリング, バンドソー, 両頭グラインダ4, 高速切断機2
熱力学実験室	128		高速ビデオカメラ, 電気動力計, CO ₂ 測定器, NO _x 測定器

(出典：総務課(財務)資料)

施設・設備のバリアフリー化については、昭和63年度から改修等が計画的に行われ、現在、バリアフリー化施設・設備一覧(資料8-1-①-6)のとおり整備されている。

資料8-1-①-6			
バリアフリー化施設・設備一覧			
種類	設置場所		設置年度
エレベーター	電子メディア・機械工学科棟	3階3停止	平成10年
	校舎・地域共同技術開発センター	4階4停止	平成12年
スロープ及び手摺り	管理・環境都市工学科棟	スロープ, 手摺り	平成10年
	電子メディア・機械工学科棟	スロープ	平成10年
	物質工学科棟	スロープ	平成10年
	第一体育館	スロープ	平成10年
	図書館	スロープ, 手摺り	平成9年
	第二体育館	スロープ, 手摺り	平成17年
	群嶺会館	スロープ, 手摺り	平成9年
	電子情報工学科棟	スロープ, 手摺り スロープ, 手摺り	昭和63年 平成18年
	校舎・地域共同技術開発センター	スロープ, 手摺り	平成12年
身障者用トイレ	管理・環境都市工学科棟	1カ所	平成10年
	電子メディア・機械工学科棟	1カ所	平成10年
	校舎・地域共同技術開発センター	1カ所	平成12年
	電子情報工学科等	1カ所	平成18年

(出典：総務課(財務)資料)

資料 8-1-①-7

最近の主な施設の整備状況

年 月	主 な 整 備 内 容
平成7年3月	合宿研修施設改修工事
平成8年2月 3月	課外活動施設改修工事 校内情報ネットワーク取設工事
平成9年3月	専攻科棟竣工
平成11年3月	機械・電気工学科棟及び物質工学科棟改修工事
平成13年1月	第3講義棟・地域共同技術開発センター竣工
3月	第1体育館玄関改修工事
	第1講義棟・第2講義棟改修工事
	機械・電気工学科棟改修工事
平成14年3月	高速キャンパス情報ネットワーク工事
平成15年3月	管理・環境都市工学科棟改修工事
平成16年3月	図書館改修工事
	体育共用施設竣工
平成17年3月	寄宿舍改修その他工事（藤寮）
平成18年3月	屋外消火栓設備改修工事
平成19年1月	テニスコート改修工事

(出典：学生便覧抜粋)

主要な備品資産は、次のとおりである。

(1) 一般教科（人文）

- ・語学練習システム（ソニーLLC2000M）〔平成8年3月〕

(2) 機械工学科

- ・材料試験機（島津製作所）

主に材料の強度試験を行う装置。主な用途：授業，実習，卒業研究，特別研究

- ・油圧式疲労試験機（島津製作所）

主に材料の強度試験を行う装置。主な用途：授業，実習，卒業研究，特別研究

- ・走査型電子顕微鏡（日本電子）〔平成6年3月〕

試料に電子線をあて，そこからの反射・二次電子から得られる像を観察する。

主な用途：実験，卒業研究，特別研究

- ・教育用三次元CADシステム（SolidWorks）〔平成18年3月〕

三次元立体図面作成システム。主な用途：授業，実習，卒業研究

- ・高速ビデオカメラ

短時間の高速現象を撮影可視化するカメラ

主な用途：授業，実習，実験，卒業研究，特別研究

(3) 機械工学科実習工場

- ・NC旋盤SL-25B/500〔平成9年3月〕

数値制御により、主として工作物の断面を円形に切削する工作機械

主に用途：授業，実習，実験，卒業研究，特別研究，依頼加工

(4) 電子メディア工学科

- ・プラズマ解析装置

高周波電源，排気系，四十極質量分析計等を備え，プラズマ中の電子温度や電子密度，その他の構成要素（イオンなど）を測定する装置。主な用途：卒業研究，特別研究

- ・常磁性共鳴吸収装置

電子が持つ磁気モーメントの運動を利用して，物質中の電子の様子，電子が入っている環境の様子などを調べる装置。主な用途：卒業研究，特別研究

(5) 物質工学科

- ・質量分析計（フィニガン製イオントラッド型）

微量試料をイオン化させ，構造解析を行う装置。主な用途：卒業研究，特別研究

(6) 環境都市工学科

- ・材料試験機

材料の強度を測定する装置。主な用途：授業，実習，卒業研究

- ・二連三軸圧縮試験機

土質関係の強度を測定する装置。主な用途：授業，実習，卒業研究

- ・水質自動分析装置

水質の分析を行う装置。主な用途：特別研究

(7) 図書館

- ・図書館情報システム〔平成11年3月〕

(8) 情報処理教育センター

- ・ギガビットネットワークシステム（校内LAN）〔平成14年3月〕

- ・ギガビットネットワーククライアントシステム（教育用電算機システム）〔平成14年3月〕

主として図書館パソコン室

- ・教育用電算機システム

主として情報処理教育センター第1演習室

(9) 地域共同技術開発センター

- ・CNC三次元測定機（Mitutoyo FALCIO-707）

機械加工した精密部品の三次元的な形状や寸法を精密に測定する機器

- ・NMR分光光度計（日本電子（株）JNM-AL300）

医薬品，プラスチック，化粧品など有機化合物の同定及び確認，未知試料の分子構造の推定並びに混合物の定量分析等を行う機器

- ・X線光電子分光分析装置（（株）島津製作所 ESCA-3400）

物質にX線を照射することにより固体から放出する光電子のエネルギー測定から固体表面層の元素分析，酸化の状態，化学構造などを測定する装置

- ・走査型電子顕微鏡（日本電子（株）JSN-5600LV）

金属，プラスチック，セラミックス，生物体など固体表面を観察する顕微鏡。最高倍率30

万倍，低真空で観察可能。

- ・高周波プラズマ発光分析装置（セイコーインスツルメンツ(株) SPS7800)
工場排水，環境水，廃棄物からの溶出水などに含まれる微量金属を測定する装置。測定温度は，ppmからppb程度まで，主成分から微量成分まで多元素一斉分析が可能で，水環境保全に大きく貢献する。
- ・X線回折装置（理学電気(株) RINT2100V/PC)
金属，岩石，セラミックス，プラスチックなど固体物質の同定，定量分析，結晶の構造解析用をする装置。
- ・X線分析装置（セイコーインスツルメンツ(株) SEA2120E)
固体，粉体，液体試料に含まれている各種の元素の定性分析や，定量分析をエネルギー分散型蛍光X線分析法を活用して行う装置。
- ・熱分析装置（セイコーインスツルメンツ(株) TG/DTA-6300, DSC-2200)
固体試料を加熱した際に生じる重量減少，発熱や吸熱の変化などを測定し，材料の耐熱性，融点，ガラス転移点などの物質の熱挙動を求める装置。
- ・三次元顕微レーザーラマン分光装置（(株) 東京インスツルメンツ Nanofinder30)
三次元顕微レーザーラマン分光装置はサブミクロン～ナノメートル領域の物質の化学状態を3次元計測できる日本発・世界初の分析装置

（分析結果とその根拠理由）

法人化移行後の施設の改修工事としては，平成17年3月に寄宿舎（女子寮）の大規模改修工事を行い，寮生の居住環境の大幅な改善を図ったほか，18年3月には非常用消防設備の改修を行い，災害に備えた改善を行い学生の安全の確保を図り，さらに，19年1月には，従来は硬式2面，軟式1面であったテニスコートについて，硬式，軟式両用の3面に改修し，学生の部外活動が有効かつ機動的に行なえるよう改善を図った。（資料8-1-①-7）

本校は，設置後40年近く経過していることから，老朽化している実習工場等を改修し時代に即応した実験・実習が行なえるような施設とすることを目的とした改修や，学生及び教職員の安全確保のための耐震補強工事等を計画的に行なっていく。

これらの改善計画を「第二次施設緊急整備5カ年計画」に基づき，毎年，施設整備事業に係る予算要求を行なっている。

以上のことから，本校の施設・設備については，高等専門学校設置基準を満たし，整備されており有効に活用している。

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

校内全域にわたる情報ネットワークは、平成7年度末に幹線をATM(155Mbps)／支線をイーサネット10Mbpsで供用開始、その後平成13年度末には幹線1Gbps、支線100Mbpsへと高速化された。

また、平成13年度末のネットワーク機器更新の際、主として一般教室・演習教室・学生寮を接続可能エリアとする無線LANネットワークを整備した。(資料8-1-②-1 認証VLAN用無線アクセスポイント・情報コンセント設置場所)

従来より運営されていたコンピュータ演習室(情報処理教育センター2部屋、電子情報工学科1部屋)は校内情報ネットワークが整備されると順次ネットワークに接続され、現在ではすべての演習用コンピュータが校内情報ネットワークに接続している。

インターネットとの接続は情報ネットワーク整備と同時期に回線速度64kbpsで接続を開始し、現在はKDDIを通じて10Mbpsで接続しているが、平成19年7月からは100Mbpsで接続する。

資料8-1-②-1

認証VLAN用無線アクセスポイント(A P)・情報コンセント設置場所

(○…利用可能、-…未設置)

設置場所	無線A P	情報コンセント	設置場所	無線A P	情報コンセント	
第1講義棟			第2講義棟			
1階	1-101	-	1階	講義室 2-101	-	○
	講義室 1-102	-		講義室 2-102	-	○
	講義室 1-103	-		廊下	○	-
	講義室 1-104	-	2階	講義室 2-201	-	○
	廊下東	○		講義室 2-202	-	○
	廊下西	○		廊下	○	-
2階	1-201	-	3階	講義室 2-301	-	○
	講義室 1-202	-		講義室 2-302	-	○
	講義室 1-203	-		廊下	○	-
	講義室 1-204	-	第3講義棟			
	廊下東	○	2階	講義室 3-201	-	○
	廊下西	○		講義室 3-202	-	○
		多目的室 3-203		-	○	
3階	1-301	-	3階	廊下	○	-
	講義室 1-302	-		講義室 3-301	-	○
	講義室 1-303	-		講義室 3-302	-	○
	講義室 1-304	-	3-304	-	○	
	廊下東	○	3-305	-	○	
	廊下西	○				

設置場所		無線AP	情報コンセント	設置場所		無線AP	情報コンセント
3階	廊下東	○	—	藤寮			
	廊下西	○	—	1階	廊下	○	—
4階	講義室 3-401	—	○	2階	廊下東	○	—
	講義室 3-402	—	○		廊下中	○	—
	講義室 3-403	—	○		廊下西	○	—
	3-404	—	○	3階	廊下東	○	—
	3-405	—	○		廊下中	○	—
	廊下東	○	—		廊下西	○	—
	廊下西	○	—	北寮			
機械工学科棟				1階	舎監室	—	○
3階	設計実習室東	○	—		廊下東	○	—
	設計実習室西	○	—		廊下西	○	—
電子情報工学科棟				2階	廊下東	○	—
1階	講義室 120	—	○		廊下西	○	—
	講義室 121	—	○	3階	廊下東	○	—
	廊下	○	—		廊下西	○	—
2階	大講義室	○	○	中寮			
専攻科棟				1階	廊下	○	—
1階	講義室	○	○	2階	廊下	○	—
	視聴覚室	○	○	3階	廊下	○	—
2階	第2専攻生室	○	○	南寮			
3階	第1専攻生室	○	○	1階	廊下東	○	—
	第2セミナー室	○	○		廊下西	○	—
図書館				2階	廊下東	○	—
1階	閲覧室	○	—		廊下西	○	—
		パソコン室	○	—	3階	廊下東	○
群嶺会館				廊下西		○	—
2階	大会議室	○	○				

(出典：学内管理用ウェブサイト)

情報ネットワークに関する管理体制としては、情報ネットワーク委員会において情報ネットワークシステム（以下「校内LAN」という。）に関する運営方針を策定し、その方針に基づき、基幹LAN管理者と各科サーバ管理者が管理を行っている。

基幹LAN管理者は、情報ネットワークの基幹機器を管理するとともに、各科サブネットを含むネットワーク全体の運用監視を行う者で、各科横断的に選出されている。

各科サーバ管理者は、各科サブネット内のサーバ・クライアントの運用管理を行う者で、学科毎に選出されている。

また、情報処理教育については、情報処理教育センターにおいて、情報処理教育、教材開発・応用研究及び電子計算機の運用に関する業務を担っている。

セキュリティに配慮した情報ネットワークの整備としては、次の点が挙げられる。

(1) ファイアウォールによる防御

情報ネットワークは、ファイアウォールを用いて「校内側」、「DMZ」及び「インターネット側」の三つのネットワークを結合する形で構成されており、ファイアウォールでのポリシー設定によりインターネット側から校内側への接続は厳しく制限されている。また、メール受信（SMTP）やウェブページの公開などの必要な校外からのアクセス許可はDMZ上にあるサーバで処理されるようになっており、インターネット側から直接に校内側に接続できない構成となっている。（資料8-1-②-2）

(2) ユーザ認証の必要なネットワークの整備

一般教室にある情報コンセント、ならびに一般教室・演習教室・学生寮をおもな接続可能エリアとする無線LANアクセスポイントは利用するための事前登録を必要とし、登録されていないユーザ・PCは接続してもネットワークとの通信ができない特殊な構成となっている（ユーザ認証VLAN）。（別添資料「群馬工業高等専門学校認証システム仕様書」）

(3) メールサーバ及びウェブプロキシサーバへのセキュリティソフトウェアのインストール

インターネットと校内間の主要な通信のうち、メールについては Symantec Mail Security for SMTP を、ウェブ閲覧については Symantec Web Security を使用してウイルス・ワーム等から防御している。（資料8-1-②-3）

(4) ウィルス対策ソフトウェアの校内配布

ネットワークに接続されたクライアントPCにおけるウィルス対策としてSymantec AntiVirus Corporate Edition を校内配布している。（資料8-1-②-4）

資料 8-1-②-3

セキュリティソフトウェアのインストール



(出典：学内管理用ウェブサイト)

資料 8-1-②-4

ウイルス対策ソフトウェアの校内配布

ウイルス対策ソフトウェアの校内配付について

群馬高専ではシマンテック・アンチウイルス・スクールライセンスを学校単位で取得しています。このライセンスにより、校内で教育／研究／事務処理に使われているすべてのコンピュータに対して掲げるウイルス対策ソフトウェアをインストールすることができます。

ソフトウェア名	対象 OS
Symantec AntiVirus Corporate Edition Version 9.0	Windows98/98SE
	WindowsME
	WindowsNT
	Windows2000
	WindowsXP

校内 LAN に接続されるコンピュータには必ずウイルス対策ソフトウェアをインストールしていただきますようお願いいたします。
※対象外の OS をお使いの方はご相談ください。

対象となるコンピュータ

校内で教育／研究／事務処理に使われているすべてのコンピュータが対象となります。
(自宅に持ち帰って使うノート型 PC 等にもインストールできます。)

インストールについて

情報処理教育センターでインストール用 CD を貸し出します。インストール作業は PC の利用者各自で行ってください。

注意事項

- 既に他のウイルス対策ソフトウェアがインストールされているコンピュータに重複してインストールしないでください。
(コンピュータ購入時にプレインストールされているソフトウェアにもご注意ください。)
- ウイルス定義ファイルのアップデート(LiveUpdate)は各自で管理／実行してください。定義ファイルが古いままだと新種のウイルスを検知できません。
ウイルス定義ファイルは通常時は毎週水曜日(日本時間)、緊急時は随時更新されています。
- 配布中の Symantec AntiVirus Corporate Edition はウイルスチェック機能のみの製品で、個人情報の流出防止やウェブ／ネットワーク経由の攻撃に対する防御機能はありません。これらの機能をカバーする総合セキュリティ対策製品(ノートン・インターネットセキュリティやウイルスバスター等)のご購入をおすすめします。

市販のセキュリティ対策製品購入時の注意

市販のセキュリティ対策製品を独自に購入して校内 LAN に接続されたコンピュータで使用される場合は、製品がプロキシ対応であることを購入前にご確認ください。

本校の校内 LAN は、外部へのアクセスがファイアウォールにより一部を除いて遮断されており、プロキシサーバを介して接続する必要があるため、プロキシ非対応製品は校内からバックアップファイル更新等に必要な通信を行うことができません。

校内でプロキシ対応を確認した製品

発売元	ソフトウェア名
トレンドマイクロ株	ウイルスバスター2006 ^{※1}
株シマンテック	ノートン・インターネットセキュリティ 2006
株インターネットチャネル	AntiLab V3 ウイルスブロック 2006 インターネットセキュリティ ^{※2}

※1 アップデート設定のプロキシ情報でプロキシサーバの IP アドレスを設定する必要があります。

※2 アップデートの環境設定で、アップデートの方法にプロキシサーバの IP アドレスを設定する必要があります。

『学内 LAN インフォメーション』に戻る

Create date: Jan. 19, 2006

Last changed: Apr. 21, 2006

Author: 大塚@情報処理教育センター

E-Mail: yotsuka@pcg.ac.jp

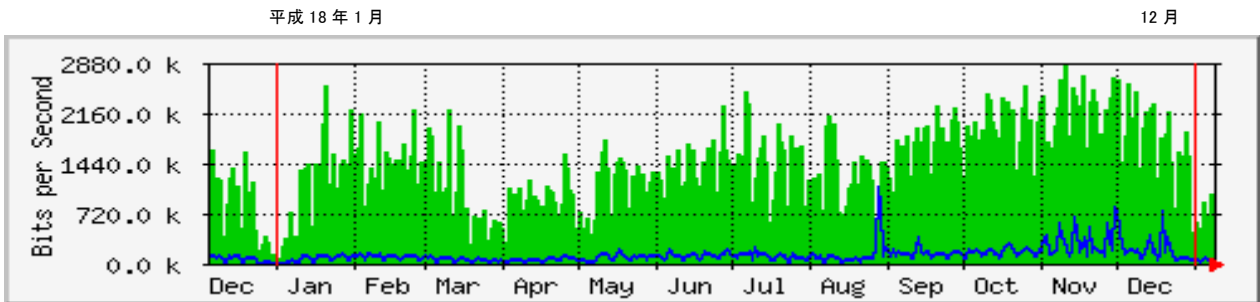
(出典：学内管理用ウェブサイト)

情報ネットワークの利用状況を示す指標として対外接続専用線・電子情報工学科・ユーザ認証VLAN (学生用) の各ネットワークのトラフィックをグラフ化したものを示す。(資料8-1-②-5)

資料8-1-②-5

ネットワーク利用状況 (平成18年1月~12月)

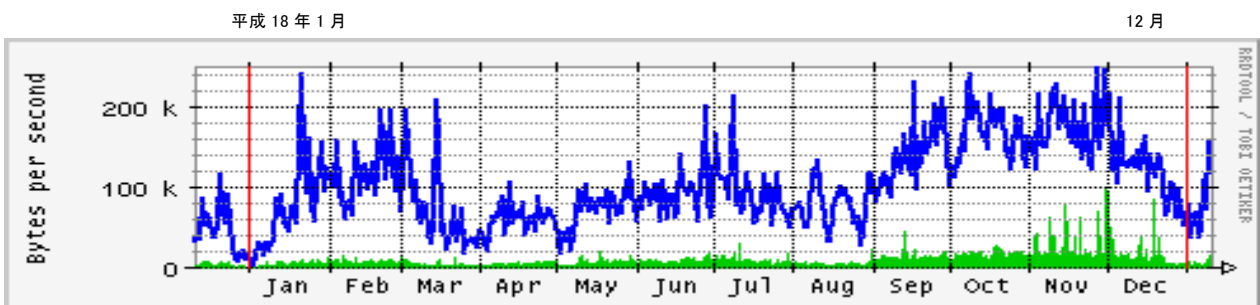
(1) 対外接続専用線



(注) 縦軸単位：ビット/秒 (キロビット)

- ・受信量 (緑色表示) 最大値：2859.9 kb/s(28.6%) 平均値：1330.0 kb/s(13.3%)
- ・送信量 (青色表示) 最大値：1106.4 kb/s(11.1%) 平均値：140.3 kb/s(1.4%)

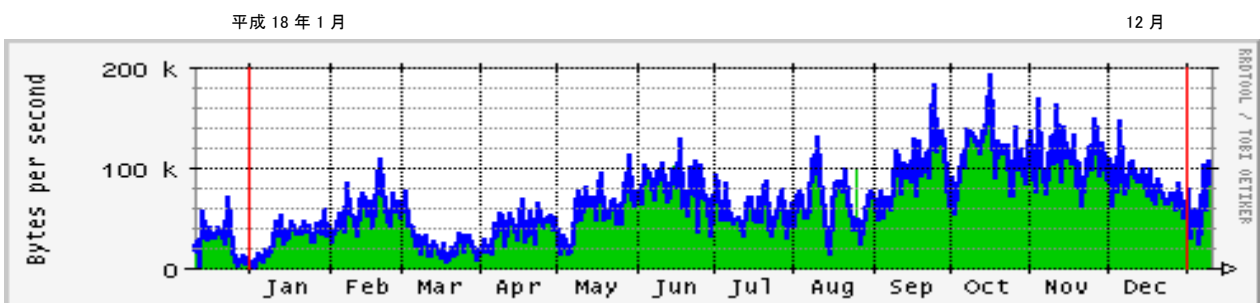
(2) 電子情報工学科



(注) 縦軸単位：バイト/秒 (キロバイト) 1バイト=8ビット

- ・受信量 (緑色表示) 最大値：96.4 kB/s(0.1%) 平均値：11.2 kB/s(0.0%)
- ・送信量 (青色表示) 最大値：247.9 kB/s(0.2%) 平均値：100.4 kB/s(0.1%)

(3) ユーザ認証VLAN (学生用)



(注) 縦軸単位：バイト/秒 (キロバイト) 1バイト=8ビット

- ・受信量 (緑色表示) 最大値：194.8 kB/s(1.6%) 平均値：66.4 kB/s(0.5%)
- ・送信量 (青色表示) 最大値：192.2 kB/s(1.5%) 平均値：65.1 kB/s(0.5%)

(出典：学内管理用ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

情報ネットワークは、校内全域にわたり情報コンセント及び無線LANにより十分整備されている。セキュリティに関しては、管理体制、ユーザ認証VLAN、メールサーバへのウィルスソフトのインストール及びウィルス対策ソフトの校内配布により、適切に整備されている。

また、利用率については、平均して高い帯域利用率であることから、ネットワークの利用は極めて活発であると伺える。

観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館は、約 76,000冊の図書、約 1,000タイトルの雑誌、約 800点の視聴覚資料を所蔵し(資料 8-2-①-1)、3つの電子ジャーナル(ACS, AIP/AP S, ScienceDirect)を契約している。所蔵資料の目録情報は、OPACにより校内外からの検索が可能である。

平成17年度の年間入館者数は約 97,000人、学生への貸出冊数は約 11,000冊である。平成14年9月からは時間外開館(平日17:00~21:00, 土曜日9:00~17:00)が開始され、これを機に入館者数及び貸出冊数ともに増加している。(資料 8-2-①-2)

図書、学術雑誌、視聴覚資料その他は、各学科の教員から集めた推薦リストに基づいて、図書委員会において選定されている。(資料 8-2-①-3) また、年1回、学生によるブックハンティングを実施し、図書委員会選定と合わせて年間約1,000冊の図書を購入している。その他にも、教員や学生からの購入希望を随時受け付けている。

館内の資料は開架式で提供している。図書は、日本十進分類法による分類別のほか、シラバス関連、JABEE関連、TOEIC関連、参考図書及び郷土資料をコーナーに分けて配架している。(資料 8-2-①-4)

視聴覚資料は、館内のAVブース6席と専用のパソコン1台で利用できる。

電子ジャーナルは、長岡技術科学大学とのコンソーシアム契約を行っており、図書館ホームページにリンクをまとめて提供している。館内に閲覧可能なパソコンが3台設置されているほか、校内ネットワークに接続されたパソコンからも利用できる。3つの電子ジャーナルで、年間合計約3,800件(平成17年)の論文ファイルにアクセスが行われている。(資料 8-2-①-5)

図書館利用促進の取り組みとしては、年1回、「図書館だより」を発行し、教員によるブックレビューや新着図書リストを掲載している。(別添資料「群馬高専図書館だより 第22号」)

毎年4月には、新入生を対象としたガイダンスを実施し、館内を案内しながら基礎的な利用方法について指導を行っている。

資料 8-2-①-1

群馬工業高等専門学校図書館蔵書数（平成18年4月1日現在）

和漢書及び洋書

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	語学	文学	合計
和漢書	5,070	3,159	3,526	4,755	20,045	15,767	983	2,142	4,683	6,499	66,629
洋書	173	509	382	527	3,280	2,134	20	470	1,430	373	9,298
合計	5,243	3,668	3,908	5,282	23,325	17,901	1,003	2,612	6,113	6,872	75,927

(単位：冊)

学術雑誌及び視聴覚資料

区 分	数 量
和雑誌	821種
洋雑誌	250種
DVD・ビデオテープ	793本
CD-ROM	103枚

(出典：学校要覧)

資料 8-2-①-2

図書館利用状況（平成14年度～平成18年度）

区分 年度	学 生		教 職 員		DVD ビデオ	P C 利用	開館日数		入館者数	
	貸出者数	貸出冊数	貸出者数	貸出冊数			平日	土曜	平日	土曜
平成14年度	4,611	7,614	290	576	1,715	613	245	28	97,604	3,321
平成15年度	3,556	7,306	242	805	1,425	1,494	157	23	70,221	3,451
平成16年度	5,394	10,635	447	923	1,281	947	218	38	97,663	5,999
平成17年度	5,911	10,978	381	744	821	850	235	29	93,005	4,059
平成18年度	5,649	10,576	354	739	393	541	235	30	74,986	3,125

注) 1. DVD・ビデオ利用は、館内利用を示す。

(単位：人，日)

2. PC利用は、CD-ROM及びインターネット利用を示す。

3. 平成15年度は改修工事のため、7/1から11/9まで閉館。

4. 開館時間 平日 9:00～21:00 土曜日 9:00～17:00

(出典：学校要覧)

資料 8-2-①-3

購入図書内訳

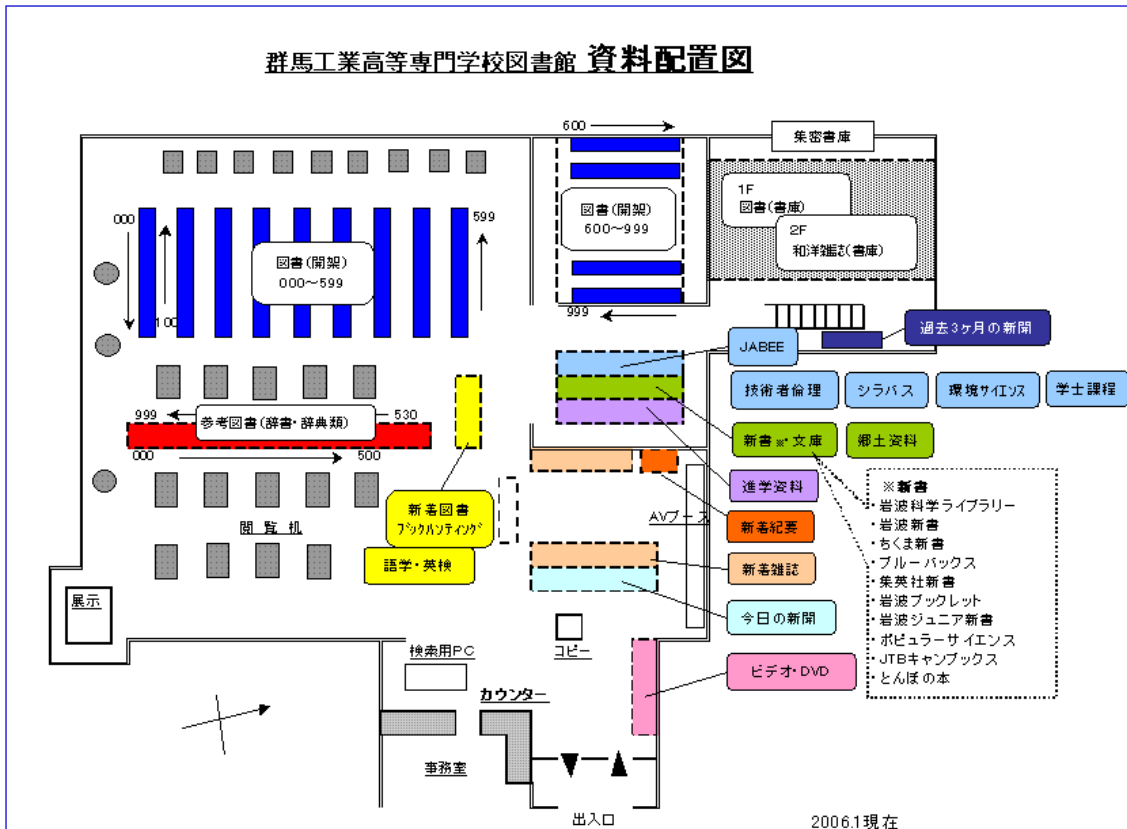
区分	各科から推薦の図書								ブック ハンディ ング	DVD	継続 図書 等	合計
	人文	自然	機械	電子メ ディア	電子 情報	物質	環境 都市	シラバス 掲載				
冊数	92	70	46	25	58	28	23	110	132	45	378	1007

(単位：冊)

(出典：図書係資料)

資料 8-2-①-4

群馬工業高等専門学校図書館 資料配置図



(出典：本校ウェブサイト)

資料 8-2-①-5

電子ジャーナル論文アクセス数

年 \ 種類	電子ジャーナル (ACS, AIP/APS, SD) 論文アクセス件数
平成14年	667
平成15年	1,390
平成16年	2,591
平成17年	3,776
平成18年	2,918

(出典：図書係資料)

(分析結果とその根拠理由)

図書、学術雑誌及び視聴覚資料など所蔵資料は、年2回、図書委員会が中心となって選定を行っている。図書委員会は、各科教員からシラバス掲載の教科書及び参考書などの推薦を受け、本校の教育研究に必要な分野の資料を系統的に選定し、収集している。分類別蔵書構成からも、自然科学及び工学分野の充実に加え、それ以外の分野に関してもバランス良く収集されている。従って、本校図書館では、教育研究上必要な資料の系統的な整備が行われているといえる。

一方、所蔵資料を活用する際には、目録情報がOPACに登録されているため容易に検索が可能である。資料は日本十進分類法によって分類され、主題のまとまりをもって配架され、利用者に提供されている。さらに、シラバス関連、JABEE関連及びTOEIC関連などの資料をコーナーとして独立させ、利用者が有効に活用できるよう配置にも工夫がなされている。電子ジャーナルも利用ガイドへのリンクを併設し、利用者の利便性に配慮した提供を行っている。その結果、図書の貸出冊数は年間10,000冊を超え、電子ジャーナルの論文アクセス数も年間約3,800件と増加している。

以上のことから、本校の図書館では、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され有効に活用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ① 情報ネットワークについては、認証登録したユーザーだけが無線LANを使用できる認証システムなど、セキュリティに配慮した体制が整っている。
- ② 図書館については、用途別にコーナーとして配置するなど、利用者の利便性に配慮した工夫がなされている。また、図書の選定についても、学生及び教員の意見を反映するシステムがとられている。

(改善を要する点)

- ① バリアフリー化対応の一つであるエレベーターの設置について、第1講義棟など、まだ設置されていない箇所があるため、設置の必要がある。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の施設については、老朽化に対する校舎の改修工事、バリアフリー化及び耐震工事が計画的に順次進められてきており、また、設備についても教育研究に必要な設備として順次設備されている。従って、本校の教育目標及び教育課程の実現に対応した校地、校舎、教室、運動場、体育館、実験・実習室、図書館及び情報処理教育センターなどの施設が整備されている。また、それらの施設に配置されている機械・器具等についても整備されており、有効に活用されている。

情報ネットワークについては、校内全域にわたって利用できる状況が整備され、セキュリティ対策についても十分な管理体制が整っている。また、平成19年3月には、現行システムの主要機器（セントラスイッチ、ファイアウォール、その他サーバ及びスイッチの一部）の更新を行い、安定したギガビットネットワークを再構築し、これからの教育・研究・事務業務の多様な要求に応えられる高度な情報通信基盤を整備した。

図書館については、学生及び教員のニーズに応じた図書選定のシステムが整っており、利便性に配慮した配列の工夫、OPACを用いた容易な検索システム並びに平日の開館時間の延長及び土曜日の開館など、利用しやすい環境が整っている。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①: 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育活動の実態を示すデータや資料は、JABEEプログラム委員会がシラバス及び成績評価資料、実態調査委員会が実態調査の結果(資料 9-1-②-2)、教育研究委員会が学生による授業評価アンケート及び学生の自己評価アンケート(資料 9-1-②-3)、授業改善シート(資料 9-1-⑤-1)を収集している。また、専攻科の学生については、学習・教育目標達成度自己評価表(資料 9-1-①-1)を提出させ、専攻科で収集している。これらにもとづく評価は、自己評価実施規則(資料 9-1-①-2)で定められている通り組織ごとを実施され、その報告を受けた自己評価委員会によって総括整理される。結果は自己点検・評価の報告書である「現状と課題」等で公表される。

資料 9-1-①-1

学習・教育目標達成度自己評価表

平成19年度専攻科入学生用 【機械工学専修】

学習・教育目標達成度自己評価表

学籍番号

氏名

学習・教育目標	修得科目点検						修得科目数 (注:各分組ごとの修得科目数を枠内記入)	自己評価 (注:記号で記入) S:十分達成 A:達成 B:ほぼ達成
	学科4年	学科5年	専攻科1年		専攻科2年			
	(注:修得科目左側に○)	(注:修得科目左側に○)	前期 (注:修得科目左側に○)	後期 (注:修得科目左側に○)	前期 (注:修得科目左側に○)	後期 (注:修得科目左側に○)		
(A) 地球的規模での人、社会、環境についての倫理・教養を身につける。								
A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人の歴史、思想、文化を理解し、ものごとに対する多角的視点を得る。	哲学 保健体育 ドイツ語 I	法学 社会政策 保健体育 ドイツ語 II		現代哲学	日本文化論	近代西洋社会論 身体動作学 日本経済論	<input type="checkbox"/>	/5科目以上
A-2) 地球と環境に関連した科目の学習を通じ、将来、人と地球の調和をはかる科学技術の発展に貢献できる能力を獲得する。						環境科学	<input type="checkbox"/>	/1科目
A-3) 工学や技術の潜在的危険性を理解し、技術者の社会的責任を自覚するための倫理観が持てる。						技術者倫理	<input type="checkbox"/>	/1科目
(B) 技術的課題解決のための幅広い工学基礎の知識を身につける。								
B-1) 工学の基礎となる自然科学の科目を確実に理解する。	以下のみ学科3年科目 (注:修得科目左側に○) 数学 A I 数学 A II 数学 B 応用物理 I	応用数学 I 応用数学 II 応用物理 II 計測工学 I 流体工学 I	流体工学 II 制御工学 機械工学特論 I 応用物理 III	複素解析 ベクトル解析 量子力学 I 線型代数学 I 機械数値 特殊関数 統計力学	応用解析学 量子力学 II Fundamental Technic 工業数学演習 I 物理学演習 I 線型代数学 II 応用化学	工業数学演習 II 物理学演習 II 解析力学	<input type="checkbox"/>	/7科目以上
B-2) 設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学科目の学習を通して、工学基礎の知識を獲得する。	(設計・システム系) (情報・論理系) (材料・バイオ系) (力学系) (社会技術系)	機械設計法 設計製図 生産管理	情報基礎論 材料科学特論	数値解析特論	システム工学		<input type="checkbox"/>	/2科目以上
							<input type="checkbox"/>	/1科目以上
							<input type="checkbox"/>	/1科目
							<input type="checkbox"/>	/1科目以上
						環境科学	<input type="checkbox"/>	/1科目以上

(出典:平成19年度専攻科履修のしおり)

資料 9 - 1 - ① - 2

群馬工業高等専門学校自己評価実施規則

群馬工業高等専門学校自己評価実施規則

平成 4 年 10 月 14 日
規則 第 1 0 号

最終改正 平成 19 年 2 月 1 3 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究水準の向上及び活性化を図るとともに、その社会的責任を果たすため、教育研究活動等の状況について、自己点検・評価（以下「自己評価」という。）を行う項目及び実施体制に関し必要な事項を定める。

(自己評価項目)

第 2 条 前条の自己評価項目は次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 教育理念・目標等に関すること。
- (2) 教育活動に関すること。
- (3) 研究活動に関すること。
- (4) 教育組織に関すること。
- (5) 施設設備に関すること。
- (6) 国際交流に関すること。
- (7) 生涯学習への対応に関すること。
- (8) 社会との連携に関すること。
- (9) 管理運営、財政に関すること。
- (10) その他自己評価に関すること。

2 前項に掲げる具体的な点検・評価事項の例示（以下「事項の例示」という。）は、別表に掲げるとおりとする。

(出典：群馬高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価資料、授業評価アンケートなどの教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。自己評価実施規則により事項ごとの実施組織が決められていて、自己評価委員会によって総括整理される体制が整備されている。

以上のことから、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されている。

観点9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

毎年度2回教員学生会連絡会が開催されている。この話し合いの結果は教務委員会や厚生補導委員会等で報告検討され、担当主事から教員会議でも報告される（資料9-1-②-1）。毎年度、1, 3, 5年生を対象に、授業の難易度や教員の教え方などについての実態調査が行われている。その結果は集計されて、冊子あるいはWeb上（学内のみ）で全教員に配布あるいは公開され、その一部は自己点検・評価の報告書である「現状と課題」にとりあげられている（資料9-1-②-2）。全科目について、学生による授業評価アンケートを行っている。科目ごとの結果は各教員に返却されて授業改善シートの参考資料とされ、全体結果、学年ごとの結果等は教育研究委員会で検討される（資料9-1-②-3）。

資料9-1-②-1

平成18年度教員学生連絡会（後期）議事要旨

日時 平成18年12月19日（水）16:20～17:40
 場所 会議室 B
 出席者 教員等：小島教務主事、下田学生主事、樋口寮務主事、青木専攻科長
 大豆生田厚生補導専門委員、吉田学生会専門委員、学生課長
 須藤、新井
 学生会：■■■■会長、■■■■副会長、■■■■副会長、■■■■書記局長
 ■■■■風紀局長、■■■■風紀局員、■■■■
 議事 （司会：吉田学生会専門委員）
 ○：学生会、△：教員等

1. 施設について

① 情報処理センターについて

- 開館時間を延ばしてほしい。
- △ どの程度必要性があるのか、もっと具体的（理由、時間、曜日等）な質問がほしい。

（出典：平成18年度教員学生連絡会議事要旨）

資料9-1-②-2

5年次学生の実態調査より

(2) 高専在学中の悩みについて（複数回答可）

これまでと似た傾向であるが、全体として「特になし」の割合が増加し、「異性問題」、「人生問題」が減少した。ただ、他科に比べK科、C科は「特になし」の割合が少なく、「進路について」、「勉強について」、「人生問題について」の割合が多い。ただ、前回調査では科による差異はあまり見られずこのクラスに特有のように思われる。

項 目	M	E	J	K	C	合計	%	60年	2年	7年	8年	9年
1 特になし	13	12	18	8	8	59	33.1	34	24	25	32	27
2 進路について	12	12	5	15	10	54	30.3	62	35	42	28	30
3 勉強（成績）について	12	12	11	9	13	57	32.0	37	34	34	32	34
4 人間関係について	6	2	7	9	9	33	18.5	28	25	23	18	18
5 異性問題について	4	5	5	3	6	23	12.9	24	22	13	11	18
6 人生問題について	4	6	3	7	10	30	16.9	26	25	22	20	23
7 社会問題について	2	2	3	3	3	13	7.3	7	8	6	5	5
8 その他	2	0	5	2	1	10	5.6	13	1	6	7	7

※その他（括弧内は人数）

- ・なし
- ・進級規準が厳しすぎる
- ・高専の外の状態が分かりづらい
- ・高専の中のシステム
- ・学力のことなのだが、高校生にとっての“常識”を高専生は知らない
- ・教官について（2）
- ・なぜここに通っているのか
- ・いろいろ
- ・就職できなかったこと

（出典：平成12年現状と課題）

資料 9-1-②-3

授業評価アンケート集計結果

授業評価アンケート結果

資料
18.11.27

【 学校全体 】

全JABEE対応科目についてのアンケート結果に対する
度数分布表【100分率】 (アンケート総数：5639人)

設 問	[配点]						平均	
		5	4	3	2	1		0
1: 授業は分かりやすかった。		21	31	31	10	6	0	3.5
2: 授業のレベルは、あなたにとって適切であった。		16	28	37	12	6	0	3.4
3: シラバスに指定された教科書、参考書は授業にとって適切であった。		15	23	49	8	5	1	3.3
4: 授業中の黒板やプロジェクターの文字は見やすかった。		23	28	31	11	6	0	3.5
5: 試験の内容、レベルは授業に照らし適切であった。		21	30	38	7	4	1	3.6
6: シラバスどおりに授業が行われた。		16	23	53	4	3	1	3.4
7: 授業は学生が質問しやすい雰囲気が進められた。		22	29	35	10	4	0	3.5
8: 質問には熱心に答えてくれた。		29	30	32	5	3	0	3.8
9: 学生に理解度を確認しながら、授業が進められた。		19	28	37	10	6	0	3.4
10: レポートや課題は適切であった。		22	28	37	7	5	0	3.6
11: 授業はあなたにとって興味を引くものであった。		19	27	36	10	7	0	3.4
12: 授業は総合的に見て高く評価できる。		23	33	33	7	4	0	3.6
	[平均]	20.7	28.1	37.5	8.4	4.9	0.4	3.5

(出典：平成18年度第7回教育研究委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員学生連絡会、実態調査、授業評価アンケートにより、学生の意見の聴取が行われている。その結果は、適切な形で自己点検・評価に反映されている。

以上のことから、学生の意見の聴取が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

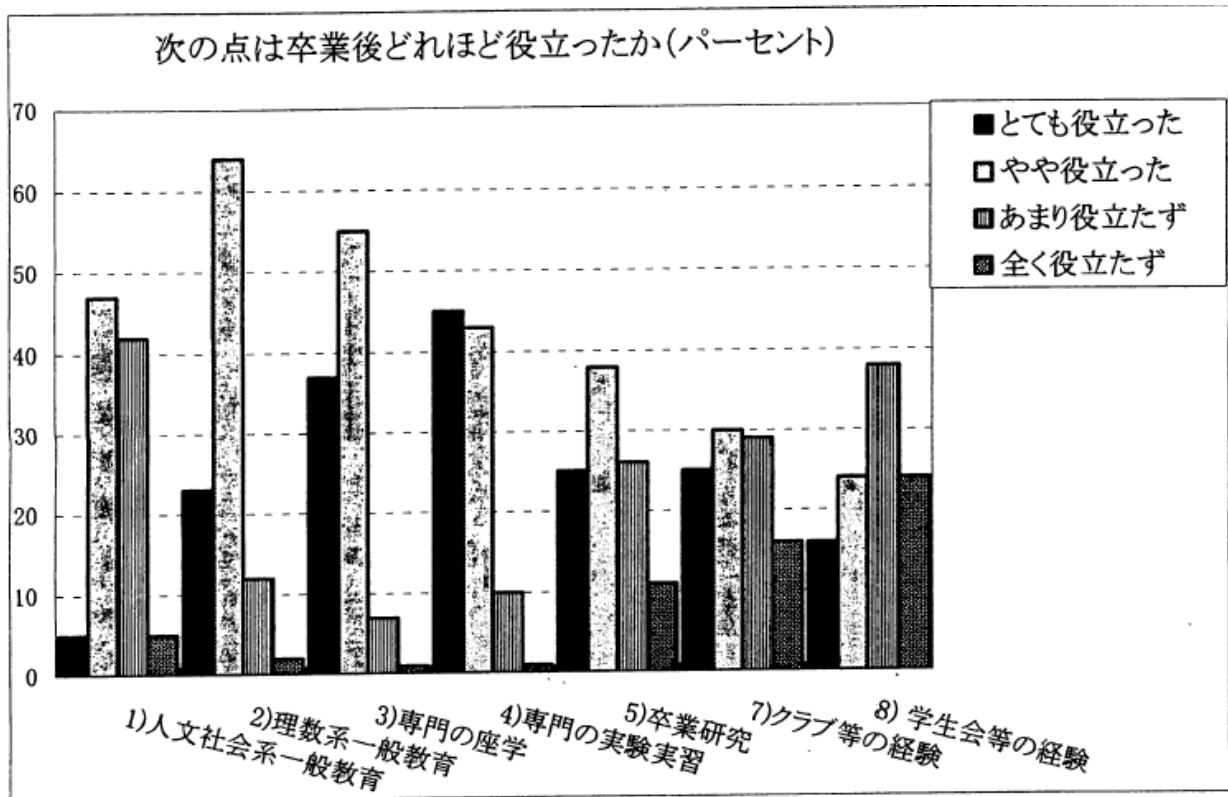
観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点到に係る状況)

5年に一回、卒業生アンケート調査が行われている。結果は実態調査委員会によって点検・評価され、自己評価委員会によって総括される（資料 9-1-③-1）。県内外の学識経験者、地域を代表される方々に委員を委嘱した外部評価委員会による外部評価を受けている。その結果は外部評価報告書として全教員に配布される（資料 9-1-③-2）。

資料 9-1-③-1

卒業生アンケート集計結果



高専教育において、『とても役立った』点は、4) 専門科目の実験・実習 (45%)、3) 専門科目の座学(37%)、5) 卒業研究(25%)、6) クラブやサークル等で得た経験(25%)の順となっている。

一方、『とても役立った』と『やや役立った』を合わせると、3) 専門科目の座学(92%)、4) 専門科目の実験・実習 (88%)、2) 理数系の一般教養(87%)、5) 卒業研究(63%)、1) 人文・社会系の一般教育(52%)の順となっており、5) 卒業研究が役立ったと答えている卒業生の割合はあまり多くはない。

(出典：第5回群馬工業高等専門学校実態調査報告書)

資料 9 - 1 - ③ - 2

外部評価実施規則

群馬工業高等専門学校外部評価実施規則

〔平成15年1月14日〕
規則第1号

最終改正 平成19年2月13日

(趣旨)

第1条 この規則は、群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動等の状況に係る自己点検及び評価の結果等について、外部の有識者による検証（以下「外部評価」という。）を行い、本校の教育研究体制等の改善に資することを目的とする。

(委員会)

第2条 本校に、次の各号に掲げる事項を評価するため、群馬工業高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 教育理念・目標に関すること。
- (2) 教育活動に関すること
- (3) 研究活動に関すること
- (4) 地域社会及び産業との連携に関すること
- (5) その他必要と認める事項

(構成)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した評価委員をもって構成する。

- (1) 大学等教育機関の関係者
- (2) 本校の所在する地域の教育関係者
- (3) 地方自治体の関係者
- (4) 地域産業界等の関係者
- (5) その他校長が必要と認める者

(出典：群馬高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生アンケート、外部評価委員会による外部評価によって、学外関係者の意見の聴取が行われている。その結果は、適切な形で自己点検・評価に反映されている。

以上のことから、学外関係者の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

観点9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

各種の評価の結果は、教務委員会、専攻科委員会、教育研究委員会が、互いに連携を取りながら、関係する事柄における問題点を随時審議し、方策を提案することによって改善に結び付けられる。例えば、平成14年の「現状と課題」で指摘された3年次共通試験の問題点は（資料9-1-④-1）、教務委員会を中心に検討され（資料9-1-④-2）、平成18年度から4年次への進級要件にされた（資料9-1-④-3）。その結果、学生の取り組み意欲の改善がなされ、飛躍的な好結果に繋がった（資料9-1-④-4）。

資料9-1-④-1

共通試験の目指す方向

b) 共通試験の目指す方向

以上見たように本校学生の数学力は低いと言わざるを得ない。しかし、学生の能力や教官の教え方に重大な欠陥があるとは考えにくい。というのも、授業で習った直後なら学生はそれなりに理解し、教科書の問題を解いているからだ。5年次の編入試験で学生がそれなりの成果を出していることもそれを裏付けている。本校学生の問題は日常的な復習が不足していることである。数学は積み重ねの学問であるため、学んだことを片っ端から忘れてしまう学生に、分かりやすい授業を提供し続けることは困難である。高学年生の中には授業についていくことすら困難になってしまう者もいるが、早い時点で適切な復習をしていれば避けられたはずである。十代後半の学生にとって高専5年間はあまりにも長い。本校入学後、途中で復習らしい復習を一度もせず、大学編入試験目前で突然復習をしたところで、得られる成果はたかが知れている。現在、5年生は編入試験でまあまあの結果を出していると言えるが、もし彼らが途中で復習していればもっと良い結果を出してもおかしくない。3年生共通試験の最終目標は、低くても良いから厳格なハードルを3年次に設け、低学年生に当面の目標を与えることである。大半の学生はクリアすべきハードルの高さ、それを越えなければ進級できないことを理解すれば、見事ハードルをクリアすると我々は信じている。実際、出題される問題の大半は、かつて授業中に解けていたのだ。中にはどうしてもハードルを越えられない学生もいるかも知れないが、そういう学生は気持ちや学ぶ方向から離れているか、理工学に適性を欠いているかのいずれかであろう。彼らには留年し再起を期すか、あるいは方向転換するか、の選択肢からいずれかを選ばせるしかあるまい。ハードルを越えた者だけを4年生に進級させるのが理想である。

（出典：平成14年現状と課題）

資料 9 - 1 - ④ - 2

教務委員会における3年生共通試験の検討

3 進級規程の見直しについて (資料 5)

委員長から、3年生共通試験に関する各科の意見の最終確認がなされたが、大幅な変更等意見はなく、執行部案が了承された。

また、委員長から、3年生共通試験の実施時期について、10月の第一水曜日(執行部案)とすることについての意見を求める発言があったが、授業日数、行事等を斟酌し、9月第一水曜日としたい旨の説明があり、了承された。

16年 1月 9日
教務委員会資料No 5

H15-10-2

共通試験改訂について

3年生共通試験は、低学年で学習した基礎的内容を3年生の時点で総復習させ、学力の定着を図ることが目的である。共通試験は高学年での教育をより効果的にする上でも有効と思われ、今後も継続が望ましいが、現行の共通試験制度下では事前に試験に備えて勉強している学生は少ない、という批判もあった。このたびの共通試験改訂は、過去3年間に執行部に寄せられた主要な改善要望に対応し、共通試験をより良いものにすることが目的である。改訂に当たっては、次の諸点を考慮した。

- a) 共通試験の続行は前提とする
- b) 大量留年につながるような極端な改訂は避ける
(改訂の趣旨は学生を勉強させることであって、留年者を増やすことではない。)
- c) 現行の法制度の下で実施可能でなければならない

執行部は、試験の実施主体である一般教科の要望、ならびに専門各科の意見を斟酌し、諸条件を考慮した結果、次の改訂案なら実現可能であると結論するに至った。

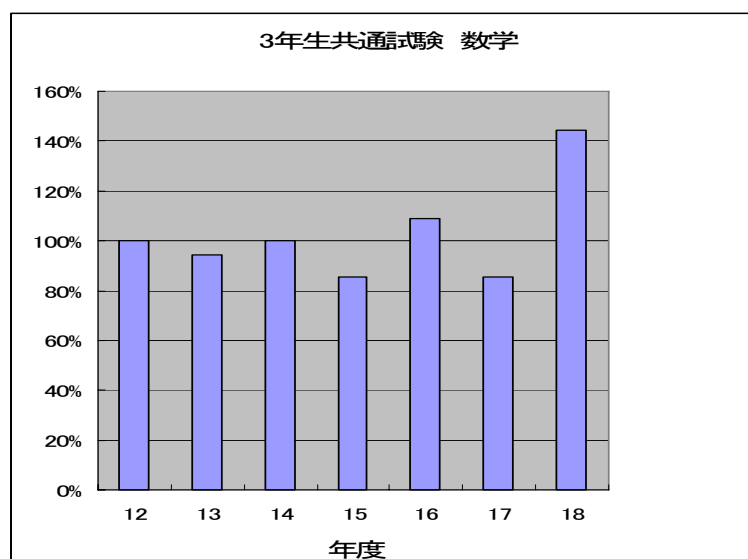
(出典：平成15年度第10回教務委員会議事要旨と資料5)

資料 9-1-④-3 学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する内規

第18条の2 3年生共通試験数学及び同理科のいずれかが不合格である者は、第3学年の課程修了を認めず原学年に留める。

(出典：学生便覧)

資料 9-1-④-4 3年生共通試験結果



平成12年度の共通試験数学成績を100%とする。

(出典：3年生共通試験結果をもとに作成)

(分析結果とその根拠理由)

各種の評価について、互いに連携を取りながら問題点を審議し、改善策を提案するシステムがある。また、具体的な改善に結び付いた例からもわかるように、このシステムは機能している。

以上のことから、各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられている。

観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点到に係る状況)

各教員は授業改善シートを作っている(資料9-1-⑤-1)。年度始めに、学生による授業評価アンケートの結果等をもとにして改善目標を記入し、年度の終わりに達成度の自己評価を記入する。結果は教育研究委員会で検討される(資料9-1-⑤-2)。委員によって各部署で報告されるため、改善活動状況は学校として把握される。一例を挙げると、「板書を工夫する」という改善目標をたてて実行した結果、授業評価アンケートの「授業中の黒板やプロジェクターの文字は見やすかった。」という設問の評価が2.9点から3.4点に向上した事例が報告されている。

資料 9-1-⑤-1 授業改善シートの様式

平成18年度 授業改善シート	
教員名 所属科	
授業科目	
学年 学科	
改善目標 (なるべく具体的に 書いてください)	
目標に対する達成度の 自己評価 (年度の終わ りに記入してください)	

(出典：平成18年度の授業改善シート)

資料 9-1-⑤-2 授業改善事例報告

資料 2

19. 5. 29

H18年度授業改善目標に関する改善事例報告

平成 19 年 5 月 21 日 教育研究委員会

1. 授業評価アンケートによって、改善されたことがわかる例

設問 1：授業は分かりやすかった。

設問 4：授業中の黒板やプロジェクターの文字は見やすかった。

設問 6：シラバスどおりに授業が行われた。

設問 9：学生に理解度を確認しながら、授業が進められた。

- 1) 改善目標：ひとつの事柄を説明する時に早口になりがちなので、学生に聞きとりやすく、わかりやすい説明を心がける。

自己評価：設問 1 で平均を上回る。

- 2) 改善目標：シラバスに記載されている通りに授業を進めることにより、(シラバスについての) 学生評価ポイントを上げる。

自己評価：設問 6 で 4 点代を獲得。

- 3) 改善目標：小テストを取り入れる

自己評価：設問 9 で 3E 3.6、3C 3.9 と高い評価を得た。

中略

- 7) 改善目標：板書を工夫する

自己評価：設問 4 が 2.9 から 3.4 に向上。

(出典：平成19年度第2回教育研究委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

個々の教員は、主に学生による授業評価アンケートの結果をもとにした授業改善シートを利用して、継続的改善を行っている。また、各部署の代表者を委員とする教育研究委員会で検討され、各部署で報告されるため、改善状況は学校として把握される。

以上のことから、個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握している。

観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われている(資料 9-1-⑥-1)とともに、学外との共同研究・受託研究の実績も重ねてきており(資料 9-1-⑥-2)、これらの成果が学生の卒業研究や特別研究などのテーマ選択、および指導に寄与し(資料 9-1-⑥-3)、専門科目の授業内容にも活かされている(資料 9-1-⑥-4)。

資料 9-1-⑥-1

教員や学生の研究発表

■■■■、阿部博	新潟県中越地震での群馬県内の震度分布表示とシナリオ地震震度分布	土木学会関東支部、第33回土木学会関東支部技術研究発表会	平成18年 3月15日	CD-ROM版講演概要集 I-054
■■■■、阿部博	相対密度を変化させた浅い基礎の支持力模型実験	土木学会関東支部、第33回土木学会関東支部技術研究発表会	平成18年 3月14日	CD-ROM版講演概要集 III-038
三上 卓、■■■■、笹田修司(阿南工業高等専門学校)	地震時における学生の安否確認用サイトの作成	第33回土木学会関東支部技術研究発表会	平成18年 3月15日	第33回土木学会関東支部技術研究発表会論文集(CD-ROM)
三上 卓、■■■■、■■■■	群馬県内の木橋に関する調査	第33回土木学会関東支部技術研究発表会	平成18年 3月14日	第33回土木学会関東支部技術研究発表会論文集(CD-ROM)

(出典：校報第109号)

資料 9 - 1 - ⑥ - 2

群馬高専 民間等との共同研究 受入実績一覧

年度	区分	研究代表者			分担学科	企業等名	研究題目
		所属	職名	氏名			
18	B	物質工学科	教授	小島 昭		国土防災技術(株)	湖沼における炭素繊維を利用した水質浄化システムの評価手法
18	B	物質工学科	教授	赤羽 良一		長岡技術科学大学	活性オレフィンの電子移動型反応における炭素結合形成反応の特異な位置選択性とコンピューター化学による解析
18	B	物質工学科	助教授	田部井康一		ツクバ(株)	高機能洗浄水製造装置の開発
18	B	環境都市工学科	教授	阿部 博		町田産業(株)	パチルス菌を利用した軽石脱臭フィルター及びフィルター機能維持装置の開発
18	B	環境都市工学科	教授	青井 透		群馬県立群馬産業技術センター	温度制御技術の改善に関する研究
18	B	機械工学科	助教授	黒瀬 雅詞		群馬県立群馬産業技術センター	温度制御技術の改善に関する研究
18	B	環境都市工学科	教授	青井 透		日本環工(株)	水路への藻類付着防止技術の開発
18	B	電子情報工学科	教授	須田 健二		富士ゼロックス(株)	直交表実験計画の自動構成プログラムの開発とそのソフトウェアテストへの応用に関する研究
18	B	物質工学科	教授	小島 昭	地域共同技術開発センター	(財)群馬県産業支援機構	環境に調和した地域産業創出プロジェクト オガクズ代替品を用いた吸着・微生物脱臭法の開発
18	B	物質工学科	助手	藤重 昌生			
18	B	物質工学科	教授	戸井 啓夫		(財)群馬県産業支援機構	環境に調和した地域産業創出プロジェクトー乳酸発酵菌発光槽を用いた溶解・微生物脱臭法の開発
18	B	物質工学科	教授	林 俱子			
18	B	機械工学科	助教授	黒瀬 雅詞		株式会社オギハラ	金型構造用金属材料の材料物性評価の研究
18	B	機械工学科	助教授	榎本 弘		群馬県立群馬産業技術センター	新規吸着剤による含塩素VOCs回収再利用技術の開発
18	B	環境都市工学科	教授	山本 好克		群馬県企業局	サージタンクの単動式から差動式への改造における実証的研究
18	B	物質工学科	教授	小島 昭	地域共同技術開発センター	石井商事(株)	金属のリサイクル技術に関する研究
18	B	環境都市工一般(自然)	教授	古川 茂			
18	B	環境都市工一般(自然)	助手	平 靖之			
18	B	機械工学科	助教授	黒瀬 雅詞		三菱鉛筆(株)群馬研究開発センター	カーボン複合軸材の動的変位特性
18	B	物質工学科	教授	小島 昭		(株)中島自動車電装	クラッシュ型電子ガスライター粉砕処理装置の研究・開発
18	B	環境都市工一般(自然)	教授	青井 透		(株)里源	含リン汚泥ケーキを常温改質処理した黒ボクにおける安全性の研究
18	B	環境都市工一般(自然)	助手	平 靖之			
18	B	機械工学科	助教授	黒瀬 雅詞		三菱鉛筆(株)群馬研究開発センター	カーボン複合軸材の動的変位特性

平成18年度計 17件

(出典：本校ウェブサイト<http://www.gunma-ct.ac.jp/Shomu/chiiki/kyoudoukenkyu1.html>)

資料 9 - 1 - ⑥ - 3

17年度の卒業研究，特別研究で資料 9 - 1 - ⑥ - 1 に関係するもの

学生氏名	卒業研究題目	担当教員
■■■■	群馬県内の木橋の実態調査とそのデータベース化に関する研究	三上
■■■■	木橋の健全度調査と耐久性向上策に関する研究	三上
学生氏名	特別研究題目	正担当
■■■■	GISを利用した地震防災システムの構築	阿部
■■■■	画像処理による浅い基礎の支持力メカニズムの検討	阿部

(出典：学校だより第 77 号)

資料 9-1-⑥-4

研究が授業に活かされている例

国立群馬工業高等専門学校 2007 年度シラバス 8906320005CC/20070405

(科目コード：8906320005CC)

【科目】 [防災工学Ⅲ]

【科目分類】 専門科目 【選択・必修の別】 選択 【学期・単位数】 前期・1 単位

【対象学科・専攻】 環境都市工学科・5 年次

【担当教員】

阿部 博

【授業目標・教育方針】

わが国は世界でも有数な地震国であり、地震災害が頻発している。耐震設計・構造物維持管理は社会基盤を震災から守るための重要な項目である。しかしながら、群馬県は地理条件から被害が少ないため、地震防災を軽視しがちである。兵庫県南部地震を体験して理解できたように、どの地域においても、地震防災のレベルを高めておくことは土木構造物の新設、維持管理には必須といえる。耐震設計に必要な知識には、(1) 地震の原因と被害、(2) 振動理論、(3) 設計方針等がある。ここでは、地震に関する情報（プレートテクトニクス、マグニチュード等）を整理しながら、(1) の地震の原因や地震の強さ、地震被害等の知識を習得する。また、(2) 振動理論の復習もあわせて行う。本講義で得られる知識は、耐震構造学（必修）の基礎となり、受講者が地元において、地震防災の必要性を多くの人々に伝達することで市民防災意識を向上させることができる。

【授業概要】

- ・地震：地震動の波についての理論展開は昔から行われているが、地震のメカニズム自体は最近判明したことをプレートテクトニクス理論から確認する。地震を理解するうえで必要な基本用語を理解し、土木構造物被害の実態を知る。
- ・振動理論：倒立振り子モデルを使い、一自由度質点系の振動方程式を導く。特に、減衰項の役割の重要性を理解する。

【教科書・教材・参考書等】

教科書：耐震工学入門第 2 版：平井一男、水田洋司共著：森北出版：4-627-46452-5
地震関連のホットなニュースを適宜配布します。

(出典：2007 年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われているとともに、学外との共同研究・受託研究の実績も重ねてきており、これらの成果が学生の卒業研究や特別研究などのテーマ選択、および指導に寄与し、専門科目の授業内容にも活かされている。

以上のことから、研究活動が教育の質の改善に寄与している。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

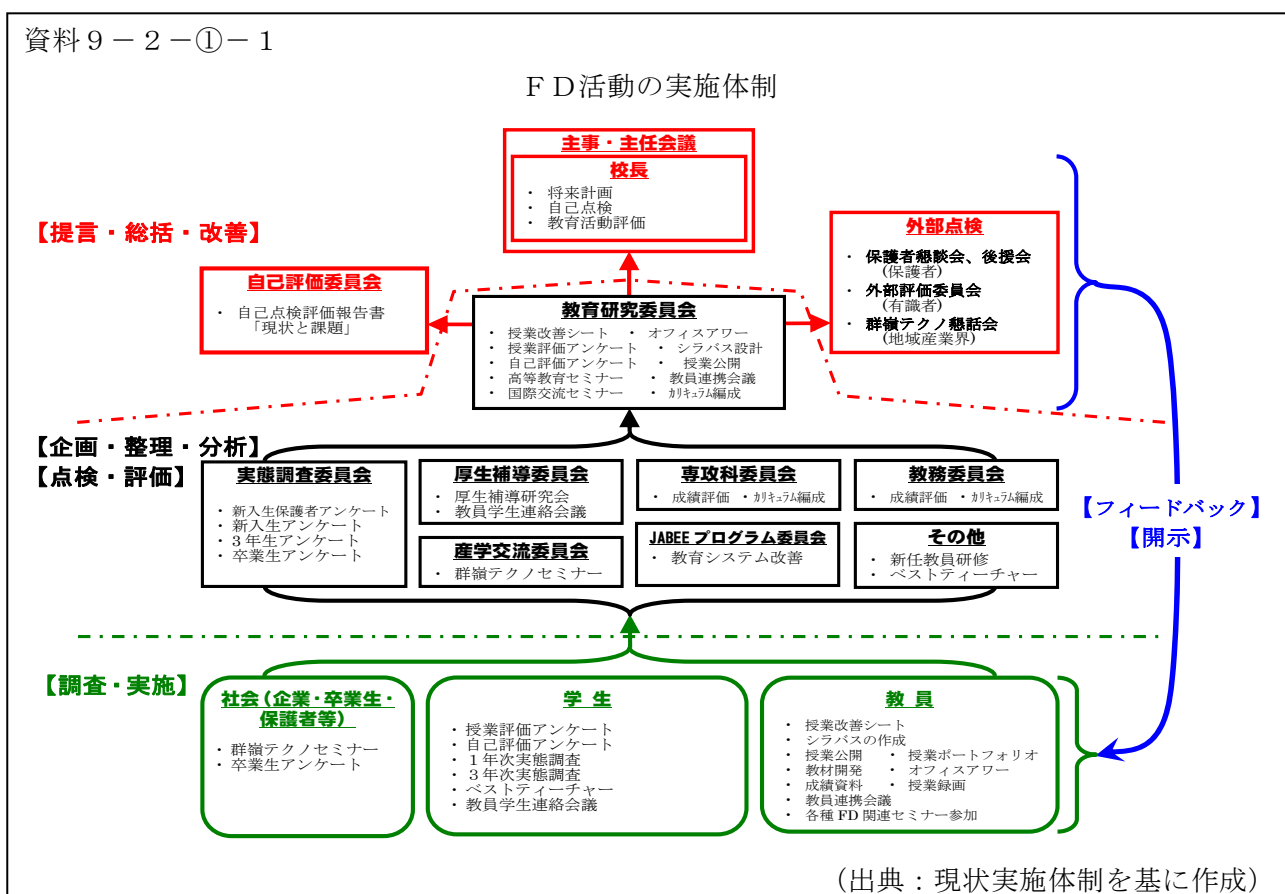
(観点に係る状況)

ファカルティ・ディベロップメント (FD) については、教育研究委員会を中心に専攻科委員会、JABEE プログラム委員会、教務委員会、厚生補導委員会、実態調査委員会等が連携して担当している (資料 9-2-①-1 および 9-2-②-2)。教職員の意見は、各科に学科会議があり、委員を通して各委員会に汲み上げるシステムになっている。学生のニーズを汲み上げるシステムは、観点 9-1-② に示している。

学内における組織としての FD は、主に教職員研修会、教員連携会議、授業公開により実施されている。教職員研修会は、教育研究委員会の主催する高等教育セミナーと国際交流セミナー (資料 9-

2-①-2および9-2-①-3), 他組織による厚生補導研究会と群嶺テクノセミナー(資料9-2-①-4および9-2-①-5)が行われ, 教職員の教育や研究に関する質的な向上をはかっている。また, 教育に関わる教科間・学科間の調整として, 数学, 物理, 化学, 英語の基礎科目, および各科間に共通する情報処理系科目などの科目の, 教員・学科・学年相互の連携やカリキュラムの検討を行う教員連携会議が実施されている(資料9-2-①-6)。さらに, 年二度の授業公開週間を設け教員相互の授業公開を実施している(資料9-2-①-7および9-2-①-8)。平成19年度からは参加者の増加および機会均等化の目的から, 全教員の授業公開が義務となった(資料9-2-①-9)。

学外においては, 定期的で開催される高等専門学校教員研究集会, 高等専門学校新任教員研修会, 高等専門学校情報処理教育研究委員会等に教員代表者が参加して, その要旨を教員会議で全員に報告・配布し, 学校全体として教員の質的向上をはかることにしている(資料9-2-①-10)。



資料 9-2-①-2

高等教育セミナー一覧

開催日	公演題目	講師名	
		職名	氏名
H11年3月1日	教育接続から見た高等専門学校	大学入試センター研究開発部 教授	荒井 克弘
H12年3月9日	高等教育改革と評価システム	学位授与機構・大学評価機関 創設準備室 教授	館 昭
H12年11月27日	教育改革のなかの高等教育：学力問題を中心に	東京大学大学院教育研究科 教授	荻谷 剛彦
H13年3月7日	リベラル・アーツと大学教員の課題	国際基督教大学長	絹川 正吉
H13年3月12日	アメリカのリベラルアーツカレッジの教育 ―日本の大学教育と比べて―	宮城教育大学 名誉教授 (元米国マカレスターカレッジ客員教授)	丸山 雅雄
H13年5月23日 (国際交流セミナー共催)	リベラル・アーツの実際	米国ジュニアータカレッジ 教授	落合 栄一郎
H14年11月15日	教育改革の時代における高等教育のデザイン ―接続, 連携, そして飛躍―	桜美林大学 教授 (東京大学名誉教授)	寺崎 昌男
H16年1月7日	名古屋大学での授業開発とFDの取り組み	名古屋大学高等教育センター 教授 (同大学評価情報分析室長, 同大学総長補佐)	池田 輝政
H17年1月12日	東工大における高等教育と教育貢献の評価 (アナログと歩んだ50年)	東京工業大学大学院理工学研究科 教授	藤井 信生
H17年3月11日	東京大学駒場キャンパスの英語教育について	東京大学大学院 総合文化研究科 教授	佐藤 良明
H19年3月19日	高等教育の総合的な質向上の試み ―ティップス先生からの7つの提案の事例―	名古屋大学高等教育センター 助教授	中井 俊樹

(出典：群馬高専 40年史, 校報等)

資料 9-2-①-3

国際交流セミナー一覧

開催日	公演題目	講師名	
		職名	氏名
H11年6月23日	Reaction Kinetics in micro disperse systems	工業技術院 物質工学工業技術研究所 主任研究官	アレキサンダー・バルジーキン
H12年2月14日	FTICR を用いた基礎的有機反応機構の研究	オスロ大学化学科 教授	エイナー・ウッゲル
H13年5月23日 (高等教育セミナー共催)	リベラル・アーツの実際	米国ジュニアータカレッジ 教授	落合 栄一郎
H13年9月17日	ヨーロッパの大学における教育と研究 ―ドイツ語圏での例―	チューリッヒ大学 名誉教授	デトレフ・プリンクマン
H13年12月11日	ゼオライトを反応場とする有機化合物の酸素化反応 ―反応選択性研究のための新しい方法―	ワイオミング大学化学科 教授	エドワード・L・クレナン
H15年3月10日	アメリカ, アジア, 日本の高等教育と研究について	岐阜大学工学部 教授	本城 勇介
H15年9月8日 (群嶺テクノセミナー共催)	技術マネジメントと関連する教育プログラム	ランスブリッジ大学 副学長	ラン・ウォン
H15年9月8日	物質の研究とアメリカの大学教育について	ニューヨーク州立大学バッファロー校 教授	デボラ・チャン
H15年10月29日	ゼオライト微粒子の組織化とその光物理的応用	韓国ソガン大学 教授	キュン・ピュン・ユン
H17年6月23日	Life and Education in Italy	日本学術振興会 外国人特別研究員	ジャンルカ・カルカーニ
H17年12月14日	Indian Culture and Education System	ジャミアミリアイスラミア大学 助教授	モハマッド・サミ
H18年4月10日	有機環状化合物のラジカルイオンと励起三重項状態	米国ラトガース大学化学および化学生物科 教授	ハインツ・D・ロート

(出典：群馬高専 40年史, 校報等)

資料 9-2-①-4

厚生補導研究会一覽

回/開催日	公演題目	内容/目的/職名	講師名
第 16 回 H11 年 8 月 27 日	高専卒業生の企業における評価とグローバルエンジニアへの道	・「高専 5 年課程の卒業生が現在企業でどう評価されているか」などについての情報をえることなど、「技術者の国際標準化などにどう対処していくか」について考えることを目的とする。	福田 征孜
第 17 回 H12 年 8 月 25 日	原子力と放射能について	・学生に対する原子力安全教育が始まったのを機会に、教官側も原子力や放射能についての教養を深め、学生の教育に反映させる。	柴 邦生 西尾 漢(筆名)
第 18 回 H13 年 8 月 24 日	企業側から見たグローバルエンジニア教育	・国際的な大競争時代を迎え、グローバルエンジニア教育が叫ばれている現在、自らグローバルエンジニアとして世界を相手に仕事をされた講師の講演を聞き、技術者教育を目的とする本校全教官の意識改革を促進し、教育活動の効果をよりあげる。	清水 宏紀
第 19 回 H15 年 12 月 10 日	学級担任の基本的心得—学生の中に生き続ける教師をめざして—	・学生指導に関する講演、質疑応答を通して、学生が豊かに育つ支援活動の啓発と普及を図ることを目的とする。 ・元群馬県立沼田高校校長	山田 完治
第 20 回 H16 年 12 月 1 日	学生指導で心得ておきたいメンタルヘルスについて	・東京農工大学 保健管理センター 助教授、精神科医	早川 東作
第 21 回 H18 年 2 月 27 日	若者の心理と助育の方法	・元平安女学院大学学長、元立教大学教授、日本社会事業大学 専門職大学院 講師	坂口 順治

(出典：群馬高専 40 年史、校報等)

資料 9-2-①-5

群嶺テクノセミナー一覽

開催日	公演題目	講師名	
		職名	氏名
第 83 回 H18 年 4 月 18 日	水環境における異常増殖した藻類の除去方法の開発	本校 環境都市工学科	谷村 嘉恵
第 84 回 H18 年 4 月 26 日	部分浚渫法によるため池底泥の生態系保全・資源循環型フロートポンプシステムの開発と実証試験	本校 環境都市工学科	青井 透
第 85 回 H18 年 5 月 24 日	電磁アクチュエータの電磁界解析技術と統計的設計評価	本校 電子メディア工学科	楡井 雅巳
第 86 回 (特別講演会) H18 年 6 月 28 日	特許・商標の基礎知識、県内企業の特許出願動向と中小企業に有利な特許制度の活用方法について	羽鳥国際特許商標事務所 所長 弁理士	羽鳥 亘 中村 希望
第 87 回 H18 年 7 月 26 日	光で探る化学の世界	本校 自然	辻 和秀
第 88 回 H18 年 9 月 27 日	環境対応と加工コスト低減を目的とした冷風・セミドライ加工技術	本校 機械工学科	櫻井 文仁
第 89 回 (特別講演会) H18 年 12 月 13 日	特許侵害トラブルの対処法	羽鳥国際特許商標事務所 所長 弁理士	羽鳥 亘
第 90 回 H19 年 1 月 10 日	アメリカ合衆国の南部英語と標準英語	本校 人文	伊藤 文彦
第 91 回 H19 年 2 月 14 日	有機ホウ素ポリマー材料～二光子吸収による 3 次元光メモリを目指して～	本校 物質工学科	藤野 正家
第 92 回 H19 年 4 月 11 日	スモールワールドネットワーク～複雑ネットワークがつくる大きくて小さな世界～	本校 電子情報工学科	荒川 達也
第 93 回 H19 年 4 月 11 日	① 測定・分析入門セミナー：CNC 三次元測定機 — 「三次元測定の意義とその活用事例—求められる企業の信頼と品質保証—」 ② 工学基礎セミナー：加工技術 — 「マイクロ応用加工(放電加工・電子ビーム加工・レーザー加工等)入門とその工学的基礎」	本校機械工学科	櫻井文仁
		本校機械工学科	下田祐紀夫

(出典：本校ウェブサイト <http://www.gunma-ct.ac.jp/Shomu/seminar.html>)

資料 9 - 2 - ① - 6

第 1 回 教育研究委員会 教員連携ワーキング・グループ 議事録

日時 平成 18 年 1 月 17 日(火) 18:00~19:00

場所 専攻科棟 2F 石澤教員研究室

出席者 石澤教員, 中島教員, 富澤教員

1. WGの目的, 狙いが石澤教員より説明された。
2. 従来次年度の学科にまたがる授業の調整は電話, 口頭で行い, メモや議事録は作らない例がほとんどであった。これをメモ化してもらうように教員にお願いする。
3. JABEE は大学の審査がほとんどであり, 大学では教養と専門にわかれているケースが多くそのため教員の連携を目に見える形で実施することが必要になり, この連携が強調されることも考えられる。高専は世帯が小さく, 連携は電話, 口頭で済むケースが多いのではないかと。
4. 新年度が始まる時に従来も関連分野での調整は行ってきたので, 議事録, メモを残すように働きかけることが必要である。
5. 今年度はいくつかの分野を挙げて, 関連する分野の教員に集まってもらって現状と, 来年度の授業の進め方についてそれぞれ紹介するような進め方とする。新たに課題が出て通年で検討していくような中期課題が出てくれば, 新しい動きとなることを期待する。はじめはあまり高望みはしない。
6. JABEE とは直接関係ないが, 次年度より 1 年生から混合学級が始まる。数学, 化学など全体の調整が必要な分野がある。この調整もメモを残してもらうようあらかじめお願いしておく。

以上のような議論を踏まえて, 今年度の取り組みとして

今年度の分野,

- 1) 英語 — 英語教員, 専門英語を実施している学科, 辻川教員
石澤が飯野教員にまとめ担当をお願いしてみる。
- 2) 情報処理 — 5 学科の情報処理担当教員
コアメンバーは榎本教員にあたってみる。
専攻科で情報関係の科目を担当している大豆生田教員, 荒川教員にも入ってもらう。
- 3) 物理 — 一般自然の物理と各学科

(出典: 第 1 回教員連携WG 議事録)

資料 9-2-①-7

平成 18 年度後期授業公開の通知書

教員各位

後期の授業公開を11月13日の週から2週に渡り実施いたします。今回、公開してくださる先生、日時、クラス、科目名は以下のとおりです。

時間の都合のつく先生方には積極的に参加して下さるようお願いいたします。

授業公開日程

日時	時限	科	教員	クラス	教科
11月14日(火)	3, 4	M	安田	5M	流体工学Ⅱ
11月15日(水)	1, 2	K	林	2K	生物学
11月16日(木)	1, 2	C	江口	3C	測量学
	3, 4	J	櫻井(治)	4J	システムプログラム
11月17日(金)	7, 8	自然	谷口	4J	応用数学Ⅰ
	7, 8	自然	辻	4K	機器分析Ⅰ
11月20日(月)	7, 8	人文	杉浦	4M	政治・経済
11月21日(火)	3, 4	E	青木	4E	電磁気学Ⅱ

教育研究委員長
石澤静雄

(出典：全教員への授業公開案内通知)

資料 9-2-①-8

平成 18 年度後期授業公開参加状況

日時	時間	教員	授業名称	クラス	教室	参加者数
11.14(火)	3,4	安田	流体工学	5M	5M	5
11.15(水)	1,2	林	生物学	2K	2K	1
11.16(木)	1,2	江口	測量学	3C	3C	2
	3,4	櫻井(治)	システムプログラミング	4J	4J	1
11.17(金)	7,8	谷口	応用数学Ⅰ	4J	4J	4
	7,8	辻	機器分析Ⅰ	4K	4K	4
11.20(月)	7,8	杉浦	政治・経済	3M	3M	2
11.21(火)	3,4	青木	電磁気学Ⅱ	4E	4E	1

合計 20

(出典：平成 18 年度第 7 回教育研究委員会 配付資料)

資料 9 - 2 - ① - 9

平成 19 年度授業公開について

教員会議資料 5

平成 19 年 5 月 23 日

教育研究委員会 報告事項

1. 平成 19 年度授業公開の実施について

1) 主旨

本校教員がお互いに授業を公開しあい、その感想や意見等を交換することにより、教員の授業法をさらにレベルアップし、学校全体の教育力の向上を図る。

2) 授業公開期間(週間)

前期：平成19年 7 月 2 日(月) ～ 7 月 6 日(金)

後期：平成19年 10 月 31 日(水) ～ 11 月 6 日(火)

3) 授業公開科目・見学方法

- ① 上記期間(週間)中の全ての科目(常勤・非常勤の座学)を公開対象とする。
- ② 教員は、適宜、科目を選定・見学するとともに、感想・意見等に関する“授業見学メモ”を当該教員へ直接手渡す。
- ③ なお、教育研究委員会委員および教務委員会委員は、1 科目以上を選定・見学する。ただし、見学に当たっては、2 人 1 組を原則とする。

(出典：第 686 回教員会議 (定例) 配布資料 5)

(資料9-2-①-10)

「教員研究集会報告書」の一例

教員研究集会等報告書

研究集会等名	第62回高等専門学校情報処理教育研究委員会
会場	白鷗大学東キャンパス（栃木県小山市）
出張期間	8月21日（月）－8月23日（水）
報告者（出張者）	櫻井 治男
<p>8月21日に頭書の委員会が、以下のように行なわれた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長挨拶（沼津高専校長） 2. 自己紹介 3. 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成19年度及び20年度高等専門学校情報処理教育研究発表会主管校について【沼津】 (2) 第17回全国プログラミングコンテストについて【長岡】 (3) 平成19年度高等専門学校情報処理教育研究委員会および発表会についての計画【徳山】 4. 協議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第26回高等専門学校情報処理教育研究発表会における表彰について【沼津】 (2) 学内基幹ネットワークの更新について【津山】 <p>【提案理由】平成13年度に全高専一斉に整備された基幹ネットワークは耐用限度を迎えており、早急に更新すべき時期に来ている。各高専の現状と対応を持ち寄り、全高専がそろって更新できる方策を議論願いたい。</p> 	

(出典：第673回教員会議（定例）配布資料8)

(分析結果とその根拠理由)

教育研究委員会が中心となり、教員連携会議、授業公開等を組織として適切な方法で実施している。また、教育研究員会を中心に数多くの教職員研修会が実施されている。さらに、学外ではFD研修会への積極的な参加と全教員への報告が行われている。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されている。

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

平成13年度文部省の援助を受け、専攻科を含めた7年一貫カリキュラムをどのように構築するべきかを、基礎共通教育として重要な数学、物理を中心とする学科横断的組織を作って検討する際、高専での教養教育（リベラルアーツ）のあり方を探るために採りあげた高等教育セミナーの講演が役立った（資料9-2-②-1および9-2-②-2）。教育研究委員会等を中心に委員会間で横断的に検討した結果、技術者倫理教育の導入と英語教育改善を目指す基本方針が示され、技術者倫理・TOEICが実施される（資料9-2-②-2）。教員連携会議により提案された授業内容の検討などが実施されている（資料9-2-②-3）。

また、学生のニーズを汲み上げるシステムとしての授業評価アンケートの利用について、個々の教員の改善例は観点9-1-⑤で取り上げた通りであるが、学校全体として教育の質の向上や授業の改善に結び付けている例としては、平成18年度に、平成17年度授業評価アンケートで低スコアであったシラバス内容の周知をはかるため、学生全員にCD媒体のシラバスを配布し改善を行ったことが挙げられる（資料9-2-②-4）。資料は、18年度の本科での該当質問項目（設問5）を変えたため、専攻科1年について示している。

さらに、本観点に関わる教育研究活動の公表（資料9-2-②-5）および教科書執筆等（資料9-2-②-6）が盛んに行われ、教育の質の向上及び授業の改善に結びついている。

(資料9-2-②-1)

高等教育セミナーの紹介

「がちよっと難しかったかな」うーん、そうか。でも、実験して結果を出すことの楽しさが伝わって良かった良かった。

2日目の実験が終わったあとは、教務主事に来室してもらって、高専の紹介をしてもらう。最後の閉講式では中学生に、受講証書と、実験風景や実験の資料などを焼き込んだCDを記念に手渡した。この中から未来のノーベル賞科学者がでるといいなあ。

JICA水環境保全班見学など

環境都市工学科教授 青井 透

環境都市工学科衛生工学研究室では、学生の興味と活力を生かして利根川・鍬川水質調査や、ケナフ栽培など水環境保全の具体的な研究を実施している。特にケナフによる大規模な水質浄化試験は、西湖が校内にある利点をうまく活用して長く続けており、国際的な実績をあげている。最近では国際協力事業団（JICA）水質環境管理コースの視察先に組み込まれており、毎年秋に外国人専門家を一日受け入れて、講義と見学を実施している。今年は9月26日に南米・アフリカ・アジアからの9人の研修生(自国では政府機関などの専門家が来校し、研修していただいた。これは学生にとって国際化の時代を実感する良い機会にもなっている。写真は西湖のケナフヤードでの一行である。午後は高崎市の協力を得て、城南下水処理場でわが国最大級の散水床(落差を利用して無動力で下水が浄化できる)を見学していただいた。

その他にも9/13には安中一中の3年生19名が、総合学習の環境問題で来校し、衛生工学実験室で水質実験を体験して頂くなど、中学との交流も進めている。

「リベラルアーツ」を考える
連続高等教育セミナー

物質工学科教授 (平成12年度教育研究副委員長)

赤羽 良一

平成13年3月から同年5月にかけて計3回の高等教

まず3月7日に国際基督教大学（ICU）学長の絹川正吉先生（数学者）による「リベラル・アーツと大学教員の課題」と題した、「個人がどう生きるかと学問の問題」、「学生の自己教育（主体的学習）」などのリベラルアーツ教育の本質的な問題に迫る、内容ある、そしてきわめて示唆に富んだ包括的な講演が行われました。日本における「リベラルアーツ」教育の中心地ともいべきICUの現職の学長による講演は、我々に「リベラルアーツ」とは何かについて大いに教えるところがあったと思います。

続いて、3月12日にアメリカのミネソタ州にある名門マカレスターカレッジ（Macalester College）の客員教授を勤められた、宮城教育大学名誉教授である丸山雅雄先生（有機化学者）に、「アメリカのリベラルアーツカレッジの教育—日本の大学教育と比べて—」という演題で、日本の高専や大学でも採用されつつある「シラバス」や「オフィスアワー」の意味、週3回のクラス（講義）と実験1回でセットになった授業のあり方などについて、日本との比較において詳しく解説していただきました。先生のご講演は、学生の基本的学力、思考力、判断力などをいかに養成するかについて、高専で今後どのような方法を採用すべきかを考えるにあたってきわめて有益であったと思われま

そして、3番目として5月23日に、約20年の間、アメリカのペンシルバニア州にあるジュニアータカレッジ（Juniata College）で教授をお勤めになっておられる落合栄一郎先生に「リベラルアーツの実際」と題して講演していただきました。先生の説得力のあるお話は非常に具体性に富み、その範囲はアメリカのリベラルアーツカレッジの学生選抜（日本でいう入学試験）のあり方から、学生への経済援助のあり方（たとえば授業料が払えない家庭の学生でも成績、能力によって入学を許可し、生活を大学が援助するなど）、学生の勉強のあり方、成績の付け方、FD（Faculty Development）の



(出典：学校だより61号)

(資料 9 - 2 - ② - 2)

「技術者倫理教育・英語教育の重視」に関する資料

平成 14 年 4 月 23 日
教育研究委員会

J E B E E への取り組みと今年度の課題

1 今までの準備状況

平成 11 年 10 月	「JABEE」準備委員会発足、目的：JABEE の情報収集 構成：準備委員長、校長、教務主事、専攻科委員長、専攻科専攻主任、教務専門員、各科委員（機械、電気、情報、物質、環境、人文、自然）、事務部長、庶務課長、学生課長
平成 12 年 4 月	教育研究委員会で「JABEE 準備」をスタート 構成：教育研究委員長、同副委員長、教務主事、専攻科専攻主任、教務専門員、各科（機械、電気、情報、物質、環境、人文、自然）の委員、事務部長、庶務課長、学生課長
5 月～9 月	群馬高専の「教育理念」の確立
8 月	JABEE の基準のうち本校で欠けている教育内容調査（4 年、5 年、専攻科）
10 月	調査結果より 4 つの重点課題（最優先の重点課題）を設定 (1) 「技術者倫理教育」 (2) 「実験を計画する能力」を育成する教育 (3) 「社会の要求を解決するためのデザイン能力」を育成する教育 (4) 専門科目の中での英語教育
12 月	大中逸雄 JABEE 基準審査委員長の書かれた「共通基準の背景、教育方法、評価方法の解説書」を全教官に配布、各科で勉強会実施
12 月～3 月	各科毎に 4 つの重点課題に対する教育内容、方法、開始年度の計画立案
11 月～3 月	学術基礎教育（リベラルアーツ）等の教育セミナー実施（計 3 回）
平成 13 年 4 月	英語力向上のため、一般教官と専門学科教官の連携による「全学的英語教育システムの確立」の計画書作成 技術者倫理教育の検討
4 月～6 月	「専攻科を含めた一貫教育の良いところ」の明確化
7 月～9 月	一貫教育の特徴を生かす「カリキュラム設計の基本的な考え方」の統一 (従来の学科 5 年+専攻科 2 年、5 年+2 年=7 年、3 年+4 年=7 年、どのスパンでカリキュラム設計を行うか)
9 月～10 月	技術者倫理の教育内容、担当教官、講義のすすめ方の検討 「技術者倫理」開講時期の決定（平成 14 年度入学生が専攻科 2 年から）
10 月～11 月	専攻科で TOEIC の単位認定決定 JABEE 対応のシラバス作成の検討 (何を教えるかでなく、学生は何を学び、どのような能力を身につけることができるか、成績評価基準の明確化、小テスト、課題等)
11 月～1 月	各分野ごとの教育目標（ver.1）作成
平成 14 年 2 月	JABEE 対応のシラバス作成 「技術者倫理」のシラバス作成

(出典：平成 14 年度 第 1 回教育研究委員会議事録 別添付資料 1)

(資料 9 - 2 - ② - 3)

「化学 I, II に関わる教員連携会議」資料

2006 年度 化学 I、II 打ち合わせ会議

12 月 19 日 月曜日 3 限

参加者 早川、平井、辻

場所 非常勤講師室

内容 混合クラスに関わる情報交換

1 月 13 日 金曜日 3,4 限(10:30 - 12:00)

参加者 戸井、林、辻、平

場所 専攻科会議室

内容 混合クラスの化学の進め方、授業内容、実験、評価など

1 月 30 日 月曜日 3 限

参加者 早川、平井、辻

場所 非常勤講師室

内容 混合クラスの化学の進め方、授業内容、実験、評価など

2 月 6 日 月曜日 3 限後

化学打ち合わせメモ

2006/1/13 (金)

平成 18 年度の「化学 I、II の進め方」

授業内容に関する現状

シラバスの違い

シラバスと現状との違い

来年度の方針

授業で教える内容

担当者の進度を統一する必要がある。(中間、期末試験および 3 年生共通テスト)

実験

ヘスの法則

中和滴定

電気分解

エステル合成

気体の状態方程式

副教材の選択

(出典：2006 年度 化学 I, II 打ち合わせ会議メモ)

(資料 9 - 2 - ② - 4)

シラバスCD配布の経緯

平成 17 年度後期 授業評価アンケート

(2005年度後期末実施分)

授業評価アンケート結果

【 学年別 】

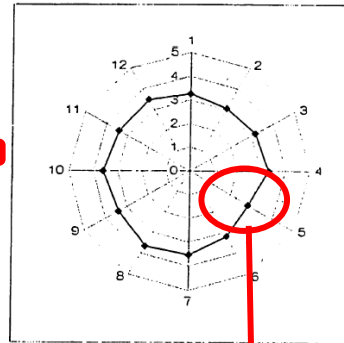
【 専攻科 1年 全体 】

全JABEE対応科目についてのアンケート結果に対する
度数分布表【100分率】

(アンケート総数：367人)

設 問	(配点)	5	4	3	2	1	0	平均
1: 授業は分かりやすかった。		19	22	33	18	8	8	3.3
2: 授業のレベルは、あなたにとって適切であった。		8	23	44	18	7	7	3.1
3: シラバスに指定された教科書、参考書は授業にとって適切であった。		11	20	53	10	5	5	3.2
4: 授業中の原稿やOHPの文字は見やすかった。		16	26	37	13	7	7	3.3
5: 授業を受けるに当たりシラバスは役立った。		4	17	52	15	11	11	2.9
6: シラバスどおりに授業が行われた。		9	20	56	9	6	6	3.2
7: 授業は学生が質問しやすい雰囲気でもめられた。		18	32	38	7	4	4	3.5
8: 質問には熱心に答えてくれた。		25	29	38	5	4	4	3.6
9: 学生に理解度を確認しながら、授業が進められた。		16	29	39	11	5	5	3.4
10: レポートや課題は適切に出された。		21	32	37	7	4	4	3.6
11: 授業はあなたにとって興味を引くものであった。		19	27	38	10	6	6	3.4
12: 授業は総合的に見て高く評価できる。		20	28	37	9	5	5	3.5
(平均)		15.4	25.5	41.7	11.1	5.9	5.9	3.3

左表のアンケート結果について
各設問に対する重み付き平均値



注：「無回答」はこのグラフには含まれません

※ ここで言う「平均値」とは、各設問の回答について次のような重みをつけて平均計算を行ったものです。

そう思う＝5、どちらかと言えばそう思う＝4、普通だと思う(どちらともいえない)＝3、どちらかといえばそう思わない＝2、そう思わない＝1

例：設問1の分布がそれぞれ20%、10%、30%、30%、10%であった場合、平均＝5×0.2＋4×0.1＋3×0.3＋2×0.3＋1×0.1＝3.0と計算されます。

平成 18 年度前期 授業評価アンケート

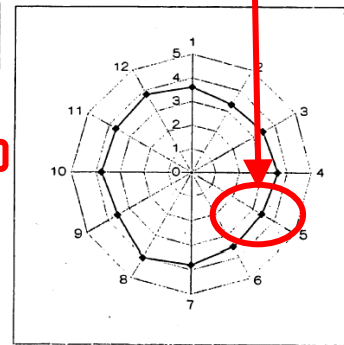
【 専攻科 1年 全体 】

全JABEE対応科目についてのアンケート結果に対する
度数分布表【100分率】

(アンケート総数：476人)

設 問	(配点)	5	4	3	2	1	0	平均
1: 授業は分かりやすかった。		23	32	30	12	3	3	3.6
2: 授業のレベルは、あなたにとって適切であった。		12	31	37	14	5	5	3.3
3: シラバスに指定された教科書、参考書は授業にとって適切であった。		16	28	46	7	2	3	3.4
4: 授業中の原稿やプロジェクトの文字は見やすかった。		22	30	36	10	2	2	3.6
5: 授業を受けるに当たり、シラバスは適切であった。		14	23	58	4	0	0	3.4
6: シラバスどおりに授業が行われた。		17	28	45	8	0	0	3.5
7: 授業は学生が質問しやすい雰囲気でもめられた。		27	34	32	5	1	1	3.8
8: 質問には熱心に答えてくれた。		35	36	27	2	0	0	4.0
9: 学生に理解度を確認しながら、授業が進められた。		18	32	39	9	2	2	3.5
10: レポートや課題は適切であった。		26	31	38	4	1	1	3.8
11: 授業はあなたにとって興味を引くものであった。		20	37	36	6	2	2	3.7
12: 授業は総合的に見て高く評価できる。		24	39	33	4	1	1	3.8
(平均)		21.0	31.7	38.2	7.1	1.6	1.6	3.6

左表のアンケート結果について
各設問に対する重み付き平均値



注：「無回答」はこのグラフには含まれません

平成 18 年度 第 1 回教務委員会議事録

日 時 平成 18 年 4 月 3 日(月) 14:00～15:30
場 所 会議室 A
出 席 者 小島教務主事, 横山, 赤羽, 鶴見, 宇治野の各教務専門委員
高橋(健), 狩野, 小川, 小幡, 籾平, 中島, 木村(清), 青木, 学生課長

○ 報告事項

- 委員の紹介について
- 平成 17 年度授業時間割について
横山教務委員から、授業時間割について報告がされた。
- 平成 18 年度シラバスについて
横山教務委員から、CDを配布する旨の報告がされた。

(出典：平成 17 後期・18 前期 授業評価アンケート集計結果と平成 18 年教務委員会議事録)

(資料 9 - 2 - ② - 5)

教育研究論文・発表一覧

著者名	発表題目	掲載誌名等	頁数	掲載号等	共同発表者等
飯野 一彦	学力保証をどうするか—JABEE 対応を視野に入れて	コミュニケーション能力育成を主眼とした高専英語教育のありかた(国立高等専門学校協会 平成 13・14 年度教育方法改善共同プロジェクト最終報告書)	P. 82~83	H15 年 3 月	井上明俊 (長野高専)
飯野 一彦	高専での専任外国人教師の採用	コミュニケーション能力育成を主眼とした高専英語教育のありかた(国立高等専門学校協会 平成 13・14 年度教育方法改善共同プロジェクト最終報告書)	P. 84~85	H15 年 3 月	井上明俊 (長野高専)
杉浦 立明	高等専門学校に関する統計調査から(1)	群馬高専レビュー	P. 1~10	第 22 号	
鶴見 智	カナダ紀行—カナダの独自性・高等教育・IT 教育—	群馬高専レビュー	P. 27~38	第 22 号	
竹島 尚仁	マイケル・デイヴィス「工学系カリキュラム全体を通じて行われる倫理教育」〔論文紹介〕	技術者倫理教育(名古屋工業大学技術倫理研究会編)	P. 71~82	第 1 号, 2004 年 9 月	
竹島 尚仁	ジョン・フォーシ「兵器研究の道徳性」	技術者倫理教育(名古屋工業大学技術倫理研究会編)	P. 83~86	第 2 号, 2005 年 9 月	
東城 敏毅	作者と読者の交錯—文学読解手法の—工夫—	月刊 国語教育	P. 90~93	2006 年 5 月号	
熊谷 健	『効果的な英文法指導の実践記録』—「記号づけ」から基本文型へ—	群馬高専レビュー	P. 11~19	第 24 号	
横山 孝一	文部科学省検定英語教科書を読む—学生は何をよまされているか	高専教育	P. 195 ~ 200	29 号, 2006 年 3 月 24 日	
三上 卓, 古川 茂	全国高専デザインコンペティションへの出展に向けての取り組み—ブリッジコンテスト部門—	群馬高専レビュー	P. 41~47	第 24 号	
小城 淳一	卒業研究にかわるデザイン実験の検討	高専教育	P. 71~76	第 29 号, 2006 年 3 月	
五十嵐 睦夫	実践アラカルトの群馬高専での分担体制と単位互換の実際	現代 GP フォーラム—e-Learning 促進における質の保証とサステナビリティについて—			

(出典：校報)

(資料 9-2-②-6)

教科書執筆等の一覧

著者名	共著者等	編著書名	頁数	刊行所名等	発表年月日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他	新訂基礎数学	P. 1~241	大日本図書	H15年2月1日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他	新訂基礎数学問題集	P. 1~158	大日本図書	H15年2月1日
佐々木 信之	山田 幸 (パイオニア) 監修	デジタル放送ハンドブック	P. 2-5	オーム社	H15年6月20日
大豆生田 利章	日本機械工学会編	機械工学便覧デザイン編 β9 法工学	分担執筆	日本機械工学会編	H15年1月31日
北原 武嗣	土木学会「動的耐震設計法に関する研究小委員会」委員長 大塚 久哲 他	橋の動的耐震設計	P. 11 - 17, P. 69 - 87 (分担執筆)	土木学会	H15年3月31日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 2名	新訂 微分積分 I	P. 1-158	大日本図書	H15年10月1日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 2名	新訂 線形代数	P. 1-178	大日本図書	H15年12月1日
須田 健二	土田 英一 (小山高専)	電子回路	P. 1-238	コロナ社	H15年12月15日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 3名	新訂 微分積分 I 問題集	P. 1-92	大日本図書	H16年2月1日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 3名	新訂 線形代数問題集	P. 1-110	大日本図書	H16年3月1日
岡田 敬夫	中村 克孝 他 2名	水力学・流体力学公式・資料集	P. 1-132	パワー社	H16年3月25日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 3名	新訂 微分積分 II	P. 1-170	大日本図書	H16年11月1日
脇田 英治		システム工学 — 複雑化社会のナビゲーター	P. 1-180	技報堂出版(株)	H16年9月30日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 3名	新訂 微分積分 II 問題集	P. 1-104	大日本図書	H17年3月1日
杉浦 立明	香川 勝俊 (明石高専) 編	『教養の政治学・経済学』	P. 214 - 224 (分担執筆)	学術図書出版社	H17年4月1日
辻川 信二	小玉 英雄 他 11名	数理科学 (H17年4月号) 特集: 量子重力理論最前線, ループ量子宇宙論	P. 52-57	サイエンス社	H17年4月1日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 3名	新訂 確率統計	P. 1-166	大日本図書	H17年11月1日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 3名	新訂 応用数学	P. 1-185	大日本図書	H17年11月1日
齋藤 齊久 碓氷 久	高遠 節夫 他 3名	新訂 応用数学問題集	P. 1-102	大日本図書	H18年3月1日

(出典: 校報)

(分析結果とその根拠理由)

高等教育セミナーなどの教職員研修会がカリキュラムの構築に役立っている。教員連携会議などのFD活動が教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。また、授業評価アンケート等によって汲み上げられた学生の意見も適切な形で改善に結び付いている。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントが教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育活動の実態を示すデータや資料を収集・蓄積し、その評価を教育改善に結び付ける体制が適切に整備されている。教員学生連絡会、実態調査、授業評価アンケートなど、様々な形で学生の意見の聴取が行われており、授業改善シートの活用などによって教育改善に結びついている。教職員研修会、教員連携会議等のFDが盛んに行われ、教育の質の向上に結びついている。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準 9 の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータや資料は、JABEEプログラム委員会がシラバス及び成績評価資料、実態調査委員会が実態調査の結果、教育研究委員会が学生による授業評価アンケート及び学生の自己評価アンケート、授業改善シートを収集している。これらにもとづく評価は、自己評価実施規則で定められている通り組織ごとに実施され、その報告を受けた自己評価委員会によって総括整理される体制をとっている。

実態調査の結果は、冊子あるいは学内LAN上で全教員に配布あるいは公開されている。学生による授業評価アンケート及び学生の自己評価アンケートの結果は各教員に返却され、個々の教員は評価結果にもとづいて授業改善シートを作成し、年度の終わりに達成度の自己評価の記入を行う。結果を教育研究委員会で検討することにより、教育の質の向上を図り教育内容等の継続的改善が行われるとともに、改善活動状況を学校として把握することができる。

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われているとともに、学外との共同研究・受託研究の実績も重ねてきており、これらの成果が学生の卒業研究や特別研究に反映され、専門科目の授業内容にも活かされている。

教育研究委員会を中心に実施される各種の教職員研修会、教育に関する教員連携会議、授業公開等のFD活動が教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

10-1-① 学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行できる資産を有しているか。

また、債務が過大ではないか。

(観点にかかる状況)

本校の資産は、国から出資及び承継された土地及び建物・構築物などであり、教育研究活動を将来に渡って適切かつ安定して遂行するため、高等専門学校設置基準に基づいて整備されている。平成19年3月末現在におけるその資産現在額は次のとおりである。

(a) 固定資産

土地 面積 116,739㎡ 3,318,700,000円

建物 延面積 33,337㎡ 2,781,943,016円

構築物 313,873,118円

(価格は、すべて減価償却後の期末残高を計上)

(b) 所属別工具器具備品資産等一覧

(点)

所 属	工具器具備品資産	少 額	合 計	備 考
一 般 教 科	17	265	282	
機械工学科	18	577	595	
電子メディア工学科	12	357	369	
電子情報工学科	2	408	410	
物質工学科	24	717	741	
環境都市工学科	19	375	394	
専 攻 科	0	51	51	
情報処理センター	11	64	75	
地域共同技術開発センター	4	14	18	
事 務 部	94	615	709	
合 計	201	3,443	3,644	

※工具器具備品資産＝取得価格50万円以上、少額資産＝取得価格10万円以上50万円未満

(分析結果とその根拠理由)

平成16年度4月に国から現物出資を受けた資産について、時価評価を行い、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第31条の3「固定資産は、その増減及び異動を帳簿によって物件別に管理するものとする。」に基づいて資産管理している。

また、財務会計管理については、損益計算書、貸借対照表などの財務諸表類により財政状態及び運営状況を明らかにしており、過大な債務はなく、健全な財政管理及び運営となっている(資料10-1-①-1, 資料10-1-②-2)。

資料 10-1-①-1 貸借対照表

事業年度: 18年度

支部: 14 群馬工業高等専門学校

会計区分: 国立高专機構

部 署: 総括

プロジェクト: 総括

セグメント: 総括

貸借対照表

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

(単位:円)

[資産の部]

流動資産

現金及び預金

現金

0

当座預金

0

普通預金

129,005,180

(出典: 総務課 (財務) 資料)

資料 10-1-①-2 損益計算書

事業年度: 18年度

支部: 14 群馬工業高等専門学校

会計区分: 国立高专機構

部 署: 総括

プロジェクト: 総括

セグメント:

損益計算書

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

(単位:円)

[経常費用]

業務費

教育・研究費

消耗品費

65,487,623

備品費

28,839,857

印刷製本費

8,486,656

水道光熱費

22,908,227

(出典: 総務課 (財務) 資料)

以上のことから、学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動を安定して遂行できる資産を有している。

また、債務が過大ではない。

10-1-② 学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点にかかる状況)

高専機構から配分される運営費交付金及び授業料収入等を教育研究活動の基本的財源とし、これらに加え奨学寄附金、共同研究・受託研究、科学研究費補助金などの外部資金の獲得により経常的収入を確保している。

また、全学的に外部資金獲得に向けた取組として科学研究費補助金獲得への学内説明会を実施するとともに、校長裁量経費による若手教員の研究助成を行ない、外部資金獲得に向けた取組を行なっている。

・国費等関係 予算・決算額(年度別) (単位:千円)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	2,359,911	1,857,276	1,630,991	2,117,535	1,524,359

平成16年度以降は、独立行政法人となり運営費交付金、施設整備費補助金等及び自己収入による総事業費(収入ベース)を計上。

・自己収入

授業料・入学料・検定料(年度別) (単位:千円)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
授業料	222,569	235,729	210,783	245,117	241,618
入学料及検定料	28,608	29,357	29,124	29,008	28,473

・外部資金関係

奨学寄附金受入件数・受入額(年度別) (単位:件,千円)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
受入件数	23	37	25	27	32
金額	13,950	17,648	16,116	16,996	16,173

共同研究・受託研究受入件数・受入額(年度別) (単位:件,千円)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
共同受入件数	23	28	26	20	18
金額	12,260	11,419	13,365	9,200	11,611
受託受入件数	4	5	9	11	6
金額	12,815	9,981	16,820	33,146	8,690

科学研究費補助金申請・採択・交付額(年度別) (単位:件,千円)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
申請件数	25	27	30	26	24
採択件数	4	7	10	15	12
金額(直接)	7,700	8,700	14,700	19,500	41,087
金額(間接)	0	0	1,350	1,320	7,862
金額計	7,700	8,700	16,050	20,820	48,949

外部資金合計

(単位：件、千円)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
件数	54	77	70	73	68
金額	46,725	47,748	62,351	80,162	85,423

(分析結果とその根拠理由)

運営費交付金及び自己収入を基本的財源として、文部科学省をはじめ日本学術振興会、その他の機関が行っている各種公募型競争的資金などに応募するなど外部資金獲得へ積極的に取り組んでいる。

また、産学連携を促進するため地域企業を主な会員とする群嶺テクノ懇話会を組織し、学内組織の地域共同技術開発センターを窓口としてセミナーの開催や技術相談などを行ない、地域産業界等との連携を促進し、外部資金の獲得に役立たせている。(資料10-1-②-1)。

その取組の結果、科学研究費補助金、奨学寄附金・共同研究等を合わせた外部資金は、年度ごとに増加し、全国高専でトップクラスの実績となっている(資料10-1-②-2)。

さらに、16年度からは間接経費も認められたことから、研究に伴う光熱水量等へ充当することにより運営費交付金による維持管理費の軽減に寄与している。

資料10-1-②-1

群嶺テクノ懇話会会則

群嶺テクノ懇話会会則

平成 9年8月26日制定

平成11年8月26日改正

平成16年8月 3日改正

(名称)

第1条 本会は、群嶺テクノ懇話会と称する。

(目的)

第2条 本会は、地域産業界と群馬工業高等専門学校及び地方公共団体等との産学官連携により、技術交流促進等を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 産学官共同研究等の促進に関する事。
- (2) 技術振興のための講演会及び研究会等の開催に関する事。
- (3) 群馬工業高等専門学校の教育・研究助成に関する事。
- (4) 技術交流及び国際交流の促進に関する事。
- (5) その他前各号の目的達成のため適当と認められる事項

(会員)

第4条 本会の会員は、第2条の趣旨に賛同した次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 企業会員 この会の目的に賛同して入会しこの会の活動を推進する企業等の代表者
- (2) 個人会員 この会の目的に賛同して入会しこの会の活動を推進する科学技術に係る個人
- (3) 特別会員 この会の目的に賛同し、この会の運営上、特に必要と認められ、理事会の議決を経て会長が認めた機関等の代表者

(出典：総務課(総務)資料)

平成17年7月7日 (木)

日本経済新聞

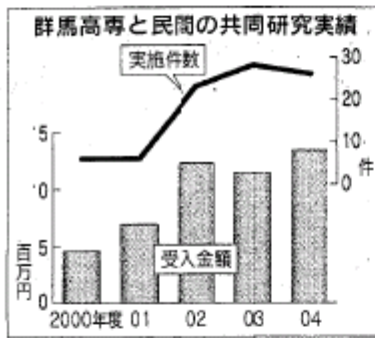
37面

産学共同研究の実施件数

群馬工業高等専門学校 (前橋市) の二〇〇四年度の外部資金受け入れを伴う産学共同研究の実施件数は二十六件で、全国高専五十五校中で二年連続首位となった。企業などが高専に支払う受け入れ金額は全国五位の一千三百三十六万円。事業化を重視した共同研究に重点を置く方針で一定の成果を出した形だ。

昨年度

事業化重視で成果



昨年度の研究を分野別にみると、物質工学科が半数の十三件で、機械工学科(六件)、環境都市工学科(五件)が続いた。町田産業(前橋市)と軽

石のカラー化技術を確立し、土の代用品やインテリアとして利用するなど成果を上げた。民間からの受託研究も実施件数が全国二位の九

件、受け入れ金額が同六位の一千六百八十二万円と高水準だった。ぐんま産業高度化センター(太田市)と東毛地域の金型メーカーが

群馬高専、2年連続トップ

首都圏経済

群馬

(支局電話番号)

前橋	027-223-3111
宇都宮	028-622-1745
水戸	029-221-3283
つくば	029-852-0345

進める次世代金型技術の研究の一部を分担した。

国立高等専門学校機構は「群馬高専の努力に加えて、群馬は製造業を中心とした産業集積に恵ま

群馬高専が昨年度に設定した共同、受託研究の実施目標は計三十件。学内で毎月実施状況を公表して研究者の意識を高めたり、無料の「出前セミナー」を開き技術力をアピールしたりしたことが成果を上げた。

全国の高専は昨年、独立行政法人に移行。法人化で予算が前られる中、産学共同研究による外部資金獲得が課題となっている。基礎研究に比較的

公募によって研究者の独創的な研究を促す「科学研究費補助金」と、寄付金に共同、受託研究を加えた外部資金の獲得総額は六千二百二十五万円

で、前年比三二%の大幅増となった。高専は中小製造業を中心とした企業との事業化や商品化を得意とする。

(出典：平成17年7月7日付日本経済新聞)

以上のことから、学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されている。

10-2-① 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

本校の中期計画に基づき、教育研究経費、旅費及び管理運営費等の年間予算の配分計画を策定のうえ、主事主任会議で審議のうえ、教員会議を通じて、教職員に周知を図っている。

施設の改善計画については、群馬高専第2次施設緊急整備計画（平成18年6月策定）を策定し、更に、耐震診断の結果を受けて、年次改善計画を策定している（資料10-2-①-1）。

資料10-2-①-1 第2次施設緊急整備5か年計画

資料1

平成18年6月13日

1. 第二次施設緊急整備5か年計画について

○平成18年3月28日に閣議決定された、第3期科学技術基本計画では、国立高等専門学校機構の施設整備について、国は「卓越した研究拠点、人材育成機能を重視した基盤的施設について、老朽施設の再生を最優先として整備する観点から、第3期科学技術基本計画期間中の5年間に緊急に整備すべき施設を盛り込んだ施設整備計画を策定し、計画的な整備を支援する」こととなり、本校においても第二次施設緊急整備5か年計画を策定し、計画的に整備を進めたい。

(1) 計画期間

本計画の期間は、平成18年度から5年間となる。

(出典：施設委員会資料（平成18年6月策定）)

(分析結果とその根拠理由)

財務に係る計画等については、毎年度の実行計画に示され、また、施設・設備に係る整備計画についても既に作成・公表されているほか、随時の見直しも行なっている。

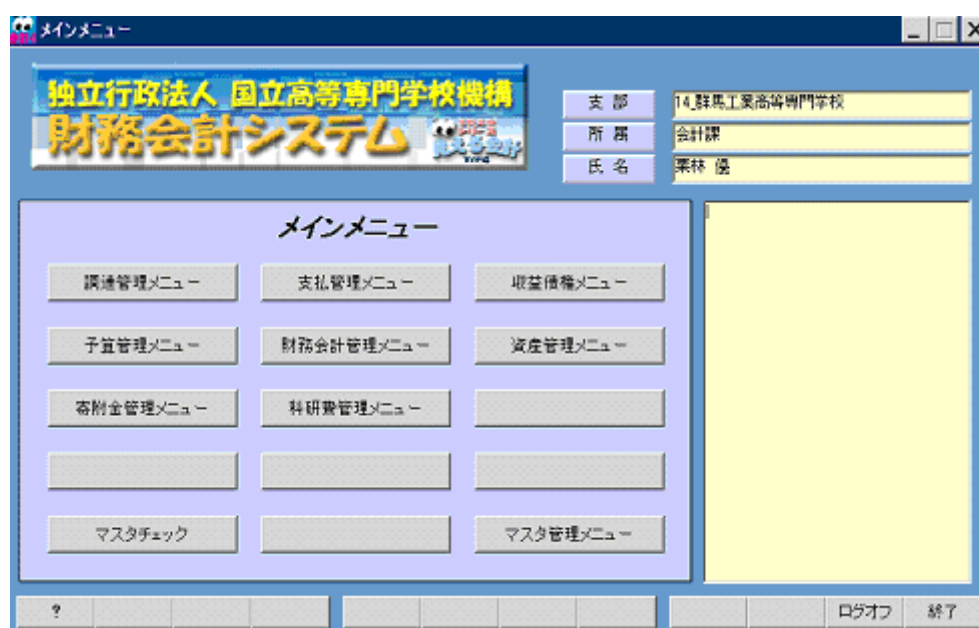
以上のことから、学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されている。

10-2-② 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点にかかるとの状況)

予算に基づく計画的な執行を念頭に置いて、財務会計システム（資料10-2-②-1）により常に予算を把握しながら執行を行っている。また、教員についても、システム上で教育研究費等の使用状況、残高が確認できることから過大な支出は発生せず、適切な予算計画と経費支出に努めており支出超過は生じていない。

資料 10-2-②-1 財務会計システムメニュー画面



(出典：財務会計システムより抜粋)

(資料10-1-①-1 「貸借対照表」参照)

(分析結果とその根拠理由)

財務会計システムにより常に予算を把握しながら執行を行っている。
このことから、収支の状況において、過大な支出超過となっていない。

10-2-③ 学校の目的を達成するため、教育活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点にかかるとの状況)

学内の予算配分では、限られた資源を効果的に配分するため、教育研究資金を確保するとともに各学科、情報処理教育センター、図書館、事務部等へ毎年事業年度の状況に応じ重点配分している（資料10-2-③-1）。

校長裁量経費により教育研究活動の活性化とその環境の整備及び地域連携の強化を図っている。

競争的資金の配分では、科学研究費補助金への応募を条件とするなど、外部資金を獲得する上でも有効に働いている（資料10-2-③-2）。

資料10-2-③-1 平成18年度校費・職員旅費相当の配分及び予算執行について

18. 6. 10

平成18年度校費・職員旅費相当の配分及び予算執行について

1. 基本方針

- (1) 機構中期計画及び本校の中期計画を踏まえて予算を措置をする。
- (2) 機構中期計画で定められた各事業年度における1%の業務の効率化が**予算的に今年度から始まることと平成17年度より実施されていることに鑑み**、各経費とも特別な事情のあるものを除いて、効率化に努めるものとする。
- (3) 全学的な管理運営経費については一括管理し、前年度の実績を踏まえつつも業務の効率化に努める。
- (4) 別に配分された非常勤講師手当経費の不足分については、管理運営経費から極力補填するものとする。
- (5) 前年度平成16年度までは管理運営経費から配分していた「産学連携経費」、「高等教育セミナー経費」は校長裁量経費から配分するものとする。
- (6) 予算執行に当たっては民間的経営手法を倣い合理的に行うものとする。

2. 経費配分項目

- (1) 教育にかかる経費は、各学科等に配分する。(教育経費)
- (2) 研究にかかる経費は、各教員分及び各学科等共通分を配分する。(研究経費)
- (3) 教員の教育研究にかかる旅費は、各教員分を配分する。(教育研究旅費)
- (4) 附属施設等(図書館、各センター、機械工場、学生寮)にかかる経費は各施設等に配分する。(附属施設経費)
- (5) 学生の厚生補導等にかかる経費は、学生課に配分する。(学生支援経費)
- (6) 定常的な学校の管理運営にかかる経費は、事務部に配分する。(管理運営経費)

(出典：主事・主任会議資料(平成18年6月))

(分析結果と根拠理由)

学内の予算配分では、校費・職員旅費相当の配分及び予算執行について(資料10-2-③-1)に基づき教育研究活動に重点的に配分し、その質の向上と充実した教育環境の整備を行っているほか、校長裁量経費により外部資金獲得のための競争的資金を創設するなど、適切な資源の配分を行っている(資料10-2-③-2)。

・学内基礎配分状況	平成18年度当初配分
人件費	1,118,114,951円 (80.7%)
教育研究費	199,476,780円 (14.4%)
一般管理費	67,197,290円 (4.9%)
(合計)	1,384,789,021円

・学内競争的資金の採択状況

平成18年度

(単位:円)

名 称	予 算 額	申請件数	申請金額	採択件数	採択金額
若手教員奨励研究経費	3,000,000	8	4,429,800	5	3,081,000

資料 10-2-③-2 若手教員奨励研究経費の創設について

若手教員奨励研究経費の創設について

平成18年7月11日
校長 裁定

1. 趣旨

学校予算に限られる中で本校の研究活動を推進するためには、科学研究費補助金等外部競争的研究資金の獲得が必要不可欠である。また、高等教育機関としての教育力を高める上でも研究活動の一層の推進が重要である。特に、科学研究費補助金制度は広く教員に開かれた制度であるため、多くの教員がその支援を受けることにより、本校の研究活動が広く促進され、研究力の強化につながる。

科学研究費補助金に採択されるためにはある程度の研究実績が求められるため、研究実績の少ない若手教員を対象にした奨励研究予算を校長裁量経費により創設し、研究補強の支援を行う。

2. 対象教員

助教授以下の教員で、当該年度を含む過去2年間において科学研究費補助金に応募し、採択に至らなかった者

3. 支援内容

- (1) 研究支援額は、原則として1課題100万円（人文系は50万円）を上限とする。
- (2) 研究支援期間は、原則として当該年度とする。

4. 応募条件

- (1) 当該年度及び翌年度において科学研究費補助金に申請すること。
- (2) 文部科学省審査員のコメントを踏まえた研究計画であること。
- (3) 研究終了後、速やかに研究成果報告書を会計課へ提出すること。

(出典：主事・主任会議資料（平成18年7月）)

以上のことから、学校の目的を達成するため、教育活動に対し、適切な資源配分がなされている。

10-3-① 学校を設置する法人の財務諸表が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

高専機構全体の財務諸表が、機構本部のウェブサイト上で公表されている。

(<http://www.kosen-k.go.jp/documents/zaimusyohyo.pdf>)

(分析結果と根拠理由)

公表されている。

機構本部が法人全体の財務諸表等を公表している。

10-3-② 財務に対して会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

支払契約決議、振替伝票、支出伝票により日常監査を行なっている。

また会計監査実施規程による物品の定期監査を毎年1回実施しているほか、不適切な使用等が指摘されている科学研究費補助金にかかる監査も毎年行なっている(資料10-3-②-1)。

資料10-3-②-1 内部監査実施報告

平成18年度科学研究費補助金の内部監査(通常監査・特別監査)の実施について

平成18年9月1日付け18文科振第239号、平成18年9月1日付け学振助第117号にて通知があり、それにともない別添「内部監査等実施状況報告書について(依頼)」が平成18年9月4日付け事務連絡により庶務課長から依頼があった。

これらにより、下記のとおり内部監査(通常監査・特別監査)を実施するものである。

記

監査期間 平成18年10月23日(月)～10月31日(火)

監査員 監査員 佐藤総務係長、小林出納係長、加藤用度係長

補助者 猪熊総務係主任、山内総務係主任、西川出納係主任

監査対象期間 平成18年度交付を受けている研究課題

監査内容(通常監査)

- ・ 収支簿確認 . . . 出納係・用度係
- 収支簿の記載内容が正しく記入されているか
- ・ 証拠書類(領収書、見積書、納品書等)の確認 . . . 出納係・用度係
- 収支簿に記載内容の証拠書類が適正に保存されているか

監査内容(特別監査)

- ・ 購入物品の使用状況を確認 . . . 教員
- 購入物品の使用状況確認・研究内容との関連
- ・ 業者取引内容を確認 . . . 業者確認
- 業者に取引内容の確認
- ・ 設備備品の設置状況及び稼動状況等の確認 . . . 教員
- 設備備品の設置状況確認・稼動状況・研究内容との関連

(出典：総務課(財務)資料)

(分析結果と根拠理由)

内部監査に関して規程が制定されており、当該規程に基づいた内部監査が適正に実施されているほか、必要と認められる監査を実施している。

このことから、財務に対して会計監査等が適正に行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学習・教育目標を達成するための財源確保並びに予算の重点的配分など、適正かつ効率的な予算の獲得並びに執行に対する努力を行っている。

外部資金の確保に関し、外部資金の獲得のための補助金を配分するほか、地方公共団体や地域産業界等との連携を積極的に行うなど、外部資金獲得に積極的に取り組んでいる。

(改善を要する点)

今後、文部科学省や日本学術振興会の科学研究費補助金あるいは各種財団の教育・研究助成等の申請及び採択率を上げるための取組みを行い、より一層外部資金獲得に向けた取組をする必要がある。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校が中期計画で掲げている教育研究事業を、将来にわたって適切かつ安定して遂行するためには、基本的に必要な施設である校地、校舎、各種設備の資産を有するとともに、国立高等学校機構からの運営費交付金ならびに自己収入である授業料、入学検定料、入学料などの基盤財源に加えて、外部資金（奨学寄附金、共同研究、受託研究、科学研究費補助金など）獲得に積極的に取り組み、安定して事業を遂行できる財務基盤を有している。

予算配分については、限られた予算をより効果的に配分するため、校長のリーダーシップのもとで教育研究経費や地域連携のための経費に重点的な配分を行っている。このことは、教育研究活動の活性化とその環境整備の向上や地域社会との連携強化を推進する上でも有効な配分となっている。

また、財務会計処理に関する監査においては、内部監査規則に基づく監査が行なわれており、適正な財務会計処理を行なっている。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到係る状況)

校長の役割は、学校教育法第70条の7(資料11-1-①-1)で明記され、高等専門学校においては、学校の管理運営等についての最終意思決定をすることとなっており、本校においても教学、研究、経営等の最高責任者として、学内コンセンサスに留意しながら、学校の管理運営を行っている。

教務、学生、寮務の3主事については、群馬工業高等専門学校学則第9条(資料11-1-①-2)によりその役割を規定しており、教務主事は教育計画の立案や教務に関する業務、学生主事は学生の厚生補導に関する業務、寮務主事は寄宿舎における学生の厚生補導に関する業務を掌理し、校長を補佐している。

本校においては、校長を補佐し機動的な学校運営を行うために「執行運営部会」を設置し、管理運営上の重要な事項について、敏速に協議し、教育・研究活動の経営基盤の強化を図っている(資料11-1-①-3)。

また、校長の下に専攻科長、各一般教科長、各学科長等、図書館長、地域共同技術開発センター長、情報処理センター長及び教育研究支援センター長等を置き、それぞれの組織における管理・運営に携わっている(資料11-1-①-4)。

なお、校長と3主事、専攻科長、各一般教科長、各学科長、地域共同開発技術開発センター長、教育研究支援センター長、事務部長及び各課長で構成する「運営委員会」を毎月定例的に開催し、校長を補佐するとともに意思の統一と情報の共有を図っている。

また、運営委員会をはじめとする25の委員会を設置するとともに適宜ワーキンググループを設け、専門的分野での立案、検討及び調整を図りつつ、校長は学校運営の重要課題等については、「運営委員会」で意見を聴取しながら管理運営を行っている(資料11-1-①-5)。

これらの決定事項等(議事録)は、学内の情報共有システム(グループウェア WeblyGo)(資料11-1-①-6)を整備し、閲覧できる体制となっている。

資料11-1-①-1 学校教育法(抜粋)

- 第70条の7 高等専門学校には、校長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置かなければならない。ただし、教育上の組織編制として適切と認められる場合には、准教授、助教又は助手を置かないことができる。
- 2 高等専門学校には、前項のほか、講師、技術職員その他必要な職員を置くことができる。
 - 3 校長は、校務を掌り、所属職員を監督する。
 - 4 教授は、専攻分野について、教育上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授する。
 - 5 准教授は、専攻分野について、教育上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授する。
 - 6 助教は、専攻分野について、教育上又は実務上の知識、能力を有する者であって、学生を教授する。
 - 7 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。
 - 8 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

(出典：学校教育法)

資料 11-1-①-2 群馬工業高等専門学校学則（抜粋）

第9条本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

4 寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

第10条本校に、庶務、会計及び学生の厚生補導に関する事務を処理するため事務部を置く。

第11条前2条に規定するもののほか、本校の内部組織は、別に定めるところによる。

（出典：群馬工業高等専門学校規則集）

資料 11-1-①-3 群馬工業高等専門学校執行運営部会規則（抜粋）

制 定 平成16年2月10日

（設置）

第1条 群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、執行運営部会（以下「執行部会」という。）を置く。

（目的）

第2条 執行部会は、本校の管理運営上の重要な事項について、敏速に協議するとともに校長の職務を補佐することを目的とする。

（構成）

第3条 執行部会は、次の教職員をもって構成する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 事務部長

（召集）

第4条 執行部会は、毎月2回校長が召集し、その議長となる。ただし、必要あるときは臨時に召集することができる。

（構成員以外の出席）

第5条 校長は、必要に応じ構成員以外の教職員の出席を求めて意見を徴することができる。

（事務）

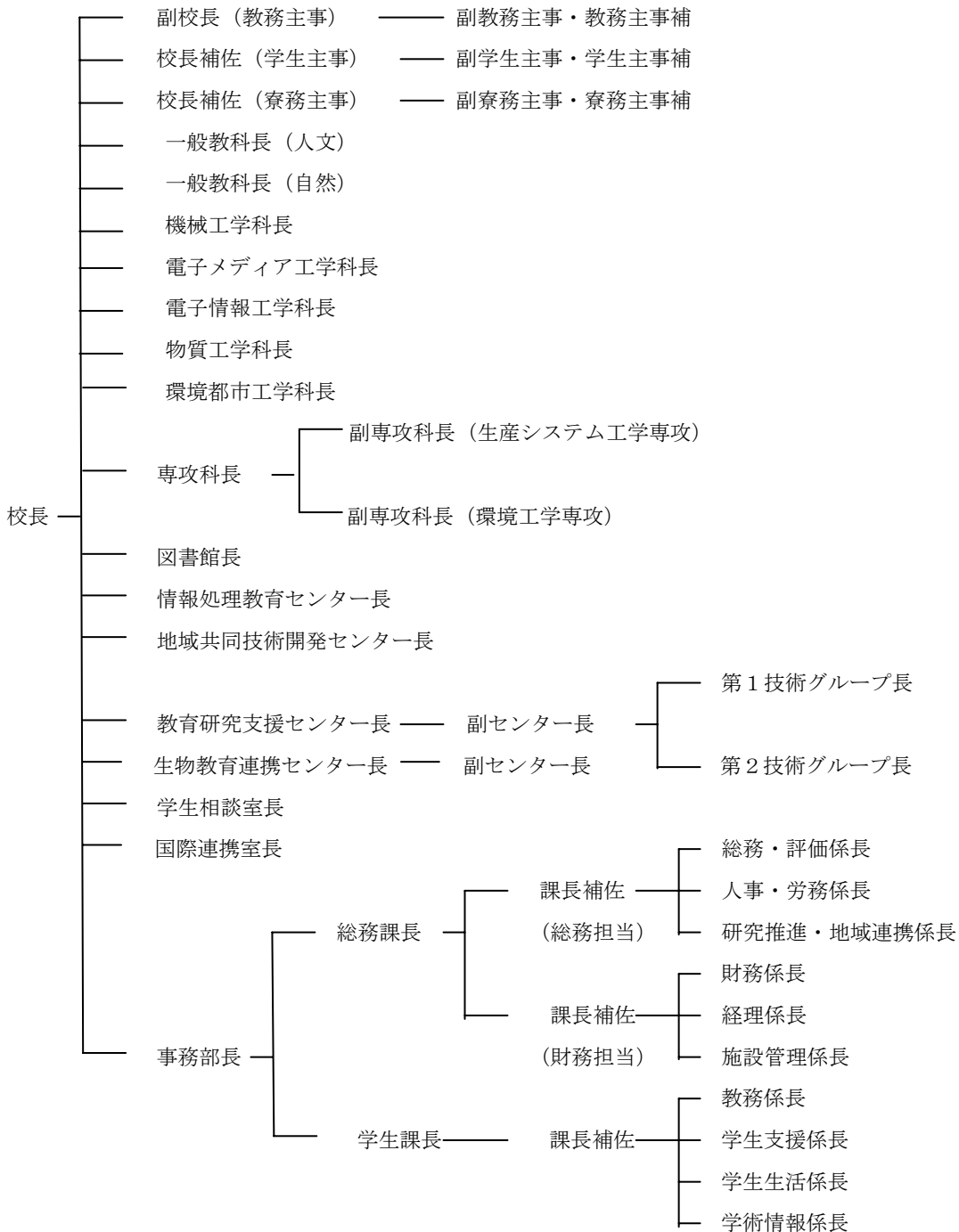
第6条 執行部会の事務は庶務課において処理する。

第7条 この規則に定めるもののほか、執行部会に関して必要な事項は、別に定める。

（出典：群馬工業高等専門学校規則集）

資料 11-1-①-4 組織図

運営組織図



(出典：学校要覧)

資料 11-1-①-5 群馬工業高等専門学校運営組織規則（抜粋）

（目的）

第 1 条 この規則は、群馬工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 11 条の規定に基づき、群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）の運営組織に関する事項を定め、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

（会議等の設置）

第 2 条 本校に、運営委員会及び教員会議並びに別表に定める委員会（以下「会議等」という。）を置く。なお、校長が必要と認める場合には、他の会議等を置くことができる。

2 会議等に関し必要な事項は、別に定める。

（主事の任期）

第 3 条 学則第 9 条に定める教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）は、教授をもつて充てる。

2 主事の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

（副主事等）

第 4 条 本校に、主事を補佐するため、次の各号に掲げる副主事等（以下「副主事等」という。）を置き、講師以上の専任教員をもつて充てる。なお、第 1 号にあつては教務主事を、第 2 号にあつては学生主事を、第 3 号にあつては寮務主事を、それぞれ補佐する。

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 副教務主事及び教務主事補 | 若干名 |
| (2) 副学生主事及び学生主事補 | 若干名 |
| (3) 副寮務主事及び寮務主事補 | 若干名 |

2 副主事等の任期は 2 年とし、主事の意見を聴いて校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

（学科長等）

第 5 条 本校に、一般教科長（人文科学）、一般教科長（自然科学）、機械工学科長、電子メディア工学科長、電子情報工学科長、物質工学科長及び環境都市工学科長（以下「学科長等」という。）を置き、当該学科等の教授をもつて充てる。

2 学科長等は、校長の命を受け、学科等に関する事項を掌理する。

3 学科長等の任期は 2 年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

（図書館長）

第 6 条 本校図書館規則第 1 条に定める図書館に、図書館長を置き、教授をもつて充てる。

2 図書館長は、校長の命を受け、図書館の管理運営に関する事項を処理する。

3 図書館長の任期は、2 年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

（情報処理教育センター長）

第 7 条 本校情報処理教育センター規則第 1 条に定める情報処理教育センター（以下「情報センター」という。）に、情報処理教育センター長（以下「情報センター長」という。）を置き、教授をもつて充てる。

2 情報センター長は、校長の命を受け、情報センターの管理運営に関する事項を処理する。

3 情報センター長の任期は 2 年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

第 8 条 本校地域共同技術開発センター規則第 1 条に定める地域共同技術開発センター（以下「地共センター」という。）に地域共同技術開発センター長（以下「地共センター長」という。）を置き、教授をもつて充てる。

2 地共センター長は、校長の命を受け、地共センターの管理運営に関する事項を処理する。

3 地共センター長の任期は 2 年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

(生物教育研究連携センター長)

第9条 本校生物教育研究連携センター規則第1条に定める生物教育研究連携センター（以下「生物センター」という。）に生物教育研究連携センター長（以下「生物センター長」という。）を置き、教授をもって充てる。

2 生物センター長は、校長の命を受け、生物センターの管理運営に関する事項を処理する。

3 生物センター長の任期は2年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

(専攻科長)

第10条 本校専攻科に専攻科長を置き、専攻科を担当する教授をもって充てる。

2 専攻科長は、校長の命を受け、専攻科に関する事項を掌理する。

3 専攻科長の任期は2年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

(副専攻科長)

第11条 本校専攻科各専攻ごとに副専攻科長を置き、専攻科を担当する教授をもって充てる。

2 副専攻科長は、専攻科長を補佐し、専攻の運営の任に当たる。

3 副専攻科長の任期は2年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

(専攻科長補)

第12条 専攻科長を補佐するため専攻科長補を若干名置くことができる。

2 専攻科長補は、准教授または講師をもって充てる。

3 専攻科長補の任期は1年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

(学級担任及び学級副担任)

第13条 本校に、学級ごとに学級担任を置き、講師以上の専任教員をもって充てる。

2 学級担任は、校長の命を受け、学級の運営及び学習指導並びに生活指導の任に当たる。

3 学級担任を補佐するため、学級副担任を置く。

4 学級担任及び学級副担任の任期は1年とし、学科長等の意見を聴いて校長が委嘱する。

(学年主任)

第14条 本校に、学年主任を置く。

2 学年主任は、校長の命を受け、それぞれ担当する学年に属する学級担任との連絡調整の任に当たる。

3 学年主任の任期は1年とし、学級担任全員の意見を聴いて校長が委嘱する。

(欠員が生じた場合の任期)

第15条 前10条に掲げる各職に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残余の期間とする。

(雑則)

第16条 この規則の実施に関し疑義が生じた場合には、その都度、運営委員会の議を経て校長が決定する。

別表（第2条関係）

教務委員会

厚生補導委員会

寮務委員会

専攻科委員会

教育研究委員会

入試運営委員会

留学生委員会

情報処理教育委員会

情報ネットワーク委員会

事務情報化推進委員会

学生相談委員会

図書委員会

広報委員会
実態調査委員会
施設委員会
防火対策委員会
環境委員会
環境保全委員会
発明委員会
学生食堂管理運営委員会
さわやか行政サービス推進委員会
事務連絡会
レクリエーション協議会
自己評価委員会
産学交流委員会
安全衛生委員会
宿舎委員会
J A B E Eプログラム委員会
機関別認証評価準備委員会
学修単位導入委員会
受託研究受入審査委員会
共同研究受入審査委員会
外部評価委員会
動物実験委員会
遺伝子組換え実験安全委員会

(出典：群馬工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-①-6 学内の情報共有システム（グループウェア WeblyGo）イメージ

● ルートフォルダ

○ 000 公文書書庫

○ 001 会議・委員会書庫

- ・ JABEE プログラム委員会
- ・ さわやか行政サービス推進委員会
- ・ レクリエーション協議会
- ・ 安全衛生委員会
- ・ 遺伝子組換え実験安全委員会
- ・ 学生食堂管理運営委員会
- ・ 学生相談委員会
- ・ 環境委員会
- ・ 環境保全委員会
- ・ 教育研究委員会
- ・ 教員会議
- ・ 教務委員会
- ・ 厚生補導委員会
- ・ 広報委員会
- ・ 高等専門学校機関別認証評価準備委員会
- ・ 専門部会
- ・ 産学交流委員会
- ・ 施設委員会
- ・ 事務情報化推進委員会
- ・ 自己評価委員会
- ・ 実態調査委員会
- ・ 運営委員会
- ・ 受託研究受入審査委員会
- ・ 宿舍委員会
- ・ 情報ネットワーク委員会
- ・ 情報処理教育委員会
- ・ 図書委員会
- ・ 専攻科委員会
- ・ 動物実験委員会
- ・ 入試運営委員会
- ・ 発明委員会
- ・ 防災対策委員会
- ・ 民間機関等との共同研究受入審査委員会
- ・ 留学生委員会
- ・ 寮務委員会

- 010 総務課（総務）共通
- 011 総務課課長補佐（総務）
- 012 総務・評価係
- 013 人事・労務係
- 014 研究推進・地域連携係（公開講座・出前セミナー等）
- 020 総務課（財務）共通
- 021 総務課課長補佐（財務）
- 022 財務係
- 023 経理係
- 024 施設管理係
- 030 学生課共通
- 031 学生課課長補佐
- 032 教務係
- 033 学生支援係
- 034 学生生活係
- 035 学術情報係
- 040 一般教科（人文系）
- 050 一般教科（自然系）
- 060 機械工学科
- 070 電子メディア工学科
- 080 電子情報工学科
- 090 物質工学科
- 100 環境都市工学科
- 110 生産システム工学専攻
- 120 環境工学専攻
- 130 地域共同技術開発センター
- 140 情報処理教育センター
- 150 図書館
- 160 教育研究支援センター

（出典：学内情報共有システム）

（分析結果と根拠理由）

本校の最高責任者である校長の責務は多岐にわたるため、3主事、専攻科長、各学科長等が配置され、各種委員会等の組織も整備されている。校長は機動的な学校運営を行うための執行運営部会や、校務全体を把握するための運営委員会を定期的に行われ、校長の運営方針等が具体的施策に反映できるよう意見の聴取及び情報の共有が行われ、学校の目的を達成するために効果的な意思決定を行える態勢となっている。

以上のことから本校の目的を達成するために校長、各主事及び委員会の役割が明確になっており効果的な意思決定がなされている。

観点 11-1-②：管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点にかかる状況)

本校では、校長が「運営委員会」で管理運営に関する重要事項について意見を聴きながら最終決定しているが、その他、各種委員会を設けて、それぞれの専門的分野について検討し、計画・実施している。各委員会には事務部から事務部長又は担当課長が委員として出席し、委員会の決定事項を所掌事務担当係に周知している。

また、「執行運営部会」は、校長、3主事、専攻科長、事務部長の6名で構成し、教育・研究及び事務を全校的観点から検討することとしており、必要に応じその検討結果等をさらに所掌する各委員会等で専門的に検討することとしている。

なお、校長と3主事、専攻科長、地域共同技術開発センター長、教育研究支援センター長、各一般教科長、各学科長、事務部長及び各課長で構成する「運営委員会」（毎月）を開催し、運営方針の周知や情報の共有を図っている。

事務組織については、総務課、学生課の2課を設置し、事務系職員29名が教員と緊密な連携・協力体制をとりつつ、全校一体となって運営しており、事務組織の職務内容及び事務分掌は「群馬工業高等専門学校事務組織規則」（資料11-1-②-1）に明記されている。

技術系職員については、平成18年度に「教育研究支援センター」を設置し、物理、機械工学及び電気め・電子工学のグループと、情報工学、化学・物質工学、生物・生物工学、環境工学・都市工学等の分野の2グループに分かれ、その職務及び所掌事務は「群馬工業高等専門学校教育研究支援センター規則」（資料11-1-②-2）に規定され、技術系職員16名が教員と協力しながら学生の指導にあたっている。

また、高専の第3の活動である「地域貢献」を充実させるため、総務課に研究推進・地域連携係を設置し、地域との連携窓口を統合するとともに教育・研究に対する情報発信の一元化を図った。

平成19年度には人事、給与及び共済業務を一係内に統合し、業務の効率化を図るとともに所掌事務の見直しを行い、活性化のための組織の再編成などを検討している。

資料11-1-②-1 群馬工業高等専門学校事務組織規則（抜粋）

制 定 平成19年4月1日

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年10月1日制定）第12条及び群馬工業高等専門学校学則（昭和37年規則第1号）第11条の規定に基づき、本校の事務組織及び所掌事務について定めることを目的とする。

第2章 事務組織

(事務部及び課)

第2条 本校に事務部を置き、事務部に総務課及び学生課を置く。

(係)

第3条 総務課及び学生課にそれぞれ次の係を置く。

総 務 課 総務・評価係、人事・労務係、研究推進・地域連携係、財務係、
経理係、施設管理係

学 生 課 教務係、学生支援係、学生生活係、学術情報係

(事務部長)

第4条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受け事務部の事務を処理する。

(課長)

第5条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

(課長補佐)

第6条 総務課及び学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、課長の命を受け、課の事務を処理する。

(係長及び主任)

第7条 総務課及び学生課に係長及び主任を置く。

2 係長及び主任は、課長の命を受け、係の事務を処理する。

第3章 所掌事務

(課長補佐)

第8条 総務課課長補佐(総務担当)は、次の事務をつかさどる。

- (1) 総務関係事務の総括及び連絡調整に関すること。
 - (2) 儀式、その他諸行事に関すること。
 - (3) 公印の管守に関すること。
 - (4) 日本技術者教育認定機構の技術者教育プログラムに関すること(学生課の所掌を除く。)
 - (5) 将来構想に係る企画・調査に関すること。
 - (6) 事務情報化推進に係る企画及び連絡調整に関すること。
 - (7) 情報公開に関すること。
 - (8) 個人情報の保護に関すること。
 - (9) 国際連携室に関すること(学生課関係を除く。)
 - (10) その他、総務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。
- 2 総務課課長補佐(財務担当)は、次の事務をつかさどる。
- (1) 財務関係事務の総括及び連絡調整に関すること。
 - (2) 会計諸規則に関すること。
 - (3) 会計機関の公印の管守に関すること。
 - (4) 会計の監査及び検査に関すること。
 - (5) 会計機関の設置、移動、改廃に関すること。
 - (6) 決算に関すること。
 - (7) 計算証明に関すること。
 - (8) 教職員の安全管理に関すること。
 - (9) その他、財務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。
- 3 学生課課長補佐は、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生関係事務の総括及び連絡調整に関すること。
 - (2) 学生課の公印の管守に関すること。
 - (3) 日本技術者教育認定機構の技術者教育プログラムに関すること(総務課の所掌を除く。)
 - (4) 国際連携室に関すること(総務課の所掌を除く。)
 - (5) 学生課の諸規則に関すること。
 - (6) その他、学生関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

(総務課)

第9条 総務・評価係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 諸規則の制定及び改廃に関すること。
 - (2) 会議、その他諸行事に関すること。
 - (3) 渉外に関すること。
 - (4) 公文書の接受、発送、編集及び保管に関すること。
 - (5) 学校要覧、校報等の発行に関すること。
 - (6) 教職員の財産形成貯蓄に関すること。
 - (7) 調査統計、その他諸報告に関すること。
 - (8) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
 - (9) 郵便料金計器の記録及び報告に関すること。
 - (10) 教職員の身分証明書、通勤証明書等発行に関すること。
 - (11) その他、総務課他係の所掌に属しない事務に関すること。
- 2 人事・労務係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 教職員の定員に関すること。
 - (2) 教職員の任免、懲戒及び服務等に関すること。
 - (3) 教職員の給与及び手当に関すること。
 - (4) 教職員の労働時間及び休暇に関すること。
 - (5) 栄典、表彰に関すること。
 - (6) 教職員の研修に関すること。
 - (7) 教職員の勤務評定に関すること。

- (8) 教職員の健康管理に関すること。
 - (9) 教職員の福利厚生に関すること。
 - (10) 教職員の災害補償に関すること。
 - (11) 共済組合及び退職手当に関すること。
 - (12) 人事記録に関すること。
 - (13) 人事に関する調査報告に関すること。
 - (14) その他、人事に関すること。
- 3 研究推進・地域連携係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 科学研究費補助金に関すること（経理関係を除く。）。
 - (2) 民間等との共同研究及び受託研究に関すること（経理関係を除く。）。
 - (3) 寄附金に関すること（経理関係を除く。）。
 - (4) 産学官連携の推進に関すること。
 - (5) 在外研究員、内地研究員及び外地研究員に関すること。
 - (6) 学術団体等との連絡に関すること。
 - (7) 外国人研究者等との学術交流活動に関すること。
 - (8) 地域共同技術開発センターに関すること。
 - (9) 地域との交流に関すること。
 - (10) 遺伝子組換え実験に関すること。
 - (11) 動物実験に関すること。
 - (12) 公開講座及び出前セミナーに関すること。
- 4 財務係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 予算の要求、配分及び決算に関すること。
 - (2) 支出に関すること。
 - (3) 現金・預金及び有価証券に関すること。
 - (4) 知的財産に関すること。
 - (5) その他、財務会計に関する事務を処理すること。
- 5 経理係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 債権の管理に関すること。
 - (2) 物品の購入に関すること。
 - (3) 物品の管理に関すること。
 - (4) 収入に関すること。
 - (5) 所得税等の徴収に関すること。
 - (6) 科学研究費補助金等及び寄附金の経理に関すること。
 - (7) 受託研究費及び共同研究費の経理に関すること。
 - (8) 給与計算に関すること。
 - (9) 旅費及び謝金等に関すること。
 - (10) 毒物、劇物、危険物の取扱いに関すること。
 - (11) その他、会計経理に関する事務を処理すること。
- 6 施設管理係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 不動産の管理及び処分に関すること。
 - (2) 土地建物の借入れに関すること。
 - (3) 宿舎に関すること。
 - (4) 工事等の実施計画に関すること。
 - (5) 土地、建物及び工作物の維持保全に関すること。
 - (6) 学校環境の整備保全に関すること。
 - (7) 廃水処理施設の維持管理に関すること。
 - (8) 校内警備、取締り並びに清掃に関すること。
 - (9) 施設整備及び営繕工事の企画、設計及び予算案の作成に関すること。
 - (10) その他、営繕に関する事務を処理すること。
- (学生課)
- 第10条 教務係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関すること。
 - (2) 入学、転学、休学及び退学に関すること。
 - (3) 学生の修学指導に関すること。
 - (4) 教育課程の編成、授業及び休業に関すること。
 - (5) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
 - (6) 学生の学籍に関すること。
 - (7) 学籍に関する各種証明書発行に関すること。
 - (8) 文化講演会、修学旅行等の学校行事に関すること。

- (9) 外国人留学生の受入れに関する事。
 - (10) 学生の進路指導に関する事（他の係の所掌を除く。）。
 - (11) 教室使用に関する事。
 - (12) その他、学生課他係の所掌に属しない事務に関する事。
- 2 学生支援係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生の厚生事業に関する事。
 - (2) 学生の課外教育に関する事。
 - (3) 学生に対する奨学金、授業料の免除・猶予及び経済援助に関する事。
 - (4) 学生の賞罰に関する事。
 - (5) 学生の身上調査に関する事。
 - (6) 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
 - (7) 学生相談室の事務に関する事。
 - (8) 学生の保健衛生に関する事。
 - (9) 日本スポーツ振興センターに関する事。
 - (10) 学生の厚生施設の管理運営に関する事（他の係の所掌を除く。）。
 - (11) 学生の旅客運賃割引証及び通学に関する事。
 - (12) その他、学生支援に関する事務を処理する事。
- 3 学生生活係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生寮の管理運営に関する事。
 - (2) 学生の入退寮に関する事。
 - (3) 寮生の給食に関する事。
 - (4) 寮生の保健衛生に関する事。
 - (5) 寮務に関する事務を処理する事。
 - (6) 外国人留学生の生活相談に関する事。
 - (7) 外国人留学生に関し、連絡調整する事。
 - (8) 学生食堂の管理運営に関する事。
 - (9) 学生に対する就職あっせんに関する事。
 - (10) 学生のアルバイトに関する事。
 - (11) その他、学生生活に関する事務を処理する事。
- 4 学術情報係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 学術情報の主たる媒体である図書館資料（図書、逐次刊行物、視聴覚資料及び電子的資料）の契約、受入、整理及び保存管理に関する事。
 - (2) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関する事。
 - (3) 図書館における参考調査、検索指導及び読書相談に関する事。
 - (4) 図書の目録データベースの作成に関する事。
 - (5) 校内で作成された学術情報の収集、蓄積及び公開に関する事。
 - (6) 学術情報の共同利用及び他機関との相互協力に関する事。
 - (7) 図書館の管理運営に関する事。
 - (8) 図書館の調査統計に関する事。
 - (9) その他、学術情報に関する事務を処理する事。

(出典：群馬工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-②-2 群馬工業高等専門学校教育研究支援センター規則（抜粋）

制 定 平成19年2月1日

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第11条の規定に基づき、本校の技術支援組織及び所掌事項について定め、教育研究活動を支援する技術職員の業務を円滑かつ効率的に実施するとともに、技術職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とする。

第2章 技術支援組織

(教育研究支援センター及び技術グループ)

第2条 本校に教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置き、センターに第1技術グループ及び第2技術グループを置く。

2 センターに技術専門員、技術専門職員又は技術職員を置く。

3 技術専門員及び技術専門職員については、別に定める。

(センター長)

第3条 センターにセンター長を置き、教授をもって充てる。

2 センター長の任期は2年とし、校長が委嘱する。ただし、再任を妨げない。

3 センター長は、校長の命を受け、技術支援業務に関する学内調整を行うとともに、センターの運営業務を掌理する。

(副センター長)

第4条 センターに副センター長を置く。

2 副センター長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの運営業務を処理する。

(技術グループ長)

第5条 センターに技術グループ長を置く。

2 技術グループ長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

3 技術グループ長は、上司の命を受け、技術グループの管理業務及び技術研修業務を処理する。

第3章 所掌業務

(業務)

第6条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育研究支援計画の作成に関すること。
- (2) 学生の実験・実習等の技術支援及び技術指導に関すること。
- (3) 教育教材作成の技術支援に関すること。
- (4) 教員の研究活動に伴う技術支援に関すること。
- (5) 技術の研究、改善、継承及び保存に関すること。
- (6) 民間等との共同研究等に伴う技術支援に関すること。
- (7) 実験室・実習室等の整備、備品等の維持管理に関すること。
- (8) その他の教育研究活動等に関する技術支援に関すること。

(技術グループ)

第7条 技術グループの所掌する技術分野は、次のとおりとする。

- (1) 第1技術グループ 物理、機械工学及び電気・電子工学
- (2) 第2技術グループ 情報工学、化学・物質工学、生物・生物工学、環境工学・都市工学及びその他の技術分野

第4章 技術支援業務連絡会

(連絡会)

第8条 技術支援業務の円滑かつ効率的な実施に資するため、技術支援業務連絡会（以下「連絡会」という。）を置く。

2 連絡会の議長は、センター長とする。

(構成)

第9条 連絡会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 技術グループ長
- (4) 一般教科（自然科学）主任、専門学科主任及び専攻主任
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同技術開発センター長
- (6) 学生課長
- (7) その他センター長が必要と認める者

(庶務)

第10条 連絡会の事務は、センターにおいて処理する。

第5章 技術研修

(技術研修)

第11条 センター長は、技術専門員、技術専門職員及び技術職員に、その職務遂行に必要な知識及び技術等を習得させ、能力及び資質等を向上させる内容の研修に務めなければならない。

第6章 雑則

第12条 この規則の実施に関して必要な事項は、別に定める。

(出典：群馬工業高等専門学校規則集)

(分析結果と根拠理由)

本校の目的を達成するために校長の管理・運営方針が的確に示され、各委員会等において諸課題の審議・検討がなされており、教学に係る各種委員会等と管理運営組織等との連携も円滑に行われている。

教員組織と事務組織が緊密な協力体制をとり、全教職員が連携協力してその業務を遂行しており、効果的な活動が行われている。

以上のことから管理運営に関する各種委員会及び教員組織と事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

観点 11-1-③：管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点にかかる状況)

学校の管理運営に関する諸規則については、「群馬工業高等専門学校学則」、「運営組織規則」、「執行運営部会規則」、「運営委員会規則」等のほか各種委員会規則等が整備されており、学内の情報共有システム（グループウェア WeblyGo）（資料 11-1-③-1）で全教職員が閲覧することができる。

資料 11-1-③-1 本校諸規則一覧（抜粋）

第1章 学 則

- 学則

第2章 運営組織

- 運営組織規則
- 執行運営部会規則
- 運営委員会規則
- 自己評価実施規則
- 外部評価実施規則
- 運営懇話会規則

第3章 事務組織

- 事務組織規則
- 教育研究支援センター規則

第4章 庶務・人事

- 国際連携室規則
- 技術専門員及び技術専門職員に関する規程

第5章 図 書

- 図書館規則

第7章 教務・学生

- 学生相談室規則

第9章 情報処理教育センター

- 情報処理教育センター規則

第10章 地域共同技術開発センター

- 地域共同技術開発センター規則

第11章 生物教育研究連携センター

- 生物教育研究連携センター規則

第12章 委員会

- 教員会議規則
- 教務委員会規則
- 厚生補導委員会規則
- 寮務委員会規則
- 専攻科委員会規則
- 教育研究委員会規則
- 入試運営委員会規則
- 留学生委員会規則
- 情報処理教育委員会規則
- 情報ネットワーク委員会規則
- 情報ネットワーク委員会校内LAN運用専門部会要項
- 事務情報化推進委員会規則
- 学生相談委員会規則
- 図書委員会規則
- 広報委員会規則
- 実態調査委員会規則
- 施設委員会規則
- 環境委員会規則
- 環境保全委員会規則
- 発明委員会規則
- 学生食堂管理運営委員会規則
- さわやか行政サービス推進委員会規則
- 事務連絡会要項
- レクリエーション協議会規則
- 産学交流委員会規則
- 安全衛生委員会規則
- 宿舎委員会規則
- J A B E Eプログラム委員会規則
- 機関別認証評価準備委員会規則
- 学修単位導入委員会規則

(出典：学内情報共有システム)

(分析結果と根拠理由)

相応である。

管理運営に関する諸規則は適切に整備され、全教職員に周知するための方策として学内の情報共有システム（グループウェア WeblyGo）が整備されている。

観点 11-2-①：外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点にかかる状況)

平成14年度に群馬工業高等専門学校外部評価実施規則(資料11-2-①-1)を制定し、教育研究分野に精通した大学等教育研究機関の関係者、地域の教育関係者、地方自治体の関係者、地域産業界の関係者等で組織する「外部評価委員会」を開催して本校における教育研究活動等の状況に係る自己点検及び評価の結果等について、外部有識者の検証を行い外部評価報告書(冊子)として報告書がまとめられ、学校の教育研究体制等の改善に反映させている。(資料11-2-①-2, 3)

外部評価委員会は、本校の目的を達成するための指導・助言を求めている。その意見等に基づき、「運営委員会」をはじめとする各種委員会等で検討され、改善を図っている。

一例として、外部評価委員会からの意見を受けて「転学科の取り扱い」制定や、JABEE認定に則したシラバスの変更を実施した。

また、平成16年度には、広く学外の有識者から学校運営に関する意見を求めるため、運営懇話会規則(資料11-2-①-4)を制定し、平成17年1月に運営懇話会を開催し意見を求め、学校運営に反映させている。

資料11-2-①-1 群馬工業高等専門学校外部評価実施規則(抜粋)

(趣旨)

第1条 この規則は、群馬工業高等専門学校(以下「本校」という。)における教育研究活動等の状況に係る自己点検及び評価の結果等について、外部の有識者による検証(以下「外部評価」という。)を行い、本校の教育研究体制等の改善に資することを目的とする。

(委員会)

第2条 本校に、次の各号に掲げる事項を評価するため、群馬工業高等専門学校外部評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

- (1) 教育理念・目標に関すること。
- (2) 教育活動に関すること
- (3) 研究活動に関すること
- (4) 地域社会及び産業との連携に関すること
- (5) その他必要と認める事項

(構成)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した評価委員をもって構成する。

- (1) 大学等教育機関の関係者
- (2) 本校の所在する地域の教育関係者
- (3) 地方自治体の関係者
- (4) 地域産業界等の関係者
- (5) その他校長が必要と認める者

2 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

3 委員長は委員会を主宰する。

(任期)

第4条 評価委員の任期は別に定める。

(実施方法)

第5条 外部評価は、本校の自己点検評価の報告書及び資料による調査のほか、委員会で実施するヒアリング、実地調査等により行う。

(評価報告)

第6条 本校は、委員会の評価報告を基に外部評価報告書を作成する。

(改善)

第7条 本校は、外部評価に基づき、改善のための諸方策を講じるものとする。

(事務等)

第8条 委員会の業務は、本校の自己評価委員会があたり、事務は総務課において処理する。

(出典：群馬工業高等専門学校規則集)

資料 11-2-①-2 外部評価委員会日程及び次第

(1) 開催日

第1回外部評価委員会

平成15年1月30日(木)

第2回外部評価委員会

平成15年3月27日(木)

(2) 開催場所

群馬工業高等専門学校 群嶺会館2階 大会議室

(3) 次第

第1回外部評価委員会

学校関係者紹介

校長挨拶

議事

委員長選出

外部評価実施要領(案)について

本校の概要説明について

今後の日程について

実地調査

第2回外部評価委員会

議事

質疑応答並びにアンケートに対する説明

評価 審議

その他

(出典：外部評価報告書)

資料 11-2-①-3 外部評価委員のアンケートによる意見・提言(抜粋)

【学生の受入】(抜粋)

『中学卒業時に専門を決めるのは無理である。大きく入り試で一括入学させ、4年次くらいに学生の希望により各学科に配属することや転学科の仕組みなど今後検討する必要がある。』

【教育指導の在り方】(抜粋)

『シラバスはJABEEに十分対応しているのでしょうか、不明です。』

『中学卒業時に学科を選択しているにもかかわらず転学科が見られない。』

(出典 外部評価報告書)

資料 11-2-①-4

群馬工業高等専門学校運営懇話会規則

平成17年3月8日

規則 第 1 号

(設置)

第1条 群馬工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外の有識者から学校運営に関する意見を求めるため、群馬工業高等専門学校運営懇話会（以下「懇話会」という。）を置く。

(任務)

第2条 懇話会は、本校の教育活動、研究活動、社会との連携活動、国際交流活動、管理運営活動等学校運営に関し、校長の求めに対して意見を述べるものとする。

(委嘱)

第3条 懇話会に委員を置き、委員は広く社会の実情に通じ、本校の発展に関心と理解のある者のうちから、校長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(懇話会の開催)

第5条 校長は、必要に応じ懇話会を開催する。

(意見の聴取)

第6条 懇話会は、必要があるときは関係者の出席を得て、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 懇話会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年3月8日から施行する。

(出典：群馬工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

平成14年度から設けられた「外部評価委員会」、平成16年度から設けられた「運営懇話会」を開催し、産官学各界から広く意見・要望等を求めるとともに、その提言については、「運営委員会」、「各委員会」等で実施方法及び改善策等を検討し、具体化を図っているなど、外部の意見が反映されている。

以上のことから外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されている。

観点 11-3-①：自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

(観点にかかる状況)

平成3年の高等専門学校設置基準の改正に基づき、自己点検評価制度が導入され、これを受け平成4年から自己評価委員会を設置し点検・評価活動を行ってきた。平成8年度より、外部の諸賢に広く提示し御教示を受け、本校の健全な発展に役立てるため、内部点検・評価を「現状と課題」と題した報告書として公表を行い、その後5回の報告書が公表されている。また、平成14年度には「現状と課題」を調査資料とする外部評価委員による外部評価を受け外部評価報告書として刊行している。

また、教員評価については、学生による授業評価を行い、その結果を授業の工夫に役立てるとともに、教育面、研究面、産学連携・地域貢献、クラブ活動への指導など多岐にわたる項目の教員自身による自己評価や教員相互評価を行い、各教員の自己研鑽を促し、本校の教育・研究水準の向上を図っている。

平成16年度には日本技術者教育認定機構（JABEE）から、JABEE 技術者教育プログラムとして認定（認定プログラム名：「生産システム環境工学プログラム」、認定分野：「工学（融合複合・新領域関連分野）」）され、平成18年度には、中間審査も実施されている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の総合的な状況に関する自己点検評価として、教育及び研究、地域貢献等学校全体の取り組み及び活動の成果に対し自己評価を行い、その結果を、自己評価委員会による「現状と課題」、外部評価委員会による「外部評価報告書」、運営懇話会による「運営懇話会報告書」など報告書の作成し広く公表されている。

また、JABEE プログラムに認定されるなど、本校の目的を達成するために外部機関による評価を積極的に受審し、総合的な評価が行われ、その取り組みはホームページを通じて学内外に公表している。

以上のことから本校の教育研究活動については、総合的な評価が適切に行われ、かつ、その評価結果は公表されている。

観点 11-3-②：評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されているか。

（観点にかかる状況）

自己点検・評価は全教職員が関わりを持つことで意識喚起を行っており、その評価結果を報告書として刊行の都度、全教職員に配布している。また、外部評価委員会による評価結果も、報告書を作成し、全教職員へ内容を周知している。

評価結果の課題については、執行運営部会や自己評価委員会で具体的な検討を行い、必要に応じて運営委員会及び各委員会において検討し、改善策の実施を図っている。

教育・研究に関する評価結果に基づく具体的な改善システムについては、外部評価や自己点検・評価の報告を受けて運営委員会において審議し、「転学科に関する申し合わせ」、「教員表彰の制定」を行うなど有効に運営されている。教育研究委員会においては、本校の目標達成のために「教員のオフィスアワー」や「授業公開」を積極的にを行い有効に運営がなされている。

各委員会等の活動状況については、学内の情報共有システム（グループウェア WeblyGo）で議事録を公開し全教職員に周知している。結果として、各教員が職務全般に対する問題意識を持つようになり、学校教育研究活動の活性化が図られ改善されている。

（分析結果と根拠理由）

評価結果に基づき、「執行運営部会」、「運営委員会」、「各種委員会」等によって改善が図れるよう、システムが整備され、継続的に改善が行われている。

また、平成16年度に JABEE プログラムに認定され、平成18年度には中間審査を受けるなど、本校の目的を達成するために外部機関による評価を積極的に受審し、総合的な評価が行われ継続的に改善が行われている。

以上のことから本校の目的を達成するための改善システムは整備され、有効に運営されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

各主事、各学科長等、各種委員会等の管理運営体制及び事務組織が整備され、その役割も果たされている。また、外部有識者の意見が反映されるシステムも整っている。また、教育、研究に関する自己点検・評価も適切に実施し、これらの評価結果について報告書等により公表している。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準11の自己評価の概要

学校の目的を達成するため、校長が最高責任者としての意思決定を行っている。

そのための補佐体制として、教育計画、学生の厚生補導、学寮の厚生補導について3人の主事を置くとともに、専攻科長、各学科長等、図書館長、地域共同技術開発センター長、情報処理センター長、地域共同技術開発センター、教育研究支援センター長及び事務部長を配置し、それぞれの組織における体制を整備している。

また、機動的な学校運営を行うために執行運営部会を設置し、中長期的視野においての情報収集・分析、経営方針等について企画・立案、調整を行い、教育・研究活動の経営基盤の強化を図っている。

校長は、重要案件については執行運営部会構成員の意見を参考に管理運営を行うとともに、目的に応じて各種委員会を設置し、諸規則を整備している。各種委員会の審議内容は、学内の情報共有システム（グループウェアWeblyGo）を通じて情報の共有化ができるように整備され、教職員の意識統一を図っている。

事務組織も教員と緊密な連携・協力体制をとりつつ全校一体となった運営を行っており、また業務の見直しを積極的に行っている。

自己点検・評価を実施し、平成14年度には報告書の「現状と課題」を基に外部評価委員による外部評価を実施するなど、本校の管理運営について改善に取り組んでいる。

本校が実施または受審した自己評価あるいは各種外部機関等からの評価については、報告書により学内及び学外に周知されているが、教育・研究に関しては、その改善事項により、執行運営部会や教務委員会・教育研究委員会など、当該委員会において検討し、実施に移している。

また、運営委員会等の決定された事項については、学内の情報共有システム（グループウェアWeblyGo）により、その内容を学内に周知し、さらなる改善に向けて検討を行っている。

